風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 25

史跡出雲国府跡

－10－

2019年3月

島根県教育委員会

風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 25

史跡出雲国府跡

－１０－

2019 年３月

島 根 県 教 育 委 員 会

題字：史跡出雲国府発掘調査委員会委員　勝部　昭

SB020B　P10 出土柱根

SA003　P2 出土柱根

SB020C　P1 出土礎石

巻頭図版 2

T67、T68 と史跡公園　（南から撮影）

T67　第 2 遺構面検出状況（南から撮影）

T66 と史跡公園（南から撮影）

T66　第 3 遺構面検出状況（南から撮影）

T68　1 号池状施設（南東から撮影）

T63　1 号石組遺構（北から撮影）

緑釉陶器

大型高台付坏と皿

巻頭図版 6

9-3

26-1

27-13

27-15

53-1

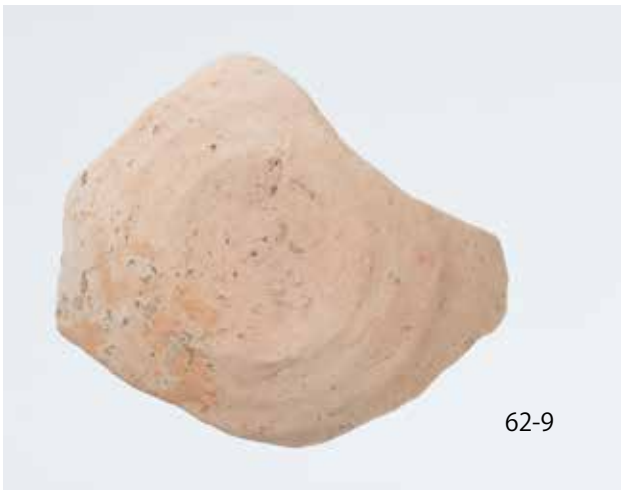
53-2

53-3

53-14

61-11

61-30


62-9

墨書土器

序

出雲国府跡は、昭和 43 ～ 45（1968 ～ 1970）年の松江市教育委員会、奈良国立文化財研究所及び島根県教育委員会による発掘調査で所在地が確定されました。昭和 46(1971）年には約 42 万㎡におよぶ広大な範囲が国史跡に指定されています。この一部が史跡公園として整備され、今日まで市民の憩いの場として親しまれています。また、出雲国府跡のある意宇平野には条里制を残した美しい水田地帯が広がっています。古代・中世から現代まで、ひとびとの営みの中で残されてきた全国的にも貴重な景観といえます。

島根県教育委員会では、この史跡出雲国府跡を保存・活用するため、平成 11（1999）年度から継続的に発掘調査を実施しています。

平成 27（2015）年度からは、出雲国府の中心部である国庁周辺の発掘調査を実施しています。本書はこのうち平成 27 ～ 29（2015 ～ 2017）年度に実施した発掘調査の成果を取りまとめたものです。

調査では、国庁正殿が掘立柱建物から礎石建物へ建て替えられたことを確認し、政庁の変遷を検討するうえで貴重な成果が得られました。また、国庁の北側では池状の施設を確認するなど、新たな発見もありました。こうした成果を積み上げていくことで、国庁の変遷が徐々に明らかになっていくものと考えています。

本書が、今後の出雲国府跡に関する研究はもとより、当地域の歴史像を解明する上で一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にあたって多大な御支援と御協力を賜りました地元の皆様をはじめ、関係各位に心から感謝申し上げます。

平成 31（2019）年 3 月

島根県教育委員会
教育長　　新　田　英　夫

例言

1．本書は島根県教育委員会が 2015（平成 27）年度から 2017（平成 29）年度に国庫補助事業として実施した風土記の丘地内遺跡発掘調査事業の報告書である。

2．本報告書の発掘調査対象遺跡及び事業年度は下記のとおりである。

史跡出雲国府跡　松江市大草町 501 番地外

2015（平成 27）年度　第 56 ～ 58 トレンチ、第 61 ～ 65 トレンチ

2016（平成 28）年度　第 66 トレンチ

2017（平成 29）年度　第 67・68 トレンチ

※ 2015（平成 27）年度に発掘調査を実施した第 59 トレンチ、第 60 トレンチの調査成果については、2018（平成 30）年度に両トレンチの再発掘調査及び周辺の発掘調査を第 69 トレンチとして実施していることから、本報告書には掲載せず、第 69 トレンチの発掘調査報告書に掲載する。

3．挿図中の X・Y 座標は平面直角座標第Ⅲ系（世界測地系）により、挿図中の北は座標北を示す。レベルは海抜高を示す。

4．本報告書に掲載した第 2 図と第 4 図は国土地理院発行の 1:25,000（松江）を使用した。第 5 図は島根県教育委員会で作製した風土記の丘地内の 1:1,000 地形図をもとに作製した。

5．自然科学分析は文化財調査コンサルタント株式会社に委託し、その成果は第 4 章に掲載した。

6．本報告書に掲載した写真は、遺構は是田敦が撮影し、遺物は廣江耕史が撮影した。遺構・遺物の実測図の作成は、調査員・調査補助員が行い、遺構・遺物実測図の浄書は整理作業員が行った。

7．本報告書の執筆は、第 1 ～ 3 章、第 5 章の瓦以外を是田が行い、第 5 章の瓦については間野大丞が行い、第 4 章は渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）が行った。編集は是田が行った。

8．本書の編集にあたっては DTP 方式を採用し、Adobe 社の Illustrator CS6、Photoshop CS6 を用いてトレース・画像処理を行い、InDesign CC2017 で編集を行った。

9．註は各節ごとに連番を振り節末にまとめて示した。参考文献は各章末にまとめて示した。写真、挿図、表の番号は全体の通し番号により表示した。

10. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（島根県松江市打出町 33 番地）で保管している。

凡例

1．遺構名は、1968 ～ 1972（昭和 43 ～ 45）年度の調査で検出された遺構は下記の略号を付した通し番号とし、1999（平成 11）年度以降の調査で検出された遺構は略号を使用せず新たな通し番号とした。

SA：柵列跡　SB：建物跡　SD：溝跡

2．本書で用いた土器の分類及び年代観は『史跡出雲国府跡 9 - 総括編 -』（島根県教育委員会 2013）の編年案に従った。また、この編年案に記載されていない遺物は下記の論文・報告書を参考とした。

（土師器）　松山智弘 1991「出雲における古墳時代前半期の土器の様相 - 大東式の再検討」『島根考古学会誌』第 8 集　島根考古学会

（須恵器）　大谷晃二 1994「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第 11 集　島根考古学会

大谷晃二 2001「上石堂平古墳と出雲西部の横穴式石室」『上石堂平古墳群』平田市教育委員会

（瓦）　島根県教育委員会 2009『史跡出雲国府跡 6』

（陶磁器）　太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡ＸＶ』

3．本報告書に記載する土層と土器の色調は、『新版　標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修に従って表記した

4．遺物実測図で底部回転糸切り調整の遺物には挿図番号の横に◎印を付した。

調査組織

史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会

金田章裕（京都府立京都学・歴彩館館長）、井上寛司（島根大学名誉教授）、大橋泰夫（島根大学法文学部教授）、勝部昭（元島根県文化財保護審議会委員）、佐藤信（人間文化研究機構理事）、箱崎和久（奈良文化財研究所遺構研究室室長）、花谷浩 (出雲弥生の森博物館館長)

指 導 助 言

2015（平成 27）年度　森先一貴（文化庁文化財部記念物課　文部科学技官）

2016（平成 28）年度　川畑純（文化庁文化財部記念物課　文部科学技官）

2017（平成 29）年度　浅野啓介（文化庁文化財部記念物課　文化財調査官）

2018（平成 30）年度　藤井幸司（文化庁文化財部文化財第二課　文化財調査官）

事　務　局

2015（平成 27）年度　野口弘（教育庁参事）、丹羽野裕（同文化財課長）、椿真治（同調整監）、深田浩（同主幹）、守岡利栄（同企画員）、廣江耕史（教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、池淵俊一（同管理課長）、大庭俊次（調査第三課長）

2016（平成 28）年度　野口弘（教育庁参事）、丹羽野裕（同文化財課長）、椿真治（同調整監）、深田浩（同主幹）、守岡利栄（同企画員）、萩雅人（教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、池淵俊一（同管理課長）、林健亮（同調査第三課長）

2017（平成 29）年度　野口弘（教育庁参事）、丹羽野裕（同文化財課長）、椿真治（同調整監）、勝部智明（同主幹）、人見麻生（同主任主事）、萩雅人（教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、池淵俊一（同管理課長）、間野大丞（同調査第三課長）

2018（平成 30）年度　丹羽野裕（教育庁参事）、萩雅人（同文化財課長）、池淵俊一（同調整監）、勝部智明（同主幹）、渡部（人見）麻生（同主任主事）、椿真治（教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、守岡正司（同管理課長）、間野大丞（同調査第三課長）

調　査　員

2015（平成 27）年度　是田敦（教育庁埋蔵文化財調査センター調査第四係長）、岩本真実（同調査補助員）

2016（平成 28）年度　是田敦（教育庁埋蔵文化財調査センター調査第四係長）、伊藤徳広（同企画員）、岩本真実（同調査補助員）、柿田愛子（同調査補助員）、小川一樹（同調査補助員）

2017（平成 29）年度　是田敦（教育庁埋蔵文化財調査センター調査第四係長）、岩本真実（同調査補助員）、樋野千晴（同調査補助員）

2018（平成 30）年度

【報告書作成】是田敦（教育庁埋蔵文化財調査センター調査第四係長）、岩橋康子（同調査補助員）

【発掘調査】吉松優希（教育庁埋蔵文化財調査センター主任主事）樋野千晴（同調査補助員）

調査指導、協力機関、協力者

文化庁、奈良文化財研究所、松江市教育委員会、松江市大庭公民館、松江市竹矢公民館、六所神社、小野健吉（和歌山大学観光学部教授）

本 文 目 次

第１章　位置と環境

第１節　出雲国府跡の位置 …… 1

第２節　地理的環境 …… 2

第３節　出雲国府跡周辺の歴史的環境 …… 3

第２章　調査に至る経緯と調査の経過

第１節　調査に至る経緯 …… 7

第２節　調査の経過 …… 8

第３章　2015 ～ 2017（平成 27 ～ 29）年度の発掘調査

第１節　調査の方法 …… 14

第２節　基本層序 …… 17

第３節　調査区の概要 …… 18

第４節　第３遺構面に伴う遺構と遺物 …… 35

第５節　第２遺構面に伴う遺構と遺物 …… 37

第６節　第１遺構面に伴う遺構と遺物 …… 58

第４章　自然科学分析

第１節　出雲国府跡Ｔ６８調査で検出された池状施設に関する自然科学分析 …… 65

第２節　出雲国府跡発掘調査に伴うＡＭＳ年代測定及び樹種同定 …… 73

第５章　総括

第１節　出土遺物 …… 83

第２節　遺構の変遷 …… 105

第３節　今後の課題…… 112

挿 図 目 次

第 1 図　史跡出雲国府跡の位置 …… 1
第 2 図　史跡出雲国府跡の立地 …… 2
第 3 図　意宇平野周辺の地質図 …… 3
第 4 図　史跡出雲国府跡周辺の遺跡位置図 …… 4
第 5 図　史跡出雲国府跡の史跡範囲と調査区配置図 … 7
第 6 図　2015 ～ 2017 年度の調査区配置図…… 15
第 7 図　基本層序模式図 …… 17
第 8 図　T56 実測図 …… 18
第 9 図　T56 出土遺物実測図 …… 19
第 10 図　T57 実測図 …… 20
第 11 図　T57 出土遺物実測図 …… 21
第 12 図　T58 実測図 …… 22
第 13 図　T58 南区出土遺物実測図 …… 23
第 14 図　T58 北区出土遺物実測図 …… 23
第 15 図　T61 実測図 …… 24
第 16 図　T61 出土遺物実測図 …… 24
第 17 図　T62 実測図 …… 25
第 18 図　T63・T64・T65 配置図 …… 26
第 19 図　T63 実測図 …… 27
第 20 図　T63 出土遺物実測図 …… 27
第 21 図　T66・67・68 実測図 …… 29
第 22 図　T66・T67 土層図 …… 30
第 23 図　T58・T68 土層図 …… 31
第 24 図　T66 土層図 …… 32
第 25 図　T66 出土遺物実測図 …… 33
第 26 図　T67 出土遺物実測図 …… 34
第 27 図　T68 出土遺物実測図 …… 34
第 28 図　7 号竪穴建物跡・8 号竪穴建物跡実測図… 35
第 29 図　7号竪穴建物跡・8号竪穴建物跡出土遺物実測図 35
第 30 図　SD054 実測図 …… 36
第 31 図　SD054 出土遺物実測図 …… 36
第 32 図　91 号溝実測図…… 36
第 33 図　91 号溝出土遺物実測図…… 36
第 34 図　SB019・26 号建物跡実測図 …… 37
第 35 図　SB019 実測図 …… 38
第 36 図　SB019 出土遺物実測図 …… 38
第 37 図　29 号建物跡実測図…… 39
第 38 図　29 号建物跡出土遺物実測図…… 39
第 39 図　26 号建物跡実測図…… 40
第 40 図　26 号建物跡出土遺物実測図…… 40
第 41 図　T67 中央区　第 2 遺構面検出遺構実測図 41
第 42 図　SB020A 実測図 …… 42
第 43 図　SB020B 実測図 …… 43
第 44 図　SB020 出土遺物実測図 …… 43
第 45 図　SB020C 実測図 …… 44
第 46 図　礎石の出土状況と実測図 …… 44
第 47 図　27 号建物跡・28 号建物跡実測図 …… 45
第 48 図　27 号建物跡出土遺物実測図…… 46
第 49 図　30 号建物跡実測図…… 46
第 50 図　31 号建物跡実測図…… 46
第 51 図　79 号溝出土遺物実測図…… 47
第 52 図　80 号溝実測図…… 47
第 53 図　80 号溝出土遺物実測図…… 48
第 54 図　82 号溝・83 号溝実測図 …… 49
第 55 図　82 号溝出土遺物実測図…… 49
第 56 図　83 号溝出土遺物実測図…… 49
第 57 図　SD010、SA003、1 号池状施設実測図 … 50
第 58 図　SD010 出土遺物実測図 …… 51
第 59 図　SA003 出土柱根実測図 …… 51
第 60 図　1 号池状施設（T68）出土遺物実測図 … 52
第 61 図　1 号池状施設（T58 北区）出土遺物実測図 53
第 62 図　黒色土（T68）出土遺物実測図 …… 54
第 63 図　黒色土（T58 北区）出土遺物実測図 …… 55
第 64 図　8 号柵列実測図 …… 56
第 65 図　67 号土坑・68 号土坑・95 号溝実測図 … 56
第 66 図　67 号土坑出土遺物実測図…… 57
第 67 図　68 号土坑出土遺物実測図…… 57
第 68 図　95 号溝出土遺物実測図…… 57
第 69 図　T66・T67 第 1 遺構面検出遺構平面図 … 58
第 70 図　32 号建物跡実測図…… 58
第 71 図　33 号建物跡実測図…… 59
第 72 図　34 号建物跡実測図…… 59
第 73 図　84 号溝・85 号溝・88 号溝実測図 …… 60
第 74 図　84 号溝出土遺物実測図…… 60
第 75 図　88 号溝出土遺物実測図……61
第 76 図　89 号溝実測図…… 61
第 77 図　89 号溝出土遺物実測図…… 62
第 78 図　15 号井戸出土遺物実測図…… 63
第 79 図　16 号井戸出土遺物実測図…… 63
第 80 図　9 号柵列実測図 …… 63
第 81 図　10 号柵列実測図…… 63
第 82 図　11 号柵列実測図…… 64
第 83 図　試料採取地点 …… 65
第 84 図　試料採取位置 …… 65
第 85 図　軟Ｘ線写真観察結果 …… 67
第 86 図　花粉ダイアグラム …… 68.69
第 87 図　珪藻ダイアグラム …… 70.71
第 88 図　珪藻総合ダイアグラム …… 70
第 89 図　暦年較正図 …… 71
第 90 図　試料採取地点 …… 73
第 91 図　試料採取位置 …… 74
第 92 図　暦年較正結果 (1) …… 76
第 93 図　暦年較正結果 (2) …… 77
第 94 図　推定時期と較正年代 …… 78
第 95 図　較正年代と遺構 …… 79
第 96 図　軒丸瓦実測図① …… 87
第 97 図　軒丸瓦実測図② …… 88
第 98 図　平瓦実測図① …… 89
第 99 図　平瓦実測図② …… 90
第 100 図　平瓦実測図③ …… 91
第 101 図　平瓦実測図④ …… 92
第 102 図　平瓦実測図⑤ …… 93
第 103 図　丸瓦実測図① …… 94
第 104 図　丸瓦実測図② …… 95
第 105 図　丸瓦実測図③ …… 96
第 106 図　道具瓦実測図 …… 97
第 107 図　鬼瓦実測図 …… 98
第 108 図　大型高台付坏実測図 …… 99
第 109 図　墨書土器実測図 …… 100
第 110 図　緑釉陶器、灰釉陶器実測図 …… 104
第 111 図　遺構変遷図〔古墳時代〕…… 106
第 112 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅰ期〕…… 107
第 113 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅱ -1 期〕 …… 107
第 114 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅱ -2 期〕 …… 108
第 115 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅲ -1 期〕 …… 108
第 116 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅲ -2 期〕 …… 109
第 117 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅳ期〕…… 109
第 118 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅴ期〕…… 110
第 119 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅵ期〕…… 110
第 120 図　遺構変遷図〔13 世紀以降〕…… 111

表 目 次

第 1 表　史跡出雲国府跡発掘調査年表 …… 13
第 2 表　微化石概査結果 …… 67
第 3 表　花粉化石組成表 …… 68
第 4 表　珪藻化石組成表 …… 69
第 5 表　AMS 年代測定結果 …… 71
第 6 表　試料一覧（分析結果）…… 75
第 7 表　出土瓦類集計表 …… 85
第 8 表　六所脇地区・宮の後地区の丸瓦・平瓦の比率　86
第 9 表　地区別の瓦変遷 …… 86
第 10 表　六所脇地区の瓦変遷 …… 86
第 11 表　瓦の区分指標 …… 98
第 12 表　平瓦のタタキ分類表 …… 98
第 13 表　出土墨書土器一覧 …… 100
第 14 表　出土硯一覧 …… 101
第 15 表　出土漆付土器一覧 …… 103
第 16 表　出土緑釉陶器・灰釉陶器一覧 …… 104
第 17 表　出雲国府跡変遷一覧表 …… 105
第 18 表　土層観察表 …… 113
第 19 表　出雲国府跡出土土器観察表 …… 121
第 20 表　出雲国府跡出土石製品観察表 …… 129
第 21 表　出雲国府跡出土金属器類観察表 … 129
第 22 表　出雲国府跡出土瓦観察表 …… 130

写 真 図 版 目 次

巻頭図版 1　SB020B　P10 出土柱根
　　SA003　P2 出土柱根
　　SB020C　P1 出土礎石
巻頭図版 2　T67、T68 と史跡公園
　　T67 第 2 遺構面検出状況
巻頭図版 3　T66 と史跡公園
　　T66 第 3 遺構面検出状況
巻頭図版 4　T68 1 号池状施設
　　T63 1 号石組遺構
巻頭図版 5　緑釉陶器
　　大型高台付坏と皿
巻頭図版 6　墨書土器

図版 1　T56 段下げ状況
　　T56 南壁
図版 2　T57 段下げ状況
　　T57 東側段下げ状況
図版 3　T57 中央拡張部
　　T57 西側拡張部
　　T57 北壁
図版 4　T57 東側北壁
　　T57 東側東壁
　　T57 東側南壁
図版 5　T58 南区完掘状況
　　T58 南区西壁
図版 6　T58 礫層検出状況
　　T58 北区黒色土検出状況
　　T58 北区黒色土除去状況
　　T58 北区完掘状況
図版 7　T58 北区 82 号溝、83 号溝掘削状況
　　T58 北区　西壁南側
図版 8　T61 2 号護岸状施設検出状況
　　T61 東壁
図版 9　T62 完掘状況
　　T62 西壁
図版 10　T63 1 号石組遺構
図版 11　T63 1 号石組遺構
　　T63 東壁
図版 12　T64 調査状況
　　T65 調査状況
図版 13　T66 東区第 1 遺構面完掘状況
図版 14　T66 東区第 3 遺構面遺構検出状況
図版 15　T66 北区第 2 遺構面検出状況
　　T66 北区第 3 遺構面検出状況
図版 16　T66 東区北壁
　　T66 東区東壁
　　T66 東区南壁
図版 16　T66 西区東壁北側
図版 17　T66 西区北壁
　　T66 西区東壁南側
　　T66 西区南壁
　　T66 北区西壁
図版 18　T66 北区北壁
　　T66 北区東壁
　　SB019・26 号建物跡 P7・P8
図版 19　SB019・26 号建物跡 P8
図版 20　SB019・26 号建物跡 P7
　　26 号建物跡 P1
　　27 号建物跡 P7
　　67 号土坑セクションベルト西壁
　　68 号土坑セクションベルト北壁
図版 21　T67 中央区第 1 遺構面完掘状況
　　T67 中央区第 1 遺構面完掘状況
図版 22　T67 中央区第 2 遺構面検出状況
　　T67 北区第 2 遺構面検出状況
図版 23　T67 中央区西壁
　　T67 中央区北壁
　　T67 南西区北壁西側
　　T67 南西区北壁東側
図版 24　T66 西区西壁南側
　　T66 西区西壁北側
　　T67 北区西壁
　　T67 北区北壁
図版 25　SB020　P1 検出状況
　　SB020　P2 検出状況
　　SB020　P3 検出状況
図版 26　SB020　P1 礎石検出状況
　　SB020　P1 セクション
図版 27　SB020　P8 検出状況
　　SB020　P9 検出状況
図版 28　SB020　P10 検出状況
　　SB020　P10　1/4 截状況
図版 29　SB020　P10 セクション
図版 30　SB020　P10 柱根検出状況
　　95 号溝　遺物出土状況
図版 31　T68 礫層検出状況
　　T68 1 号池状施設検出状況
　　T68 黒色土検出状況
　　T68 1 号池状施設検出状況
図版 32　T68 1 号池状施設検出状況
　　T68SD010 完掘状況
図版 33　T68 西壁南側
　　T68 西壁土手状盛土付近
　　T68 西壁土手状盛土
　　T68 東壁土手状盛土付近

図版 34　T68 西壁 SD010
T68 西側拡張部第 2 礫層検出状況
SA003　P2 柱根検出状況
図版 35 ～ 67　出土遺物（土器、土製品、石製品）
図版 68 ～ 80　出土遺物（瓦類）

既 報 告 一 覧

『出雲国庁跡発掘調査外報』松江市教育委員会 1971

『史跡出雲国府跡 - 1 -』島根県教育委員会 2003

『史跡出雲国府跡 - 2 -』島根県教育委員会 2004

『史跡出雲国府跡 - 3 -』島根県教育委員会 2005

『史跡出雲国府跡 - 4 -』島根県教育委員会 2006

『史跡出雲国府跡 - 5 -』島根県教育委員会 2008

『史跡出雲国府跡 - 6 -』島根県教育委員会 2009

『史跡出雲国府跡 - 7 -』島根県教育委員会 2011

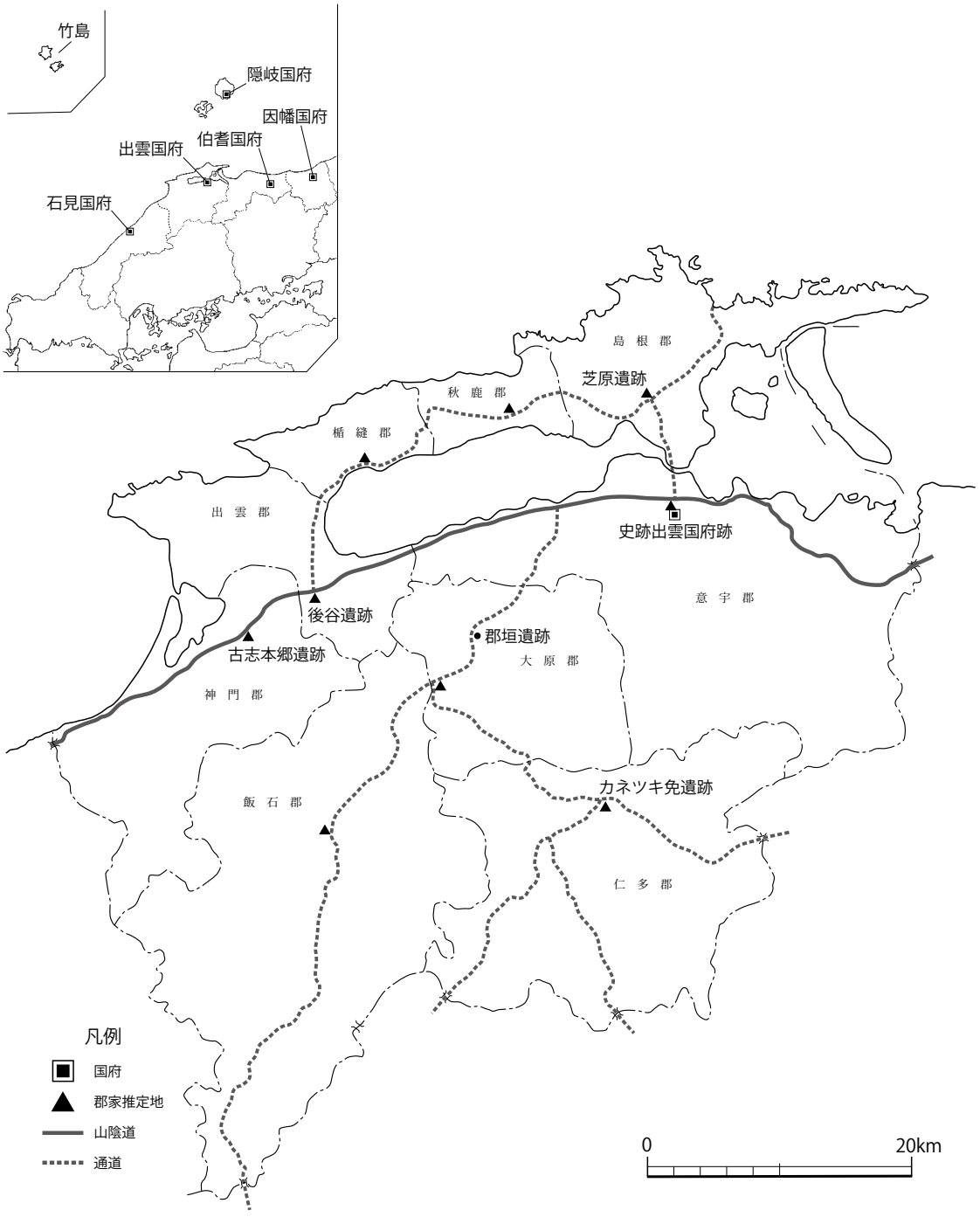
『史跡出雲国府跡 - 8 -』島根県教育委員会 2013

『史跡出雲国府跡 - 9　総括編 -』島根県教育委員会 2013

第 1 章　位置と環境

第 1 節　出雲国府跡の位置

史跡出雲国府跡は島根県松江市大草町・山代町地内に所在する。当地は、律令時代には出雲国東端の意宇郡に所属しており、その中でも大草郷及び山代郷に位置している (第 1 図)。『出雲国風土記』によれば、出雲国府は山陰道（正西道）と枉北道の交点である十字街より南へ下った位置にあったとされ、近くには意宇郡家も併設されていたようだ。現在の出雲国府跡は、松江市南東部にある意宇平野南端の微高地上に立地し (第 2 図)、史跡公園として約 10,480㎡が整備されている。公園の南側には出雲国総社である六所神社が鎮座し、さらにその南には一級河川意宇川が流れる。



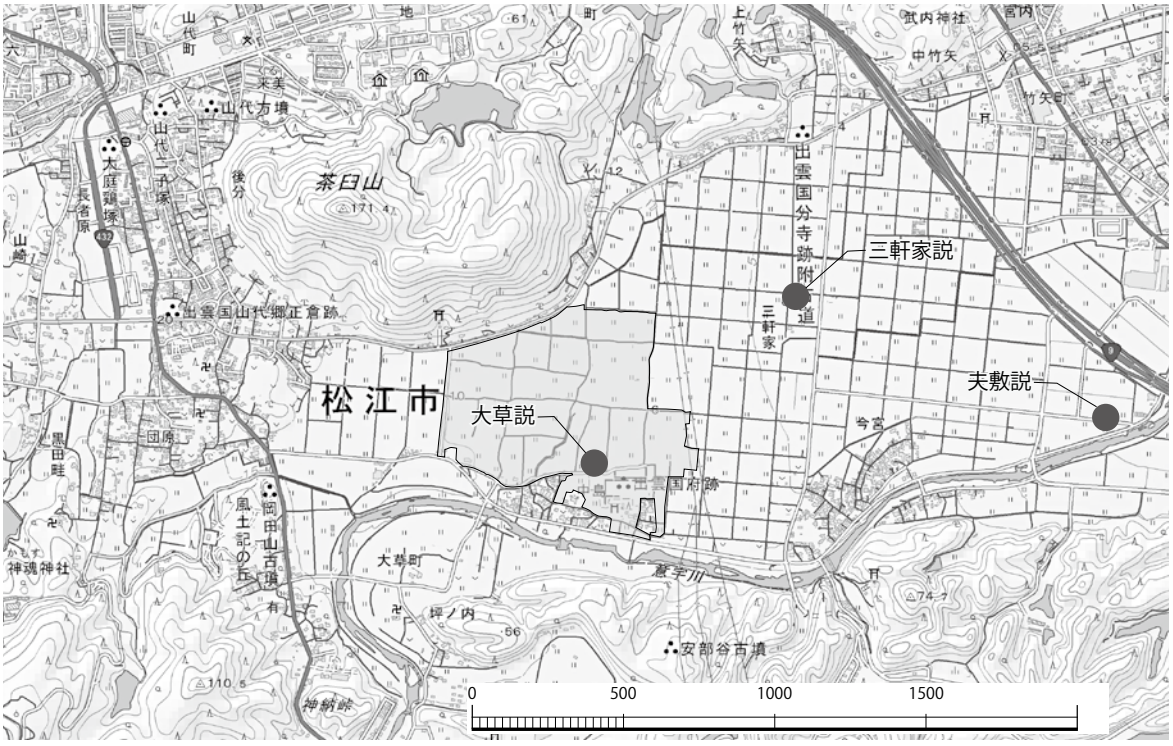
第 1 図　史跡出雲国府跡の位置（S = 1/500,000）

北を望むと、そこには精美な条里を残す水田地帯が広がっており、その先には『出雲国風土記』に「神名樋野」と記載された標高 171m の茶臼山がそびえる。茶臼山を越えると宍道湖と中海を繋ぐ大橋川が東流し、矢田の渡しを介して北へ進む。東に目を向けると条里の向こうに中海が見え、真冬の晴れた日には国引き神話で有名な大山の雄姿を仰ぐことができる。

出雲国府跡の周辺は、平野と台地を中心に構成される地形的環境や、宍道湖・中海の結節点であるという立地環境が相まって、古墳時代より出雲の中核地として重要な位置を占めてきた。南側の丘陵には東百塚山古墳群や安部谷横穴墓群、最古の石棺式石室を有する古天神古墳などが分布し、平野北西の乃木段丘上には、山代二子塚古墳や大庭鶏塚古墳などの大型の後期古墳が築かれている。また、北東約 800m には出雲国分寺跡が史跡公園として整備されている他、さらに東へ 150m 行くと出雲国分寺瓦窯跡が保存されている。茶臼山の周囲には、山代郷北新造院跡（来美廃寺）や山代郷南新造院跡（四王寺跡）に比定される寺院跡や、多量の炭化米を出土した山代郷正倉跡が知られている。このうち、山代郷南新造院跡（四王寺跡）の西側 100m には、同遺跡に瓦を供給したとされる山代郷南新造院瓦窯跡（小無田Ⅱ遺跡）が一部保存されている。

第２節　地理的環境

出雲国府跡の立地する意宇平野は、意宇川の下流に発達する小規模な沖積平野である（第 3 図）。平野の西側半分は意宇川扇状地の緩斜面で、中海岸には沿岸砂州として形成された砂堆が微高地を形成している。扇状地と砂堆の間には平坦な低地面（三角州面）が広がり、その西側には標高 25m 前後の乃木段丘が南北に延びている。平野面には、旧河道にともなう小崖や自然堤防列が認められ、自然堤防の微高地に中島・春日・今宮などの集落が形成されている。出雲国府跡も中島の微高地上に立地しており、その南側には意宇川が東流している。意宇川は松江市八雲町熊野の山間部に源を発する一級河川で、平野の南端を東へ向けて流れて中海へと注いでいる。



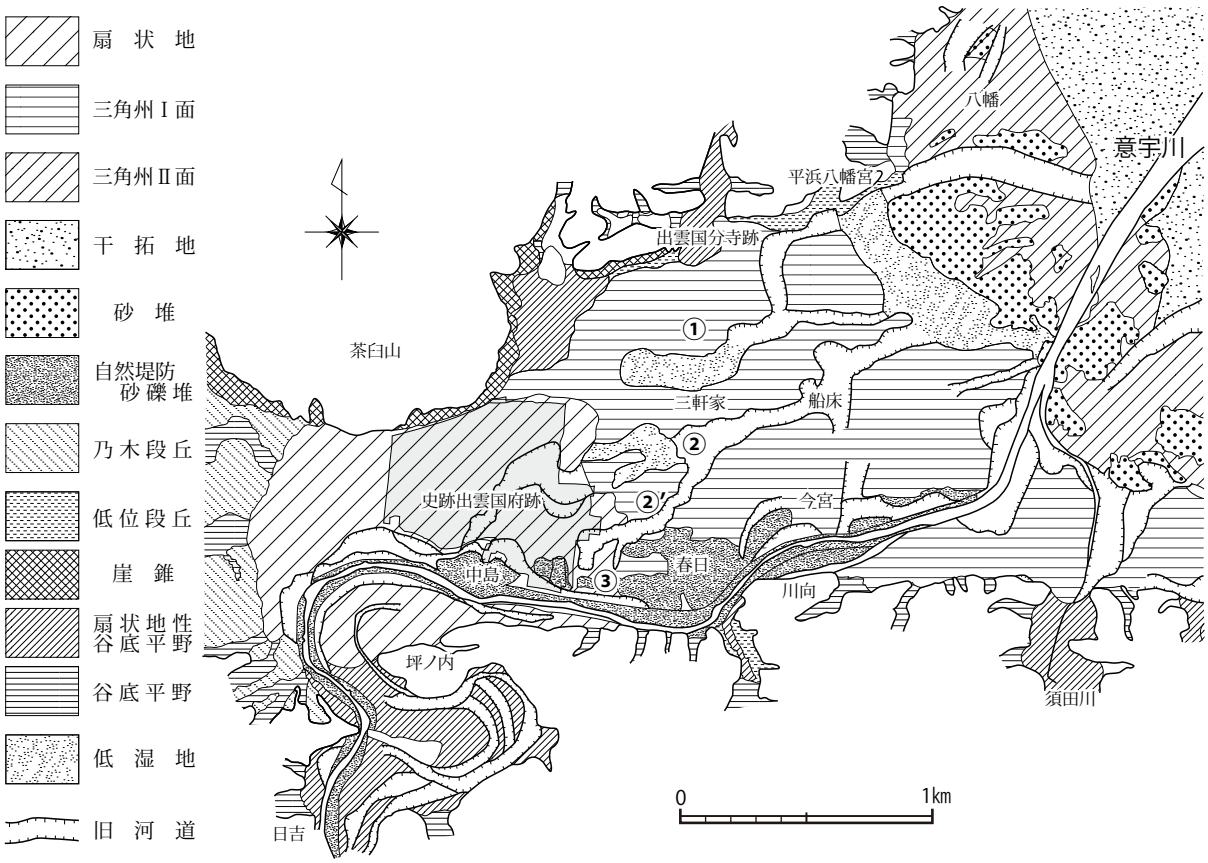
第 2 図　史跡出雲国府跡の立地（S = 1/25,000）

意宇平野には３つの旧河道が認められる。第３図①の旧河道は空中写真より判読され、三角州面状には認められるものの西側の扇状地部への連続は判然としない。水田の区割りにも影響しておらず、北側の丘陵地から流れ出る小河川の流路と推測される。ただし、ずっと古い時期には意宇川の旧河道であった可能性はある。②の旧河道は、攻撃面にあたる小崖が現地形に残っており、水田の区画に大きく影響を与えている。中島付近から北東へ伸びる様子が明瞭で、比較的新しい時期に意宇川がこの河道を流れていたことが窺える。③の旧河道は現河道にほぼ沿っている。③を河川改修によって直線的流路にしたものが現河道とみられ、よって③が最も新しい時期の意宇川旧河道と推測される。この河道は、国府と南側の丘陵地との狭い部分を流れ、国府域の南西端を削っている。

第３節　出雲国府跡周辺の歴史的環境

１．古代以前の遺跡

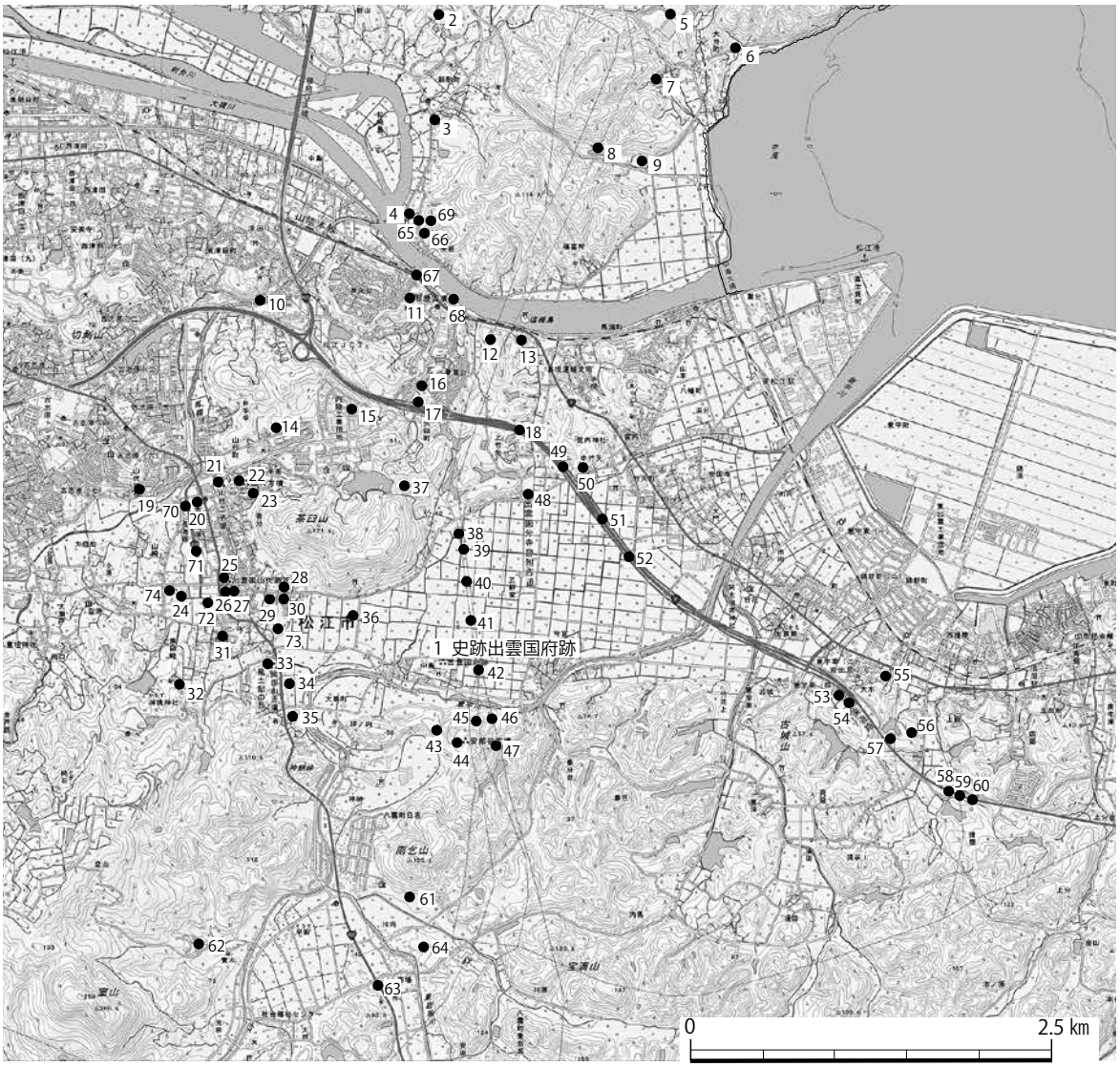
出雲国府跡周辺の歴史は、旧石器時代にまで遡る（第４図）。現在までに、意宇平野内で旧石器時代の良好な遺跡は知られておらず、下黒田遺跡（島根県教育委員会 1989a）で玉髄製剥片のブロックが検出されているほか、山代郷北新造院跡（来美廃寺）（島根県教育委員会 2004）の造成土中より玉髄製ナイフ形石器が出土しているにすぎない。縄文時代に入っても遺跡は少なく、土器や石器がわずかに確認されているのみである。才塚遺跡（島根県教育委員会 1968）では縄文時代後期中葉の土器と石斧類が、法華寺前遺跡（島根県教育委員会 1968）では前期と思われる土器が採取されている。弥生時代になると、意宇平野の遺跡数は急増する。上小紋遺跡（島根県教育委員会 1987）では建築材と考えられる木製品が多数出土しており、夫敷遺跡（島根県教育委員会



第３図　意宇平野周辺の地質図（S = 1/30,000　成瀬 1975 に一部加筆・改変）

1989b）では水田跡が検出されている。古墳時代の遺跡は、大橋川沿いから大庭町にかけて多く分布している。特に茶臼山西麓には山代二子塚古墳（島根県教育委員会 2001）や山代方墳（島根県教育委員会 1993a）、永久宅後古墳（出雲考古学研究会編 1987）といった出雲を代表する後期古墳が立地している。出雲国府跡の周辺には、東百塚山古墳群（島根県教育委員会 1975）、古天神古墳（出雲考古学研究会編 1987）、大草岩船古墳（島根県教育委員会 1975）、安部谷横穴墓群（島根県教育委員会 1968）などが見られる。集落としては、夫敷遺跡（島根県教育委員会 1989）が知られている。夫敷遺跡からは朝鮮系の土器が出土しており、渡来人との関係が指摘されている。

出雲国府跡では前期末葉から集落が形成される。特に大舎原地区では渡来系遺物が大量に出土し注目される。



1. 史跡出雲国府跡　2. 廻原遺跡　3. 朝酌岩屋古墳　4. 魚見塚古墳　5. 池ノ奥窯跡群　6. 山津窯跡群　7. 寺尾窯跡群　8. 岩汐窯跡群　9. ババタケ窯跡
10. 石台遺跡　11. 石屋古墳　12. 手間古墳　13. 竹矢岩舟古墳　14. 山代郷北新造院跡　15. 来美墳墓　16. 間内越墳墓群　17. 平所遺跡　8. 才ノ峠遺跡
19. 向山 1 号墳　20. 大庭鶏塚古墳　21. 山代二子塚古墳　22. 山代方墳　23. 永久宅後古墳 24. 東淵寺古墳　25. 山代郷正倉跡　26. 下黒田遺跡
27. 黒田館跡　28. 山代郷南新造院跡　29. 山代郷南新造院瓦窯跡（小無田Ⅱ遺跡）　30. 寺の前遺跡　31. 黒田畦遺跡　32. 出雲国造館跡　33. 岡田山古墳群
34. 岩屋後古墳　35. 御崎山古墳　36. 大坪遺跡　37. 廻田古墳群　38. 上小紋遺跡　39. 向小紋遺跡　40. 四配田遺跡　41. 神田遺跡　42. 才台垣大屋敷遺跡
43. 西百塚山古墳群　44. 東百塚山古墳群 45. 古天神古墳　46. 天満谷遺跡　47. 安部谷横穴墓群　48. 出雲国分寺跡　49. 中竹矢遺跡群　50. 出雲国分尼寺跡
51. 布田遺跡　52. 夫敷遺跡　53. 岸尾遺跡　54. 島田池遺跡　55. 大木権現山墳墓群　56. 寺床古墳群　57. 島田遺跡　58. 渋山池古墳群　59. 渋山池遺跡
60. 原の前遺跡　61. 雨乞山遺跡　62. 青木遺跡　63. 前田遺跡　64. 増福寺古墳群　65. 魚見塚遺跡　66. 朝酌菖蒲谷遺跡　67. 官道下遺跡　68. 灘遺跡
69. 朝酌橋ノ谷遺跡　70. 柳堀遺跡　71. 茶臼遺跡　72. 川原宮Ⅱ遺跡　73. 団原古墳　74. 外屋敷遺跡

第 4 図　史跡出雲国府跡周辺の遺跡位置図（S = 1/50,000）

２．古代の遺跡

意宇平野周辺の古代の遺跡は、大きく官衙、寺院、窯跡、居館、集落、墳墓、古道に分けられる。官衙遺跡としては出雲国府跡以外には、山代郷正倉跡（島根県教育委員会 1981）、下黒田遺跡（松江市教育委員会 1984）、黒田館跡（松江市教育委員会 1988）があげられる。山代郷正倉跡では多量の炭化米とともに整然と配置された総柱建物群が、下黒田遺跡と黒田館跡では大溝と大型掘立柱建物跡がそれぞれ検出されており、両者は一体の官衙遺跡と推定されている。

寺院としては、『出雲国風土記』に日置臣目烈が建立したと記載される山代郷北新造院跡（来美廃寺）（島根県教育委員会 2002・2007）と出雲臣弟山が建立したと記載される山代郷南新造院跡（四王寺跡）（島根県教育委員会 1985・1988・1994・2011）や、出雲国分寺跡（島根県教育委員会 1975、松江市教育委員会 1995・2009・2011）、出雲国分尼寺跡（島根県教育委員会 1976）が著名である。付近には、これらの寺院に瓦を供給した窯跡も見つかっている。山代郷南新造院の瓦を製作した山代郷南新造院瓦窯跡〔小無田Ⅱ遺跡〕（松江市教育委員会 1997）では瓦窯３基が、出雲国分寺の瓦生産を行った出雲国分寺瓦窯跡（岡崎 1979）では瓦窯２基、中竹矢遺跡（島根県教育委員会 1992）で平窯１基が検出されている。

居館に比定される遺跡は台地や微高地上に立地することが多い。中西遺跡（島根県古代文化センター編 2009）では、２間×２間の総柱建物や、１辺 1m を超える大型方形柱穴で構成された廂付建物が見つかっており、出雲国造家との関連が指摘されている。これに対して一般の集落遺跡は、丘陵裾に立地する傾向がある。中竹矢遺跡（島根県教育委員会 1992）、才ノ峠遺跡（島根県教育委員会 1993b）、岸尾遺跡（島根県教育委員会 1997a）、島田遺跡（島根県教育委員会 1997a）、渋山池遺跡（島根県教育委員会 1997b）、原ノ前遺跡（島根県教育委員会 1997b）では、掘立柱建物跡や加工段が見つかっている。

出雲国府跡周辺の墳墓関係遺跡はあまり知られていない。わずかに意宇平野周縁で、八稜鏡を収めた火葬骨壺が検出された社日古墳群（島根県教育委員会 1998）が確認されている。古代道路跡としては、出雲国府跡堂田地区（島根県教育委員会 2008）で確認した平安時代の硬化面がある。現在の市道に平行して南北に走り、推定十字街から国庁へ至る進入路と推定されている。大坪遺跡（松江市教育委員会 2002）の発掘調査では、山陰道（正西道）の検出が期待されたものの遺構の確認には至っておらず、木簡の出土による間接的な推測に留まっている。出雲国府跡の史跡範囲内にあたる上ノ免・水垣地区及び石ヶ坪・横枕地区（島根県教育委員会 2009）では時期不明の東西溝を検出しており、山陰道（正西道）の可能性が想定されている。意宇平野以外では、時期不明ながら松本古墳群（島根県教育委員会 1997c）、杉沢遺跡（出雲市教育委員会 2016）、長原遺跡（出雲市教育委員会 2017）、魚見塚遺跡（松江市教育委員会道 2018）などで道路遺構を確認しており、古代山陰道や枉北道を復元する重要な手掛かりとなっている。

３．中世以降の遺跡

出雲国府跡以外で中世以降の遺跡は、意宇平野を縦断する送電線鉄塔建設に伴う調査で多く発見されている。このうち意宇平野対岸の天満谷遺跡（島根県教育委員会 1987）では、谷間を造成して建てられた掘立柱建物跡を検出し、古代末から中世の土器や陶磁器が伴出している。出雲国分尼寺跡に隣接する中竹矢遺跡（島根県教育委員会 1992）でも、白磁類を伴う集落の調査を行っている。意宇川河口に近い鷺貫遺跡（島根県教育委員会 1997d）では少量の陶磁器が出土し、付近に中世

の有力施設が存在していたことが推定されている。黒田館跡（松江市教育委員会 1984）では掘立柱建物跡、井戸、溝跡が検出され、遺物では白磁、青磁、朝鮮半島の陶器である粉青沙器が出土している。これらの遺跡の調査成果から中世の出雲府中の様子が窺える。

【参考文献】

成瀬敏郎 1975「意宇平野－その形成について－」『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』島根県教育委員会
出雲考古学研究会 1987『石棺式石室の研究』
出雲市教育委員会 2016『杉沢遺跡・杉沢Ⅱ遺跡・杉沢横穴墓群』出雲斐川中央工業団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　出雲市の文化財 30
出雲市教育委員会 2017『出雲国古代山陰道発掘調査報告書 - 出雲市三井Ⅱ・杉沢・長原遺跡の調査 -』出雲市の文化財 33
岡崎雄二郎 1979「出雲国分寺瓦窯について」『八雲立つ風土記の丘』No.35、島根県八雲立つ風土記の丘
島根県教育委員会 1968『島根県文化財調査報告書』第 5 集
島根県教育委員会 1975『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』
島根県教育委員会 1976『出雲国分尼寺第 3 次発掘調査概報』
島根県教育委員会 1981『史跡出雲国山代郷正倉跡』
島根県教育委員会 1985『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書Ⅳ－島根県松江市山代町所在・四王寺跡－』
島根県教育委員会 1987『北松江幹線新設工事松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』
島根県教育委員会 1988『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書Ⅴ－島根県松江市山代町所在・四王寺跡－』
島根県教育委員会 1989a『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
島根県教育委員会 1989b『国道 9 号線松江道路建設予定地内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ（夫敷遺跡）』
島根県教育委員会 1992『一般国道 9 号松江道路建設予定地内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ（中竹矢遺跡）』
島根県教育委員会 1993a『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告Ⅸ』
島根県教育委員会 1993b『一般国道 9 号松江道路建設予定地内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅠ（才ノ峠遺跡）』
島根県教育委員会 1994『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書Ⅹ　山代郷南新造院跡』
島根県教育委員会 1997a『岸尾遺跡・島田遺跡』
島根県教育委員会 1997b『渋山池遺跡・原ノ前遺跡』
島根県教育委員会 1997c『松本古墳群・大角山遺跡・すべりざこ古墳群』
島根県教育委員会 1997d『島田池遺跡・鶺貫遺跡』
島根県教育委員会 1998『社日古墳』
島根県教育委員会 2001『山代二子塚古墳整備事業報告書』
島根県教育委員会 2002『来美廃寺「山代郷新造院」推定地発掘調査報告書』風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 13
島根県教育委員会 2004『史跡出雲国府跡－ 2 －』
島根県教育委員会 2007『山代郷北新造院跡』
島根県教育委員会 2008『史跡出雲国府跡－ 5 －』
島根県教育委員会 2009『史跡出雲国府跡－ 6 －』
島根県教育委員会 2011『史跡出雲国府跡－ 7 －　附編　山代郷南新造院跡』
島根県教育委員会 2013『史跡出雲国府跡－ 9　総括編－』
島根県古代文化センター 2009『出雲国府周辺の復元研究－古代八雲立つ風土記の丘復元の記録－』
松江市教育委員会 1984『黒田館跡』
松江市教育委員会 1988『下黒田遺跡発掘調査報告書』
松江市教育委員会 1995『出雲国分寺跡発掘調査報告書』
松江市教育委員会 1997『小無田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
松江市教育委員会 2002『市道真名井神社線整備事業に伴う大坪遺跡発掘調査報告書』
松江市教育委員会 2009『出雲国分寺跡発掘調査報告書』
松江市教育委員会 2011『出雲国分寺跡発掘調査報告書』
松江市教育委員会 2018『魚見塚遺跡・朝酌菖蒲谷遺跡』市道西尾大井線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書　松江市文化財調査報告書　第 181 集

第２章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

昭和 40 年代に入ると、意宇平野にも高度経済成長に伴う土地開発や住宅建設の波が押し寄せ、平野の様相を大きく変えようとしていた。これを憂慮した松江市教育委員会・島根県教育委員会では、出雲国府跡の有力な候補地である大草町字宮の後付近一帯の遺跡、および次第に消滅しつつある条里遺構の実態を明らかにし、適切な保存処理を図る目的で発掘調査を実施することになった。調査は 1968（昭和 43）年度から 3 年間の継続事業とし、国庫補助事業で松江市教育委員会が実施した（第 1 期調査)。調査の結果、整然と並んだ建物跡、文書行政が行われたことを示す木簡、墨書土器、硯が出土し、これらの資料を根拠として出雲国府跡と特定された。これを受けて、1971（昭和 46）年 12 月 13 日付け文部省告示第 213 号で約 420,000㎡が国史跡として指定された。1972(昭和 47）年度には、公有化された土地 10,480㎡を対象として 3 ヶ年にわたり環境整

第 5 図　史跡出雲国府跡の史跡範囲と調査区配置図（S = 1 /6,000）

備事業を行った。1973(昭和 48）年度には、SD005 と SD004 の復元工事中にまとまった量の遺物を採集したため、1974(昭和 49）年度に工事と平行して発掘調査を実施した。1974（昭和 49）年度に完成した史跡出雲国府跡の史跡公園は、八雲立つ風土記の丘の中核施設として活用を図ることとした。

環境整備事業後は、史跡の現状変更に伴う小規模な調査を断続的に行っていた。1974(昭和 49）年度に島根県文化財愛護協会による水道管埋設工事に伴う発掘調査、1985 ～ 1990(昭和 60 ～平成 2）年度に島根県教育委員会による水路・農道改良などの農業基盤整備に伴う発掘調査を行ったほか、1993（平成 5）年度、1996（平成 8）年度、1997（平成 9）年度に松江市教育委員会で道路拡幅および個人住宅改築に伴う調査を行っている。このうち 1993（平成 5）年度の調査では、六所脇地区の南東で南北２間以上、東西１間以上の掘立柱建物が柱材の残存した状態で検出された。

島根県では 1991（平成 3）年度に「八雲立つ風土記の丘整備構想」、1997（平成 9）年度に「古代文化の郷 “ 出雲 ” 整備構想」を策定した。いずれも八雲立つ風土記の丘を中核とした遺跡整備の必要性を唱えている。1997（平成９年）年には風土記の丘資料館において「古代出雲文化展」を開催し、史跡山代二子塚の復元整備などが平行して行われ、風土記の丘地内の史跡整備が具体的に進められた。こうした中で、その中心となる史跡出雲国府跡の再整備も計画に盛り込まれ、1999（平成 11）年度より発掘調査が再開され（第２期調査）、2001（平成 13）年度には、「八雲立つ風土記の丘整備基本計画」により国府跡の整備案が示された。第２期調査の成果については、2013（平成 25）年に刊行された『史跡出雲国府跡９－総括編 －』（以下、『総括報告書』）にまとめられており、詳細は割愛するが、国司館跡の発見や、付属工房に関連する玉、漆、金属製品等の生産関係遺物が多数出土するなど、貴重な成果が得られている。

『総括報告書』は、1968 ～ 2011（昭和 43 ～平成 23）年度までの全ての発掘調査の成果をまとめたもので、調査区を整理し、出土品を検討して総括的な編年を行い、出雲国府跡の全体像を示した。一方で、今後解決すべき課題として、①建物変遷など未解明な点が多い六所脇地区、宮の後地区、樋ノ口地区といった昭和の調査の再検証、②『出雲国風土記』に書かれる諸施設の探索および条里制や周辺遺跡との関係、③中世出雲府中とその終焉についての分析を提示し、さらに今後の史跡の保護や活用のために、大半が未指定となっている政庁域南側の保護と調査の必要性が指摘された。

この未指定地部分については、文化庁や松江市教育委員会、地元関係者との協議が進み、2014 ～ 2017（平成 26 ～ 28）年度にかけて史跡指定と公有地化が進み、2017（平成 28）年度には家屋等の移転が完了したことから、長年の懸案であった政庁域の発掘調査が可能となる諸条件が整った。併せて 2015（平成 27）年度から、①史跡出雲国府跡の活用（史跡整備リニューアル等）のための基礎資料を得ることと、②『総括報告書』における課題の解決を目指すことを目的として、第３期調査を開始した。

第２節　調査の経過

１．2015（平成 27）年度

第３期調査の初年度となる 2015（平成 27）年度は政庁周辺全体の遺構の分布状況を把握するためのトレンチ調査を実施した。①脇殿の確認、②政庁北辺部と後方官衙の接続部の確認、③家屋

移転候補地の遺構・遺物の有無の確認、④政庁の南側を区画する南門・築地塀の確認を調査目的として、六所脇地区、宮の後地区、六所脇地区の南側で合計 10 か所の発掘調査を行った。掘削は基本的に人力で行ったが、人力による掘削が困難な場合はバックホーで掘削した。トレンチの埋め戻しは、遺構面に真砂土を５～ 10㎝敷き、トレンチの掘削土を同じトレンチに埋め戻した。検出遺構は、９世紀前葉以前と考えられる遺構は段下げを行い記録し、溝は段下げの後に完掘し記録した。９世紀中葉以降に帰属すると考えられる遺構は段下げの後に半截して記録した。

７月 27 日に史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会（以下、指導委員会）を開催し、調査方法と調査個所についての指導を受けた。８月 18 日に六所脇地区に第 56 トレンチと第 57 トレンチ（以下、T56 と T57）を設定し、六所脇地区と宮の後地区に第 58 トレンチ（以下、T57、T58）を設定し、掘削を開始した。９月 10 日に六所脇地区の南東に第 59 トレンチと第 60 トレンチ（以下、T59 と T60）を設定した。宅地跡で地表面にコンクリートの基礎が施工されていたため、コンクリートが無い部分にトレンチを設定した。そのためトレンチの各辺は正方位に平行する形とはならず、幅も 3m 以下となった。同日、T57 で古代の柱穴と考えられるピット（T57-P1）を検出した。９月 29 日、T58 南区で 80 号溝を検出し、T58 北区で黒色土層を検出した。10 月６日に勝部委員、大橋委員、花谷委員の調査指導を受け、遺構面の検出方法や T57 の拡張について指導を受けた。10 月 13 日に六所脇地区の南側に第 61 トレンチと第 62 トレンチ（以下、T61 と T62）を設定し発掘を開始した。両トレンチとも旧は資材置き場や駐車場で地表面が硬化しており人力での掘削が困難であったため、造成土と造成土の下の旧耕作土の掘削はバックホーで行った。10 月 14 日に六所脇地区の南側に第 63 トレンチ（以下､T63）を設定した。T63 と同じ区画の田圃では 2000（平成 12）年度に第 18 トレンチ（以下、T18）の調査を行っており、砂礫層より上では遺構が無いことが確認されていたため、砂礫層上面までバックホーで掘削した。T57 の拡張した北西隅まで 80 号溝が延びないことを確認した。10 月 28 日に指導委員会を開催し、2015（平成 27）年度の調査状況の報告し指導を受けた。また、2016（平成 28）年度以降の調査計画案を審議し、2016（平成 28）年度・2017（平成 29）年度は六所脇地区の北側の調査を実施し、2018（平成 30）年度から 2020 年度は六所脇地区の南側を調査を実施することを決定した。10 月 29 日、T63 の砂礫層下で１号石組遺構を検出した。１号石組遺構については、構造材の一部を採取し、現地調査終了後に自然科学分析を行った。11 月５日の午前に渡辺正己氏から、各トレンチの堆積状況について指導を受けた。同日の午後、勝部委員、大橋委員、花谷委員から、１号石組遺構の性格についての見解や指導を受けた。11 月 23 日に、T63 の両側に第 64 トレンチと第 65 トレンチ（以下、T64 と T65）を設定し掘削した。バックホーで掘削し、T64 と T65 でも１号石組遺構を検出した。12 月７日に、T59 で古代に帰属すると考えられる大型の方形掘方を検出した。同日、勝部委員、大橋委員、花谷委員から、検出遺構について指導を受けた。12 月 16 日に全トレンチの埋め戻し作業が完了し、現地調査を終えた。

発掘調査現場の一般公開は 10 月 18 日に開催された「国府まつり」と、11 月 21 日の現地説明会で実施した。また、2016（平成 28）年３月 30 日～５月 15 日まで、島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館で発掘調査成果の速報展を開催し、同年４月 23 日に風土記の丘教室で 2015（平成 27）年度の発掘調査成果の報告を行った。

２．2016（平成 28）年度の調査

2016（平成 28）年度は、① 2015（平成 27）年度で確認した土層と、第 1 期調査で確認された土層との対応関係の検討、②第 1 期調査の平面図の誤差の修正、③ SB020 の未調査部分と周辺の遺構を確認、④ T58 で確認した黒色土層の広がりを確認することを目的として調査を計画した。『総括報告書』を参考に①・②・③を調査目的として、第 66 トレンチ（以下、T66）を設定し、①・②・④を目的として第 68 トレンチ（以下、T68）を設定した。また、調査区の各辺は世界測地系第 3 系の正方位に平行するようにした。しかし、T66 で予想を超える多数の遺構を検出し、これら遺構の調査に業務が集中したため、T68 の調査は実施できなかった。

掘削は公園造成土はバックホーで行い、旧耕作土以下は人力で行った。埋め戻しは遺構面に真砂土を 5 ～ 10㎝敷き、その上に調査区の掘削土を埋め戻した。遺構検出は上層に 9 世紀中葉以降の遺構面があり下層に 9 世紀前葉以前の遺構面があるため、9 世紀中葉以降の遺構は完掘して記録した後に遺構の基盤層を掘削し、9 世紀前葉以前の遺構の検出を行った。9 世紀前葉以前の遺構は段下げを行い記録し、溝は段下げの後に完掘して記録した。

6 月 20 日に、佐藤委員の調査指導を受け、調査範囲の拡張を検討するよう指導を受けた。7 月 11 日に開催した指導委員会では、2015（平成 27）年度の調査成果を報告し、2016（平成 28）年度の調査については T66 の調査を優先して実施し、T68 の調査は T66 の調査状況を考慮して着手するよう指導を受けた。7 月 19 日に、T66 の範囲内にある SB020 の復元柱、復元基壇の縁石、説明板の撤去を人力とバックホーで行った。7 月 20 日から 21 日にかけて、調査区内の砕石や真砂土といった史跡公園の造成土をバックホーで掘削し、7 月 27 日から人力による掘削を開始した。掘削は史跡公園の造成土下に堆積する耕作土、第 1 期調査の埋め戻し土、第 2 期調査の第 47 トレンチと第 49 トレンチ（以下、T47 と T49）の埋め戻し土の除去から行った。これらの作業を進めるなかで、当初想定した第 1 期調査の I 区の位置に誤差があることが判明した。調査区を再検証した結果、T66 を設定する際に参考とした『総括報告書』の図面を拡大した際に生じた誤差が原因だと判明した。8 月 31 日には、調査区全面で 9 世紀中葉以降の遺構を検出した。9 月 13 日に勝部委員、大橋委員、花谷委員から SB020 と SB019 の重複関係の確認や、中近世の建物の推定復元について指導を受けた。10 月 12 日に指導委員会を開催した。調査状況を報告し、SB019 の柱掘方の土層断面を記録するため、一部を掘削するよう指導があった。また、2017（平成 29）年度以降の調査計画について審議し、隣接する遺構の関係を確認するために T66 の一部を再発掘することが決定した。10 月 17 日から 9 世紀中葉以降の基盤層の掘削を開始した。11 月 16 日に勝部委員、大橋委員、花谷委員跡から、竪穴建物跡の有無や、SB019 の東側に関連する遺構の検討、SB019 と 26 号建物跡の重複関係についての指導を受け、重複関係が不明な遺構については一部を掘削して確認するよう指導を受けた。11 月 28 日に SB019 と 26 号建物跡の柱掘方が重複する遺構について、2 か所でサブトレンチを設定して掘削を開始した。12 月 12 日に勝部委員、大橋委員、花谷委員から検出遺構について指導を受けた。12 月 21 日に勝部委員、佐藤委員から検出遺構について指導を受けた。12 月 22 日に埋め戻しを開始し、12 月 28 日に埋め戻しが完了した。

発掘調査現場の一般公開は 10 月 23 日に開催された「国府まつり」と 11 月 27 日に開催した現地説明会で実施した。また、2017（平成 29）年 3 月 25 日～ 5 月 14 日まで、島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館で発掘調査成果の速報展を開催した。

３．2017（平成 29）年度の調査

2017（平成 29）年度は、①六所脇地区北側での国庁の変遷の確認と、②宮の後地区での土地利用の変遷の確認を目的として調査を計画した。①を調査目的として、SB020 の未調査部分と、26 号建物の西側に第 67 トレンチ（以下、T67）を設定し、②については、2016（平成 28）年度に発掘調査を実施できなかった T68 を北側の調査範囲を広げて再設定した。両トレンチの各辺は世界測地系第３系の正方位に平行するよう設定した。

掘削は公園造成土と、過去の調査区の埋め戻し土の上層はバックホーで行い、旧耕作土以下と遺構面から 10㎝までの埋め戻し土の掘削は人力で行った。調査区の埋め戻しは、遺構面に真砂土を５～ 10㎝敷き､その上に調査区の掘削土を埋め戻した。遺構検出は 2016（平成 28）年度と同様に、９世紀中葉以降の遺構は完掘して記録した後に遺構の基盤層を掘削し、９世紀前葉以前の遺構は段下げを行い記録し、溝は段下げの後に完掘して記録した。

６月５日に指導委員会を開催し、2016（平成 28）年度の調査成果を報告し、2017（平成 29）年度の調査方法と調査個所について審議した。T67 の南側への拡張と、第１期の一部の再発掘と、SB020 の再検出を決定した。また、T67 の調査を優先して実施し、T68 の調査は T67 の調査状況を考慮して着手することを決定した。

６月７日に、T67 にある SB020 の復元柱、復元基壇の縁石、説明板の撤去を人力やバックホーで行い、公園造成土と調査区の埋め戻し土の掘削をバックホーで行った。６月 15 日から人力による掘削を開始した。掘削は第１期調査と T66 の西側の埋め戻し土の除去から行った。また、未発掘箇所で遺構面を検出するまでは、過去の調査での遺構面を保護する必要があるため、第１期調査の調査区については遺構面の 10㎝程度まで埋め戻し土を残し、2016（平成 28）年度の再発掘箇所については遺構面保護のため敷いた真砂土の上面までを掘削した。６月 19 日から未発掘箇所の掘削を開始した。６月 23 日に、T67 北区で礫層を除去し、遺構検出を行った。当初、この遺構面は９世紀中葉以降の遺構面と考えていたが、26 号建物跡の続きと考えられる遺構を検出したことから、既に９世紀前葉以前の遺構面を検出していたことが判明した。６月 27 日に T67 中央区で、耕作土を除去し、９世紀中葉以降の遺構面を検出した。７月 25 日に勝部委員、大橋委員、花谷委員から、SB020 の礎石建物への建て替えや、基壇の有無について検討するよう指導を受けた。７月 28 日に T68 の掘削に着手した。８月３日に T67 の９世紀中葉以降の遺構の掘削を完了し、８月 21 日に T67 中央区の９世紀中葉以降の遺構の記録を完了した。８月 28 日から T67 で９世紀中葉以降の基盤層の掘削を開始した。９月４日に T68 で礫層を除去し、黒色土層を検出した。９月 11 日に T67 中央区で SB020 の柱掘方を検出した。９月 20 日に、大橋委員から SB020 の柱穴の重複関係や基壇についての指導を受けた。10 月４日、大橋委員、花谷委員から SB020 の調査方法について指導を受けた。10 月 11 日に指導委員会を開催し、調査状況の報告を行い、T67 中央区については､十字に設定したセクションベルトを撤去して遺構検出を行うこと､南側のセクションベルトの幅を狭くし、遺構検出を行うこと、T67 北区については、柱穴の精査について指導を受けた。また、2018（平成 30）年度の調査箇所について審議し、脇殿の検出を目的とした調査区を設定するよう決定した。10 月 17 日に T67 中央区の SB020C で礎石を検出し、勝部委員、大橋委員から礎石の調査方法について指導を受けた。10 月 26 日に、T68 で１号池状施設を検出した。11 月１日に大橋委員から１号池状施設の調査方法について指導を受けた。同日、第１期調査での

調査区が推定より西に位置していため、T68 の北西を西側に拡張し、第 1 期調査の調査区の西端を確認した。11 月 2 日に花谷委員から 1 号池状施設の土手状盛土と SB020 の調査方法について指導を受けた。同日、渡辺正己氏の調査指導を受け、1 号池状施設の堆積状況と底面の礫層について指導を受けた。11 月 21 日に SB020 の P1 と P10（第 41 図）で遺構の重複関係を確認するため一部を掘削し、SB020B の P10 で柱根を検出した。11 月 28 日に大橋委員から柱根の取り扱いについて指導を受けた。11 月 29 日に花谷委員から遺構の検出方法について指導を受けた。同日、SB020B の P10 の柱根を取り上げた。12 月 4 日に大橋委員から遺構面や基盤層の確認について指導を受けた。同日、現地調査を完了し、埋め戻し作業と復元柱の再設置作業を開始した。埋め戻し作業は天候不順により遅延し、2018（平成 30）年 3 月 15 日に完了した。

発掘調査現場の一般公開は 10 月 22 日に開催された「国府まつり」と、11 月 11 日に開催した現地説明会で実施した。2018(平成 30)年 2 月 24 日に埋蔵文化財調査センターで 2015 ～ 2017(平成 27 ～ 29）年度までの調査成果の報告会を開催した。また、2018（平成 30）年 3 月 24 日～ 5 月 13 日まで、島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館で発掘調査成果の速報展を開催した。

４．2018（平成 30）年度の調査（報告書作成）

2018（平成 30）年度は、2 班体制とし、1 班は現地での発掘調査を実施し、1 班は 2015（平成 27）年度から 2017（平成 29）年度までの調査成果の報告書作成を行った。6 月 6 日と 10 月日に指導委員会を開催し、2017（平成 29）年度の調査成果、報告書の作成状況、遺構変遷についての報告を行い指導を受けた。また 9 月 18 日に勝部委員、花谷委員、小野健吉教授から、9 月 21 日に勝部委員、大橋委員から、12 月 10 日に大橋委員、花谷委員から指導を受けた。

第１表　史跡出雲国府跡発掘調査年表

調査年度		調査主体	調査目的	主な調査地区	主な調査成果	報告書
昭和 43 年	1968 年	松江市教育委員会	学術調査	宮の後	大型の建物や溝（SD004、SD005）を検出	松江市教育委員会 1971 島根県教育委員会 2008、2009
昭和 44 年	1969 年	松江市教育委員会	学術調査	宮の後・一貫尻・水垣・樋ノ口	宮の後で建物や溝（SD010）、一貫尻で石敷遺構を検出	松江市教育委員会 1971 島根県教育委員会 2008、2009
昭和 45 年	1970 年	松江市教育委員会	学術調査	六所脇・宮の後	六所脇で政庁後殿と推定される四面廂付建物（SB020）を検出	松江市教育委員会 1971 島根県教育委員会 2008、2009
昭和 49 年	1974 年	島根県教育委員会	史跡整備	宮の後		島根県教育委員会 1975、2009
昭和 49 年	1974 年	島根県文化財愛護協会	水道管埋設	―	第 1 ～第 4 地点。推定十字街・枉北道	島根県教育委員会 2009
昭和 60 年	1985 年	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業	―		島根県教育委員会 1988
昭和 61 年	1986 年	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業	―		島根県教育委員会 1988
昭和 62 年	1987 年	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業	―	21 号水路。推定枉北道	島根県教育委員会 1988
平成元年	1989 年	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業	水垣・横枕	A 地点・B 地点。推定真西道	島根県教育委員会 2009
平成 2 年	1990 年	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業	松葉田他		島根県教育委員会 2009
平成 5 年	1993 年	松江市教育委員会	道路拡幅	六所前	橋脚の可能性の柱列を検出	
平成 8 年	1996 年	松江市教育委員会	個人住宅改築	前川原		
平成 8 年	1996 年	松江市教育委員会	道路拡幅	六所前		
平成 9 年	1997 年	松江市教育委員会	個人住宅改築	前川原		
平成 11 年	1999 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舎原	範囲確認調査	島根県教育委員会 2003
平成 12 年	2000 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舎原	廂付きの建物跡（1 号建物跡）を検出	島根県教育委員会 2003
平成 13 年	2001 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舎原	国司館と推定される建物群を検出	島根県教育委員会 2003
平成 14 年	2002 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舎原	八脚門の可能性のある建物（9 号建物跡）を検出	島根県教育委員会 2004
平成 15 年	2003 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舎原・一貫尻・日岸田	一貫尻で石敷遺構・護岸状施設を検出	島根県教育委員会 2004、2005
平成 16 年	2004 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舎原・日岸田	大舎原の 56 号溝より橋の部材と思われる木製品が出土	島根県教育委員会 2005、2006
平成 17 年	2005 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	日岸田	多量の漆関係遺物が出土	島根県教育委員会 2006
平成 18 年	2006 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	六所脇・宮の後・堂田	中世の国庁進入路の可能性がある硬化面を検出	島根県教育委員会 2008、2009
平成 19 年	2007 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	六所脇・宮の後・堂田	井桁状遺構を検出	島根県教育委員会 2009
平成 20 年	2008 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	宮の後	73 号溝を検出	島根県教育委員会 2010
平成 21 年	2009 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	宮の後	40 号土坑より漆紙文書を検出	島根県教育委員会 2010
平成 21 年	2009 年	松江市教育委員会	下水道工事	六所脇		
平成 22 年	2010 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	宮の後	井桁状遺構を検出	島根県教育委員会 2013
平成 22 年	2010 年	松江市教育委員会	個人住宅建設	六所脇		
平成 23 年	2011 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	宮の後	74 号・75 号溝を検出	島根県教育委員会 2013
平成 23 年	2011 年	松江市教育委員会	個人住宅建設	六所脇	中世の南北溝を検出	
平成 27 年	2015 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	六所脇・宮の後	80 号溝、1 号池状施設、1 号石組遺構などを検出	本報告書
平成 28 年	2016 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	六所脇	SB019、26 号建物、27 号建物、29 号建物跡などを検出	本報告書
平成 29 年	2017 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	六所脇・宮の後	SB020、28 号建物跡、95 号溝、1 号池状施設などを検出	本報告書
平成 30 年	2018 年	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	六所脇	35 号建物跡、96 号溝などを検出	

第３章　2015~2017（平成 27~29）年度の発掘調査

第１節　調査の方法

１．調査区の設定（第６図）

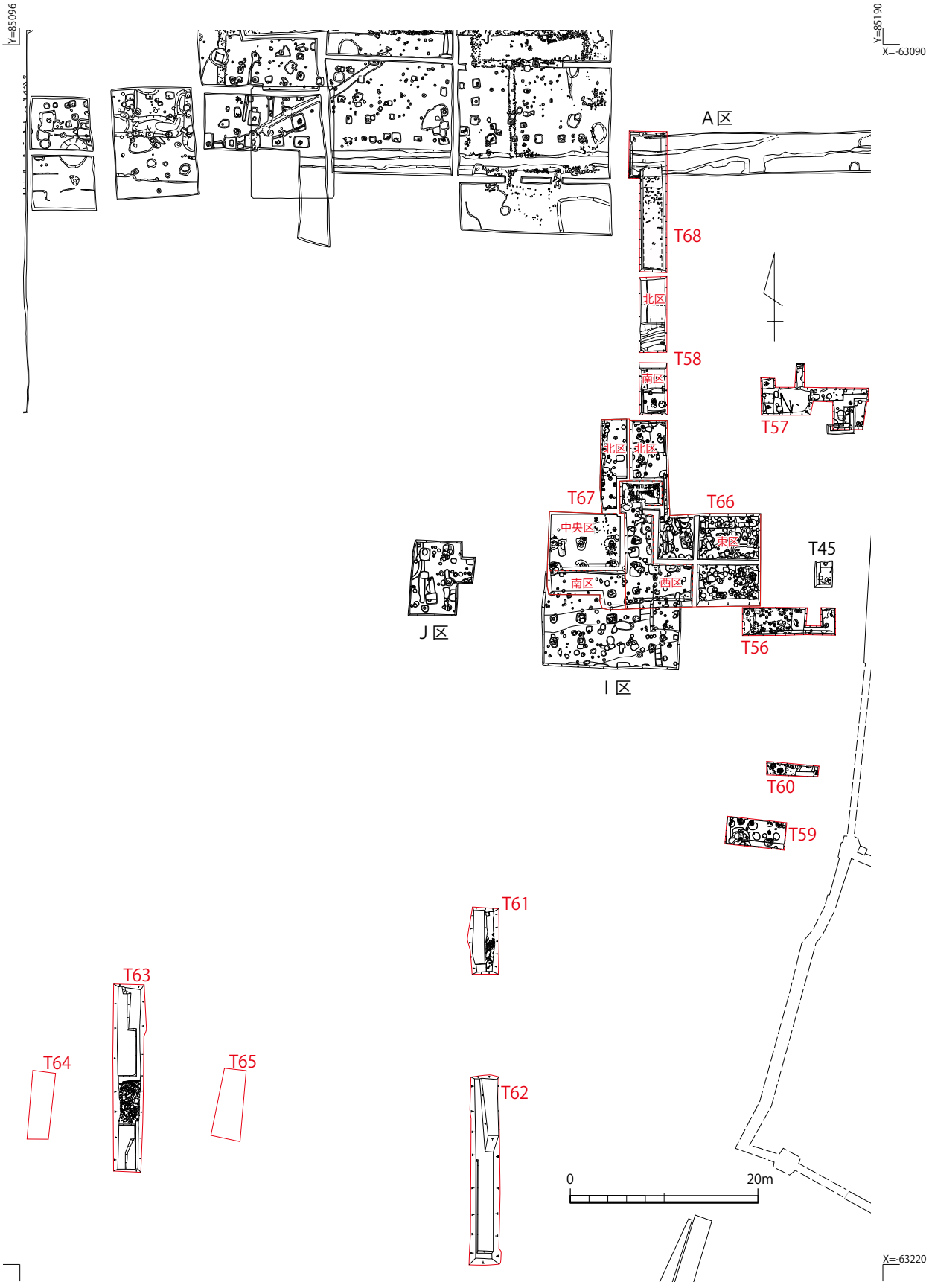
2015（平成 27）年度は、脇殿の確認、政庁北辺部と後方官衙の接続部の確認、家屋移転候補地の遺構・遺物の有無の確認、政庁の南側を区画する南門・築地塀の確認を調査目的として、合計 10 か所（311㎡）でトレンチ調査を実施した。トレンチの名称はこれまで島根県が実施したトレンチからの連番とした。T56 は東脇殿の検出を目的として、出雲国庁正殿跡と推定される SB020 の東側に設定した。T57 は政庁北辺部の確認を目的として、推定政庁域の北東隅に設定した。T58 は政庁北辺部と後方官衙の接続部の確認として目的として、SB020 の北側に設定した。T59 と T60 は東脇殿の検出を目的として推定政庁域の南東に設定した。T61 と T62 は政庁の南側を区画する南門･築地塀の確認を目的として、推定政庁域の南に設定した。T63 は家屋移転候補地の遺構･遺物の有無の確認を目的として、推定政庁域の南西に設定した。T64 と T65 は T63 で検出した 1 号石組遺構の有無を確認するために、 1 号石組遺構の西側の延長線上に T64 を設定し、東側の延長線上に T65 を設定した。各トレンチは、各辺が世界測地系第３系の正方位に平行し、且つ幅が３m になようにに設定した。ただし、T59 と T60 は調査予定地の大半がコンクリートで固められており掘削可能な場所が限られていたため、各辺は正方位に平行する形にはならず、幅も 3m 以下となった。また､T64 と T65 も現地形に合わせ掘削したため､各辺は正方位に平行する形にはならず、幅も 3m 以下となった。

2016（平成 28）年度の調査は、2015（平成 27）年度で確認した土層と第 1 期調査で確認された土層の対応関係の検討、第 1 期調査の平面図の誤差の修正、SB020 と周辺遺構の確認を目的として実施した。調査区の名称は T66 とし、第 1 期調査の I 区東側と前年度調査した T56 と T58 に接する場所に調査区を設定した。調査区は北側に突出した部分を北区、第 1 期調査の再発掘部分を西区、西区の東側を東区とした。また、東区はセクションベルトで３区画に分け、各区画の名称は北側、南側、西側とした。調査区は各辺が世界測地系第３系の正方位に平行するように設置した。

2017（平成 29）年度の調査は、六所脇地区北側での出雲国庁の変遷を確認と、宮の後地区での土地利用の変遷の確認を目的として実施した。出雲国庁の変遷を確認する調査区として T67 を設定し、宮の後地区での土地利用変遷を確認する調査区は T68 とした。T67 は新規調査箇所のほか、第 1 期調査 I 区の北側と T66 西区と北区の西側の再発掘箇所からなる。新規調査個所は北側に突出した箇所を T67 北西区、南側を T67 中央区とし、再発掘箇所のうち I 区北側を T67 南西区、T66 西区を T67 南東区、T66 北区を T67 北東区として調査した。本書では混乱を避けるため、以後は T67 北西区を T67 北区、T67 南西区を T67 南区、T67 南東区を T66 西区、T67 北西区を T66 北区と呼称する。T68 は第 1 期調査の A 区南端から T58 北区北端までの区間に設定した。T67 と T68 の各辺は世界測地系第３系の正方位に平行するようにした。

２．表土と遺構の掘削

T56 ～ T60、T68 の掘削は人力のみで行った。T61 ～ T62 は地表が固く造成されており、人力による掘削が困難であったため表土はバックホーで掘削し、それ以外は人力で掘削した。T63 は



第 6 図　2015 ～ 2017（平成 27 ～ 29）年度の調査区配置図（S= 1 /600）

同じ区画の田圃で 2000（平成 12）年度に実施した T18 の調査成果から、砂礫層より上面では遺構が無いことが確認されていたため、砂礫層上面までバックホーで掘削し、それ以外は人力で掘削した。T64 と T65 は T63 の調査成果から、１号石組遺構上面までバックホーで掘削した。T66 と T67 は新規調査箇所については史跡公園の造成土をバックホーで掘削し、再発掘箇所については埋め戻し土を遺構面から 10㎝まで残してバックホーで掘削し、それ以外は人力で掘削した。

検出遺構については、T56 ～ T65 については、９世紀中葉以降と考えられる遺構は段下げの後に半截し、９世紀前葉以前と考えられる遺構は段下げのみ行った。溝は段下げの後に完掘した。T66 ～ T68 については、９世紀中葉以降と考えられる遺構は段下げの後に半截し、土層を記録して完掘した。９世紀前葉以前と考えられる遺構は溝は段下げの後に完掘した。溝と池状施設は段下げの後に完掘した。

調査区の埋め戻しは、遺構面に真砂土を５～ 10㎝敷き、掘削土を掘削したトレンチに埋め戻した。

３．記録の作成

遺構の平面図は、2015（平成 27）年度はトーワエンジニアリング株式会社の遺構調査システム「遺構くん」を用いて測量し、2016・2017（平成 28・29）年度はコンピュータ・システム株式会社の遺構調査システム「SITE」を用いて測量し、いずれも出力後補正を行った。礎石や根石等は必要に応じて手測りで平面図・立面図を作成した。また、報告書掲載が見込まれる遺物等は遺跡調査システムで出土位置を記録した後に取り上げを行った。遺構の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは６×７版フィルム（モノクロネガ・カラーポジフィルム）による撮影を行い、それ以外はフルサイズ一眼レフのデジタルカメラで撮影した。

４．自然科学分析

自然科学分析のうち花粉分析については、分析担当者と現地で協議した上で、採取からの作業を委託した。それ以外の放射性炭素年代測定、樹種同定、酸素同位体年輪年代測定の資料は発掘作業終了後に、分析担当者と協議した上で作業を委託した。

５．整理作業

検出遺構は内容を検討し、遺構の種類ごとに現地での仮番号から出雲国府跡での通し番号に変更した。ただし、出雲国府跡では、遺構の表記について第１期調査では SB 等の略号を使用し、第２期調査では略号を使用しておらず、且つそれぞれが通し番号を付けている。指導委員会で、再度の総括報告書を刊行するまでは第１期調査で既に確認されていた遺構については第１期調査での名称をそのまま使用し、新たに検出した遺構については略号を使用せずに第２期調査からの通し番号を付けることに決定した。

出土遺物については、遺構から出土したものを優先して選択し実測と撮影を実施し、遺物包含層から出土したものについては、土層の時期を示すものや特殊な遺物を選択して実測と撮影を実施した。また、瓦については全点の分類作業を行った上で重量と破片数を記録し、道具瓦や軒瓦などを優先して実測及び撮影を実施した。

第２節　基本層序（第７図）

基本層序は、六所脇地区北側と宮の後地区（T57、T58、T66 北区、T67 北区、T68）、六所脇地区南側（T56、T66 東区と西区、T67 中央区と南東区と南東区）、六所脇地区の南側（T61 ～ T65）で異なる。

六所脇地区北側と宮の後地区では地表より、史跡公園造成土、旧耕作土（田圃）、礫層、暗オリーブ灰色粘質土、にぶい黄褐色粘質土の順に堆積する。このうち礫層は 13 世紀の洪水によるものと考えられている。暗オリーブ灰色粘質土の上面では 7 世紀後葉以降の遺構を検出している。にぶい黄褐色土の上面では古墳時代中期以降の遺構を検出した。

六所脇地区南側では地表より、史跡公園造成土、旧耕作土（畑地）、にぶい黄褐色土、褐灰色粘質土、にぶい黄褐色粘質土の順に堆積する。六所脇地区南側には礫層がなく、13 世紀の洪水による直接的な被害は受けなかったと考えられる。六所脇地区南側は他の地区よりも標高が高いが、この地形的な特徴は 13 世紀の洪水に起因するのか、13 世紀以前に地形の改変があったのかは不明である。T66 東区では、にぶい黄褐色土の上面で 9 世紀中葉以降の遺構を検出し、褐灰色粘質土の上面では 7 世紀後葉～ 9 世紀前葉の遺構を検出した。にぶい黄褐色粘質土の上面では古墳時代の遺構を検出した。一方、T67 中央区では、にぶい黄褐色土から第 9 ～ 10 型式の遺物が出土しており、T66 東区と T67 西区ではにぶい黄褐色土の形成時期が異なると考えられる。

六所脇地区の南側では地表より、耕作土（田圃）、砂層や砂礫層、粘土層の順で堆積する。砂層や砂礫層は意宇川による堆積層で、弥生時代から近世までの遺物が出土する。この地区は、意宇川とその川岸で、部分的に中近世の護岸施設が残るものの、出雲国府に関係するような古代の遺構は流失している。

以上のように、六所脇地区南側では、近現代の耕作土の下に、9 世紀中葉以降（T67 中央区では 12 世紀後葉以降）の基盤層（にぶい黄褐色土）、7 世紀後葉から 9 世紀前葉までの基盤層（褐灰色粘質土）、古墳時代の基盤層（にぶい黄褐色粘質土）の順で堆積し、六所脇地区北側と宮の後地区では、13 世紀の礫層、7 世紀後葉から 9 世紀前葉までの基盤層（褐灰色粘質土）、古墳時代の基盤層（にぶい黄褐色粘質土）の順で堆積し、六所脇地区の南側では中近世以前の遺構は失われている。

以下、本書ではにぶい黄褐色土を「第 1 基盤層」、褐灰色粘質土を「第 2 基盤層」、にぶい黄褐色粘質土を「第 3 基盤層」と呼称する。また、各基盤層の上面を「第 1 遺構面」、「第 2 遺構面」、「第 3 遺構面」と呼称する。

六所脇地区南側の基本層序

公園造成土：史跡公園整備時の盛土。 砕石と真砂土。
耕　作　土：公園造成前の耕作土。古墳時代 から現代までの遺物が出土。
第 1 基盤層：T66 東区　第 6 型式までの遺物が出土。 ：T67 中央区 第 10 型式までの遺物が出土。
第 2 基盤層：古墳時代から第 1 型式まで 遺物が出土。
第 3 基盤層：古墳時代中期の遺物が出土。

六所脇地区北側と宮の後地区の基本層序

公園造成土：史跡公園整備時の盛土。 砕石と真砂土。
耕　作　土：公園造成前の耕作土。古墳時代 から現代までの遺物が出土。
礫　　層：13 世紀の洪水による。第 10 型式までの 遺物が出土。
第 2 基盤層：古墳時代から第 1 型式まで 遺物が出土。
第 3 基盤層：古墳時代中期の遺物が出土。

第 7 図　基本層序模式図

第３節　調査区の概要

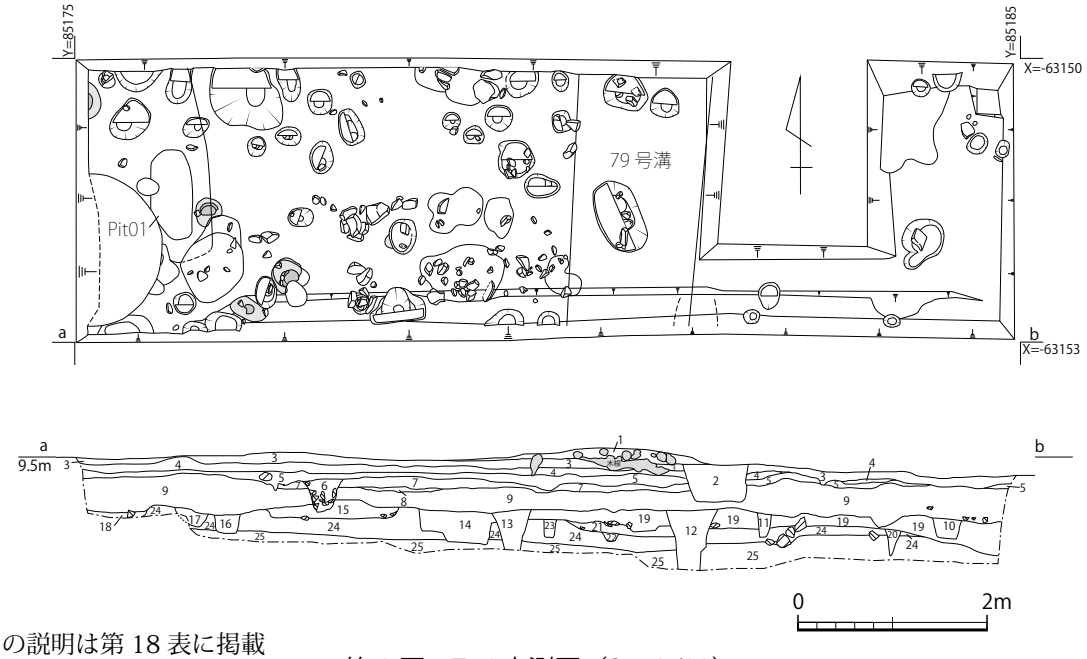
１．T56（第 8 図、第 9 図）

東脇殿の検出を目的として SB020 の南東に設定した南北 3m、東西 10m、面積 27㎡のトレンチである。調査区の中ほどに株があり、その箇所は発掘することができなかった。現在は史跡公園として整備されている。史跡公園の整備以前は畜舎が建てられていた。発掘作業は第 2 遺構面まで行い、南側のサブトレンチのみ第 2 基盤層を掘削した。

地表から腐植土（1 層）、公園造成土（2 層、3 層、5 層）近現代の造成土（7 層、8 層、9 層）、第 1 基盤層（19 層）、第 2 基盤層（24 層、25 層）の順で堆積する。標高 9.0m 前後で第 1 遺構面に達する。標高 8.8 m前後で第 2 基盤層に達する。第 2 基盤層は東側で傾斜しているが自然地形か溝等の遺構かの判断はできなかった。

遺構は、ピット 60 基、溝 1 条、焼土面 5 か所を検出した。大半は 9 世紀中葉以降の遺構で、東脇殿に関係する遺構は確認できなかった。第 2 遺構面の検出作業を第 2 基盤層の直上で行ったため、上手く 9 世紀前葉以前の遺構を検出できなかった可能性がある。主な遺構には、9 世紀中葉から 10 世紀前半の 79 号溝と、近世の 33 号建物跡の柱穴（P1）がある。

遺物は近現代の造成土からは古墳時代から現代までの遺物が出土し、第 1 基盤層からは第 4 ～ 5 型式の須恵器と土師器が多く出土した。その他、羽口や鉄滓、8 世紀代の瓦が少量出土した。第 2 基盤層からは出雲 6b.c 式や第 1 型式の須恵器が出土した。出雲 6b.c 式の須恵器の出土数が多く、第 1 型式の須恵器の出土数は少ない。その他に土師器の甕や移動式竈の破片が多く出土した。また、玉作り用の砥石が 1 点出土した。

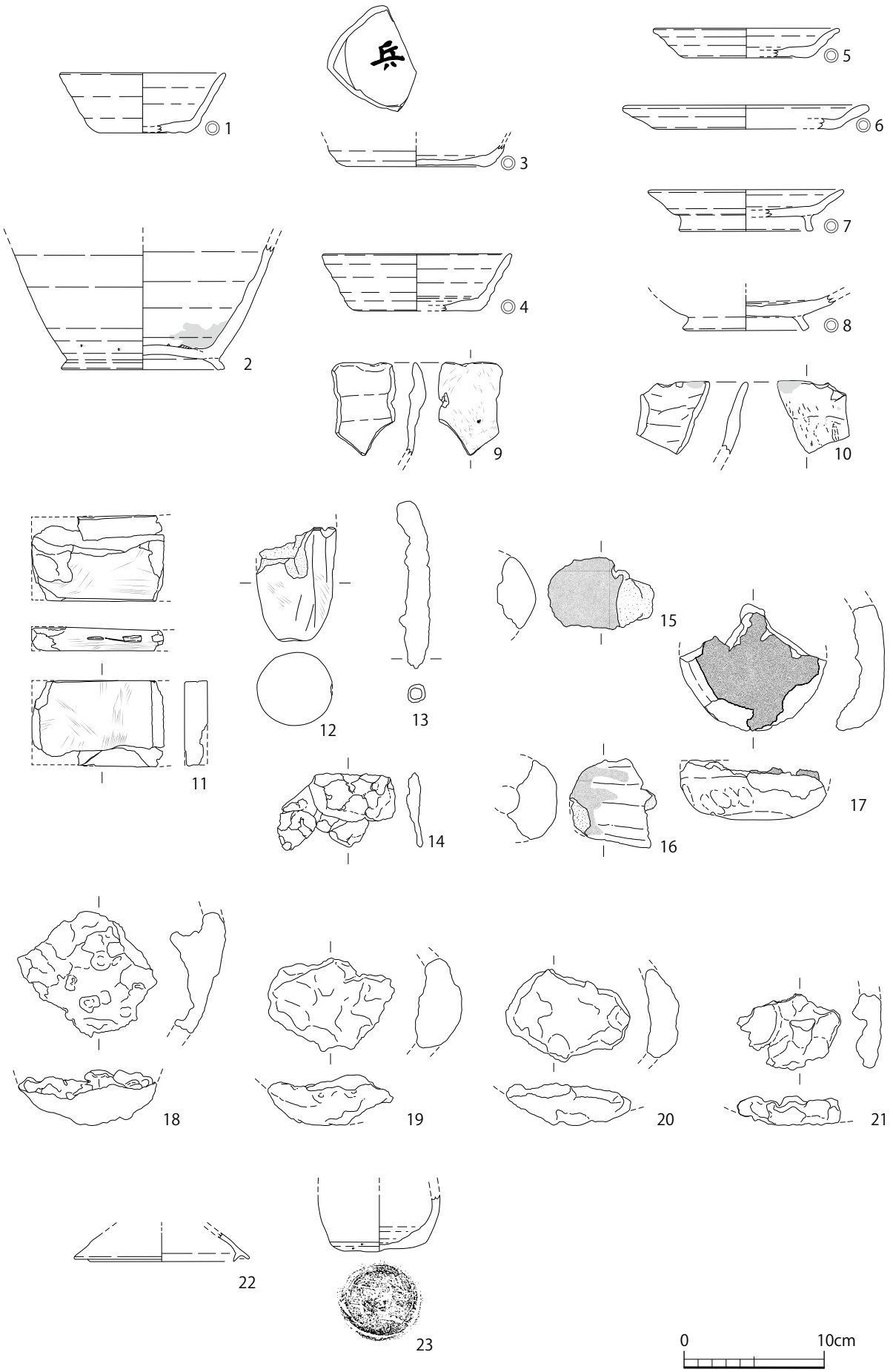


土層の説明は第 18 表に掲載

第 8 図　T56 実測図（S= 1 /80）

２．T57（第 10 図、第 11 図）

東脇殿及び政庁北辺部の検出を目的に SB020 の北東に設定した南北 3m ～ 4.4m、東西 11m、面積 39㎡のトレンチである。調査区の中ほどに株があり、その箇所は発掘できなかった。現在は史跡公園として整備されており、史跡公園の整備前は耕作地であった。T58 南区で検出した 80 号溝を検出するため、北西隅と北側中央部を部分的に北側に拡張した。また、P1 に関連する遺構を



1.2 は 9 層、3 ～ 21 は 19 層（第 1 基盤層）、22.23 は 24 層（第 2 基盤層）出土

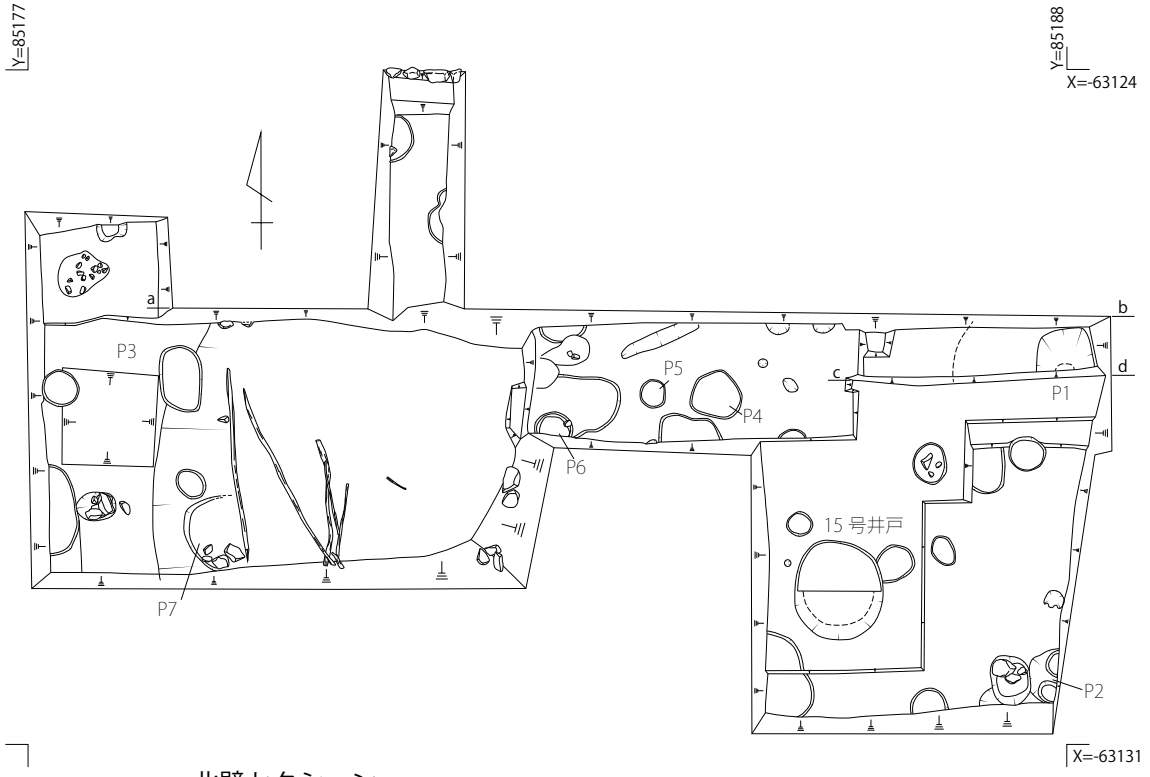
第 9 図　T56 出土遺物実測図（S= 1 /4）

確認するため、調査区の南西隅を南側に拡張した。調査区の中央には近現代の池跡があり、近世以前の遺構は失われていた。

地表から腐植土層（1 層）、史跡公園造成土（2 層、3 層、5 層）、旧耕作土（6 層）、礫層（8 層）、第 1 基盤層（10 層、11 層、12 層、13 層、14 層、15 層、18 層）、第 2 基盤層（19 層）、第 3 基盤層（20 層）の順で堆積する。

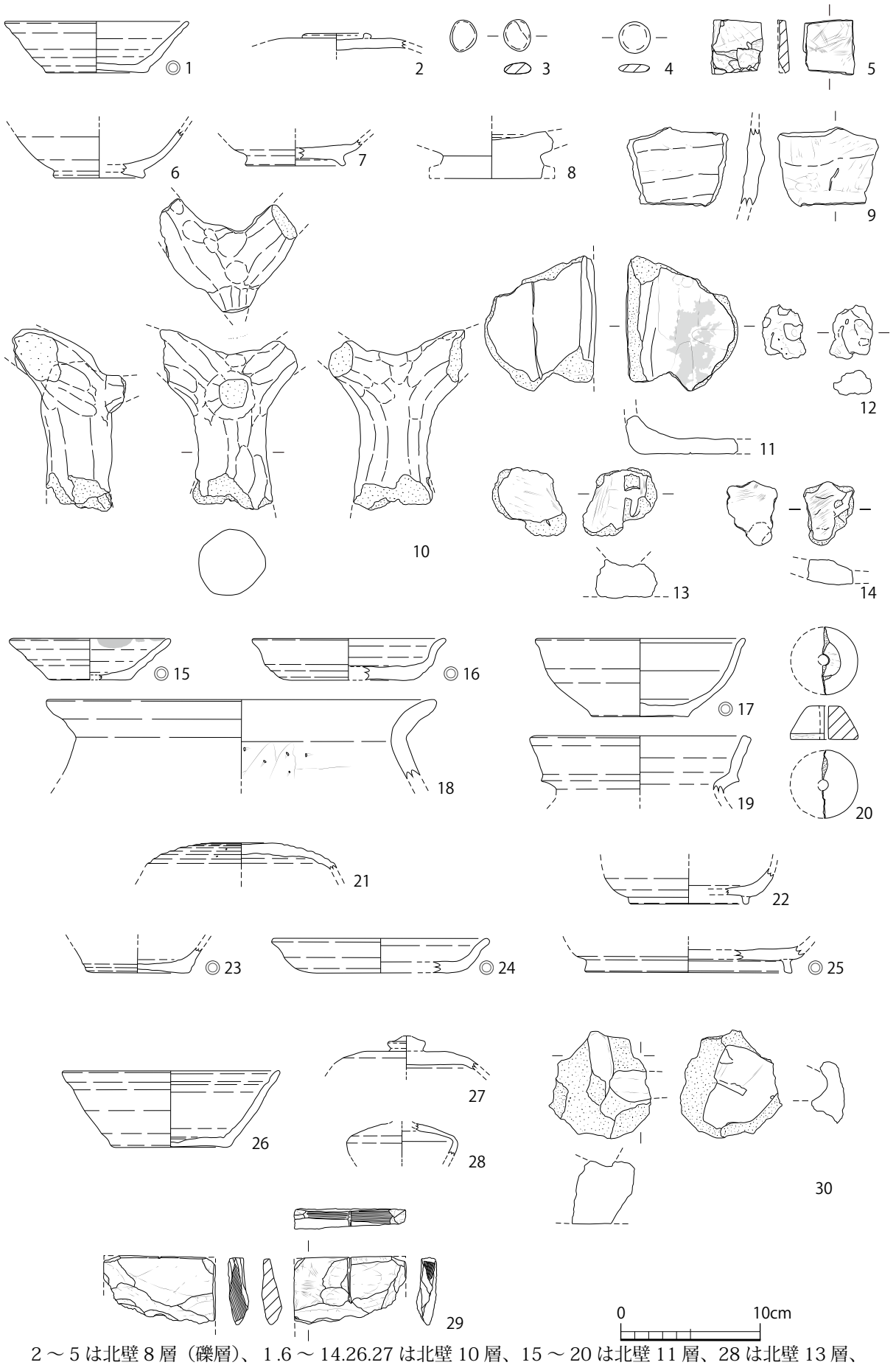
遺構は、ピット 44 基、溝 1 条、井戸 1 基を検出した。P1 ～ 7 は遺構埋土が灰色系であることから 9 世紀前葉以前の遺構と考えられる。P1 では柱痕を検出しており、使用された柱は直径 20 ㎝以上であったと考えられる。P1 ～ 3 は掘立柱建物か掘立柱塀の柱穴の可能性が考えられる。また、P1 の柱抜き取り埋土（16 層、17 層）の上に堆積する土層は炭化物を多く含んでおり、火災の後、その上を平坦に造成した可能性が考えられる。この他に 15 号井戸がある。

遺物は礫層からは須恵器が出土したほか、平玉や石帯が出土した。第 1 基盤層からは古墳時代前期から第 6 型式までの土器や、製塩土器、壁材、紡錘車、石帯の未成品などが出土した。



土層の説明は第 18 表に掲載

第 10 図　T57 実測図（S= 1 /80）

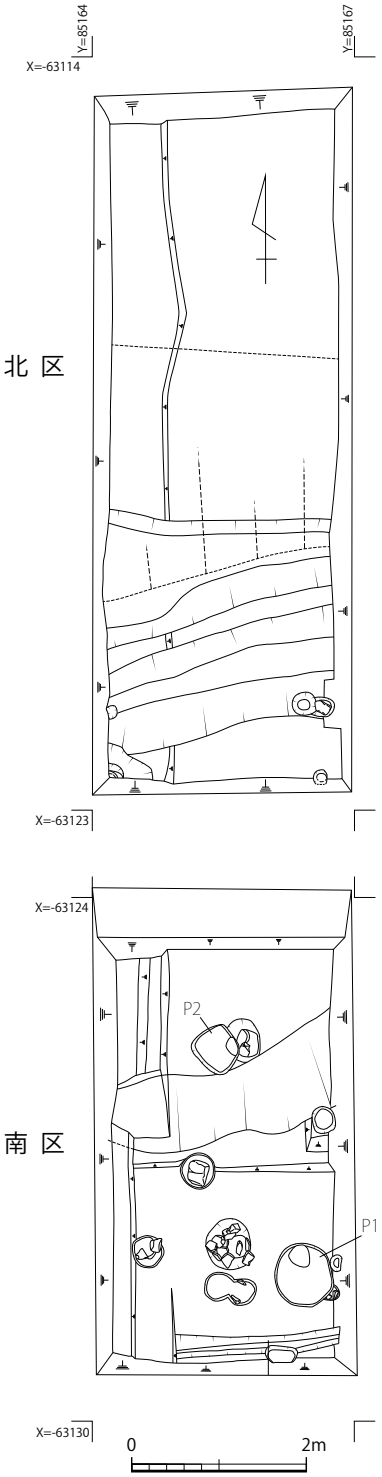


2 ～ 5 は北壁 8 層（礫層）、1 .6 ～ 14.26.27 は北壁 10 層、15 ～ 20 は北壁 11 層、28 は北壁 13 層、21 ～ 25.30 は北壁 18 層出土、29 は排土から採取

第 11 図　T57 出土遺物実測図（S= 1 /4）

３．T58（第 12 図）

T58 は政庁北辺部の確認を目的として、六所脇地区から宮の後地区のうち、SB020 の北東に位置する場所に設定したトレンチである。現在は史跡公園として整備されており、史跡公園整備前は耕作地（田圃）であった。六所脇地区と宮の後地区の境界には復元水路が設置されており、その箇所は発掘調査ができなかった。また、復元水路を挟んで六所脇地区に含まれる箇所を南区、宮の後地区に含まれる箇所を北区とした。



土層図は第 23 図に掲載

第 12 図　T58 実測図（S= 1 /80）

T58 南区（第 13 図）

南区は幅 3m、長さ 5.6m のトレンチで、面積は 16.8㎡である。発掘作業は第３遺構面まで行い、西側のサブトレンチのみ第３基盤層を掘削した。

地表から史跡公園造成土（1 層～ 9 層）、旧耕作土（10 層）、礫層（11 層）、第２基盤層（33 層）、第３基盤層（34 層、35 層、36 層）の順で堆積する。旧耕作土は史跡公園整備前にあった田圃の耕作土である。礫層は 13 世紀代の洪水による堆積層である。

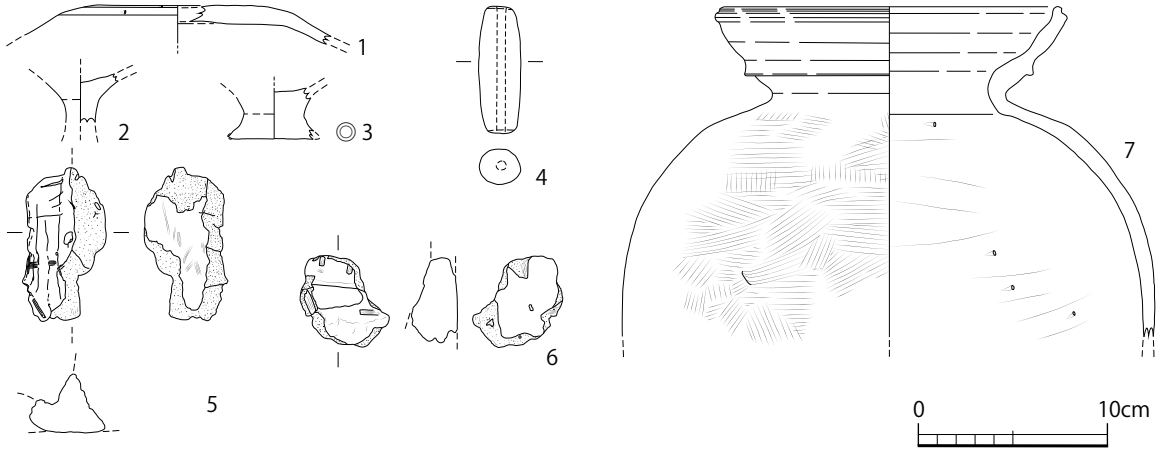
遺構はピット 10 基、溝３条を検出した。P1 は遺構埋土が灰色系であることから９世紀前葉以前の遺構と考えられる。P2 は 80 号溝に先行する遺構で、８世紀第２四半期以前の遺構である。主な遺構には 68 号土坑、80 号溝がある。

遺物は礫層から柱状高台（13-2.3）が出土し、第２基盤層上面や P1 から壁材（13-5.6）が出土した。また、第３基盤層からは古墳時代中期の甕（13-7）が出土した。

T58 北区（第 14 図）

T58 北区は幅 3m、長さ 8m、面積 24㎡のトレンチである。現在は史跡公園として整備されており、史跡公園整備前は耕作地（田圃）であった。発掘作業は第２遺構面まで行い、西側のサブトレンチのみ第２基盤層と第３基盤層を掘削した。

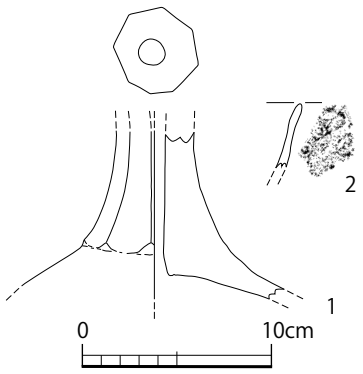
地表から史跡公園造成土（1 層、2 層）、旧耕作土（3 層）、礫層（4 層）、1 号池状施設埋め立て土（7 層、8 層）、1 号池状施設堆積土（9 層、10 層）第３基盤層（20 層、21 層）の順で堆



1 ～ 3 は 10 層、4 は 11 層（礫層）、5. 6 は 33 層上面、7 は 36 層出土

第 13 図　T58 南区出土遺物実測図（S= 1 /4）

積する。旧耕作土は史跡公園整備前にあった田圃の耕作土である。礫層は 13 世紀の洪水による堆積層である。1 号池状施設の埋め立て土である 7 層（黒色土）からは第 8 ～ 10 型式の遺物が大量に出土した。底部を集計し、個体数を算定したところ約 1000 点を数えた。大半は土師器の坏や皿であった。1 号池状施設堆積土は水性の自然堆積層と考えられ、第 6 ～ 10 型式の土師器と第 3 ～ 7 型式の須恵器が出土した。第 3 基盤層は、粘土と砂層で、意宇川の旧河道と考えられる。遺物は確認できなかった。



第 14 図　T58 北区出土遺物実測図（S= 1 /4）

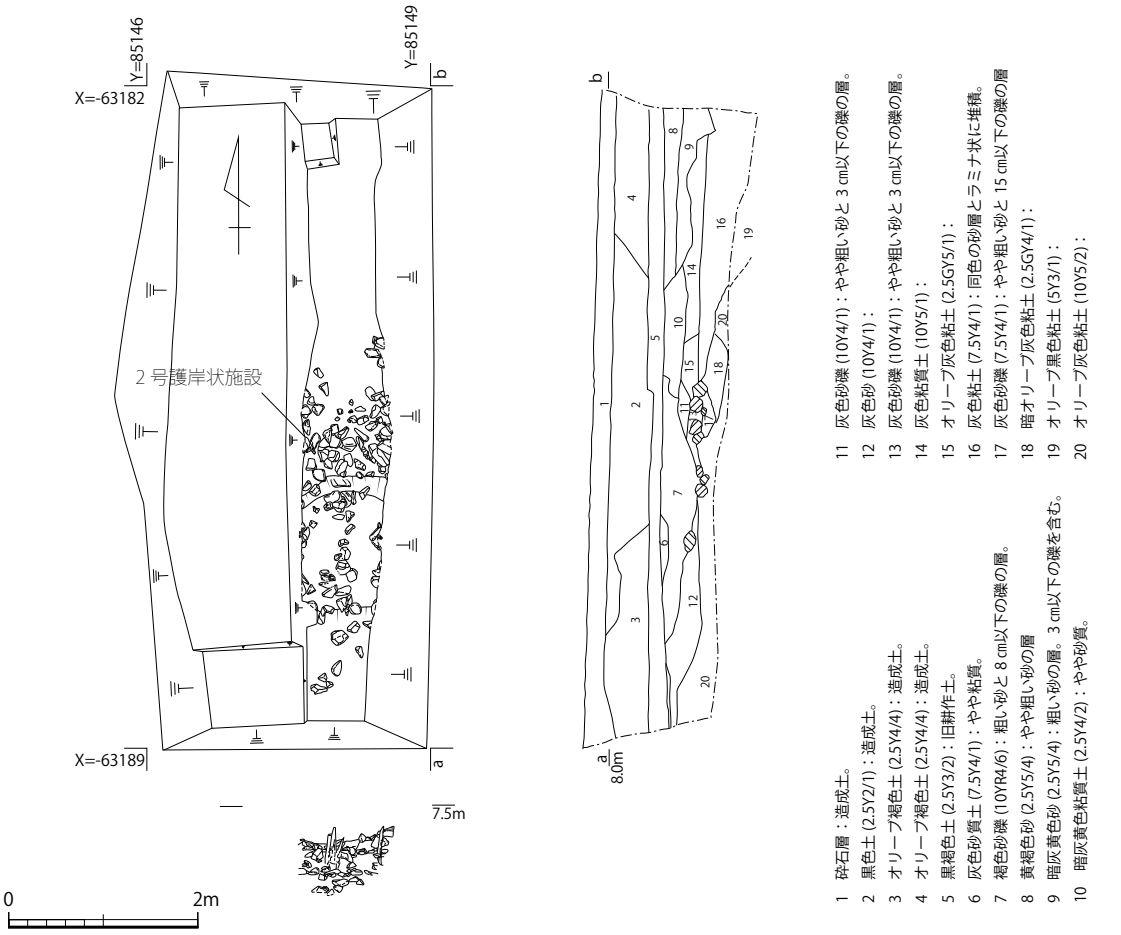
遺構はピット 6 基、溝 3 条、1 号池状施設 1 か所を検出した。このうち、1 号池状施設と溝 2 条（82 号溝、83 号溝）は 9 世紀前葉以前の遺構と考えられ、その他は 9 世紀中葉から 13 世紀までの遺構と考えられる。

４．T61（第 15 図、第 16 図）

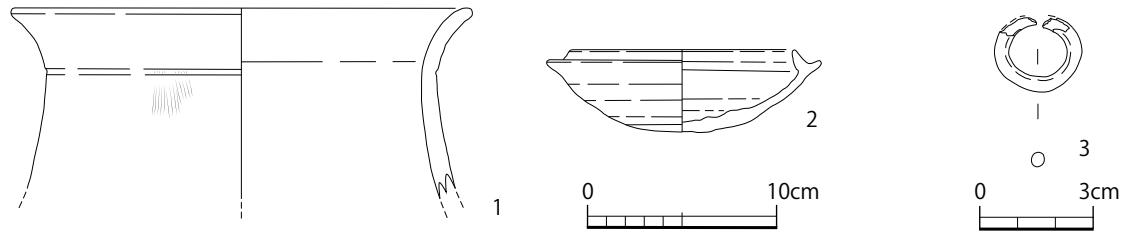
政庁の南側を区画する南門と築地塀の検出を目的として、六所脇地区の南側で SB020 の南側に位置する場所に設定した、幅 3m、長さ 7m、面積 21㎡のトレンチである。調査前は資材置き場であった。発掘作業は第 3 基盤層上面まで行い、東側のサブトレンチのみ第 3 基盤層を掘削した。

地表から資材置き場の造成土（1 層～ 4 層）、資材置き場造成前の耕作土（5 層）、意宇川による堆積層（6 層～ 17 層）、第 3 基盤層（20 層）の順で堆積する。意宇川の堆積土は、砂層（6 層、8 層、9 層、12 層）、粘土層（10 層、14 層～ 17 層）、砂礫層（7 層、11 層、13 層、17 層）からなる。7 層からは古墳時代～近世の遺物が出土し、16 層からは弥生時代前期の壺（16-1）や、7 世紀後半の須恵器（16-2）や耳環（16-3）などが出土した。

遺構は 15 世紀中葉～ 16 世紀前半の 2 号護岸状施設を検出した。それ以前の遺構や遺物包含層は意宇川により削平されており、出雲国府跡に関連する遺構は確認できなかった。



第 15 図　T61 実測図（S= 1 /80）



第 16 図　T61 出土遺物実測図（1･2 は S=1/4、3 は S=1/2）

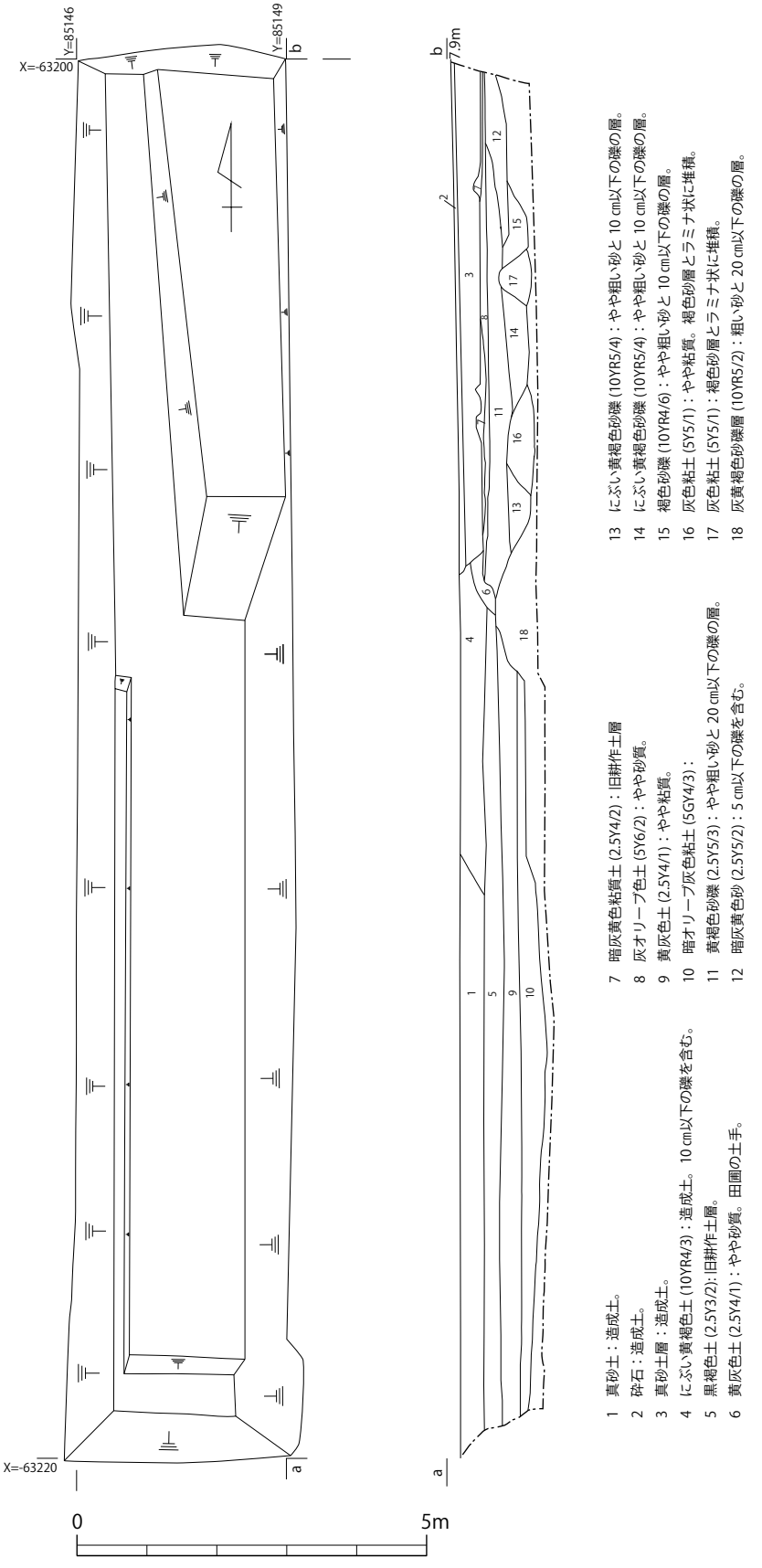
５．T62（第 17 図）

政庁の南側を区画する築地塀の確認を目的として、六所脇地区の南側で SB020 の南東に設定した幅 3 m、長さ 20m、面積 60㎡のトレンチである。調査前は駐車場であった。発掘作業は 11 層まで掘削し、西側のサブトレンチのみ 12 層～ 18 層を掘削した。

地表から駐車場の造成土（1 層～ 4 層）、駐車状造成前の耕作土（5 層、7 層）、意宇川による堆積層（8 層～ 18 層）の順で堆積する。

遺物は 9 層からは古墳時代～近世の遺物が出土し、10 層からは 9 世紀前葉以前の瓦が多く出土し、11 層からは 12 世紀代の遺物が出土した。

近世以降は意宇川の河床で、それ以前の遺構や遺物包含層は意宇川により削平されており、出雲国府跡に関連する遺構は確認できなかった。



第 17 図　T62 実測図（S= 1 /100）

６．T63（第 18 図、第 19 図、第 20 図）

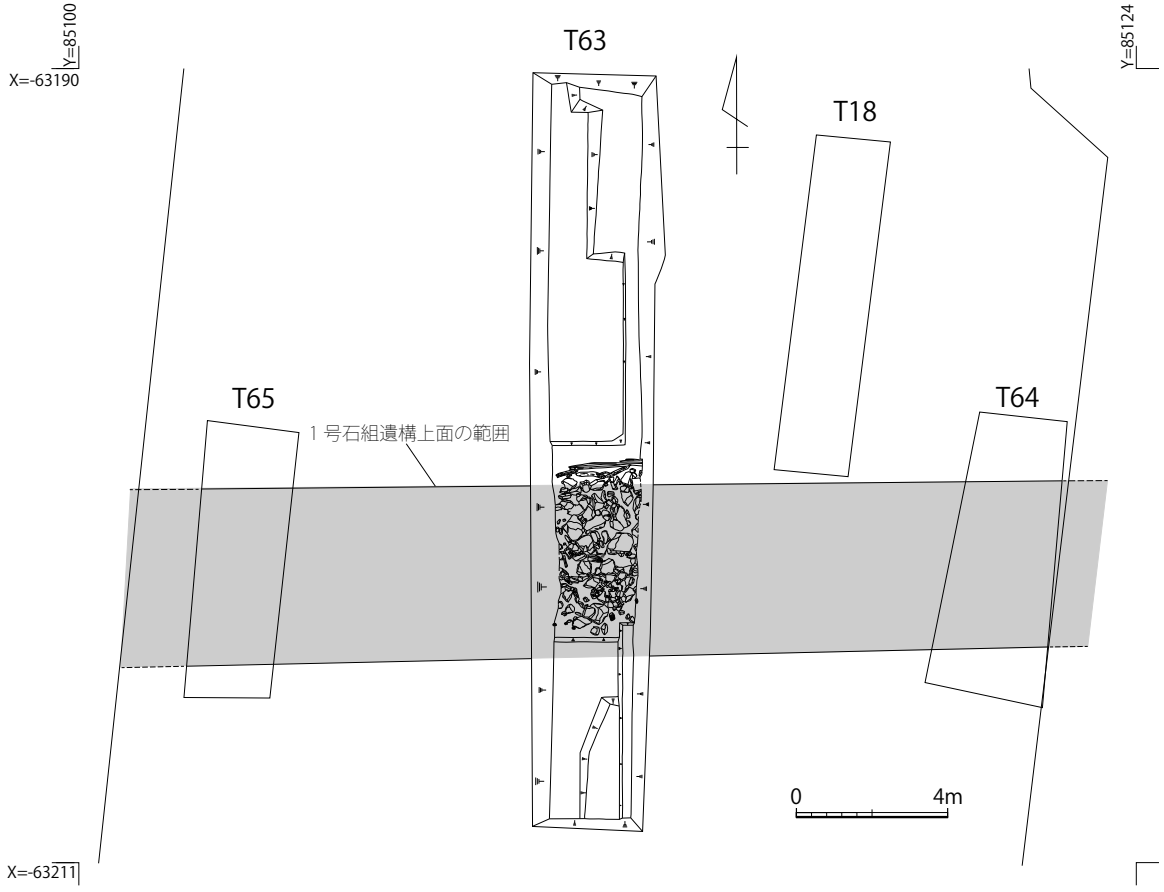
家屋移転候補地の遺構・遺物の有無の確認を目的として六所脇地区の南側の南西に設定した、幅 3 m、長さ 20m、面積 60㎡のトレンチである。現状は田圃で、同じ区画の東側には 2000（平成 12）年度に発掘調査した T18 が位置する。発掘作業は 9 層の上面まで掘削し、西側のサブトレンチのみ 9 層を掘削した。

地表から耕作土と田圃の床土（1 層、2 層）、意宇川による堆積層 1（3 層～ 8 層）、意宇川による堆積層 2（9 層、10 層）の順で堆積する。堆積層 1 は砂層と砂礫層からなり、堆積層 2 は粘土層からなる。堆積層 1 のうち、6 層と 7 層からは古墳時代～近世の土器が出土し、8 層からは古墳時代の須恵器の破片、11 世紀後葉～ 12 世紀の白磁（20-1）や、12 世紀後葉～ 13 世紀の青磁（20-2）、18 世紀代の陶器（20-3）が出土した。堆積層 2 からは遺物が出土しなかった。

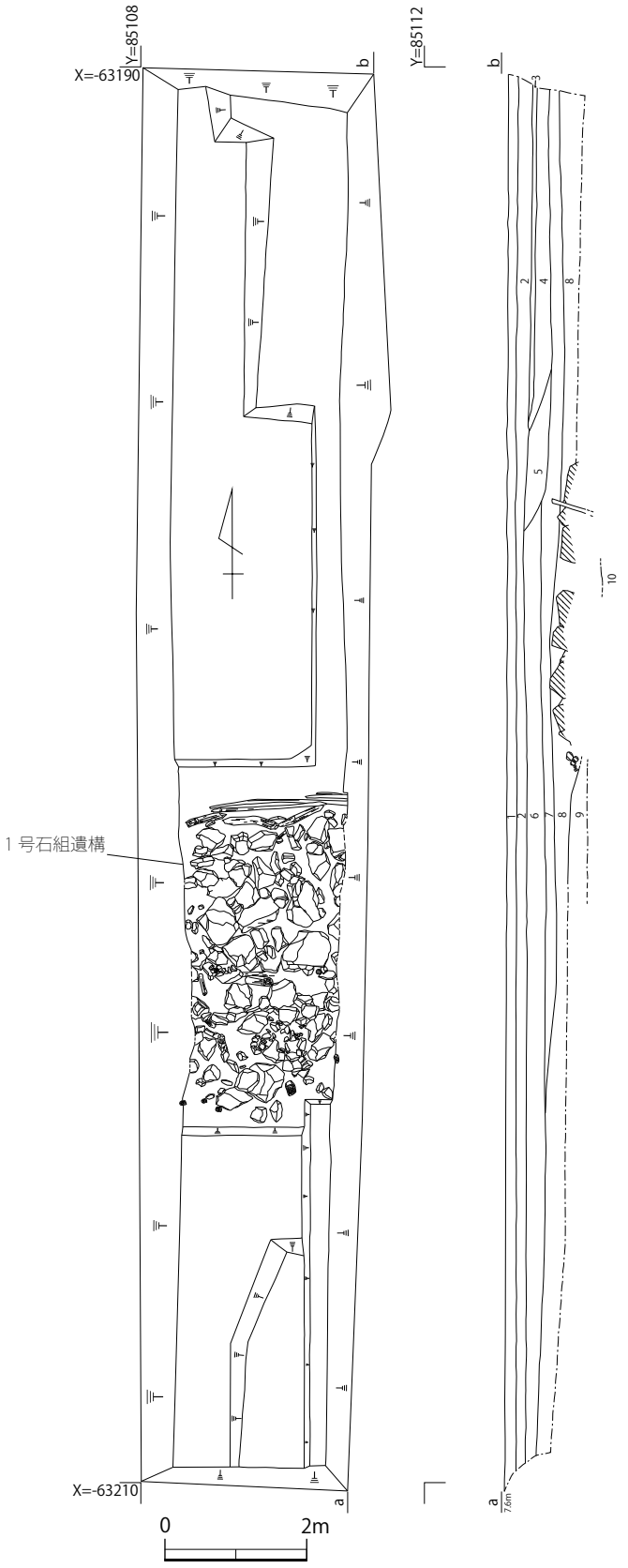
遺構は調査区の中程で東西に延びる 15 世紀中頃～ 1 7 世紀前半の 1 号石組遺構を検出した。1 号石組遺構は堆積層 2 の上面に構築されている。

７．T64・T65（第 18 図）

T64 と T65 は、1 号石組遺構の範囲確認を目的として、T63 と同じ区画の田圃に設置した。T64 は区画の東端に設置した、幅 2.7m、長さ 7.4m、面積約 20㎡のトレンチである。T65 は区画の西端に設置した、幅 2.4m、長さ 7.2m、面積約 17㎡のトレンチである。両トレンチとも発掘作業は T63 の埋め戻し作業に併せて、地表より 60㎝～ 70㎝の深さまでバックホーで行った。その結果、両トレンチで 1 号石組遺構の上面を検出した。遺物は確認できなかった。

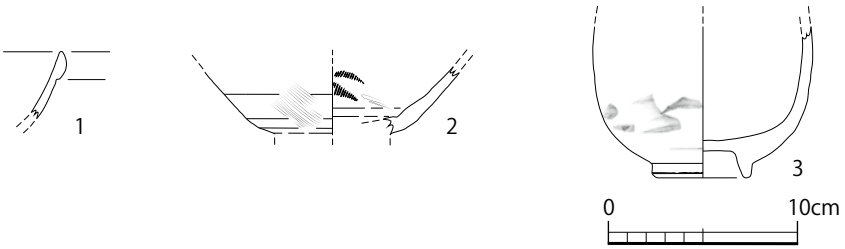


第 18 図　T63・T64・T65 配置図（S= 1 /200）



1　黒褐色土 (2.5Y3/1)：耕作土。
2　暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：やや砂質。田圃の床土。
3　黄褐色砂 (2.5Y5/3)：
4　暗灰黄色砂質土 (2.5Y4/2)：
5　褐色砂礫 (10YR4/4)：粗い砂と 20 mm以下の礫の層。
6　灰黄褐色砂 (10YR6/2)：粗い砂の層。ラミナ状に灰オリーブ色粘土 (5Y6/2) が堆積。
7　オリーブ灰色砂 (2.5GY5/1)：シルトに近い極細砂の層。
8　明褐色砂礫 (7.5YR5/6)：粗い砂と 15 mm以下の礫の層。
9　暗オリーブ灰色粘土 (5GY4/1)：
10　灰黄褐色粘土 (10YR6/2)：

第 19 図　T63 実測図（S= 1 /100）



第 20 図　T63 出土遺物実測図（S= 1 /4）

８．T66（第６図、第 21 図、第 22 図、第 24 図）

T66 は 2015（平成 27）年度調査の土層と第 1 期調査の土層との対応関係の確認、第 1 期調査の平面図の修正、SB020 周辺の遺構の確認を目的として、SB020 の東側から北東側にかけて設定した、面積 180㎡の調査区である。当初は幅 3m のトレンチを T56 の北端から SB020 に向かって延ばし、SB020 の東端で北に直角に曲がり T58 の南端に接するＬ字状のトレンチを設定していたが、指導委員会での指導を受け、SB020 の東側の状況を確認できるように拡張した。

T66 東区の堆積状況は六所脇地区南側の基本層序のとおりである。T66 北区の北側は六所脇地区北側と宮の後地区の基本層序となる。T66 東区では第 2 遺構面での遺構検出が上手くいかず、第３遺構面まで掘削して遺構検出を行った。T66 北側では第３遺構面を第２遺構面と誤認したため、第 3 遺構面まで掘削して遺構検出を行った。T66 西区は第 1 期調査で第 3 遺構面まで掘削されいていた。結果として、全調査区で第 3 遺構面まで掘削することとなった。

検出遺構は、第 1 遺構面では、ピット 164 基、溝 7 条、土坑 2 基、焼土面 6 か所と検出し、第 3 遺構面では竪穴建物跡 2 か所、ピット 351 基、溝 7 条、焼土面 1 か所を検出した。主な遺構には 7 号竪穴建物跡、8 号竪穴建物跡、SD054、88 号溝、89 号溝、SB019、26 号建物跡、27 号建物跡、28 号建物跡、33 号建物跡、34 号建物跡、67 号土坑、68 号土坑がある。

遺物は耕作土からは古墳時代から近世までの遺物が出土した。9 世紀中葉～ 11 世紀前葉の土師器が多く、大型高台付坏（25-5 ～ 8）など特異な遺物も出土した。T66 北区の礫層からは白磁の碗（25-9）が出土した。第 1 基盤層からは古墳時代～ 9 世紀中葉の遺物が出土し、第 2 基盤層からは古墳時代～第 1 型式の遺物が出土した。

９．T67（第６図、第 21 図、第 22 図、第 26 図）

T67 は出雲国庁の変遷を確認する目的で、SB020 周辺に設置した。調査区の面積は 170㎡である。当初は SB020 の未発掘箇所と 27 号建物跡の西側を予定していたが、指導委員会での指導を受け、SB020 の第 1 期調査での調査個所の再発掘も併せて実施した。

T67 中央区の堆積状況は六所脇地区南側の基本層序のとおりである。T67 北区の北側は六所脇地区北側と宮の後地区の基本層序となる。T67 中央区と北区では第 2 遺構面まで掘削した。T67 南区は第 1 期調査で第 3 遺構面まで掘削されいていた。

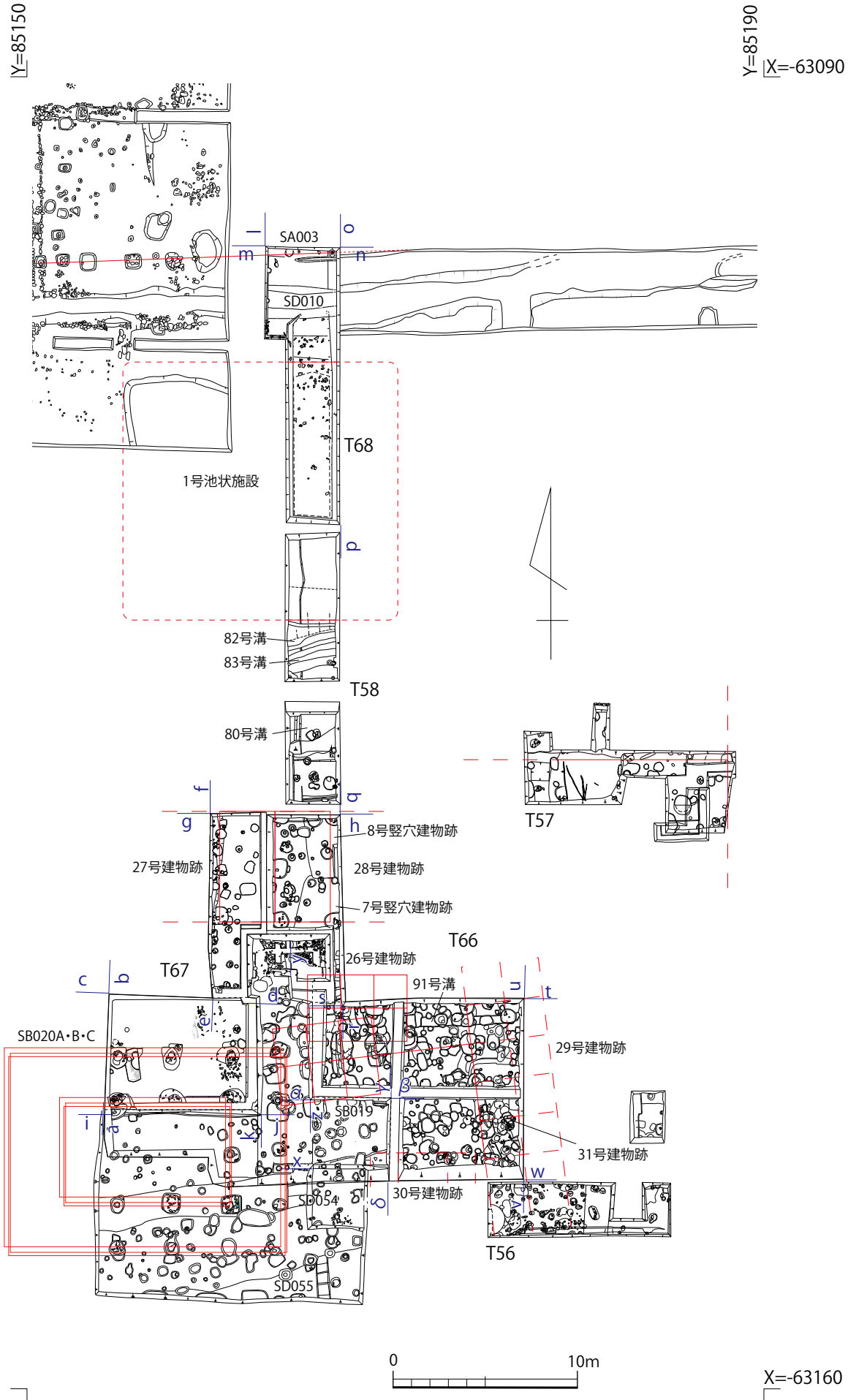
検出遺構は、第 1 遺構面では、ピット 83 基、溝 3 条、土坑 2 基、焼土面 2 か所と検出し、第 2 遺構面ではピット 82 基、溝 1 条、土坑 1 基を検出した。主な遺構には SB020、28 号建物跡、32 号建物跡がある。

遺物は第 1 基盤層からは第 1 型式の須恵器、第 9 ～ 10 型式の土師器、石製紡錘車、鉄滓が出土した。第 2 基盤層からは古墳時代の須恵器や鉄滓が出土した。

１０．T68（第６図、第 21 図、第 23 図、第 27 図）

宮の後地区での土地利用の変遷を確認する目的で、T58 の北側に設置した。調査区の面積は 50㎡である。堆積状況は宮の後地区の基本層序のとおりである。掘削は第 2 遺構面まで行った。T58 で確認した黒色土が中ほどまで広がる。

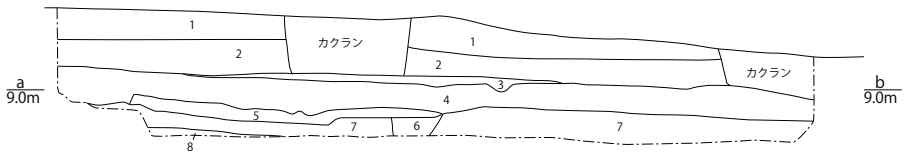
主な検出遺構には T58 から続く 1 号池状施設、第 1 期調査で検出されていた SA003 のピットや SD010 がある。



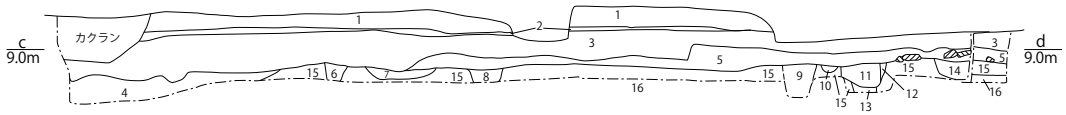
第２遺構面と第３遺構面に伴う遺構のみ記載

第 21 図　T66・67・68 実測図（S= 1 /300）

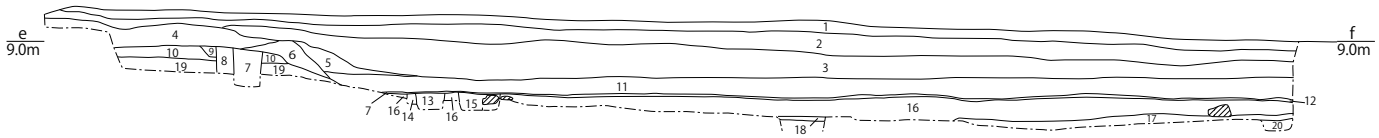
T67 中央区西壁セクション



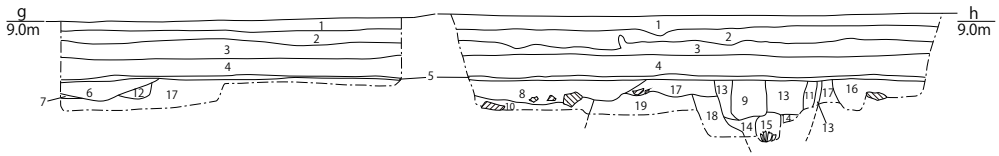
T67 中央区北壁セクション



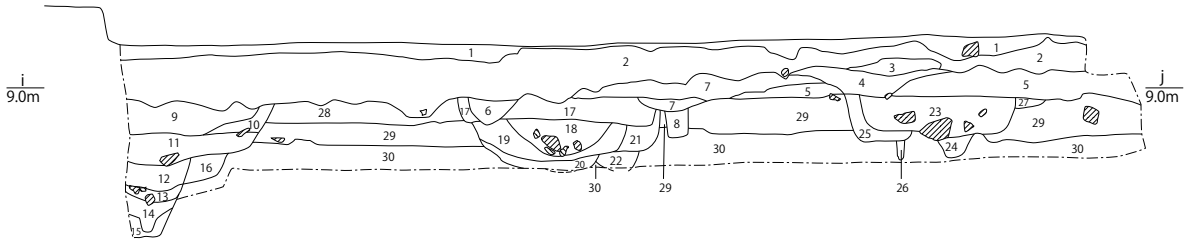
T67 北区西壁セクション



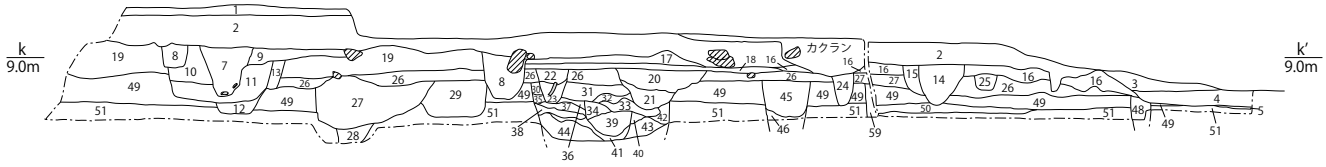
T66・T67 北区北壁セクション



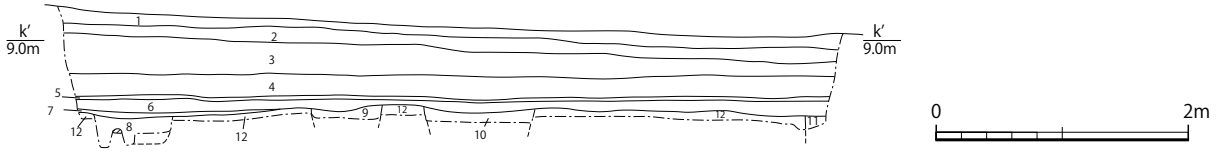
T67 南区北壁セクション



T66 西区西壁セクション



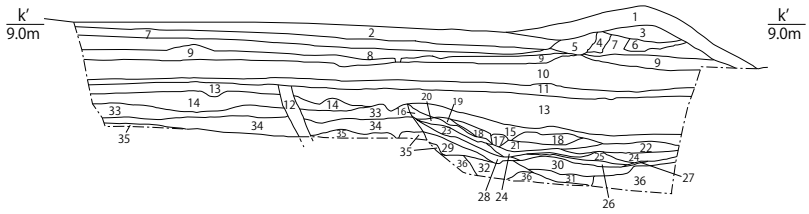
T66 北区西壁セクション



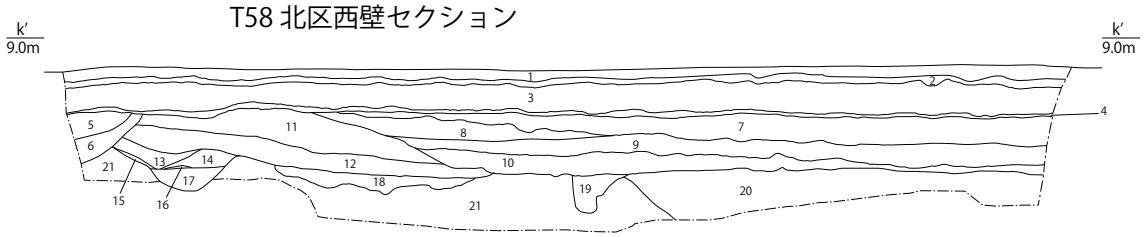
土層の説明は第 18 表に掲載

第 22 図　T66・T67 土層図（S= 1 /60）

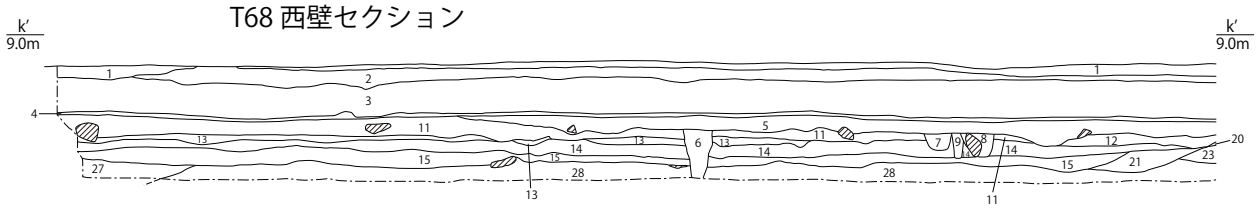
T58 南区西壁セクション

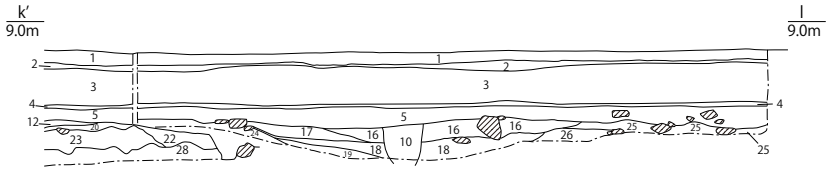


T58 北区西壁セクション

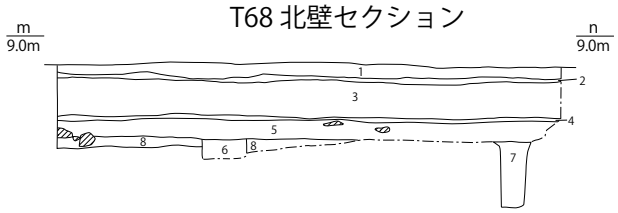


T68 西壁セクション

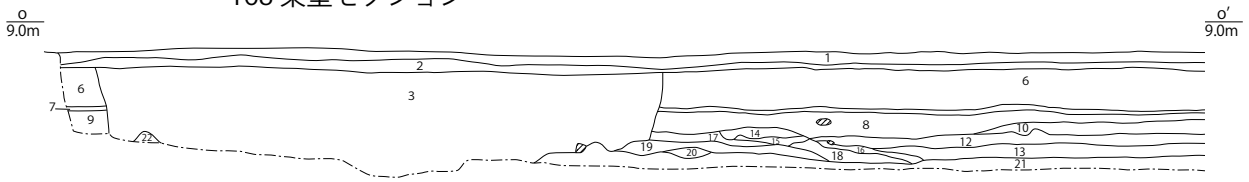


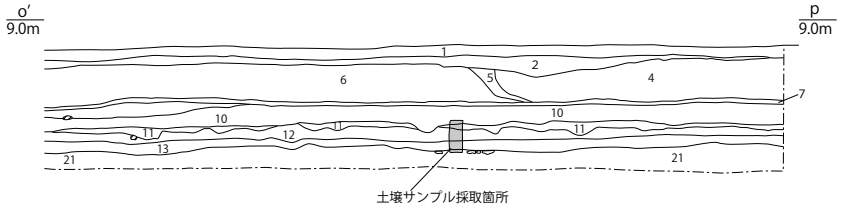


T68 北壁セクション



T68 東壁セクション

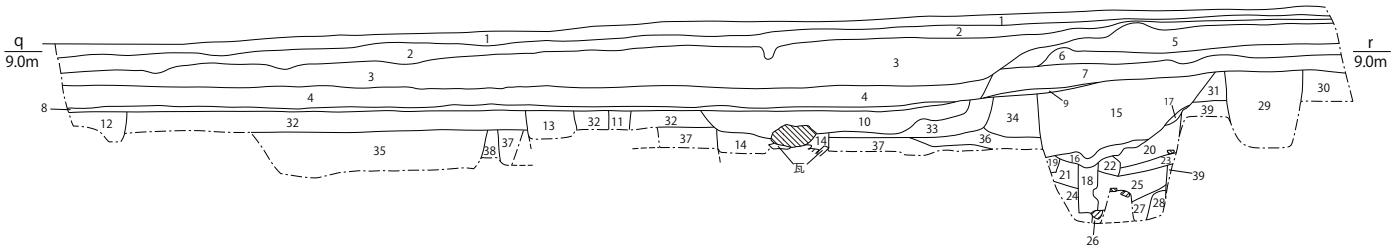




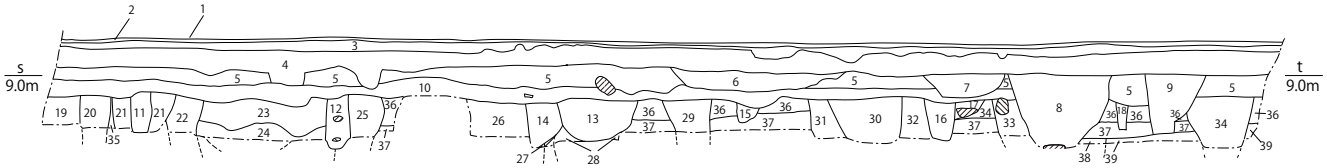
土層の説明は第 18 表に掲載

第 23 図　T58・T68 土層図（S= 1 /60）

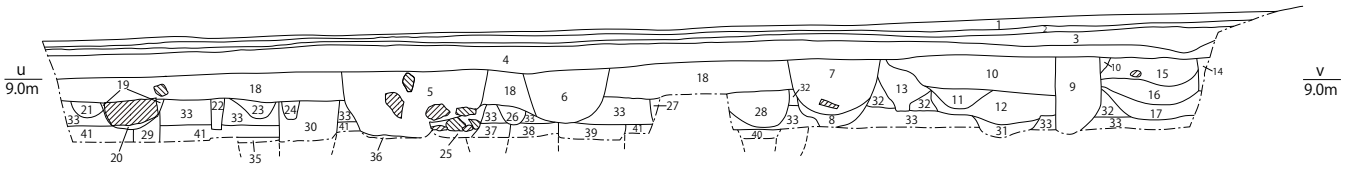
T66 北区東壁セクション



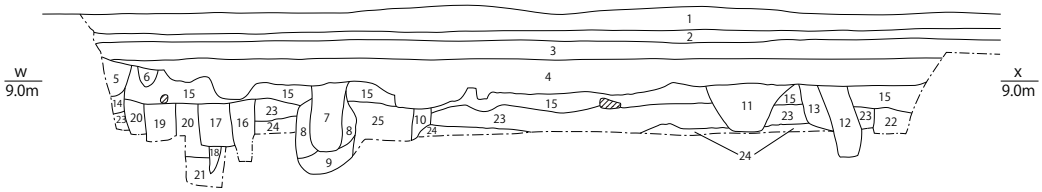
T66 東区北壁セクション



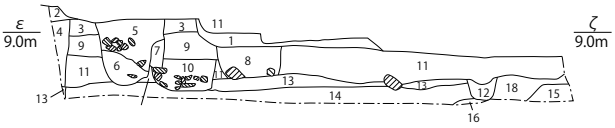
T66 東区東壁セクション



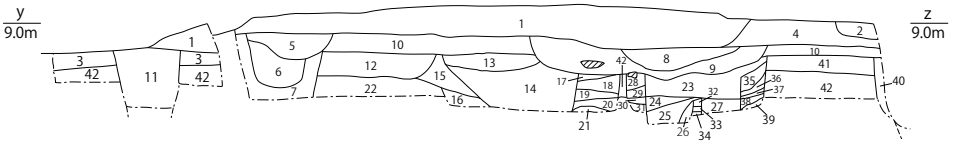
T66 東区南壁セクション



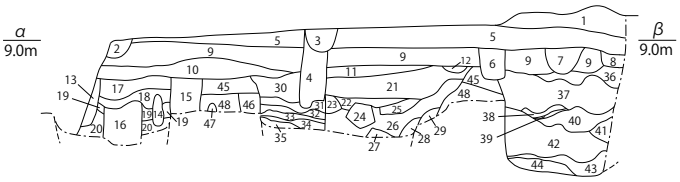
T66 西区南壁セクション



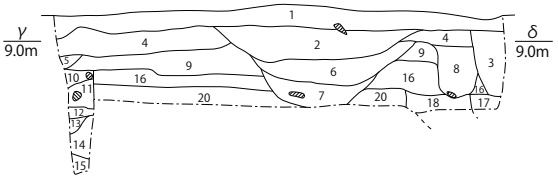
T66 西区東壁セクション①



T66 西区北壁セクション

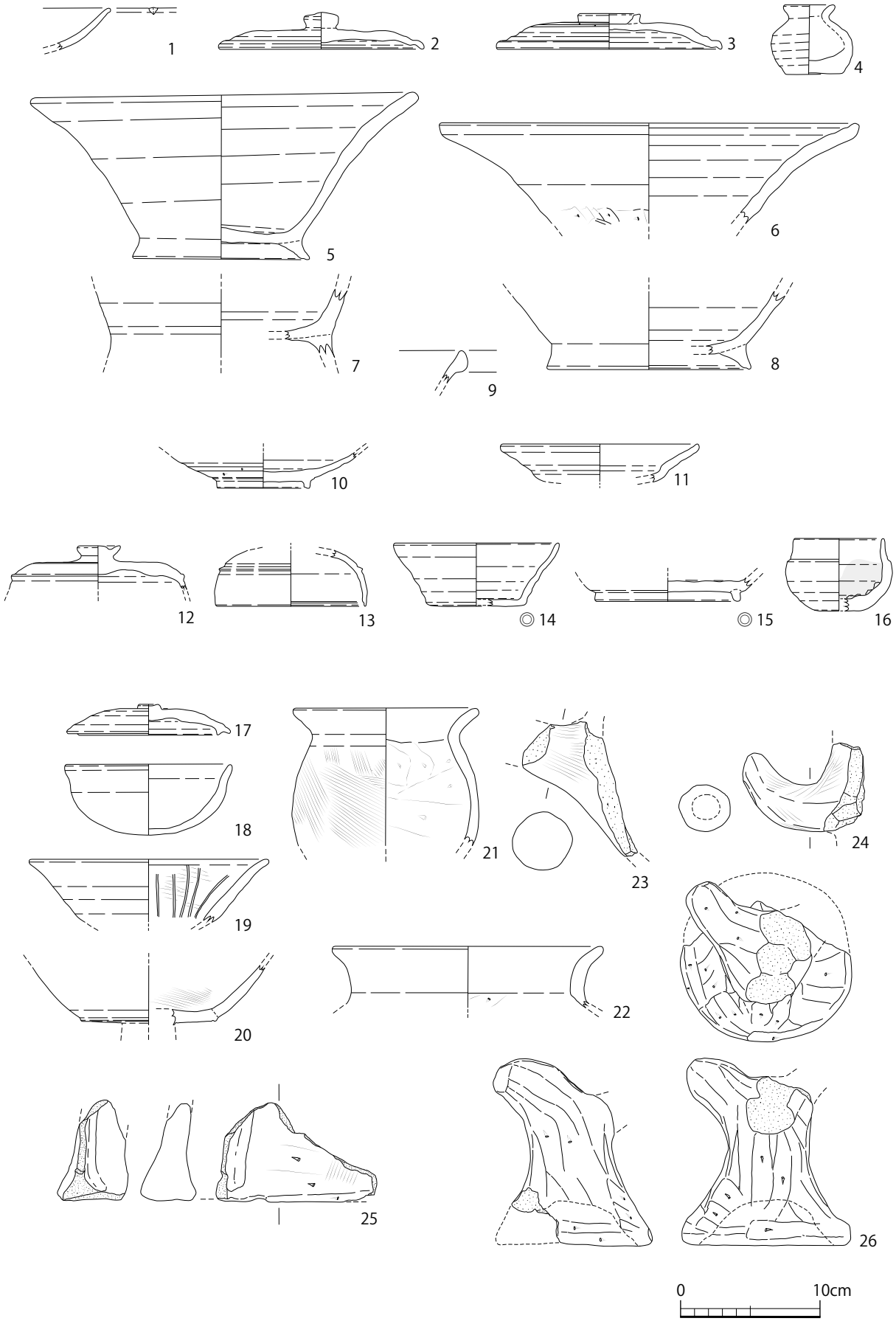


T66 西区東壁セクション②



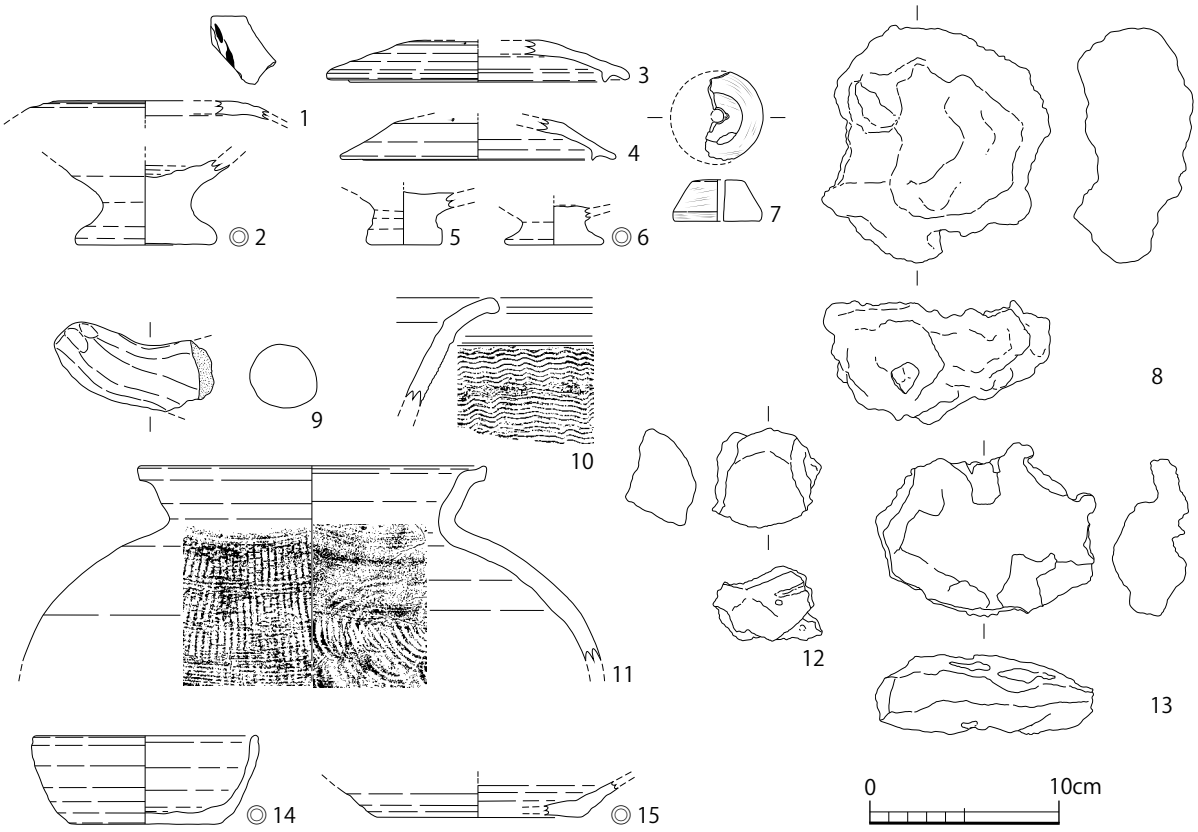
土層の説明は第 18 表に掲載

第 24 図　T66 土層図（S= 1 /60）



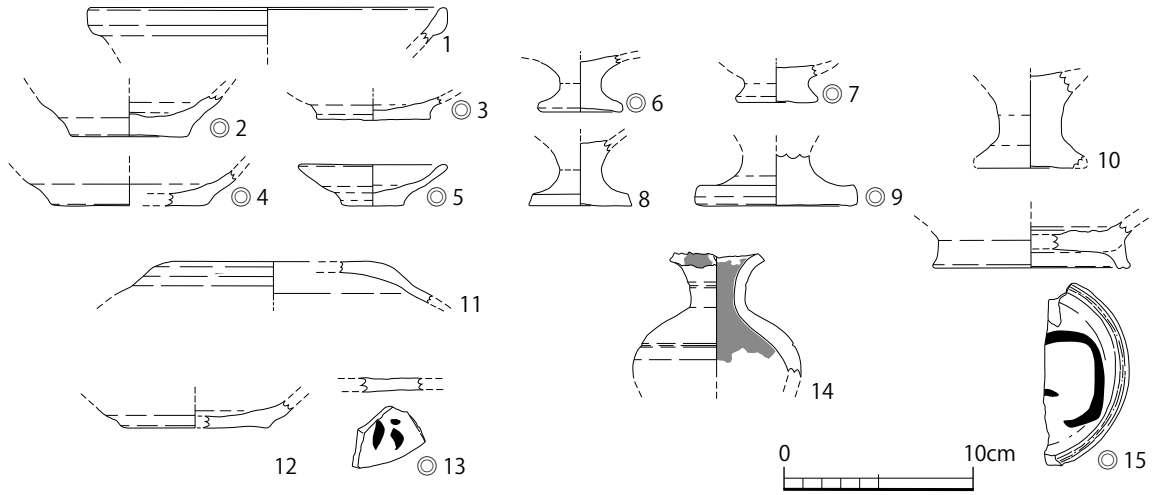
1 ～ 8 は東区東壁 4 層（耕作土）、9 は北区東壁 8 層（礫層）、10 ～ 12 は東区東壁 18 層上面（第 1 遺構面）、13 ～ 17 は東区東壁 18 層（第 1 基盤層）、18 ～ 26 は東区東壁 33 層（第 2 基盤層）出土

第 25 図　T66 出土遺物実測図（S= 1 /4）



1 は南区北壁 2 層（耕作土）、2 は北区西 12 層（礫層）、3 ～ 8.13 は南区北壁 5 層（第 1 基盤層）、
9 ～ 12 は南区北壁 29 層（第 2 基盤層）、14 は 10 号柵列 P4 から出土

第 26 図　T67 出土遺物実測図（S= 1 /4）



1 ～ 10 は西壁 4 層（礫層）、11 ～ 13 は西壁 24 層上面、14 は SA003Pit01、
15 は第 1 期調査埋め戻し土出土

第 27 図　T68 出土遺物実測図（S= 1 /4）

第 4 節　第 3 遺構面に伴う遺構と遺物

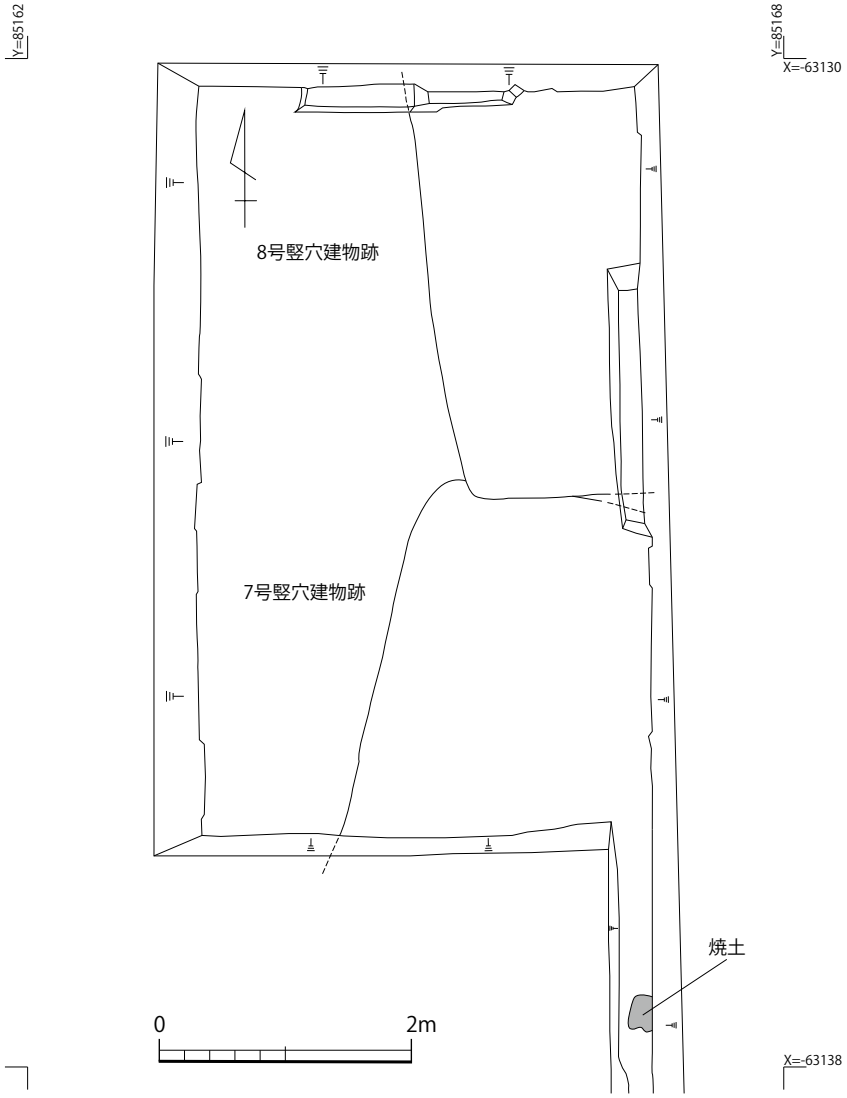
第 3 遺構面には古墳時代の遺構が伴う。今回の調査では竪穴建物跡 2 棟と溝 2 条を検出した。

7 号竪穴建物跡（第 28 図、第 29 図）

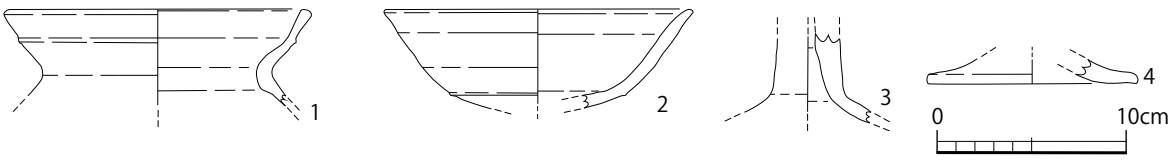
T66 北区で検出した隅丸方形の竪穴建物跡で、一辺 2.9 m以上である。北側の壁はサブトレンチで確認したが、南側は 26 号建物跡の柱穴が重複し確認できなかった。第 3 遺構面から 0.3m 掘り込んでいる。南側の焼土は 7 号竪穴建物跡に伴う可能性がある。8 号竪穴建物跡と重複し、7 号竪穴建物跡が先行する。出雲 1 期併行の土師器が出土しており、6 世紀前葉の遺構と考えられる。

8 号竪穴建物跡（第 28 図、第 29 図）

T66 北区で検出した隅丸方形の竪穴建物跡で、一辺 3.3m 以上である。サブトレンチで壁を確認した。第 3 遺構面から 0.3m 掘り込んでいる。古墳時代中期の土師器が出土している。



第 28 図　7 号竪穴建物跡・8 号竪穴建物跡実測図（S= 1 /60）

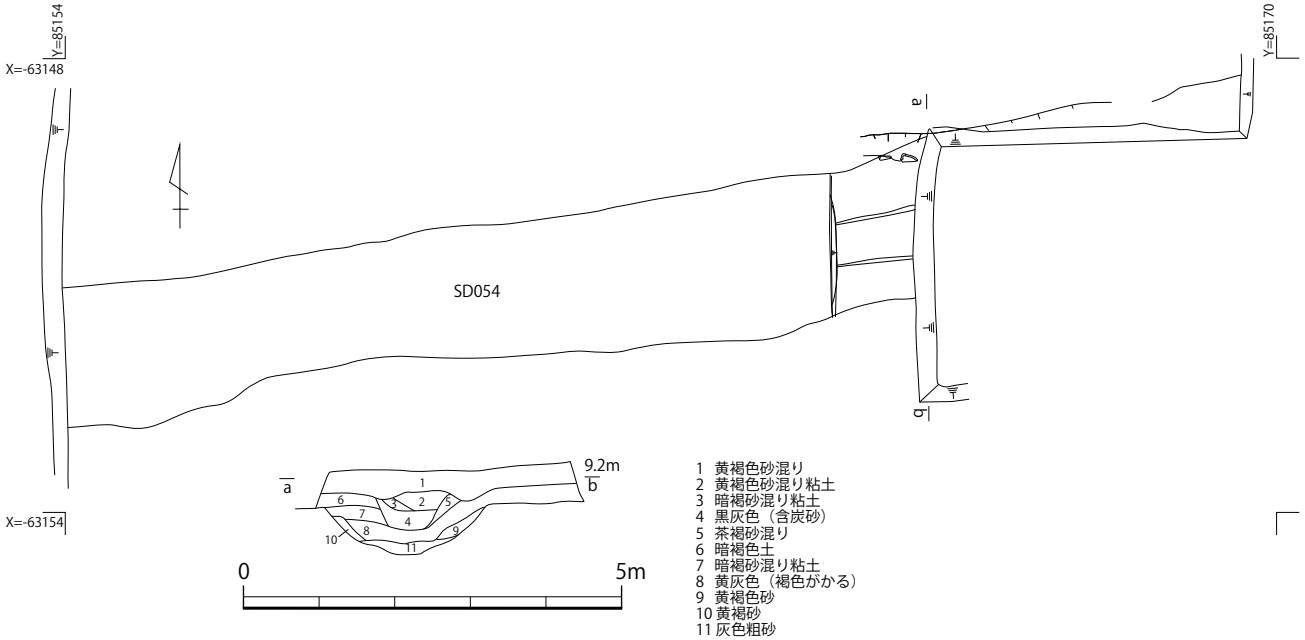


1 は 7 号竪穴建物跡、2 ～ 4 は 8 号竪穴建物跡出土

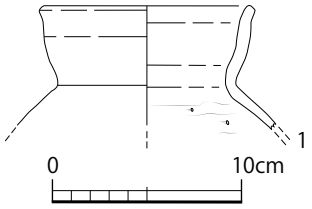
第 29 図　7 号竪穴建物跡・8 号竪穴建物跡出土遺物実測図（S= 1 /4）

SD054（第 30 図、第 31 図）

T66 西区の南端で検出した溝である。第 1 期調査で確認されており、主軸は西に傾く。幅は 2.8m 以上で、深さ 0.6 ～ 0.7 mを測り、断面は逆台形状を呈する。古墳時代前期末葉から中期前葉とされる遺構で、今回の調査では東側の続きを検出し、北側の上端を確認した。T66 東区では続きを検出できなかった。松山Ⅱ期（新）の土師器の直口壺が出土した。



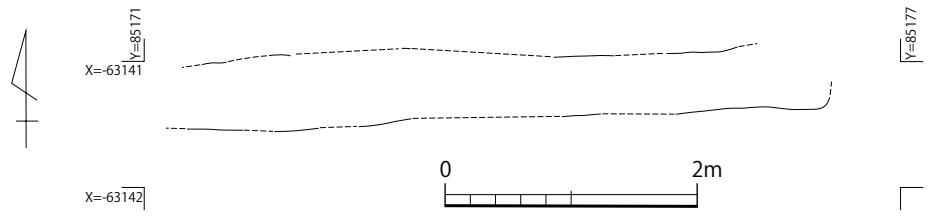
第 30 図　SD054 実測図（S= 1 /100）



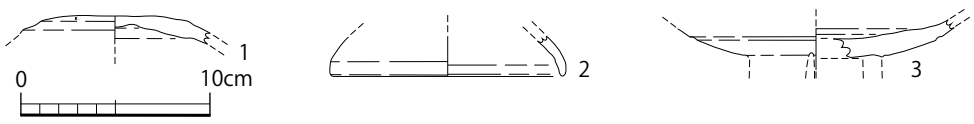
第 31 図　SD054 出土遺物実測図（S= 1 /4）

91 号溝（第 32 図、第 33 図）

T66 東区北側で検出した東西に延びる溝で、主軸は正方位を向き、幅は 0.4 ～ 0.6m で、長さは 5.1m 以上である。34 号建物跡の柱掘方と重複し、91 号溝が先行する。出雲 5 期の須恵器が出土したことから、 7 世紀前葉の遺構と考えられる。



第 32 図　91 号溝実測図（S= 1 /60）



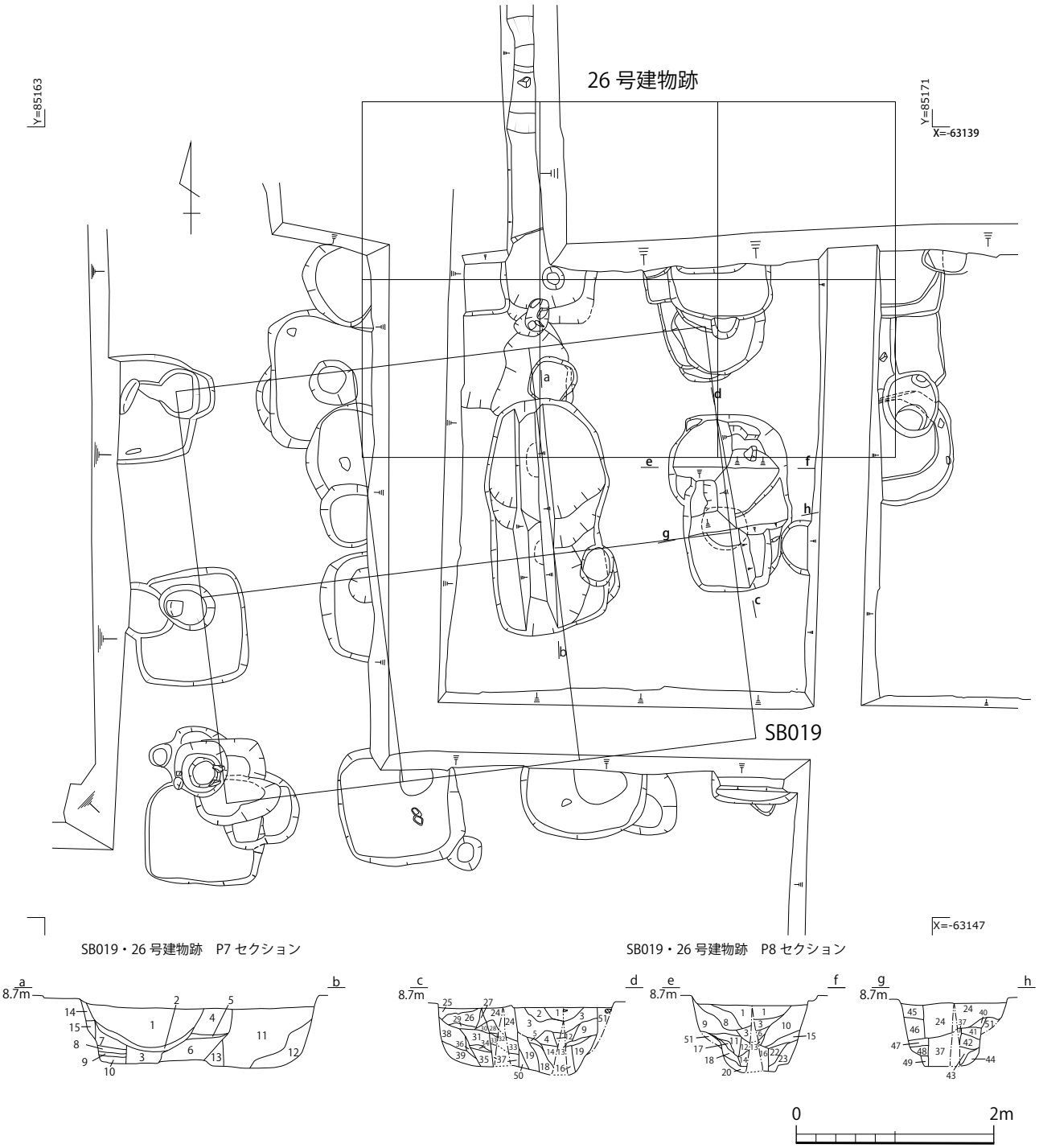
第 33 図　91 号溝出土遺物実測図（S= 1 /4）

第 5 節　第 2 遺構面に伴う遺構と遺物

第 2 遺構面では建物跡 8 棟、溝 6 条、柵列跡 2 列、池状施設 1 箇所、土坑 2 基を検出した。第 2 遺構面には概ね 7 世紀後葉～ 9 世紀前葉までの遺構が伴うが、T58 南区、T66 北区、T67 北区では、第 1 基盤層がないため、9 世紀中葉以降の遺構も第 2 遺構面で検出した。

SB019（第 34 図、第 35 図、第 36 図）

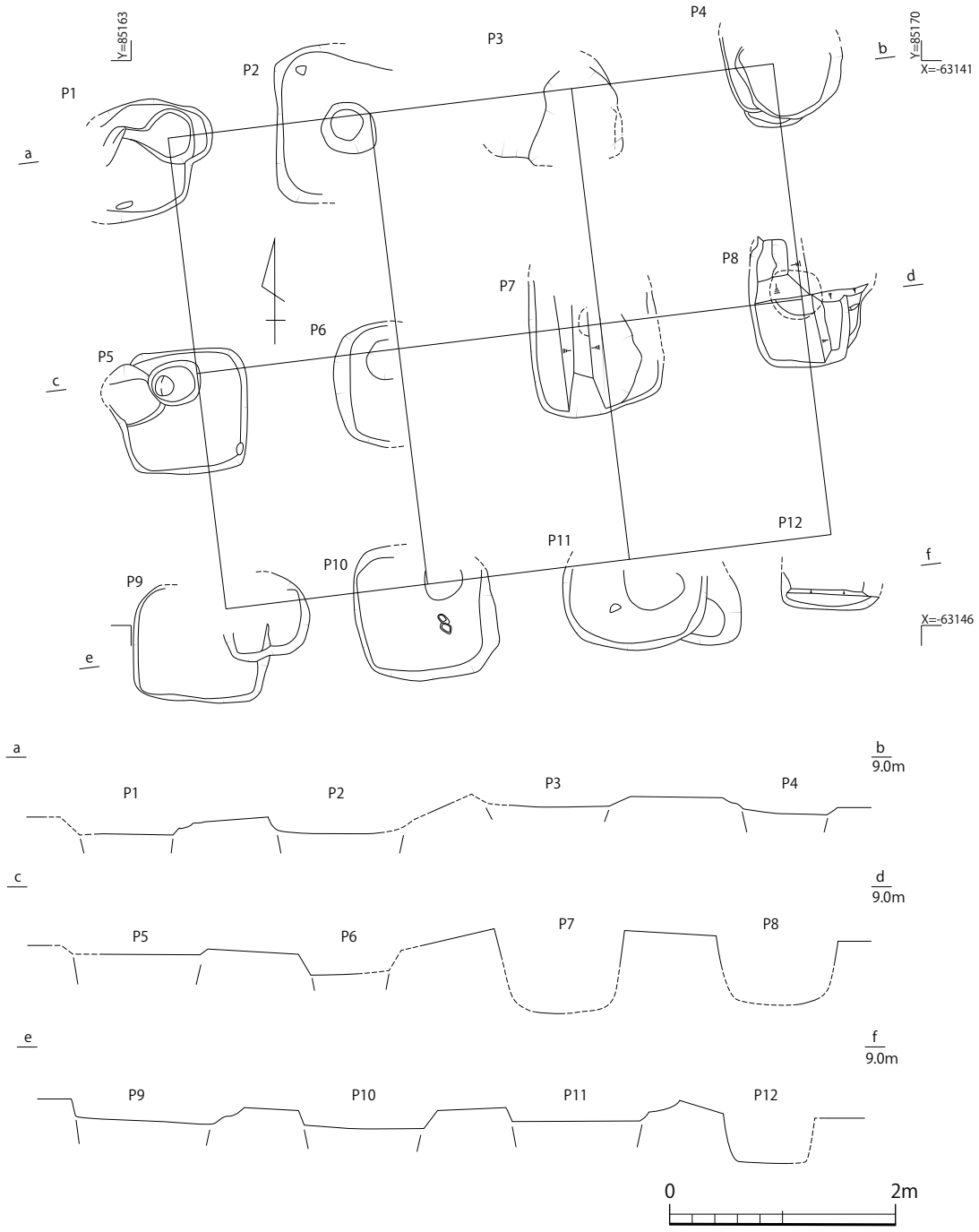
T66 東区と西区で検出した、桁行 3 間×梁行 2 間の総柱の掘立柱建物跡である。第 1 期調査で南西側が検出されていた。主軸は西へ傾く。規模は 5.4m × 4.2m、柱間は桁行 1.8m（6 尺）、梁行 2.1m（7 尺）である。P7、P8、P10、P11 で柱痕跡や柱の当たりを検出し、『総括報告書』で想定され



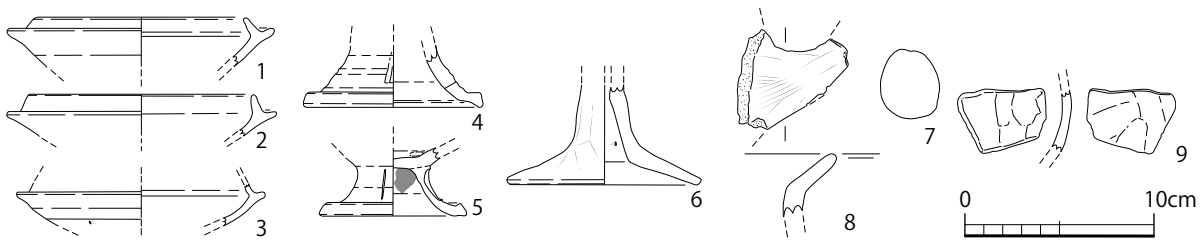
土層の説明は第 18 表に掲載

第 34 図　SB019・26 号建物跡実測図（S=1/60）

た梁行の柱間を修正した。柱掘方は 1 辺 1m 前後で、第 2 遺構面から深さ 0.7 ～ 0.8m 掘られ、掘方の底面は標高 8.0m 前後となる。SB020 や 26 号建物跡と重複する。先後関係はいずれも SB019 が先行する。26 号建物跡との重複関係等を確認するため、P7 は中心をトレンチ掘削し、P8 は 2 か所 1/4 截した。また P12 は柱掘方の状況確認のため検出部分を底面まで掘削した。遺物は柱掘方から出雲 4 期や 5 期の須恵器の坏身や、出雲 6b.c 期の須恵器が出土した。また P11 から採取し



第 35 図　SB019 実測図（S= 1 /60）



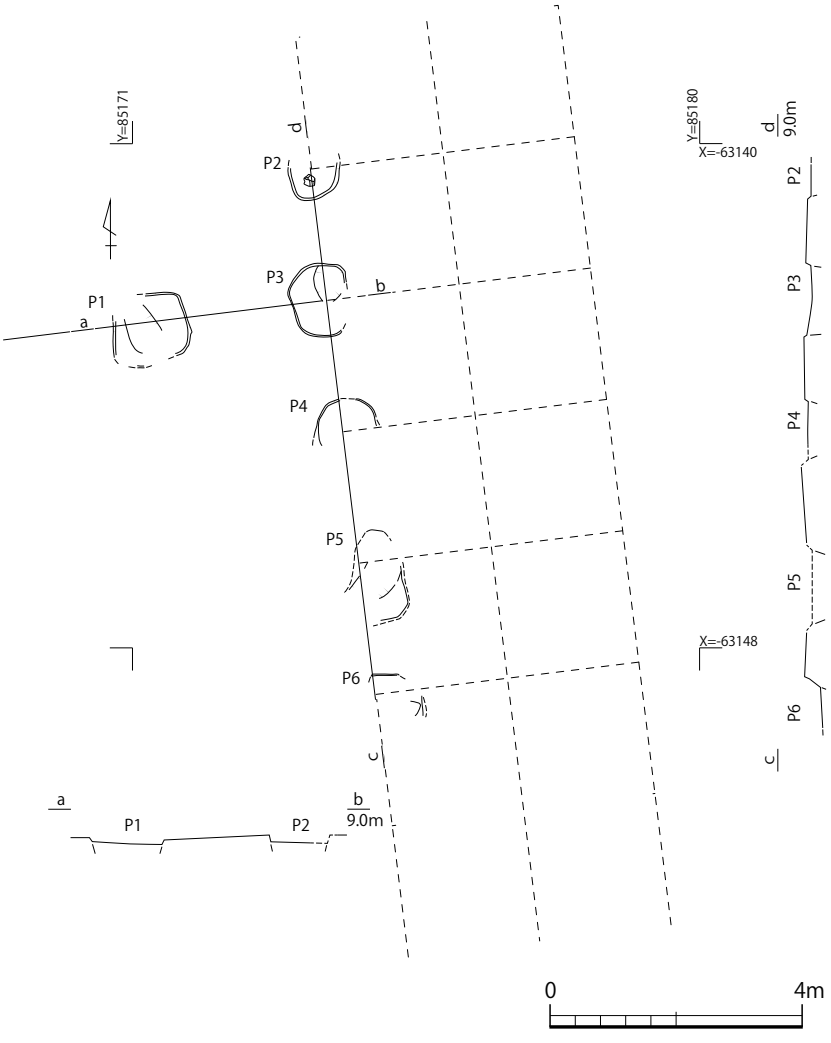
第 36 図　SB019 出土遺物実測図（S= 1 /4）

た炭化物は年代測定で 346 ～ 425 年の年代値を示した。これらの遺物は柱掘を埋め戻す際に第 2 基盤層や第 3 基盤層の遺物が混入したものと考えられる。

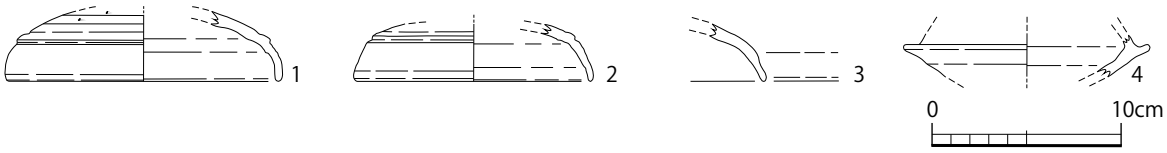
29 号建物跡（第 37 図、第 38 図）

T66 東区の SB019 から 5.4m 西側に位置する。桁行 4 間以上の掘立柱建物跡と判断したが、調査区内では東側に対応する柱列を確認しておらず、掘立柱塀の可能性もある。SB019 と主軸を同じくし西に傾く。規模は桁行 9.6m 以上である。柱間は桁行 2.4m（8 尺）である。SB019 との中間に位置する P1 は、SB019 と 29 号建物跡を繋ぐ掘立柱塀の柱穴の可能性が考えられる。SB019 の P8 と 29 号建物跡の P1 と P3 の柱間は 2.7m（9 尺）である。

遺物は段下げの際、出雲 4 期の須恵器などが出土した。また、P2、P3、P5 から採取した炭化物は年代測定で 5 世紀前葉～ 7 世紀中葉までの年代値を示した。P1 からも炭化物を採取し年代測定を行ったが、134 年～ 318 年という年代値が示された。大幅に年代が遡ることから、この炭化物は混入品と考えられる。



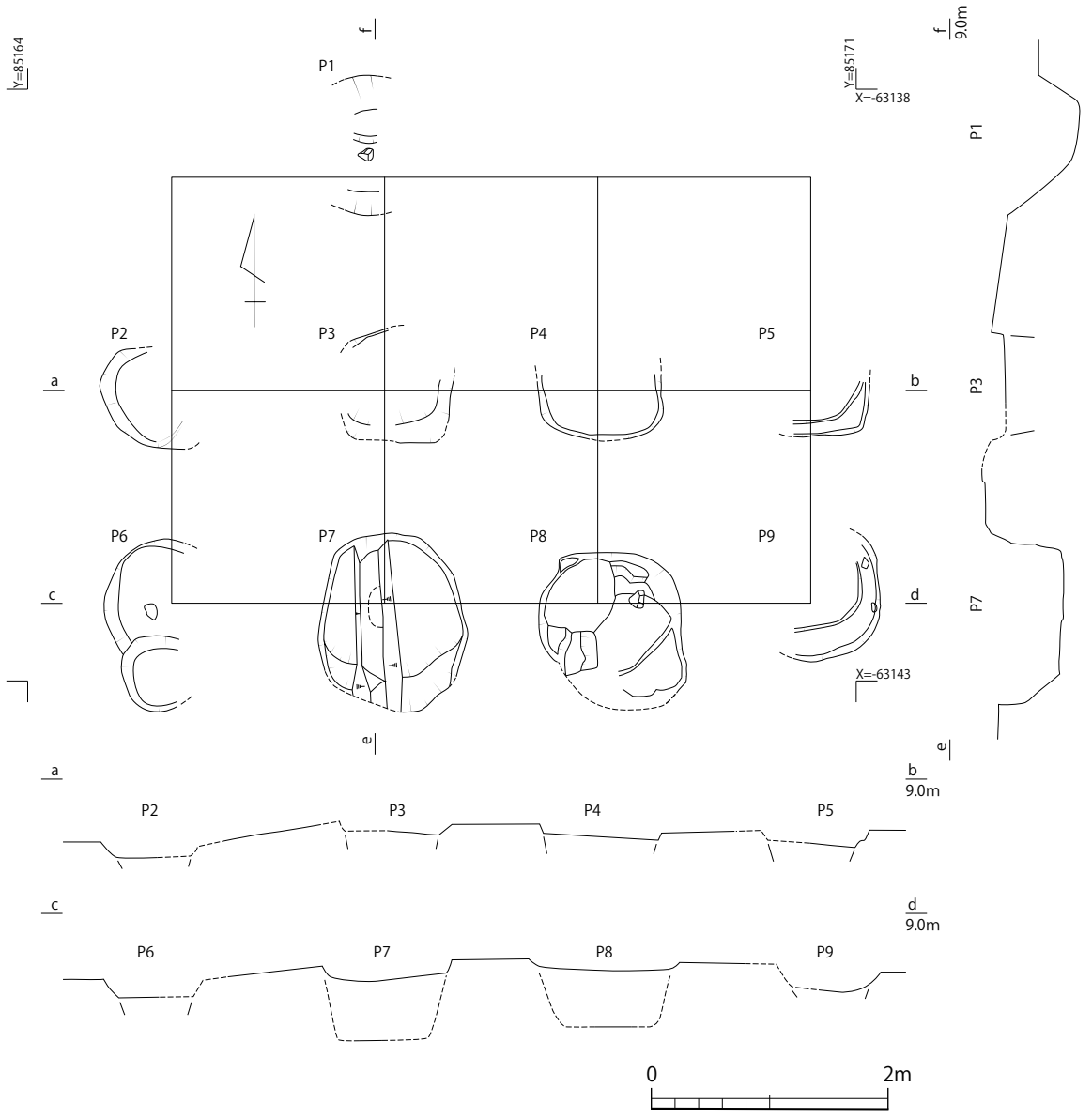
第 37 図　29 号建物跡実測図（S= 1 /120）



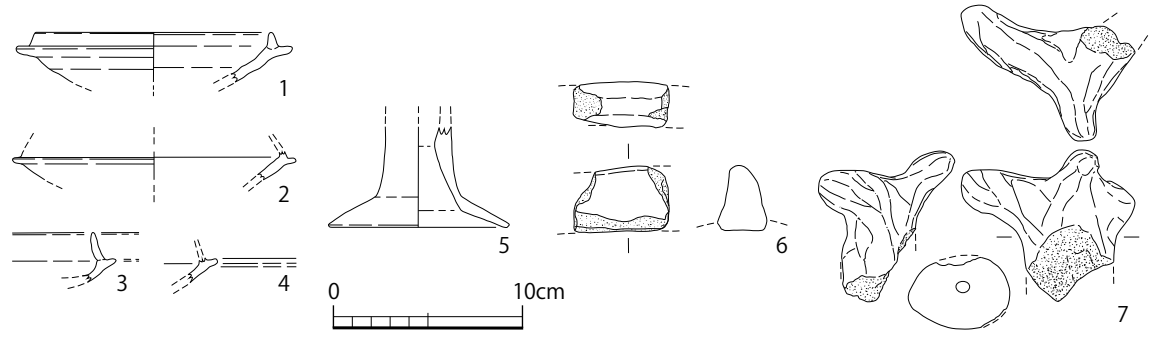
第 38 図　29 号建物跡出土遺物実測図（S= 1 /4）

26 号建物跡（第 34 図、第 39 図、第 40 図）

T66 東区と西区で検出した、桁行 3 間×梁行 2 間の総柱の掘立柱建物跡である。主軸は正方位を向く。SB019 の北東に位置し、規模は 5.4m × 3.6m、柱間は桁行 1.8m（6 尺）、梁行 1.8m（6 尺）である。柱掘方は一辺 1m 前後で、第 2 遺構面から深さ 0.7 m程度掘られている。SB019 とは南西側が重複し、先後関係は 26 号建物跡が新しい。26 号建物跡との重複関係等を確認するため、



第 39 図　26 号建物跡実測図（S= 1 /60）

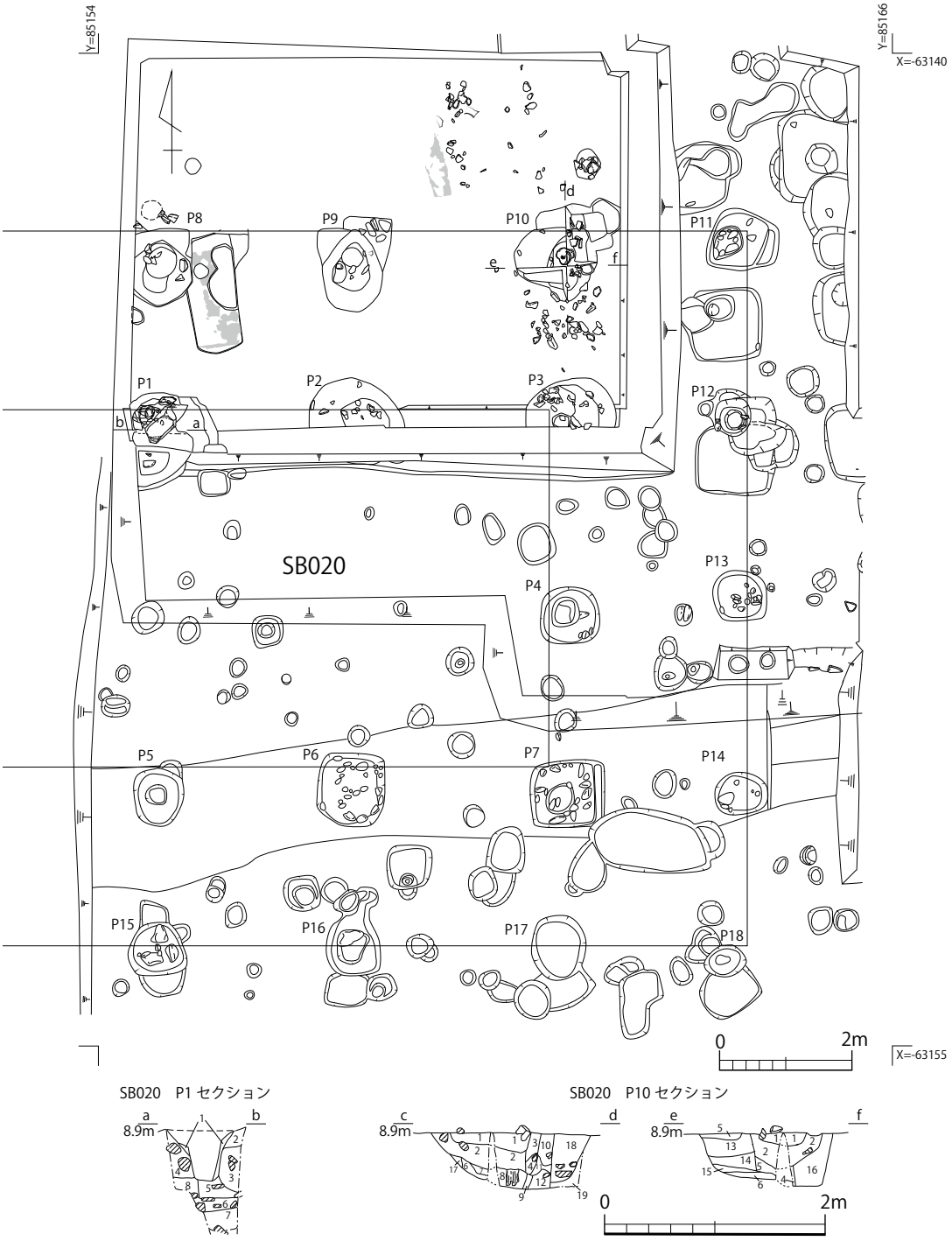


第 40 図　26 号建物跡出土遺物実測図（S= 1 /4）

P7 は 2 か所 1/4 截し、P8 は中心をトレンチ掘削した。柱掘方から出雲 3 ～ 5 期の須恵器などが出土した。また、P5 から採取した炭化物は年代測定で 426 ～ 545 年の年代値を示した。

SB020（第 41 図）

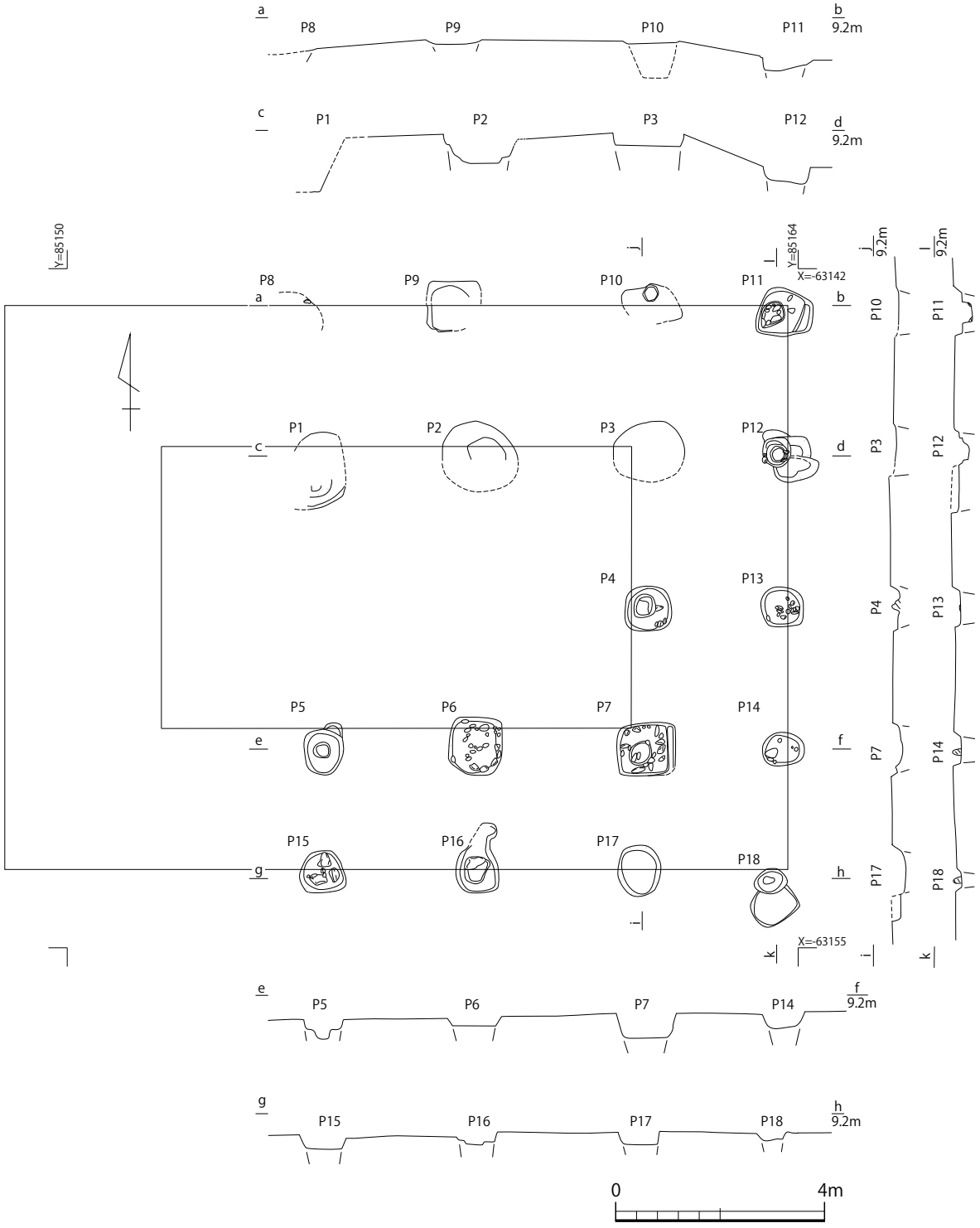
T67 中央区と南区、T66 西区で検出した四面廂付建物跡である。第 1 期調査で南側と西側が検出されていた。掘立柱建物から掘立柱建物への建て替え 1 回が想定されていたが、今回の調査で掘立柱建物から礎石建物への建て替えも行われたことを確認した。それぞれ SB020A（掘立柱建物跡）、SB020B（掘立柱建物跡）、SB020C（礎石建物跡）と呼称する。検出した遺構のうち、P1 は北側を 1/4 截して南側を半截し、P10 は 2 か所 1/4 截した。



土層の説明は第 18 表に掲載

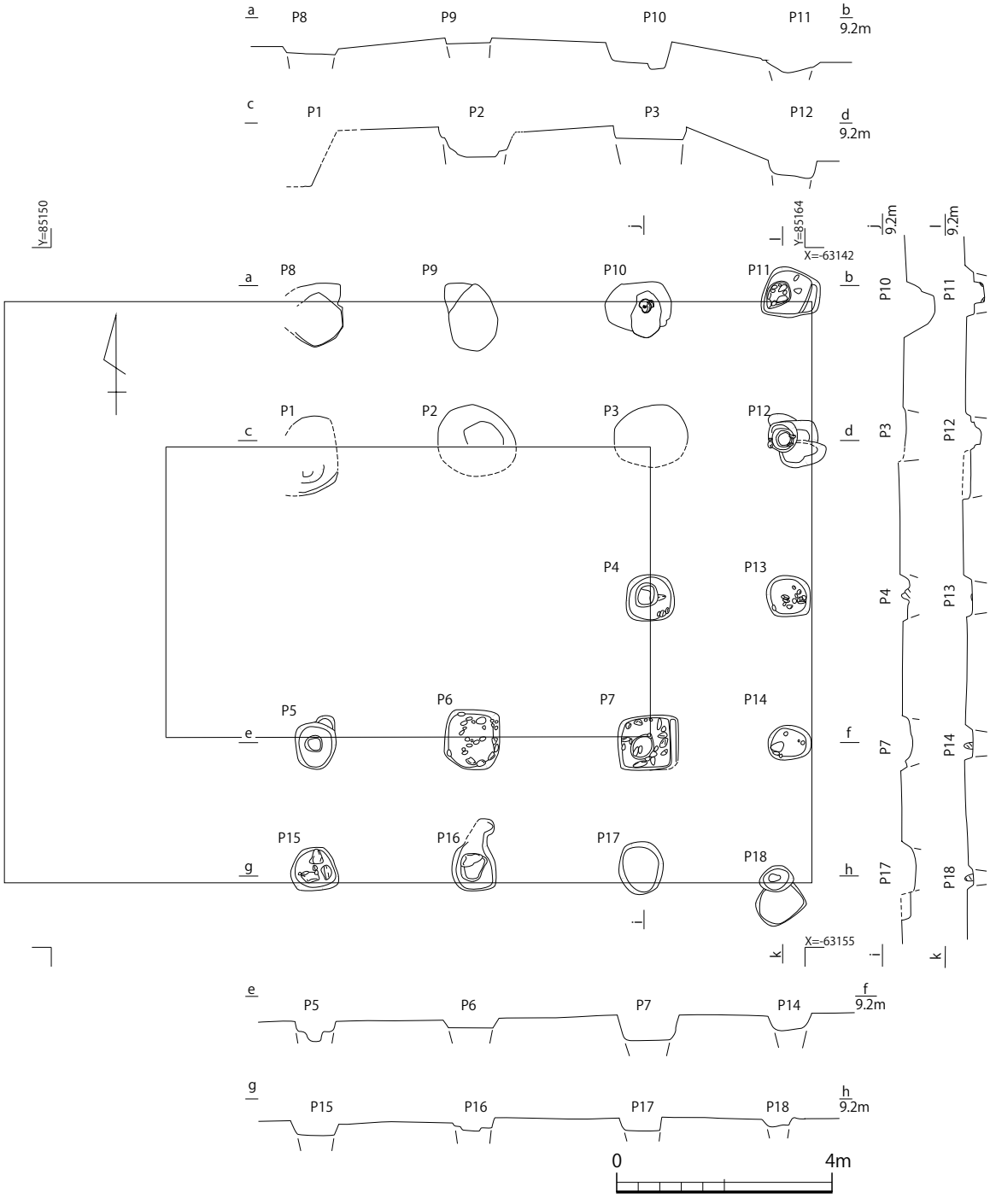
第 41 図　T67 中央区　第 2 遺構面検出遺構実測図（平面図は S=1/100、土層図は S=1/60）

SB020A（第 42 図）：掘立柱建物で主軸は正方位を向く。身舎が３間× ２間で、規模は９.0m × 6.0m、柱間は桁梁ともに 3.0m（10 尺）である。廂の出について『総括報告書』では 2.85m（9.5 尺）としたが、T67 中央区での検出状況から 2.7m（9 尺）と判断した。柱掘方は検出できたが、抜き取り穴は SB020B の柱掘方や抜き取り穴により失われたと考えられる。

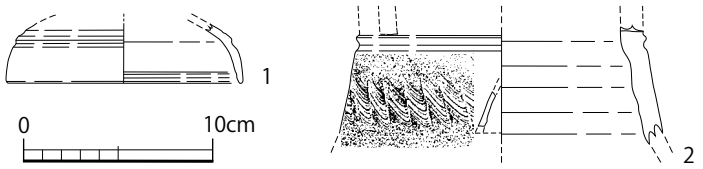


第 42 図　SB020A 実測図（S= 1 /120）

SB020（第 43 図、第 44 図）：掘立柱建物跡で、身舎は 3 間× 2 間で、規模は 9 .0m × 6.0m、柱間は桁梁ともに 3.0m（10 尺）である。『総括報告書』の記載どおり、身舎の規模や柱間は同じで、廂の出については南北に 2.4m（8 尺）、東西に 2.7m（9 尺）となる。P10 でヒノキ材の柱根が出土した。年代測定を実施したところ、427 ～ 567 年の年代が示された。遺物は P1 と P11 から須恵器が出土した。第 2 基盤層からの混入と考えられる。



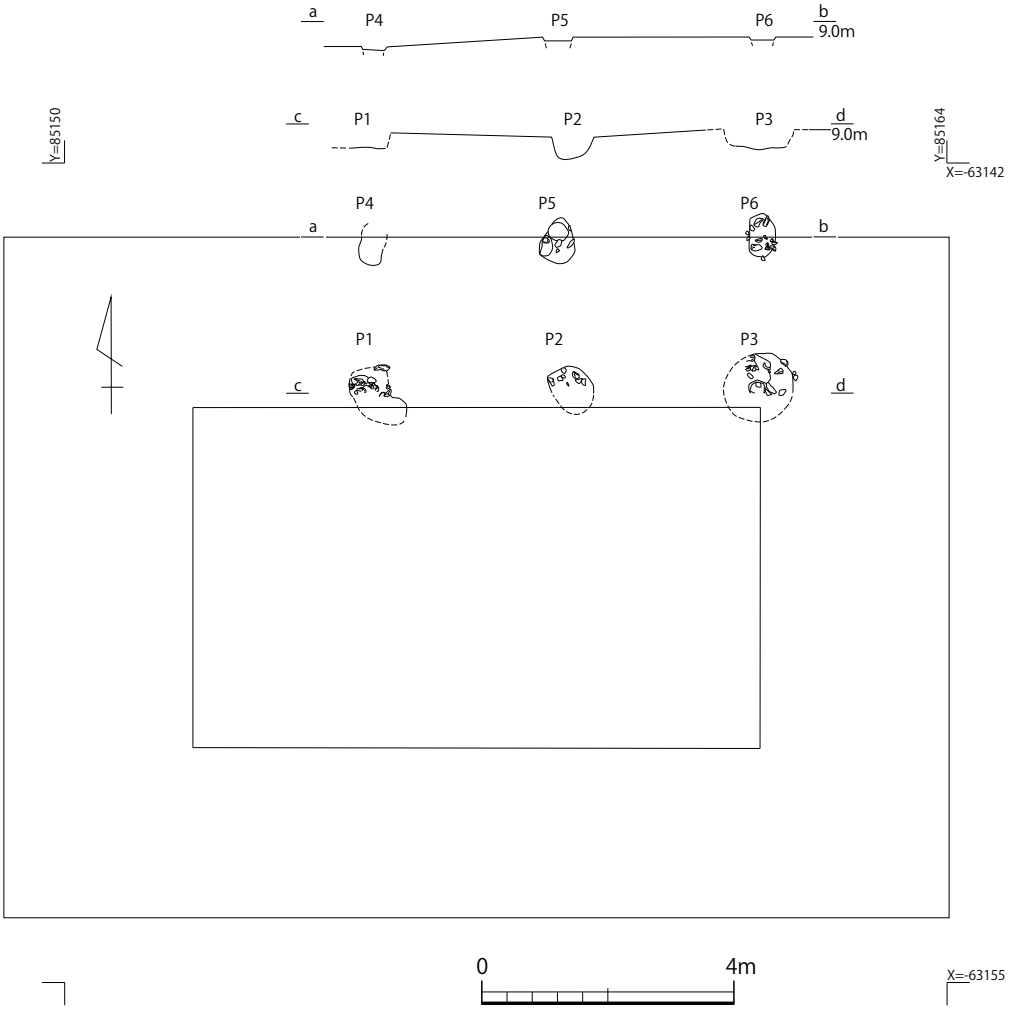
第 43 図　SB020B 実測図（S= 1 /120）



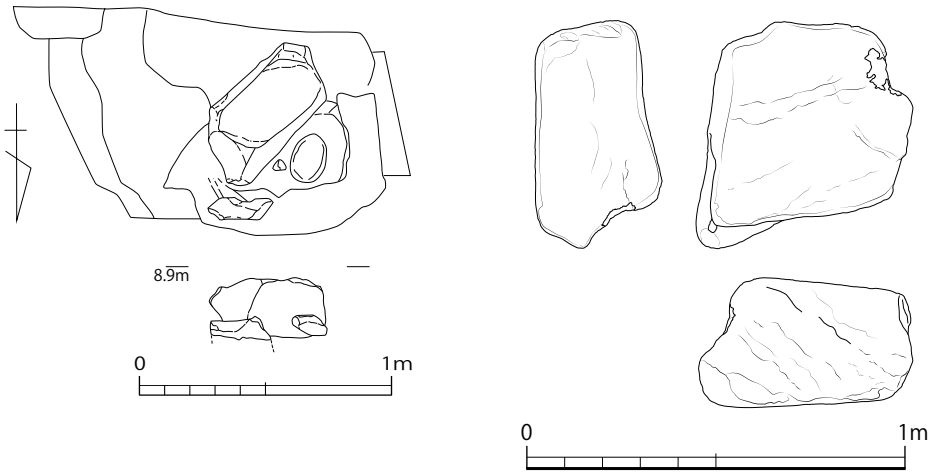
1 は P1、2 は P10 出土

第 44 図　SB020 出土遺物実測図（S= 1 /4）

SB020C（第 45 図、第 46 図）：礎石建物跡で主軸は正方位を向く。T67 中央区でのみ検出しており、建物跡の北側しか確認できていない。P1 では礎石と考えられる流紋岩（大きさは 70㎝× 70㎝× 30㎝、重さが 91.76㎏）が落とし込まれた状況で出土し、P1、２～６では根石の一部か地盤強化の造作と考えられる礫が出土していることから、SB020C を礎石建物跡と判断した。身舎は桁行２間以上で、規模は 6.0m 以上、柱間は 3.0m（10 尺）である。廂は北に 2.4m（8 尺）出ている。SB020B の建て替えと考えられ、同規模の建物であったと考えられる。



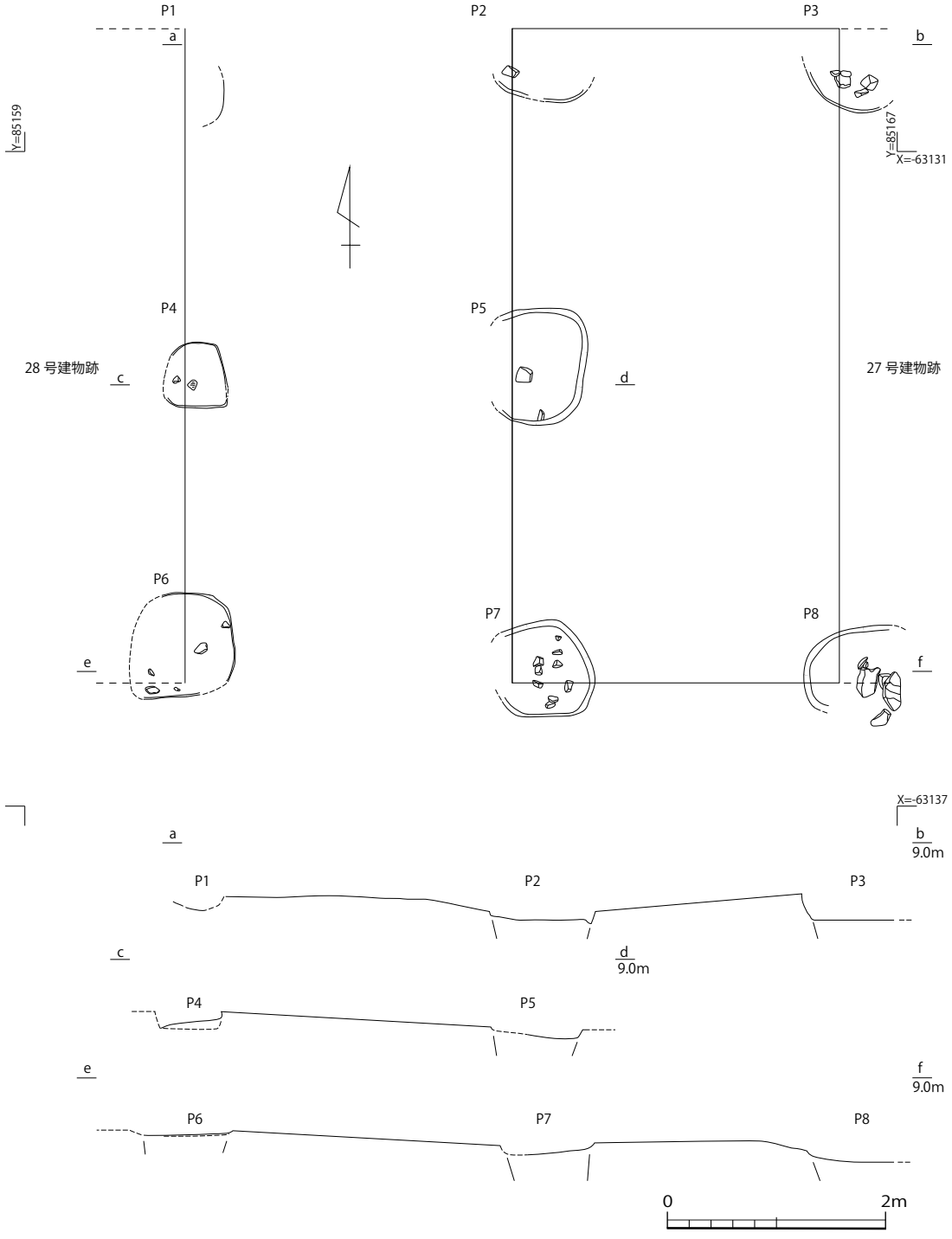
第 45 図　SB020C 実測図（S= 1 /120）



第 46 図　礎石の出土状況と実測図（出土状況は S= 1 /30、実測図は S=1/20）

27 号建物跡・28 号建物跡（第 47 図、第 48 図）

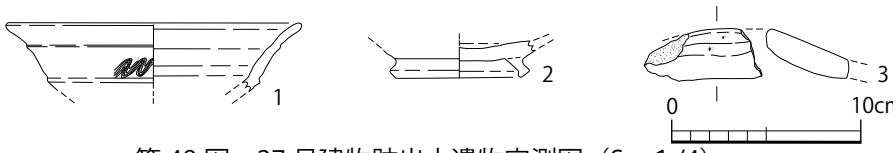
27 号建物跡は T66 北区で検出した 2 間以上× 2 間の礎石建物跡で、主軸は正方位を向く。SB020 の東側の廂の柱列と 27 号建物の東側の柱列は同一線上にある。67 号土坑、68 号土坑と重複関係にあり、27 号建物跡が先行する。各ピットには直径が 10 ～ 30㎝の礫が含まれており、礎石建物の地盤強化と判断した。規模は 3m 以上× 6m で、柱間は桁行 3m（10 尺）、梁行 3m（10 尺）である。P7 を 1/4 截し、第 2 遺構から 65㎝まで掘削していることと、掘立柱建物からの建て替えがないことを確認した。P5 から出雲国分寺 3 型式の軒丸瓦が出土しており、8 世紀後葉以降に築造されたと考えられる。581 年～ 649 年という年代値が示された炭化物や、古墳時代や第 1 型式の須恵器が出土したが、これらは第 2 基盤層からの混入品と考えられる。



第 47 図　27 号建物跡・28 号建物跡実測図（S= 1 /60）

28 号建物跡は 27 号建物跡の西側に位置する 1 間以上× 2 間の礎石建物跡で、主軸は正方位を向く。95 号溝と重複関係にあり、28 号建物跡が先行する。27 号建物跡と同様に各ピットには直径が 10 ～ 15㎝の礫が含まれており、礎石建物の地盤強化と判断した。規模は 3m 以上× 6m で、柱間は桁行 3m（10 尺）、梁行 3m（10 尺）である。95 号溝で各ピットの断面が観察でき、第 2 遺構から深さ 16㎝まで掘削していることを確認した。

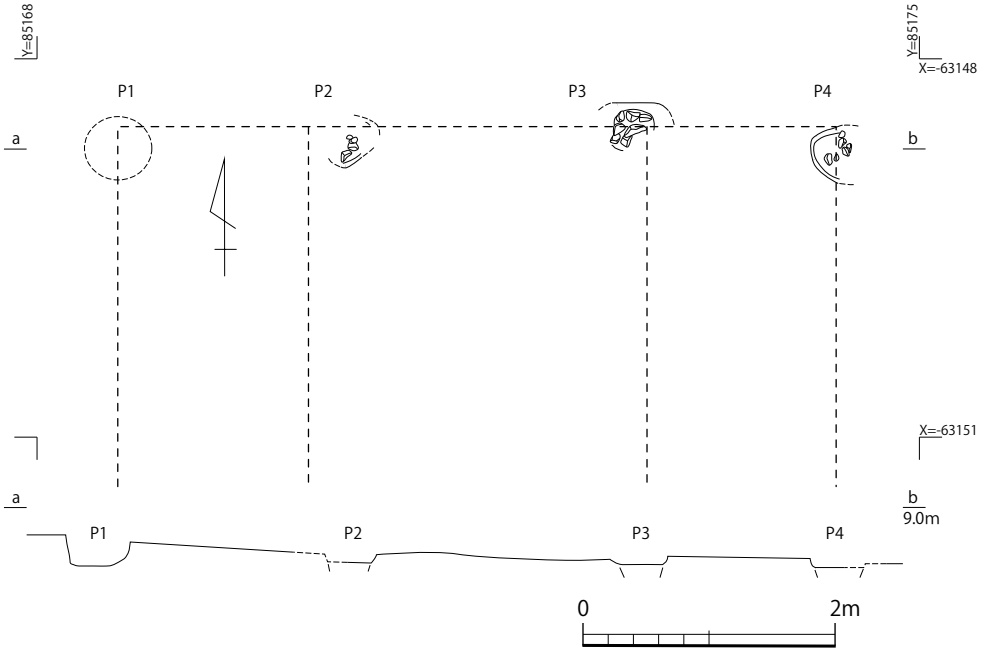
27 号建物跡と 28 号建物跡は遺構底面の標高に 50㎝の差があることから、別の遺構と判断した。しかし、両遺構は 3m（10 尺）の離れた位置で、南北の柱列は揃えて東西に並ぶことから、同一の建物跡の可能性も考えられる。その場合、4 間以上× 2 間以上の礎石建物跡となる。



第 48 図　27 号建物跡出土遺物実測図（S= 1 /4）

30 号建物跡（第 49 図）

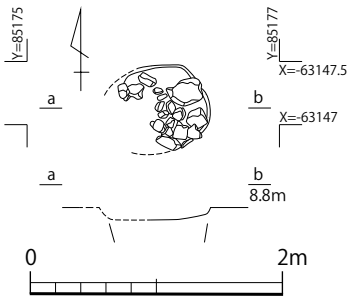
T66 東区の南端で検出した礎石建物跡である。主軸は正方位を向く。各ピットで礎石は確認できなかったが、根石を検出した。P1 の根石については T66 西区の西壁土層で確認した。東西に廂を持つ建物の可能性が考えられる。その場合、身舎は梁行 1 間で、柱間は 3.0m（10 尺）で、廂の出は 1.5m（5 尺）と想定される。



第 49 図　30 号建物跡実測図（S= 1 /60）

31 号建物跡（第 50 図）

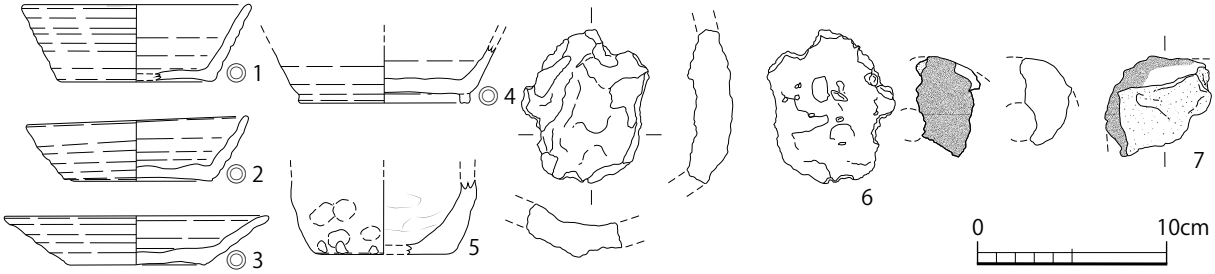
T66 東区の南東側で検出した礎石建物跡である。一辺 0.6m 前後の歪な隅丸方形のピットに根石が充填された遺構が 1 箇所のみで、調査区内で関連する遺構は検出できなかった。



第 50 図　31 号建物跡実測図（S= 1 /60）

79 号溝（第 8 図、第 51 図）

T56 で検出した南北に延びる溝で正方位を向く。幅は 1.3m、長さは 3m 以上、第 2 遺構面からの深さは 0.18m で、底面の標高 8.65m を測る。遺物は第 6 型式の須恵器や第 6 ～ 7 型式の土師器が出土した。この他に鉄滓や羽口が出土した。



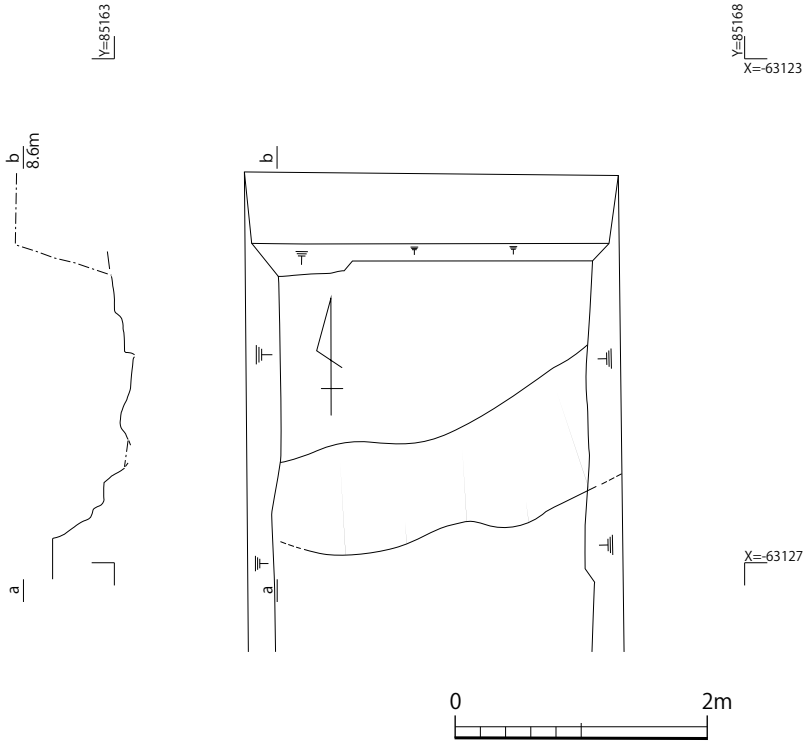
第 51 図　79 号溝出土遺物実測図（S= 1 /4）

80 号溝（第 52 図、第 53 図）

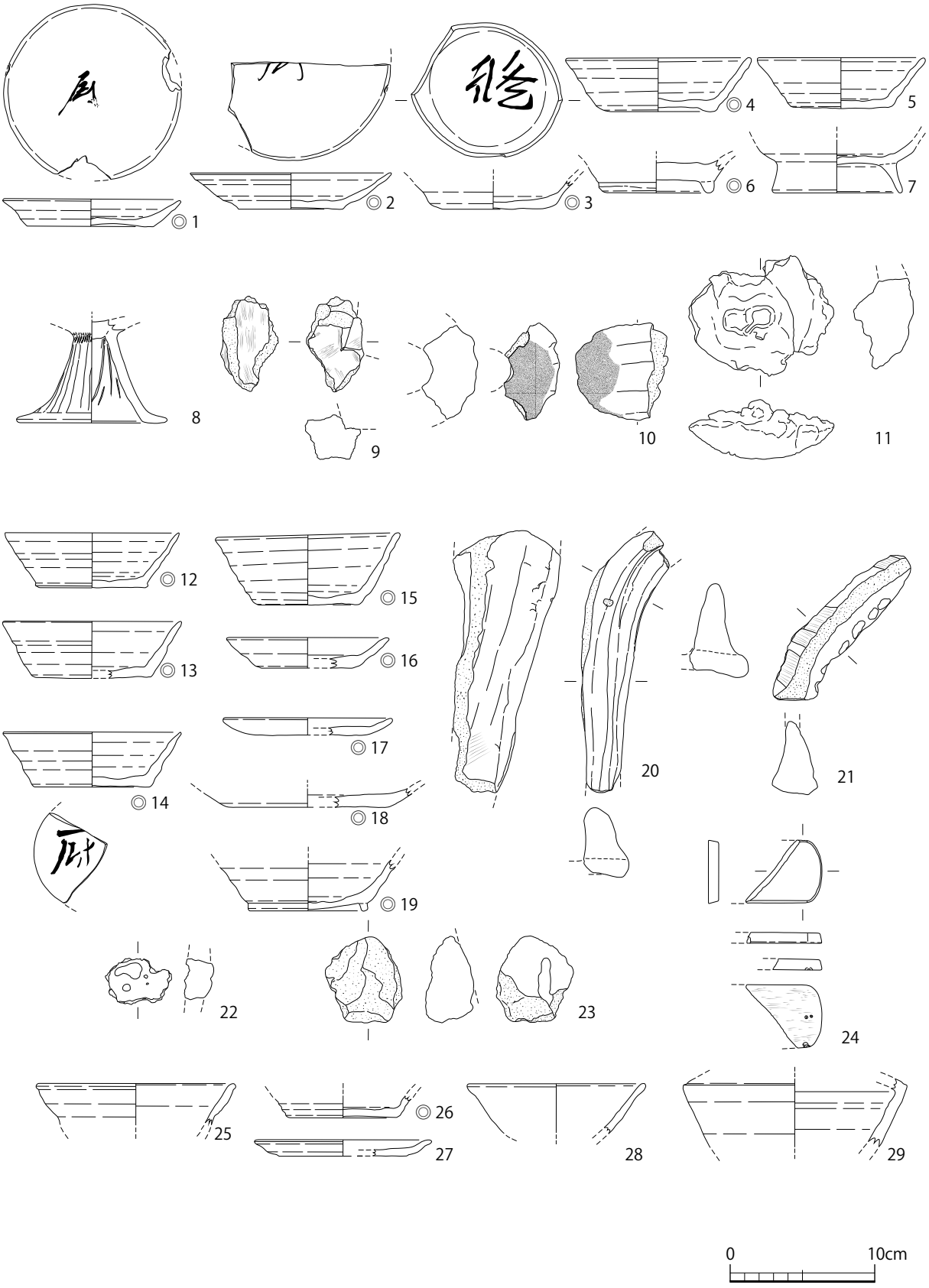
T58 南区で検出した溝跡である。調査区内では主軸は正方位を向く。南側の上端は検出できたが、北側の上端は史跡公園の復元水路が設置されているため検出できなかった。幅は 2.2m 以上、第 2 遺構面からの深さは 0.7m を測る。西側が 69 号土坑と重複し、先後関係は 80 号溝が先行する。東側に位置する T57 では検出できなかったため、T57 と T58 の中間で止まるか屈曲するものと考えられる。

遺構埋土のうち、22 層からは第 5 ～ 6 型式の須恵器や土師器、鉄滓や羽口が出土した。28 層からは第 5 型式の須恵器が出土し、26 層からは第 5 型式の土師器と須恵器が出土し、30 層からは第 3 型式の須恵器の長頸壺が出土した。また、25 層と 26 層からは、焦げ跡のある木片が大量に出土した。木片の年代測定を行ったところ 775 ～ 887 年という年代が示された。

出土遺物と 69 号土坑に先行することから、8 世紀第 2 四半期には機能しており、8 世紀第 4 四半期～ 9 世紀前葉には半ば埋まった状態にあり大量の木片が廃棄され、9 世紀中葉には埋められていたと考えられる。



第 52 図　80 号溝実測図（S= 1 /60）

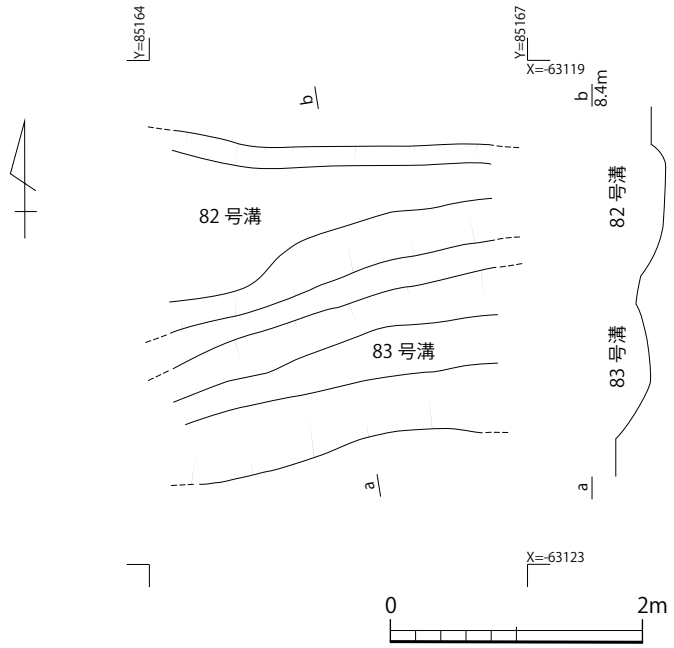


1 ～ 11 は 22 層、12 ～ 24 は 26 層、25 ～ 28 は 28 層、29 は 30 層出土

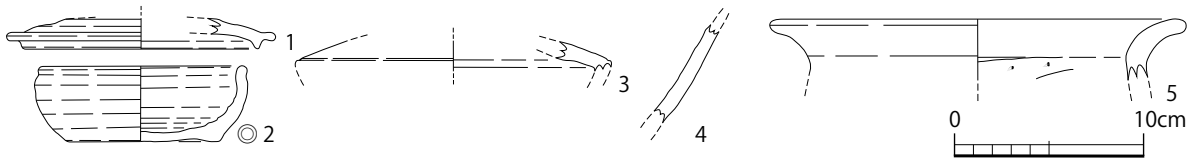
第 53 図　80 号溝出土遺物実測図（S= 1 /4）

82 号溝（第 54 図、第 55 図）

T58 北区の南側で検出した溝跡である。1 号池状施設と重複しており、先後関係は 82 号溝が先行する。幅は 1.6 ～ 0.8m を測る。上側を 1 号池状施設に削平されており、深さ 20㎝程度が残る。主軸は、北側は正方位を向き、南側は西に傾いており、判然としない。断面は凹レンズ状を呈する。埋土からは、第 1 型式や第 2 型式の須恵器などが出土した。。



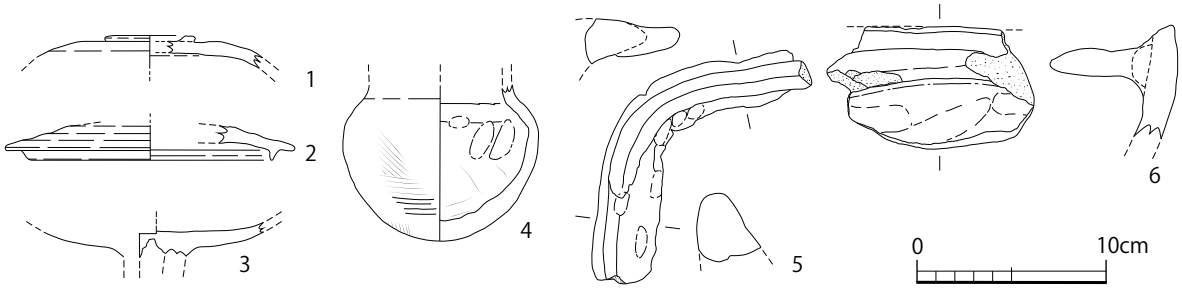
第 54 図　82 号溝・83 号溝実測図（S= 1 /120）



第 55 図　82 号溝出土遺物実測図（S= 1 /4）

83 号溝（第 54 図、第 56 図）

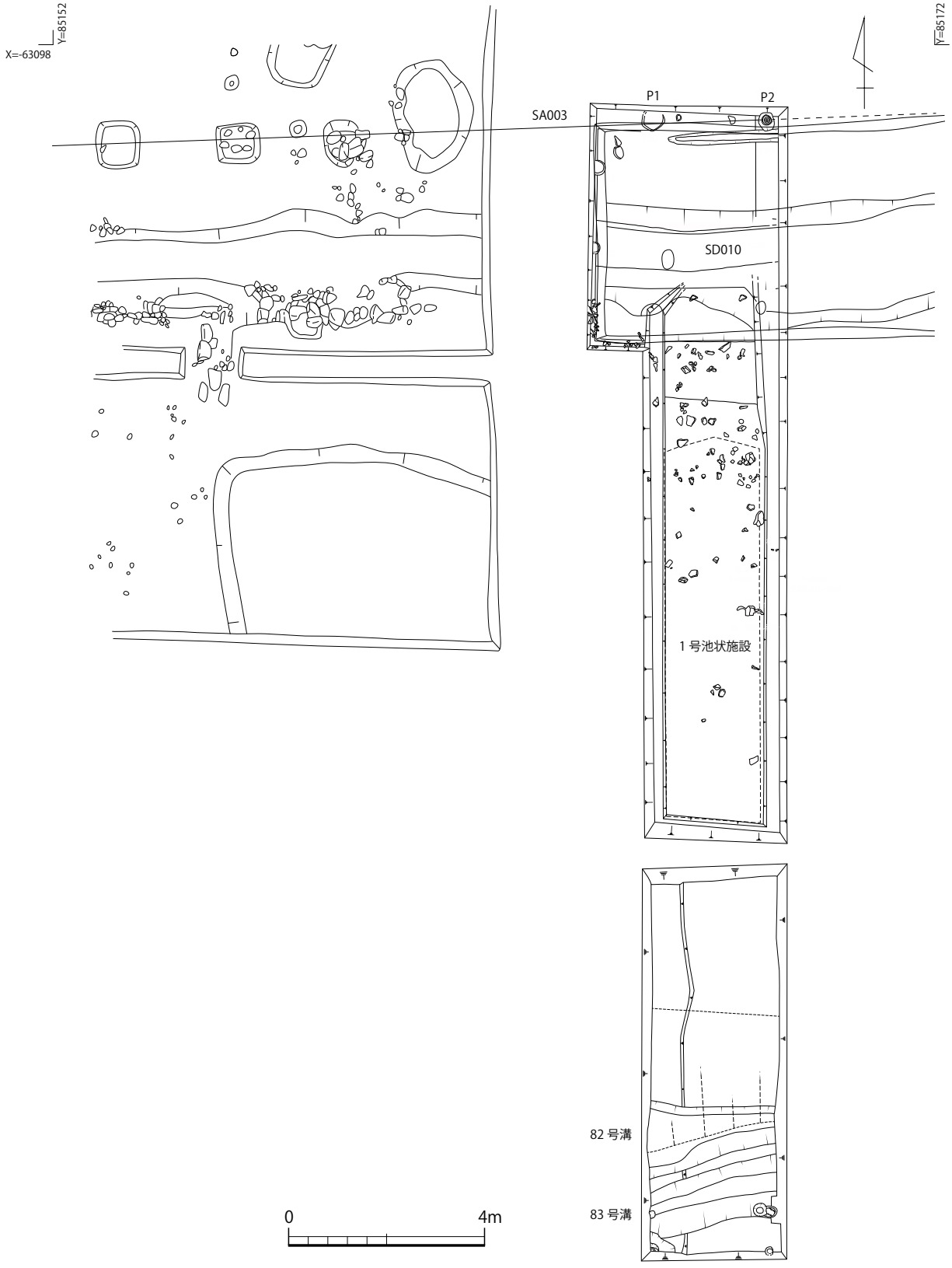
T58 北区の南側で検出した溝跡である。83 号溝の南側に位置する。1 号池状施設と重複しており、先後関係は 83 号溝が先行する。幅は 1m 前後を測る。上側を 1 号池状施設に削平されており、深さ 40㎝程度が残る。主軸は、北側は西に傾き、南側はほぼ正方位を向いており、判然としない。断面は凹レンズ状を呈する。埋土からは、第 1 型式や第 2 型式の須恵器などが出土した。



第 56 図　83 号溝出土遺物実測図（S= 1 /4）

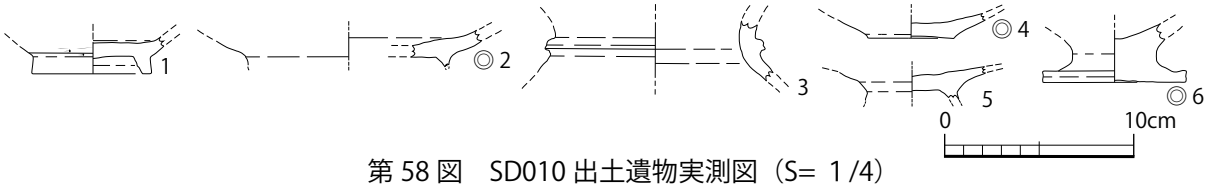
SD010（第 57 図、第 58 図）

T68 の北側で検出した東西に延びる溝で、主軸は正方位を向く。第 1 期調査で検出されており、東西 140m 以上で、1.2 ～ 2.8m、深さ 0.3m の溝である。T68 で検出した部分の大半は再検出で、西端のみ新たに検出した。



第 57 図　SD010、SA003、1 号池状施設実測図（S= 1 /120）

埋土は上層（第 23 図 T68 西壁セクション 16 層）と下層（同図 18 層）に分かれる。これまでの調査では第 1 ～ 5 型式の須恵器・土師器、白磁皿Ⅱ類などが出土している。今回の調査では下層からは時期が特定できる遺物は出土しなかったが、上層からは白磁Ⅱ類の広東系の碗など（58-1 ～ 6）が出土しており、同じ位置で修繕しながら 12 世紀代まで存続したと考えられる。



第 58 図　SD010 出土遺物実測図（S= 1 /4）

SA003（第 57 図、第 59 図）

T68 北端で検出した東西に並ぶ 2 基のピットで、主軸は正方位を向き、SD010 に平行して並ぶ。第 1 期調査で検出された SA003 の東側の延長線上に並ぶことから SA003 を構成する柱穴と判断した。SA003 は SD010 の北側を 1.4 ～ 2.0m で平行して並び、検出された柱穴は 19 基で、長さは 48m 以上、柱間は 2.4m（8 尺）である。第 2 期調査の第 52 トレンチで再発掘されている。P1 からは内面に漆の付着した甕（27-14）が出土した。また P2 では柱根（59-1）が出土した。柱根は直径 24㎝で、下方に深さ 12㎝前後のエグリが加工してある。樹種同定ではヒノキ属と同定され、AMS 年代測定では 421 ～ 541 年の年代が示され、酸素同位体年輪年代測定では 534 年という年代が示された（註 1）。

第 59 図　SA003 出土柱根実測図（S= 1 /8）

1 号池状施設（第 57 図、第 60 図～第 63 図）

T58 北区と T68 に位置する。底面で南北 14m を測る。主軸は南北両辺とも正方位を向く。82 号溝と 83 号溝と重複し、先後関係は 1 号池状施設が先行する。北側と南側に土手状の盛土がある。北側の盛土は高さ 26㎝で、南側の盛土は高さ 47㎝である。T68 では底面に長径 10㎝程度の石が敷き詰められてた。T58 北区では底面に石は散在していたが、敷き詰められた状況は確認できなかった。底面から 20㎝の厚さで水性堆積の粘質土（第 23 図 T68 西壁セクション 13 ～ 15 層）が堆積する。その上には人為的に埋められた黒色土（同図 11 層）や黒褐色土（同図 5 層）が広がる。

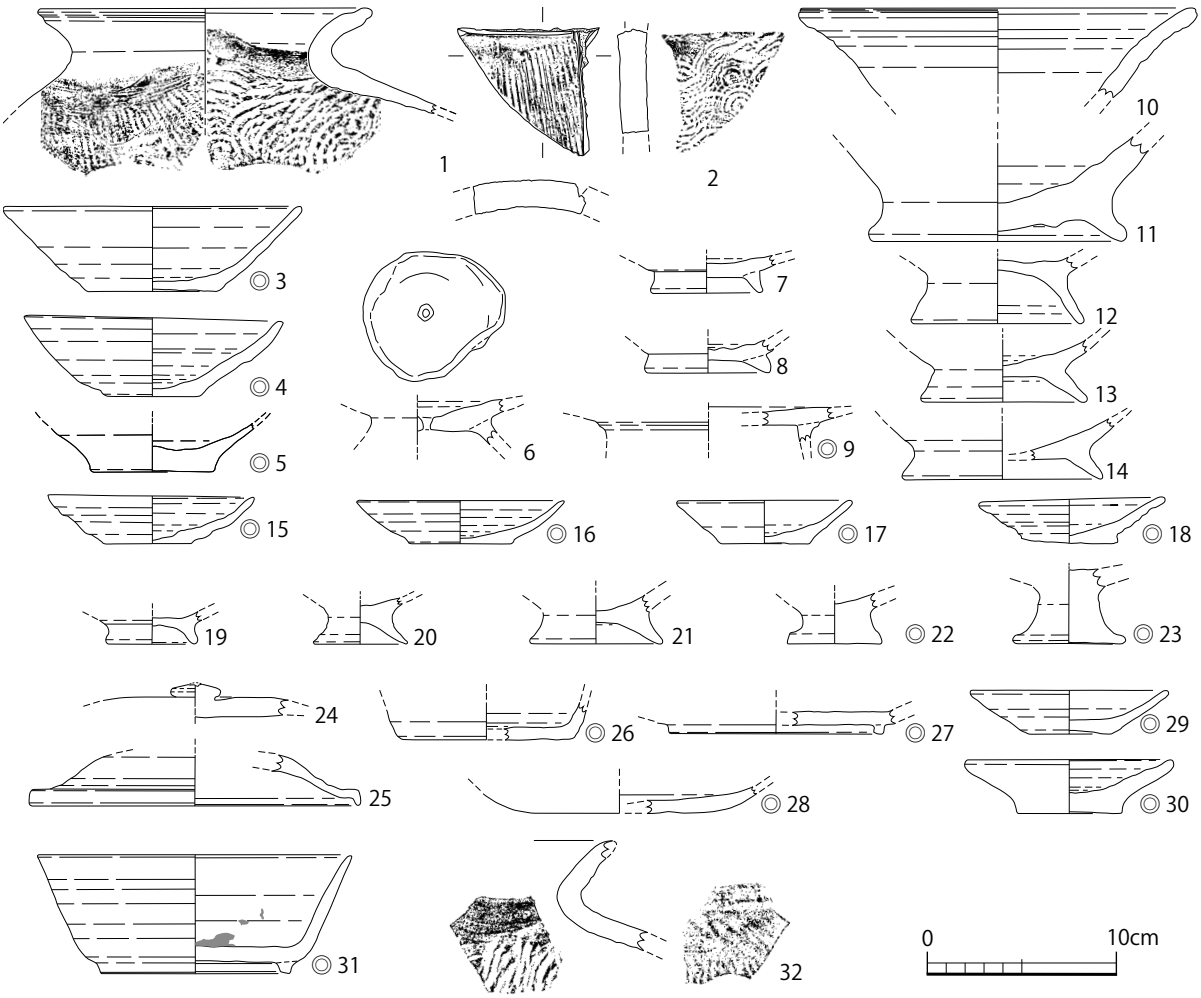
遺物は、池状施設の堆積土と黒色土から多量に出土した。1 号池状施設の築造時の遺物としては南側の土手状盛土内から第 4 型式の須恵器（60-31）が出土した。内面に漆が付着しており、パレットとして使用されたものと考えられる。1 号池状施設内の堆積土では、下層（同図 15 層）から出雲 4 期～第 5 型式の須恵器、第 6 型式の土師器、緑釉陶器が出土し、上層（同図 14 層）からは第 3 ～ 9 型式の土師器や須恵器や緑釉陶器が出土した。

黒色土からは水性堆積土よりも多量の遺物が出土しており、T58 北区のみでも底部を集計して

の復元推定で 1000 個体以上の土器が出土した。出土品は第 8 ～ 9 型式の土師器の坏・皿類が大半を占める。

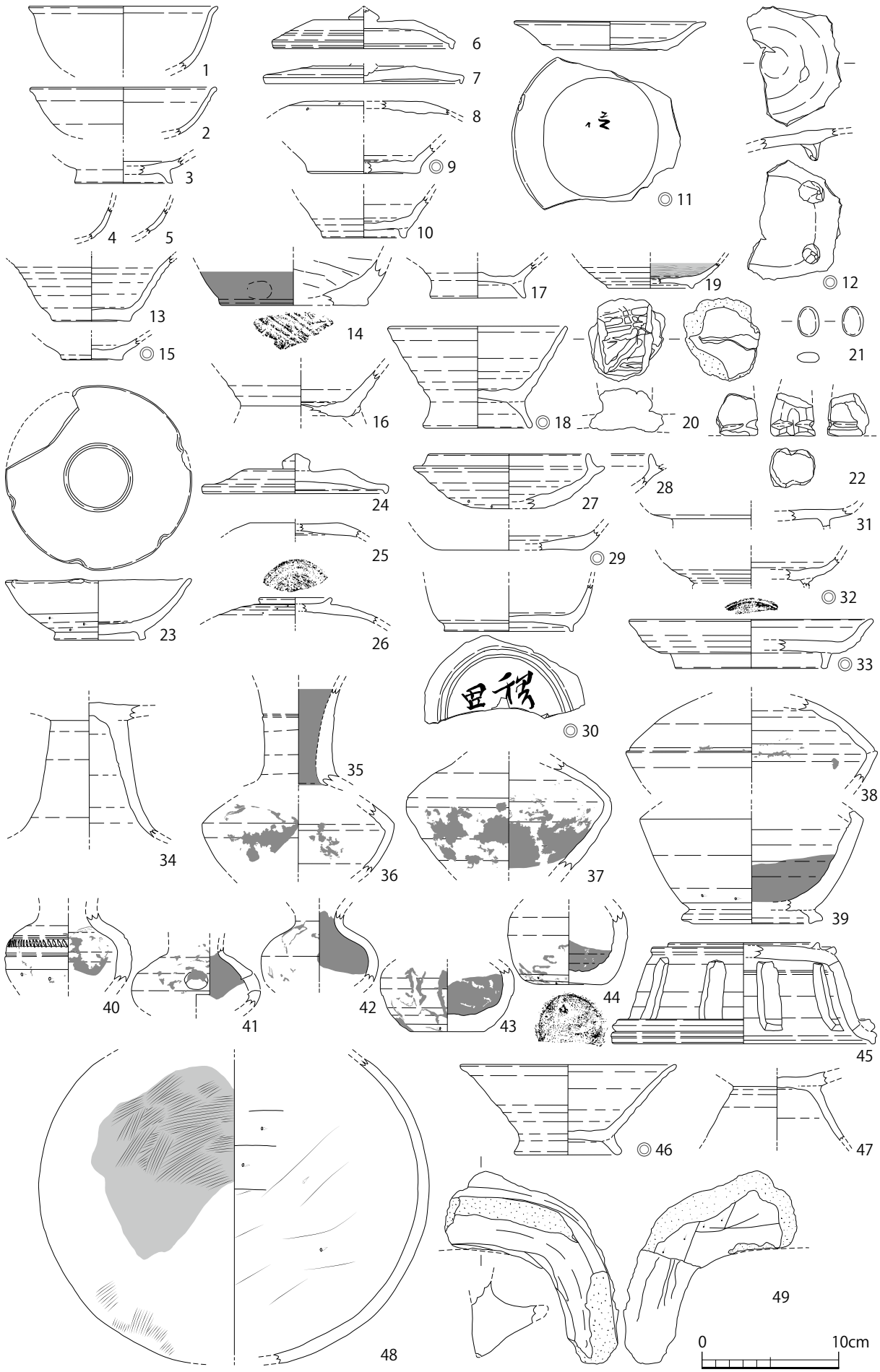
黒色土から採取した炭化物を AMS 年代測定したところ、904 ～ 1023 年という年代が示された。また、花粉分析では下層（第 23 図 T68 東壁セクション 15 層）ではヨシが多く分布し、上層（同図 14 層）ではガマ類が繁茂していたと復元がされた。

以上のことから、1 号池状施設は 8 世紀第 2 四半期には築造され、10 世紀前半には下層が形成されヨシが繁茂し、11 世紀後半までには上層が形成されガマ類が繁茂し、11 世紀後半には黒色土で埋め立てられたと考えられる。また、西側で正方位の土坑が第 1 期調査で検出されているが、北辺が 1 号池状施設の北辺の延長線上にあることから、1 号池状施設の西北隅である可能性も考えられる。



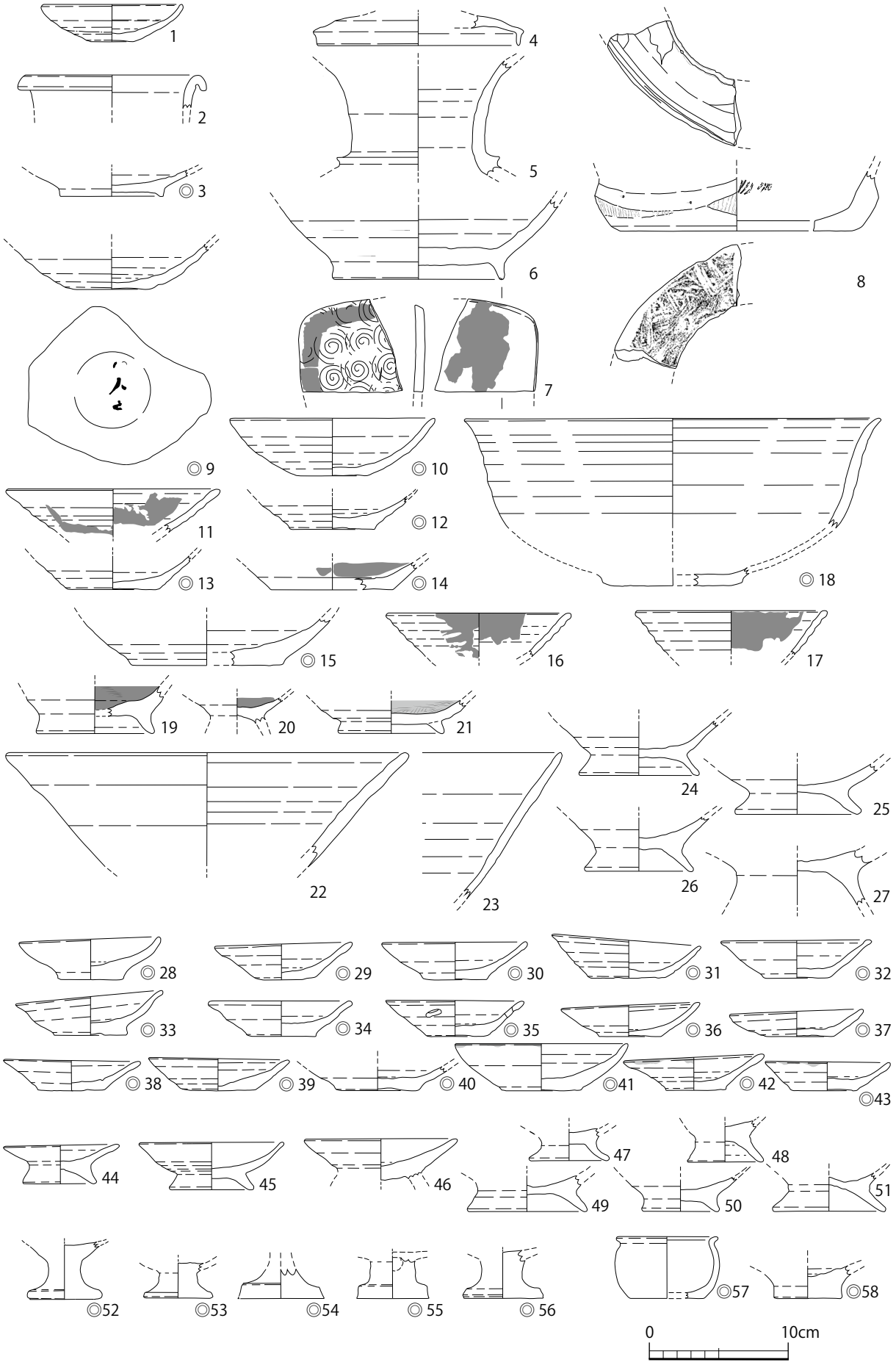
1 ～ 23 は西壁 14 層、24 ～ 30 は西壁 15 層、31 は西壁 23 層、32 は西壁 28 層出土。

第 60 図　1 号池状施設（T68）出土遺物実測図（S= 1 /4）

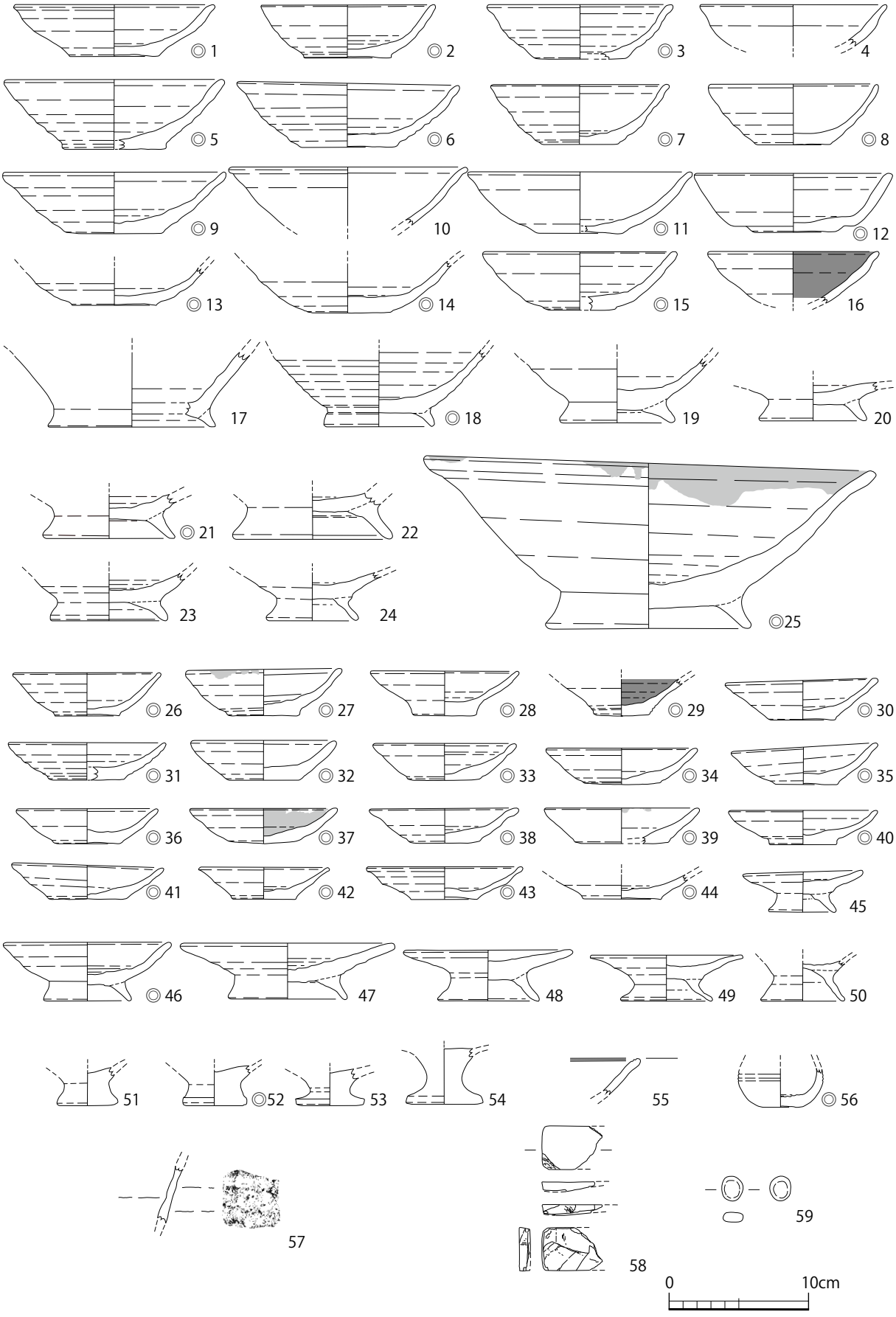


1 ～ 22 は 9 層、13 ～ 49 は 10 層出土。

第 61 図　1 号池状施設（T58 北区）出土遺物実測図（S= 1 /4）



第 62 図　黒色土（T68）出土遺物実測図（S= 1 /4）



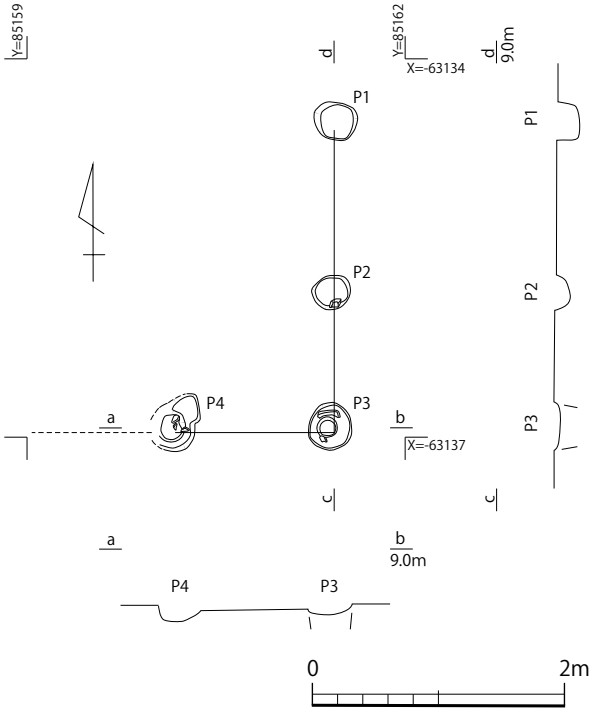
第 63 図　黒色土（T58 北区）出土遺物実測図（S= 1 /4）

8 号柵列（第 64 図）

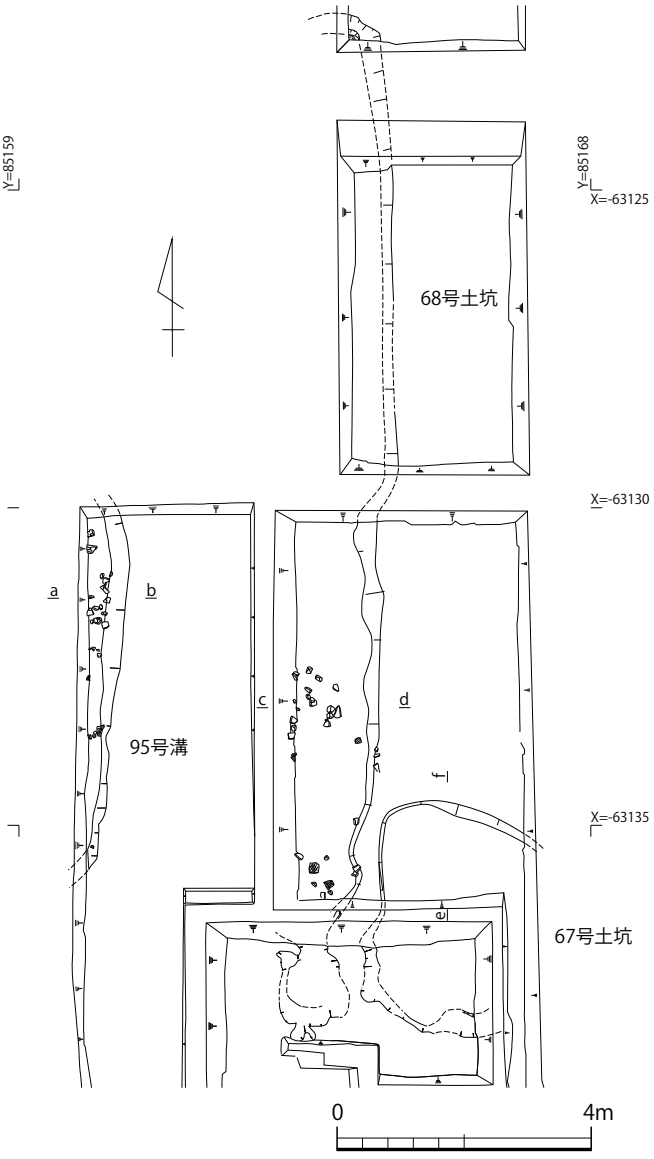
T67 北区の南側で検出した直角に曲がる柵列である。主軸は正方位を向く。95 号溝と礫層と重複し、先後関係は 95 号溝より新しく、礫層より古い。柱間は 1.2m（4 尺）である。P3 では柱の根巻きに使用した補修期の出雲国分寺式丸瓦（104-5.6）を使用している。

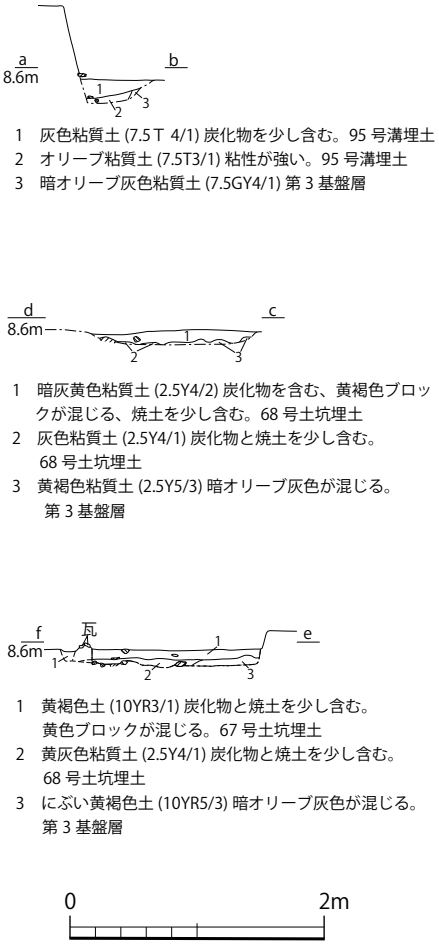
67 号土坑（第 65 図、第 66 図）

T66 北区で検出した土坑である。第 2 期調査の T47 で南側が確認されていた。平面形は歪な隅丸方形で南北 3.7m、東西 2.64m 以上、深さ 0.2m である。礫や瓦が多数出土した。26 号建物跡と重複し、先



第 64 図　8 号柵列実測図（S= 1 /60）



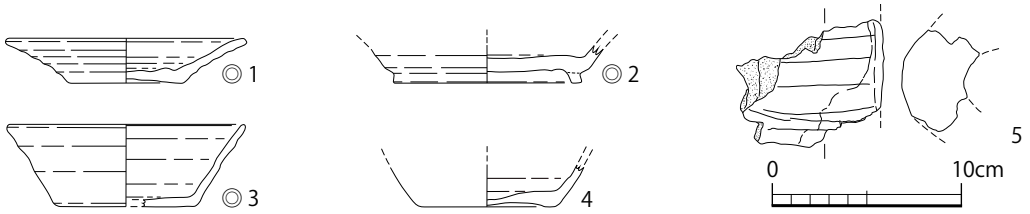


第 65 図　67 号土坑・68 号土坑・95 号溝実測図（平面図は S=1/120、土層図は S=1/60）

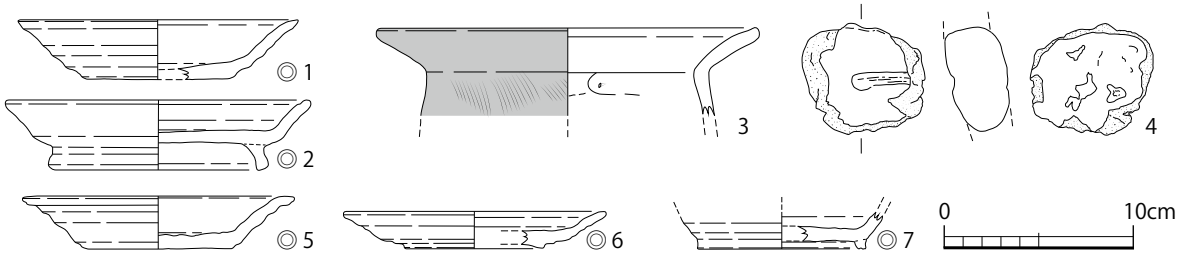
後関係は 67 号土坑が新しい。遺物は瓦（97-9、101-1.2、102--2 ～ 6、103-6、104-11、105-1 ～ 3、106-7）、第 5 ～ 7 型式の須恵器や土師器、羽口が出土した。

68 号土坑（第 65 図、第 67 図）

T66 北区、T58 南区、T58 北区で検出した溝跡で、主軸は正方位を向く。溝跡であるが『総括報告書』で 68 号土坑と整理されいるため、混乱を避けるために本書でも 68 号土坑と呼称する。第 2 期調査の T47 では南側が確認されていた。西側が T66 北区と T67 北区の境界にあるセクションベルトと重複したため、西側の上端は検出できていない。幅 1.4m 以上、長さ 16.5m、深さは礫層の下面から 10 ～ 30㎝で、底面の標高は 8.2 ～ 8.4m である。断面は凹レンズ状を呈する。27 号建物跡、80 号溝と重複しており、先後関係は 68 号土坑が最も新しい。T58 の箇所については , 発掘調査時には溝と認識していなかったが、整理作業を行う中で再検討し、95 号溝が T58 北区の南端まで延びていると判断した。遺物は第 6 ～ 7 型式の須恵器や瓦（96-3.2.4.25、97-8.18、98-5、100-4.6 ～ 8、101-10、103-4）などが出土した。



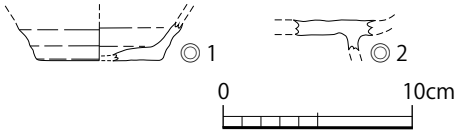
第 66 図　67 号土坑出土遺物実測図（S= 1 /4）



第 67 図　68 号土坑出土遺物実測図（S= 1 /4）

95 号溝（第 65 図、第 68 図）

T67 北区の西側で検出した溝跡で、主軸は正方位を向く。北側と西側の上端は調査区外にある。幅 0.6m 以上、長さ 7m 以上、深さは礫層下面から 0.25m で、底面は標高 8.3m である。28 号建物跡と重複し、先後関係は 95 号溝が先行する。68 号土坑の西側の上端が不明なため、正確な数値は不明であるが、95 号溝の東側の上端と 68 号の西側の距離は 2.1m（7 尺）である。遺物は第 5 型式の須恵器や第 6 ～ 7 型式の土師器や瓦（96-20.21、100-1、104-8、106-6）が出土した。

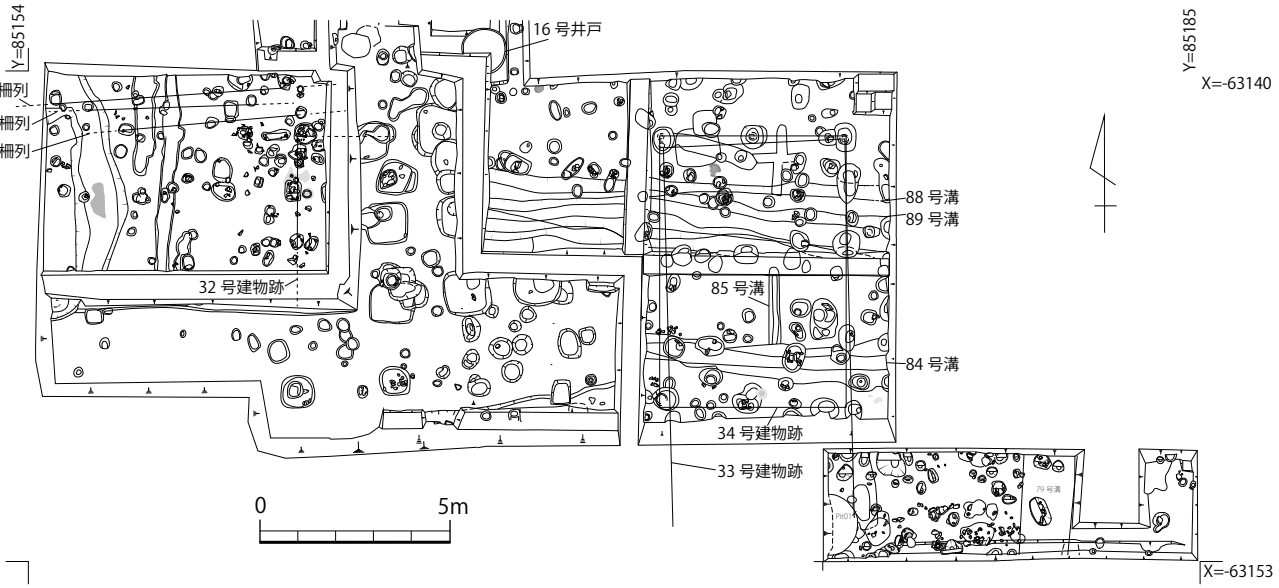


第 68 図　95 号溝出土遺物実測図（S= 1 /4）

註 1　對馬あかね、李貞、中塚武、仁木聡 2019「島根県出土材の酸素同位体比年輪年代法による年代決定」『古代文化研究』第 27 号　島根県古代文化センター

第６節　第１遺構面に伴う遺構と遺物

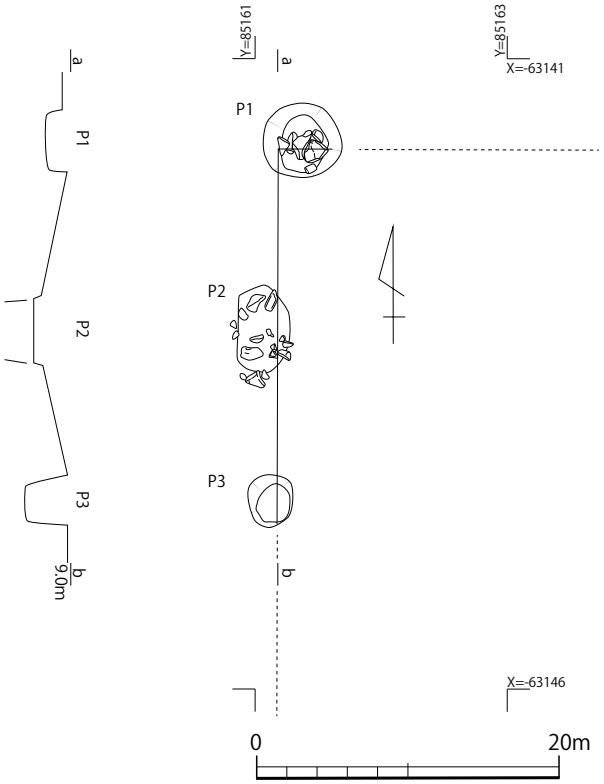
第 1 遺構面では、建物跡 3 棟、柵列跡 2 列を検出した。これらの遺構は 9 世紀中葉以降（T67 中央区では 12 世紀後半以降）の遺構と考えられる。他に同時期の遺構として護岸施設 1 箇所、石組遺構 1 箇所を検出した。



第 69 図　T66・T67　第 1 遺構面検出遺構平面図（S= 1 /200）

32 号建物跡（第 70 図）

T67 中央区の東端で検出した、1 間以上× 2 間の掘立柱建物跡で、主軸は正方位を向く。規模は南北 3.0m 以上（10 尺）で、柱間は 1.5m（5 尺）である。遺物は出土していない。



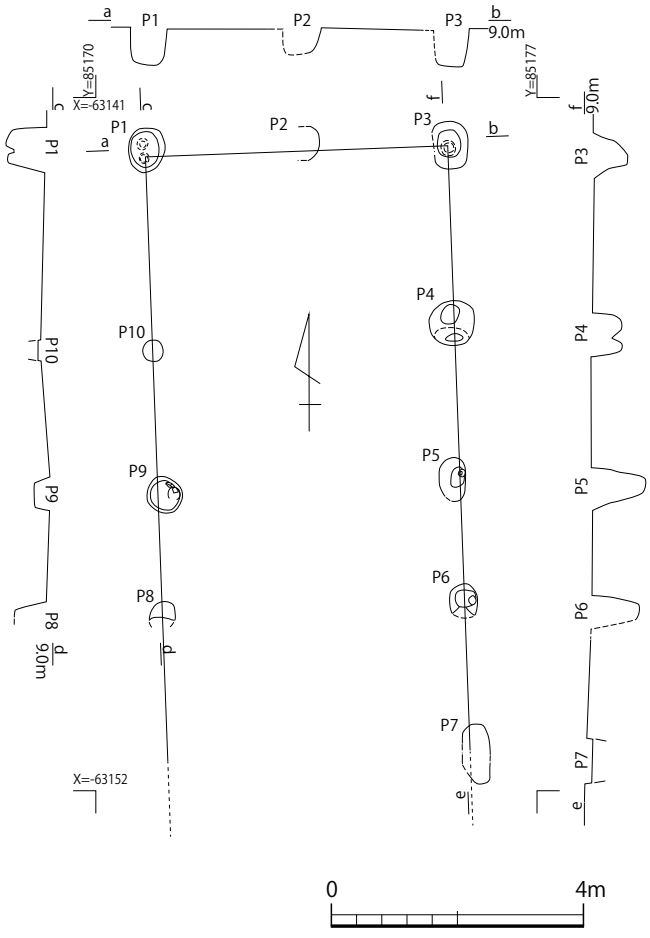
第 70 図　32 号建物跡実測図（S= 1 /60）

33 号建物跡（第 71 図）

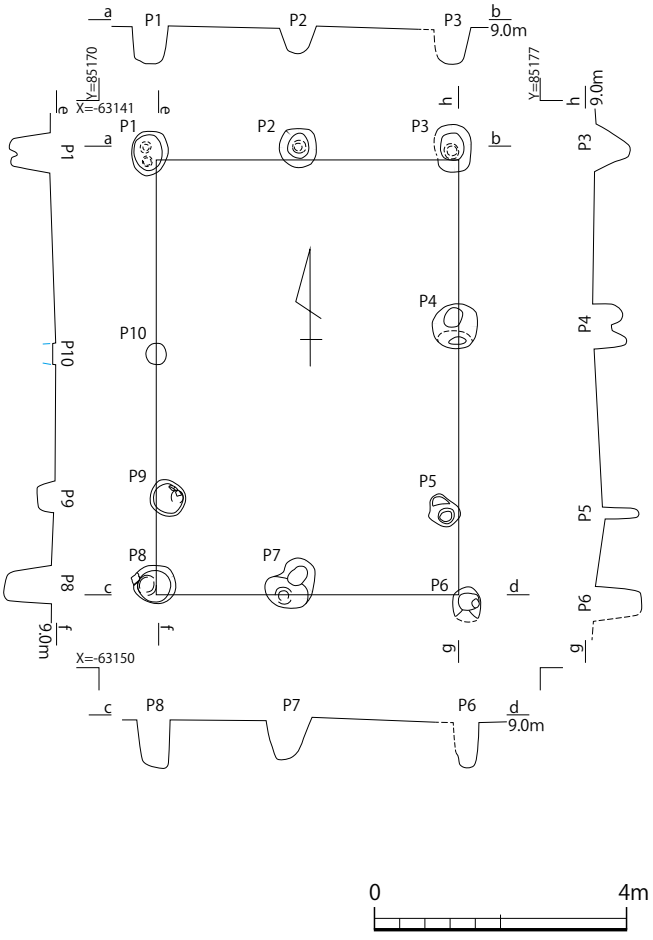
T56 の西側と T66 東区の東側で検出した、4 間以上、2 間の掘立柱建物跡で、主軸は正方位を向く。規模は 9.6m 以上（32 尺）× 4.8m（16 尺）で、柱間は桁行は北側の 2 間は 2.7m（9 尺）で、南側の 2 間は 2.1m（7 尺）である。梁行は 2.4m（8 尺）である。84 号溝、88 号溝、34 号建物跡と重複する。先後関係は 84 号溝、88 号溝より新しく、33 号建物跡が古い。P5、P6 から柱根が出土した。樹種同定では P5 の木材はクリで、P6 はヒノキ属と同定された。また、これらの柱根は AMS 年代測定では 16 世紀～ 17 世紀前半の年代が示された。

34 号建物跡（第 72 図）

T66 東区の東側で検出した、3 間以上、2 間の掘立柱建物跡で、主軸は正方位を向く。規模は 9.6m 以上（32 尺）× 4.8m（16 尺）で、柱間は桁行は北側の 2 間は 2.7m（9 尺）で、南側の 1 間は 1.5m（5 尺）である。梁行は 2.4m（8 尺）である。84 号溝、88 号溝、34 号建物跡と重複する。先後関係は 34 号建物跡が最も新しい。P5 から柱根が出土している。樹種同定では木材はクリと同定された。また、AMS 年代測定では 16 世紀～ 17 世紀前半の年代が示された。



第 71 図　33 号建物跡実測図（S= 1 /120）

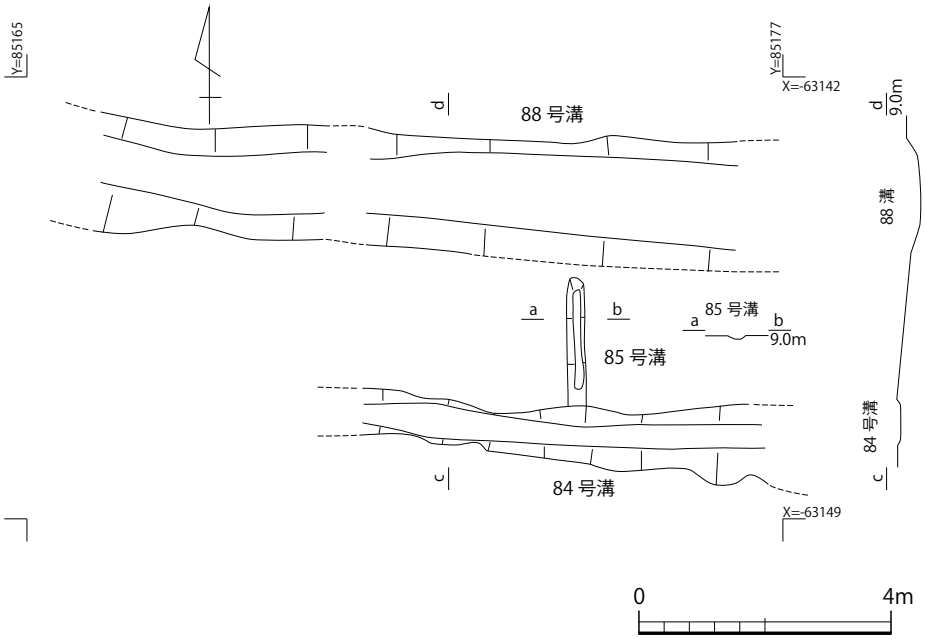


第 72 図　34 号建物跡実測図（S= 1 /120）

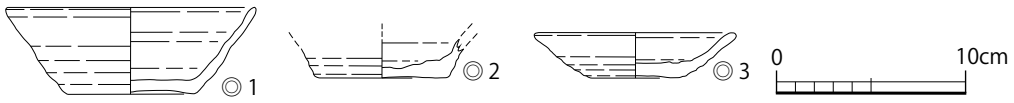
84 号溝（第 73 図、第 74 図）

T66 東区の南側で検出した東西に延びる溝跡で正方位を向く。幅は 0.6 ～ 1.3m、長さは 6.4m 以上、第 1 遺構面からの深さは 26㎝で、底面の標高は 8.65m となる。第 1 遺構面で検出した遺構では 35 号建物跡と 36 号建物跡と重複し、先後関係は 84 号溝が先行する。

遺物は６層から第６～７型式の須恵器と土師器が出土した。同じ場所で４層からも掘削しており、10 世紀後半以降にも存在したと考えられる。



第 73 図　84 号溝・85 号溝・88 号溝実測図（S= 1 /120）



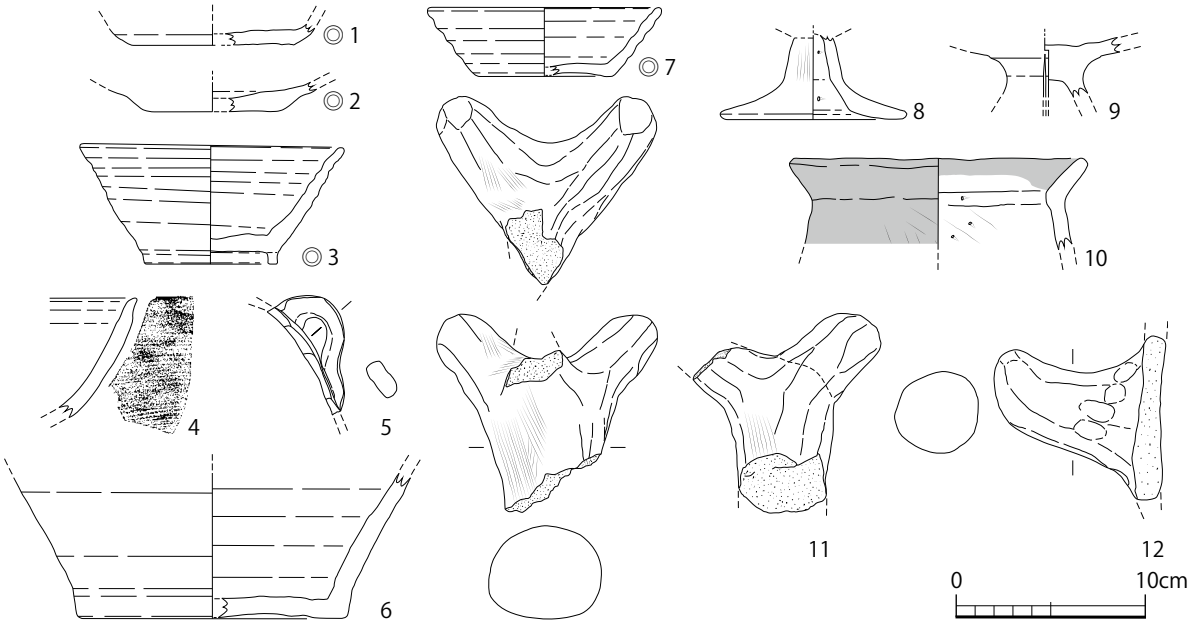
第 74 図　84 号溝出土遺物実測図（S= 1 /4）

85 号溝（第 73 図）

T66 東区の南側で検出した 84 号溝と 88 号溝の中間に位置する南北に延びる溝跡で、正方位を向く。幅は 0.3m、長さは 2m、第 1 遺構面からの深さは 0.28m で、底面の標高は 8.66m となる。第 1 遺構面で検出した遺構とは重複していない。遺物は出土していないが、84 号溝と接続していることから、同時期の遺構と判断した。

88 号溝（第 73 図、第 75 図）

T66 東区の北側で検出した東西に延びる溝跡で、主軸はほぼ正方位を向く。幅 0.7m ～ 1.3m で、長さ 10.6m 以上、深さは第 1 遺構面から 0.35m 前後で、底面は標高 8.55m 前後である。T67 中央区では 88 号溝の続きは検出できない。また、T66 西区の南壁の土層でも確認できない。T66 西区の範囲内で終わるか、南北の両側か片側へ屈曲すると考えられる。遺物は第 6 型式の須恵器や土師器の坏や、煮炊具などが出土した。

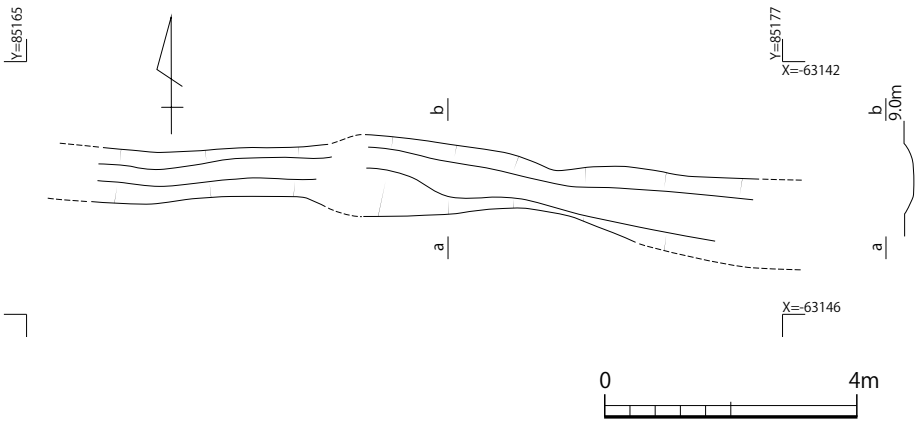


第 75 図　88 号溝出土遺物実測図（S= 1 /4）

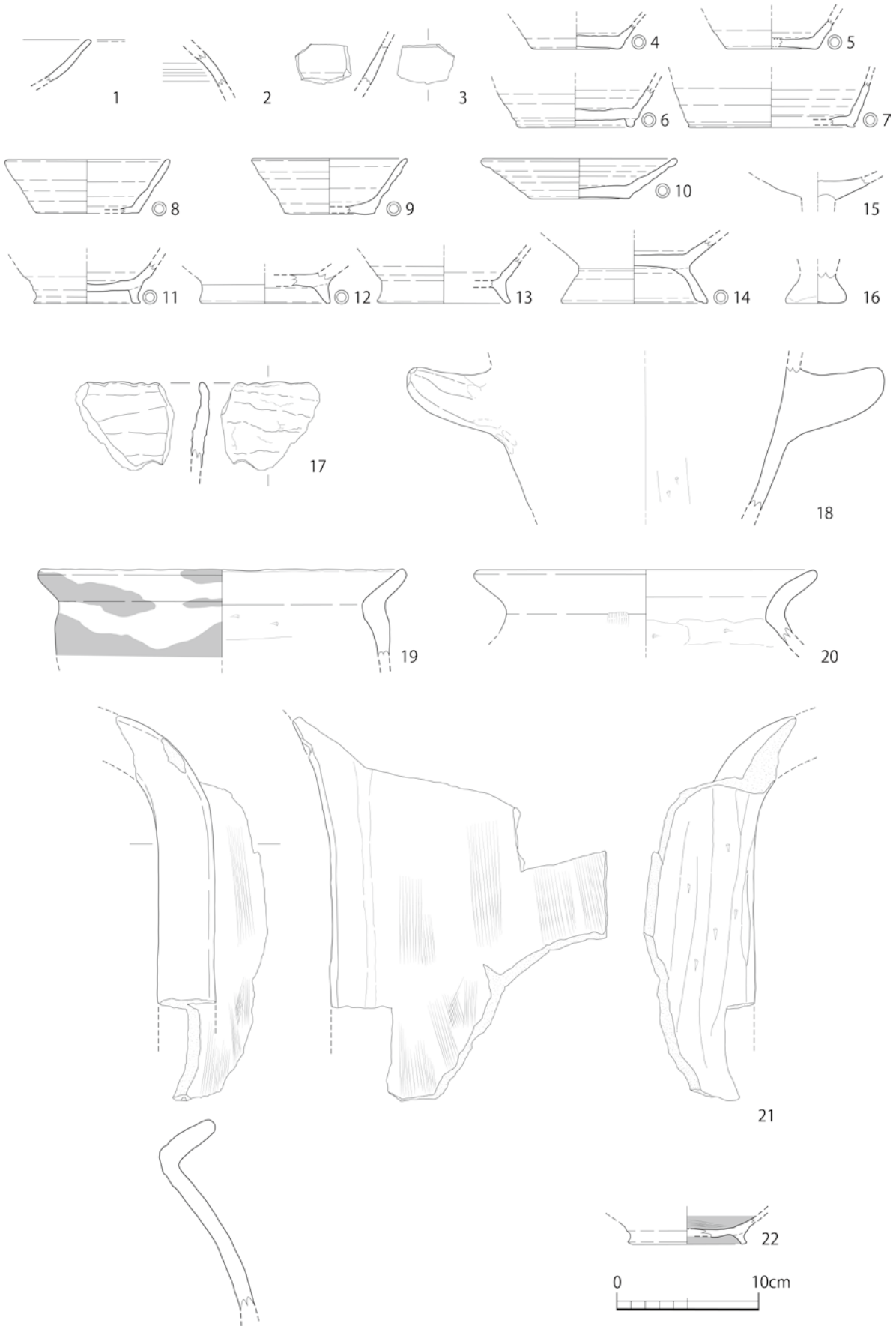
89 号溝（第 76 図、第 77 図）

T66 東区の北側で検出した東西に延びる溝跡で、主軸はほぼ正方位を向く。幅 1.8m で、長さ 10.6m 以上、深さは第 1 遺構面から 0.3m 前後で、底面の標高は 8.6m 前後となる。89 号溝、35 号建物跡、36 号建物跡と重複し、先後関係は 89 号溝より新しく、35 号建物や 36 号建物より古い。89 号溝をほぼ同じ位置に掘り直した溝で、89 号溝と同じく、T67 中央区や T66 西区の壁面では確認できないことから、T66 西区の範囲内で終わるか、南側か北側の両側か片側へ屈曲すると考えられる。

遺物は第 6 ～ 7 型式の須恵器や土師器の坏類の他、黒色土器、煮炊具、製塩土器などが出土した。



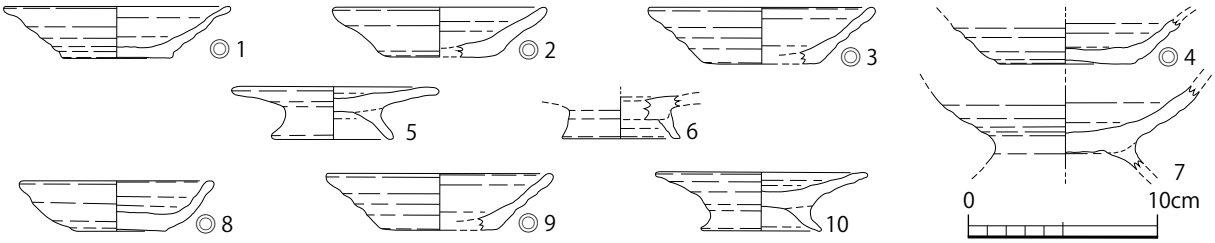
第 76 図　89 号溝実測図（S= 1 /120）



第 77 図　89 号溝出土遺物実測図（S= 1 /4）

15 号井戸（第 10 図、第 78 図）

T57 の東側で検査した。長径 1.23m、短径 1.17m を測る。第 1 遺構面より 1.0m まで掘削したが、水が湧き掘削を中断した。第 8 型式前後の土師器が大量に出土した。



1 ～ 7 上層、8 ～ 10 は下層

第 78 図　15 号井戸出土遺物実測図（S= 1 /4）

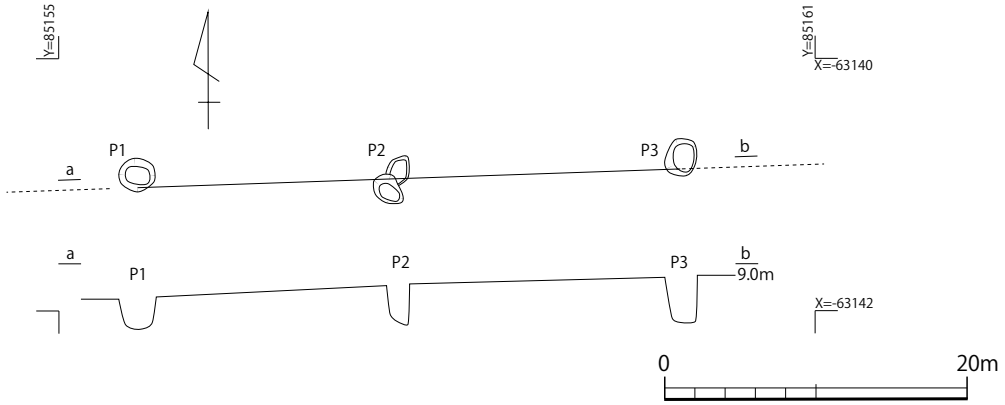
16 号井戸（第 79 図）

T66 北区の南端で検出した。長径 1.08m、短径 0.93m を測る。15 号井戸と形状や埋土が類似することから、井戸と判断した。段下げの際、第 6 ～ 8 型式の土師器が出土した。

第 79 図　16 号井戸出土遺物実測図（S= 1 /4）

9 号柵列（第 80 図）

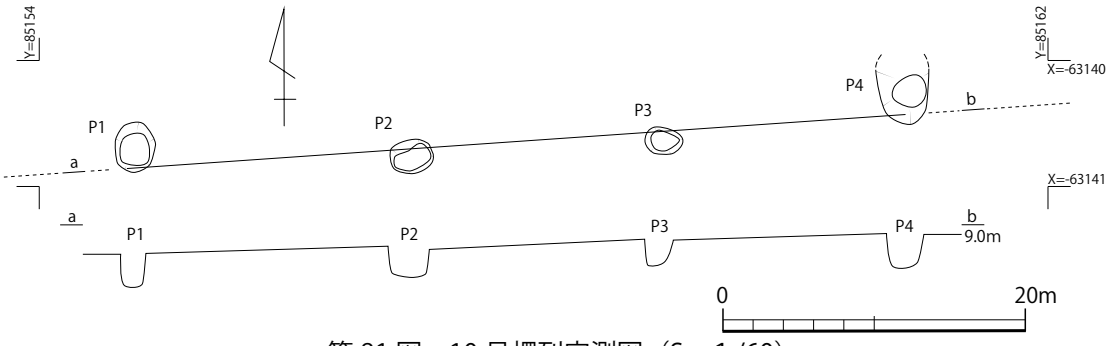
T67 中央区の北区で検出した、東西に並ぶ柵列で、主軸はほぼ正方位を向く。規模は 4.2m 以上（14 尺）で、柱間は 2.1 m（7 尺）である。



第 80 図　9 号柵列実測図（S= 1 /60）

10 号柵列（第 81 図）

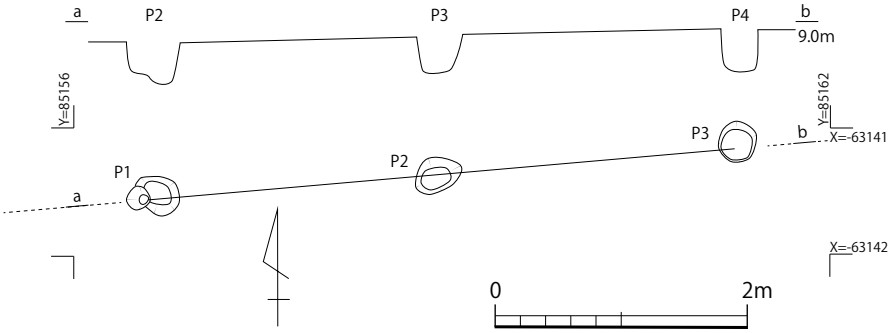
T67 中央区の北区で検出した、東西に並ぶ柵列で、主軸は西に傾く。9 号柵列の南側に位置する。規模は 6.3m 以上（21 尺）で、柱間は 2.1 m（7 尺）である。



第 81 図　10 号柵列実測図（S= 1 /60）

11 号柵列（第 82 図）

T67 中央区の北区で検出した、東西に並ぶ柵列で、主軸は西に傾く。10 号柵列の南側に位置する。規模は 4.8m 以上（16 尺）で、柱間は 2.4 m（8 尺）である。



第 82 図　11 号柵列実測図（S= 1 /60）

2 号護岸状施設（第 15 図、第 16 図）

T61 で検出した遺構である。法面の所々に木杭を立て、人頭大の円礫を積んでいる。意宇川左岸を補強した施設と考えられる。木杭 2 点の年代測定を実施したところ、1415 ～ 1445 年と、1458 ～ 1632 年という年代が示された。このことから、遺構は 15 世紀中葉～ 17 世紀前葉に築造されたと考えられる。木杭の他には、遺構の表面で 10 世紀～ 12 世紀の土器を採集したほか、意宇川の堆積土から弥生時代前期の土器（16-1）や、古墳時代の須恵器（16-2）、耳環（16-3）が出土した。

1 号石組遺構（第 19 図、第 20 図）

T63、T64、T65 で検出した木材と岩石で構築した東西に延びる遺構である。幅 4.6m、長さ 23m 以上、10 層上面から遺構上面まで 70㎝を測る。T63 では 10 層まで掘削し、T64 と T65 では遺構上面まで掘削した。中央に東西方向の木材を 1 本設置し、各所に 14 本の木杭が打ち込まれ、その後に南北 4.6 mの範囲内に一辺が 40 ～ 70㎝の凝灰岩を積み込んでいる。石組北側の法面には木材を鋸歯状に設置し、その外側の下部には木材を東西方向に設置している。南側の法面では同様の木組みは検出できなかった。遺構上面には意宇川の堆積層のみで、遺構の上部は流失している。遺構本来の高さは不明であるが、法面に組まれた鋸歯状の木組みは、X 字状であったと考えられる。

遺構の中央に立てられた木杭 1 点と、北側法面に鋸歯状に設置された木材 1 点をＡＭＳ年代測定で分析したところ、立てられた木杭は 1444 ～ 1616 年、鋸歯状に設置された木材は 1451 ～ 1625 年という年代が示された。15 世紀中葉～ 17 世紀前葉に築造されたと考えられる。遺構の表面では 12 ～ 13 世紀の磁器（20-1.2）が出土したが、これらは流れ込みと考えられる。

第 4 章　自然科学分析

第 1 節　出雲国府跡 T68 調査で検出された 1 号池状施設に関する自然科学分析

渡辺正巳：文化財調査コンサルタント (株)

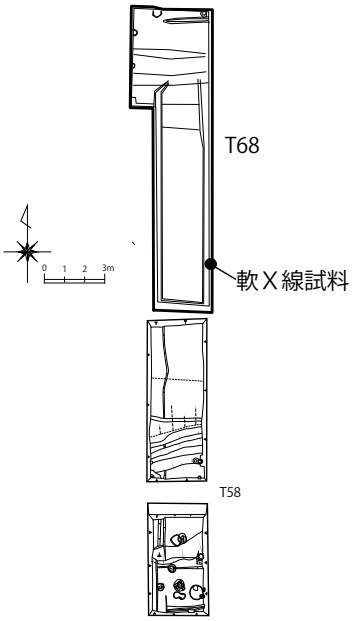
はじめに

出雲国府跡は島根県東部の松江市大草町中島に位置し、意宇川の成す扇状地上に立地する。本報は、出雲国府跡 T68 調査で検出された 1 号池状施設の用途、遺構内外の古植生などを明らかにする目的で、島根県教育庁埋蔵文化財センターが、文化財調査コンサルタント株式会社に委託・実施した軟Ｘ線写真観察、花粉分析、珪藻分析、AMS 年代測定について、再編したものである。

分析試料について

試料採取地点を第 83 図に、試料採取位置を第 84 図に示した。これらの図面は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより提供を受けた原図をもとに、作成したものである。

第 84 図中に、軟Ｘ線写真観察試料の採取位置を■で示した。軟Ｘ線写真観察後、試料を分割して、花粉分析、珪藻分析試料とした。また、10 層から別途年代測定試料を採取した。



第 83 図　試料採取地点

分析方法

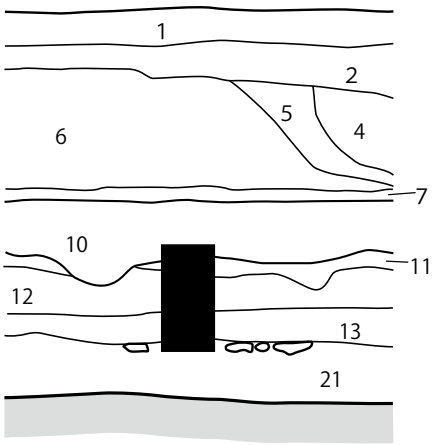
1）軟 X 線写真観察方法

試験室内にて、25 cm × 10cm × 1cm の透明アクリルケースに入るよう、試料調整を行う。

軟Ｘ線写真撮影では撮影用ケースに入れた印画紙に、40kVp・30mA の電流をかけた軟Ｘ線を照射し感光させる。撮影された写真はネガであり、軟Ｘ線の透過しやすい粘土、植物片は黒く、透過しにくい砂粒、二次的な酸化鉄や酸化マンガンは白く表現されている。

撮影写真を基にスケッチを行うとともに、「土壌記載薄片ハンドブック（久馬・八木：訳監修, 1989)」に準じて記載を行う。

L=9.00m



1. 暗褐色土 (10YR3/3)：表土。
2. 真砂土：公園造成土。
4. 黒褐色土 (10YR3/2)：埋め戻した耕作土。
5. 真砂土：公園造成土。
6. 黒褐色土 (10YR3/2)：旧耕作土 (田圃)。
7. 礫層：褐灰色土 (10YR4/1) に 10cm 以下の円礫が混じる。
10. 黒色土 (N2/)：土師器を非常に多く含む。炭を多く含む。20 ㎝以下の円礫をやや多く含む。
11. 黒色粘質土 (N2/)：
12. 褐灰色粘質土 (10YR4/1)：池状施設上層。5cm 以下の円礫を少し含む。
13. 褐灰色粘質土 (10YR5/1)：池状施設下層。
21. 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2)：土手状盛土。やや粗い砂層。やや粘性。

第 84 図　試料採取位置（T 68 東壁土層図）

2)　微化石概査方法

花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を顕微鏡下で観察し、花粉(胞子)、植物片、微粒炭、珪藻、植物珪酸体、火山ガラスの含有状況を 5 段階で示した。

3)　花粉分析方法

渡辺（2010a）に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が 200 粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また中村（1974）に従ってイネ科花粉を、イネを含む可能性が高い大型のイネ科（40 ミクロン以上）と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科 (40 ミクロン未満) に細分した。

4)　珪藻分析方法

渡辺（2010b）に従って実施した。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡下で 400 ～ 1000 倍を用いて実施した。同定・計数は、原則的に計数個体が 200 以上になるまで行った。

5)　AMS 年代測定方法

塩酸による酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。この後、二酸化炭素を生成、精製し、グラファイトに調整した。^{14} C 濃度の測定にはタンデム型イオン加速器を用い、半減期：5568 年で年代計算を行った。暦年代較正には OxCal ver. 4.3（Bronk Ramsey, 2009）を用い、INTCAL13 (Reymer et al., 2013) を利用した。

分析結果

1)　軟 X 線写真観察結果

T68 東壁において採取した試料の実視写真、軟Ｘ線写真、解析結果を第 86 図に示す。以下では、層ごとに下位から記載を行っていく。

① 21 層

灰黄褐色（10YR6/2）を呈す。礫混じり粘土質粗粒砂。根跡と考えられる直線的なチャンネルとその周囲を被覆するペドフューチャーが顕著である。極細粒で中～強度に発達した亜角塊状～軟粒状ペッド (粗砂？)、極細粒～細粒で強度に発達した小粒状ペッドがモザイク状に分布する。

② 13 層

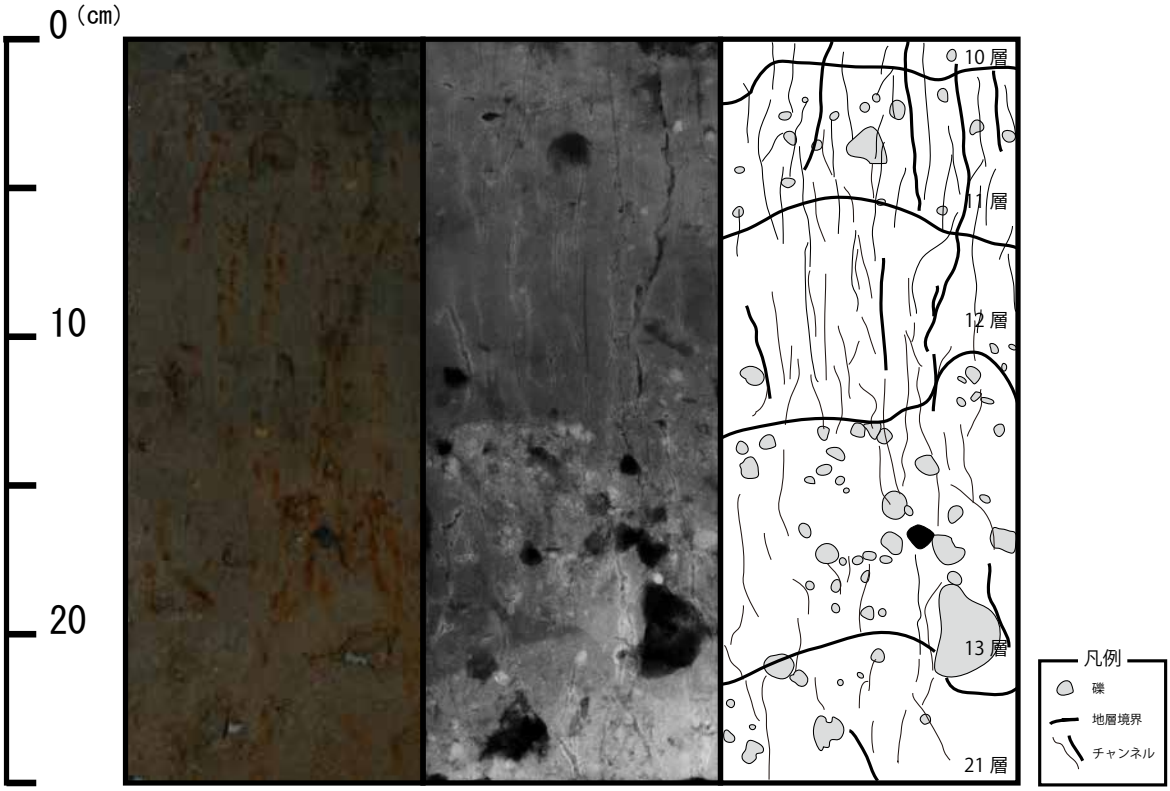
酸化鉄の染みだしが顕著で、褐灰色（10YR5/1）を呈す。礫混じり粘土質粗～極粗粒砂。根跡と考えられる直線的なチャンネルとその周囲を被覆するペドフューチャーが顕著である。極細粒で中～強度に発達した亜角塊状～軟粒状ペッド (粗砂？)、が顕著で、極細粒～細粒で強度に発達した小粒状ペッドが二次ペッドを成している。

③ 12 層

褐灰色（10YR4/1）を呈す。中粒砂混じり粘土。ラミナなど、堆積構造は認められなかった。根跡と考えられる直線的なチャンネルとその周囲を被覆するペドフューチャーが顕著である。極細粒～細粒で強度に発達した小粒状ペッドが、中～粗粒で中度に発達した二次ペッドを成している。

④ 11 層

黒色（N2/）を呈す。粗～極粗粒砂混じり粘土。ミナなど、堆積構造は認められなかった。根跡と考えられる直線的なチャンネルとその周囲を被覆するペドフューチャーが顕著である。中～粗粒で中～強度に発達したペッドが認められる。



第 85 図　軟Ｘ線写真観察結果

⑤ 10 層

黒色（N2/）を呈す。有機質粘土。根跡と考えられる直線的なチャンネルとその周囲を被覆するペドフューチャーが顕著である。試料整形時の崩壊部（根跡？：試料右側）で、細～中粒で強度に発達した小粒状ペッドが認められる。

2)　微化石概査結果

微化石概査結果を第 2 表に示す。

いずれの試料でも、花粉化石、珪藻化石が多量に検出されたほか、植物珪酸体、植物片、微粒炭、火山ガラスの検出量も多かった。

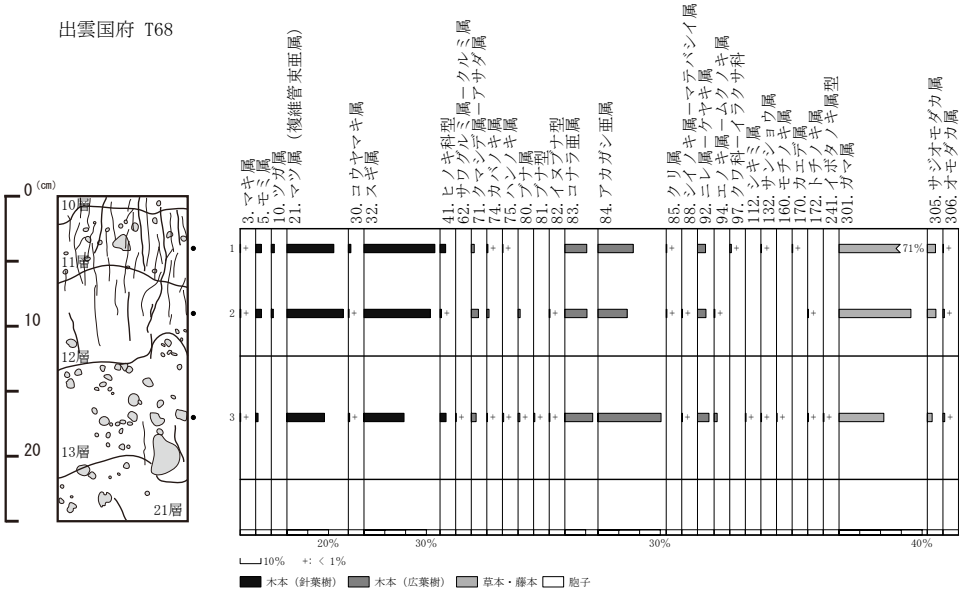
3)　花粉分析結果

分析結果を花粉ダイアグラム（第 86 図）と花粉組成表（第 3 表）に示す。花粉ダイアグラムでは、分類群ごとの百分率（百分率の算出には、木本花粉総数を基数にしている。）を、スペクトルで表している（木本（針葉樹）は黒、木本（広葉樹）は暗灰、草本・藤本は明灰、胞子は白のスペクトルで表した。）。[総合] では「木本（針葉樹）」、「木本（広葉樹）」、「草本・藤本」と「胞子」の割合を示すグラフを示した。[粒数] では「木本」、「草本・藤本」、「胞子」「花粉・胞子（全ての合計）」ごとに含有量（湿潤試料 1g 中の粒数）の変化を示している。

第 2 表　微化石概査結果

試料No.	花　粉	微粒炭	植物片	珪　藻	植物珪酸体	火山ｶﾞﾗｽ
1	◎	△	○	◎	○	○
2	◎	△	△	◎	○	○
3	◎	◎	○	◎	◎	○

凡例 ◎ ：十分な数量が検出できる　○ ：少ないが検出できる　△ ：非常に少ない
△×：極めてまれに検出できる　× ：検出できない



第 86 図　花粉

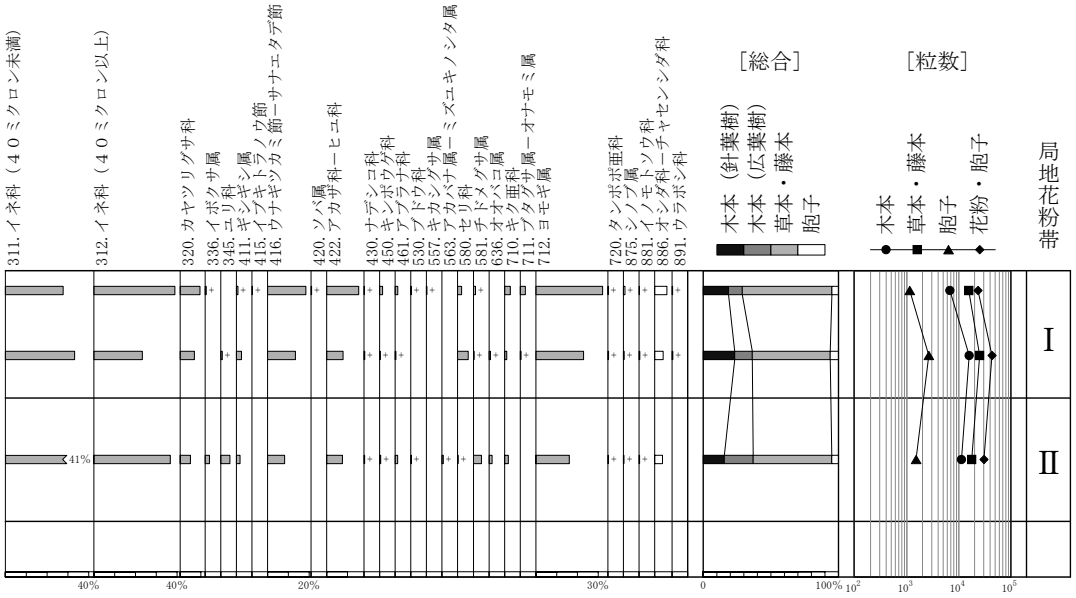
第 3 表　花粉化石組成表

	試料No.		1		2		3	
3	マキ属	Podocarpus	1	0%	1	0%	1	0%
5	モミ属	Abies	11	3%	8	3%	4	1%
10	ツガ属	Tsuga	6	1%	3	1%		
21	マツ属（複維管束亜属）	Pinus（Diploxylon）	92	23%	79	27%	62	18%
30	コウヤマキ属	Sciadopitys	5	1%	1	0%	2	1%
32	スギ属	Cryptomeria	139	34%	93	32%	66	19%
41	ヒノキ科型	Cupressaceae type	11	3%	2	1%	10	3%
62	サワグルミ属ークルミ属	Pterocarya- Juglans					1	0%
71	クマシデ属ーアサダ属	Carpinus- Ostrya	6	1%	10	3%	8	2%
74	カバノキ属	Betula	2	0%	3	1%	1	0%
75	ハンノキ属	Alnus	1	0%			2	1%
80	ブナ属	Fagus			3	1%	3	1%
81	ブナ型	Fagus crenata type					2	1%
82	イヌブナ型	Fagus japonica type			1	0%	1	0%
83	コナラ亜属	Quercus	43	11%	31	11%	46	13%
84	アカガシ亜属	Cyclobalanopsis	69	17%	41	14%	104	30%
85	クリ属	Castanea	1	0%	1	0%		
88	シイノキ属ーマテバシイ属	Castanopsis- Pasania			1	0%	1	0%
92	ニレ属ーケヤキ属	Ulmus- Zelkova	16	4%	12	4%	19	6%
94	エノキ属ームクノキ属	Celtis- Aphananthe			1	0%	5	1%
97	クワ科ーイラクサ科	Moraceae-Urticaceae	3	1%				
112	シキミ属	Illicium					1	0%
132	サンショウ属	Zanthoxylum	1	0%			1	0%
160	モチノキ属	Ilex					1	0%
170	カエデ属	Acer	1	0%				
172	トチノキ属	Aesculus			1	0%	1	0%
241	イボタノキ属型	Ligustrum type					1	0%
301	ガマ属	Typha	288	71%	101	35%	74	22%
305	サジオモダカ属	Alisma	16	4%	12	4%	8	2%
306	オモダカ属	Sagittaria	1	0%	2	1%	3	1%
311	イネ科（40ミクロン未満）	Gramineae(<40)	113	28%	97	33%	139	41%
312	イネ科（40ミクロン以上）	Gramineae(>40)	159	39%	68	23%	126	37%
320	カヤツリグサ科	Cyperaceae	39	10%	20	7%	17	5%
336	イボクサ属	Aneilema	2	0%			7	2%
345	ユリ科	Liliaceae			2	1%	15	4%
411	ギシギシ属	Rumex	3	1%	7	2%	6	2%
415	イブキトラノウ節	Bistorta	1	0%				
416	ウナギツカミ節ーサナエタデ節	Echinocaulon- Persicaria	75	18%	39	13%	28	8%
420	ソバ属	Fagopyrum	1	0%				
422	アカザ科ーヒユ科	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	63	15%	23	8%	26	8%
430	ナデシコ科	Caryophyllaceae	1	0%	1	0%	1	0%
450	キンポウゲ科	Ranunculaceae	6	1%	1	0%	2	1%
461	アブラナ科	Cruciferae	5	1%	1	0%	4	1%
530	ブドウ科	Vitaceae	1	0%			1	0%
557	キカシグサ属	Rotala	1	0%				
563	アカバナ属ーミズユキノシタ属	Epilobium- Ludwigia					2	1%
580	セリ科	Umbelliferae	8	2%	15	5%	1	0%
581	チドメグサ属	Hydrocotyle	4	1%	1	0%	13	4%
636	オオバコ属	Plantago			2	1%	5	1%
710	キク亜科	Carduoideae	11	3%	3	1%	6	2%
711	ブタグサ属ーオナモミ属	Ambrosia- Xanthium	10	2%	1	0%		
712	ヨモギ属	Artemisia	131	32%	67	23%	55	16%
720	タンポポ亜科	Cichorioideae	1	0%	1	0%	1	0%
875	シノブ属	Davallia	3	1%	1	0%	1	0%
881	イノモトソウ科	Pteridaceae	1	0%	1	0%	1	0%
886	オシダ科ーチャセンシダ科	Aspid.-Asple.	24	6%	12	4%	13	4%
891	ウラボシ科	Polypodiaceae	1	0%	1	0%		
898	単条溝胞子	MONOLATE-TYPE-SPORE	14	3%	16	5%	17	5%
899	三条溝胞子	TRILATE-TYPE-SPORE	26	6%	18	6%	14	4%
	木本花粉総数		408	29%	292	36%	343	37%
	草本・藤本花粉総数		940	66%	464	58%	540	58%
	胞子総数		69	5%	49	6%	46	5%
	総数		1417		805		929	
	含有量（粒数/g）		23325		43398		30351	

4)　珪藻分析

分析結果を珪藻ダイアグラム（第 87 図）及び珪藻総合ダイアグラム（第 88 図）、珪藻組成表（第 4 表）に示す。珪藻ダイアグラムでは、分類群ごとに検出総数を基数とした百分率を算出し、千葉・澤井（2014）に従った環境指標種群ごとにハッチを変えたスペクトルで示している。さらに、環境指標種群ごとの [累積グラフ]、[含有量：1g 当たりの換算含有量を算出]、[完形率] を付けている。珪藻総合ダイアグラムのうち、左端の「生息域別グラフ」は同定したすべての種類を対象にそれぞれの要因（生息域）ごとに累積百分率で示している。そのほかの 4 つのグラフは、淡水種について要因ごとに累積百分率として示している。

試料№ 3 では淡水・底生種の *Pinnularia* spp. が 38 % と高率を



ダイアグラム

示すが、この外高率を示す分類群はなかった。生息域で見ると、*Cymbella tumida* などの止水・底生種が低率であるが検出される。

試料№2、1では淡水・底生種の *Achnanthes lanceolata*、*Pinnularia viridis*、*Pinnularia* spp. などが高率になる。生息域で見ると、止水種がなくなり、流水種の A*chnanthes lanceolata*、*Navicula elginensis* が低率であるが検出される。

5)　AMS 年代測定

年代測定結果を第 89 図及び第 5 表に示す。第 89 図には、OxCal ver. 4.3（Ramsey, 2009）による試料の暦年較正図を示した。第 5 表には、試料の詳細、前処理方法、δ^{13}C 値と測定年代など 4 種類の年代を示している。

花粉分帯

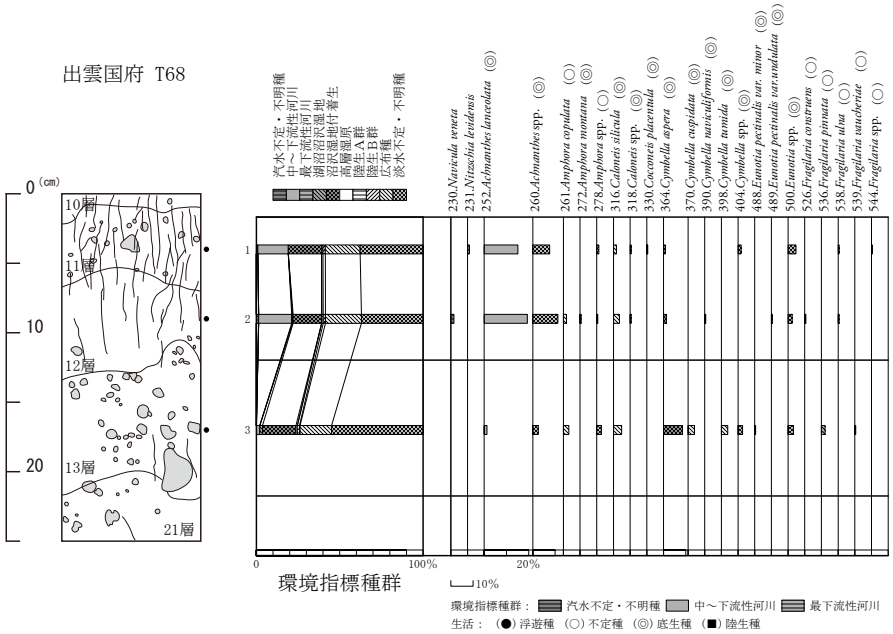
花粉分析結果を基に、花粉分帯を行った。以下に、各（局地）花粉帯の特徴を記載する。また、時間的な推移か明らかになるよう、下位から上位に向かって記載を行った。

1)　II 帯（試料№3）

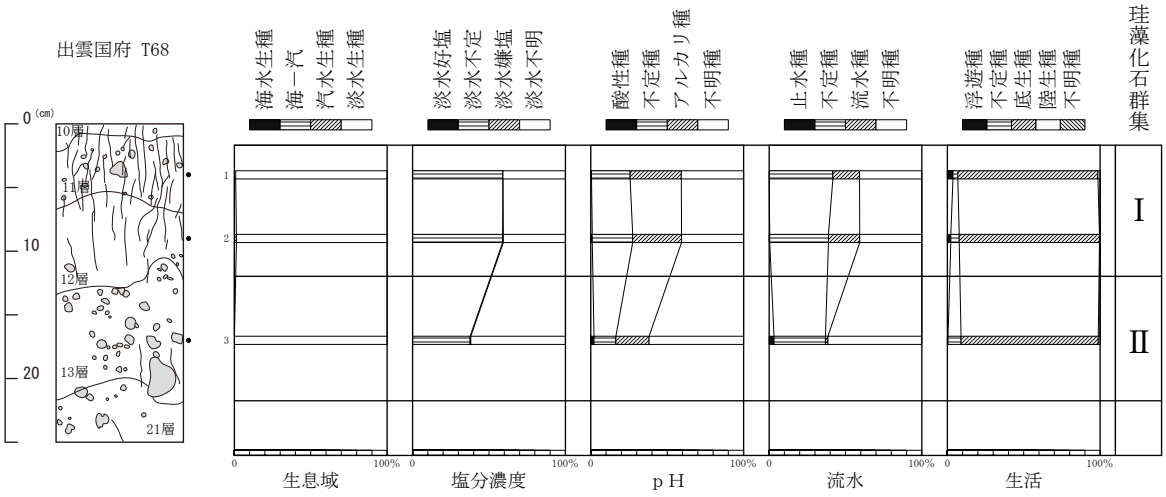
アカガシ亜属が他の種類に比べ高率を示すほか、スギ属、マツ属

第 4 表　珪藻化石組成表

			生息域 水域	塩分濃度	Ph	流水	生活	1		2		3	
230	Navicula	veneta	汽水							3	1%		
231	Nitzschia	levidensis	汽水					2	1%				
252	Achnanthes	lanceolata	淡水	不定	アルカリ	流水	底生	34	15%	43	19%	3	1%
260	Achnanthes	spp.	淡水	不明	不明	不明	底生	17	8%	25	11%	6	2%
261	Amphora	copulata	淡水	不明	不明	不明	不定			3	1%	6	2%
272	Amphora	montana	淡水	不定	アルカリ	不明	底生			1	0%		
278	Amphora	spp.	淡水	不明	不明	不明	不定	2	1%	1	0%	5	2%
316	Caloneis	silicula	淡水	不定	アルカリ	不定	底生	3	1%	6	3%	9	4%
318	Caloneis	spp.	淡水	不明	不明	不明	底生	1	0%	1	0%		
330	Cocconeis	placentula	淡水	不定	アルカリ	不定	底生	1	0%				
364	Cymbella	aspera	淡水	不定	アルカリ	不定	底生	2	1%	3	1%	21	9%
370	Cymbella	cuspidata	淡水	不定	不定	不定	底生					7	3%
390	Cymbella	naviculiformis	淡水	不定	不定	不定	底生			1	0%		
398	Cymbella	tumida	淡水	不定	アルカリ	止水	底生					7	3%
404	Cymbella	spp.	淡水	不明	不明	不明	底生	3	1%			5	2%
488	Eunotia	pectinalis var. minor	淡水	嫌塩	酸性	不定	底生					1	0%
489	Eunotia	pectinalis var.undulata	淡水	嫌塩	酸性	不定	底生			1	0%		
500	Eunotia	spp.	淡水	不明	不明	不明	底生	8	4%	4	2%	6	2%
526	Fragilaria	construens	淡水	不定	アルカリ	不定	不定			1	0%		
536	Fragilaria	pinnata	淡水	不定	アルカリ	不定	不定					4	2%
538	Fragilaria	ulna	淡水	不定	アルカリ	不定	不定	1	0%	1	0%		
539	Fragilaria	vaucheriae	淡水	不明	不明	流水	不定					1	0%
544	Fragilaria	spp.	淡水	不明	不明	不明	不定	1	0%				
588	Gomphonema	parvulum	淡水	不定	不定	不定	底生	12	5%	16	7%	3	1%
604	Gomphonema	spp.	淡水	不明	不明	不明	底生	8	4%	7	3%	3	1%
635	Hantzschia	amphioxys	淡水	不定	アルカリ	不定	陸生					2	1%
696	Melosira	varians	淡水	不定	アルカリ	不定	浮遊	6	3%	1	0%	1	0%
716	Navicula	americana	淡水	不定	不定	止水	底生					1	0%
725	Navicula	confervacea	淡水	不定	不定	不定	底生	2	1%	2	1%	1	0%
726	Navicula	contenta	淡水	不定	アルカリ	不定	陸生			1	0%	1	0%
730	Navicula	cuspidata	淡水	不定	アルカリ	不定	底生	21	9%	11	5%	2	1%
734	Navicula	elginensis	淡水	不定	アルカリ	流水	底生	4	2%	1	0%		
764	Navicula	mutica	淡水	不定	不定	不定	陸生	2	1%				
776	Navicula	pupula	淡水	不定	不定	不定	底生			2	1%		
796	Navicula	spp.	淡水	不明	不明	不明	底生	7	3%	13	6%	9	4%
812	Neidium	ampliatum	淡水	不明	不明	不明	底生					2	1%
835	Neidium	spp.	淡水	不明	不明	不明	底生					1	0%
836	Nitzschia	frustulum	淡水	不明	不明	流水	不定			1	0%		
848	Nitzschia	palea	淡水	不定	不定	不定	浮遊	2	1%	4	2%		
854	Nitzschia	spp.	淡水	不明	不明	不明	不定	3	1%	4	2%	5	2%
870	Pinnularia	acrosphaeria	淡水	不定	不定	止水	底生			1	0%		
892	Pinnularia	gibba	淡水	不定	酸性	不定	底生	1	0%	1	0%	4	2%
926	Pinnularia	subcapitata	淡水	不定	不定	不定	底生			1	0%		
930	Pinnularia	viridis	淡水	不定	不定	不定	底生	25	11%	21	9%	12	5%
932	Pinnularia	spp.	淡水	不明	不明	不明	底生	32	14%	26	12%	92	38%
940	Stauroneis	acuta	淡水	不定	アルカリ	不定	底生	1	0%	1	0%	3	1%
941	Stauroneis	circumborealis	淡水	不明	不明	不明	底生	5	2%	3	1%	8	3%
942	Stauroneis	obtusa	淡水	不明	不明	不明	陸生	1	0%				
943	Stauroneis	phoenicenteron	淡水	不定	不定	不定	底生	12	5%	10	5%	11	4%
945	Stauroneis	spp.	淡水	不明	不明	不明	底生	1	0%			2	1%
972	Surirella	spp.	淡水	不明	不明	不明	不定			1	0%		
994	Unknown		不明					4	2%			1	0%
			海水産種合計					0	0%	0	0%	0	0%
			海～汽水産種合計					0	0%	0	0%	0	0%
			汽水産種合計					2	1%	3	1%	0	0%
			淡水産種合計					218	97%	219	99%	244	100%
			不明種合計					4	2%	0	0%	1	0%
			合　計					224		222		245	
			含有量(粒数/g)合計					206025		345871		26459	
			完形率	完形数				123		116		61	
				%				54.9		52.3		25	



第 87 図　珪藻



第 88 図　珪藻総合ダイアグラム

（複維管束亜属）、コナラ亜属もやや高い出現率を示す。草本・藤本花粉ではイネ科（40 ミクロン未満）、イネ科（40 ミクロン以上）のほか、ガマ属、ヨモギ属が高率を示す。

2)　Ⅰ帯（試料№ 2、1）

試料№ 2、1 ではスギ属が最も高率で出現するほか、マツ属（複維管束亜属）、アカガシ亜属、コナラ亜属と続く。草本・藤本花粉ではガマ属が高率を示し、イネ科（40 ミクロン未満）が 30％程度、イネ科（40 ミクロン以上）、ヨモギ属が続く。

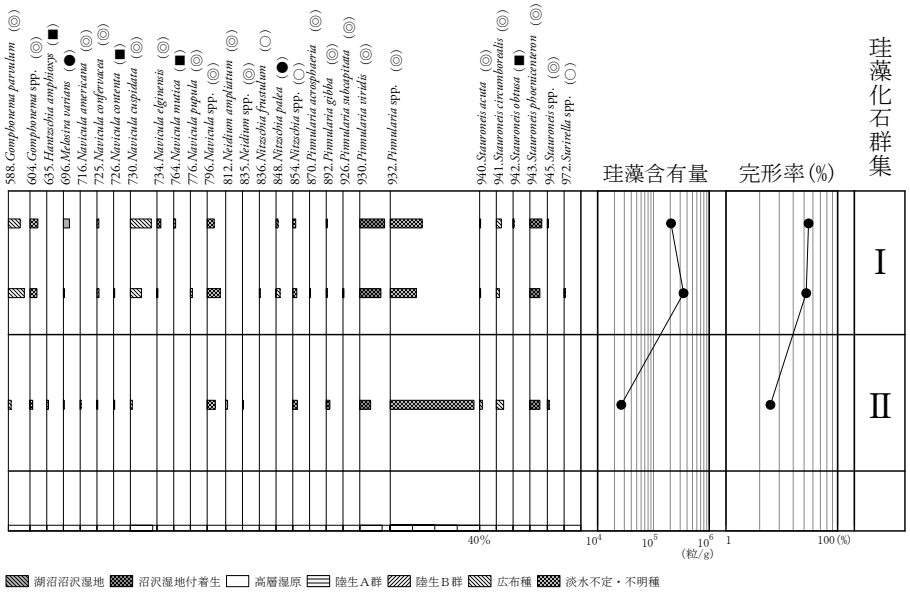
珪藻化石群集の設定

珪藻分析結果を基に、珪藻化石群集の設定を行った。

以下に、珪藻化石群集の特徴を記載する。また、時間的な推移か明らかになるよう、下位から上位に向かって記載を行った。

1)　Ⅱ帯（試料№ 3）

淡水・底生種がほとんどを占める。また、止水種が低率であるが検出される。また、淡水・底生種の *Pinnularia* spp. が高率を示す。



ダイアグラム

2)　Ⅰ帯（試料№2、1）

淡水・底生種がほとんどを占めるが、淡水・浮遊種が若干検出される。また、止水種がなくなり、流水種がやや増加する。

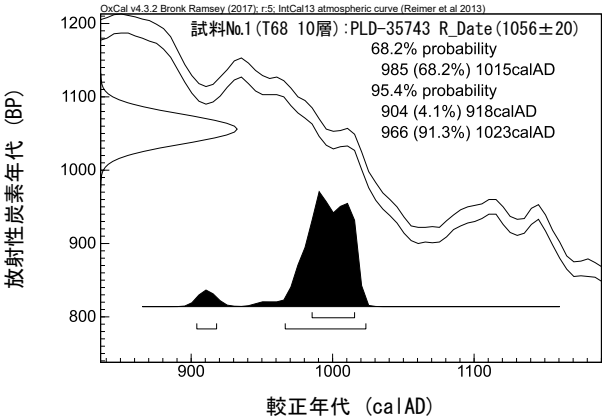
1号池状施設の性質について

分析を行った、11 ～ 13 層が、1 号池状施設を埋めている。軟Ｘ線写真観察では、いずれも直線的な上下方向に伸びるチャンネルが発達しており、ペッドもやや発達していることから、根による生物擾乱の影響を強く受けていると考えられる。

1 号池状施設内の植生を示すと考えられる、草本花粉では湿性植物のガマ属が多量に検出され、上位に向かい増加している。また、イネ科雑草に由来する可能性が高いイネ科（40 ミクロン未満）も高率で検出される。このほか、サジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、セリ科などの湿性植物由来の花粉が検出される。

珪藻分析結果では底生種が高率で、浮遊種、陸生種はごく僅かであった。また、下位の試料№3 では止水種が検出され、流水種がごく僅かであったが、上位の試料№2、1 では止水種が検出されず、流水種が増加する。

これらのことから、1 号池状施設は水深の浅い池であったと考えられ、池内にはガマ類、サジオモダカ、オモダカ、ヨシ、イボクサ、セリなどが生育していた。これらは抽水植物で、



第 89 図暦年較正図

第 5 表　　AMS 年代測定結果

No.	試料 出土地点(遺構ほか)	試料 状況	試料 重量(g)	前処理	δ13C (‰)	測定年代*1 (yrBP±1σ)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	補正年代*2 (yrBP±1σ)	暦年較正年代 1σ暦年代範囲	暦年較正年代 2σ暦年代範囲	測定番号 (PLD-)
1	T68 10層(黒色土層) 20170921	炭化材	5.7297	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N)	-24.89±0.18	1055±20	1056±20	1055±20	985-1015 cal AD (68.2%)	904- 918 cal AD (4.1%) 966-1023 cal AD (91.3%)	35743

*1 δ13C補正無年代　*2 δ13C補正年代

水面に葉や茎を伸ばしている。水面はこれらに覆われ、閉鎖的であった可能性がある。また含有量の変化から、初期（13 層）にはヨシが多く分布していたが、徐々（12、11 層）にガマ類が分布域を広げた可能性が示唆される。

古植生（森林植生）

花粉分析結果を基に、遺跡周辺地域での古植生について考察する。

出雲国府跡内では、遺構内堆積物を対象として花粉分析が実施されている（渡辺，2003 など）。

第 7 トレンチ 4 号溝での花粉分析結果（渡辺，2003）では、花粉化石群集を上下に 2 分し、上位を Ⅰ 帯 a 亜帯、下位を Ⅰ 帯 b 亜帯としている。下位の Ⅰ 帯 b 亜帯はスギ属が高率で、マツ属（複維管束亜属）を伴い、アカガシ亜属が低率になるなど、今回の Ⅰ 帯 a 亜帯と類似する。今回の Ⅰ 帯 a 亜帯では、ややマツ属（複維管束亜属）が高率で、アカガシ亜属がやや低率を示すこと、第 7 トレンチ 4 号溝での Ⅰ 帯 a 亜帯ではマツ属（複維管束亜属）が増加していることからから、第 7 トレンチ 4 号溝での Ⅰ 帯 b 亜帯よりやや新しく、a 亜帯よりやや古い時期の植生を表している可能性が指摘できる。これらのことから、今回の Ⅰ 帯 b 亜帯は第 7 トレンチ 4 号溝での Ⅰ 帯 b 亜帯より古い時期の植生を表している可能性が指摘できる。

花粉分析結果から、国府周辺の丘陵にはカシ類を主要素とする照葉樹林で覆われ、ているが、平野近くにはアカマツやナラ類を要素とする薪炭林（里山）となっていたと考えられる。また、徐々に開発が進み、照葉樹林が縮小し薪炭林（里山））が拡大していったと考えられる。また、意宇川流域の低地や支谷流域にはスギ林が分布していたと考えられる。

まとめ

出雲国府跡 T68 で検出された 1 号池状施設埋土の花粉、珪藻分析結果、及び AMS 年代測定結果から、以下の事柄を推定した。

1) 花粉分析結果を基に Ⅰ、Ⅱ帯の局地花粉帯を、珪藻分析結果を基に Ⅰ Ⅱ帯の珪藻化石群集を設定した。また、花粉分析結果を第 7 トレンチ 4 号溝での花粉分析結果と比較した。

2) 1 号池状施設内は、ガマ類、ヨシ、サジオモダカ、オモダカ、イボクサやセリなどが生育し、水面は閉鎖的であったと考えられる。また、初期にはガマが少なくヨシが多く、徐々にガマが多くなっていったと考えられる。

3) 花粉分析結果を基に、出雲国府周辺の森林植生を推定した。

【引用文献】

中村　純（1974）イネ科花粉について、特にイネを中心として . 第四紀研究 , 13,187-197.

千葉　崇・澤井祐紀（2014）環境指標種群の再検討と更新．Diatom，30，17-30.

渡辺正巳（2003）出雲国府における花粉および植物遺体分析．史跡出雲国風土記 1 , 風土記の丘 地内遺跡発掘調査報告書，14，209-216., 島根県教育委員会.

渡辺正巳（2010a）花粉分析法．必携 考古資料の自然科学調査法，174-177. ニュー・サイエンス社.

渡辺正巳（2010b）珪藻分析法．必携 考古資料の自然科学調査法，174-177. ニュー・サイエンス社.

Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

第 2 節　出雲国府跡発掘調査に伴う AMS 年代測定及び樹種同定

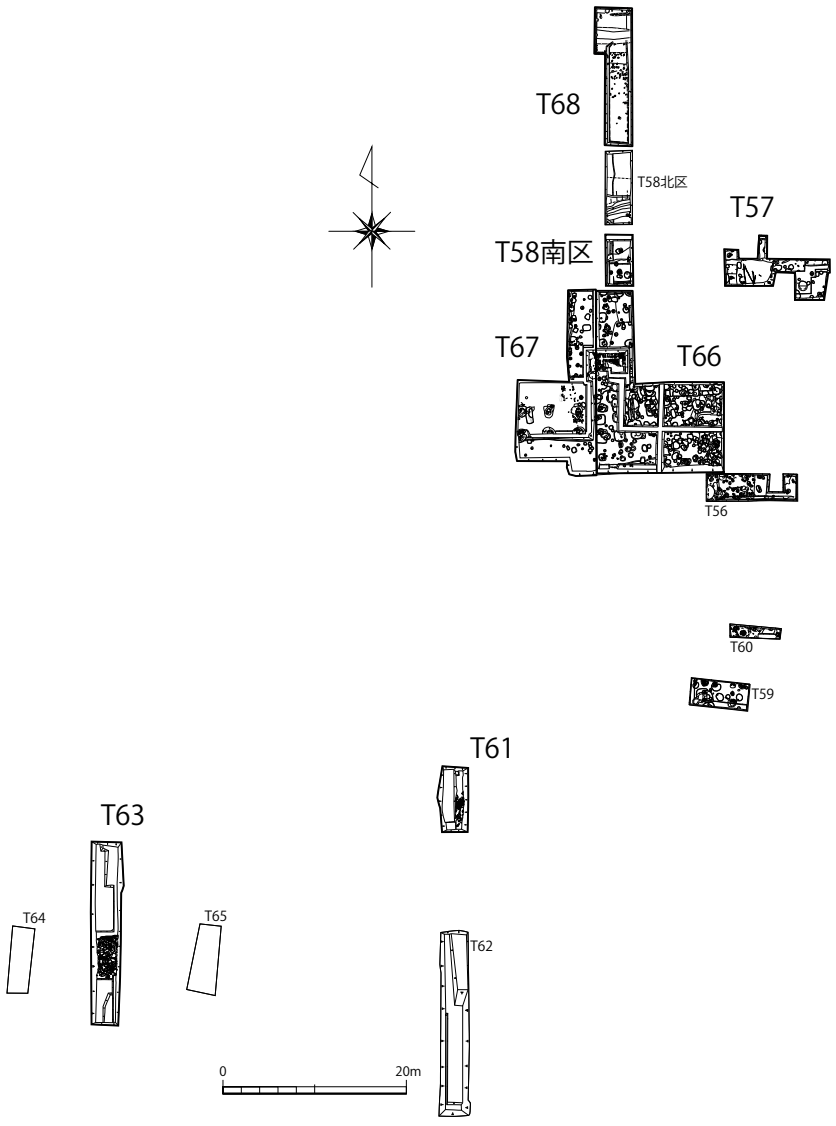
渡辺正巳：文化財調査コンサルタント (株)

はじめに

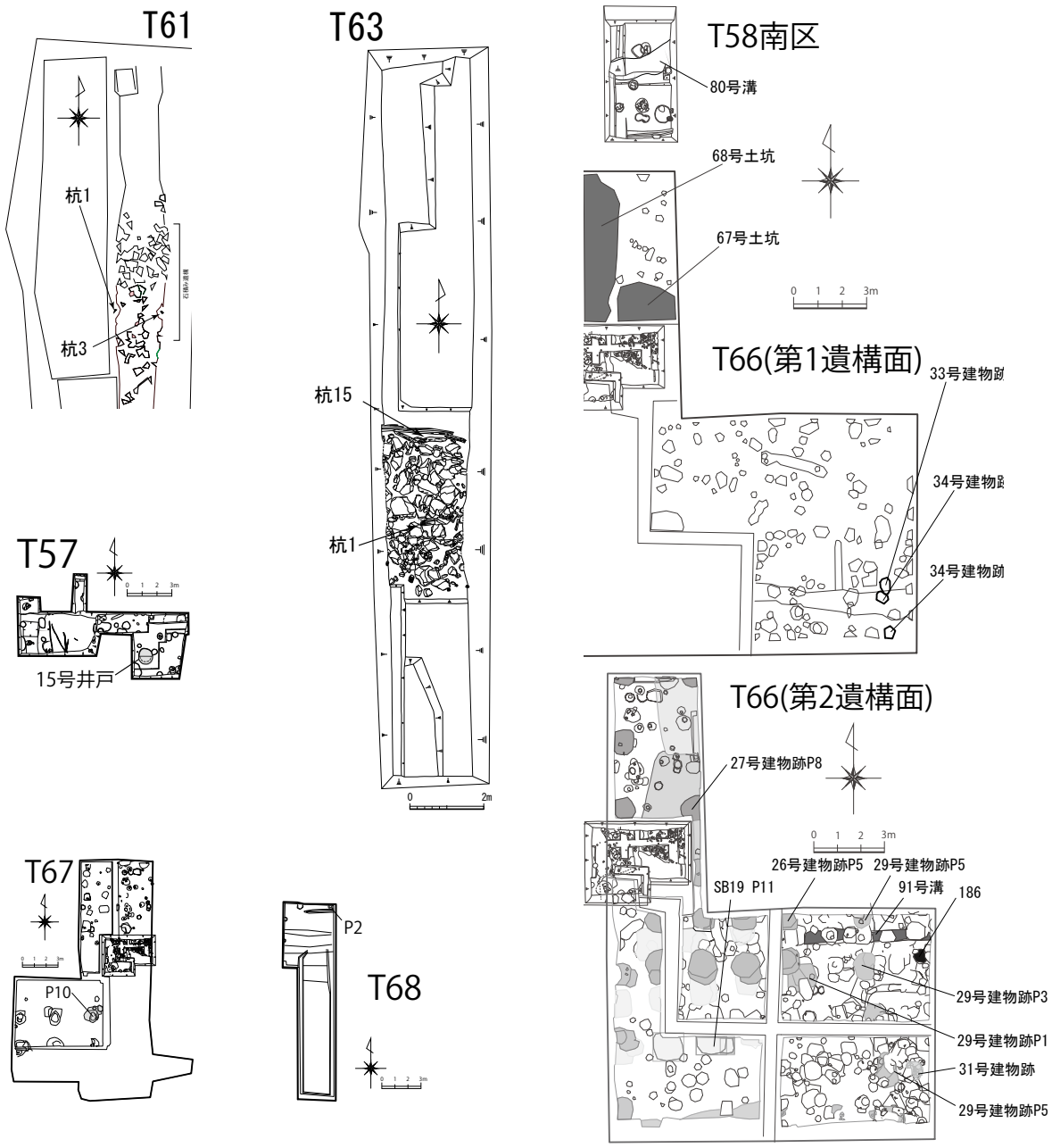
出雲国府跡は島根県東部の松江市大草町中島に位置し、意宇川の成す扇状地上に立地する。本報は、出雲国府跡発掘調査で検出された遺構の年代確認、及び柱材の樹種確認の目的で、島根県教育庁埋蔵文化財センターが、文化財調査コンサルタント株式会社に委託・実施した AMS 年代測定及び樹種同定について、再編したものである。

分析試料について

第 90 図に示した各トレンチから採取・保管中の試料から、分析試料の御提供を受けた。また、詳細な試料採取位置を、第 91 図に示した。これらの図面は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより提供を受けた原図をもとに、作成したものである。



第 90 図　試料採取地点



第 91 図　試料採取位置（調査区平面図）

分析方法

1）AMS 年代測定方法

塩酸による酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。この後、二酸化炭素を生成、精製し、グラファイトに調整した。^{14} C 濃度の測定にはタンデム型イオン加速器を用い、半減期：5568 年で年代計算を行った。暦年代較正には OxCal ver. 4.3（Bronk Ramsey, 2009）を用い、INTCAL13 (Reymer et al., 2013) を利用した。

2)　樹種同定方法

顕微鏡観察用永久プレパラートは、渡辺（2010）に従い作成した。作成した永久プレパラートには整理番号を付け、文化財調査コンサルタント株式会社にて保管・管理をしている。顕微鏡観察は、光学顕微鏡下で 4 倍～ 600 倍の倍率で行った。同定した分類群ごとに最も特徴的な試料について、顕微鏡写真撮影を行うとともに、島地ほか（1985）の用語に基本的に従い、記載を行った。

第６表　試料一覧 (分析結果)

試料								前処理	δ13C (‰)	δ13C補正無年代 (yrBP±1σ)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	14C 年代 (yrBP±1σ)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲		測定番号
調査区	出土地点（遺構ほか）	状況	種類名	重量(g)	整理番号	樹種名	推定時期						1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	
T61	杭1	木片	杭	2.9755			近世以前	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-28.99±0.27	550±19	483±19	485±20	AD1423-1440(68.2%)	AD1415-1445(95.4%)	PLD-30738
	杭3	木片	杭	2.0848			近世以前	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-28.71±0.18	421±18	359±18	360±20	AD1470-1520(43.7%) AD1593-1619(24.5%)	AD1458-1524(52.0%) AD1558-1632(43.4%)	PLD-30739
T63	杭1	木片	杭	8.3789			近世以前	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-24.56±0.16	388±17	395±17	395±15	AD1450-1480(68.2%)	AD1444-1499(86.3%) AD1601-1616(9.1%)	PLD-30760
	杭15	木片	杭	8.1152			近世以前	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-27.09±0.28	405±18	370±18	370±20	AD1463-1513(50.1%) AD1601-1617(18.1%)	AD1451-1523(64.3%) AD1575-1625(31.1%)	PLD-30761
T57	15号井戸	炭化材		11.8484			時期未定	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N)	-24.84±0.21	1061±20	1063±20	1065±20	976-1015 cal AD (68.2%)	901- 921 cal AD (8.8%) 953-1021 cal AD (86.6%)	PLD-35742
T58南区	80号溝(黒色土)	木片		0.0888	W17020501	クリ	奈良時代	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-26.50±0.20	1210±16	1185±16	1185±15	778-792 cal AD (13.8%) 804-842 cal AD (32.6%) 859-882 cal AD (21.8%)	775-887 cal AD (95.4%)	PLD-33687
T66	34号建物跡 P5	木片	柱	0.7448	W17020502	クリ	時期未定	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-28.65±0.14	383±17	322±16	320±15	1520-1530 cal AD (8.4%) 1540-1592 cal AD (46.4%) 1619-1635 cal AD (13.5%)	1494-1602 cal AD (76.2%) 1616-1642 cal AD (19.2%)	PLD-33685
	33号建物跡 P5	木片	柱	0.1041	W17020504	クリ	時期未定	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-26.99±0.11	393±16	360±16	360±15	1474-1516 cal AD (43.7%) 1596-1618 cal AD (24.5%)	1459-1523 cal AD (55.3%) 1572-1630 cal AD (40.1%)	PLD-33686
	34号建物跡 P6	木片	柱	1.0751	W17020503	ヒノキ属	時期未定	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-26.32±0.15	354±17	331±16	330±15	1514-1527 cal AD (11.2%) 1554-1600 cal AD (42.3%) 1617-1633 cal AD (14.7%)	1489-1604 cal AD (76.7%) 1611-1638 cal AD (18.7%)	PLD-33688
	67号土坑	炭化材		0.0498			9～13世紀	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-25.50±0.15	1193±17	1184±16	1185±15	778-792 cal AD (13.7%) 804-842 cal AD (32.1%) 859-883 cal AD (22.4%)	775-887 cal AD (95.4%)	PLD-33695
	68号土坑	炭化材		0.1932			9～13世紀	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-25.66±0.17	1246±17	1234±17	1235±15	711-745 cal AD (37.1%) 764-778 cal AD (14.6%) 792-804 cal AD (6.6%) 818-822 cal AD (1.6%) 842-860 cal AD (8.4%)	691-748 cal AD (45.9%) 762-780 cal AD (16.2%) 789-873 cal AD (33.3%)	PLD-33696
	91号溝	炭化材		0.0931			奈良～平安？	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-27.60±0.16	1695±17	1651±17	1650±15	388-416 cal AD (68.2%)	346-371 cal AD (10.9%) 377-425 cal AD (84.5%)	PLD-33692
	27号建物跡 P8	炭化材		3.8841			7世紀末葉～9世紀前葉	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-27.01±0.19	1478±18	1444±18	1445±20	605-639 cal AD (68.2%)	581-649 cal AD (95.4%)	PLD-33694
	26号建物跡 P5	炭化材		0.0607			7世紀末葉～9世紀前葉	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-28.68±0.20	1622±18	1561±18	1560±20	431-492 cal AD (59.5%) 530-540 cal AD (8.7%)	426-545 cal AD (95.4%)	PLD-33691
	31号建物跡	炭化材		3.1351			7世紀末葉～9世紀前葉	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-24.86±0.16	1616±18	1617±17	1615±15	400-429 cal AD (53.0%) 495-507 cal AD (11.7%) 522-526 cal AD (3.5%)	391-435 cal AD (58.8%) 451-471 cal AD (4.3%) 486-534 cal AD (32.3%)	PLD-33693
	第2遺構面 186	炭化材		0.0217			7～8世紀？	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-27.85±0.11	1606±19	1559±19	1560±20	431-492 cal AD (58.4%) 530-541 cal AD (9.8%)	426-548 cal AD (95.4%)	PLD-33697
	29号建物跡 P1	炭化材		0.1557			7～8世紀？	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-27.76±0.21	1847±19	1801±19	1800±20	143-155 cal AD (6.9%) 168-195 cal AD (18.4%) 210-249 cal AD (43.0%)	134-255 cal AD (89.2%) 300-318 cal AD (6.2%)	PLD-33698
	29号建物跡 P3	炭化材		0.6659			7～8世紀？	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-24.54±0.18	1546±17	1553±17	1555±15	432-490 cal AD (56.9%) 532-543 cal AD (11.3%)	427-553 cal AD (95.4%)	PLD-33699
	29号建物跡 P2	炭化材		0.0271			7～8世紀？	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-29.64±0.13	1592±18	1515±17	1515±15	540-580 cal AD (68.2%)	435-449 cal AD (2.6%) 471-487 cal AD (4.0%) 534-602 cal AD (88.8%)	PLD-33700
	29号建物跡 P5	炭化材		0.0801			7～8世紀？	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-27.33±0.17	1505±16	1466±16	1465±15	576-619 cal AD (68.2%)	565-640 cal AD (95.4%)	PLD-33690
	SB019 P11	炭化材		1.2306			7世紀後葉	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-30.13±0.11	1625±18	1539±18	1540±20	434-455 cal AD (18.5%) 470-488 cal AD (18.5%) 534-559 cal AD (31.2%)	428-497 cal AD (51.6%) 506-575 cal AD (43.8%)	PLD-33689
T67	SB020B P10 柱根	木片	柱	0.368	W18020501	ヒノキ属	時期未定	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-24.92±0.19	1545±20	1545±20	1545±20	433-489 cal AD (49.2%) 532-552 cal AD (19.0%)	427-567 cal AD (95.4%)	PLD-35744
T68	SA003 P2 柱根	木片	柱	0.3533	W18020502	ヒノキ属	時期未定	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N）	-24.90±0.24	1576±23	1577±23	1575±25	428-436 cal AD (6.5%) 446-472 cal AD (21.2%) 487-535 cal AD (40.5%)	421-541 cal AD (95.4%)	PLD-35745

*1 δ13C 補正無年代　*2 δ13C 補正年代

分析結果

1)　AMS 年代測定結果

年代測定結果を第 6 表及び第 92、93 図に示す。第 92、93 図には、OxCal ver. 4.2（Ramsey, 2009）以降による試料の暦年較正図を示した。第 6 表には、試料の詳細、前処理方法、δ^{13}C 値と測定年代など 4 種類の年代を示している。

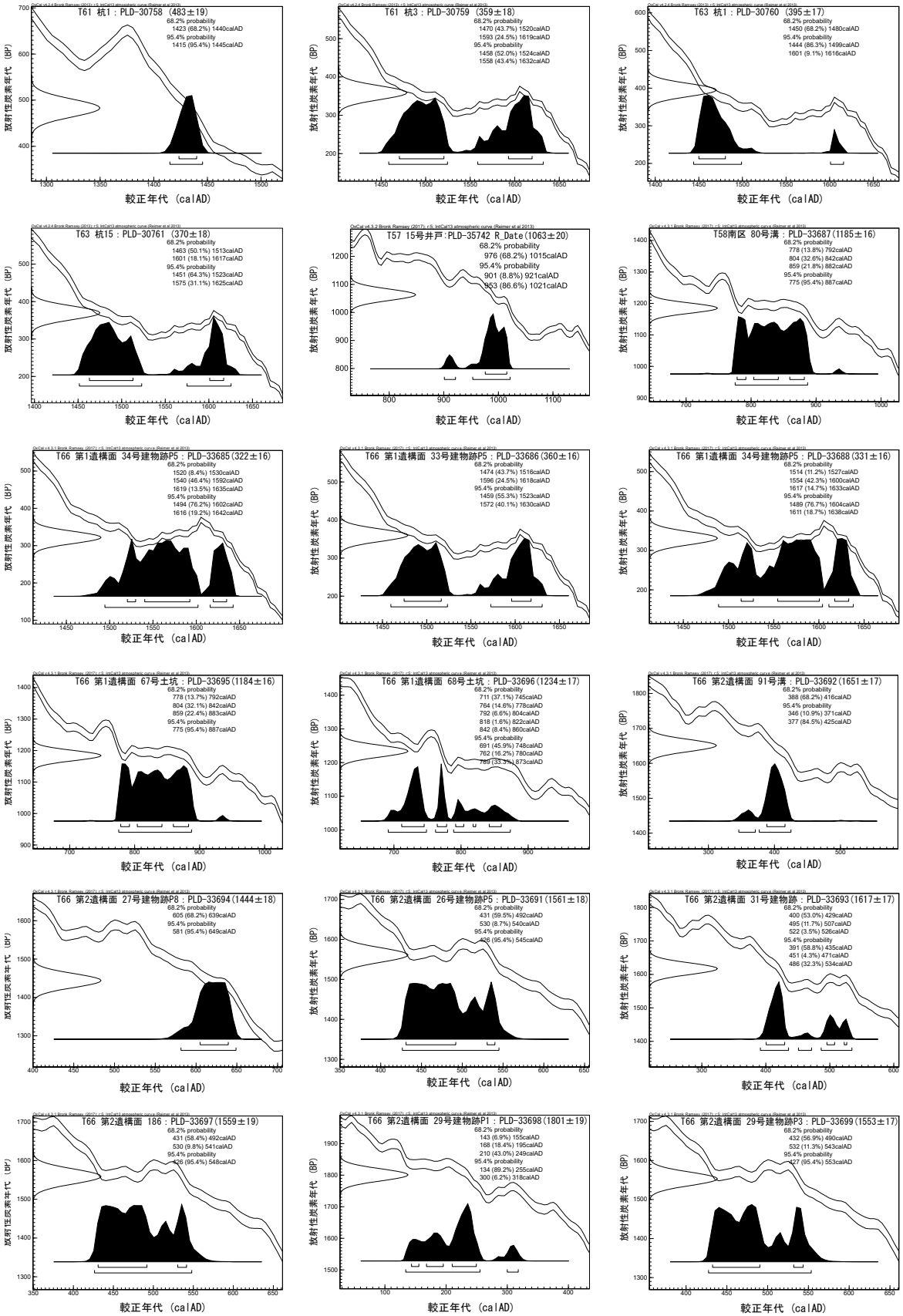
2)　樹種同定結果

分類ごとに特徴的な試料（下線試料）の記載を行った。また、第 2 表に同定結果を示し、下線試料について顕微鏡写真を節末に掲載した。

(1) ヒノキ属 *Chamaecyparis* sp.

試料№：T66 34 号建物跡 P6 (W17020503)、T67 SB020B P10 柱根 (W18020501)、T68 SA003 P2 柱根 (W1802502)

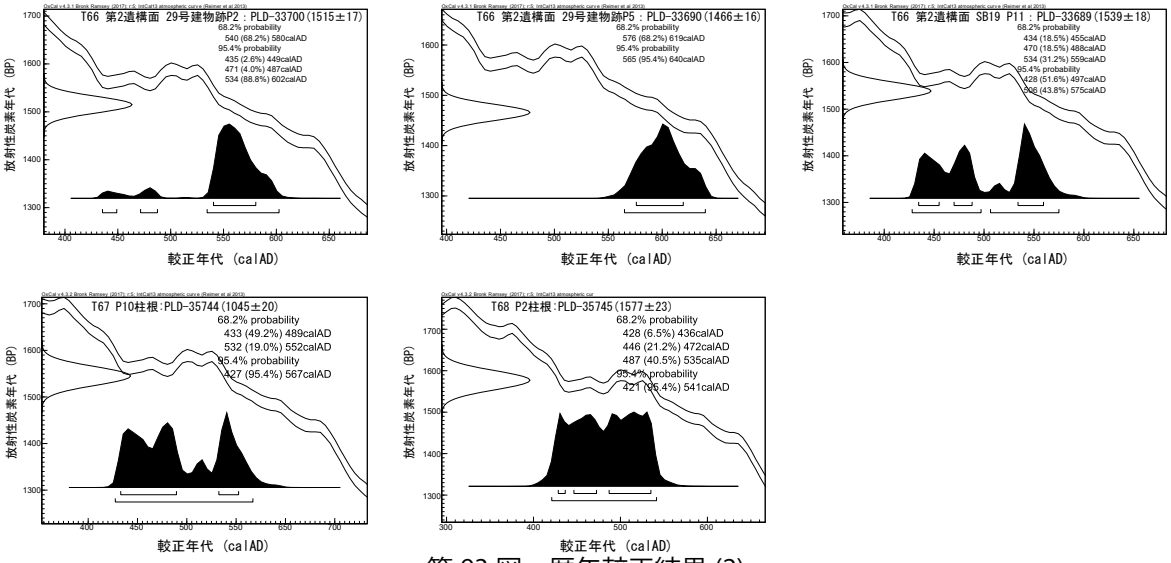
記載：構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行はやや急で、晩材の幅はやや広い。分野壁孔は明瞭なヒノキ型で 2-3 個存在する。以上の組織上の特徴から、ヒノキ属と同定した。



第 92 図　暦年較正結果 (1)

(2) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.

試料№：T58 南区 80 号溝 (W17020501)、T66 34 号建物跡 P5 (W17020502)、T66 33 号建物跡 P5 (W17020504)



第 93 図　暦年較正結果 (2)

記載：環孔材で大きい円形ないし楕円形の道管が単独で 2-3 列に配列する。孔圏外の道管は単独で小さく、放射状に配列する。道管せん孔は単せん孔である。また、道管にはチロースが顕著に認められる。孔圏道管の周りには周囲仮道管が存在する。軸方向柔細胞は単接線状に配列するのが認められる。放射組織は平伏細胞からなる単列同性型である。以上の組織上の特徴からクリと同定した。

推定時期と年代測定値

年代測定を実施した 23 試料の内、下記の 13 試料については、出土遺物から推定された遺構の時期について、測定結果（較正年代）から裏付けることが目的であった。第 94 図に推定時期と較正年代の関係を示し、解説を加えた。

(1) T58 南区 80 号溝

T58 南区 80 号溝は奈良時代頃の遺構と推定されていた。これに対し、775-887 cal AD（2 σ）の年代値が得られており、ほぼ一致する結果となった。したがって、80 号溝は、出雲国府と関わりのある遺構と考えられる。

(2) T66 第 1 遺構面

67 号土坑、68 号土坑が該当し、9 ～ 13 世紀の遺構と推定されていた。これに対し、775-887 cal AD、691-873 cal AD（いずれも 2 σ）の年代値が得られており、ほぼ一致する結果となった。したがって、第 1 遺構面は、推定通りの時期の遺構面である可能性が高い。

(3) T66 第 2 遺構面

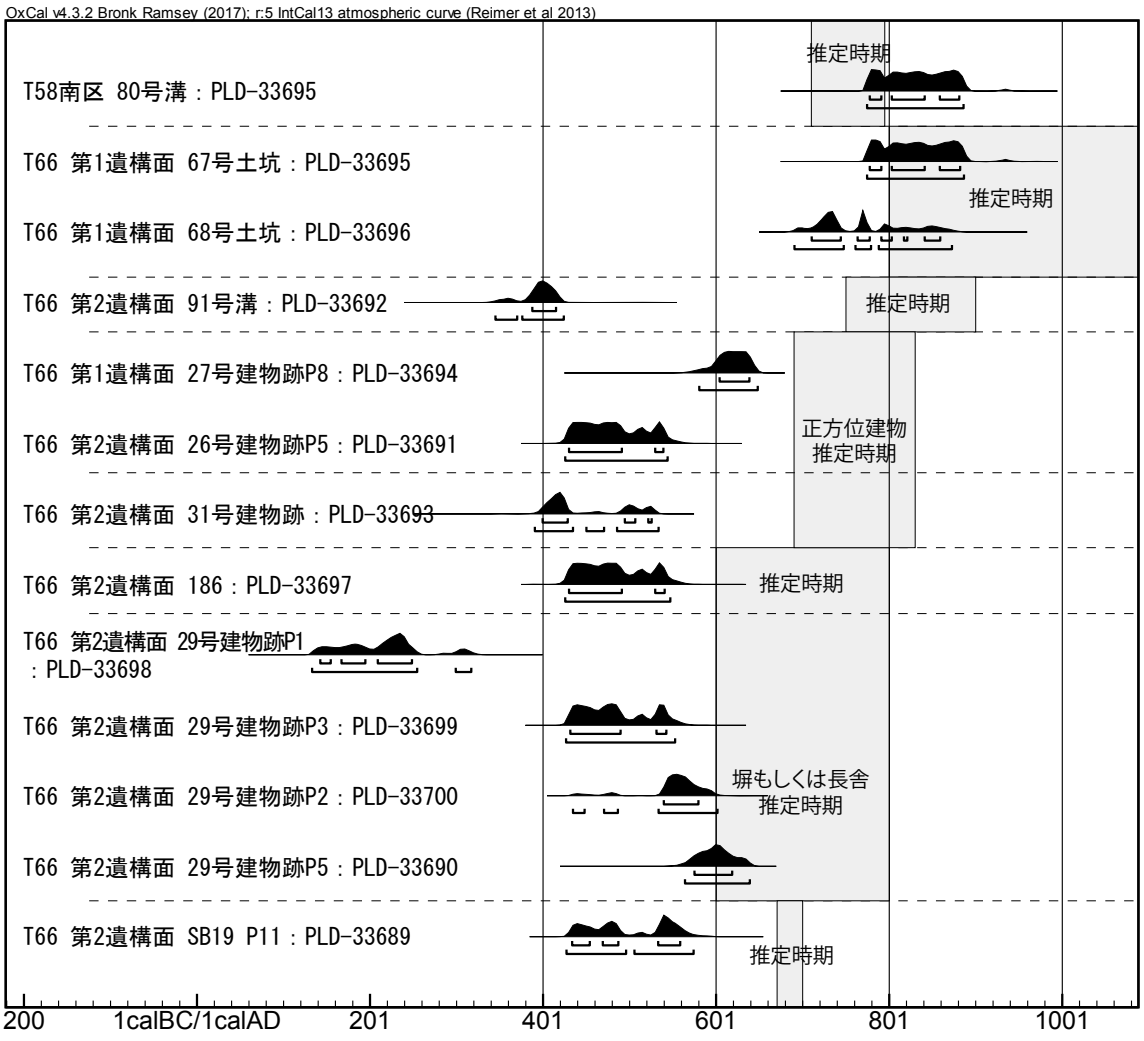
67 号土坑、68 号土坑を除く 10 試料が該当する。出土遺物や切り合いから、5 つの時期に分かれていると考えられている。

① 91 号溝

奈良時代～平安時代（8 世紀後半～ 9 世紀？）にかけての遺構と考えられている。346-425 cal AD（2 σ）が得られ、推定年代より 300 年ほど古い年代値が得られた。樹木年輪の内外層の差によるとするには、大きな差がある。推定時期が正しいとすれば、試料が炭化材であることから、二次的に埋没したものと考えられる。

② 正方位建物：27 号建物跡 P8、26 号建物跡 P5、31 号建物跡

7 世紀末葉～ 9 世紀前葉の遺構と考えられている。27 号建物跡 P8 は 581-649 cal AD（2 σ）



第 94 図　推定時期と較正年代

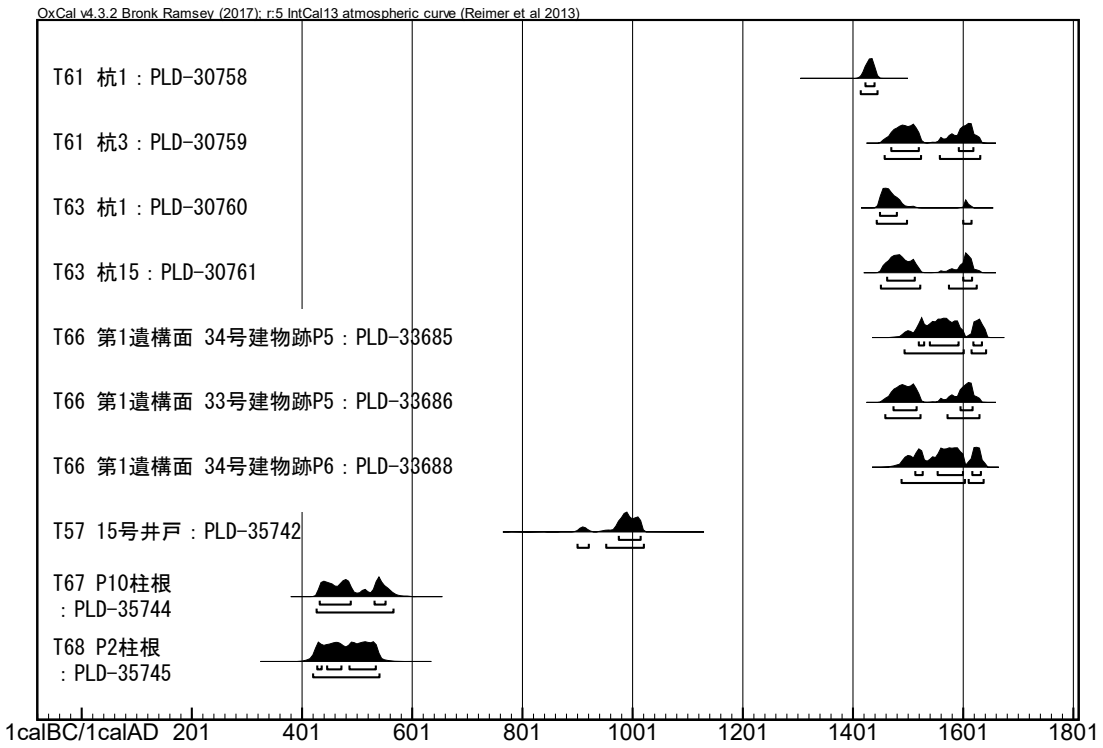
と 50-150 年古い年代値で、樹木年輪の内外層の差とするには、やや古い値である。推定時期が正しいとすれば、試料が炭化材であることから、二次的に埋没した可能性も考える必要がある。26 号建物跡 P5 は 426-545 cal AD と 150-250 年、29 号建物跡 は 391-534 cal AD（いずれも 2 σ）と 150-300 年ほど古い年代値で、樹木年輪の内外層の差とするには、古い値である。推定時期が正しいとすれば、試料が炭化材であることから、二次的に埋没したものと考えられる。

③ 186

7 世紀～ 8 世紀頃の遺構と考えられている。426-548 cal AD（2 σ）と、50 年程度古い年代が得られている。樹木年輪の内外層の差を考慮すると、一致するとも捉えられるが、試料が炭化材であることから二次的に埋没した可能性も考えられる。

④ 塀もしくは長舎：29 号建物跡 P1、P2、P3、P5

7 世紀～ 8 世紀頃の遺構と考えられている。29 号建物跡 P5 は 565-640 cal AD（2 σ）と推定時期と一致する。29 号建物跡 P2 は 435-602 cal AD（2 σ）とやや古い年代を示すが、樹木年輪の内外層の差を考慮すると、一致する年代値と捉えられる。一方、29 号建物跡 P3 は -553 cal AD と、50-150 年古い年代値であった。他の試料との関係から、試料が二次的に埋没したものと考えられる。更に 29 号建物跡 P1 は 134-318 cal AD と、300 年ほど古い値を示す。やはり他の試料との関係、試料が堀方から出土したこと、炭化材であることから、二次的に埋没したものと考えられる。



第 95 図　較正年代と遺構

⑤ SB19 P11

7 世紀後葉の遺構と考えられている。428-575 cal AD（2 σ）と 50-100 年古い年代値で、樹木年輪の内外層の差とするには、やや古い値である。推定時期が正しいとすれば、試料が炭化材であることから、二次的に埋没した可能性も考える必要がある。

較正年代と遺構

年代測定を実施した 23 試料の内、下記の 10 試料については、年代測定結果（較正年代）から遺構の時期を推定することが目的であった。第88図に較正年代と遺構の関係を示し、解説を加えた。

(1) T61 杭 1、T61 杭 3、T63 杭 1、T63 杭 13

T61 杭 1 のみ、若干古い 15 世紀前半（2 σ）の値が得られたが、他の 3 試料は 15 世紀中頃から 17 世紀前半（2 σ）の値を示した。また、これら 3 試料が示す値は、大きく前半（15 世紀中頃から 16 世紀前半）と後半（16 世紀後半から 17 世紀前半）に分れた（第 95 図）。

両トレンチで検出された遺構を一連の遺構と捉えると、試料№ 1 との関連から、前半（15 世紀中頃から 16 世紀前半）の可能性が強いと考えられる。

一方、両トレンチで検出された遺構を別の時期の遺構と捉えると、T61 の「2 号護岸状施設」は、試料№ 1 との関連から前半(15 世紀中頃から 16 世紀前半)の可能性が強いように考えられる。一方、T63 の「1 号石組遺構」の年代を絞ることはできず、15 世紀中頃から 17 世紀前半と広く捉えることが妥当である。

(2) 柱跡：T66 34 号建物跡 P5、33 号建物跡 P5、34 号建物跡 P6

3 試料とも、16 世紀から 17 世紀前半（1 σ）の年代が得られた。樹木では、年輪形成時の年代が測定年代として得られることから、得られた年代が伐採（使用）推定時期より古くなる傾向にある。既に、同時期には出雲国府の機能が失われていたと考えられることから、今回の柱跡が出雲国

府に関連した遺構であるとは考えにくい。

(3) T57 15 号井戸

平安時代中頃を示す 901-1021cal AD（2 σ）の年代が得られた。同時期は出雲国府が続いていた時期と重なり、15 号井戸は出雲国府に関連する遺構と考えられる。

(4) 柱跡：SB020B P10 柱根、T67 SA003 P 2 柱根

2 試料とも、古墳時代後期を示す 5 世紀前半から 6 世紀中頃（2 σ）の年代値が得られた。出雲国府の施設に伴うとすれば、100 年ほど古い値である。一方、測定試料はいずれも柱の外側の年輪部分から採取していた。また、両試料の年輪幅は 0.2 ～ 3mm と狭く、1mm の幅に 4 年輪程度存在する。この年輪幅が続くとすると、25mm 幅に 100 年輪が含まれることになる。製材された厚さを考慮すると、これらの柱の伐採年代が奈良時代まで新しくなる可能性は十分にある。したがって初期の国府に用いられた柱である可能性が指摘できる。またいずれの樹種もヒノキ属であった。これまでに出雲国府内で樹種同定が行われた柱 42 本のうち 9 本を占めており、クリの 14 本に次いでいた（渡辺・中川，2013）。ヒノキは香材であり、平城京でも多用されていることからも、この柱が国府に関連していた可能性は高い。

出雲国府跡より得られた柱材について

今回樹種同定を行った 6 試料の内、5 試料が柱（柱根）であり、ヒノキ属が 3 試料、クリが 2 試料の内訳であった。また、ヒノキ属の内 1 試料とクリから、16 世紀から 17 世紀前半の年代値が、ヒノキ属 2 試料から 5 世紀前半から 6 世紀中頃の年代値が得られた。また、渡辺・中川(2013)のデータベースによれば、島根県下では 248 試料の「柱」の記載があり、そのうちおよそ半数の 115 試料がクリ、19 試料がヒノキ属であった。

今までに記載されたヒノキ属の柱のうち、およそ半数の 9 本が出雲国府跡から出土したものであり、出雲国府での用材の特徴と言える。

一方、年代測定値の 16 世紀から 17 世紀前半に近い「室町時代から江戸時代」に限ると 76 試料の内、52 試料とおよそ 2/3 をクリが占め、最も用いられた樹種であった。一方、この時期に、ヒノキ属は検出されず、今回の試料が初出となる。

まとめ

出雲国府跡での AMS 年代測定結果及び樹種同定結果から、以下の事柄が明らかになった。

1) 推定年代の裏付けのために年代測定を実施した試料では、推定時期より 50 年から 300 年古い年代が多く得られた。一般的に年輪内外の差から、年代測定値は伐採年より古くなる傾向にあるが、説明しにくいほどの差も認められた。試料のほとんどが炭化材であったこともあり、試料が二次的に埋没した可能性が示唆される。また、木材の転用なども考える必要がある。

2) T61、T63 で検出された 2 号護岸状施設と 1 号石組遺構は、15 世紀中頃から 17 世紀前半頃の遺構であり、出雲国府とは無関係であった。

3) T58 ８０号溝出土木片からは、8 世紀後半から 9 世紀後半（1 σ）の年代が得られ、出雲国府と関わりがあった可能性が高い。

4) T66 ３３号建物跡と３４号建物跡の柱根からは、16 世紀から 17 世紀前半（1 σ）の年代値が得られ、出雲国府に関連した遺構とは考えにくい。ただし、第 1 遺構面で検出された遺構には、7 世紀末から⑨世紀後半の年代値が得られたものもあった。第 1 遺構面が生活面として機能した時

期が長期に渡った可能性が示唆される。

5) 柱材は２試料がクリ、3 試料がヒノキ属であった。クリは室町から江戸時代にかけての柱として、最も一般的な用材である、一方ヒノキ属の柱は、従町から江戸時代にかけての時期では初出であった。またヒノキ属の柱について、島根県下では出雲国府跡での報告例が特に多く、出雲国府での用材の特徴と言える。

【引用文献】

島地　謙・佐伯　浩・原田　浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造．276p.，文永堂，東京.

渡辺正巳（2010）木質遺物（埋没樹木）樹種同定．必携 考古資料の自然科学調査法，194-198. ニュー・サイエンス社，東京.

渡辺正巳・中川　寧（2013）山陰の木製品の樹種と植生について．木製品から見た古代のくらし，37-48，島根県古代文化センター.

Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

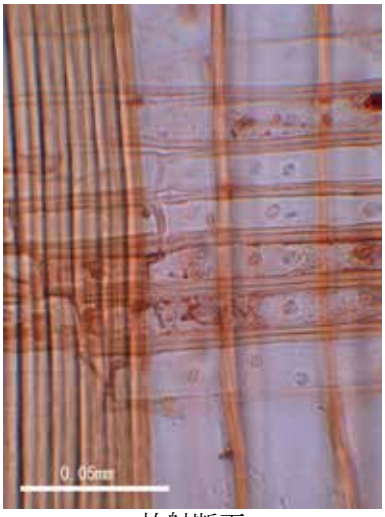
Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

樹種同定顕微鏡写真

ヒノキ属 *Chamaecyparis* sp. ：T66 34号建物跡P6（W17020503）

横断面

接線断面



放射断面

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.：T66 34号建物跡P5（W17020502）

横断面

接線断面

放射断面

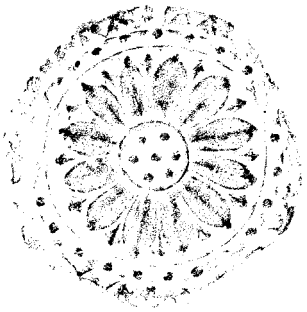
第 5 章　総括

第 1 節　出土遺物

1. 瓦類

今回の発掘調査で出土した瓦類は宮の後地区（調査面積 57㎡）で約 55kg、六所脇地区（同 271㎡）で約 195kgである。 1 ㎡あたりの出土量に換算すると宮の後地区で 720g、六所脇地区で 960g となる。これまでの六所脇地区の出土量は 1 ㎡あたり 328 g であり、今回の調査区が地区内でも瓦類が多いといえる（第 7 表）

軒瓦（第 96 ～ 97 図）は六所脇地区では軒丸瓦の瓦当部 21 点、丸瓦部 16 点が出土した。軒平瓦は 1 点も出土していない。軒丸瓦は山代郷南新造院（四王寺） Ⅰ類が 1 点あり、それ以外はすべて出雲国分寺 2 型式・3 型式（註 1）と同范である（96-3 ～ 7、96-15 ～ 25)。創建期の 1 型式は出土していない。96-1 は山代郷南新造院(四王寺） Ⅰ類の瓦当部である（註 2)。中房とその上部の内外区を欠失する。内区は単独にのぞき間弁を配する。内区と外区のあいだは細い圏線で画し、外区内縁に珠文を置く。外縁はわずかしか残っていないが、わずかに面違い鋸歯文が確認できる。丸瓦部の先端には刻みが施されている。このほかの丸瓦部（97-1~9）はいずれも焼きが甘く、先端に刻みを施したものは 97-1 の 1 点のみである。



参考　山代郷南新造院（四王寺） Ⅰ類（S=1/4）
註 2 の第 13 図より転載

宮の後地区では、軒丸瓦の瓦当部 12 点（96-8 ～ 14)、丸瓦部 4 点が出土している。軒丸瓦は出雲国分寺 3 型式である。六所脇地区と同様に軒平瓦は 1 点も出土していない。このほか六所脇地区の南側 T62 からも軒丸瓦 2 型式の瓦当部 1 点が出土している（96-2)。

平瓦（第 98 ～ 102 図）は、両地区とも桶巻作りは 1 点も出土しておらず、すべて 1 枚作りであった。平瓦の凸面成形は縄タタキ（98-1 ～ 2)、格子タタキ（98-3 ～ 101-8)、平行タタキ（101-9･10)、ケズリ・ナデ、不明（102-1 ～ 9）がある。これまで格子タタキは 1 ～ 21 種まで分類していたが、今回あらたに 2 種のタタキが確認できた。格子タタキ 22（86-2）は出雲国分寺 34、格子タタキ 23（86-5）は出雲国分寺格子 25 に相当すると思われる（第 12 表）(註 3)。

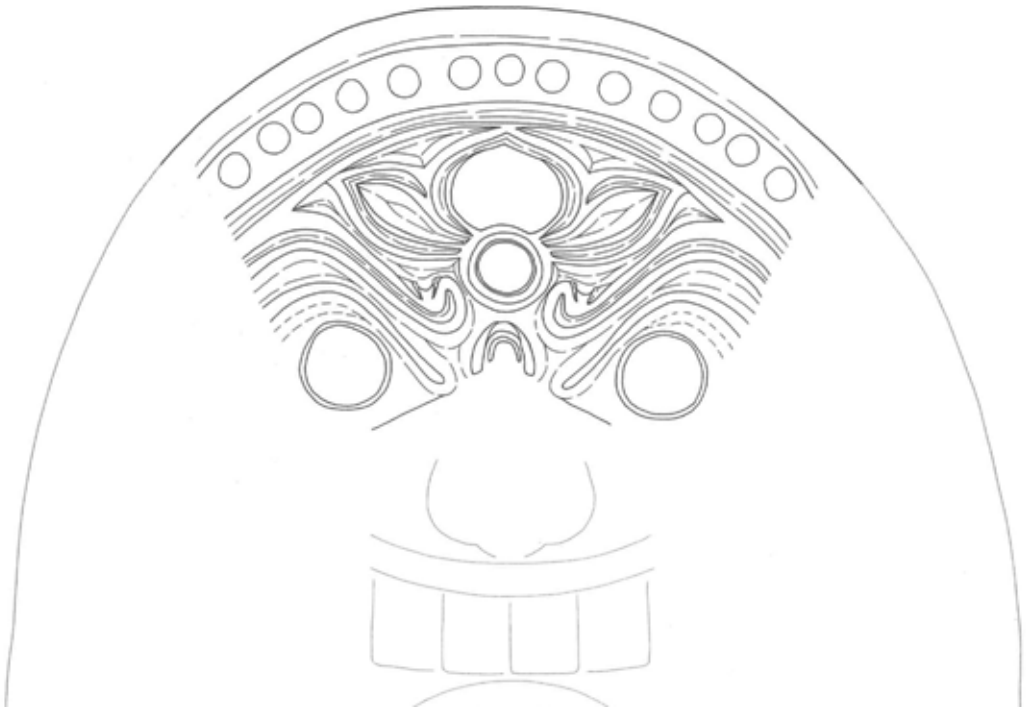
丸瓦（第 102 ～ 104 図）は、平瓦と同様に『史跡出雲国府跡 6 』に従い分類した。103-1 ～ 3 が有段式、4 ～ 7 は無段式である。それ以外は狭端部が残っておらず、有段式か無段式か不明である。

道具瓦は 38 点出土した。このうち熨斗瓦（106-1 ～ 8）は六所脇地区で 31 点、宮の後地区で 4 点確認された。狭端部から広端部まで残っているものはなくすべて破片である。いずれも平瓦に切りこみを入れて割られた切割熨斗である。切り込みは 106-1 が深さ 1.3cm、106-2 ～ 8 は 0.5cm 前後である。最大幅は 7.6 ～ 14.6cm までみられる。

隅切平瓦（106- 9 ・10）は、六所脇地区 2 点出土している。いずれも焼成前に広端部を切り落としている。106-9・10 とも焼きが良く、10 は須恵質をしている。

鬼瓦（第 107 図）は六所脇地区から 1 点出土した。鬼面文鬼瓦の正面左上の破片である。表面の大半は風化剥落しているが、范型を用いて製作されたものと考えられる。中央の半球状突起から

鼻、眉と右瞼を表現した凸線の一部が確認できる。出雲国分寺跡出土の鬼瓦と比較すると、同笵ではないが同じ図柄である。ただし、外縁に珠文が無く一回り小さい。同様の鬼瓦は出雲国分尼寺や中竹矢遺跡で出土しており、今回出土した鬼瓦に近似するが、同じ部位が残存しておらず同笵かは不明である（註 4）。



参考　出雲国分寺出土鬼瓦復元図（S=1/4) 註 3 の 15 第 151 図を一部改変して転載）

以下、屋根景観の復元（第 8 表・第 9 表・第 10 表）を検討する。ただし、六所脇地区について検討し、宮の後地区は調査範囲が狭いことから分析対象としない。

丸瓦と平瓦の比率は隅数計測法に基づくと 1：1.3 となる。既往の調査分も含めると国分寺創建期で 1：1.8、補修期で 1：1.7 となる（第 10 表）。また、もうひとつの分析方法である重量計測法では創建期が 1：3.2、補修期 1：2.7 である（第 10 表）。この分析から得られた数値は瓦葺建物に使われていた瓦が廃棄されたことを示している（註 5）。出土状況からも二次的移動によるものではなく、当地区で使用されたものと考える。

軒瓦は既往の調査分と合わせて軒丸瓦 2 型式 1 点、3 型式 26 点が出土している。『総括報告書』でも指摘したように、当地区の軒瓦は他地区にくらべて非常に多い。軒瓦はほぼ軒丸瓦で（軒平瓦は補修期の瓦が 1 点のみ）、出雲国府跡では軒平瓦を使用しなかった可能性が考えられる。

また熨斗瓦も既往の調査分と合わせて破片数 60、隅数 22、重量 16.8kgが出土している。大舎原地区では 1 点も出土しておらず、宮の後地区（1968 ～ 1970（昭和 43 ～ 45）年度調査）でも破片数 16、隅数 7、重量 4.28kgが出土しているのみである。宮の後地区とは重量比で約 4 倍となる。調査面積も考慮すると、六所脇地区の出土量は他地区に対し突出した数字といえる。熨斗瓦は国分寺、補修期の 2 時期とも使用されている。

軒瓦は軒丸瓦しかなく熨斗瓦が多く出土しているものの、丸瓦・平瓦の比率は熨斗棟・甍棟とは開きがみられる（註 6）。

こうした瓦の比率とあわせて、出土量についてもひきつづき検討を加え、屋根景観の復元に取り組む必要がある（註 7）。

第7表　出土瓦類集計表

			六所脇 総数			宮の後地区総計		
種別	分類		破片数	隅数	重量（グラム）	破片数	隅数	重量（グラム）
軒丸瓦	南新造院	Ⅰ類	1	0	740			
	出雲国分寺	1型式	0	0	0	0	0	0
		2型式	0	0	0	0	0	0
		3型式	20	0	2,740	7	0	930
		不明	1	0	100	5	0	240
		丸瓦部	16	0	2,560	4	0	680
小計			38	0	6,140	16	0	1,850
平瓦	桶巻き	縄タタキ・平行タタキ	0	0	0	0	0	0
		小計	0	0	0	0	0	0
	1枚作り	縄タタキ1（硬質）	29	1	5,170	11	0	2,140
		縄タタキ1（軟質）	16	4	2,990	8	0	1,830
		縄タタキ2	2	0	170	0	0	0
		小計	47	5	8,330	19	0	3,970
	1枚作り	格子1	20	8	8,390	6	0	1,610
		格子2	53	5	12,140	41	2	5,990
		格子3	5	0	1,660	1	0	200
		格子4	1	0	480	0	0	0
		格子5	6	1	1,280	2	0	640
		格子6	1	0	160	0	0	0
		格子7	12	0	2,460	1	0	340
		格子8	2	0	170	0	0	0
		格子9	1	0	100	0	0	0
		格子10	1	0	20	0	0	0
		格子11	0	0	0	0	0	0
		格子12	3	1	800	1	0	250
		格子13	0	0	0	0	0	0
		格子14	0	0	0	0	0	0
		格子15	4	1	700	0	0	0
		格子16	2	1	680	1	1	220
		格子17	3	0	630	0	0	0
		格子18	3	0	1,150	0	0	0
		格子19	1	0	140	0	0	0
		格子20	3	1	950	0	0	0
		格子21	3	0	510	0	0	0
		格子22	5	1	2,080	2	0	400
		格子23	9	1	2,460	11	0	4,700
		不明（硬質）	45	6	9,810	4	0	350
		不明（軟質）	142	18	26,600	24	0	2,980
		小計	325	44	73,370	94	3	17,750
	1枚作り	平行	10	1	3,340	4	0	680
		小計	10	1	3,340	4	0	680
	1枚作り	ナデ	4	0	410	6	0	410
		小計	4	0	410	6	0	410
	1枚作り	タタキ（不明）	198	9	28,950	49	3	5,050
		小計	198	9	28,950	49	3	5,050
総計			584	59	114,400	172	6	27,860
丸瓦	有段式	A	60	16	4,910	6	0	320
		B	0	0	0	0	0	0
		小計	60	16	4,910	6	0	320
	無段式	硬質	10	4	2,120	1	0	200
		軟質	18	16	5,660	18	9	3,060
		小計	28	20	7,870	19	9	3,260
	不明	焼成硬質	91	1	12,950	30	1	2,940
		焼成軟質	386	7	39,040	178	2	16,310
		小計	477	8	51,990	208	3	19,250
総計			565	44	64,770	233	12	22,830
道具瓦	熨斗瓦		31	5	6,990	4	2	820
	塼		0	0	0	0	0	0
	シビ		0	0	0	0	0	0
	隅切平瓦		2	1	1,360	0	0	0
	隅落丸瓦		0	0	0	0	0	0
	鬼瓦		0	0	0	1	0	1,290
	不明		0	0	0	0	0	0
総計			34	6	8,860	5	2	2,110
不明			267	0	7,860	68	0	1,920

	国府6	創建期　平瓦	131	17	32,460	29	0	5,960
		創建期　丸瓦	60	16	4,910	6	0	320
		補修期　平瓦	255	33	52,990	94	3	16,780
		補修期　丸瓦	28	20	7,870	19	9	3,260

第８表　六所脇地区・宮の後地区の丸瓦・平瓦の比率

地区名	平瓦			丸瓦		
	破片数（点）	隅数（点）	重量（グラム）	破片数（点）	隅数（点）	重量（グラム）
六所脇	584	59	114,400	565	44	64,770
宮の後	172	6	27,860	233	12	22,830

個体数（隅数÷４）

地区名	個体数（枚）		比率	
	丸	平	丸	平
六所脇	11	14.75	1	1.3
宮の後	3	1.5	1	0.5

第９表　地区別の瓦変遷

六所脇地区

時期	国分寺軒瓦	瓦の組み合わせ	破片数	隅数	重量
国分寺創建期	軒丸瓦1類	丸瓦　有段式（A・硬質）	60	16	4,910
	軒平瓦1類	平瓦　格子タタキ（1・3・5・6・7・10・不明硬質）縄タタキ1（硬質）縄タタキ2　平行タタキ	131	17	32,460
国分寺補修期	軒丸瓦2～3類	丸瓦　有段式（B・軟質）無段式	28	20	7,870
	軒平瓦2～3類	平瓦　格子タタキ（2・4・8・9・11～23・不明軟質）縄タタキ1（軟質）・ナデ	255	33	52,990

宮の後地区

時期	国分寺軒瓦	瓦の組み合わせ	破片数	隅数	重量
国分寺創建期	軒丸瓦1類	丸瓦　有段式（A・硬質）	6	0	320
	軒平瓦1類	平瓦　格子タタキ（1・3・5・6・7・10・不明硬質）縄タタキ1（硬質）　平行タタキ	29	0	5,960
国分寺補修期	軒丸瓦2～3類	丸瓦　有段式（B・軟質）無段式	19	9	3,260
	軒平瓦2～3類	平瓦　格子タタキ（2・4・8・9・11～23・不明軟質）縄タタキ1（軟質）・ナデ	94	3	16,780

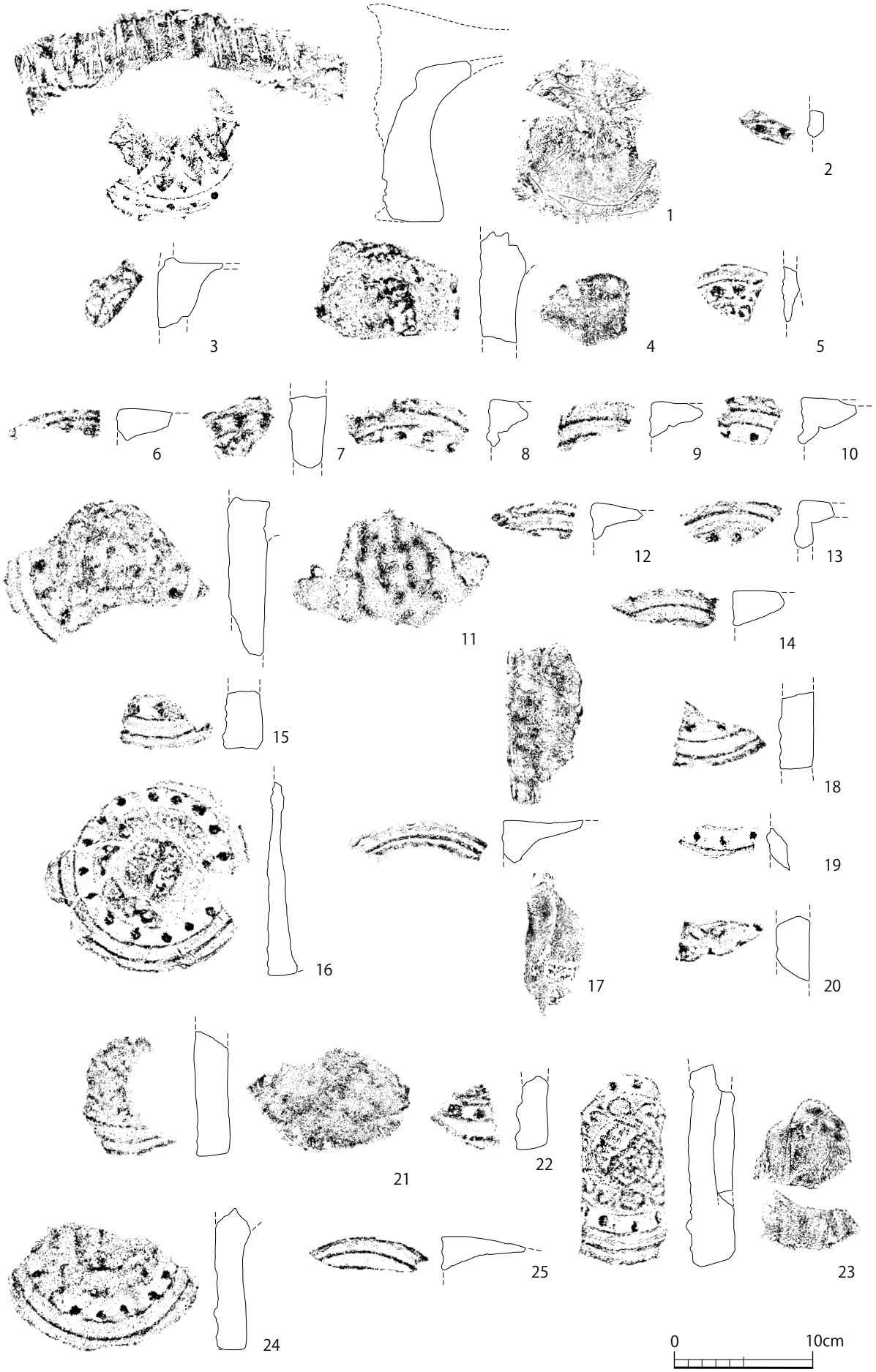
第10表　六所脇地区の瓦変遷（既往の調査分含む）

時期	国分寺軒瓦	瓦の組み合わせ	破片数	隅数	重量（g）	1枚あたりの重量	（重量の根拠）	枚数	比率	隅数計測法
国分寺創建期	軒平瓦1型式	平瓦　格子タタキ（1・3・5・6・7・10・不明硬質）縄タタキ1（硬質）縄タタキ2　平行タタキ	182	35	45,960	4,000	3－74－1	11.5	3.2	1.8
	軒丸瓦1型式	丸瓦　有段式（A・硬質）	88	20	9,800	2,700	1－73－12・13の平均値	3.6	1.0	1.0
国分寺補修期	軒平瓦2～3型式	平瓦　格子タタキ（2・4・8・9・11～23・不明軟質）縄タタキ（軟質）・ナデ	379	58	80,960	3,200	中竹矢94－383・384の平均値	25.3	2.7	1.7
	軒丸瓦2～3型式	丸瓦　有段式（B・軟質）無段式	43	34	22,220	2,400	1－38－15・6－56－3の平均値	9.3	1.0	1.0

※１枚あたりの重量は、出雲国府跡出土瓦から設定したが、補修期平瓦のみ中竹矢瓦窯跡資料（島根県教育委員会 1992『一般国道９号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ（中竹矢遺跡）』を使用した。数字の先頭が報告書シリーズ番号、枝番号が挿図番号である。

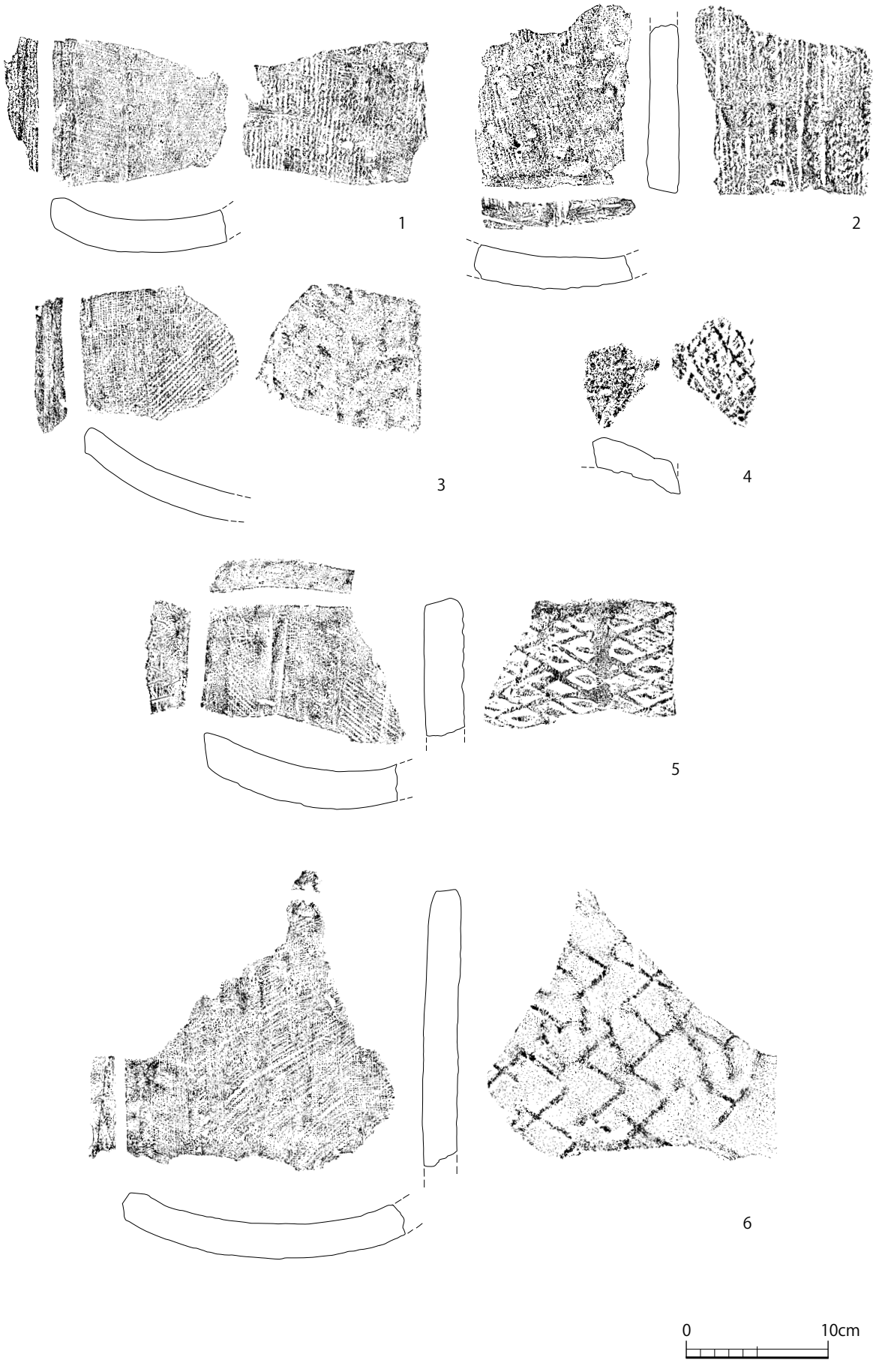
個体数（隅数÷４）

地区名	個体数（枚）		比率	
	丸	平	丸	平
国分寺創建期	5	8.75	1	1.8
国分寺補修期	8.5	14.5	1	1.7

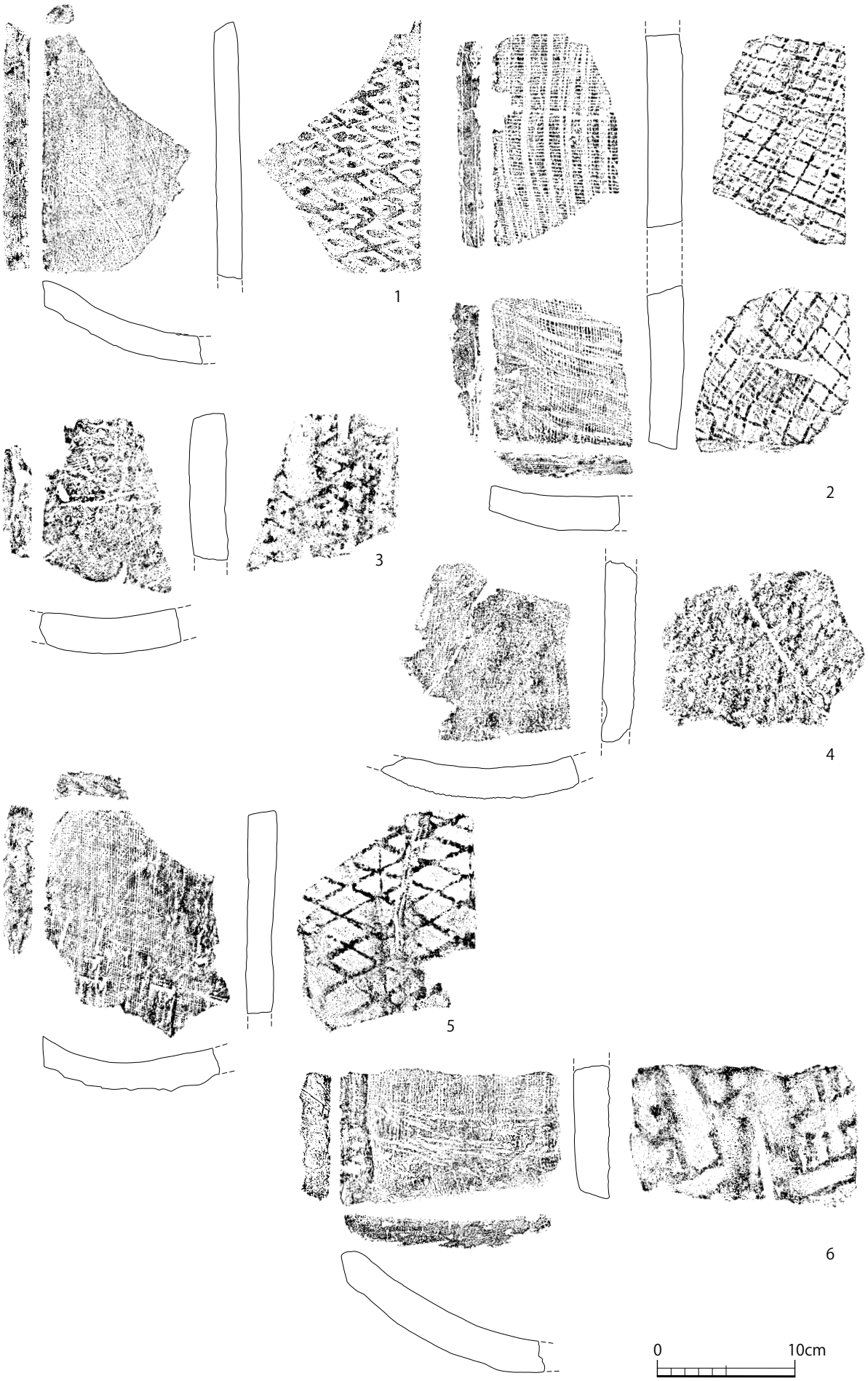


第 96 図　軒丸瓦実測図①（S= 1 /4）

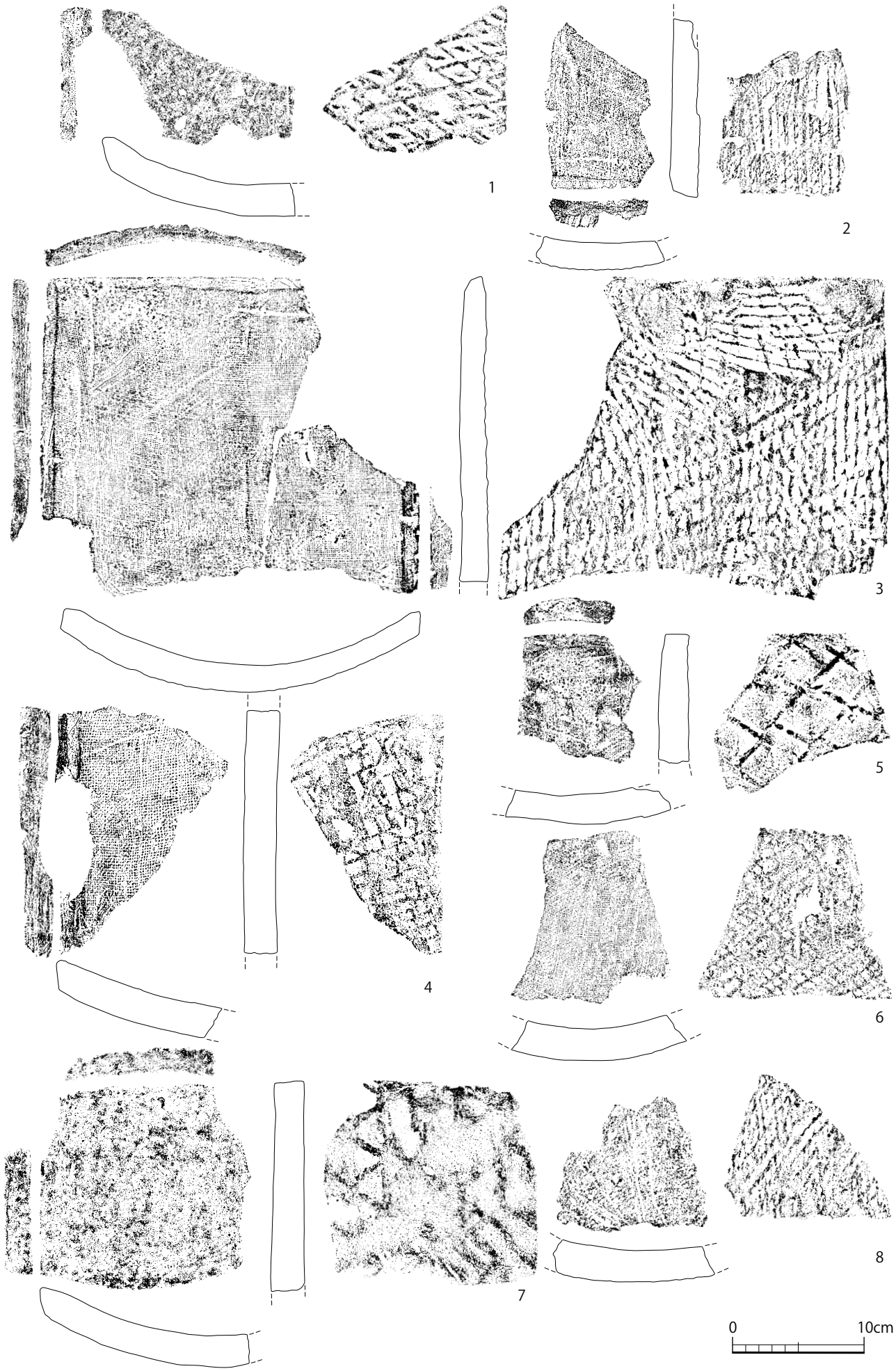
第 97 図　軒丸瓦実測図②（S= 1 /4）



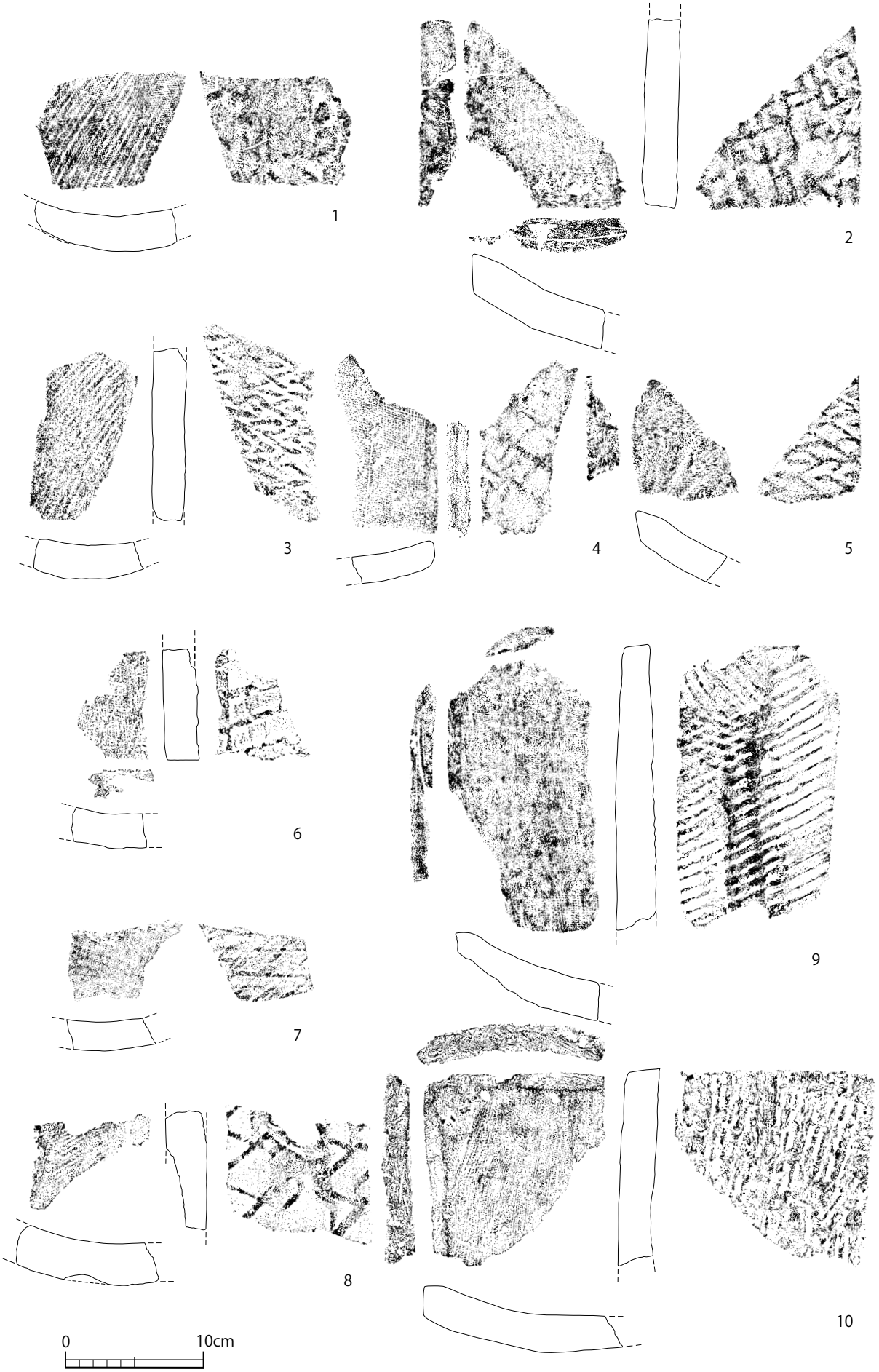
第 98 図　平瓦実測図①（S= 1 /4）



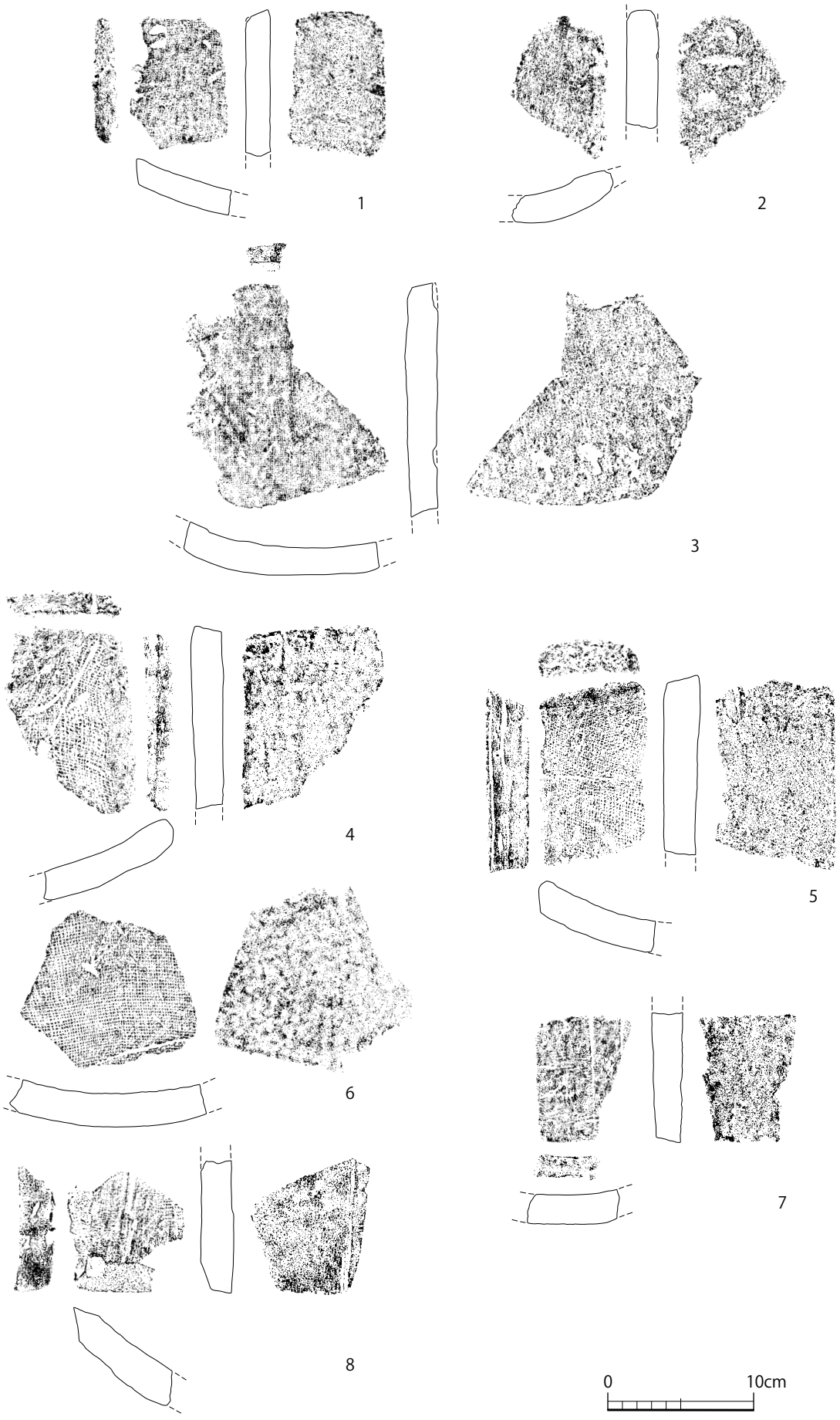
第 99 図　平瓦実測図②（S= 1 /4）



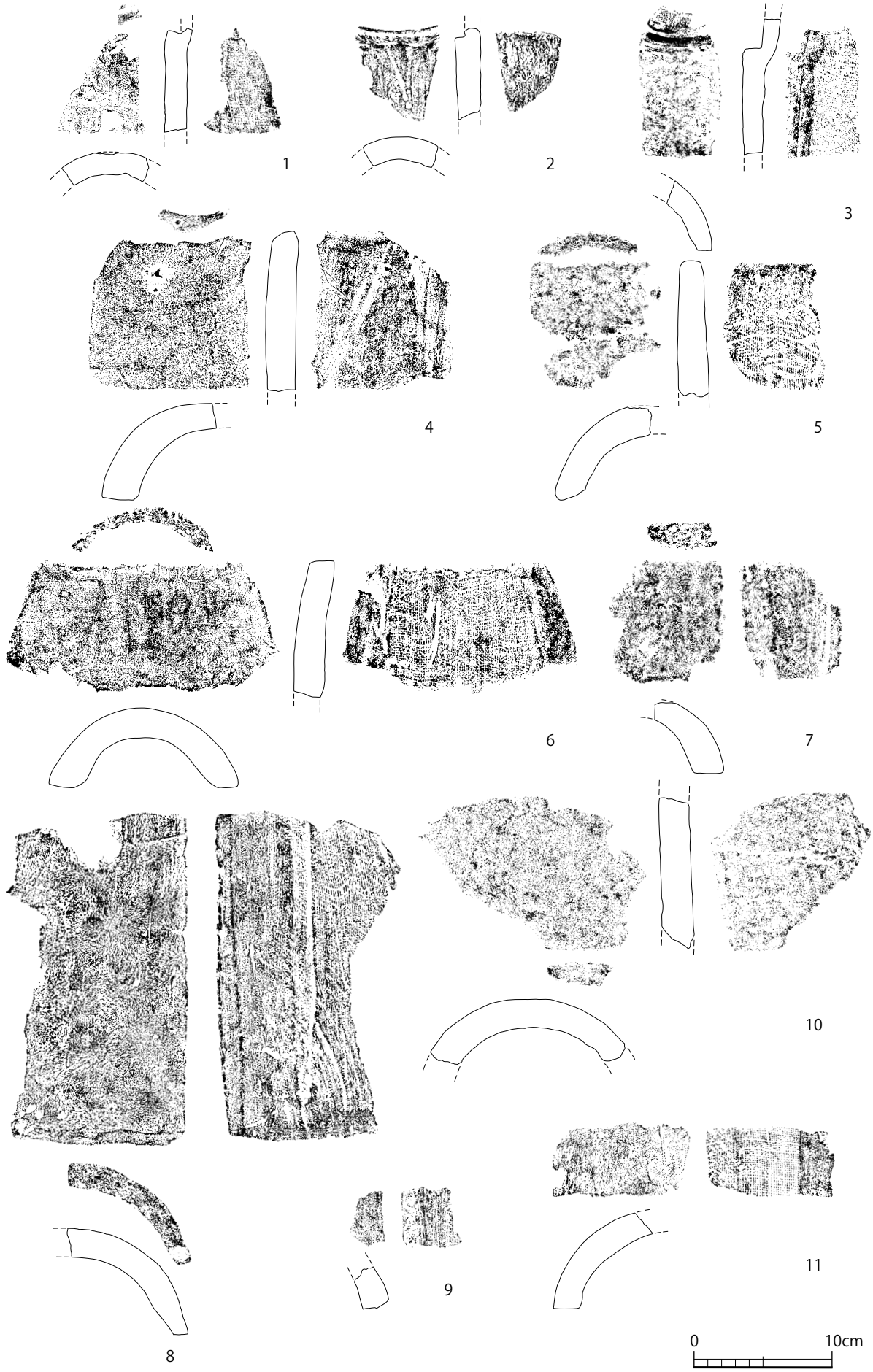
第 100 図　平瓦実測図③（S= 1 /4）



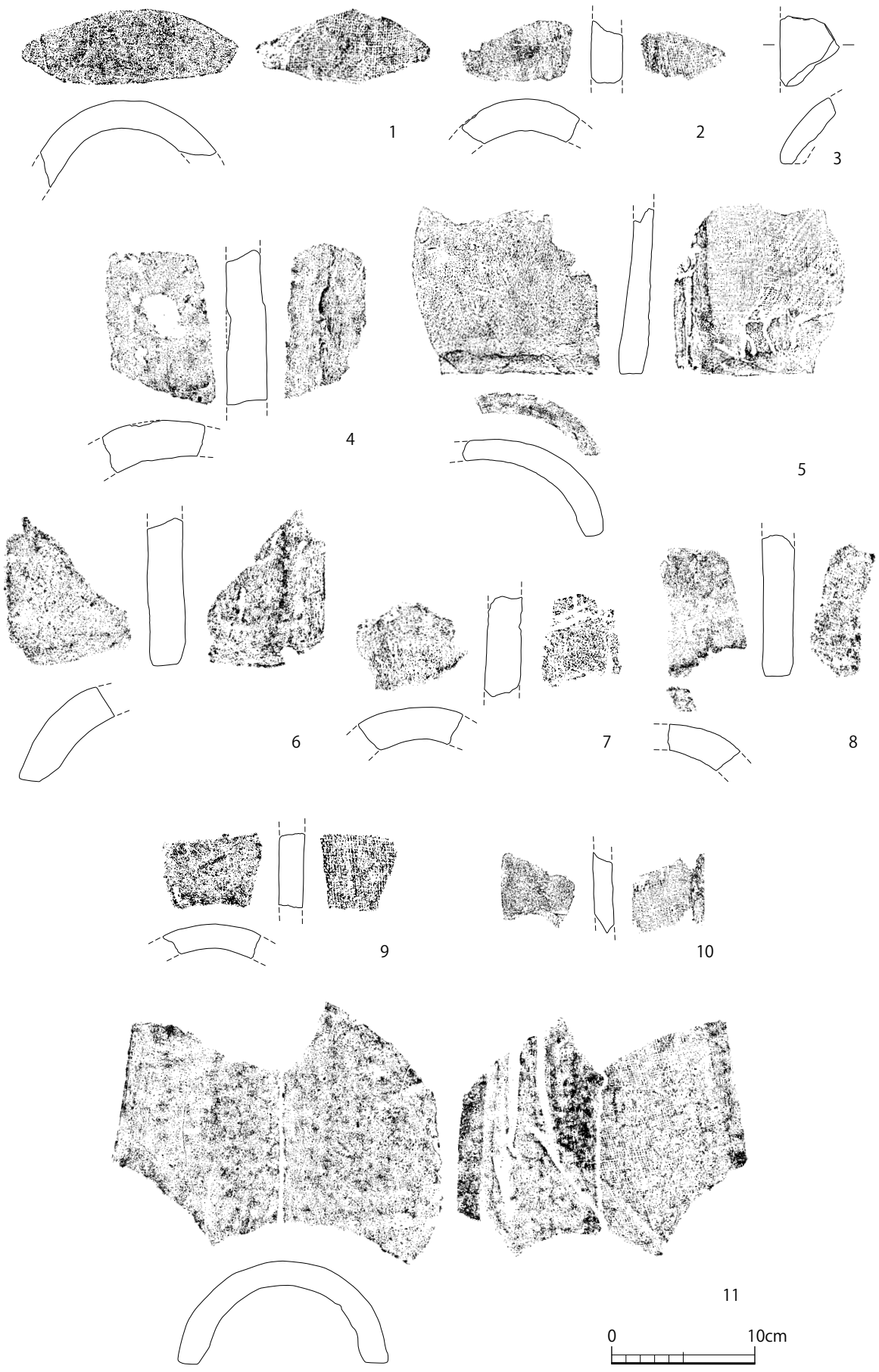
第 101 図　平瓦実測図④（S= 1 /4）



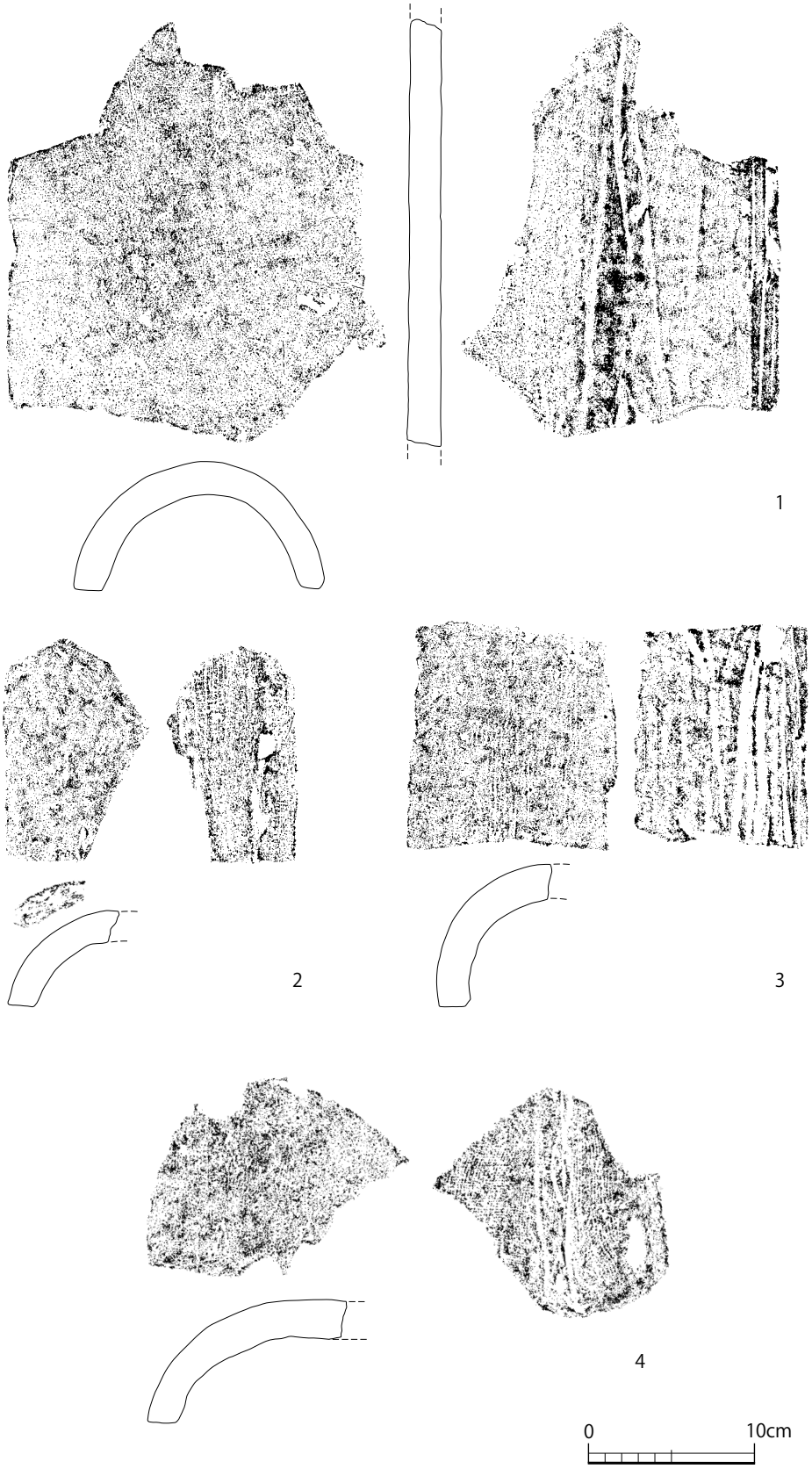
第 102 図　平瓦実測図⑤（S= 1 /4）



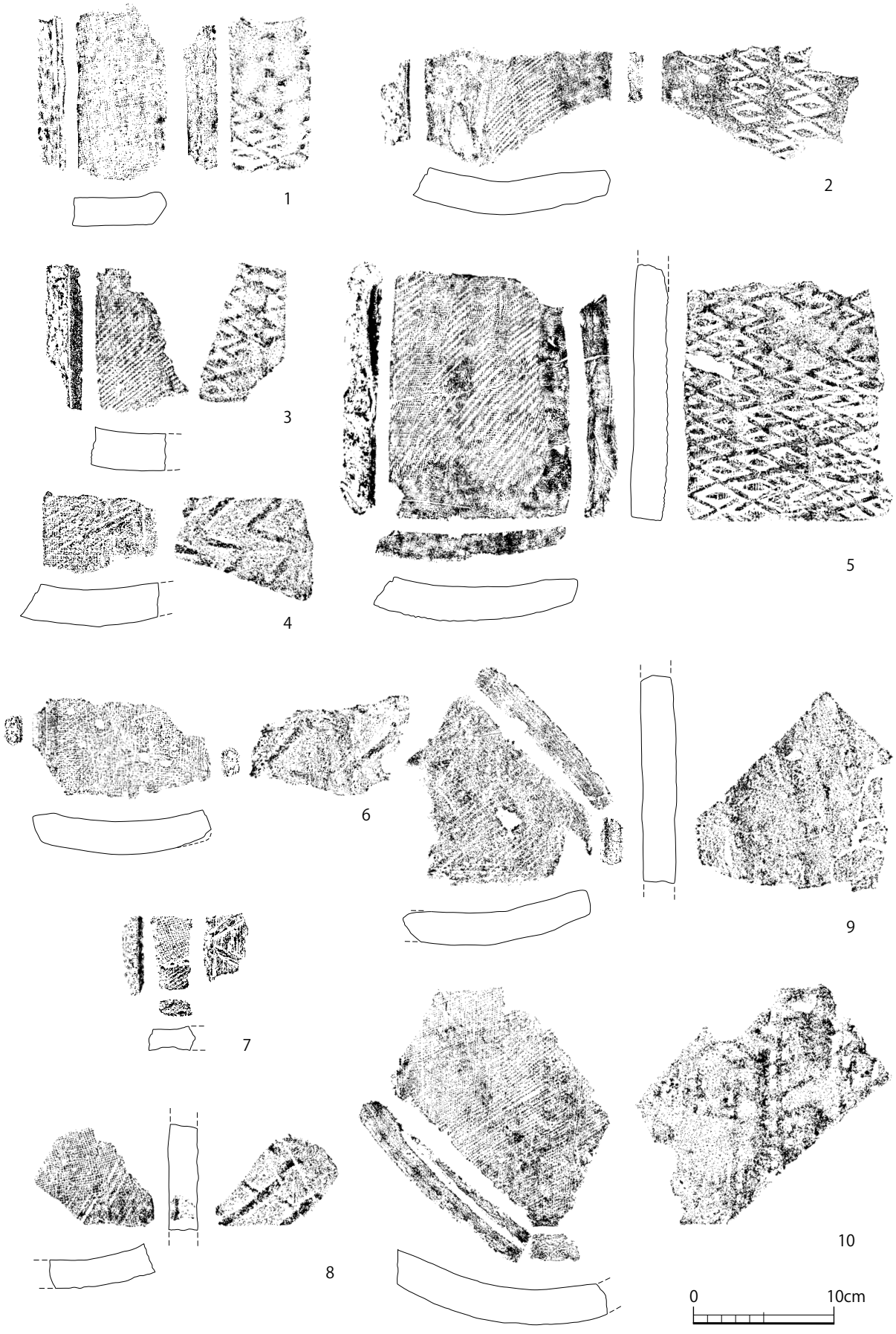
第 103 図　丸瓦実測図①（S= 1 /4）



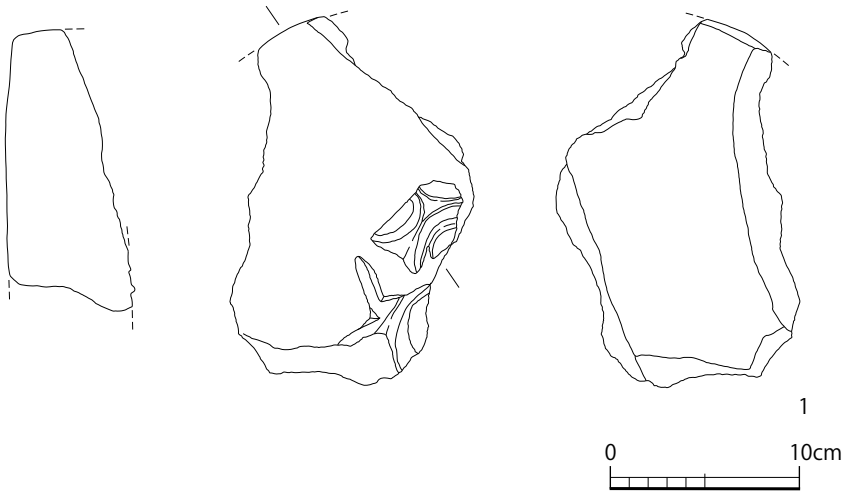
第 104 図　丸瓦実測図②（S= 1 /4）



第 105 図　丸瓦実測図③（S= 1 /4）



第 106 図　道具瓦実測図（S= 1 /4）



第 107 図　鬼瓦実測図（S= 1 /4）

第 11 表　瓦の区分指標

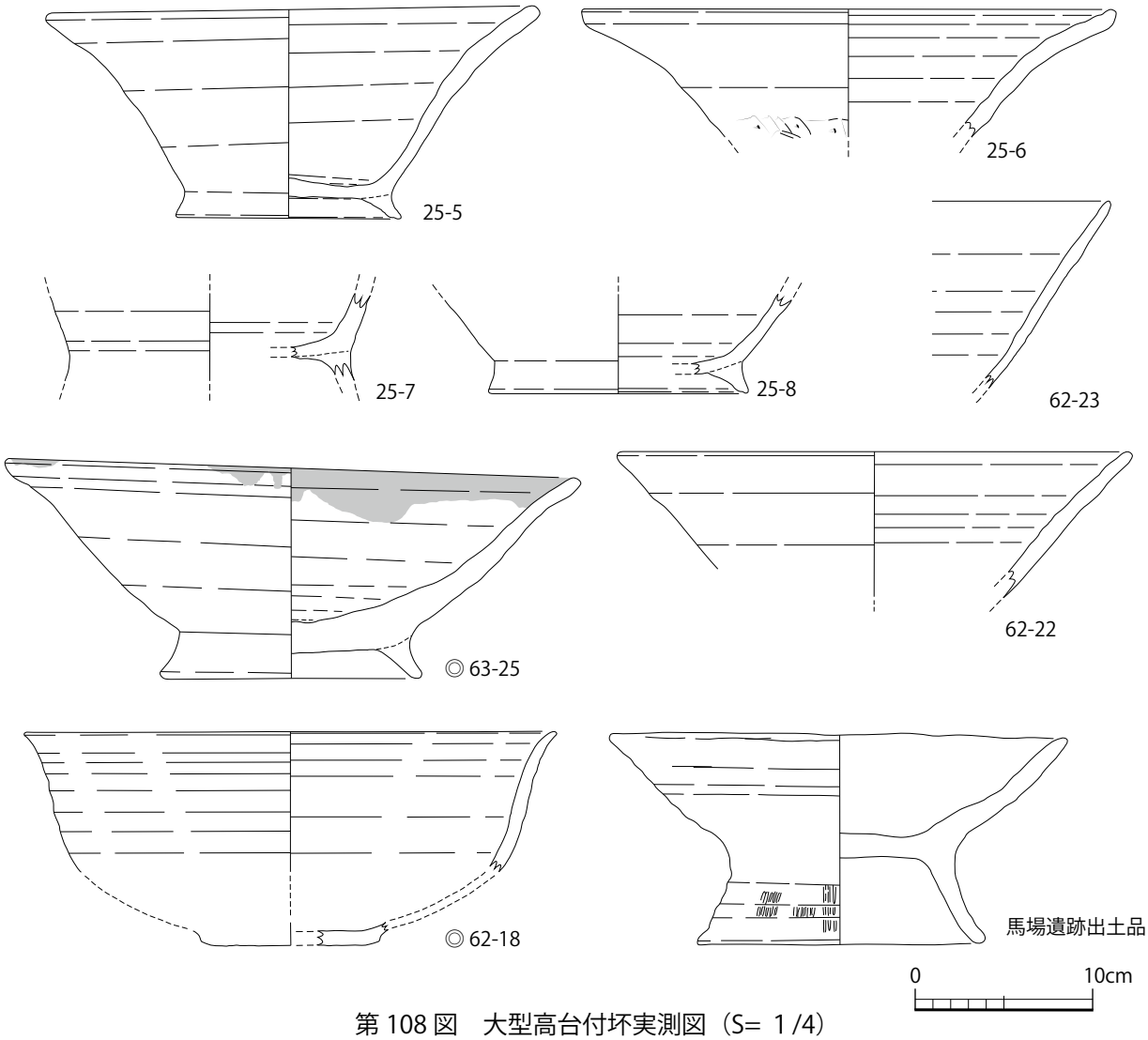
暦年代	8 世紀中葉以降		8 世紀後葉以降	
型式名	出雲国分寺創建期		出雲国分寺補修期	
軒先瓦	軒丸瓦 1 類	軒平瓦 1 類	軒丸瓦 2・3 類	軒平瓦 2・3 類
組み合わせ	有段式丸瓦 A 類（硬質）	平瓦　格子タタキ（1・3・5・6・7・10・不明硬質）、縄タタキ（硬質）、平行タタキ（硬質）	有段式丸瓦 B 類（軟質） 無段式丸瓦	平瓦　格子タタキ（2・4・8・9・11 ～ 23・不明軟質）、縄タタキ（軟質）、ナデ（軟質）

第 12 表　平瓦のタタキ分類表

時期	分類	形態	色調	焼成	砂礫の量	離れ砂	出雲国分寺分類
創建期	格子タタキ 1	斜格子。格子細かい	灰～灰白色	硬質	少量	×	1
	格子タタキ 3	菱形格子。一辺 0.5 ～ 1.0㎝程度	灰～灰白色	硬質	少量	×	2
	格子タタキ 5	方形格子。一辺 0.5㎝程度	灰色	硬質	少量	×	5
	格子タタキ 6	方形格子。長辺 1.5㎝×短辺 0.2㎝程度の横長	灰色	硬質	少量	×	6
	格子タタキ 7	横方向の平行線と菱形格子の組み合わせ。平行線の間隔が狭い	灰～浅黄橙色	硬質	少量	○	7
	格子タタキ 10	長方形格子。長辺 2.0㎝×短辺 0.3㎝程度の縦長	灰色	硬質	少量	×	10
	縄タタキ 2	細かい。タタキ浅い。交差する	橙～赤灰色	硬質	少量	×	縄タタキ
	平行タタキ		灰色	硬質	少量	×	平行叩き
補修期	格子タタキ 2	菱形格子。格子内部が突出する。一辺 2.5㎝程度	灰色	軟質	多量	○	2
	格子タタキ 4	方形格子。一辺 1.5㎝程度	浅黄橙色	軟質	少量	×	4
	格子タタキ 8	横方向の平行線と菱形格子の組み合わせ。平行線の間隔が広い	灰白～浅黄橙色	軟質	少量	×	8
	格子タタキ 9	変形格子。「工」もしくは「H」形	灰白色	軟質	少量	×	9
	格子タタキ 11	方形格子。長辺 0.7 ×短辺 0.1㎝程度の横長	灰白色	硬質	多量	×	11
	格子タタキ 12	菱形格子。格子内に縦方向の細かい平行線が入る	淡黄色	軟質	多量	○	12
	格子タタキ 13	方形格子。一辺 2.5㎝程度。圏線が 1.2㎝と太い	灰白～浅黄橙色	軟質	多量	×	13
	格子タタキ 14	方形格子。長辺 3 ～ 4㎝×短辺 1 ～ 2㎝程度の縦長	浅黄橙色	軟質	多量	×	14
	格子タタキ 15	菱形格子。一辺 1.5 ～ 2.5㎝程度	淡黄色	軟質	多量	×	15
	格子タタキ 16	方形格子。長辺 2.5㎝×短辺 0.5㎝程度の縦長	灰白色	軟質	多量	×	16
	格子タタキ 17	菱形格子。長辺 3.5㎝×短辺 2.5㎝程度	灰～浅黄橙色	軟質	多量	○	17
	格子タタキ 18	斜格子。長辺 2.5 ×短辺 1.5㎝程度	灰色	硬質	多量	×	18
	格子タタキ 19	変形格子。山形状。頂点が突出する	浅黄橙色	軟質	少量	○	19
	格子タタキ 20	菱形格子。格子内部が突出する。一辺 4㎝程度	灰～暗灰色	軟質（いぶし瓦風）	少量	×	20
	格子タタキ 21	長方形格子。長辺 2.0 ～ 3.5㎝×短辺 0.5㎝程度。細長い	灰白色	軟質	少量	×	21
	格子タタキ 22	斜格子。一辺 1㎝程度。	灰白色	軟質	少量	×	34
	格子タタキ 23	斜格子。一辺 3㎝程度。	浅黄橙～淡灰褐色			×	25
	縄タタキ 1	縄目に太・細、タタキに深・浅あり	灰白～浅黄橙色	軟質	少量	×	縄叩き
	ナデなど	縦方向のナデ、ケズリ	灰白色	軟質	少量	×	

大型高台付坏（第 108 図）

大型高台付坏は既往の調査では出土しておらず、今回の調査で 7 点出土した。共伴遺物から第 8 型式～第 10 型式に属すると考えられる。63-25 は口縁部のほぼ全周に煤が付着しており、灯明用の器として使用されたと考えられる。63-25 以外の出土品に煤は付着していないことから、62-25 は灯明用の器に転用されたと考えられる。大型の坏類としては、この他に県内では馬場遺跡（雲南市）で 10 世紀後半から 11 世紀初頭の墓から 1 点出土している（註 6）。この墓からは「黒田」とヘラ描きされた足高高台付坏も出土している。また､62-18 は無高台であるが大きさは類似する。これらの大型の土器は類例が少なく不明な点が多いが、出雲国府跡でも国庁域と考えられる六所脇地区で出土していることから、重要な施設で使用される土器と考えられる。



第 108 図　大型高台付坏実測図（S= 1 /4）

墨書土器（第 13 表、第 109 図）

墨書土器は、既往の調査では、宮の後地区 105 点、大舎原地区 99 点、その他 2 点の合計 206 点が出土している。今回の調査では六所脇地区で 6 点、宮の後地区で 5 点、合計 11 点が出土した。種別は須恵器が 10 点で、土師器が 1 点である。器種は高台付坏 2 点、無高台皿 4 点、無高台坏 2 点、無高台坏か皿 2 点、蓋 1 点である。墨書箇所は外面が 8 点、内面が 3 点である。

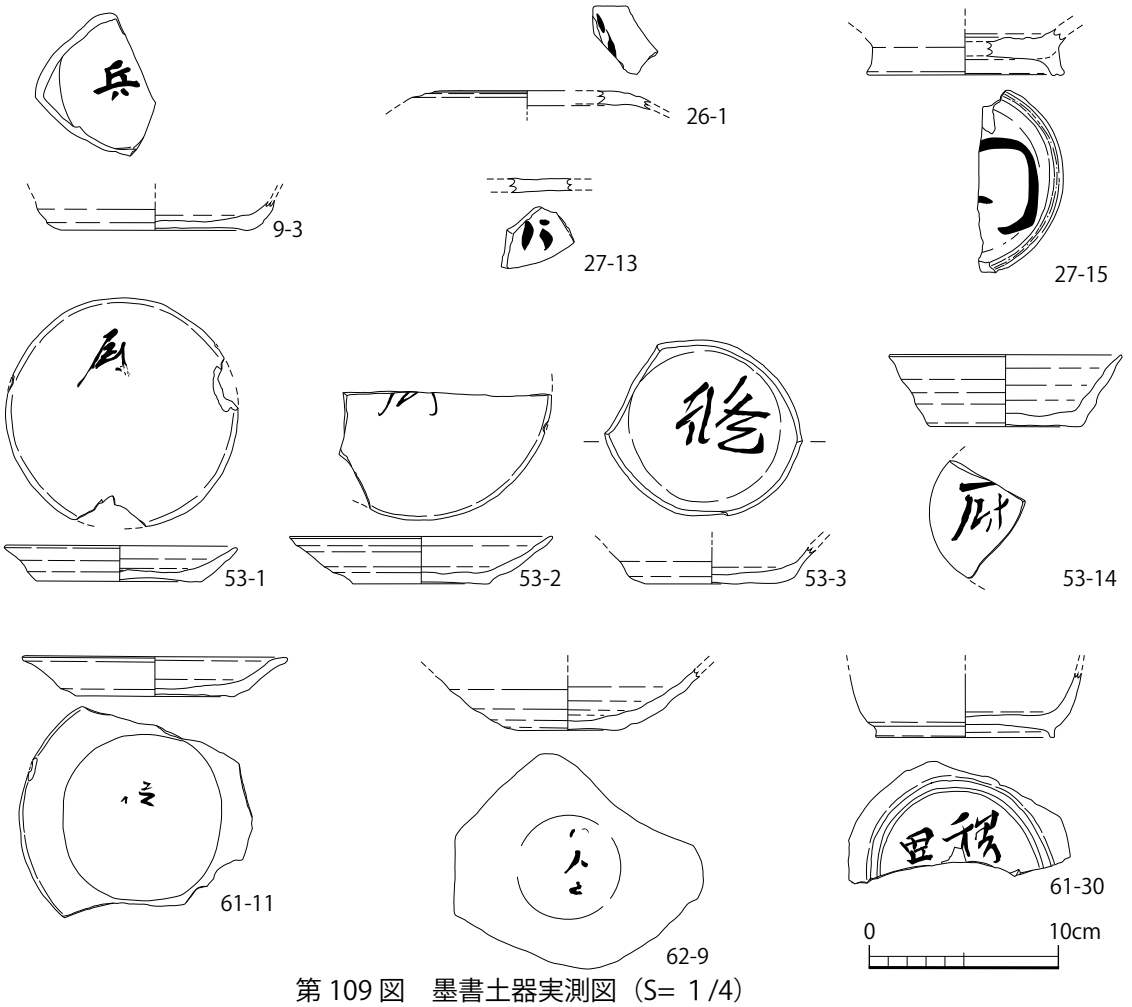
文字は「厨」が最も多く 3 点あり（53-1、2、14）、全てが 80 号溝から出土している。『総括報告書』では「厨」2 点、「厨ヵ」1 点、「出厨」1 点、「国厨」1 点、「国厨ヵ」2 点、「厨○（記号）」

1 点が報告されている。また、「兵」（9-3）、「分」（27-13）、「修」（53-3）、「福」（61-11）は出雲国府跡ではこれまで出土例はない。

文字や型式について 80 号溝と宮の後地区では違いがある。六所脇地区の 80 号溝の出土品は第 5 ～ 10 型式で、書かれた文字は「厨」が 4 点、「修」1 点である。宮の後地区の出土品は第 3 ～ 6 型式で、「厨」の墨書がない。既往の調査では宮の後地区でも「厨」に類する文字が書かれた墨書土器は 4 点あり、六所脇地区のみが「厨」に関連する訳ではないが、第 5 型式以降の時期には、六所脇地区周辺に「厨」の墨書土器を使用する施設が存在した可能性が高い。

第 13 表　　出土墨書土器一覧

挿図番号	文字	地区	調査区	遺構名	層位	種別	器種	型式	箇所
9-3	兵	六所脇地区	T56		19 層	須恵器	無高台坏か皿		底部外面
26-1	不明	六所脇地区	T67 中央区		南区北壁 3 層	須恵器	蓋	出雲 3 ～ 4 期	天井部外面
53-1	厨	六所脇地区	T58 南区	80 号溝	22 層	須恵器	無高台皿	第 5 型式	内面
53-2	厨	六所脇地区	T58 南区	80 号溝	22 層	須恵器	無高台皿	第 5 型式	内面
53-3	修	六所脇地区	T58 南区	80 号溝	22 層	須恵器	無高台坏か皿	第 6 型式	内面
53-14	厨	六所脇地区	T58 南区	80 号溝	26 層	須恵器	無高台皿	第 10 型式	外面
61-30	異？福？	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	10 層	須恵器	高台付坏	第 3 ～ 4 型式	底部外面
61-11	福	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	9 層	須恵器	無高台皿	第 5 ～ 6 型式	底部外面
27-15	門構えか、内	宮の後地区	T68		埋戻土	須恵器	高台付坏	第 4 型式	底部外面
27-13	分	宮の後地区	T68		西壁 24 層上面	須恵器	無高台坏		底部外面
62-9	「●人●」	宮の後地区	T68		西壁 11 層（黒色土）	土師器	無高台坏		底部外面



第 109 図　墨書土器実測図（S= 1 /4）

硯（第 14 表）

硯は既往の調査では定形硯 116 点、転用硯 220 点、石硯 4 点、合計 340 点の硯が出土している。今回の調査では定形硯 2 点、転用硯 38 点、合計 40 点が出土した。定形硯は風字硯 1 点（61-12）と円面硯 1 点（61-45）である。このうち 62-27 は蓋の転用硯と考えられるが、内面にはスタンプによる渦文があり、外面と内面の縁に漆を塗布した特殊な品である。これらの遺物は 1 号池状施設から出土した。

第 14 表　　出土硯一覧（挿図番号が「＊」は表のみ掲載）

番号	挿図番号	器種	地区	調査区	遺構	土層	型式	硯面
1	9-7	無高台皿	六所脇地区	T56		19 層	第 4 ～ 5 型式	底部外面
2	＊	皿	六所脇地区	T56		9 層	第 5 型式	内面
3	＊	坏	六所脇地区	T56	79 号溝			内面
4	＊	蓋	六所脇地区	T57		北壁 8 層（礫層）	第 4 型式	内面
5	11-21	蓋	六所脇地区	T57		北壁 10 層		内面
6	11-27	蓋	六所脇地区	T57		北壁 10 層		内面
7	＊	不明	六所脇地区	T57		北壁 10 層		内面
8	＊	蓋	六所脇地区	T57		北壁 14 層		内面
9	67-2	高台付皿	六所脇地区	T58 南区	68 号土坑	13 層	第 4 型式	内面
10	53-16	無高台皿	六所脇地区	T58 南区	80 号溝	26 層	第 5 型式	内面
11	53-18	無高台皿	六所脇地区	T58 南区	80 号溝	26 層	第 4 ～ 5 型式	内面
12	＊	蓋	六所脇地区	T58 南区	80 号溝	28 層		内面
13	＊	不明	六所脇地区	T58 南区	80 号溝	28 層		内面
14	25-3	蓋	六所脇地区	T66 東区		東壁 4 層（耕作土）	第 5 型式	内面
15	＊	甕	六所脇地区	T66 東区		東壁 4 層（耕作土）		内面
16	＊	皿か坏	六所脇地区	T66 東区		東壁 4 層（耕作土）		内面
17	＊	蓋	六所脇地区	T66 東区		東壁 4 層（耕作土）	第 4 型式	内面
18	48-2	高台付坏	六所脇地区	T66 北区	27 号建物跡	P5	第 2 ～ 3 型式	内面
19	＊	高台付坏	六所脇地区	T67 北区		西壁 5 層（礫層）	第 4 ～ 5 型式	底部外面
20	61-7	蓋	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	9 層	第 3 ～ 4 型式	内面
21	61-6	蓋	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	9 層	第 3 ～ 4 型式	内面
22	61-12	風字硯	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	9 層		
23	＊	坏	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	9 層	第 5 型式	外面
24	＊	蓋	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	9 層	第 5 型式	内面
25	61-24	蓋	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	10 層	第 3 ～ 4 型式	内面
26	61-31	高台付坏	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	10 層	第 2 型式	内面
27	61-32	高台付坏	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	10 層	第 4 型式	内外面
28	61-33	高台付皿	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	10 層	第 4 型式	内外面
29	61-39	平瓶	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	10 層		内面
30	61-45	円面硯	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	10 層		
31	＊	蓋	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	10 層	第 4 型式	内面
32	＊	蓋	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	10 層		内面
33	＊	不明	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	10 層		内面
34	＊	蓋	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	10 層		内面
35	＊	坏	宮の後地区	T58 北区	1 号池状施設	10 層		内面
36	56-1	蓋	宮の後地区	T58 北区	83 号溝		第 2 型式	
37	62-24	蓋	宮の後地区	T68	1 号池状施設	10 層	第 3 ～ 4 型式	内面
38	＊	皿か坏	宮の後地区	T68	1 号池状施設	10 層	第 2 ～ 5 型式	内面
39	60-27	蓋	宮の後地区	T68		西壁 11 層		内面
40	＊	蓋	—	T62		11 層上面		内面

出土地区を見ると六所脇地区で 19 点、宮の後地区で 20 点、T62 で 1 点出土した。既往の調査では、六所脇地区で 3 点、宮の後地区で 136 点、大舎原地区で 174 点、日岸田地区で 22 点、樋ノ口地区で 3 点、その他で 2 点出土しており、宮の後地区と大舎原地区が圧倒的に多く、六所脇地区は少ない。今回の調査では、宮の後地区の調査範囲が狭いためか、六所脇地区と宮の後地区の出土数はほぼ同数となった。出土地点では 1 号池状施設が最も多く、18 点出土し、次いで 80 号溝から 4 点出土した。転用硯の種類は、蓋からの転用品が最も多く 18 点出土し、次いで坏・皿類からの転用品が 15 点出土した。型式は第 2 型式が 2 点、第 2 ～ 3 型式が 1 点、第 3 ～ 4 型式が 4 点、第 4 型式が 6 点、第 2 ～ 5 型式が 1 点、第 4 ～ 5 型式が 3 点、第 5 型式が 5 点であった。第 2 ～ 3 型式では蓋の転用硯が多く、第 4 ～ 5 型式では高台付坏の転用硯が多い。出土地区の傾向を見ると六所脇地区では第 4 ～ 5 型式が多く、宮の後地区では第 3 ～ 4 型式が多い。六所脇地区では新しい型式の出土が多く、宮の後地区では古い型式の出土が多い傾向がある。周辺施設の変化に関連する可能性も考えられる。

漆付土器（第 15 表）

漆付土器は既往の調査では、須恵器 158 点、土師器 16 点が確認されている。今回の調査では小片も含めると、六所脇地区で須恵器 5 点と土師器 2 点が出土し、宮の後地区で須恵器 22 点と土師器 42 点が出土し、合計 71 点が出土した。出土遺構や土層では T58 北区と T68 の黒色土からの出土が最も多く 35 点出土し、次いで 1 号池状施設からの出土が多く 20 点出土した。黒色土出土品の内訳は、須恵器の蓋 1 点、土師器の坏・皿類 22 点、不明 12 点で、1 号池状施設出土品の内訳は、須恵器の長頸壺 9 点、𤭯 4 点、平瓶 1 点、甕か壺 1 点、高台付坏 1 点、高坏 1 点、不明 1 点、土師器の坏類 1 点、不明 1 点である。黒色土からの出土品は土師器が多く、1 号池状施設からの出土品は須恵器が多い。黒色土から出土した土師器の坏類と須恵器の蓋はパレット等の漆関係の道具ではなく、漆を塗った土器である。

『総括報告書』では漆が付着した土器類について、須恵器の長頸壺を運搬具、須恵器の壺・𤭯・甕と土師器の壺を貯蔵具、土師器の甕をクロメ用の煮沸具、それ以外の器種をパレットと想定した。この分類を今回の出土品のうち漆塗り土器を除いた出土品に適用すると、六所脇地区では運搬具 1 点（3%）、パレット 4 点（11%）、不明 2 点（6%）、宮の後地区では運搬具 10 点（28%）、貯蔵具 8 点（22%）、パレット 8 点（22%）、不明 3 点（8%）となる。『総括報告書』では宮の後地区ではパレットの割合が高いとされたが、今回の調査地点では貯蔵具と同じ割合となった。出土地点と出土品の関係を見ると、1 号池状施設埋土では運搬具 9 点、貯蔵具 6 点、坏類 3 点、不明 2 点が出土し、運搬具と貯蔵具が多い。黒色土では漆塗りの蓋 1 点、漆塗りの坏・皿類が 22 点、不明 12 点が出土しており、供膳具である坏・皿類が多い。1 号池状施設を埋め立てる前と後で周辺の施設に変化があったと考えられる。

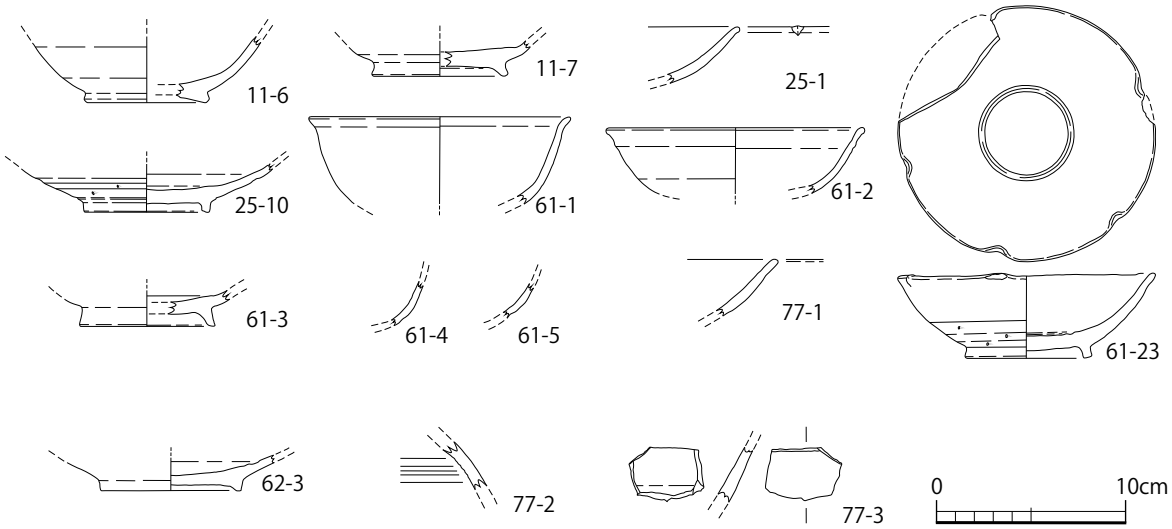
緑釉陶器・灰釉陶器（第 110 図、第 16 表）

緑釉陶器は既往の調査で 180 点が確認されている。今回の調査では六所脇地区から 9 点、宮の後地区から 10 点、合計 19 点が出土した。六所脇地区では耕作土や 89 号溝から出土し、宮の後地区では 1 号池状施設の堆積土、黒色土及び礫層から出土している。『総括報告書』では、六所脇地区の性格が SB020 廃絶後に変化した可能性を指摘している。今回の調査からは、第 1 遺構面の施設と、第 2 遺構面の施設で性格が異なる可能性を指摘できる。

第 15 表　出土漆付土器一覧（挿図番号が「＊」は表のみ掲載）

番号	挿図番号	種別	器種	地区	調査区	遺構	土層	型式	備考
1	9-2	須恵器	長頸壺	六所脇地区	T56		9 層		
2	＊	須恵器	皿	六所脇地区	T56		9 層		1 点
3	＊	土師器	高台付坏	六所脇地区	T56				1 点
4	＊	土師器	高足高台付皿	六所脇地区	T57		北壁 6 層（耕作土）		1 点
5	＊	須恵器	無高台坏	六所脇地区	T57		北壁 8 層（礫層）		1 点
6	＊	須恵器		六所脇地区	T57		北壁 11 層		1 点
7	40-7	須恵器	高坏	六所脇地区	T66	26 号建物跡			
8	＊	土師器		宮の後地区	T58（北区）		3 層（耕作土）		1 点
9	＊	土師器		宮の後地区	T58（北区）		4 層（礫層）		1 点
10	63-9	土師器	無高台坏か皿	宮の後地区	T58（北区）		7 層（黒色土）		
11	63-16	土師器	無高台坏	宮の後地区	T58（北区）		7 層（黒色土）		
12	＊	土師器	無高台坏	宮の後地区	T58（北区）		7 層（黒色土）		7 点
13	＊	土師器		宮の後地区	T58（北区）		7 層（黒色土）		7 点
14	61-14	土師器	無高台坏か皿	宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	9 層		
15	61-34	須恵器	高坏	宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	10 層	第 3 型式	
16	61-35	須恵器	長頸壺	宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	10 層		
17	61-37	須恵器	長頸壺	宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	10 層		
18	61-38	須恵器	長頸壺	宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	10 層	第 3 型式	
19	＊	須恵器	長頸壺	宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	10 層		6 点
20	61-39	須恵器	平瓶	宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	10 層		
21	61-41	須恵器	甕	宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	10 層	第 4 型式	
22	61-43	須恵器	甕	宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	10 層		
23	61-44	須恵器	甕	宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	10 層	第 3 型式	
24	＊	須恵器	甕	宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	10 層		1 点
25	＊	須恵器	甕か壺	宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	10 層		1 点
26	＊	土師器		宮の後地区	T58（北区）	1 号池状施設	10 層		1 点
27	55-3	須恵器	長頸壺	宮の後地区	T58（北区）	82 号溝			
28	55-4	須恵器	壺	宮の後地区	T58（北区）	82 号溝			
29	27-4	土師器	無高台坏	宮の後地区	T68		西壁 4 層（礫層）		
30	＊	土師器	坏・皿類	宮の後地区	T68		西壁 4 層（礫層）		4 点
31	62-27	須恵器	蓋	宮の後地区	T68		西壁 11 層（黒色土）		
32	62-11	土師器	無高台坏	宮の後地区	T68		西壁 11 層（黒色土）		
33	62-14	土師器	無高台坏	宮の後地区	T68		西壁 11 層（黒色土）		
34	62-16	土師器	無高台坏	宮の後地区	T68		西壁 11 層（黒色土）		
35	62-17	土師器	無高台坏	宮の後地区	T68		西壁 11 層（黒色土）		
36	62-20	土師器	高台付坏	宮の後地区	T68		西壁 11 層（黒色土）		
37	＊	土師器	坏・皿類	宮の後地区	T68		西壁 11 層（黒色土）		8 点
38	＊	土師器		宮の後地区	T68		西壁 11 層（黒色土）		5 点
39	60-31	須恵器	高台付坏	宮の後地区	T68	1 号池状施設	土手状盛土		
40	＊	須恵器		宮の後地区	T68	1 号池状施設	西壁 11 層		1 点
41	27-14	須恵器	甕	宮の後地区	T68		SA003-P1		

灰釉陶器は既往の調査では六所脇地区 2 点、宮の後地区 24 点、大舎原地区 37 点、日岸田地区 37 点、その他 4 点の合計 104 点が確認されている。今回の調査では六所脇地区で 2 点、宮の後地区で 5 点の合計 7 点が出土した。出土層は六所脇地区では 89 号溝から出土し、宮の後地区では黒色土と礫層から出土した。ほぼ緑釉陶器と同様の出土の状況であり、灰釉陶器からも第 1 遺構面の施設と、第 2 遺構面の施設で性格が異なる可能性を指摘できる。



第 110 図　緑釉陶器、灰釉陶器実測図（S= 1 /4）

第 16 表　出土緑釉陶器・灰釉陶器一覧（挿図番号が「＊」は表のみ掲載）

番号	挿図番号	種別	器種	地区	調査区	遺構	土層	時期	備考
1	＊	緑釉陶器		六所脇地区	T56		8 層		近江
2	＊	緑釉陶器		六所脇地区	T56		9 層		硬質
3	＊	緑釉陶器		六所脇地区	T56		9 層		硬質
4	＊	緑釉陶器		六所脇地区	T57		北壁 6 層（耕作土）		硬質
5	11-6	緑釉陶器	碗	六所脇地区	T57		北壁 10 層	9 c 後半～末	京都系
6	11-7	緑釉陶器	碗	六所脇地区	T57		北壁 10 層		
7	25-1	緑釉陶器	輪花皿	六所脇地区	T66(西区)		第 1 期調査埋戻土		
8	25-10	緑釉陶器	碗	六所脇地区	T66(東区)		東壁 18 層上面		京都系
9	77-1	緑釉陶器	皿	六所脇地区	T66(東区)	88 号溝			
10	＊	緑釉陶器		宮の後地区	T58(北区)		4 層（礫層）		硬質
11	＊	緑釉陶器		宮の後地区	T58(北区)		7 層（黒色土）		硬質
12	61-1	緑釉陶器	碗	宮の後地区	T58(北区)	1 号池状施設	9 層		防長？
13	61-2	緑釉陶器	碗	宮の後地区	T58(北区)	1 号池状施設	9 層		近江
14	61-3	緑釉陶器	碗？	宮の後地区	T58(北区)	1 号池状施設	9 層		近江か美濃
15	61-4	緑釉陶器	碗？	宮の後地区	T58(北区)	1 号池状施設	9 層		近江
16	61-5	緑釉陶器	碗？	宮の後地区	T58(北区)	1 号池状施設	9 層		近江
17	61-23	緑釉陶器	輪花碗	宮の後地区	T58(北区)	1 号池状施設	10 層	9 世紀後半	京都系
18	＊	緑釉陶器		宮の後地区	T58(北区)	1 号池状施設	9 層		硬質
19	＊	緑釉陶器		宮の後地区	T68		第 1 期調査埋戻土		京都系
20	＊	灰釉陶器		宮の後地区	T56		9 層		京都？
21	77-2	灰釉陶器	壺か？	六所脇地区	T66(東区)	88 号溝			
22	77-3	灰釉陶器	壺か？	六所脇地区	T66(東区)	88 号溝			
23	＊	灰釉陶器		宮の後地区	T58(北区)		7 層（黒色土）		
24	＊	灰釉陶器		宮の後地区	T58(北区)		7 層（黒色土）		
25	＊	灰釉陶器？		宮の後地区	T68		西壁 4 層（礫層）		
26	62-3	灰釉陶器	坏	宮の後地区	T68		西壁 11 層（黒色土）		

註 1　分類は松江市教育委員会 2015『史跡出雲国分寺跡発掘調査報告書 - 総括編 -』による。
註 2　島根県教育委員会 1985『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告Ⅳ』
註 3　松江市教育委員会 2015『史跡出雲国分寺跡発掘調査報告書 - 総括編 -』
註 4　前島己基 1975「古代寺院跡二出雲国分尼寺跡」『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』島根県教育委員会
註 5　花谷浩 2003「出土瓦の量的検討」『吉備池廃寺発掘調査報告』奈良文化財研究所
註 6　大田市中祖遺跡は、丸瓦と平瓦の比率が重量で 1 ： 7 、隅数で 1 ： 8 と算出されている。軒瓦を含まないことから熨斗棟に復元されている。（島根県教育委員会 2008「第 3 章中祖遺跡の調査」『中祖遺跡・ナメラ迫遺跡』）。
註 7　各地区における 100㎡あたりの瓦出土量は 14 ～ 16 ｋｇと近似している（『総括報告書』第 16 表）。
註 8　島根県教育委員会 2001『馬場遺跡』中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 14

第２節　遺構の変遷

六所脇地区とその周辺で検出した遺構について、各遺構の時期を推定し、変遷を検討する。時期は『総括報告書』で示された区分に従った。この時期区分では 7 世紀後葉～ 12 世紀後半を出雲国府Ⅰ期～Ⅵ期の 6 時期に区分し、出雲国府Ⅱ期とⅢ期には各々小期を設けている（第 17 表）。『総括報告書』では、これに古墳時代と 13 世紀以降の状況を加えて論考した。この時期区分は、時期認定や測量誤差の問題がない大舎原地区と日岸田地区の遺構変遷を基準として設定した。『総括報告書』で指摘するように、本来は今回調査を行った国庁域である六所脇地区の成果を基に時期区分を再設定すべきだが、現在も六所脇地区の調査を継続中であり、拙速な時期区分の再設定は混乱を来す恐れがあるため、本報告書では『総括報告書』の時期区分に従う。六所脇地区の発掘調査が完了して、再度の総括報告書作成の際に時期区分の再設定を行いたい。

今回の調査で検出した遺構は、検出遺構面、遺構出土遺物、遺構の重複関係、遺構の主軸を考慮して各時期を推定した。検出遺構面は基本的には第 1 遺構面、第 2 遺構面、第 3 遺構面の 3 面に区分できる。第 1 遺構面の基盤層である第 1 基盤層からは、T66 東区周辺では第 6 型式までの遺物が出土し、T67 中央区では第 9 ～ 10 型式までの遺物が出土している。このことから、第 1 遺構面で検出した遺構は T66 東区周辺では 9 世紀中葉以降に築造され、T67 中央区では 12 世紀後半以降に築造されたと考えられる。また、遺構が第 1 基盤層に覆われている場合は、T66 東区周辺では 9 世紀前葉までには廃絶し、T67 中央区では 12 世紀後半までには廃絶したと考えられる。遺構面の基盤層である第 2 基盤層からは第 1 型式までの遺物が出土しているが、出雲 4 期から 6b. c 期までの須恵器が多く、第 1 型式の須恵器は少ない。このことから、第 2 遺構面は第 1 型式が成立して間もなく造成されたと考えられ、第 2 遺構面で検出した遺構は 7 世紀後葉以降に築造されたと考えられる。また、遺構が第 2 基盤層に覆われている場合は、7 世紀後葉までには廃絶したと考えられる。第 3 遺構面の基盤層である第 3 基盤層はサブトレンチなど部分的な発掘しかしていないため確実な造成時期は不明だが、第 3 遺構面には古墳時代中期の遺構が築造されていることから、それ以前に成立したと考えられる。

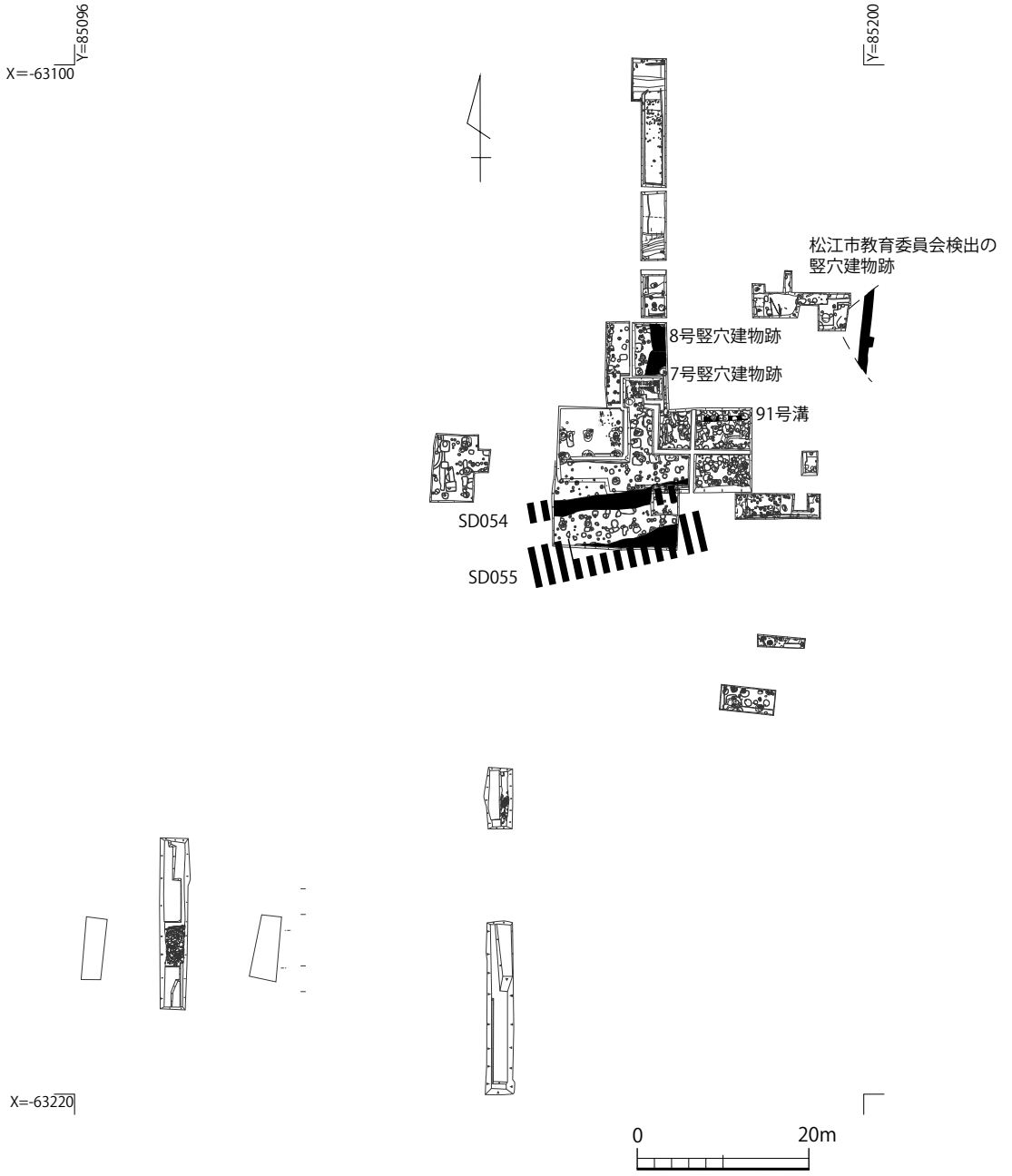
第 17 表　出雲国府跡変遷一覧表（『総括報告書』第 28 表を一部改変して転載）

<table>
<tr><th>年代</th><th>土器型式</th><th>出雲国府</th><th>六所脇地区</th><th>宮の後地区</th><th>大舎原地区</th><th>日岸田地区</th></tr>
<tr><td>7 世紀後葉</td><td>第 1 型式</td><td>Ⅰ期</td><td>SB018、SB019、29 号建物跡</td><td>前身官衙</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>8 世紀第 1 四半期</td><td>第 2 型式</td><td>Ⅱ -1 期</td><td>26 号建物跡</td><td rowspan="2">曹司
（掘立柱建物、区画溝、木簡、墨書）</td><td rowspan="2">文書、工房、祭祀
（掘立柱建物、区画溝、祭祀土坑、墨書）</td><td rowspan="2">漆集積
（総柱建物、区画溝、漆関係遺物）</td></tr>
<tr><td>8 世紀第 2 四半期</td><td>第 3 型式</td><td>Ⅱ -2 期</td><td>SB020A、80 号溝</td></tr>
<tr><td>8 世紀第 3 四半期</td><td rowspan="2">第 4 型式</td><td rowspan="2">Ⅲ -1 期</td><td rowspan="2">SB020B、80 号溝</td><td rowspan="3">1 号池状施設
曹司
（掘立柱建物、区画溝、木簡、墨書）</td><td rowspan="3">国司館
（礎石、掘立柱建物、区画溝、木簡、墨書）</td><td rowspan="3">（掘立柱建物、区画溝、緑釉陶器）</td></tr>
<tr><td>8 世紀第 4 四半期</td></tr>
<tr><td>9 世紀前葉</td><td>第 5 型式</td><td>Ⅲ -2 期</td><td>SB020C、27 号・28 建物跡、30 号建物跡、80 号溝</td></tr>
<tr><td>9 世紀中葉</td><td rowspan="3">第 6 型式</td><td rowspan="3">Ⅳ期</td><td rowspan="3">67 号土坑、68 号土坑、95 号溝、84 号溝、85 号溝、88 号溝</td><td rowspan="3">1 号池状施設
（掘立柱建物、緑釉・灰釉陶器）</td><td rowspan="3">（礎石建物、溝、井戸、緑釉・灰釉陶器）</td><td rowspan="3">（礎石建物、溝、緑釉・灰釉陶器）</td></tr>
<tr><td>9 世紀後葉</td></tr>
<tr><td>10 世紀前半</td><td>第 7 型式</td></tr>
<tr><td>10 世紀後半</td><td rowspan="2">第 8 型式</td><td rowspan="2">Ⅴ期</td><td rowspan="2">89 号溝、15 号井戸、16 号井戸</td><td rowspan="2">1 号池状施設
（井戸、土坑、緑釉陶器）</td><td rowspan="2">－</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>11 世紀前半</td></tr>
<tr><td>11 世紀後半</td><td rowspan="2">第 9 型式</td><td rowspan="3">Ⅵ期</td><td rowspan="3">－</td><td rowspan="3">黒色土
（井戸、貿易陶磁器）</td><td rowspan="3">（井戸、柵列、溝）</td><td rowspan="3">（掘立柱建物、井戸、貿易陶磁器）</td></tr>
<tr><td>12 世紀前半</td></tr>
<tr><td>12 世紀後半</td><td>第 10 型式</td></tr>
</table>

古墳時代（第 111 図）

今回の調査では、古墳時代前期末～中期前葉の SD054 と、古墳時代中期の 8 号建物跡、6 世紀前葉の 7 号建物跡、7 世紀前葉の 91 号溝を検出した。六所脇地区ではこの他に第 1 期調査で検出された古墳時代中期中葉の SD055 と、2009（平成 21）年度に松江市教育委員会が検出した古墳時代後期後葉～末葉と考えられる竪穴建物跡 1 棟がある。SD054 と SD055 は区画溝と考えられている。

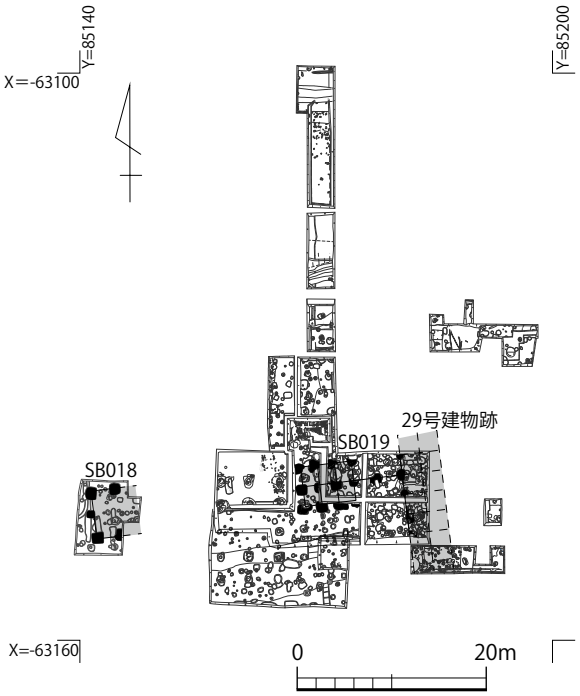
『総括報告書』では、古墳時代前期末葉～中期前葉には六所脇地区を中心に集落が展開し、後期前葉～中葉に一旦途絶し、後期後葉～末葉なると六所脇地区周辺に中心域が移ったと推定した。今回の調査では、6 世紀前葉の竪穴建物を検出し、これらの遺構を覆う第 2 基盤層からは 6 世紀中葉から 7 世紀後葉までの遺物を採取した。このことから六所脇地区では、官衙として整備されるまで、途絶することなく継続して集落が営まれていた可能性も考えられる。



第 111 図　遺構変遷図〔古墳時代〕（1/800）

出雲国府Ⅰ期（第 112 図）

7 世紀後葉とされる第 1 型式の時期で、この時期の遺構は SB019（3 間× 4 間の総柱掘立柱東西棟）と 29 号建物跡（梁間 2 間の総柱掘立柱南北棟か塀）が該当する。SB019 は SB020 や 26 号建物跡に先行し、第 2 遺構面に築造された遺構では最も古いと考えられることから、この時期とした。29 号建物跡の主軸は SB019 と同一で、遺構も連結していると考えられることから、この時期の遺構と推測した。この他に六所脇地区では、SB018（梁 2 間の側柱掘立柱東西棟）が主軸が西に傾くことから同時期と考えられる。SB019 の中心の柱列の延長線には SB018 の中心の柱穴が位置し、両施設の配置が計画的なものであると考えられる。



第 112 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅰ期〕（1/800）

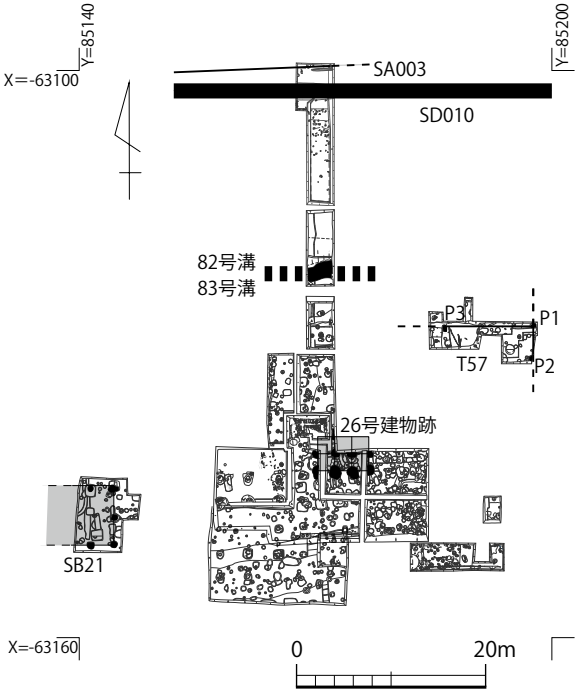
『総括報告書』では出雲国府Ⅰ期をⅡ期へ続く官衙的な要素が備わった時期と位置づけた。SB019 と 29 号建物跡が築造された第 2 基盤層には 9 世紀前葉まで SB020 をはじめ様々な施設が築造される。第 2 基盤層は古墳時代と一線を画した古代官衙の整備を行った際の造成土と考えられ、『総括報告書』で指摘するように出雲国府Ⅰ期は出雲国庁の基礎となる整備が行われた時期と位置づけることができる。

出雲国府Ⅱ期

7 世紀末～ 8 世紀中葉とされる第 2 型式から第 4 型式の成立直後にあたる時期である。この時期は、大舎原地区と日岸田地区での方形区画の出現をもって、Ⅱ -1 期とⅡ -2 期に分かれる。概ね、Ⅱ -1 期が第 2 型式、Ⅱ -2 期が第 3 型式にあたる。

出雲国府Ⅱ -1 期（第 113 図）

Ⅱ -1 期の遺構には 26 号建物跡（3 間× 4 間の総柱掘立柱東西棟）、82 号溝、83 号溝がある。26 号建物跡は重複する SB019 と異なり主軸が正方位を向くが、構造は同じ 3 間× 2 間の総柱の掘立柱建物であることから、SB019 の建て替えと判断し、SB019 の直後にあたるⅡ -1 期に位置づけた。また、SB020 の廂の東側の柱列から 1.6m しか離れていないことから、SB020 とは同時併存はしていないと判断した。82 号溝と 83 号溝は 1 号池状施設に先行することと、第 2 型式の須恵器が出土したことからこの時期に位置づけた。また、SD010、SA003、T57 のピット 3 基も正方位に並ぶことから、この時期

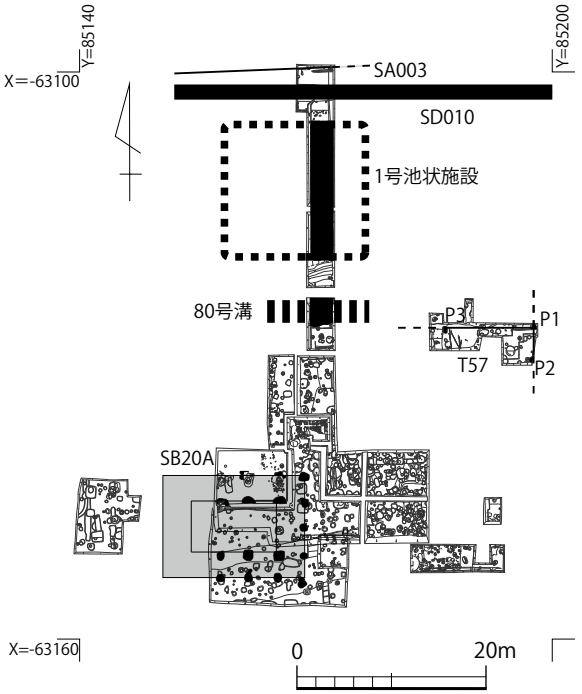


第 113 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅱ -1 期〕（1/800）

の施設の可能性が考えられる。他に第 1 期調査で検出された SB021（梁 2 間の側柱掘立柱東西棟）も、主軸が正方位の側柱の掘立柱建物跡であること、柱穴埋土が灰色系であることから、ほぼ同じ場所にある SB018 の建て替えと判断し、この時期の遺構と推測した。

出雲国府Ⅱ -2 期（第 114 図）

Ⅱ -2 期の遺構には SB020A（掘立柱四面廂付建物跡）と 80 号溝がある。SB020A は SB019 と重複し SB020A が新しく、Ⅱ -1 期に位置づけた 26 号建物跡と併存しないと考え、Ⅱ -2 期に位置づけた。80 号溝は中層（30 層）から第 3 型式の須恵器が出土したことからⅡ -2 期には存在したと推測した。80 号溝は、68 号土坑に先行すること、上層（22 層、26 層、28 層）から第 6 型式の遺物が出土したことから、9 世紀前葉までは機能していたと考えられる。他に SD010、SA003、T57 のピットもこの時期に機能していた可能性も考えられる。



第 114 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅱ -2 期〕(1/800)

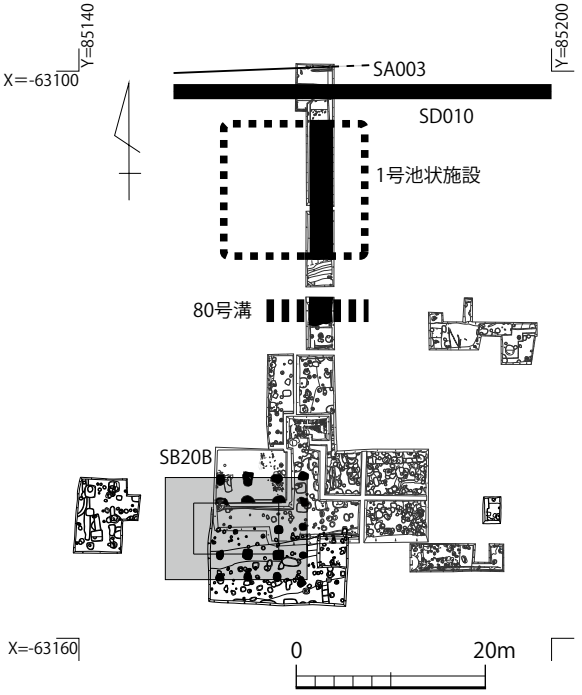
Ⅱ期については『総括報告書』では国レベルで行政機能を持つ官衙遺跡として本格的に造営が開始された時期と位置づけた。今回の調査でもⅡ期に諸施設が主軸が正方位を向くよう築造されている状況を確認し、『総括報告書』で指摘するように、国府機能を遂行する体制が整備された時期と位置づけられる。

出雲国府Ⅲ期

8 世紀末第 3 四半期から 9 世紀前葉とされる第 4 型式から第 5 型式にあたる時期である。この時期は、大舎原地区と日岸田地区での区画溝の再設置と建物の礎石化の現象をもって、Ⅲ -1 期とⅢ -2 期に区分されている。概ね、Ⅲ -1 期が第 4 型式、Ⅲ -2 期が第 5 型式に該当する。

出雲国府Ⅲ -1 期（第 115 図）

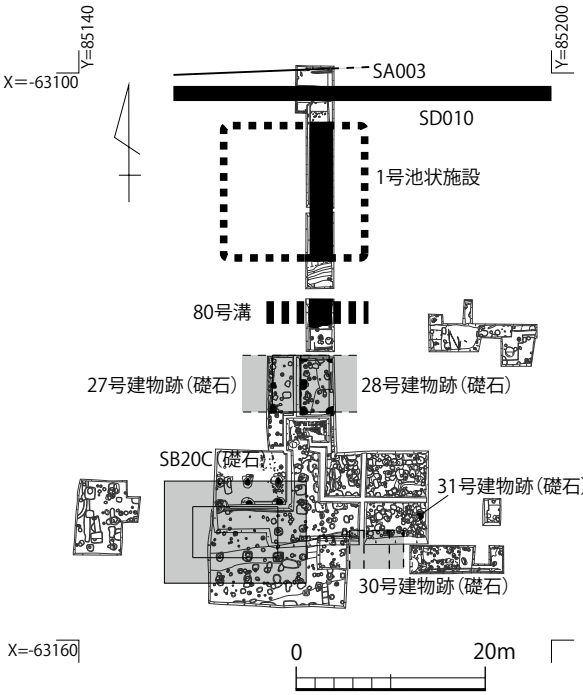
Ⅲ -1 期に該当する遺構は SB020B（掘立柱四面廂付建物跡）と 1 号池状施設がある。SB020B は SB020A の建て替えであることから、Ⅲ -1 期に位置づけた。1 号池状施設は土手状盛土内から第 4 型式の須恵器が出土していることからⅢ -2 期に築造されたと考えられ、10 世紀後半～ 12 世紀後半に黒色土で埋め立てられるまで存在したと考えられる。この他に、SD010、SA003、80 号溝が同時期に存在したと考えられる。



第 115 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅲ -1 期〕(1/800)

出雲国府Ⅲ - ２期（第 116 図）

Ⅲ -2 期の遺構は SB020C（礎石四面廂付建物）、27 号建物跡（梁間２間の礎石東西棟）、28 号建物跡（梁間２間の礎石東西棟）、30 号建物跡（梁間３間の礎石南北棟）、31 号建物跡（礎石建物）がある。これらの遺構は主軸が正方位を向く礎石建物という点で共通している（31 号建物跡は不明）。SB020C は SB020B の建て替えであることからⅢ -2 期に位置づけた。また、SB020C は T67 中央区の第１基盤層に覆われていることから、12 世紀後半までには廃絶したと考えられる。27 号建物跡からは出雲国分寺３型式の軒丸瓦が出土し、且つ 67 号土坑や 68 号土坑より先行することからこの時期とした。28 号建物跡は 95 号溝に先行すること、30 号建物跡と 31 号建物は T66 東区の第１基盤層に覆われていることから、９世紀前葉以前の遺構と考え、且つ正殿である SB020C より先に礎石建物が存在する可能性は低いと考え、SB020C と同じⅢ -2 期と推測した。また、SB020C の廂の東側柱列と 27 号建物の西側柱列は同一線上にあること、SB20C の妻側の中軸と 30 号建物跡の北側柱列は同一線上にあることから、これらの遺構は SB20C を中心として配置されたと考えられる。この他に、SD010、SA003、80 号溝、１号池状施設が同時期に存在したと考えられる。

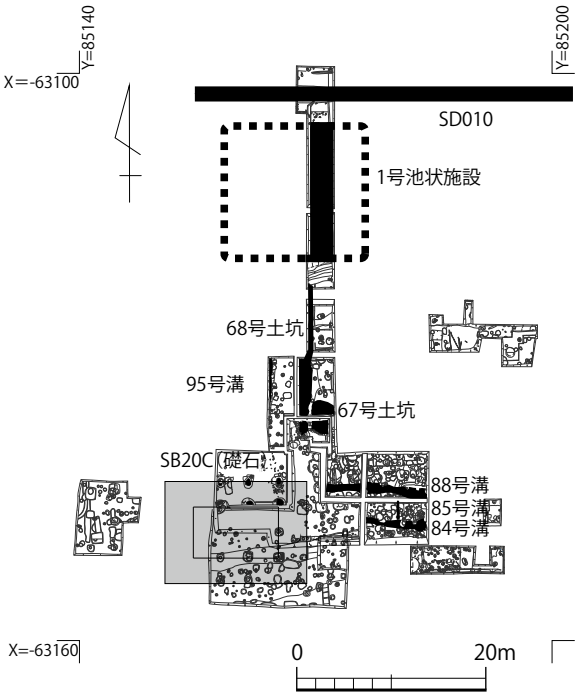


第 116 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅲ -2 期〕（1/800）

Ⅲ期については『総括報告書』ではⅡ期の地割をベースとしながらも内容が大きく改変・整備され、出雲国府が最も整備された時期と位置づけた。今回の調査でもⅡ期に築造された SB020 がⅢ -2 期に礎石建物に建て替えられ、周辺にも礎石建物が築造され、Ⅱ期の施設を基礎に大きく発展した時期と言える。特にⅢ -2 期は大舎原地区でも国司館が礎石建物に建て替えられており、より整備が進んだ時期と考えられる。

出雲国府Ⅳ期（第 117 図）

９世紀中葉～ 10 世紀前半とされる第６型式から第７型式にあたる時期である。この時期の遺構には、67 号土坑、68 号土坑、84 号溝、85 号溝、89 号溝、95 号溝がある。これらの遺構の時期は出土品から推測した。この他に SD010 と１号池状施設が同時期に存在している。また、SB020C が存在した可能性も考えられる。



第 117 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅳ期〕（1/800）

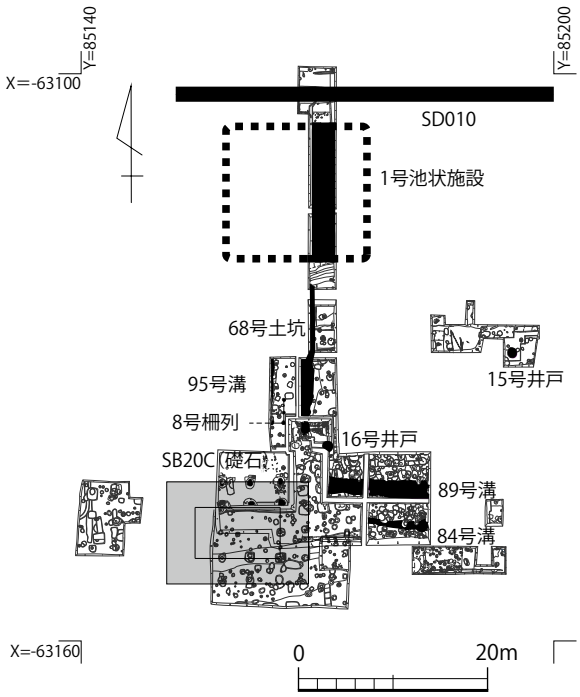
Ⅳ期について『総括報告書』では、新たな地割の下で施設設置が再構成され、これまでの景

観が一変した時期と位置づけた。六所脇地区の北側では、27 号建物跡、28 号建物跡、80 号溝が無くなり、67 号土坑と、平行して南北に延びる 68 号土坑と 95 号溝が造られる。東側では 30 号建物跡と 31 号建物跡が無くなり、平行して東西に延びる 84 号溝と 88 号溝が造られる。これらの溝から坏類や煮炊具が出土する点も注目される。1 号池状施設ではヨシが繁茂し、『総括報告書』で指摘された景観が一変した状況と一致する。

出雲国府Ⅴ期（第 118 図）

10 世紀後半～ 11 世紀前半とされる第 8 型式の時期である。この時期の遺構には、89 号溝、15 号井戸、16 号井戸がある。これらの遺構は出土品からこの時期と判断した。84 号溝も土層から存在したと考えられる。この他に SD010 と 1 号池状施設も同時期に存在している。1 号池状施設はガマ類が繁茂する状況であったと推定されている。この他に SB020C が存在した可能性も考えられる。

Ⅴ期について『総括報告書』では、出雲国府が広域分散型の機能配置から、宮の後地区周辺へ諸機能を集約させた時期と位置づけた。六所脇地区では井戸が造られ、出雲国庁としての機能はしていないと考えられ、『総括報告書』の指摘と一致する。

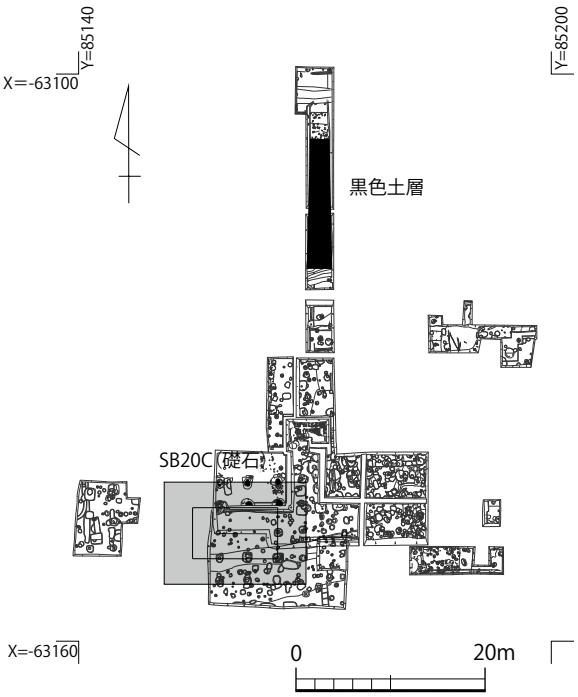


第 118 図　遺構変遷図〔出雲国府Ⅴ期〕（1/800）

出雲国府Ⅵ期（第 119 図）

11 世紀後半～ 12 世紀後半とされる第 9 型式から第 10 型式の時期である。この時期の遺構には SD010 がある。この他に SB020C が存在した可能性がある。また、1 号池状施設を埋め立てた黒色土は、第 8 ～ 9 型式の土器が大量に出土しており、この時期に造成されたと考えられる。

Ⅵ期について『総括報告書』では、中世府中の一角をなす時期と位置づけ、古代とは異なる地割りが行われて宮の後地区と日岸田地区が中心地になったと推定した。Ⅱ -2 期から存在した 1 号池状施設の埋め立てと整地は、古代とは異なる地割りが行われたとする指摘と合致する。また、黒色土から大量の遺物が出土する状況は、宮の後地区に中心地があったとする推定と合致し、大量の坏・皿類や白磁や緑釉陶器などの搬入品が黒色土から出土する状況は、近辺で饗宴を行ったためと考えられる。

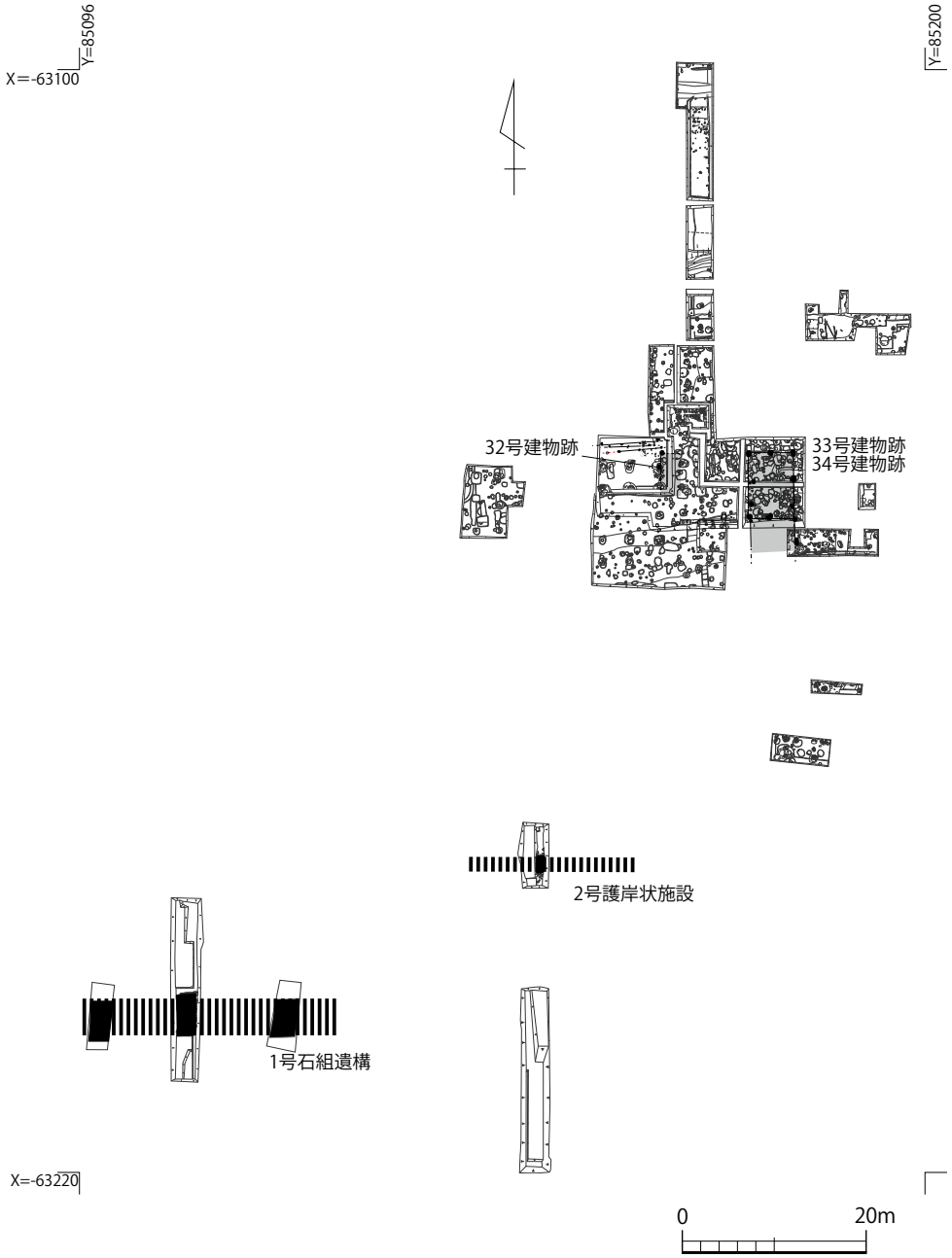


第 119 図　遺構変遷図〔出雲Ⅵ期〕（1/800）

13 世紀以降の出雲国府（第 120 図）

13 世紀以降で時期が推定できた遺構は、2 号護岸状施設、1 号石組遺構、33 号建物跡（梁間 2 間の掘立柱南北棟）、34 号建物跡（2 間× 4 間の掘立柱南北棟）がある。出土した木材の AMS 年代測定で、2 号護岸状施設は 15 世紀中葉～ 17 世紀前半、1 号石組遺構は 15 世紀中葉～ 17 世紀前葉、33 号建物跡は 16 世紀～ 17 世紀前半と推定できた。34 号建物跡は 33 号建物跡の建て替えと考えられる。両施設は隣接する六所神社の施設と考えられる（註 1）。この他に 32 号建物跡や 9 号～ 11 号柵列も 13 世紀以降の遺構であるが、確実な時期は不明である。

既往の調査では 13 世紀代の礫層より上面では近現代の遺構しか確認できていなかったが、今回の調査では六所脇地区は洪水の被害を受けておらず中近世の遺構が残ることを確認できた。また、六所脇地区の南側では護岸に関連する中近世の遺構を確認できた。このことは既に『総括報告書』が指摘したように、出雲国府跡が意宇川の洪水で一気に壊滅したわけでないことを示している。



第 120 図　遺構変遷図〔13 世紀以降〕（1/800）

第 3 節　今後の課題

今回の調査では、国庁正殿と推定される SB020 で礎石建物の痕跡を検出し、SB020 が掘立柱建物から礎石建物へ建て替えられたことを確認した。更に、SB020 の周辺で掘立柱建物跡や礎石建物跡を検出し、不明な点が多くあった六所脇地区について、ある程度の景観復元と変遷を示すことができた。一方で、SB020 を含む大半の遺構では時期を特定できる遺物を伴わなかったため、時期が確実だと考えられる出雲Ⅰ期とⅣ期の遺構を定点として、各遺構の重複関係、主軸、種類から先後関係を推定し、『総括報告書』の時期区分に当てはめて時期を推定した。しかし、『総括報告書』の時期区分は大舎原地区と日岸田地区の遺構変遷を基準としているため、今回検出した六所脇地区の遺構変遷については実年代等が必ずしも一致していない可能性がある。六所脇地区南側の調査が完了し、地区全体の調査成果が報告された後に、六所脇地区の遺構変遷を基に出雲国府全体の時期区分を再検討する必要があると考えられる。

また、今回の調査では国庁の区画施設の検出が目的の一つであったが、残念ながら明確な遺構を検出することができなかった。区画施設跡の候補には、掘立柱塀の可能性が考えられる T57 の P1 ～ 3 と、区画塀の雨落ち溝の可能性が考えられる 80 号溝がある。しかし、T57 の P1 ～ 3 は掘立柱建物の可能性があり、80 号溝は T57 までは延びず規模や形状が不明で、どちらも確実な区画施設の遺構とは言い難い。これらの遺構の周辺の調査を行い全体像を把握することと、築地塀などの確実な区画施設の検出が必要と考えられる。

更に、今回の調査では、これまであまり調査がされず不明な点が多かった宮の後地区の南側で 1 号池状施設を検出し貴重な資料を得ることができた。1 号池状施設は苑池か、六所脇地区や宮の後地区に巡らされた水路からの排水を集める施設かは不明であるが、六所脇地区と宮の後地区との間に南北 14m の 1 号池状施設が配置されたことは、両地区を区分するものとして注目される。また、1 号池状施設を埋め立てた黒色土からは 10 世紀後半から 12 世紀後半の坏や皿などが大量に出土しており、周辺で饗宴を行ったことを示唆する。国庁の隣接地から大量の土器が出土する状況は、出雲国府から中世府中への変遷を検討するうえで注目され、より具体的な景観復元を行うためには 1 号池状施設及びその周辺の調査が必要と考えられる。

註 1　1919（大正 14）年に六所神社の県社昇格申請の添付資料として提出された建物配置図では、33 号・34 号建物跡が位置する場所には「神厩」と記載された南北棟の建物が記載されており、厩舎が建てられていたと考えられる。六所神社宮司の吉岡弘行氏の御教示による。

第 18 表　土層観察表

T56 南壁セクション

No.	土層説明
1	黒褐色土：腐植土
2	黒褐色土 (2.5Y3/2)：ピット埋土。
3	砕石：公園造成土層。5㎜以下の砕石。
4	砕石：公園造成土層。2㎝以下の砕石。
5	真砂土：公園造成土。
6	黒褐色土 (2.5Y3/2)：ピット埋土。10㎝以下の礫を充填している。
7	黒褐色土 (2.5Y3/1)：土師器片をとても多く含む。
8	暗灰黄色土 (2.5Y4/2)：
9	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：黒褐色土が混じる。炭化物を少し含む。焼土を含む。
10	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。
11	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。にぶい黄褐色土が粒状に混じる。炭化物と焼土を少し含む。
12	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。にぶい黄褐色土がブロック状に混じる。炭化物と焼土を少し含む。
13	黒色土 (10YR2/1)：ピット埋土。炭化物と焼土を少し含む。
14	黒褐色土 (10YR3/1)：土坑埋土。炭化物と焼土を少し含む。
15	灰黄褐色土 (10YR4/2)：土坑埋土。あまりしまっていない。炭化物と焼土を少し含む。3㎝以下の礫を含む。
16	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。にぶい黄褐色土が混じる。炭化物と焼土を少し含む。
17	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。炭化物と焼土を少し含む。
18	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。炭化物と焼土を含む。
19	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：第 1 基盤層。
20	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。
21	黒褐色土 (10YR3/2)：79 号溝埋土。にぶい黄褐色土が混じる。炭化物をわずかに含む。
22	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭化物と焼土をわずかに含む。
23	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。あまりしまっていない。炭化物をわずかに含む。
24	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層
25	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：第 2 基盤層。黄褐色土が混じる。炭を含む。

T57 北壁セクション

No.	土層説明
1	黒褐色土 (10YR3/1)：腐植土層。
2	砕石：公園造成土。径 5㎜以下の砕石。
3	黒褐色土 (2.5Y3/2)：公園造成土。径 20㎜以下の砕石。
4	黒褐色土 (10YR3/2)：
5	真砂土：公園造成土。
6	黒褐色土 (10YR3/2)：旧耕作土 (田圃)。土師器細片をとても多く含む。
7	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：近代の埋土層。
8	礫層：褐灰色土 (10YR4/1) に 10㎝以下の礫が多く混じる。
9	黒褐色土 (10YR2/2)：ピットの埋土。
10	黒色土 (10YR2/1)：炭化物と焼土を少し含む。
11	灰黄色土 (2.5Y6/2)：やや軟質。
12	灰黄褐色土 (10YR4/2)：3㎝以下の炭化物と焼土を多く含む。
13	灰黄褐色土 (10YR4/2)：3㎝以下の炭化物と焼土を多く含む。
14	黒褐色土 (10YR3/2)：1㎝以下の炭化物と焼土を多く含む。
15	暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2)：明褐色土 (7.5YR5/6) が混じる。
16	褐色土 (7.5Y4/4)：P1 柱抜き取り埋土。
17	褐色土 (7.5Y4/4)：P1 柱抜き取り埋土。
18	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：炭化物を少し含む。
19	褐色粘質土 (10YR4/4)：マンガンをブロック状に多く含む。
20	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：第 3 基盤層。マンガンをブロック状に多く含む。

T57 南壁セクション

No.	土層説明
1	黒色土 (10YR2/1)：炭化物と焼土を少し含む。
2	灰黄色土 (2.5Y6/2)：やや軟質。
3	灰黄褐色土 (10YR4/2)：3㎝以下の炭化物と焼土を多く含む。
4	黒褐色土 (10YR3/2)：1㎝以下の炭化物と焼土を多く含む。
5	暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2)：明褐色土 (7.5YR5/6) が混じる。
6	暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2)：明褐色土 (7.5YR5/6) が混じる。
7	暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2)：明褐色土 (7.5YR5/6) が混じる。
8	褐色土 (7.5Y4/4)：P1 柱抜き取り埋土。
9	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：P1 柱抜き取り埋土。やや粘質。
10	灰褐色粘質土 (10YR4/4)：P1 柱抜き取り埋土。黄灰色土 (2.5Y4/1) が少し混じる。
11	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：P1 柱抜き取り埋土。やや粘質。黒色土ブロック (5Y2/1) を少し含む。
12	暗灰黄色粘質土 (2.5Y5/2)：P1 柱掘方埋土。
13	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：P1 柱掘方埋土。
14	暗灰黄色粘質土 (2.5Y5/2)：P1 柱掘方埋土。
15	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：P1 柱痕。炭化物と焼土を少し含む
16	灰黄褐色土 (10YR4/4)：黄灰色土 (2.5Y4/1) が混じる。
17	褐色粘質土層 (10YR4/4)：マンガンをブロック状に多く含む。
18	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：第 3 基盤層。マンガンをブロック状に多く含む。

T67(中央区) 西壁セクション

No.	土層説明
1	真砂土：公園造成土。
2	黒褐色土 (2.5Y3/2)：公園造成土。径 20㎜以下の砕石。
3	真砂土：公園造成土。
4	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土 (畑)。土師器片をとても多く含む。
5	灰黄褐色土 (10YR4/2)：にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックを含む。5㎝以下の円礫を含む。
6	灰黄褐色土 (10YR4/2)：ピット埋土。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックをやや多く含む。
7	灰黄褐色土 (10YR4/2)：にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックを多く含む。
8	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層。

T67(中央区) 北壁セクション

No.	土層説明
1	黒褐色土 (2.5Y3/2)：公園造成土。径 20㎜以下の砕石。
2	真砂土：公園造成土。
3	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土 (畑)。土師器片をとても多く含む。
4	灰黄褐色土 (10YR4/2)：にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックを多く含む。
5	暗褐色土 (10YR3/3)：
6	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。土師器片と炭を含む。
7	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。土師器片と炭を含む。
8	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。土師器片と炭を含む。5㎝以下の円礫を少し含む。
9	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。炭を少し含む。
10	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。炭を少し含む。
11	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。土師器片と炭を含む。
12	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。

13	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。
14	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。炭を少し含む。
15	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：灰黄褐色土 (10YR4/2) が混じる。炭を少し含む。第 1 基盤層。
16	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層

T67(北区) 西壁セクション

No.	土層説明
1	砕石：公園造成土。径 5㎜以下の砕石。
2	黒褐色土 (2.5Y3/2)：公園造成土。径 20㎜以下の砕石。
3	真砂土：公園造成土。
4	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土 (畑)。土師器片をとても多く含む。
5	黒色土 (10YR2/1)：土師器細片と炭を含む。
6	黒褐色土 (2.5Y3/2)：10㎝以下の円礫を含む。土師器細片を含む。
7	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭と焼土ブロックを含む。
8	黒褐色土 (2.5Y3/1)：ピット埋土。炭と焼土ブロックを含む。
9	黒褐色土 (2.5Y3/2)：ピット埋土。炭と焼土ブロックを少し含む。
10	暗褐色土 (10YR3/3)：
11	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土 (田圃)。土師器片をとても多く含む。
12	礫層：褐灰色土 (10YR4/1)：に 10㎝以下の礫が多く混じる。
13	黒褐色土 (2.5Y3/1)：ピット埋土。炭を少し含む。
14	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。炭を少し含む。
15	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。炭を少し含む。
16	灰色粘質土 (7.5Y4/1)：95 号溝。炭を少し含む。
17	オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/1)：95 号溝。粘性が強い。
18	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。暗オリーブ黒色粘質土 (2.5GY4/1) を多く含む。炭と焼土ブロックを少し含む。
19	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：灰黄褐色土 (10YR4/2) が混じる。炭を少し含む。
20	暗オリーブ灰色粘質土 (5GY4/1)：第 2 基盤層。

T66(北区)・T67(北区) 北壁セクション

No.	土層説明
1	砕石：公園造成土。径 5㎜以下の砕石。
2	黒褐色土 (2.5Y3/2)：公園造成土。径 20㎜以下の砕石。
3	真砂土：公園造成土。
4	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土 (田圃)。土師器片をとても多く含む。
5	礫層：褐灰色土 (10YR4/1)：に 10㎝以下の礫が多く混じる。
6	灰色粘質土 (7.5Y4/1)：95 号溝埋土。炭を少し含む。
7	オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/1)：95 号溝埋土。粘性が強い。
8	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：68 号土坑埋土。炭化物を含む。焼土を少し含む。黄褐色土ブロックが混じる。
9	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭を少し含む。
10	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：27 号建物跡 P2 埋土。黄褐色土ブロックが混じる。15㎝以下の礫を含む。
11	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。
12	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：28 号建物跡 P1 埋土。暗オリーブ黒色粘質土 (2.5GY4/1) を多く含む。炭と焼土ブロックを少し含む。
13	暗灰黄色粘質土 (2.5YR5/2)：ピット埋土。炭と焼土を少し含む。やや砂質。
14	灰色粘土 (7.5Y5/1)：ピット埋土。
15	オリーブ黒色粘土 (5Y3/1)：柱根と柱根が土壌化したもの。
16	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：27 号建物跡 P3 埋土。炭と焼土を少し含む。20㎝以下の礫を含む。
17	暗オリーブ灰色粘質土 (5GY4/1)：第 2 基盤層。
18	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：8 号竪穴建物跡埋土。固くしまっている。
19	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：第 3 基盤層。固くしまっている。

T67(南区) 北壁セクション

No.	土層説明
1	真砂土：公園造成土。
2	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土 (畑)。土師器片をとても多く含む。
3	黒色土 (10YR2/1)：土師器細片と炭を含む。
4	黒褐色土 (10YR3/2)：土師器細片を少し含む。
5	にぶい黄褐色土 (10YR4/3)：中近世基盤層。灰黄褐色土 (10YR4/2) が少し混じる。
6	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。褐色土 (10YR4/4) ブロックを多く含む。
7	灰黄褐色土 (10YR4/2)：5㎝以下の円礫を少し含む。やや粘質。
8	灰黄褐色土 (10YR5/2)：ピット埋土。暗褐色土 (10YR3/3) ブロックを少し含む。
9	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：SB20C の P1 根石据え付け埋土。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) を多く含む。
10	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB20C の P1 根石据え付けか SB020B か C の柱抜き取り埋土。炭を少し含む。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックを含む。
11	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB20B の P1 柱抜き取り埋土。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) が混じる。7㎝以下の円礫を少し含む。あまりしまっていない。
12	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：SB20B の P1 柱抜き取り埋土。炭を少し含む。あまりしまっていない。
13	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB20B の P1 掘方埋土。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックを多く含む。10㎝以下の円礫を多く含む。
14	黄灰色粘土 (2.5Y5/1)：SB20B の P1 掘方か柱抜き取り埋土。
15	灰黄色粘土 (2.5Y6/2)：SB20B の P1 掘方が柱で変色か。
16	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB20A の P1 掘方埋土。やや砂質。炭を少し含む。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックを少し含む。
17	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB020C の P2 掘方埋土。褐色土 (10YR4/4) を多く含む。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックを含む。
18	灰黄褐色土 (10YR4/2)：SB020A か B の P2 柱抜き取り埋土。15㎝以下の円礫を含む。やや粘質。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックを含む。
19	灰黄褐色土 (10YR4/2)：SB020A か B の P2 掘方か柱抜き取り埋土。暗褐色土 (10YR3/3) ブロックを多く含む。やや粘質。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックを含む。あまりしまっていない。
20	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB020A か B の P2 掘方か柱抜き取り埋土。マンガンブロックが少し混じる。SB20B 掘り方。
21	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB020A か B の P2 掘方か柱抜き取り埋土。
22	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB020A の P2 掘方か柱抜き取り埋土。暗褐色土 (10YR3/3) ブロックを少し含む。炭をわずかに含む。
23	にぶい黄褐色土 (10YR4/3)：SB020C の P3 根石据え付け埋土か。褐色土 (10YR4/4) が混じる。23㎝以下の円礫を少し含む。
24	灰褐色粘土 (10YR4/2)：SB20A か B の P3 の掘方か柱抜き取り埋土。にぶい黄褐色土 (10YR4/5) ブロックを少し含む。炭をわずかに含む。あまりしまっていない。
25	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB20A か B の P3 の掘方か柱抜き取り埋土。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックを含む。炭を少し含む。やや砂質。
26	灰黄褐色粘土 (10YR5/2)：炭を少し含む。
27	灰黄褐色土 (10YR4/2)：にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ブロックを多く含む。
28	褐灰色土 (10YR4/1)：にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックをやや多く含む。10㎝以下の円礫を少し含む。
29	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層。
30	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：第 3 基盤層。灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) が混じる。

T66(西区) 西壁セクション

No.	土層説明
1	真砂土：公園造成土。
2	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土 (畑)。土師器片をとても多く含む。
3	黒色土 (10YR2/1)：土師器細片と炭を含む。
4	黒褐色土 (10YR3/2)：旧耕作土 (田圃)。土師器細片を少し含む。
5	礫層：褐灰色土 (10YR4/1) に 10㎝以下の礫が多く混じる。
6	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) が混じる。
7	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。やや砂質。にぶい黄褐色土 (10YR3/3) が混じる。土師器片を多く含む。炭を少し含む。
8	褐灰色土 (10YR4/1)：ピット埋土。土師器片と炭を含む。
9	黒褐色土 (10YR3/2)：4㎝以下の円礫を多く含む。
10	灰黄褐色土 (10Y4/2)：ピット埋土。やや砂質。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/4) を少し含む。5㎝以下の円礫と炭を少し含む。
11	灰黄褐色土 (10Y4/2)：ピット埋土。やや砂質。5㎝以下の円礫と炭を少し含む。
12	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) が混じる。
13	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。炭を少し含む。
14	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。3㎝以下の円礫を含む。土師器細片を含む。

15	灰黄褐色土 (10YR4/2)：ピット埋土。やや砂質。
16	黒褐色土 (2.5Y3/2)：10㎝以下の円礫を含む。土師器細片を含む。
17	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：炭と焼土ブロックを少し含む。
18	灰黄褐色砂質土 (10YR5/2)：
19	にぶい黄褐色土 (10YR4/3)：中近世基盤層。灰黄褐色土 (10YR4/2) が少し混じる。
20	灰黄褐色土 (10YR4/2)：ピット埋土。にぶい黄褐色土ブロックをやや多く含む。
21	灰黄褐色土 (10YR4/2)：ピット埋土。にぶい黄褐色土ブロック (10YR4/3) を少し含む。
22	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：ピット埋土。やや砂質。
23	灰黄褐色土 (10YR4/2)：ピット埋土。にぶい黄褐色土ブロック (10YR4/3) を少し含む。
24	灰黄褐色土 (10YR4/1)：ピット埋土。炭を少し含む。
25	灰黄褐色土 (10YR5/2)：ピット埋土。にぶい黄褐色土ブロック (10YR4/2) を含む。
26	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：灰黄褐色土 (10YR4/2) が混じる。炭を少し含む。
27	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB020A か B の P12 の掘方か柱抜き取り埋土か。にぶい黄褐色どブロック (10YR4/3) を含む。
28	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB020A か B の P12 の掘方か柱抜き取り埋土か。
29	灰黄褐色土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。
30	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：SB020A か B の P11 の掘方埋土。褐灰色土 (10YR4/1) が少し混じる。
31	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：SB020A か B の P11 の柱抜き取り埋土か。褐灰色土 (10YR4/1) が少し混じる。
32	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB020A か B の P11 の柱抜き取り埋土か。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) を少し含む。
33	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：SB020A か B の P11 の柱抜き取り埋土か。褐灰色土 (10YR4/1) が少し混じる。
34	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB020A か B の P11 の柱抜き取り埋土か。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) をわずかに含む。
35	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB020A か B の P11 の掘方埋土。褐灰色土 (10YR4/1) が混じる。
36	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB020A か B の P11 の掘方埋土。褐灰色土 (10YR4/1) が混じる。
37	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB020A か B の P11 の掘方埋土。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) を少し含む。
38	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：SB020A か B の P11 の掘方埋土。褐灰色土 (10YR4/1) が混じる。
39	灰黄色褐色粘質土 (10YR5/2)SB020A か B の P11 の柱抜き取り埋土。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) を少し含む。
40	褐灰色粘質土 (10YR4/2)：SB020A か B の P11 の掘方埋土か。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) を少し含む。
41	褐灰色粘質土 (10YR4/2)：SB020A か B の P11 の柱抜き取り埋土。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) を少し含む。
42	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：SB020A か B の P11 の掘方埋土。褐灰色土 (10YR4/1) が混じる。
43	褐灰色粘質土 (10YR4/2)：SB020A か B の P11 の掘方埋土。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) を少し含む。
44	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：SB020A か B の P11 の掘方埋土。褐灰色土 (10YR4/1) が混じる。
45	灰黄褐色土 (10YR4/2)：ピット埋土。やや砂質。褐灰色土 (10YR4/1) が混じる。
46	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。にぶい黄褐色ブロック (10YR4/3) を少し含む。
47	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。
48	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。
49	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層。
50	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：焼土ブロックと炭を少し含む。
51	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：第 3 基盤層。灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) が混じる。

T66(北区) 西壁セクション

№	土層説明
1	砕石：公園造成土。径 5㎜以下の砕石。
2	黒褐色土 (2.5Y3/2)：公園造成土。径 20㎜以下の砕石。
3	真砂土：公園造成土。
4	黒褐色土 (10YR3/2)：旧耕作土 (田圃)。土師器細片を少し含む。
5	礫層：褐灰色土 (10YR4/1) に 10㎝以下の礫が多く混じる。
6	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：68 号土坑埋土。炭化物を含む。焼土を少し含む。黄褐色土ブロックが混じる。
7	灰色粘質土 (5Y4/1)：68 号土坑埋土。炭化物を含む。焼土を少し含む。
8	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：27 号建物跡の P7 埋土。炭を少し含む。。黄褐色土ブロックが混じる。10㎝以下の礫を含む。
9	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。黄褐色土ブロックが混じる。焼土ブロックを少し含む。
10	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：27 号建物跡の P7 埋土。炭を少し含む。黄褐色土ブロックが混じる。20㎝以下の礫を含む。
11	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：27 号建物跡の P2 埋土。黄褐色土ブロックが混じる。15㎝以下の礫を含む。
12	暗オリーブ灰色粘質土 (5GY4/1)：第 2 基盤層。

T58(南区) 西壁セクション

№	土層説明
1	黒褐色土層 (10YR3/1)：公園造成土。
2	砕石：公園造成土。径 5㎜以下の砕石。
3	灰黄褐色土層 (10YR4/2)：公園造成土。
4	真砂土：公園造成土。
5	真砂土：公園造成土。
6	灰黄褐色土 (10YR4/2)：公園造成土。
7	黒褐色土 (2.5Y3/2)：公園造成土。径 20㎜以下の砕石。
8	砕石：公園造成土。
9	真砂土：公園造成土。
10	黒褐色土 (10YR3/2)：旧耕作土 (田圃)。土師器細片をとても多く含む。
11	礫層：褐灰色土 (10YR4/1) に 10㎝以下の礫が多く混じる。
12	黒褐色土 (2.5Y3/1)：ピット埋土。
13	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：68 号土坑埋土。炭化物を含む。焼土を少し含む。黄褐色土ブロックが混じる。
14	灰色粘質土 (5Y4/1)：68 号土坑埋土。炭化物を含む。焼土を少し含む。
15	黒褐色土 (2.5Y3/1)：80 号溝埋土。
16	暗灰黄色土 (2.5Y5/2)：80 号溝埋土。
17	灰色土 (7.5Y4/1)：80 号溝埋土。
18	灰色土 (7.5Y4/1)：80 号溝埋土。ブロック状の土塊。
19	暗灰黄色土 (2.5Y5/2)：80 号溝埋土。礫を少し含む。
20	黄灰色土 (2.5Y4/1)：80 号溝埋土。
21	黒褐色土 (2.5Y3/1)：80 号溝埋土。
22	灰色粘質土 (5Y4/1)：80 号溝埋土。
23	黒褐色土 (2.5Y3/1)：80 号溝埋土。
24	オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1)：80 号溝埋土。
25	黒褐色粘質土 (2.5Y3/1)：80 号溝埋土。木質の遺物を含む。
26	黒色粘質土 (5Y2/1)：80 号溝埋土。木質の遺物を含む。
27	黒褐色粘質土 (2.5Y3/1)：80 号溝埋土。
28	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：80 号溝埋土。
29	灰色粘質土 (5Y4/1)：80 号溝埋土。
30	灰色粘質土 (10Y5/1)：80 号溝埋土。
31	灰色粘質土 (7.5Y4/1)：80 号溝埋土。
32	灰色粘質土 (5Y4/1)：80 号溝埋土。
33	暗オリーブ灰色粘質土 (5GY4/1)：第 2 基盤層。
34	暗灰黄色粘質土 (5GY5/1)：第 3 基盤層。炭化物を少し含む。
35	にぶい黄褐色粘質土層 (10YR5/3)：第 3 基盤層。
36	オリーブ灰色粘質土 (5GY5/1)：第 3 基盤層。

T58(北区) 西壁セクション

№	土層説明
1	暗褐色土 (10YR3/3)：表土。
2	真砂土：公園造成土。
3	黒褐色土 (10YR3/2)：旧耕作土 (田圃)。
4	礫層：褐灰色土 (10YR4/1) に 10cm 以下の円礫が混じる。
5	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：68 号土坑埋土か。炭化物を含む。焼土を少し含む。黄褐色土ブロックが混じる。10㎝以下の礫を含む。
6	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：68 号溝埋土か。炭化物と焼土と 12㎝以下の礫を含む。

7	黒色土 (N2/)：土師器を非常に多く含む。 炭を多く含む。20㎝以下の円礫をやや多く含む。
8	灰色粘質土 (5Y4/1)：
9	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：池状施設上層。5cm 以下の円礫を少し含む。
10	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：池状施設下層。
11	黄灰色粘質土：(2.5Y6/1)
12	黄灰色粘質土 (2.5Y5/1)：炭化物を少し含む。8㎝以下の円礫をやや多く含む。
13	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：83 号溝埋土。やや砂質。炭化物を少し含む。
14	暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2)：83 号溝埋土。炭化物を少し含む。
15	黄灰色粘質土 (2.5Y5/1)：83 号溝埋土。
16	黄灰色砂層 (2.5Y5/1)：83 号溝埋土。
17	灰色粘質土 (2.5Y5/2)：83 号溝埋土。やや砂質。炭化物を少し含む。
18	灰色粘質土 (7.5Y4/1)：82 号溝埋土。炭化物と 7㎝以下の円礫を少し含む。
19	暗灰色粘質土 (2.5Y4/1)：炭化物をわずかに含む。
20	灰色砂層 (5Y5/1)：第 3 基盤層。やや粗い砂の層。炭化物を少し含む。
21	暗オリーブ灰色粘質土 (2.5Y4/1)：第 3 基盤層。

T68 西壁セクション

No.	土層説明
1	暗褐色土 (10YR3/3)：表土。
2	真砂土：公園造成土。
3	黒褐色土 (10YR3/2)：旧耕作土 (田圃)。
4	礫層：褐灰色土 (10YR4/1) に 10cm 以下の円礫が混じる。
5	黒褐色土 (10YR3/1)：土師器片と炭を多く含む。10cm 以下の円礫が混じる。
6	黒色粘質土 (2.5Y2/1)：ピット埋土。炭と土師器片を多く含む。
7	黒褐色粘質土 (2.5Y3/1)：ピット埋土。炭と土師器片を多く含む。
8	黒褐色粘質土 (2.5Y3/1)：ピット埋土。炭と土師器片を多く含む。
9	黒褐色粘質土 (2.5Y3/1)：ピット埋土。炭と土師器片を多く含む。
10	黄灰色粘質土 (2.5YR4/1)：水脈による攪乱。土師器片を少し含む。
11	黒色土 (N2/)：土師器を非常に多く含む。 炭を多く含む。20㎝以下の円礫をやや多く含む。
12	褐灰色砂層 (10YR4/1)：やや粗い砂。
13	黒色粘質土 (N2/)：
14	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：池状施設上層。5cm 以下の円礫を少し含む。
15	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：池状施設下層。
16	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SD010 埋土。やや砂質。土師器細片と炭を少し含む。
17	黄灰色粘質土 (7.5Y5/1)：SD010 埋土。炭を少し含む。
18	灰色砂層 (5Y5/1)：SD010 埋土。粗い砂の層。
19	黄褐色砂層 (10YR5/6)：SD010 埋土。埋土粗い砂の層。
20	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：土手状盛土。炭と砂が少し混じる。
21	灰黄褐色粘質土 (10YR6/2)：土手状盛土。炭と砂を少し含む。黄褐色ブロック (10YR5/6) が混じる。
22	灰黄褐色粘質土 (10YR6/2)：土手状盛土。炭と砂を少し含む。黄褐色ブロック (10YR5/6) が混じる。
23	灰色粘土層 (5Y4/1)：土手状盛土。
24	灰黄褐色粘質土 (10YR6/2)：土手状盛土。
25	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：
26	灰黄褐色粘質土 (10YR6/2)：
27	灰色粘土 (5Y4/1)：第 3 基盤層。炭化物を少し含む。
28	灰黄褐色粘質土 (10YR6/2)：第 3 基盤層。やや粗い砂層 やや粘性。

T68 北壁セクション

No.	土層説明
1	暗褐色土 (10YR3/3)：表土。
2	真砂土：公園造成土。
3	黒褐色土 (10YR3/2)：旧耕作土 (田圃)。
4	礫層：褐灰色土 (10YR4/1) に 10cm 以下の円礫が混じる。
5	黒褐色土 (10YR3/1)：土師器片と炭を多く含む。10cm 以下の円礫が混じる。
6	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。土師器細片と炭を含む。
7	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SA003 の P2 埋土。土師器細片と炭を含む。
8	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：

T68 東壁セクション

No.	土層説明
1	暗褐色土 (10YR3/3)：表土。
2	真砂土：公園造成土。
3	昭和の調査区の埋め戻し土
4	黒褐色土 (10YR3/2)：埋め戻した耕作土。
5	真砂土：公園造成土。
6	黒褐色土 (10YR3/2)：旧耕作土 (田圃)。
7	礫層：褐灰色土 (10YR4/1) に 10cm 以下の円礫が混じる。
8	黒褐色土 (10YR3/1)：土師器片と炭を多く含む。10cm 以下の円礫が混じる。
9	黒褐色土 (10YR3/1)：土師器片と炭を多く含む。5㎜以下の円礫を含む。
10	黒色土 (N2/)：土師器を非常に多く含む。 炭を多く含む。20㎝以下の円礫をやや多く含む。
11	黒色粘質土 (N2/)：
12	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：池状施設上層。5cm 以下の円礫を少し含む。
13	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：池状施設下層。
14	褐灰色砂 (7.5Y5/1)：土手状盛土。やや粗い砂の層　炭と土器片を含む。
15	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：土手状盛土。炭と砂が混じる。
16	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：土手状盛土。炭と砂が混じる。
17	灰黄褐色粘質土 (10YR6/2)：土手状盛土。炭と砂を少し含む。黄褐色ブロック (10YR5/6) が混じる。
18	灰黄褐色粘質土 (10YR6/2)：土手状盛土。炭と砂を少し含む。黄褐色ブロック (10YR5/6) が混じる。
19	灰黄褐色粘質土 (10YR6/2)：土手状盛土。黄褐色ブロック (10YR5/6) をやや多く含む。
20	灰黄褐色砂質土 (10YR5/2)：土手状盛土。黄褐色ブロック (10YR5/6) を少し含む。
21	灰黄褐色砂質土 (10YR6/2)：土手状盛土。やや粗い砂層。やや粘性。
22	灰黄褐色粘質土 (10YR6/2)：第 3 基盤層。黄褐色ブロック (10YR5/6) を少し含む。

T66(北区) 東壁セクション

No.	土層説明
1	砕石：公園造成土。径 5㎜以下の砕石。
2	黒褐色土 (2.5Y3/2)：公園造成土。径 20㎜以下の砕石。
3	真砂土：公園造成土。
4	黒褐色土 (10YR3/2)：旧耕作土 (田圃)。土師器細片を少し含む。
5	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土 (畑)。土師器片をとても多く含む。
6	黒褐色土 (2.5Y3/1)：土師器細片とても多く含む。
7	黒褐色土 (2.5Y3/2)：土師器細片と炭を多く含む。
8	礫層：褐灰色土 (10YR4/1) に 10㎝以下の礫が多く混じる。
9	灰黄色砂質土 (2.5Y6/2)：
10	黄褐色土 (10YR3/1)：67 号土坑埋土。炭を含む。焼土を少し含む。20㎝以下の礫を含む。
11	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。
12	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：ピット埋土。炭と焼土を少し含む。20㎝以下の礫を含む。
13	黒褐色土 (2.5Y3/1)：ピット埋土。炭と土師器細片を少し含む。
14	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：２7 号建物跡の P8 埋土。炭を少し含む。35 ～ 37㎝の礫を含む。
15	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：26 号建物跡の P1 柱抜取り埋土。にぶい黄褐色土ブロックが多く混じる。

16	にぶい黄褐色土 (10YR5/4)：26 号建物跡の P1 柱抜取り埋土。ブロック状に固まっている。
17	にぶい黄褐色土 (10YR5/4)：26 号建物跡の P1 柱抜取り埋土。ブロック状に固まっている。
18	黒褐色粘質土 (10YR3/1)：26 号建物跡の P1 柱痕。土層際にマンガン付着。
19	にぶい黄褐色土 (10YR5/4)：26 号建物跡の P1 柱掘方埋土。ブロック状に固まっている。
20	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：26 号建物跡の P1 柱掘方埋土。粘性が強い。
21	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：26 号建物跡の P1 柱掘方埋土。粘性が強い。
22	にぶい黄褐色土 (10YR5/4)：26 号建物跡の P1 柱掘方埋土。ブロック状に固まっている。
23	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/4)：26 号建物跡の P1 柱掘方埋土。
24	黄褐色粘質土 (2.5Y5/3)：26 号建物跡の P1 柱掘方埋土。粘性が強い。
25	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：26 号建物跡の P1 柱掘方埋土。にぶい黄褐色土ブロックが混じる。
26	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：26 号建物跡の P1 柱掘方埋土。粘性が強い。
27	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：26 号建物跡の P1 柱掘方埋土。粘性が強い。
28	黄褐色粘質土 (2.5Y5/3)：26 号建物跡の P1 柱掘方埋土。粘性が強い。
29	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭と焼土を含む。あまりしまっていない。
30	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：ピット埋土。
31	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層。
32	暗オリーブ灰色粘質土 (5GY4/1)：第 2 基盤層。
33	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：にぶい黄褐色土ブロックが混じる。
34	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：第 2 基盤層。黄褐色土が混じる。炭を含む。
35	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：8 号竪穴建物跡埋土。固くしまっている。
36	黄褐色土 (10YR5/6)：7 号竪穴建物埋土。固くしまっている。
37	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：7 号竪穴建物跡埋土。固くしまっている。
38	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：第 3 基盤層。固くしまっている。
39	にぶい黄褐色土 (10YR5/4)：第 3 基盤層。固くしまっている。

T66(東区) 北壁セクション

No.	土層説明
1	砕石：公園造成土。径 5㎜以下の砕石。
2	黒褐色土 (2.5Y3/2)：公園造成土。径 20㎜以下の砕石。
3	真砂土：公園造成土。
4	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土 (畑)。土師器片をとても多く含む。
5	黒褐色土 (2.5Y3/1)：土師器細片とても多く含む。
6	黒褐色土 (2.5Y3/1)：ピット埋土。土師器片を非常に多く含む。炭を多く含む。
7	黒褐色土 (2.5Y3/1)：ピット埋土。土師器片を非常に多く含む。炭を多く含む。
8	黒色土 (2.5Y2/1)：ピット埋土。土師器細片をとても多く含む。炭を含む。
9	黒色土 (2.5Y2/1)：ピット埋土。土師器細片をとても多く含む。炭を含む。
10	黒褐色土 (2.5Y3/2)：土師器細片と炭を多く含む。
11	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。炭と焼土を少し含む。
12	黒褐色粘質土 (2.5Y3/2)：ピット埋土。炭と焼土ブロックを少し含む。
13	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：ピット埋土。黄褐色土ブロックが混じる。
14	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。黄褐色土ブロックが混じる。
15	黒褐色土 (2.5Y3/1)：ピット埋土。焼土と炭を少し含む。
16	黒褐色粘質土 (2.5Y5/2)：ピット埋土。炭と土師器細片を含む。
17	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭と土師器細片を多く含む。
18	褐灰色砂質土 (10YR4/1)：
19	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/4)：26 号建物跡の P3 柱抜き取り埋土。
20	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：26 号建物跡の P3 掘方埋土。黄褐色土ブロックを含む。
21	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。褐色土ブロックを含む。
22	オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/3)：ピット埋土。褐色土ブロックを含む。
23	暗灰黄色粘質土 (2.5Y5/2)：ピット埋土。黄褐色土ブロックが混じる。焼土と炭を少し含む。
24	暗灰黄色粘質土 (2.5Y5/2)：26 号建物跡の P4 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブロックを多く含む。
25	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：ピット埋土。黄褐色土ブロックが混じる。焼土と炭を少し含む。
26	暗灰黄色粘質土 (2.5Y5/1)：26 号建物跡の P5 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブロックを多く含む。炭を少し含む。
27	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：ピット埋土。黄褐色土ブロックを含む。炭を少し含む。
28	にぶい黄褐色土 (2.5Y5/3)：ピット埋土。
29	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。褐色土ブロックが混じる。炭を少し含む。
30	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。黄褐色土ブロックが混じる。
31	黒褐色粘質土 (2.5Y3/2)：ピット埋土。
32	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)。ピット埋土。炭を含む。褐色土が混じる。黄褐色土ブロックを含む。
33	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭を含む。黄褐色土ブロックを含む。
34	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：ピット埋土。黄褐色土ブロックが混じる。炭を少し含む。
35	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層。
36	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層。
37	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/4)：第 3 基盤層。炭を含む。褐色土や灰黄褐色土が混じる。
38	暗褐色粘質土 (10YR3/3)：ピット埋土。黄灰色粘質土が混じる。
39	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：第 3 基盤層。黄褐色土が混じる。炭を含む。

T66(北区) 東壁セクション

No.	土層説明
1	砕石：公園造成土。径 5㎜以下の砕石。
2	黒褐色土 (2.5Y3/2)：公園造成土。径 20㎜以下の砕石。
3	真砂土：公園造成土。
4	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土 (畑)。土師器片をとても多く含む。
5	黒色土 (2.5Y2/1)：ピット埋土。炭と土師器細片を多く含む。20㎝以下の角礫を多く含む。
6	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭と土師器細片を非常に多く含む。
7	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。20㎝以下の角礫を多く含む。黄褐色土ブロックを含む。
8	黒褐色粘質土 (10YR3/2)：ピット埋土。炭を少し含む。
9	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。炭や焼土を含む。
10	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：84 号溝上層。あまりしまっていない。12㎝以下の角礫を含む。炭を含む。
11	黒褐色土 (10YR3/2)：
12	黒褐色粘質土 (10YR3/1)：84 号溝下層。10㎝以下の角礫を多く含む。やや砂質。炭を含む。
13	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：ピット埋土。やや砂質。黄褐色土ブロックを多く含む。
14	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭と土師器片を含む。
15	褐灰色土 (10YR4/1)：10㎝以下の礫を少し含む。
16	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：やや砂質。炭を少し含む。
17	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/6)：炭を少し含む。
18	黒褐色土 (2.5Y3/1)：土師器細片とても多く含む。
19	黒色土 (10YR2/1)：ピット埋土。炭と土師器片を含む。
20	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭と土師器片を含む。
21	黒褐色土 (2.5Y3/1)：ピット埋土。炭と土師器片を含む。
22	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。あまりしまっていない。炭を含む。
23	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。あまりしまっていない。炭を含む。
24	黒褐色粘質土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭と土師器細片を含む。
25	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。黄褐色土ブロックを含む。20㎝以下の角礫を多く含む。
26	褐灰色砂質土 (10YR4/1)：ピット埋土。5㎝以下の礫を多く含む。
27	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭を含む。
28	黒褐色粘質土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭と土師器細片を含む。
29	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭を含む。黄褐色土ブロックを含む。
30	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。黄褐色土ブロックが混じる。

31	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。
32	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：第 1 基盤層。炭を少し含む。黄褐色土ブロックを含む。
33	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層。
34	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：第 2 基盤層。炭を少し含む。黄褐色土ブロックを含む。
35	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。しまっている。黄褐色土ブロックを多く含む。
36	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。黄褐色土ブロックを含む。
37	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。黄褐色土ブロックを含む。
38	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。黄褐色土ブロックを多く含む。
39	69　灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭を少し含。黄褐色土ブロックを多く含む。
40	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。黄褐色土ブロックを含む。
41	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：第 3 基盤層。黄褐色土が混じる。炭を含む。

T66(北区) 東壁セクション

No.	土層説明
1	砕石：公園造成土。径 5㎜以下の砕石。
2	黒褐色土 (2.5Y3/2)：公園造成土。径 20㎜以下の砕石。
3	真砂土：公園造成土。
4	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土 (畑)。土師器片をとても多く含む。
5	黒色土 (2.5Y2/1)：ピット埋土。炭と土師器細片を多く含む。20㎝以下の角礫を多く含む。
6	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭と土師器細片を非常に多く含む。
7	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。20㎝以下の角礫を多く含む。黄褐色土ブロックを含む。
8	黒褐色粘質土 (10YR3/2)：ピット埋土。炭を少し含む。
9	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。炭や焼土を含む。
10	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：84 号溝上層。あまりしまっていない。12㎝以下の角礫を含む。炭を含む。
11	黒褐色土 (10YR3/2)：
12	黒褐色粘質土 (10YR3/1)：84 号溝下層。10㎝以下の角礫を多く含む。やや砂質。炭を含む。
13	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：ピット埋土。やや砂質。黄褐色土ブロックを多く含む。
14	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭と土師器片を含む。
15	褐灰色土 (10YR4/1)：10㎝以下の礫を少し含む。
16	にぶい黄褐色土 (10YR5/3)：やや砂質。炭を少し含む。
17	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/6)：炭を少し含む。
18	黒褐色土 (2.5Y3/1)：土師器細片とても多く含む。
19	黒色土 (10YR2/1)：ピット埋土。炭と土師器片を含む。
20	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭と土師器片を含む。
21	黒褐色土 (2.5Y3/1)：ピット埋土。炭と土師器片を含む。
22	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。あまりしまっていない。炭を含む。
23	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。あまりしまっていない。炭を含む。
24	黒褐色粘質土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭と土師器細片を含む。
25	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。黄褐色土ブロックを含む。20㎝以下の角礫を多く含む。
26	褐灰色砂質土 (10YR4/1)：ピット埋土。5㎝以下の礫を多く含む。
27	黒褐色土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭を含む。
28	黒褐色粘質土 (10YR3/1)：ピット埋土。炭と土師器細片を含む。
29	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭を含む。黄褐色土ブロックを含む。
30	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。黄褐色土ブロックが混じる。
31	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。
32	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：第 1 基盤層。炭を少し含む。黄褐色土ブロックを含む。
33	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層。
34	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：第 2 基盤層。炭を少し含む。黄褐色土ブロックを含む。
35	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。しまっている。黄褐色土ブロックを多く含む。
36	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。黄褐色土ブロックを含む。
37	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。黄褐色土ブロックを含む。
38	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。黄褐色土ブロックを多く含む。
39	69　灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭を少し含。黄褐色土ブロックを多く含む。
40	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。黄褐色土ブロックを含む。
41	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：第 3 基盤層。黄褐色土が混じる。炭を含む。

T66(西区) 南壁セクション

No.	土層説明
1	真砂土：第 49 トレンチ埋め戻し土。
2	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土 (畑)。土師器片をとても多く含む。
3	黒褐色土 (2.5Y3/1)：土師器細片とても多く含む。。
4	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。
5	黒褐色土 (2.5Y3/2)：ピット埋土。
6	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。
7	暗灰黄色砂質土 (2.5Y4/2)：炭を少し含む。
8	灰黄褐色粘質土 (10YR5/3)：ピット埋土。
9	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：第 1 基盤層。
10	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：30 号建物跡の P10 埋土。褐色土が混じる。10㎝以下の礫を多く含む。
11	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層。
12	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。やや砂質。炭を含む。
13	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SD054 埋土。
14	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SD054 埋土。
15	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：第 2 基盤層。黄褐色土が混じる。炭を含む。
16	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：第 3 基盤層。灰褐色土が混じる。

T66(西区) 東壁セクション①

No.	土層説明
1	黒褐色土 (2.5Y3/1)：
2	黒褐色土 (2.5Y3/2)：炭と土師器片を含む。
3	黒褐色土 (2.5Y3/1)：炭と土師器細片をとても多く含む。5㎝以下の礫を少し含む。
4	灰黄褐色土 (10YR5/2)：炭を少し含む。褐色土が混じる。やや砂質。
5	黒褐色土 (2.5Y3/1)：10㎝以下の礫をとても多く含む。炭と土師器片を多く含む。
6	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：20㎝以下の礫をとても多く含む。黄褐色土ブロックを含む。土師器片と炭を含む。
7	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：ピット埋土。黄褐色土ブロックをやや多く含む。
8	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：88 号溝埋土。炭と土師器片を含む。10㎝以下の礫をやや多く含む。黄褐色土ブロックを含む。
9	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：89 号溝埋土。炭を少し含む。15㎝以下の礫を含む。黄褐色土ブロックを含む。
10	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：第 1 基盤層。
11	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。褐色土が混じる。
12	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：黄褐色土ブロックを含む。炭を少し含む。
13	オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/3)：26 号建物跡の P2 柱抜き取り埋土。褐色土が混じる。
14	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：26 号建物跡の P2 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブロックを含む。
15	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：26 号建物跡の P2 柱抜き取り埋土。暗灰黄色土が混じる。
16	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P2 掘方埋土。黄褐色土ブロックを少し含む。
17	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：26 号建物跡の P2 掘方埋土。
18	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：26 号建物跡の P2 掘方埋土。黄褐色土ブロックを少し含む。
19	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：26 号建物跡の P2 掘方埋土。
20	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：26 号建物跡の P2 掘方埋土。黄褐色土ブロックを少し含む。
21	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：26 号建物跡の P2 掘方埋土。
22	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P1 抜取り埋土か。暗灰黄色土が混じる。
23	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：SB019 の P5 抜取り埋土。炭を少し含む。黄褐色土ブロックを少し含む。褐色土が混じる。

24	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB019 の P5 抜取り埋土炭を少し含む。黄褐色土ブロックを少し含む。
25	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：SB019 の P5 抜取り埋土
26	暗灰黄色粘質土 (2.5Y5/2)：SB019 の P5 抜取り埋土やや砂質。
27	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：柱根が土壌化したものか。黄褐色土ブロックを少し含む。
28	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P5 掘方埋土。灰黄褐色土を少し含む。炭を少し含む。
29	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：SB019 の P5 掘方埋土。炭を少し含む。
30	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P5 掘方埋土。灰黄褐色土を少し含む。炭を少し含む。
31	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：SB019 の P5 掘方埋土。炭を少し含む。
32	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：SB019 の P5 掘方埋土。炭を少し含む。
33	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P5 掘方埋土。灰黄褐色土を少し含む。炭を少し含む。
34	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P5 掘方埋土。灰黄褐色土を少し含む。炭を少し含む。
35	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P5 掘方埋土。灰黄褐色土を少し含む。炭を少し含む。
36	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：SB019 の P5 掘方埋土。炭を少し含む。
37	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P5 掘方埋土。灰黄褐色土を少し含む。炭を少し含む。
38	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：SB019 の P5 掘方埋土。炭を少し含む。
39	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P5 掘方埋土。灰黄褐色土を少し含む。炭を少し含む。
40	49　褐灰色粘質土 (10YR4/1)：ピット埋土。黄褐色土ブロックを含む。
41	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層。
42	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：第 3 基盤層。灰黄褐色土 (10YR4/2) が混じる。

T66(西区) 北壁セクション

No.	土層説明
1	黒褐色土 (2.5Y3/2)：
2	黒褐色土 (2.5Y3/2)：ピット埋土。炭と土師器片を含む。
3	黒褐色土 (2.5Y3/2)：ピット埋土。炭と土師器片を含む。
4	暗オリーブ褐色粘質土 (2.5Y3/3)：ピット埋土。褐色土が混じる。炭を少し含む。
5	黒褐色土 (2.5Y3/1)：旧耕作土。
6	黒褐色土 (10YR3/2)：あまりしまっていない。炭を少し含む。
7	灰黄褐色砂質土 (10YR4/1)：
8	褐色土層 (10YR4/2)：ピット埋土。
9	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：第 1 基盤層。
10	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：褐色土が少し混じる。
11	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：褐色土が混じる。
12	暗オリーブ褐色粘質土 (2.5Y3/3)：褐色土が混じる。。炭を少し含む。
13	褐灰色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。黄褐色土ブロックを含む。
14	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：ピット埋土。
15	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。褐色土が混じる。5㎝以下の礫を含む。
16	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P9 柱痕。
17	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB019 の P9 掘方埋土。黄褐色土ブロックを含む。
18	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P9 掘方埋土。
19	暗灰黄色粘質土 (10YR4/2)：SB019 の P9 掘方埋土。黄褐色土ブロックを含む。
20	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P9 掘方埋土。
21	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB019 の P11 柱抜取り埋土。黄褐色土ブロックをとても多く含む。
22	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB019 の P11 柱抜取り埋土。炭を少し含む。
23	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P11 柱抜取り埋土。
24	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P11 柱抜取り埋土。
25	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P11 柱抜取り埋土。大きな黄褐色土ブロック。
26	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB019 の P11 柱抜取り埋土。炭を少し含む。黄褐色土ブロックを含む。
27	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P11 柱抜取り埋土。大きな黄褐色土ブロック。
28	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：SB019 の P11 柱抜取り埋土。黄褐色土ブロックを多く含む。
29	黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)：SB019 の P11 柱抜取り埋土。黄褐色土ブロックを多く含む。
30	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：SB019 の P11 掘方埋土。
31	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P11 掘方埋土。
32	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：SB019 の P11 掘方埋土。
33	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P11 掘方埋土。
34	暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)：SB019 の P11 掘方埋土。
35	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P11 掘方埋土。
36	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB019 の P11 掘方埋土。
37	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB019 の P12 掘方埋土。
38	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/4)：SB019 の P12 掘方埋土。
39	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB019 の P12 掘方埋土。黄褐色土ブロックを含む。
40	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/4)：SB019 の P12 掘方埋土。
41	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB019 の P12 掘方埋土。
42	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/4)：SB019 の P12 掘方埋土。
43	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB019 の P12 掘方埋土。
44	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：SB019 の P12 掘方埋土。
45	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層。
46	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。炭を少し含む。褐色土が混じる。
47	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：ピット埋土。
48	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：第 3 基盤層。灰黄褐色土 (10YR4/2) が混じる。

T66(西区) 東壁セクション②

No.	土層説明
1	黒褐色土 (2.5Y3/2)：旧耕作土。
2	黒褐色土 (10YR3/2)：84 号溝埋土。
3	黒褐色土 (10YR3/2)：ピット埋土。
4	黒褐色土 (2.5Y3/1)：
5	褐色土層 (10YR4/2)：ピット埋土。
6	オリーブ褐色砂質土 (2.5Y4/3)：84 号溝埋土。
7	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：84 号溝埋土。
8	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：ピット埋土。
9	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：第 1 基盤層。
10	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB019 の P12 掘方埋土。
11	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB019 の P12 掘方埋土。
12	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/4)：SB019 の P12 掘方埋土。
13	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB019 の P12 掘方埋土。
14	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/4)：SB019 の P12 掘方埋土。
15	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB019 の P12 掘方埋土。
16	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：第 2 基盤層。
17	17　にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SD054 埋土。
18	18　褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SD054 埋土。
19	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：第 3 基盤層。灰黄褐色土 (10YR4/2) が混じる。

SB019・26 号建物跡　P7 セクション

No.	土層説明
1	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P7 柱抜き取り埋土。黄褐色どブロックをやや多く含む。
2	黒褐色粘質土 (10YR4/3)：26 号建物跡の P7 柱抜き取り埋土。炭を少し含む。
3	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P7 柱痕。黄褐色 (10YR5/3) を含む。
4	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：26 号建物跡の P7 掘方埋土。灰褐色土を少し含む。
5	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P7 掘方埋土。黄褐色土ブロックを少し含む。

6	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P7 掘方埋土。黄褐色土ブロックを多く含む。
7	にぶい黒褐色粘質土 (10YR4/3)：26 号建物跡の P7 掘方埋土。
8	褐灰色粘質土 (10YR3/1)：26 号建物跡の P7 掘方埋土。
9	にぶい黒褐色粘質土 (10YR4/3)：26 号建物跡の P7 掘方埋土。
10	褐灰色粘質土 (10YR3/1)：26 号建物跡の P7 掘方埋土。
11	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P12 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブロックをやや多く含む。
12	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P12 掘方埋土。黄褐色土ブロックを少し含む。
13	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P12 掘方埋土か。黄褐色土ブロックを多く含む。
14	黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P3 掘方か柱抜き取り埋土。褐灰色土を少し含む。
15	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P3 掘方か柱抜き取り埋土。黄褐色土を少し含む。

SB019・26 号建物跡　P8 セクション

No.	土層説明
1	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。
2	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。炭を少し含む。
3	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブロックをやや多く含む。
4	黄褐色粘質土 (10YR5/3)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。やや砂質
5	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。
6	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブッロクを多く含む。
7	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。にぶい黄褐色土ブロックをとても多く含む。
8	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブロックを含む。
9	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブロックをやや多く含む。
10	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブロックを多く含む。
11	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブロックを少し含む。
12	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。にぶい黄褐色土ブロックを少し含む。
13	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。
14	黄褐色粘質土 (10YR5/3)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。やや砂質
15	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブッロクを含む。
16	暗灰黄色粘質土 (25Y4/2)：26 号建物跡の P8 柱痕。黄褐色土ブロックを少し含む。
17	黄褐色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 掘方埋土か。灰褐色土を少し含む。
18	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 掘方埋土。
19	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 掘方埋土。黄褐色粘質土 (10YR5/3)：黄褐色土ブッロクを多く含む。
20	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 掘方埋土。黄褐色粘質土 (10YR5/3)：黄褐色土ブッロクを少し含む。
21	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 掘方埋土。黄褐色土ブロックを少し含む。
22	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：26 号建物跡の P8 掘方埋土。黄褐色粘質土を少し含む。
23	黄褐色粘質土 (10YR5/2)：26 号建物跡の P8 掘方埋土。
24	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。
25	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。
26	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。
27	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。
28	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。
29	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。
30	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。
31	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。褐灰色土が少し混じる
32	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。
33	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。
34	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブロックを含む。
35	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。
36	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P8 柱抜き取り埋土。黄褐色土ブロックを少し含む。
37	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB019 の P8 柱痕。
38	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P8 掘方埋土。褐灰色土が少し混じる
39	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P8 掘方埋土。
40	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/5)：SB019 の P8 掘方埋土。褐灰色土を少し含む。
41	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P8 掘方埋土。褐灰色土を少し含む。
42	黄褐色粘質土 (10YR5/6)：SB019 の P8 掘方埋土。
43	黄褐色粘質土 (10YR5/6)：SB019 の P8 掘方埋土。褐灰色土を少し含む。
44	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P8 掘方埋土。
45	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P8 掘方埋土。
46	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P8 掘方埋土。
47	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P8 掘方埋土。
48	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB019 の P8 掘方埋土。褐灰色土を少し含む。
49	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P8 掘方埋土。黄褐色土ブロックを少し含む。
50	褐灰色粘質土 (10YR5/1)：SB019 の P8 掘方埋土。黄褐色土ブッロクを多く含む。
51	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：第 3 基盤層

SB020　P1 セクション

No.	土層説明
1	褐灰色土 (10YR5/1)：礎石を落とし込んだ穴の埋土。やや砂質。
2	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：SB020C の根石据え付け埋土。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/4) を多く含む。
3	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB20B の P1 柱抜き取り埋土。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) が混じる。10cm以下の円礫を含む。あまりしまっていない。
4	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB20B の P1 柱抜き取り埋土。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) が混じる。10cm以下の円礫を含む。あまりしまっていない。
5	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：SB20B の P1 柱抜き取り埋土。炭を少し含む。
6	黄灰色粘土 (2.5Y5/1)：SB20B の P1 掘方か柱抜き取り埋土。
7	褐灰色粘土 (10YR5/1)：SB20B の P1 掘方埋土。
8	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB20B の P1 掘方埋土。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロックを多く含む。

SB020　P1 0セクション

No.	土層説明
1	灰黄褐色土 (10YR5/2)：SB020C の P10 の根石据え付け埋土。やや砂質。
2	灰黄褐色土 (10YR4/2)：SB020B の P10 柱抜き取り埋土。暗褐色土ブロックを含む。
3	灰黄褐色土 (10YR4/2)：SB020B の P10 柱抜き取り埋土。にぶい黄褐色土ブロックを少し含む。
4	灰黄褐色土 (10YR5/2)：SB020B の P10 柱抜き取り埋土。褐灰色土ブロックが混じる。
5	にぶい黄橙色土 (10YR6/3)：SB020B の P10 柱抜き取り埋土。やや砂質。
6	褐灰色粘土 (10YR5/1)：柱根が腐食し土壌化したもの。
7	灰黄褐色土 (10YR5/2)：SB020B の P10 の掘方埋土。にぶい黄褐色土ブロックを含む。
8	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：SB020B の P10 の掘方埋土。褐灰色土ブロックを含む。
9	灰白色粘土 (10YR7/1)：SB020B の P10 掘方埋土。
10	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：SB020B の P10 掘方埋土。褐灰色土ブロックが混じる。
11	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB020B の P10 掘方埋土。暗褐色土ブロックを含む。
12	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：SB020B の P10 掘方埋土。褐灰色土ブロックを含む。
13	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB020B の P10 掘方埋土。にぶい黄褐色土ブロックを少し含む。
14	褐灰色粘質土 (10YR4/1)：SB020B の P10 掘方埋土。にぶい黄褐色土ブロックを含む。
15	灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)：SB020B の P10 掘方埋土。にぶい黄褐色土ブロックを少し含む。
16	にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3)：SB020B の P10 の掘方埋土。褐灰色土ブロックを含む。
17	灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)：SB020A の P10 柱抜き取り埋土。暗褐色土ブロックを含む。
18	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：SB020A の P10 掘方埋土。褐灰色土ブロックを多く含む。
19	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)：第 3 基盤層。褐灰色土ブロックを少し含む。

第 19 表　出雲国府跡出土土器観察表

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	法量（）内復元値 口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	備考	型式・時期
9-1	51	土師器	無高台坏	T56		9 層	(11.8)	(4.3)	6.2	密（0.5mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：灰白 2.5Y8/1 ～黄灰 2.5Y5/1	外面：調整不明、回転糸切り 内面：調整不明		第 7 ～ 8 型式
9-2	35	須恵器	長頸壺	T56		9 層			11.6	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N5/	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ	底部外面を転用硯	第 2 型式
9-3	51	須恵器	坏か皿	T56		19 層			(8.0)	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外面：灰白色 7.5Y7/1 内面：灰色 7.5Y6/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	底部内面墨書「兵」?	第 3 型式以降
9-4	51	須恵器	無高台坏	T56		19 層	(13.6)	(4.1)	(9.2)	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰白 2.5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 5 型式
9-5	51	須恵器	無高台皿	T56		19 層	(13.3)	(2.1)	(8.8)	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：2.5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 5 型式
9-6	51	須恵器	無高台皿	T56		19 層	(17.4)		(13.0)	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 5Y5/1	外・内面：回転ナデ		第 4 型式
9-7	51	須恵器	高台付皿	T56		19 層	(14.0)	(3.0)	(9.6)	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰白 N7/	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ	底部外面を転用硯	第 4 ～ 5 型式
9-8	52	須恵器	高台付皿	T56		19 層			9.0	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良	外面：にぶい褐 7.5YR6/3 内面：浅黄 2.5Y7/2	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 4 ～ 5 型式
9-9	52	製塩土器	製塩土器	T56		19 層				密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：橙 5YR6/6	外面：型づくり 内面：指でなでて整える		
9-10	52	製塩土器	製塩土器	T56		19 層				密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：にぶい黄橙 10YR6/4 ～褐灰 10YR5/1	外面：型づくり 内面：指でなでて整えている		
9-12	52	中世須恵器?	脚部	T56		19 層	長：8.1	厚：5.2		やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	灰白N7/～黄灰 2.5Y5/1	ナデ?、ハケ状工具によるナデ?		
9-22	51	須恵器	蓋	T56		24 層	(10.2)			やや粗（微少の石英・白色砂粒を含む）	良好	外面：灰 N6/ 内面：灰 N7/	外・内面：回転ナデ		第 1 型式
9-23	35	須恵器	壺か鉢	T56		24 層			5.5	密（4mm 以下の長石等の砂粒を多く含む）	良	外面：灰 N4/ ～ 5/ 内面：灰 N6 ～ 5PB4	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	底面ヘラ切り、板目圧痕	第 2 型式か?
11-1	35	土師器	無高台坏	T57		北壁 10 層	(13.2)	3.7	7.3	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外面：浅黄橙 10YR8/3 内面：浅黄橙 7.5YR8.3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
11-2	53	須恵器	蓋	T57		北壁 8 層				密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：黄灰 2.5Y6/1	外面：回転ナデ、摘み貼付け 内面：回転ナデ	内面を転用硯	第 2 型式
11-6	53	緑釉陶器	碗	T57		北壁 10 層			(6.3)	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：オリーブ灰 10Y6/2	外・内面：施釉	京都系 硬質	9C 後半～末
11-7	53	緑釉陶器	碗	T57		北壁 10 層			(7.2)	緻密	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3 ～緑（釉）	外・内面：施釉	軟質	
11-8	35	土師器	柱状高台付坏	T57		北壁 10 層				粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：にぶい黄橙 10YR6/3	外・内面：回転ナデ		第 9 型式
11-9	53	製塩土器	製塩土器	T57		北壁 10 層				密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外面:にぶい橙 7.5YR7/4 内面：橙 5YR7/6	外面：ナデ 内面：ナデ		
11-10	35	土製品	土製支脚	T57		北壁 10 層				粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	浅黄橙 10YR8/3 ～褐灰 10YR5/1	外面：ナデ		
11-11	52	土師器	不明	T57		北壁 10 層				粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外面：浅黄 2.5Y7/3 ～黒 5Y2/1 内面：にぶい黄橙 10YR7/3	外面：不明 内面：ナデ、指頭圧痕	内面に黄褐色の付着物	
11-13	52	壁材?		T57		北壁 10 層	長：5.3	幅：4.9	厚：2.8	粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	にぶい橙 7.5YR6/4			
11-14	52	壁材?		T57		北壁 10 層	長：4.6	幅：3.7	厚：1.8	粗（3mm 以下の砂粒を含む）	不良	にぶい黄橙 10YR6/1 ～黄灰 2.5Y6/1			
11-15	35	土師器	無高台皿	T57		北壁 10 層	(11.6)	(3.0)	(5.8)	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰黄 2.5GY7/2 内面：灰褐 7.5YR5/2	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	灯明皿	第 8 ～ 10 型式
11-16	52	須恵器	無高台皿	T57		北壁 10 層	(14.0)	(3.0)	(9.4)	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰 N5/ ～橙 7.5YR7/6 内面：灰 N5/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 5 型式
11-17	35	土師器	無高台坏	T57		北壁 10 層	(15.0)	5.6	7.0	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：調整不明、回転糸切り 内面：調整不明		第 8 型式
11-18	52	土師器	甕	T57		北壁 10 層	(28.0)			粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ		
11-19	52	土師器	甕	T57		北壁 10 層	(15.9)			粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外面：浅黄橙 10YR8/4 内面：浅黄橙 7.5YR8/6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ		
11-21	52	須恵器	蓋	T57		北壁 10 層				密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰 7.5Y6/1 内面：灰 N5/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ 内面：回転ナデ	内面転用硯か	
11-22	52	須恵器	高台付坏	T57		北壁 10 層			(8.2)	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰褐 7.5YR5/2	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 3 か 4 型式
11-23	52	土師器	無高台坏	T57		北壁 10 層			7.6	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3 ～橙 5YR6/6	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
11-24	53	土師器	無高台皿	T57		北壁 10 層	(15.6)	(2.5)	(10.4)	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：灰黄褐 10YR5/2	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 5 型式
11-25	53	須恵器	高台付皿	T57		北壁 10 層			(14.8)	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 5Y7/1	外面：回転ナデ後ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 4 か 5 型式
11-26	35	土師器	無高台坏	T57		北壁 10 層	(15.6)	5.5	(8.2)	やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面：橙 5YR6/6 内面：浅黄橙 7.5YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
11-27	53	須恵器	蓋	T57		北壁 10 層				密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外面：灰白 N7/ 内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	内面転用硯か	第 3 か 4 型式
11-28	53	須恵器	水滴?	T57		北壁 13 層				密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰 N5/	外・内面：回転ナデ		
11-30	53	壁材		T57		北壁 18 層	長：7.8	幅：7.4	厚：4.5	粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	にぶい橙 7.5YR7/4			
13-1	53	須恵器	蓋	T58（南）		10 層				密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ、不定方向のナデ	内面転用硯	第 3 か 4 型式
13-2	53	土師器	柱状高台付皿	T58（南）		10 層				密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外・内面：調整不明		
13-3	35	土師器	柱状高台付皿	T58（南）		10 層				密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：にぶい橙 5YR7/4	外・内面：調整不明		
13-4	53	土製品	土錘	T58（南）		11 層（礫層）	長：6.7	幅：2.2	重量：30.6g	粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	浅黄 2.5Y7/3	調整不明	孔径：4mm	
13-5	53	壁材?		T58（南）		33 層上面	長：8.1	幅：4.4	厚：3.1	粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	にぶい黄橙 10YR7/4 ～にぶい橙 7.5YR7/4			
13-6	53	壁材?		T58（南）		33 層上面	長：4.8	幅：4.7	厚：2.4	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	にぶい橙 7.5YR7/4			
13-7	35	土師器	甕	T58（南）		36 層	18.1			密（2mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/3	外面：ヨコナデ、ハケ目 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ		中期初頭
14-1	35	土師器	高坏	T58（北）		4 層（礫層）				密（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：にぶい橙 5YR7/4 ～ 7/3	外面：ケズリ、ナデ? 内面：不明		
14-2	53	須恵器	不明	T58（北）		4 層（礫層）				密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良	外面：灰白 2.5Y8/1 内面：灰白 5YR7/1	外面：調整不明、スタンプによる竹管文 内面：回転ナデ		
16-1	54	弥生土器	壺	T61		14 層	(24.2)			粗（3mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面：浅黄橙 10YR8/3 内面：灰黄 2.5Y7/2	外面：ハケ目 内面：調整不明		Ⅰ-2 様式
16-2	36	須恵器	坏身	T61		14 層	11.9	4.4		粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：灰 5Y6/1	外面：回転ナデ、ヘラ起こし後ナデ 内面：回転ナデ、不定方向のナデ		出雲 5 期
20-1	54	白磁	碗	T63	1 号石組遺構					緻密	良好	外・内面：灰白 5Y8/1	外・内面：施釉	広東系	Ⅱ類 大宰府 C 期
20-2	54	青磁	碗	T63		8 層				緻密	良好	外・内面：浅黄 2.5Y7/3	外・内面：施釉	同安窯系	Ⅰ-Ⅰb 大宰府 D 期
20-3	36	陶器	丸形碗	T63		2 層			4.8	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外面：にぶい赤褐 5YR5/4 灰白 7.5Y7/2（釉） 内面:オリーブ灰 7.5Y6/2（釉）			18C 前半
25-1	54	緑釉陶器	輪花皿	T66（西）		第 1 期調査埋戻土				緻密	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3 ～淡緑（釉）	外・内面：回転ナデ、施釉	軟質	
25-2	36	須恵器	蓋	T66（東）		東壁 4 層（耕作土）	(14.8)	(2.6)		粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外面：灰 N5/ ～灰白 7.5Y7/1 内面：灰 N5/	外面：回転ナデ、摘み貼付け 内面：回転ナデ		第 4 型式
25-3	36	須恵器	蓋	T66（東）		東壁 4 層（耕作土）	(16.2)	(2.6)		密（2mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/ ～灰 5Y6/1	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ、摘み貼り付け 内面：回転ナデ	内面転用硯	第 5 型式
25-4	36	土師器	小型壺	T66（東）		東壁 4 層（耕作土）	(3.7)	4.9	4.1	やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/6	外面：回転ナデ、ナデ 内面：回転ナデ		

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	法量（）内復元値			胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	備考	型式・時期
							口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）						
25-5	36	土師器	足高高台付坏	T66（東）		東壁 4 層（耕作土）	27.8	12.0	12.7	粗（8mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：橙 5YR7/6 ～橙 2.5YR6/8	外面：回転ナデ、貼付け高台内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
25-6	54	土師器	足高高台付坏	T66（東）		東壁 4 層（耕作土）	(30.2)			粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：橙 5YR7/6	外面：回転ナデ、ヘラケズリ内面：回転ナデ		第 6 ～ 7 型式
25-7	54	土師器	足高高台付坏	T66（東）		東壁 4 層（耕作土）				粗（3mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外面：橙 7.5YR7/6内面：灰黄褐 10YR6/2	外面：回転ナデ、貼付け高台内面：回転ナデ		
25-8	36	土師器	足高高台付坏	T66（東）		東壁 4 層（耕作土）			(14.6)	密（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面：橙 7.5YR7/6内面：浅黄橙 7.5YR8/6	外面：回転ナデ、貼付け高台内面：回転ナデ		
25-9	54	白磁	碗	T66（北）		東壁 8 層（礫層）				緻密	良好	外・内面：灰白 5Y7/2	外・内面：施釉	福建系	Ⅳ類大宰府 C 期
25-10	54	緑釉陶器	碗	T66（東）		東壁 18 層上面			12.6	緻密	良好	外面：灰白 5Y7/2 ～灰白 10Y7/2（釉）内面：灰白 5Y7/1 ～浅黄 7.5Y7/3（釉）	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ、削り出し高台、施釉、口縁端部を窪ませて 5 弁を表現内面：回転ナデ、施釉	京都系硬質、内面磨滅	
25-11	54	肥前系陶器	皿	T66（東）		東壁 18 層上面	(14.2)			緻密	良好	外・内面：オリーブ黄 5Y6/3	外・内面：回転ナデ、施釉		17C 第 1 四半期
25-12	36	須恵器	蓋	T66（東）		東壁 18 層（第 1 基盤層）				粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面：灰 N6/内面：灰白 2.5Y7/1	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ内面：回転ナデ		出雲 1 期
25-13	54	須恵器	坏蓋	T66（東）		東壁 18 層（第 1 基盤層）	(10.8)	(4.0)		密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外面：灰黄 2.5Y7/2内面：浅黄 2.5Y7/3	外・内面：回転ナデ		
25-14	54	土師器	無高台坏	T66（東）		東壁 18 層（第 1 基盤層）	(11.9)	(4.6)	(6.8)	粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外面：橙 5YR7/8内面：橙 5YR7/8 ～にぶい黄橙 10YR7/4	外面：回転ナデ、回転糸切り内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
25-15	54	須恵器	高台付坏	T66（東）		東壁 18 層（第 1 基盤層）			(10.4)	粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台内面：回転ナデ	外面転用硯	第 3 ～ 4 型式
25-16	36	須恵器	小型壺	T66（東）		東壁 33 層（第 2 基盤層）	(6.5)	5.2	(3.6)	密（1mm 以下の砂粒含む）	良	外面：灰 N4/内面：灰 N4/ ～灰白 N8/	外面：回転ナデ、工具痕後ナデ内面：回転ナデ		
25-17	36	須恵器	蓋	T66（東）		東壁 33 層（第 2 基盤層）	(10.0)	(2.2)		密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外面：灰 N5/内面：灰 5Y6/1	外・内面：回転ナデ		第 1 型式
25-18	36	土師器	坏身	T66（東）		東壁 33 層（第 2 基盤層）	(12.0)	(5.1)		密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/6	外・内面：調整不明		
25-19	54	土師器	高坏	T66（北）		東壁 33 層（第 2 基盤層）	(17.2)			密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外面：浅黄橙 10YR8/3内面：にぶい橙 7.5YR7/4	外面：ヨコナデ内面：ヨコナデ、ハケ目、ヘラミガキ		
25-20	54	土師器	高坏	T66（北）		東壁 33 層（第 2 基盤層）				粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外面：橙 5YR7/6内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：ヨコナデ内面：ハケ目		
25-21	55	土師器	甕	T66（東）		東壁 33 層（第 2 基盤層）	(13.4)			粗（3mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外面：ヨコナデ、ハケ目内面：ヨコナデ、ヘラケズリ		
25-22	55	土師器	甕	T66（東）		東壁 33 層（第 2 基盤層）	(19.4)			粗（3mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面：にぶい黄橙 10YR7/2内面：にぶい黄橙 10YR7/2 ～褐灰 10YR5/1	外面：ヨコナデ内面：ヨコナデ、ヘラケズリ		
25-23	55	土師器	甑	T66（東）		東壁 33 層（第 2 基盤層）				粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	浅黄橙 10YR8/3	ハケ目		
25-24	55	土師器	甑	T66（北）		東壁 33 層（第 2 基盤層）				粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：ナデ、指頭圧痕、ハケ目内面：不明		
25-25	55	土製品	移動式竈	T66（東）		東壁 33 層（第 2 基盤層）				粗（3mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：灰白 10YR8/2 ～橙 7.5YR7/6	外面：ケズリ、ハケ目内面：ナデ		
25-26	36	土製品	土製支脚	T66（東）		東壁 33 層（第 2 基盤層）			12.1	粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	灰黄褐 10YR6/2 ～橙 5YR7/6	ヘラケズリ、ナデ		
26-1	55	須恵器	蓋	T67（中央）		南区北壁 3 層（耕作土）				密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外面：灰 5Y6/1内面：灰白 N7/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ内面：回転ナデ	外面墨書	
26-2	37	土師器	柱状高台付皿	T67（北）		西壁 12 層（礫層）			7.5	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り内面：回転ナデ		
26-3	55	須恵器	蓋	T67（中央）		南区北壁 5 層（第 1 基盤層）	(13.6)			粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ内面：回転ナデ	内面転用硯	第 1 型式
26-4	55	須恵器	蓋	T67（中央）		南区北壁 5 層（第 1 基盤層）	(12.2)			密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰黄 2.5Y6/2内面：青灰 5PB6/1	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ内面：回転ナデ		第 1 型式
26-5	37	土師器	柱状高台付皿	T67（中央）		南区北壁 5 層（第 1 基盤層）			(4.1)	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/6	外・内面：回転ナデ		
26-6	37	土師器	柱状高台付皿	T67（中央）		南区北壁 5 層（第 1 基盤層）			(5.2)	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：橙 7.5YR7/6	外面：回転ナデ、回転糸切り内面：回転ナデ		
26-9	55	土師器	甑	T67（中央）		南区北壁 29 層（第 2 基盤層）				粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	浅黄橙 7.5YR8/6	ナデ		
26-10	55	須恵器	壺	T67（中央）		南区北壁 29 層（第 2 基盤層）				密（3mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：暗青灰 5PB4/1内面：青灰 5PB6/1	外面：回転ナデ、波状文内面：回転ナデ		
26-11	37	須恵器	甕	T67（中央）		南区北壁 29 層（第 2 基盤層）				密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 2.5Y7/1	外面:回転ナデ、平行文タタキ、カキ目内面：回転ナデ、同心円文当て具痕		
26-14	37	須恵器	無高台坏	T67（中央）	10 号柵列 P4		(12.0)	4.8	8.0	粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：灰 7.5Y6/1 ～暗青灰 5B3/1	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ内面：回転ナデ		第 4 か 5 型式
26-15	55	須恵器	無高台皿	T67（中央）					(10.8)	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 2.5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り内面：回転ナデ		第 5 ～ 6 型式
27-1	56	白磁	碗	T68		西壁 4 層（礫層）	(19.0)			緻密	良好	外・内面：灰白 5Y7/1	外・内面：施釉	福建系	Ⅳ類大宰府 C 期
27-2	56	土師器	無高台坏	T68		西壁 4 層（礫層）			6.1	密（1mm 以下の砂粒を含む）	良好	外・内面：淡黄 2.5Y8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り内面：回転ナデ		
27-3	56	土師器	無高台坏	T68		西壁 4 層（礫層）		(2.2)	6.0	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外面：褐灰 7.5YR5/1内面：にぶい黄橙 10YR7/2	外面：回転ナデ、回転糸切り内面：回転ナデ		
27-4	56	土師器	無高台坏	T68		西壁 4 層（礫層）			(6.2)	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：黒 2.5Y2/1 ～灰黄褐 10YR5/2	外面：回転ナデ、回転糸切り内面：回転ナデ		
27-5	56	土師器	無高台皿	T68		西壁 4 層（礫層）	(7.7)	2.2	7.8	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外面:にぶい橙 7.5YR7/3内面：明褐灰 7.5YR7/2	外面：回転ナデ、回転糸切り内面：回転ナデ		
27-6	37	土師器	柱状高台付皿	T68		西壁 4 層（礫層）			4.2	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：淡黄 2.5Y8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り内面：回転ナデ		
27-7	56	土師器	柱状高台付皿	T68		西壁 4 層（礫層）			4.0	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：灰白 5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り内面：回転ナデ		
27-8	37	土師器	柱状高台付皿	T68		西壁 4 層（礫層）			5.4	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外・内面：回転ナデ		
27-9	37	土師器	柱状高台付皿	T68		西壁 4 層（礫層）			8.5	密（1mm 以下の砂粒を含む）	良好	外・内面：淡黄 2.5Y8/3	回転ナデ、回転糸切り後ナデ		
27-10	37	土師器	柱状高台付皿	T68		西壁 4 層（礫層）				密（1mm 以下の砂粒を含む）	良好	外・内面：淡黄 2.5Y8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ内面：回転ナデ		
27-11	56	須恵器	蓋	T68		西壁 24 層上面				密（3mm 以下の砂粒を含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ内面：回転ナデ		
27-12	56	須恵器	皿か坏	T68		西壁 24 層上面			(7.6)	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ、ナデ		
27-13	56	須恵器	坏	T68		西壁 24 層上面				密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：灰白 N5/	外面：回転糸切り内面：回転ナデ		
27-14	56	須恵器	鉢	T68	SA003 P1					密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰白 N7/ ～灰 N5/内面：灰白 N7/	外面：回転ナデ、沈線内面：回転ナデ		
27-15	37	須恵器	高台付坏？	T68		第 1 期調査埋戻土			(10.4)	密（0.5mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：灰白 N8/	外面：回転糸切り、貼付け高台内面：回転ナデ		
29-1	56	土師器	甕	T66（北）	7 号竪穴建物跡		(16.2)			粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外・内面：ヨコナデ		松山Ⅱ～Ⅲ
29-2	56	土師器	高坏	T66（北）	8 号竪穴建物跡		(16.4)			粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面：橙 7.5YR7/6 ～黒 10YR2/1内面：灰白 10YR8/2	外・内面：ヨコナデ		
29-3	56	土師器	高坏	T66（北）	8 号竪穴建物跡					密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外面：赤 10R5/8内面：にぶい黄橙 10YR7/3	外・内面：調整不明		出雲 1 期併行
29-4	56	土師器	高坏	T66（北）	8 号竪穴建物跡				(11.2)	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：灰白 2.5Y8/3	外・内面：ヨコナデ		
31-1	37	土師器	直口壺	T66（西）	SD054		11.4			密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外面：浅黄橙 7.5YR8/3 ～橙 2.5YR6/8内面：浅黄橙 7.5YR8/3 ～褐灰 10YR4/1	外面：ヨコナデ内面：ヨコナデ、ヘラケズリ	外面赤彩	松山Ⅱ新
33-1	56	須恵器	坏蓋	T66（東）	91 号溝					密（0.5mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：灰 N5/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ内面：回転ナデ		出雲 4 期
33-2	56	須恵器	坏蓋	T66（東）	91 号溝		(12.4)			密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 5Y6/1	外・内面：回転ナデ		出雲 6 期

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	法量（）内復元値 口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	備考	型式・時期
33-3	56	須恵器	高坏	T66（東）	91 号溝					密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：淡黄 5Y8/3 内面：青灰 5PB6/1	外面：回転ナデ、沈線、透かし孔 内面：回転ナデ		
36-1	56	須恵器	坏身	T66（東）	SB019 P7		（11.0）			密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ		出雲 5 期
36-2	56	須恵器	坏身	T66（東）	SB019 P8		（12.0）			密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ		出雲 5 期
36-3	56	須恵器	坏身	T66（東）	SB019 P8					密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰 7.5Y5/1 内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ		出雲 4 期
36-4	56	須恵器	高坏？	T66（東）	SB019 P8				（9.6）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：灰白 5Y7/1	外面：回転ナデ、透かし孔 内面：回転ナデ		
36-5	37	須恵器	高坏	T66（東）	SB019 P7				（7.8）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/ ～暗灰 N3/	外面：回転ナデ、貫通していない透かし孔 内面：回転ナデ、指頭圧痕	脚部内面に漆付着	
36-6	37	土師器	高坏	T66（東）	SB019 P8				（10.3）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：橙 7.5YR7/6	外・内面：ヘラケズリ後ナデ		
36-7	56	土師器	甑	T66（東）	SB019 P7					粗（3mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外面：灰黄褐 10YR5/2 ～橙 5YR7/6 内面：灰黄 2.5Y7/2	外面：ナデ、ハケ目 内面：ヘラケズリ		
36-8	56	土師器	甕	T66（東）	SB019 P7					密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：灰黄褐 10YR6/2 ～黒褐 10YR3/1	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ		
36-9	56	製塩土器	製塩土器	T66（東）	SB019 P7					密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外面：浅黄橙 10YR8/3 内面：橙 5YR7/6	外・内面：ナデ？		
38-1	56	須恵器	坏蓋	T66（東）	29 号建物跡 P5		（14.5）			密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 N7/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ		出雲 4 期
38-2	56	須恵器	坏蓋	T66（東）	29 号建物跡 P2					密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ		出雲 4 期
38-3	56	須恵器	坏蓋	T66（東）	29 号建物跡 P4					密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：青灰 5PB6/1 内面：紫灰 5RP5/1	外・内面：回転ナデ		出雲 6 期か？
38-4	56	須恵器	坏身	T66（東）	29 号建物跡 P2					密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：褐灰 5YR5/1 ～灰 7.5Y6/1 内面:にぶい褐7.5YR6/3	外・内面：回転ナデ		出雲 4 期
40-1	57	須恵器	坏身	T66（東）	26 号建物跡 P7		（12.6）			粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外面：暗青灰 5PB4/1 内面：青灰 5PB6/1	外・内面：回転ナデ		出雲 5 ～ 6 期
40-2	57	須恵器	坏身	T66（東）	26 号建物跡 P7					密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ		出雲 4 期
40-3	57	須恵器	坏身	T66（東）	26 号建物跡 P3					密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ		出雲 3 期
40-4	57	須恵器	坏身	T66（東）	26 号建物跡 P1					密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N5/	外・内面：回転ナデ		出雲 6 期か？
40-5	37	土師器	高坏	T66（東）	26 号建物跡 P4				（9.6）	粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面：橙 2.5YR6/8 内面：浅黄橙 10YR8/4	外・内面：調整不明		
40-6	57	土製品	移動式竈	T66（東）	26 号建物跡 P3					粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	浅黄橙 10YR8/3	調整不明		
40-7	57	土製品	土製支脚	T66（東）	26 号建物跡 P7					粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	灰黄褐 10YR6/2 ～黒褐 10YR3/2	ナデ		
44-1	57	須恵器	坏蓋	T67（中央）	SB020 P1		（12.4）			密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 5Y7/1	外・内面：回転ナデ		出雲 4 期
44-2	57	須恵器	器台	T67（中央）	SB20 P10					やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外面：灰褐 7.5YR5/2 内面：灰 N5/	外面：回転ナデ、透かし孔、波状文 内面：回転ナデ	長方形と三角形の透かし孔	
48-1	57	須恵器	高坏	T66（北）	27 号建物跡 P7		（15.6）			密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外面：灰白 5Y8/2 ～暗灰 N3/ 内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、櫛描き波状文 内面：回転ナデ		
48-2	57	須恵器	高台付坏	T66（北）	27 号建物跡 P5		（6.6）			密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰 N6/ 内面：灰白 N7/	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ	内面転用硯	第 2 ～ 3 型式
48-3	57	土製品	移動式竈	T66（北）	27 号建物跡 P2					粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：灰白 10YR8/2	外面：ナデ 内面：ナデ、ヘラケズリ		
51-1	57	土師器	無高台坏	T56	79 号溝		（12.2）	4.1	（8.1）	粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面:にぶい橙 7.5YR7/4 内面：橙 2.5YR6/6	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
51-2	38	須恵器	無高台坏	T56	79 号溝		11.7	3.9	7.5	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：灰白 7.5Y7/1 ～灰色 N7/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 5 型式
51-3	57	須恵器	無高台坏	T56	79 号溝		（14.0）	（2.7）	（7.2）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 5 型式か？
51-4	57	須恵器	高台付坏	T56	79 号溝				（9.0）	やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面：灰 5Y6/1 内面：灰白 2.5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 5 型式
51-5	57	土師器	不明	T56	79 号溝				（7.2）	やや粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/3	外面：ナデ 内面：ナデ		
53-1	38	須恵器	無高台皿	T58（南）	80 号溝	22 層	12.3	1.9	8.7	密（1mm 程度の砂粒を極少量含む）	良好	外面：灰白 N8/0 内面：灰白 5Y8/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	内面に墨書「厨」	第 5 型式
53-2	58	須恵器	無高台皿	T58（南）	80 号溝	22 層	（13.8）	2.5	（7.2）	密（1mm 程度の砂粒を極少量含む）	良好	外面：灰白 2.5Y8/1 内面：灰白 5Y8/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	内面に墨書「厨」？	第 5 型式
53-3	58	須恵器	坏か皿	T58（南）	80 号溝	22 層			7.0	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：灰色 N8/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	内面に墨書「修」	第 6 型式か？
53-4	38	須恵器	無高台坏	T58（南）	80 号溝	22 層	12.8	3.7	7.9	やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：灰白 N7/ ～灰 N4/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 型式
53-5	38	土師器	無高台坏	T58（南）	80 号溝	22 層	（11.7）	3.6	7.0	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外面:にぶい橙 7.5YR7/4 内面：橙 7.5YR7/6	外・内面：回転ナデ		第 6 か第 7 型式
53-6	58	須恵器	壺？	T58（南）	80 号溝	22 層			7.8	密（混入物は認められない）	良	外面：灰 N4/ 内面：灰白 N7/	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		
53-7	38	土師器	足高高台付坏	T58（南）	80 号溝	22 層			9.0	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
53-8	38	土師器	高坏	T58（南）	80 号溝	22 層			10.4	密（2mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外面：淡赤橙 2.5YR7/4 内面：橙 2.5YR6/6	外面：ミガキ、ヨコナデ 内面：ハケ目、ナデ		
53-9	58	壁材？		T58（南）	80 号溝	22 層	長：6.6	幅：4.0	厚：3.1	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	浅黄 2.5Y7/3 ～灰 5Y6/1			
53-12	38	土師器	坏	T58（南）	80 号溝	26 層	（12.0）	3.8	7.3	密（0.5mm 以下の砂粒を含む）	良	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/2	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
53-13	38	須恵器	無高台坏	T58（南）	80 号溝	26 層	（12.4）	（3.9）	（8.3）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：黄灰 2.5Y5/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 5 型式か？
53-14	58	須恵器	無高台坏	T58（南）	80 号溝	26 層	（12.2）	（3.8）	（8.0）	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：灰白 5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	外面墨書「厨」	第 5 型式
53-15	38	須恵器	無高台坏	T58（南）	80 号溝	26 層	12.8	5.0	7.1	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：灰黄 2.5Y6/2 ～灰白 5Y8/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 型式
53-16	58	須恵器	無高台皿	T58（南）	80 号溝	26 層	11.3	2.1	6.4	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰白 5Y7/1 ～灰 N4/	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ	内面転用硯	第 5 型式
53-17	58	土師器	無高台皿	T58（南）	80 号溝	26 層	（11.7）	（1.2）	（7.6）	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良	外面：にぶい黄橙 10YR7/3 内面：にぶい黄橙 10YR7/3 ～黒褐 10YR3/1	外面:回転ナデ、底部ヘラ切り？ 内面：回転ナデ		
53-18	58	須恵器	無高台皿か坏	T58（南）	80 号溝	26 層			11.2	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰白 5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	内面転用硯か？	第 4 か 5 型式
53-19	38	土師器	高台付坏	T58（南）	80 号溝	26 層			（8.3）	やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：灰黄 2.5Y7/2	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 5 型式
53-20	58	土製品	移動式竈	T58（南）	80 号溝	26 層				やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	灰黄橙 10YR5/2 ～浅黄橙 10YR8/3	ナデ		
53-21	58	土製品	移動式竈	T58（南）	80 号溝	26 層				粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	浅黄橙 10YR8/3	ハケ目、指頭圧痕		
53-23	58	壁材？		T58（南）	80 号溝	26 層	長：6.0	幅：5.3	厚：3.3	やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	黄灰 2.5Y6/1 ～灰 5Y5/1			
53-25	59	須恵器	高台付坏	T58（南）	80 号溝	28 層	（13.8）			密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外面：灰 N4/ 内面：灰 N7/	外・内面：回転ナデ		第 6 型式
53-26	59	須恵器	無高台坏	T58（南）	80 号溝	28 層			（7.4）	密（0.5mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：灰白 5Y8/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 4 か 5 型式
53-27	59	土師器	無高台皿	T58（南）	80 号溝	28 層	（12.0）	1.1	（8.8）	密（4mm 以下の長石・白色粒・赤茶粒を含む）	良	外・内面：橙 2.5Y7/6 ～にぶい橙 7.5YR7/4	外・内面：回転ナデ		第 5 型式か？

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	法量（）内復元値 口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	備考	型式・時期
53-28	59	土師器	坏	T58（南）	80 号溝	28 層	（12.2）		不明	密（微小の石英等砂粒を含む）	不良	外面：オリーブ灰 2.5GY6/1 内面：灰 10Y6/1	外・内面：回転ナデ		第 4 か 5 型式
53-29	59	須恵器	長頸壺	T58（南）	80 号溝	30 層				密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ		第 2 か 3 型式
55-1	59	須恵器	蓋	T58（北）	82 号溝		（12.4）			密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰白 N7/	外・内面：回転ナデ		第 1 型式
55-2	38	須恵器	無高台坏	T58（北）	82 号溝		（11.0）	（4.0）	（8.1）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰 N4/～灰 N6/ 内面：灰 N4/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 3 型式か？
55-3	59	須恵器	長頸壺	T58（北）	82 号溝					密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外面：灰白 N7/ 内面：灰白 N8/	外・内面：回転ナデ		
55-4	59	須恵器	壺？	T58（北）	82 号溝					密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ		
55-5	59	土師器	甕	T58（北）	82 号溝		（22.0）			やや粗（0.5mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外面：灰褐 7.5YR5/2 内面：にぶい黄橙 10YR7/2	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ		
56-1	59	須恵器	蓋	T58（北）	83 号溝					密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外面：灰白 7.5Y7/1 内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ、摘み貼付け 内面：回転ナデ	内面転用硯	第 2 型式
56-2	59	須恵器	蓋	T58（北）	83 号溝		（12.8）			密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ		第 1 型式
56-3	59	土師器	高坏	T58（北）	83 号溝					やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面:にぶい橙 7.5YR7/4 内面：灰黄褐 10YR5/2	外・内面：調整不明		
56-4	38	土師器	小型丸底壺	T58（北）	83 号溝					密（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外面：灰白 2.5Y8/2～赤 10R4/4（赤彩） 内面：灰白 2.5Y8/2	外面：ナデ、ハケメ?、赤彩 内面：ナデ、指頭圧痕		
56-5	59	土製品	移動式竈	T58（北）	83 号溝					粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	灰白 10YR8/2	外・内面：ナデ		
56-6	59	土製品	移動式竈	T58（北）	83 号溝					粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	灰白 10YR8/2	外・内面：ナデ		
58-1	38	白磁	碗	T68	SD010	西壁 16 層			6.3	緻密	良好	外面：灰白 5Y8/2 内面：灰白 5Y8/2～灰白 7.5Y8/1	外・内面：施釉	広東系	Ⅱ類 大宰府 C 期
58-2	59	須恵器	高台付皿か坏	T68	SD010	西壁 16 層				密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：黄灰 2.5Y6/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
58-3	59	須恵器	甕	T68	SD010	西壁 16 層				密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外面：灰 N6/ 内面：灰 N7/	外・内面：回転ナデ		
58-4	59	土師器	無高台皿	T68	SD010	西壁 16 層			4.5	やや粗（2mm 以下の砂粒を含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
58-5	39	土師器	足高高台付皿	T68	SD010	西壁 16 層				密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/4	外・内面：回転ナデ		第 8 型式
58-6	39	土師器	柱状高台付坏	T68	SD010	西壁 16 層			7.6	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 9 型式
60-1	39	須恵器	甕	T68	1 号池状施設	西壁 14 層	17.7			密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、平行文タタキ 内面：回転ナデ、同心円文当て具痕		
60-2	60	須恵器	不明	T68	1 号池状施設	西壁 14 層				密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：褐灰 5Y4/1 内面：褐灰 5Y4/1	外面：平行文タタキ、切れ込みあり 内面：同心円文当て具痕		
60-3	39	土師器	無高台坏	T68	1 号池状施設	西壁 14 層	（15.8）	4.5	6.8	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 9 型式
60-4	39	土師器	無高台坏	T68	1 号池状施設	西壁 14 層	（13.7）	4.3	（4.2）	密（1mm 以下の砂粒含む）	良	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/2	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		第 9 型式
60-5	60	土師器	無高台坏	T68	1 号池状施設	西壁 14 層			6.3	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外面：浅黄橙 10YR8/3 内面：浅黄橙 10YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
60-6	60	土師器	高台付坏	T68	1 号池状施設	西壁 14 層				密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外面：灰白 10YR8/2 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ	中央に 6mm の貫通孔あり	第 6 ～ 8 型式
60-7	39	土師器	高台付坏	T68	1 号池状施設	西壁 14 層			6.0	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 型式か？
60-8	39	土師器	高台付坏	T68	1 号池状施設	西壁 14 層			（6.7）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 型式か？
60-9	60	土師器	高台付坏	T68	1 号池状施設	西壁 14 層				粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：にぶい黄橙 10YR6/3 ～灰 5Y5/1	外面：回転糸切り、貼付け高台 内面：ナデ	内面転用硯	第 3 か 4 型式
60-10	60	土師器	足高高台付坏	T68	1 号池状施設	西壁 14 層	（21.0）			密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：淡橙 5YR8/4 ～灰白 2.5Y8/2	外・内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
60-11	39	土師器	足高高台付坏	T68	1 号池状施設	西壁 14 層			（13.6）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外・内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
60-12	39	土師器	足高高台付坏	T68	1 号池状施設	西壁 14 層			（9.2）	粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：淡橙 5YR8/4	外・内面：回転ナデ		
60-13	39	土師器	足高高台付坏	T68	1 号池状施設	西壁 14 層			（8.6）	密（1mm 以下の砂粒を含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外・内面：回転ナデ		第 8 型式
60-14	60	土師器	足高高台付坏	T68	1 号池状施設	西壁 14 層			（10.6）	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：橙 2.5YR7/6	外・内面：回転ナデ		第 7 型式
60-15	39	土師器	無高台皿	T68	1 号池状施設	西壁 14 層	（10.9）	2.5	4.9	密（2mm 以下の砂粒含む）	良好	外面：橙 5YR7/6 内面：灰白 10YR8/2	外・内面：回転ナデ		
60-16	60	土師器	無高台皿	T68	1 号池状施設	西壁 14 層	（11.0）	2.3	（5.2）	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：にぶい橙 7.5YR6/4	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
60-17	40	土師器	無高台皿	T68	1 号池状施設	西壁 14 層	9.1	2.3	4.6	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
60-18	40	土師器	無高台皿	T68	1 号池状施設	西壁 14 層	9.5	2.5	4.9	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
60-19	40	土師器	高台付皿	T68	1 号池状施設	西壁 14 層			4.9	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：にぶい褐 7.5YR6/3 内面:にぶい橙 7.5YR7/4	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 型式
60-20	40	土師器	足高高台付皿	T68	1 号池状施設	西壁 14 層			（4.8）	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外・内面：回転ナデ		第 8 型式
60-21	40	土師器	足高高台付皿	T68	1 号池状施設	西壁 14 層			（6.9）	密（2mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/3	外・内面：回転ナデ		第 8 型式
60-22	40	土師器	柱状高台付皿	T68	1 号池状施設	西壁 14 層			（5.0）	粗（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外面:にぶい橙 7.5YR7/3 内面:にぶい橙 7.5YR7/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 9 ～ 10 型式
60-23	40	土師器	柱状高台付皿	T68	1 号池状施設	西壁 14 層			（5.6）	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 10 型式
60-24	40	須恵器	蓋	T68	1 号池状施設	西壁 15 層				密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：青灰 5PB6/1 ～灰白 N8/ 内面：青灰 5PB6/1	外・内面：回転ナデ	内面転用硯	第 3 か 4 型式
60-25	60	須恵器	蓋	T68	1 号池状施設	西壁 15 層	（17.6）			粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面：青灰 5PB6/1 内面：灰白 N7/	外・内面：回転ナデ		第 3 型式か？
60-26	60	須恵器	無高台坏	T68	1 号池状施設	西壁 15 層			（8.8）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：灰白 2.5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り、底部一部ナデ 内面：回転ナデ		第 2 か 3 型式
60-27	60	須恵器	高台付坏？	T68	1 号池状施設	西壁 15 層			（11.4）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰白 5Y7/1 内面：灰白 5Y8/1	外面：回転ナデ、ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 3 型式か？
60-28	60	須恵器	無高台皿	T68	1 号池状施設	西壁 15 層				粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 3 型式か？
60-29	40	土師器	無高台皿	T68	1 号池状施設	西壁 15 層	（10.2）	2.3	4.2	粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
60-30	40	土師器	無高台皿	T68	1 号池状施設	西壁 15 層	（11.0）	2.9	（5.6）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
60-31	40	須恵器	高台付坏	T68	1 号池状施設	西壁 23 層	（16.6）	（6.3）	（10.1）	密（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：灰褐 5YR5/2 ～にぶい橙 5YR6/4	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 4 か 5 型式
60-32	60	須恵器	甕	T68	1 号池状施設	西壁 28 層				密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/～灰白 N8/	外面：回転ナデ、平行文タタキ 内面：回転ナデ、同心円文当て具痕		
61-1	60	緑釉陶器	碗	T58（北）	1 号池状施設	9 層	（13.8）			緻密	良好	外・内面：緑（釉）	外・内面：回転ナデ、施釉	防長? 硬質	
61-2	60	緑釉陶器	碗	T58（北）	1 号池状施設	9 層	（13.7）			緻密	良好	外・内面：濃緑（釉）	外・内面：回転ナデ、施釉	近江 硬質、光沢あり	
61-3	60	緑釉陶器	碗？	T58（北）	1 号池状施設	9 層			（7.2）	緻密	良好	外・内面：オリーブ灰 10Y4/2（釉）	外・内面：回転ナデ、施釉	近江か美濃 硬質、光沢あり	
61-4	60	緑釉陶器	碗？	T58（北）	1 号池状施設	9 層				緻密	良好	外・内面：濃緑（釉）	外・内面：回転ナデ、施釉	近江 硬質、光沢あり	
61-5	60	緑釉陶器	碗？	T58（北）	1 号池状施設	9 層				緻密	良好	外・内面：濃緑（釉）	外・内面：回転ナデ、施釉	近江 硬質、光沢あり	
61-6	60	須恵器	蓋	T58（北）	1 号池状施設	9 層	（13.0）			密（白色砂粒を微量含む）	良好	外面：青灰 10BG5/1 内面：暗青灰 10BG4/1	外面：回転ナデ 内面：ナデ、回転ナデ	内面転用硯	第 3 か 4 型式
61-7	61	須恵器	蓋	T58（北）	1 号池状施設	9 層	（14.3）			やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外面：灰 N5 内面：灰 N4	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ、ナデ	内面転用硯	第 3 か 4 型式
61-8	61	須恵器	蓋	T58（北）	1 号池状施設	9 層				密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰 N5/ 内面：灰白 N7/	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	内面転用硯か	第 3 か 4 型式
61-9	61	須恵器	坏？	T58（北）	1 号池状施設	9 層			（8.2）	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外面：灰 N5 内面：灰 N6	外面：ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 4 か 5 型式

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	法量（）内復元値			胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	備考	型式・時期
							口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）						
61-10	40	須恵器	高台付坏	T58（北）	1号池状施設	9層			6.2	やや粗（1mm以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：灰白 2.5Y8/1	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第6～7型式か？
61-11	40	須恵器	無高台皿	T58（北）	1号池状施設	9層	（14.0）	2.1	8.4	密（1mm以下の砂粒含む）	良好	外面：灰色 N4/ 内面：灰色 N5/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	底部外面墨書「福」？	第5か6型式
61-12	41	須恵器	風字硯	T58（北）	1号池状施設	9層	長：8.8 ×8.9	（2.3）		密（1mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰白 N7/ 内面：青灰 5PB6/1	外面：回転ナデ、回転糸切り、脚貼付け 内面：回転ナデ		
61-13	61	土師器	無高台坏	T58（北）	1号池状施設	9層			（5.8）	密（1mm以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/3	外・内面：回転ナデ		第6か7型式
61-14	61	土師器	無高台坏？	T58（北）	1号池状施設	9層			（11.0）	密（1mm以下の砂粒を少量含む）	良	外面：灰黄 2.5Y7/2 内面：にぶい黄橙 10YR7/2	外面：指頭圧痕、板目圧痕、漆塗布 内面：ナデ調整		
61-15	61	土師器	無高台皿	T58（北）	1号池状施設	9層			4.5	密（0.5mm以下の砂粒を微量に含む）	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
61-16	61	土師器	高台付坏	T58（北）	1号池状施設	9層				密（0.5mm以下の砂粒を微量に含む）	不良	外面：浅黄橙 7.5YR8/4 内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第6か7型式
61-17	41	土師器	高台付坏	T58（北）	1号池状施設	9層			7.0	密（0.5mm以下の砂粒を微量に含む）	不良	外・内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第6か7型式
61-18	41	土師器	足高高台付坏	T58（北）	1号池状施設	9層	（13.2）	（7.5）	（8.0）	密（0.5mm以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、貼付け高台、回転糸切り 内面：回転ナデ		第6か7型式
61-19	41	黒色土器	高台付坏	T58（北）	1号池状施設	9層			（6.2）	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	外面：灰白 2.5Y8/2 内面：黒 N2	外面：回転ナデ 内面：ヘラミガキ		第3型式
61-20	61	壁材？		T58（北）	1号池状施設	9層	長：6.1	幅：5.5	厚：3.3	やや粗（1mm以下の砂粒を含む）		暗青灰 5BG4/1			
61-23	41	緑釉陶器	輪花碗	T58（北）	1号池状施設	10層	13.6	4	6.7	緻密	良好	外・内面：灰白 5Y8/1 ～灰白 10YR7/2（釉）	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ、施釉 内面：回転ナデ、沈線、施釉	京都系 硬質、口縁端部を窪ませて5弁を表現	9C後半
61-24	41	須恵器	蓋	T58（北）	1号池状施設	10層	（13.6）	（2.9）		密（0.5mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N5/	外・内面：回転ナデ	内面転用硯	第3～4型式
61-25	61	須恵器	蓋	T58（北）	1号池状施設	10層			5.8	密（1mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N7/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ		第3か4型式
61-26	61	須恵器	蓋	T58（北）	1号池状施設	10層				やや粗（1mm以下の砂粒を多量に含む）	良	外面：灰 N6 内面：灰 N5	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：ナデ		第2型式
61-27	61	須恵器	坏身	T58（北）	1号池状施設	10層	（11.8）	（4.0）		密（0.5mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ		出雲4期
61-28	61	須恵器	坏身	T58（北）	1号池状施設	10層				密（0.5mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰 5Y6/1 内面：明青灰 5PB7/1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ		出雲5期
61-29	61	須恵器	坏	T58（北）	1号池状施設	10層			（10.4）	密（2mm未満の長石.0.5mm未満の石英・白色砂粒含む）	良	外面：灰白 5Y7/1 内面：灰 5Y6/1	外面：ナデ 内面：回転ナデ、ナデ		第4か5型式
61-30	41	須恵器	高台付坏	T58（北）	1号池状施設	10層			（9.4）	密（1mm以下の砂粒を含む）	良好	外・内面：灰色 N6/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	底部墨書「異福」？	第4型式
61-31	61	須恵器	高台付坏	T58（北）	1号池状施設	10層				密（2mm以下の白色砂粒を含む）	良	外面：灰 7.5Y5/1 内面：灰 7.5Y5/1～6/1	外面：回転ナデ 内面：ナデ	内面転用硯	第2型式
61-32	61	須恵器	高台付皿か坏	T58（北）	1号池状施設	10層				密（0.5mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N5/	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ	内面転用硯	第4型式
61-33	41	須恵器	高台付皿	T58（北）	1号池状施設	10層	（17.8）	3.6	（11.0）	やや粗（3mm以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：灰 N5/	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ	内面転用硯	第4型式
61-34	41	須恵器	高坏	T58（北）	1号池状施設	10層				密（1mm以下の砂粒を多量に含む）	良好	外面：褐灰 10YR6/1 内面：にぶい橙 5YR6/4	外・内面：回転ナデ		第3型式か？
61-35	41	須恵器	長頸壺	T58（北）	1号池状施設	10層				密（1mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 5Y6/1	外面：回転ナデ、沈線 内面：回転ナデ		
61-36	61	須恵器	長頸壺？	T58（北）	1号池状施設	10層				密（0.5mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰 5Y4/1 内面：灰白 N7/	外・内面：回転ナデ	内外面や断面に漆が付着	第3型式
61-37	62	須恵器	長頸壺？	T58（北）	1号池状施設	10層				密（0.5mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰 N6/～オリーブ灰 2.5GY6/1 内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ	内外面や割れ口に漆が付着	
61-38	61	須恵器	長頸壺？	T58（北）	1号池状施設	10層				密（1mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ	内外面や割れ口に漆が付着	第3型式か？
61-39	42	須恵器	平瓶	T58（北）	1号池状施設	10層			（8.6）	密（0.5mm以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰白 5Y8/1	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ	内外面や割れ口に漆が付着	第3～4型式
61-40	61	須恵器	鼈	T58（北）	1号池状施設	10層				密（1mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：黄灰 2.5Y6/1	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ、沈線 内面：回転ナデ	内外面や割れ口に漆が付着	出雲4期
61-41	62	須恵器	鼈	T58（北）	1号池状施設	10層				密（0.5mm以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰 N4/	外面：回転ナデ 内面：調整不明	径5mmの穿孔 内外面や割れ口に漆が付着	
61-42	62	須恵器	鼈？	T58（北）	1号池状施設	10層				密（0.5mm以下の砂粒を微量に含む）	良好	外面：灰白 N7/ 内面：灰 7.5Y5/1	外面：回転ナデ 内面：調整不明	内外面や割れ口に漆が付着	第2型式か？
61-43	42	須恵器	鼈？	T58（北）	1号池状施設	10層			5.3	やや粗（2mm以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	内外面や割れ口に漆が付着	
61-44	42	須恵器	鼈？	T58（北）	1号池状施設	10層			5.0	密（0.5mm以下の砂粒を多量に含む）	良好	外面：灰 N5/～灰白 7.5YR8/1 内面：灰 N5/	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ、板目圧痕 内面：回転ナデ	内外面や割れ口に漆が付着	第3型式
61-45	42	須恵器	圏足円面硯	T58（北）	1号池状施設	10層	外堤径：（13.6）硯面径：（11.0）	7.4	（19.4）	密（1mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：褐灰 7.5YR6/1～灰 N6/ 内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、貼付け突帯、透かし孔 内面：回転ナデ		
61-46	62	土師器	足高高台付坏	T58（北）	1号池状施設	10層	（15.8）	6.6	7.8	密（0.5mm以下の砂粒を微量に含む）	不良	外・内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		第6か7型式
61-47	42	土師器	足高高台付坏	T58（北）	1号池状施設	10層				密（3mm以下の長石・石英・雲母・白色・赤茶粒他の砂粒含む）	良	外・内面:浅黄橙 7.5Y8/4	外・内面：回転ナデ？		第6か7型式
61-48	63	土師器	甕	T58（北）	1号池状施設	10層				密（1mm以下の砂粒を少量含む）	良	外面：橙 2.5YR7/6～褐灰 10YR5/1 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：ハケ目 内面：ヘラケズリ		
61-49	62	土製品	移動式竈	T58（北）	1号池状施設	10層				密（2.5mm以下の長石・石英・白色砂粒・雲母含む）	良	外面：灰白 10YR8/2 内面：にぶい黄橙 10YR7/2	外面：ナデ 内面：ナデ、ケズリ		
62-1	42	白磁	皿	T68		西壁11層（黒色土）	（10.2）	（2.7）	3.1	緻密	良好	外面：灰白 5Y7/2～灰白 5Y8/1 内面：灰白 5Y7/2	外・内面：施釉	広東系	Ⅳ-Ⅰb類 大宰府C期
62-2	63	白磁	耳壺	T68		西壁11層（黒色土）	（12.5）			緻密	良好	外・内面：灰白 7.5Y7/2	外・内面：施釉	福建系	Ⅲ類
62-3	63	灰釉陶器	坏	T68		西壁11層（黒色土）			（7.4）	密（1mm以下の砂粒含む）	良好	外・内面：灰白 N8/	外・内面：回転ナデ、施釉	内面磨滅、高台の痕跡あり	
62-4	63	須恵器	蓋	T68		西壁11層（黒色土）	（14.6）			密（1mm以下の砂粒含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ		第2型式か？
62-5	42	須恵器	長頸壺	T68		西壁11層（黒色土）				密（1mm以下の砂粒含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外・内面：回転ナデ		
62-6	42	須恵器	長頸壺	T68		西壁11層（黒色土）			（12.4）	密（1mm以下の砂粒含む）	良好	外・内面：5B6/1	外・内面：回転ナデ、指頭圧痕		
62-7	63	須恵器	蓋？	T68		西壁11層（黒色土）				密（0.5mm以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：明青灰 5PB7/1～暗青灰 5PB4/1	外面：研磨、漆塗布 内面：研磨、漆塗布、渦巻きスタンプ文	内面転用硯	
62-8	43	須恵器	不明	T68		西壁11層（黒色土）			（16.6）	密（1mm以下の砂粒含む）	良好	外面：灰 7.5Y4/1 内面：灰 10Y5/1	外面：ナデ、平行文タタキ、ヘラケズリ、底部に繊維質の圧痕 内面：ナデ、指頭圧痕、同心円文当て具痕	底部中央に直径11cm程の孔	
62-9	63	土師器	無高台坏	T68		西壁11層（黒色土）			5.6	密（1mm以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	外面墨書「□[人ヵ]□」	第9型式？
62-10	43	土師器	無高台坏	T68		西壁11層（黒色土）	（4.8）	（4.1）	（5.2）	密（2mm以下の砂粒を含む）	良好	外・内面：橙 5YR7/8	外・内面：回転ナデ		第9型式
62-11	63	土師器	無高台坏	T68		西壁11層（黒色土）	（15.4）			密（0.5mm以下の砂粒を少量含む）	良	外面：黒 5Y2/1～灰黄褐 10YR5/2 内面：黒 5Y2/1～にぶい黄橙 10YR7/2	外・内面：回転ナデ	内外面に漆が付着	第9型式？
62-12	63	土師器	無高台坏	T68		西壁11層（黒色土）			6.1	密（1mm以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第9型式
62-13	63	土師器	無高台坏	T68		西壁11層（黒色土）			6.3	密（1mm以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外・内面：回転ナデ		第9型式？
62-14	63	土師器	無高台坏	T68		西壁11層（黒色土）			（8.8）	密（0.5mm以下の砂粒を微量に含む）	良	外面：浅黄橙 10YR8/3 内面：黒 5Y2/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	内外面に漆が付着	第9型式？
62-15	63	土師器	無高台坏	T68		西壁11層（黒色土）			（10.3）	密（1mm以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第9型式？
62-16	63	土師器	無高台坏	T68		西壁11層（黒色土）	（13.3）			密（0.5mm以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：黒 10YR2/1 ～にぶい黄橙 10YR7/3	外・内面：回転ナデ	内外面に漆が付着	

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	法量（）内復元値 口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	備考	型式・時期
62-17	63	土師器	無高台坏	T68		西壁 11 層（黒色土）	(13.8)			密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：にぶい黄橙 10YR7/3 内面：黒褐 10YR3/2	外・内面：回転ナデ	内面に漆が厚く付着	
62-18	63	土師器	無高台坏	T68		西壁 11 層（黒色土）	(15.0)		(5.0)	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外面：灰白 10YR8/1 ～黒褐 10YR3/1 内面：灰白 10YR8/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
62-19	43	土師器	高台付坏	T68		西壁 11 層（黒色土）			(8.4)	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外面：浅黄橙 10YR8/3 ～黒 7.5Y2/1 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、漆の上からヘラミガキ	内面に漆を塗布	第 6 か 7 型式
62-20	43	土師器	高台付坏	T68		西壁 11 層（黒色土）				密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外面：にぶい橙 7.5YR7/4 内面：黒褐 10YR3/1	外・内面：回転ナデ	内面に漆が付着	
62-21	43	黒色土器	高台付坏	T68		西壁 11 層（黒色土）			(7.6)	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：浅黄橙 10YR8/3 内面：黒 N2/	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ、ヘラミガキ、炭素吸着？		
62-22	64	土師器	足高高台付坏	T68		西壁 11 層（黒色土）	(29.0)			粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：にぶい橙 7.5YR7/4	外・内面：回転ナデ		第 6 ～ 7 型式
62-23	64	土師器	足高高台付坏	T68		西壁 11 層（黒色土）				粗（3mm 以下の砂粒を含む）	良好	外面：浅黄橙 7.5YR8/4 内面：橙 2.5YR7/8	外・内面：回転ナデ		
62-24	43	土師器	足高高台付坏	T68		西壁 11 層（黒色土）			(8.6)	密（1mm 以下の砂粒含む）	不良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外・内面：回転ナデ		第 7 ～ 8 型式
62-25	43	土師器	足高高台付坏	T68		西壁 11 層（黒色土）			9.2	密（2mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外・内面：回転ナデ、ナデ		第 8 型式
62-26	43	土師器	足高高台付坏	T68		西壁 11 層（黒色土）			(7.8)	密（2mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外・内面：回転ナデ、ナデ		第 8 型式
62-27	43	土師器	足高高台付坏	T68		西壁 11 層（黒色土）				密（2mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外・内面：回転ナデ、ナデ		第 8 型式
62-28	43	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	10.0	3.1	4.7	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-29	43	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	9.7	2.7	4.2	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：橙 5YR7/6	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-30	43	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	10.2	2.7	4.5	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外面：灰白 10YR8/1 内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-31	44	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	10.6	3.2	5.3	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外面：灰白 10YR8/1 内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-32	44	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	10.7	2.8	4.6	密（1mm 以下の砂粒を含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-33	44	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	10.5	2.7	5.1	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/6	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-34	44	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	10.0	2.6	5.0	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外面：灰白 10YR8/1 内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-35	44	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	9.8	2.6	4.2	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-36	44	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	9.3	2.4	4.4	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-37	44	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	9.5	2.0	5.0	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：淡橙 5YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-38	44	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	9.2	2.3	4.8	やや粗（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-39	44	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	10.0	2.3	4.7	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外面：浅黄橙 7.5YR8/4 内面：にぶい褐 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-40	64	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）			6.0	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外面：浅黄橙 7.5YR8/4 内面：にぶい褐 7.5YR6/3 ～浅黄橙 7.5YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-41	44	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	(12.3)	3.4	5.7	やや粗（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-42	44	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	10.2	2.6	4.3	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-43	44	土師器	無高台皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	(8.9)	2.1	4.5	密（1mm 以下の砂粒を含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ		
62-44	44	土師器	足高高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	8.0	2.8	5.0	密（2mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外・内面：回転ナデ		第 8 型式
62-45	44	土師器	足高高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	(10.2)	3.4	(6.0)	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：灰白 2.5Y8/2	外・内面：回転ナデ		第 8 型式
62-46	44	土師器	足高高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）	(10.3)	12.9		密（1mm 以下の砂粒を含む）	良好	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外・内面：回転ナデ		第 8 型式
62-47	44	土師器	足高高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）			5.8	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：橙 5YR7/6	外・内面：回転ナデ、ナデ		第 8 型式
62-48	45	土師器	足高高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）			(5.3)	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外・内面：回転ナデ		第 8 型式
62-49	45	土師器	足高高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）			(8.5)	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：にぶい橙 7.5YR7/4	外・内面：回転ナデ		第 8 型式
62-50	45	土師器	足高高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）			5.6	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外・内面：ナデ		第 8 型式
62-51	45	土師器	足高高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）			(8.0)	密（2mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：橙 2.5YR7/8	外・内面：回転ナデ		第 8 型式
62-52	45	土師器	柱状高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）			5.2	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外・内面：灰白 2.5Y8/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 9 ～ 10 型式
62-53	45	土師器	柱状高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）			(4.6)	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 9 ～ 10 型式
62-54	45	土師器	柱状高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）			6.2	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	灰白 2.5Y8/1	回転ナデ、回転糸切り		第 9 ～ 10 型式
62-55	45	土師器	柱状高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）			5.2	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	灰白 2.5Y8/2	回転ナデ、回転糸切り		第 9 ～ 10 型式
62-56	45	土師器	柱状高台付皿	T68		西壁 11 層（黒色土）			(5.8)	粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 9 ～ 10 型式
62-57	45	土師器	小型甕	T68		西壁 11 層（黒色土）	(7.4)	(4.5)	(5.4)	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：にぶい黄橙 10YR7/3 ～黒 2.5Y2/1 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
62-58	45	土師器	無高台盤	T68		西壁 11 層（黒色土）			5.0	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 9 型式?
63-1	64	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）	(14.2)	3.7	6.4	密（1mm 程度の砂粒を極少量含む）	良好	外面：橙 5YR7/6 内面：橙 2.5Y7/8	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 9 型式?
63-2	45	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	(12.8)		6.2	密（0.5mm 以下の砂粒・雲母を微量に含む）	良好	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 8 型式
63-3	45	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）	(13.4)	(4.9)	(6.6)	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 8 型式
63-4	64	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）	(13.4)			密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：橙 7.5YR7/6	外・内面：回転ナデ		第 8 型式か?
63-5	45	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）	(15.8)	5.0	(7.5)	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 8 型式
63-6	45	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）	16.1	4.8	7.0	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外面：浅黄橙 10YR8/3 ～褐灰 10YR5/1 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 8 型式
63-7	45	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）	(12.8)	4.3	5.4	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 8 ～ 9 型式
63-8	46	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）	(12.2)	(4.4)	5.4	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外面：橙 5YR7/6 ～浅黄橙 7.5YR8/4 内面：灰白 10YR8/2 ～灰 5Y5/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 8 か 9 型式
63-9	46	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）	(16.0)	4.4	6.9	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 8 ～ 9 型式
63-10	64	土師器	坏	T58（北）		7 層（黒色土）	(17.2)			密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/2	外・内面：調整不明		第 8 か 9 型式
63-11	46	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）	(16.1)	4.4	(6.2)	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：にぶい橙 7.5YR7/4	外・内面：調整不明		第 9 型式
63-12	46	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）	(14.2)	4.3	6.0	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：橙 5YR7/6 ～にぶい橙 7.5YR7/4	外面：調整不明、回転糸切り 内面：調整不明		第 9 型式
63-13	64	土師器	無高台坏?	T58（北）		7 層（黒色土）			6.0	密（1mm 以下の砂粒含む）	良好	外面：橙 7.5YR7/6 内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 9 型式?
63-14	46	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）			6.0	やや粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：にぶい橙 7.5YR7/4	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 9 型式?
63-15	64	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）	(14.0)	(4.2)	(5.1)	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 10 型式か?

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	法量（）内復元値			胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	備考	型式・時期
							口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）						
63-16	64	土師器	無高台坏	T58（北）		7 層（黒色土）	（12.1）			密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外面：灰白 2.5Y8/2 内面：黒褐色 10YR3/1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、漆塗布		
63-17	64	土師器	高台付坏	T58（北）		7 層（黒色土）			（12.0）	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良	外面：にぶい橙 5YR6/3 ～赤灰 2.5YR5/1 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 型式か?
63-18	46	土師器	高台付坏	T58（北）		7 層（黒色土）			（7.8）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：浅黄橙 10YR8/3 内面：褐灰 10YR5/1	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 8 型式か?
63-19	46	土師器	足高高台付坏	T58（北）		7 層（黒色土）			（8.3）	やや粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 ～ 7 型式
63-20	46	土師器	足高高台付坏	T58（北）		7 層（黒色土）			7.7	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 7 型式以降
63-21	46	土師器	足高高台付坏	T58（北）		7 層（黒色土）			9.5	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 7 型式以降
63-22	46	土師器	足高高台付坏	T58（北）		7 層（黒色土）			11.5	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外面:にぶい褐 7.5YR5/4 ～浅黄橙 7.5YR8/4 内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外面：貼付け高台 内面：ナデ		第 7 ～ 8 型式
63-23	46	土師器	足高高台付坏	T58（北）		7 層（黒色土）			8.2	密（1mm 以下の砂粒を含む）	良好	外面：浅黄橙 10YR8/3 内面：灰白 10YR8/2	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 8 型式か?
63-24	46	土師器	足高高台付坏	T58（北）		7 層（黒色土）			6.5	密（0.5mm 以下の砂粒、雲母を少量含む）	良好	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/4	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 8 型式か?
63-25	47	土師器	足高高台付坏	T58（北）		7 層（黒色土）	32.4	12.5	14.8	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：浅黄橙 7.5YR8/3 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ、ナデ		
63-26	64	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（10.6）	3.1	4.6	密（1mm 程度の砂粒を極少量含む）	良好	外面：灰白 2.5Y8/2 内面：淡黄 2.5Y8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-27	47	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（10.3）	3.4	5.2	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	灯明皿	
63-28	64	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（11.6）	3.2	4.6	粗（2mm 以下の砂粒・雲母を含む）	良好	外面：灰白 10YR8/2 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-29	47	土師器	無高台坏か皿	T58（北）		7 層（黒色土）			4.0	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良	外面：にぶい黄橙 10YR7/3 内面：黒褐色 10YR3/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ、漆塗布		
63-30	47	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	10.9	3	4.7	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-31	64	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（11.3）	2.7	（5.5）	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-32	64	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（10.4）	（2.9）	（5.0）	密（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外面:にぶい橙 7.5YR7/4 内面：浅黄橙 7.5YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-33	47	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（10.4）	（2.7）	5.3	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/2	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-34	64	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（10.8）	2.6	5.5	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-35	47	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	10.5	3.0	4.4	やや粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-36	47	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（10.2）	2.5	4.8	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰黄 2.5Y6/2	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-37	47	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（10.6）	2.5	5.2	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：浅黄橙 7.5YR8/3 内面：黒褐 2.5Y3/1	外面：調整不明 内面：回転ナデ	灯明皿	
63-38	47	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（10.7）	2.5	5.1	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-39	65	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（11.1）	2.6	（6.7）	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	灯明皿	
63-40	47	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（10.7）	（2.5）	4.8	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：にぶい橙 7.5YR7/4	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-41	47	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	11.0	2.6	5.6	密（1mm 以下の砂粒少量含む）	良好	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-42	48	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	9.2	2.3	4.4	密（1mm 以下の砂粒を含む）	良好	外面：浅黄橙 7.5YR8/6 内面：橙 5YR7/6	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-43	48	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（10.8）	2.3	4.6	密（1mm 程度の砂粒を極少量含む）	良好	外面：灰白 10YR8/2 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-44	48	土師器	無高台皿	T58（北）		7 層（黒色土）			5.7	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：浅黄橙 7.5YR8/3 内面：橙 5YR7/6	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-45	48	土師器	足高高台付坏	T58（北）		7 層（黒色土）	8.6	3.1	4.8	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外面：浅黄橙 7.5YR8/4 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		
63-46	48	土師器	足高高台付坏	T58（北）		7 層（黒色土）	8.2	4.2	6.5	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/3	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 8 型式
63-47	48	土師器	足高高台付皿	T58（北）		7 層（黒色土）	（11.6）	（3.0）	（6.4）	やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外面：灰白 2.5Y8/2 内面：灰白 2.5Y8/2	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 8 型式
63-48	48	土師器	足高高台付皿	T58（北）		7 層（黒色土）	12.2	3.7	7.3	密（1mm 以下の砂粒少量含む）	良好	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/3	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 8 型式
63-49	48	土師器	足高高台付坏	T58（北）		7 層（黒色土）	（11.0）	3.3	6.4	密（1mm 程度の砂粒を極少量含む）	良好	外・内面：灰白 10YR8/1	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 8 型式
63-50	48	土師器	足高高台付皿か坏	T58（北）		7 層（黒色土）			（6.0）	密（0.5mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：橙 7.5YR7/4	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 8 型式か?
63-51	48	土師器	柱状高台付皿	T58（北）		7 層（黒色土）			4.4	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：灰白 2.5Y8/2	外・内面：ナデ		
63-52	49	土師器	柱状高台付皿	T58（北）		7 層（黒色土）			（4.6）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 2.5Y8/2	外面：ナデ、回転糸切り 内面：ナデ		
63-53	49	土師器	柱状高台付皿	T58（北）		7 層（黒色土）			（4.8）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：灰白 10YR8/2	外・内面：回転ナデ		
63-54	49	土師器	柱状高台付皿	T58（北）		7 層（黒色土）			（5.7）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：灰白 10YR8/2	外・内面：劣化により調整不明		
63-55	65	土師器	坏か皿	T58（北）		7 層（黒色土）				密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/4	口縁に 2 条の沈線調整不明	口縁に 2 条の沈線	
63-56	49	土師器	小型壺	T58（北）		7 層（黒色土）				密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外面：にぶい黄橙 10YR7/3 内面:にぶい橙 7.5YR7/4	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
63-57	65	製塩土器	製塩土器	T58（北）		7 層（黒色土）				密（1mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰黄 2.5Y7/2	外・内面：ヨコナデ		
66-1	65	須恵器	無高台皿	T66（北）	67 号土坑		（12.8）	2.4	（6.2）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	内面転用硯	第 5 ～ 6 型式
66-2	65	須恵器	高台付坏	T66（北）	67 号土坑				（10.0）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ	内外面とも転用硯	第 5 型式
66-3	65	土師器	無高台坏	T66（北）	67 号土坑		（12.6）	（4.4）	（7.4）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
66-4	65	土師器	無高台坏	T66（北）	67 号土坑					粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：浅黄橙 7.5YR8/6	外・内面：調整不明		第 6 型式か?
67-1	65	須恵器	無高台坏	T58（南）	68 号土坑	13 層	（14.8）	（3.2）	（7.6）	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良好	外・内面：灰白 N7/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 型式
67-2	49	須恵器	高台付皿	T58（南）	68 号土坑	13 層	（16.1）	3.2	（11.6）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：青灰 5B5/1 ～赤灰 5R5/	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ	内面転用硯	第 4 型式
67-3	65	土製品	甕	T58（南）	68 号土坑	13 層	（20.2）			粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外面：にぶい黄橙 10YR7/3 ～黒 5Y2/1 内面：にぶい黄橙 10YR7/3	外面：ヨコナデ、ハケ目 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ		
67-4	65	壁材?		T58（南）	68 号土坑	13 層	長：6.6	幅：5.9	厚：3.1	粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	橙 5YR7/6 ～灰黄 2.5Y7/2			
67-5	49	須恵器	無高台坏	T66（北）	68 号土坑	西壁 6 層	（14.4）	2.8	（7.8）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰白 N7/ ～灰 N6/ 内面：灰白 N7/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	内面転用硯	第 6 型式
67-6	65	須恵器	無高台皿	T66（北）	68 号土坑	西壁 6 層	（13.9）	（2.0）	（7.4）	密（0.5mm 以下の砂粒を微量に含む）	良	外面：灰白 2.5Y7/1 内面：黄灰 2.5Y6/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	内面転用硯	
67-7	65	須恵器	高台付坏	T66（北）	68 号土坑	西壁 6 層			（9.0）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰白 5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
68-1	65	土師器	無高台坏か皿	T67（北）	95 号溝				6.6	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外面:にぶい橙 7.5YR7/4 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、ナデ 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
68-2	65	須恵器	高台付坏	T67（北）	95 号溝					密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：灰白 5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
74-1	49	土師器	無高台坏	T66（東）	84 号溝		（13.2）	（4.6）	（6.8）	粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外・内面：橙 5YR ～浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 7 型式
74-2	65	須恵器	無高台坏	T66（東）	84 号溝				（7.0）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：灰白 5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
74-3	65	土師器	無高台皿	T66（東）	84 号溝		（10.7）	（2.4）	（4.8）	粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：橙 5YR6/6 ～にぶい橙 7.5YR7/4	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
75-1	66	須恵器	無高台坏	T66（東）	88 号溝				（8.6）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	内面転用硯	
75-2	66	須恵器	無高台皿か坏	T66（東）	88 号溝				（7.0）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外面：灰 5Y6/1 内面：灰白 2.5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	法量（）内復元値 口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	備考	型式・時期
75-3	49	須恵器	高台付坏	T66（東）	88 号溝		13.9	6.4	7.0	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
75-4	66	須恵器	高台付坏か鉢	T66（東）	88 号溝					密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰白 N8/ 内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、カキ目？ 内面：回転ナデ		
75-5	66	須恵器	水瓶？	T66（東）	88 号溝					密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N6/	外面：回転ナデ、耳部分貼付け 内面：回転ナデ		
75-6	49	須恵器	壺	T66（東）	88 号溝				14.3	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰 N5/	外・内面：回転ナデ、ナデ		
75-7	66	土師器	無高台坏	T66（東）	88 号溝		（12.4）	3.7	（7.2）	粗（3mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：橙 5YR7/6	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
75-8	50	土師器	高坏	T66（東）	88 号溝				（9.8）	粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面：浅黄橙 7.5YR8/4 内面：浅黄橙 10YR8/4	外面：ヘラミガキ？ 内面：ヘラケズリ？		
75-9	50	須恵器	高坏	T66（東）	88 号溝					密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外面：灰黄 2.5Y7/2 内面：灰白 5Y7/1	外面：回転ナデ、脚部に線状の透かし 内面：回転ナデ		
75-10	66	土師器	甕	T66（東）	88 号溝		（15.8）			粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外面：にぶい黄褐 10YR5/3 ～黒 10YR2/1 内面：橙 7.5YR7/6 ～褐灰 10YR4/1	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ		
75-11	49	土製品	土製支脚	T66（東）	88 号溝					粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	浅黄橙 10YR8/3 ～橙 2.5YR7/6	ナデ、ハケ目		
75-12	66	土師器	甑	T66（東）	88 号溝					粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	浅黄橙 10YR8/3	ナデ		
77-1	66	緑釉陶器	皿	T66（東）	89 号溝					緻密	良好	外・内面：オリーブ灰 10Y5/2 ～緑（釉）	外・内面：回転ナデ、施釉	硬質	
77-2	66	灰釉陶器	壺？	T66（東）	89 号溝					緻密	良	外面：灰オリーブ 7.5Y5/2 内面：灰白 2.5Y8/1	外・内面：施釉		
77-3	66	灰釉陶器	壺？	T66（東）	89 号溝					緻密	良好	外面：オリーブ灰 10Y5/2 内面：灰白 N8/	外・内面：施釉		
77-4	66	須恵器	無高台坏	T66（東）	89 号溝				6.1	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：灰白 5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 ～ 7 型式
77-5	66	須恵器	無高台坏	T66（東）	89 号溝				（6.4）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	不良	外・内面：灰白 2.5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 ～ 7 型式
77-6	50	須恵器	高台付坏	T66（東）	89 号溝				（8.2）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：黄灰 2.5Y6/1	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 型式
77-7	66	須恵器	高台付坏	T66（東）	89 号溝				（11.7）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：灰 N6/ 内面：灰白 2.5Y7/1	外面：回転ナデ、回転糸切り、削り出し高台？ 内面：回転ナデ		第 5 型式か？
77-8	66	土師器	無高台坏	T66（東）	89 号溝		（11.6）	（3.8）	（7.4）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：橙 7.5YR7/6	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
77-9	66	土師器	無高台坏	T66（東）	89 号溝		（11.0）	（3.9）	（6.3）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：橙 5YR7/6	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 か 7 型式
77-10	50	土師器	無高台皿	T66（東）	89 号溝		（13.8）	2.9	7.0	やや粗（3mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：橙 5YR7/6	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 6 か第 7 型式
77-11	50	土師器	高台付坏	T66（東）	89 号溝				7.4	やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：にぶい橙 7.5YR7/4	外面：回転ナデ、回転糸切り後ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 型式
77-12	50	土師器	高台付坏	T66（東）	89 号溝				9.2	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：橙 5YR6/6	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 ～ 7 型式
77-13	66	土師器	高台付坏	T66（東）	89 号溝				（9.4）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：にぶい橙 7.5YR7/4 ～橙 2.5YR7/6	外・内面：回転ナデ		第 6 ～ 7 型式
77-14	50	土師器	足高高台付坏	T66（東）	89 号溝				（10.4）	粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/4	外面：回転ナデ、回転糸切り、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 6 ～ 7 型式
77-15	66	土師器	柱状高台付皿？	T66（東）	89 号溝					密（2mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：浅黄橙 7.5YR8/6 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：指頭圧痕 内面：ナデ		第 9 か 10 型式
77-16	50	土師器	柱状高台付皿	T66（東）	89 号溝				4.3	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良	灰黄褐 10YR6/2	ナデ		第 9 型式
77-17	66	製塩土器	製塩土器	T66（東）	89 号溝					粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：橙 5YR6/6	外・内面：ナデ		
77-18	67	土師器	甑	T66（東）	89 号溝					粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ		
77-19	67	土師器	甕	T66（東）	89 号溝		（26.0）			粗（4mm 以下の砂粒を含む）	良好	外面：にぶい褐 7.5YR6/3 内面：浅黄橙 7.5YR8/4	外面：ヨコナデ 内面：ヘラケズリ		
77-20	67	土師器	甕	T66（東）	89 号溝		（24.2）			粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良好	外面：橙 5YR6/6 ～灰白 10YR8/2 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：ヨコナデ、ハケ目 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ		
77-21	67	土製品	移動式竈	T66（東）	89 号溝					粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外面：浅黄橙 10YR8/3 内面：浅黄橙 10YR8/3 ～にぶい黄褐 10YR5/3	外面：ハケ目 内面：ヘラケズリ		
77-22	67	黒色土器	高台付坏	T66（東）	89 号溝				（8.4）	粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外面：浅黄橙 10YR8/4 ～黒褐 2.5Y3/1 内面：黒褐 2.5Y3/1	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ、ヘラミガキ		
78-1	67	土師器	無高台坏	T57	15 号井戸	上層	（12.0）	（2.8）	（5.9）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
78-2	67	土師器	無高台皿	T57	15 号井戸	上層	（11.4）	（2.7）	（6.0）	粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：にぶい橙 7.5YR7/4	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
78-3	67	土師器	無高台坏	T57	15 号井戸	上層	（12.8）	（2.9）	（6.8）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰黄 2.5Y7/2 ～褐灰 10YR5/1	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
78-4	67	土師器	無高台坏	T57	15 号井戸	上層			（7.2）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：にぶい黄橙 10YR7/2	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 8 型式
78-5	50	土師器	高台付皿	T57	15 号井戸	上層	11.0	2.8	6.5	やや粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	良	外・内面：橙 5YR7/6	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 8 型式
78-6	67	土師器	高台付坏か皿	T57	15 号井戸	上層			（6.2）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外面：浅黄橙 10YR8/3 内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 7 ～ 8 型式
78-7	50	土師器	足高高台付坏	T57	15 号井戸	上層				粗（2mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外面：橙 5YR7/6 内面：橙 2.5YR6/6	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 8 型式
78-8	50	土師器	無高台皿	T57	15 号井戸	下層	10.1	2.7	5.1	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 8 ～ 10 型式
78-9	67	土師器	無高台坏	T57	15 号井戸	下層	（12.0）	（3.0）	（6.2）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：浅黄橙 10YR8/3	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		
78-10	50	土師器	高台付皿	T57	15 号井戸	下層	（11.2）	（3.1）	（6.4）	密（0.5mm 以下の砂粒を少量含む）	良好	外・内面：灰黄 2.5Y7/2	外面：回転ナデ、貼付け高台 内面：回転ナデ		第 8 型式
79-1	67	土師器	無高台皿	T66（北）	16 号井戸				（4.8）	密（1mm 以下の砂粒を少量含む）	良	外・内面：橙 7.5YR7/6	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ		第 7 ～ 9 型式
79-2	67	土師器	高台付坏？	T66（北）	16 号井戸					粗（1mm 以下の砂粒を多量に含む）	不良	外・内面：浅黄橙 10YR8/4	外・内面：回転ナデ		第 6 ～ 8 型式

第 20 表　出雲国府跡出土石製品観察表

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	色調	備考	型式・時期
9-11	52	石製品	砥石か	T56		19 層	（9.4）	（6.1）	1.6	149.3	頁岩?	にぶい黄色 2.5Y6/3		
11-3	53	石製品	平玉か碁石	T57		① 8 層	2.0 × 2.3		0.8	4.6	碧玉	緑灰 7.5GY5/1		
11-4	53	石製品	平玉か碁石	T57		① 8 層	2.3 × 2.3		0.6	3.7	頁岩	黒 N2/		
11-5	53	石製品	石帯 未成品	T57		① 8 層	4.0 × 3.7		0.7	15.1	凝灰質結岩	浅黄 2.5Y7/3		
11-20	35	石製品	紡錘車	T57		① 11 層	上面径：（2.4）	下面径：（4.8）	2.4	29.9	緑色凝灰岩	灰白 5GY8/1	ミガキ 孔径：8mm	
11-29	53	石製品	石帯 未成品	T57		排土	8.0	4.8	1.4	67.2	頁岩?	明オリーブ灰 2.5GY7/1		
26-7	55	石製品	紡錘車	T67（中央）		5 層	上面径：（2.6）	下面径：（4.8）	2.2	30.4	滑石	灰白 N7/	ミガキ 孔径：7mm	
53-24	59	石製品	鉈尾	T58（南）	80 号溝	26 層	5.3	4.4	0.7	22.4	翡翠か?	灰白 2.5GY8/1 ～オリーブ灰 5GY6/1		
63-58	65	石製品	鉈尾か?	T58（北）		黒色土層	4.3 × 3.1		0.8	10.6	滑石	灰白 N8/1 ～灰 N6/		
63-59	65	石製品	平玉?	T58（北）		黒色土層	1.8 × 1.5		0.7	2.8	碧玉	暗青灰 5BG4/1		
61-21	61	石製品	平玉?	T58（北）	1 号池状施設	9 層	2.2	1.6	0.7	3.7	碧玉	緑灰 5G6/1		
61-22	41	石製品	錘か?	T58（北）	1 号池状施設	9 層	高：3.1	3.2	3.0	34.8	流紋岩	灰白 5Y8/1		

第 21 表　出雲国府跡出土金属器類観察表

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	胎土	焼成	色調	備考
9-13	51	金属製品	棒状鉄製品	T56		19 層	11.9		0.8	33.5				
9-14	51	金属製品	板状鉄製品	T56		19 層	6.3	5.5	1.0	24.1				
9-15	51		羽口	T56		19 層				78.5	粗（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	不良	黒 7.5Y2/1 ～浅黄橙 7.5YR8/3	
9-16	51		羽口	T56		19 層	外径：（7.4）	内径：（2.0）		86.9	粗（1 ～ 3mm の砂粒多量に含む）	不良	灰 N6/ ～浅黄橙 10YR8/3	
9-17	51		坩堝?	T56		19 層	最大径：10.4	器高：4.2		150.2			外面：灰白 5Y8/1 ～赤褐 10R4/4 内面：黒 5Y2/1	外面：ヨコナデ? ナデ?指頭圧痕 内面：不明
9-18	51	鉄滓	椀形 鍛冶滓	T56		19 層	10.0	9.0	4.0	194.2				
9-19	51	鉄滓	椀形 鍛冶滓	T56		19 層	6.7	9.0	5.0	195				
9-20	51	鉄滓	椀形 鍛冶滓	T56		19 層	6.6	8.9	3.0	120.8				
9-21	51	鉄滓	椀形 鍛冶滓	T56		19 層	5.4	7.4	2.0	75.5				
11-12	52	鉄滓	鉄滓	T57		北壁 10 層	3.1 × 3.9		1.8	20.5				
16-3	54	金属製品	耳環	T61			直径： 1.9 × 2.3		0.4	3.4				鉄芯
26-8	55	鉄滓	碗形滓	T67 （中央）		南区北壁 5 層 （第 1 基盤層）	12.6	12.1	6.4	866.1				
26-12	55	鉄滓	碗形滓	T67 （中央）		南区北壁 29 層 （第 2 基盤層）	5.8	5.3	3.7	151.1				
26-13	55	鉄滓	碗形滓	T67 （中央）		南区北壁 29 層 （第 2 基盤層）	11.6	9.2	4.2	408.2				
51-6	57	鉄滓		T56	79 号溝		8.1	6.7	2.2	139.1				
51-7	57		羽口	T56	79 号溝			内径：（2.0）		51.5	粗（2 ～ 3mm の砂粒多量に含む）	不良	褐灰 10YR4/1 ～橙 7.5YR7/6	
53-10	58		羽口	T58（南）	80 号溝	22 層	外径：（8.2）	内径：（3.0）		112	粗（1 ～ 6mm の砂粒多量に含む）	不良	黒 2.5Y2/1 ～橙 7.5YR6/6	
53-11	58	鉄滓	椀形 鍛冶滓	T58（南）	80 号溝	22 層	8.3	10.0	4.1	233.6				
53- 22	58	鉄滓	椀形 鍛冶滓	T58（南）	80 号溝	26 層	3.2	4.7	1.9	23.7				
66-5	65		羽口	T66（北）	67 号土坑					144.0	粗（1 ～ 3mm の砂粒多量に含む）	不良	灰白 2.5Y8/2 ～橙 5YR7/6	

第 22 表　出雲国府跡出土瓦観察表

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	備考
96-1	68	瓦	軒丸瓦	T66 東		耕作土				密（1 ～ 2mm の砂粒少量含む）	不良	橙 2.5YR6/8 ～淡橙 5YR8/4	瓦当面：素弁＋のぞき花弁、外区内縁に珠文、外縁に面違い鋸歯文、丸瓦部凸面に刻み	南新造院Ⅰ類
96-2	68	瓦	軒丸瓦	T62		砂礫層上面				密（0.5mm の砂粒多量に含む）	不良	灰 N4/ ～灰白 2.5Y8/1		国分寺 2 型式
96-3	68	瓦	軒丸瓦	T66 北	68 号土坑					1 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	瓦当面：灰白 2.5Y8/2 ～にぶい黄橙 10YR7/4 瓦当裏面：浅黄橙 10YR8/3		国分寺 2or3 型式
96-4	68	瓦	軒丸瓦	T58 南		礫層				粗（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	不良	灰白 N7/ ～浅黄橙 10YR8/3		国分寺 2or3 型式
96-5	68	瓦	軒丸瓦	T58 北	1 号池状施設	9 層				密（1mm の砂粒少量含む）	良好	にぶい橙 7.5YR7/4 ～灰黄褐 10YR6/2		国分寺 3 型式
96-6	68	瓦	軒丸瓦	T57		耕作土				粗（1 ～ 3mm の砂粒多量に含む）	不良	灰 N5/		国分寺 2or3 型式
96-7	68	瓦	軒丸瓦	T58 南		礫層				密（1 ～ 2mm の砂粒少量含む）	不良	浅黄橙 10YR8/3		国分寺 3 型式
96-8	68	瓦	軒丸瓦	T58 北		礫層				密（1mm の砂粒少量含む）	不良	黄灰 2.5Y5/1 ～浅黄橙 7.5YR8/4		国分寺 3 型式
96-9	68	瓦	軒丸瓦	T58 北	1 号池状施設	9 層				密（1mm の砂粒少量含む）	不良	灰白 5Y7/1		国分寺 3 型式
96-10	68	瓦	軒丸瓦	T58 北	1 号池状施設	9 層				やや粗（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	不良	浅黄橙 10YR8/3		国分寺 3 型式
96-11	68	瓦	軒丸瓦	T58 北		礫層				粗（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	不良	にぶい黄橙 10YR7/3		国分寺 3 型式
96-12	68	瓦	軒丸瓦	T58 北	1 号池状施設	10 層				密（1mm の砂粒少量含む）	不良	浅黄橙 10YR8/3		国分寺 3 型式
96-13	68	瓦	軒丸瓦	T58 北	1 号池状施設	9 層				粗（1mm の砂粒多量に含む）	不良	浅黄橙 10YR8/3		国分寺 3 型式
96-14	68	瓦	軒丸瓦	T58 北		礫層				粗（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	不良	灰 5Y6/1		国分寺 3 型式
96-15	68	瓦	軒丸瓦	T66 東						1 ～ 3mm の砂粒多量に含む	不良	浅黄橙 10YR8/4		国分寺 3 型式 表面風化著しい
96-16	68	瓦	軒丸瓦	T66 北		西壁セクション 12 層				粗（1 ～ 3mm の砂粒多量に含む）	不良	浅黄橙 10YR8/3		国分寺 3 型式
96-17	68	瓦	軒丸瓦	T66 北		西壁セクション 12 層				2mm 位の砂粒少量含む	良好	瓦当面：灰白 10YR8/1 ～灰 5Y5/1 瓦当裏面：灰白 10YR8/2		国分寺 3 型式
96-18	68	瓦	軒丸瓦	T66 北	27 号建物 P5					1 ～ 2mm の砂粒多量に含む	不良	浅黄橙 10YR8/3 ～橙 2.5YR7/6		国分寺 3 型式 表面風化著しい
96-19	68	瓦	軒丸瓦	T66 北						1mm 以下の砂粒を含む	良好	瓦当面：浅黄橙 7.5YR8/3		国分寺 3 型式
96-20	68	瓦	軒丸瓦	T67 北	95 号溝					1 ～ 3mm の砂粒を含む	良好	瓦当面：灰白 5YR7/1 瓦当裏面：浅黄橙 10YR8/3		国分寺 3 型式
96-21	68	瓦	軒丸瓦	T67 北	95 号溝					0.5 ～ 3mm の砂粒を含む	不良	瓦当面：黄灰 2.5Y5/1 瓦当裏面：黄灰 2.5Y6/1		国分寺 3 型式 表面やや風化
96-22	68	瓦	軒丸瓦	T66 西		昭和埋戻土				1 ～ 2mm の砂粒を含む	不良	瓦当面：淡黄 2.5Y8/3 瓦当裏面：黄灰 2.5Y6/1		国分寺 3 型式 表面風化著しい
96-23	68	瓦	軒丸瓦	T58 南	80 号溝	19 層				密（0.5 ～ 1mm の砂粒少量含む）	やや不良	灰 N4/		国分寺 3 型式
96-24	68	瓦	軒丸瓦	T66 北	68 号土坑					密（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	不良	灰白 2.5Y8/2 ～灰 5Y6/1		国分寺 3 型式
96-25	68	瓦	軒丸瓦	T66 北	68 号土坑					粗（1mm の砂粒多量に含む）	不良	灰 N4/		国分寺 3 型式
97-1	69	瓦	軒丸瓦	T66 北		西壁セクション 6 層				1 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	瓦当面：灰 N4/ 瓦当裏面：灰 5Y6/1		丸瓦部
97-2	69	瓦	軒丸瓦	T58 南						1 ～ 4mm の砂粒を含む	良好	瓦当面：浅黄橙 10YR8/3 瓦当裏面：灰白 10YR8/2		丸瓦部
97-3	69	瓦	軒丸瓦	T66 東		耕作土				1 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	瓦当面：橙 5YR7/6 ～にぶい橙 10YR7/3 ～ 10YR7/4 瓦当裏面：橙 5YR7/6 ～浅黄橙 10YR8/4 ～灰白 10YR7/1		丸瓦部
97-4	69	瓦	軒丸瓦	T66 北		礫層				0.5 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	瓦当面：浅黄橙 10YR8/3 瓦当裏面：浅黄橙 7.5YR8/4		丸瓦部
97-5	69	瓦	軒丸瓦	T66 北		西壁セクション 12 層				1 ～ 4mm の砂粒を含む	良好	灰白 10YR8/2		丸瓦部
97-6	69	瓦	軒丸瓦	T66 北		礫層				0.5 ～ 3mm の砂粒を含む	良好	瓦当裏面：浅黄橙 10YR8/3 ～ 7.5YR8/4 ～灰白 10YR7/1 ～褐灰 10YR6/1		丸瓦部
97-7	69	瓦	軒丸瓦	T68		西壁セクション 13 層				0.5 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	灰白 10YR8/2 ～黄灰 2.5Y4/1		丸瓦部
97-8	69	瓦	軒丸瓦	T66 北	68 号土坑					1 ～ 4mm の砂粒を含む	不良	灰 7.5Y5/1		丸瓦部
97-9	69	瓦	軒丸瓦	T66 北	67 号土坑					2 ～ 5mm の砂粒多量に含む	良好	瓦当面：橙 7.5YR7/6 ～褐灰 10YR6/1 ～浅黄橙 10YR8/3 瓦当裏面：灰黄 2.5Y7/2 ～灰 5Y5/1		丸瓦部
97-10	69	瓦	軒丸瓦	T58 北	1 号池状施設	10 層				0.5 ～ 2mm の砂粒を含む	不良	瓦当裏面：灰白 2.5Y8/2		表面風化著しい
97-11	69	瓦	軒丸瓦	T58 北	1 号池状施設	9 層				1mm 以下の砂粒少量含む	良好	瓦当面：灰白 2.5Y8/1 瓦当裏面：灰白 2.5Y7/1		
97-12	69	瓦	軒丸瓦	T58 北		礫層				3 ～ 6mm の砂粒、0.5 ～ 1mm の砂粒多量に含む	良好	瓦当面：浅黄橙 7.5YR8/3		
97-13	69	瓦	軒丸瓦	T66 東						1 ～ 3mm の砂粒を含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4		
97-14	69	瓦	軒丸瓦	T66 北		礫層				0.5 ～ 1mm の砂粒を含む	良好	灰白 10YR8/2 ～灰白 2.5Y7/1		
97-15	69	瓦	軒丸瓦	T66 北		礫層				1 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	浅黄橙 10YR8/3		
97-16	69	瓦	軒丸瓦	T66 北		礫層				1mm 位の砂粒多量に含む	良好	瓦当面：橙 5YR7/6 瓦当裏面：にぶい黄橙 10YR7/4		
97-17	69	瓦	軒丸瓦	T66 北		礫層				1mm 位の砂粒を含む	良好	瓦当面：浅黄橙 7.5YR8/4		
97-18	69	瓦	軒丸瓦	T66 北	68 号土坑					0.5 ～ 1mm の砂粒を含む	不良	瓦当裏面：浅黄橙 10YR8/3 瓦当面：にぶい黄橙 10YR7/4		
98-1	70	瓦	平瓦	T56		9 層				1 ～ 3mm の砂粒を含む	良好	凹面：灰 5Y6/1 凸面：黄灰 2.5Y6/1	凹面：布目圧痕、側縁ケズリ 凸面：縄タタキ 1	
98-2	70	瓦	平瓦	T68	1 号池状施設	西壁セクション 13 層				1 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	灰白 N8/	凹面：布目圧痕 凸面：縄タタキ 1	
98-3	70	瓦	平瓦	T56						1 ～ 3mm の砂粒を含む	良好	灰白 10YR8/2	凹面：布目圧痕、側縁ケズリ 凸面：格子タタキ	
98-4	70	瓦	平瓦	T58 南		礫層				1mm 位の砂粒を含む	不良	凸面：灰 5Y5/1	凸面：格子タタキ 22	焼成時の歪み
98-5	70	瓦	平瓦	T58 南	68 号土坑	13 層				1 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	凹面：灰白 10YR8/2 凸面：浅黄橙 7.5YR8/4 ～灰白 5Y7/1	凹面：布目圧痕、側縁端縁ケズリ 凸面：格子タタキ 2	
98-6	70	瓦	平瓦	T58 北	1 号池状施設	10 層				1 ～ 5mm の砂粒を含む	不良	浅黄橙 10YR8/3 ～ 8/4	凹面：布目圧痕、側縁端縁ケズリ 凸面：格子タタキ 23	
99-1	71	瓦	平瓦	T66 東		第 1 基盤層				最大 13mm の礫を含む	不良	灰白 5Y7/1	凹面：布目圧痕、側縁ナデ、側縁ケズリ 凸面：格子タタキ 2	
99-2	71	瓦	平瓦	T66 東		第 1 基盤層				3 ～ 7mm の砂礫含む	良好	凹面：灰白 10YR8/2 ～浅黄橙 10YR8/3 凸面：灰白 10YR8/2	凹面：布目圧痕、側縁ケズリ 凸面：格子タタキ 22	
99-3	71	瓦	平瓦	T66 東		第 1 基盤層				1 ～ 7mm の砂粒多量に含む	不良	凹面：灰 5Y5/1 ～にぶい橙 5YR7/4 凸面：灰 5Y5/1	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ 2	表面風化著しい
99-4	71	瓦	平瓦	T66 東		第 1 遺構面				密（1 ～ 2mm の砂粒少量含む）	不良	灰白 2.5Y8/1	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ 1	

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	備考
99-5	71	瓦	平瓦	T66 東		第 1 基盤層				1 ～ 3mm の砂粒を含む	良好	灰白 2.5Y8/2	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ 23	
99-6	71	瓦	平瓦	T67 北						粗（1 ～ 3mm の砂粒多量に含む）	不良	黒 N2/	凹面：布目圧痕、側縁ケズリ 凸面：格子タタキ	
100-1	72	瓦	平瓦	T67 北	95 号溝					1 ～ 4mm の砂粒を含む	不良	灰白 5Y8/1	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ 2	表面風化著しい
100-2	72	瓦	平瓦	T68		西壁セクション 13 層				1 ～ 2mm の砂粒を少量含む	良好	灰白 N8/	凹面：布目圧痕、側縁ケズリ 凸面：格子タタキ 1	
100-3	72	瓦	平瓦	T67 中央		耕作土		27.4		5mm の砂粒を含む	良好	灰白 2.5Y8/1	凹面：布目圧痕、側縁端縁ケズリ 凸面：格子タタキ 1、ヘラケズリ	
100-4	73	瓦	平瓦	T66 北	68 号土坑					2 ～ 5mm の砂粒を含む	良好	凹面：灰白 10YR8/2 凸面：灰白 10YR8/1	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ	
100-5	73	瓦	平瓦	T58 南	80 号溝	20 層				2 ～ 3mm の砂粒を含む	良好	凹面：灰白 10YR8/2 凸面：浅黄橙 10YR8/3	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ 23	
100-6	73	瓦	平瓦	T66 北	68 号土坑					20mm の砂礫含む	良好	凹面：橙 2.5YR6/6 凸面：灰白 5Y7/1	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ 3	
100-7	73	瓦	平瓦	T66 北	68 号土坑					2 ～ 4mm の砂粒多量に含む	不良	凹面：淡橙 5YR8/4 ～橙 2.5YR6/6 凸面：淡橙 5YR8/4	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ	
100-8	73	瓦	平瓦	T66 北	68 号土坑					2 ～ 3mm の砂粒を含む	不良	凹面：にぶい黄橙 10YR7/4 ～灰 N5/ 凸面：浅黄橙 10YR8/3	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ 1	
101-1	74	瓦	平瓦	T66 北	67 号土坑					1 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	凹面：浅黄橙 10YR8/3 凸面：褐灰 10YR6/1 ～浅黄橙 10YR8/3	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ	
101-2	74	瓦	平瓦	T66 北	67 号土坑					1 ～ 2mm の砂粒を含む	不良	灰 N5/	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ	
101-3	74	瓦	平瓦	T66 東	89 号溝					1mm 位の砂粒を含む	不良	凹面：淡黄 2.5Y8/3 ～灰 5Y5/ 凸面：灰白 2.5Y8/2	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ 2	
101-4	74	瓦	平瓦	T66 東	89 号溝					2 ～ 5mm の砂粒多量に含む	不良	凹面：灰白 2.5Y8/1 凸面：灰白 2.5Y8/2	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ 23	
101-5	74	瓦	平瓦	T66 東	88 号溝					1 ～ 4mm の砂粒を含む	不良	凹面：黄灰 2.5Y6/1 凸面：灰白 5Y7/1	凹面：布目圧痕、端縁ケズリ 凸面：格子タタキ 2	表面風化目立つ
101-6	74	瓦	平瓦	T66 東	88 号溝					粗（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	不良	浅黄橙 10YR8/3	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ	
101-7	74	瓦	平瓦	T66 東	88 号溝					1 ～ 3mm の砂粒を含む	良好	凹面：灰白 2.5Y7/1 凸面：黄灰 2.5Y6/1	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ	
101-8	74	瓦	平瓦	T66 東	84 号溝					1mm の砂粒多量に含む	不良	灰 N5/	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ	
101-9	74	瓦	平瓦	T66 東		耕作土				1mm の砂粒多量に含む	不良	浅黄橙 10YR8/4	凹面：布目圧痕 凸面：平行タタキ	
101-10	75	瓦	平瓦	T66 北	68 号土坑					3 ～ 6mm の砂粒を含む	良好	凹面：浅黄橙 10YR8/4 凸面：灰白 2.5Y8/2	凹面：布目圧痕、端縁側縁ケズリ 凸面：平行タタキ	
102-1	75	瓦	平瓦	T66 東		耕作土				1 ～ 2mm の砂粒を含む	不良	凹面：黄灰 2.5Y6/1 凸面：灰白 2.5Y8/2	凹面：布目圧痕	
102-2	75	瓦	平瓦	T66 北						粗（1 ～ 2mm の砂粒少量含む）	不良	淡黄 2.5Y8/3	凹面：布目圧痕	
102-3	75	瓦	平瓦	T66 北	67 号土坑					1mm 位の砂粒多量に含む	良好	灰白 N7/	凹面：布目圧痕、端縁ケズリ	
102-4	75	瓦	平瓦	T66 北	67 号土坑					1 ～ 4mm の砂粒を含む	良好	凹面：灰白 10YR8/2 凸面：灰白 10YR8/2 ～にぶい黄橙 10YR7/2	凹面：布目圧痕、端縁ケズリ	
102-5	75	瓦	平瓦	T66 北	67 号土坑					3 ～ 4mm の砂粒多量に含む	不良	灰白 10YR8/2	凹面：布目圧痕、端縁ケズリ	
102-6	75	瓦	平瓦	T66 北	67 号土坑					最大 4mm の砂粒を含む	良好	灰白 2.5Y8/2	凹面：布目圧痕	
102-7	75	瓦	平瓦	T66 東	89 号溝					1mm 位の砂粒多量に含む	不良	黄灰 2.5Y5/1		表面の風化著しい
102-8	75	瓦	平瓦	T66 東	88 号溝					粗（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	良好	灰白 2.5Y7/1 ～黄灰 2.5Y6/1	凹面：布目圧痕、端縁側縁ケズリ	
103-1	76	瓦	丸瓦	T58 北	82 号溝					密（1mm の砂粒を少量含む）	良好	灰白 N7/ ～黄灰 2.5Y4/1	凹面：布目圧痕	須恵質 有段式丸瓦 A
103-2	76	瓦	丸瓦	T68		西壁セクション 5 層				1mm の砂粒を少量含む	良好	灰 N4/4	凹面：布目圧痕 凸面：ケズリ後ナデ	有段式丸瓦 A
103-3	76	瓦	丸瓦	T66 東	88 号溝					1 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	凹面：灰褐 5YR5/2 ～にぶい赤褐 5YR5/3 凸面：にぶい赤褐 2.5YR5/4	凹面：布目圧痕 凸面：筒部玉縁部とも側縁ケズリ	須恵質 有段式丸瓦 A
103-4	76	瓦	丸瓦	T66 北	68 号土坑					1 ～ 6mm の砂粒を含む	良好	凹面：橙 5YR7/6 ～灰白 10YR8/2 凸面：橙 5YR7/6	凹面：布目圧痕 凸面：ナデ	無段式丸瓦
103-5	76	瓦	丸瓦	T66 東	84 号溝					粗（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	不良	浅黄橙 7.5YR8/4	凹面：布目圧痕	無段式丸瓦
103-6	76	瓦	丸瓦	T66 北	67 号土坑			14.7		1 ～ 4mm の砂粒を含む	良好	灰白 2.5Y8/2 ～浅黄橙 7.5YR8/4	凹面：布目圧痕 凸面：ナデ	無段式丸瓦
103-7	76	瓦	丸瓦	T66 東	88 号溝					3mm 位の砂粒を含む	不良	凹面：灰白 10YR8/2 ～にぶい橙 5YR7/3 凸面：灰白 10YR8/2	凹面：布目圧痕	無段式丸瓦 表面風化著しい
103-8	76	瓦	丸瓦 不明	T56		第 1 遺構面				1 ～ 6mm の砂粒多量に含む	不良	凹面：黄灰 2.5Y4/1 ～橙 5YR7/6 凸面：黄灰 2.5Y5/1 ～にぶい橙 7.5YR7/4	凹面：布目圧痕、端縁側縁ケズリ 凸面：端縁ケズリ	
103-9	76	瓦	丸瓦 不明	T56		24 層				1 ～ 2mm の砂粒多量に含む	良好	凹面：にぶい橙 7.5YR7/4 凸面：黄灰 2.5Y6/1	凹面：布目圧痕 凸面：ナデ	
103-10	76	瓦	丸瓦 不明	T58 北	1 号池状施設	9 層				1 ～ 2mm の砂粒多量に含む	不良	浅黄橙 10YR8/3 ～ 8/4	凸面：端縁ケズリ	表面風化著しい
103-11	77	瓦	丸瓦 不明	T66 東		第 1 基盤層				1 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	灰 5Y6/1	凹面：布目圧痕、側縁ケズリ 凸面：ナデ	
104-1	77	瓦	丸瓦	T66 北	27 号建物 P5					3mm 位の砂粒を含む	不良	浅黄橙 10YR8/3	凹面：布目圧痕	表面風化著しい
104-2	77	瓦	丸瓦	T66 北	27 号建物 P7					粗（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	不良	青灰 5PB5/1	凹面：布目圧痕	
104-3	77	瓦	丸瓦	T66 北	27 号建物 P7					密（1 ～ 3mm の砂粒少量含む）	不良	浅黄橙 10YR8/3	凸面：側縁ケズリ	
104-4	77	瓦	丸瓦	T66 北	27 号建物 P7					粗（1mm の砂粒多量に含む）	不良	暗青灰 5PB4/1	凹面：布目圧痕	
104-5	77	瓦	丸瓦	T67 北	8 号柵列 P3					粗（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	良好	灰 7.5Y6/1	凹面：布目圧痕、端縁側縁ケズリ 凸面：端縁ケズリ	広端部残る 有段 A か 須恵質
104-6	77	瓦	丸瓦	T67 北	8 号柵列 P3					粗（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	不良	灰 5Y5/1	凹面：布目圧痕、端縁側縁ケズリ	表面風化著しい
104-7	77	瓦	丸瓦	T67 北		西壁セクション 19 層				1 ～ 3mm の砂粒少量含む	良好	灰 N5/5	凹面：布目圧痕	
104-8	77	瓦	丸瓦	T67 北	95 号溝					1mm 位の砂粒含む	不良	凹面：灰白 5Y8/1 凸面：にぶい橙 7.5YR7/3	凹面：布目圧痕	表面風化著しい
104-9	77	瓦	丸瓦	T68						粗（1 ～ 2mm の砂粒多量に含む）	不良	灰 7.5Y4/1	凹面：布目圧痕	
104-10	77	瓦	丸瓦	T56 東						1mm 位の砂粒を含む	良好	灰白 2.5Y7/1	凹面：布目圧痕	須恵質 凸面側縁を研磨
104-11	77	瓦	丸瓦	T66 北	67 号土坑			15.3		砂粒を多量に含む	不良	暗灰 3/	凹面：布目圧痕、側縁ケズリ 凸面：ナデ	
105-1	78	瓦	丸瓦	T66 北	67 号土坑			17.4		1 ～ 2mm の砂粒を含む	不良	灰 5Y5/1	凹面：布目圧痕	表面風化著しい
105-2	78	瓦	丸瓦	T66 北	67 号土坑					1 ～ 3mm の砂粒を含む	不良	凹面：橙 2.5YR7/6 ～灰白 2.5Y8/2 凸面：灰白 2.5Y8/2	凹面：布目圧痕 凸面：ナデ	
105-3	78	瓦	丸瓦	T66 北	67 号土坑					2mm 位の砂粒を含む	不良	凹面：灰白 2.5Y8/1 凸面：灰白 2.5Y8/1 ～灰 7.5Y6/1	凹面：布目圧痕 凸面：縄タタキ	
105-4	78	瓦	丸瓦	T66 東	89 号溝					2 ～ 3mm の砂粒多量に含む	不良	凹面：黄灰 2.5Y6/1 凸面：にぶい橙 7.5YR7/4	凹面：布目圧痕	
106-1	79	瓦	熨斗瓦	T56				7.6		1 ～ 3mm の砂粒多量に含む	不良	灰 5Y5/1	凹面：布目圧痕、深さ 1.3mm の切り込み 凸面：格子タタキ	切割熨斗瓦

挿図番号	写真図版	種別	器種	区	出土遺構名	土層名	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴	備考
106-2	79	瓦	熨斗瓦	T56		9 層		13.5		0.5 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	灰白 2.5Y8/2	凹面：布目圧痕、深さ 5mm の切り込み 凸面：格子タタキ 2	切割熨斗瓦
106-3	79	瓦	熨斗瓦	T58 北	1 号池状施設	10 層				1 ～ 3mm の砂粒多量に含む	不良	凹面：灰白 10YR8/2 ～浅黄橙 7.5YR8/4 凸面：浅黄橙 10YR8/3	凹面：布目圧痕、深さ 10mm の切り込み 凸面：格子状タタキ	切割熨斗瓦
106-4	79	瓦	熨斗瓦	T66 東		第 1 基盤層				1 ～ 2mm の砂粒を含む	不良	凹面：灰白 2.5Y8/2 凸面：灰白 2.5Y8/1 ～黄灰 2.5Y5/1	凹面：布目圧痕 凸面：格子タタキ	切割熨斗瓦 表面風化著しい
106-5	79	瓦	熨斗瓦	T66 東		第 1 遺構面		14.6		粗 (1 ～ 2mm の砂粒多量に含む)	不良	灰白 5Y8/1	凹面：布目圧痕、深さ 5 ～ 7mm の切り込み 凸面：格子タタキ 2	切割熨斗瓦
106-6	79	瓦	熨斗瓦	T67 北	95 号溝			12.2		1 ～ 2mm の砂粒を含む	良好	凹面：灰白 5Y8/1 凸面：灰白 5Y8/1 ～灰 N5/1	凹面：布目圧痕、深さ 5mm の切り込み 凸面：格子タタキ	切割熨斗瓦
106-7	79	瓦	熨斗瓦	T66 北	67 号土坑					1 ～ 3mm の砂粒を含む	良好	黄灰 2.5Y6/1	凹面：布目圧痕、深さ 5mm の切り込み 凸面：格子タタキ	切割熨斗瓦
106-8	79	瓦	熨斗瓦	T66 東	89 号溝					1mm 位の砂粒多量に含む	良好	灰黄褐 10YR6/2	凹面：布目圧痕、深さ 8mm の切り込み 凸面：格子タタキ	切割熨斗瓦
106-9	80	瓦	隅切平瓦	T67 中央		耕作土				3mm 位の砂粒少量含む	良好	凹面：にぶい黄橙 10YR6/4 凸面：灰黄 2.5Y7/2	凹面：布目圧痕	隅切平瓦 表面風化著しい
106-10	80	瓦	隅切平瓦	T57		北壁セクション 18 層				1mm 位の砂粒多量に含む	良好	灰 N6/	凹面：布目圧痕、端縁ケズリ 凸面：格子タタキ	隅切平瓦
107-1	80	瓦	鬼瓦	T58 北		暗灰色粘質土				密 (1 ～ 2mm の砂粒を含む)	良好	灰 N6/		

図版

T56　段下げ状況（西から）

T56　南壁（北から）

図版 2

T57　段下げ状況（西から）

T57　東側段下げ状況（西から）

T57　中央拡張部（北から）

T57　西側拡張部（北から）

T57　北壁（南から）

図版 4

T57　東側北壁（南から）

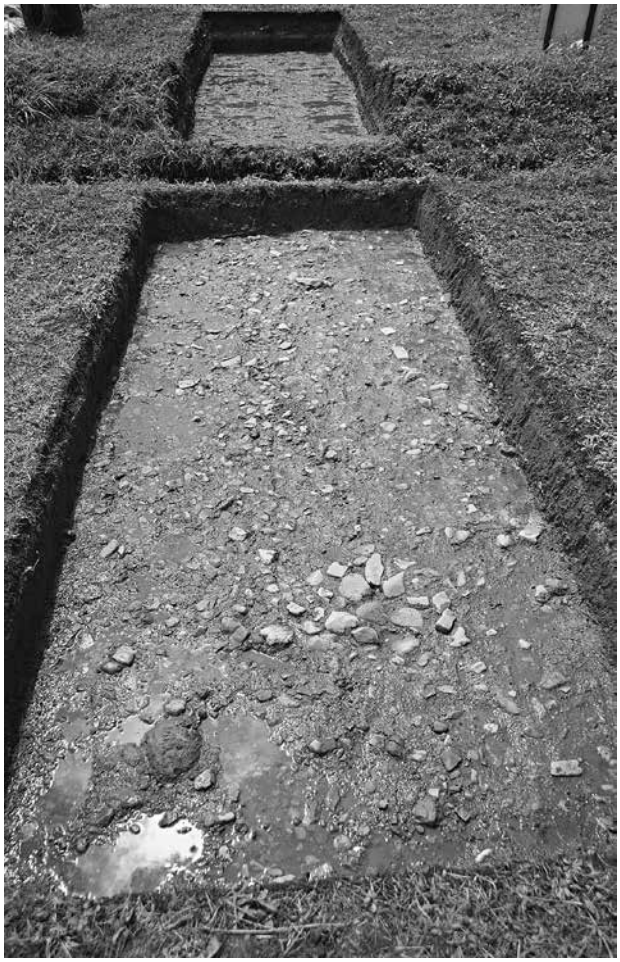
T57　東側東壁（西から）

T57　東側南壁（北から）

T58 南区　完掘状況（北東から）

T58 南区　西壁（東から）

図版 6



T58　礫層検出状況（北から）

T58 北区　黒色土検出状況（北から）

T58 北区　黒色土除去状況（北から）

T58 北区　完掘状況（北から）

T58 北区　82 号溝、83 号溝掘削状況（北東から）

T58 北区　西壁南側（東から）

図版 8

T61　2 号護岸状施設検出状況（南から）

T61　東壁（西から）

T62　完掘状況（北から）

T62　西壁（東から）

図版 10

T63　1 号石組遺構（北西から）

T63　1 号石組遺構（南西から）

T63　1 号石組遺構（南から）

T63　東壁（西から）

図版 12

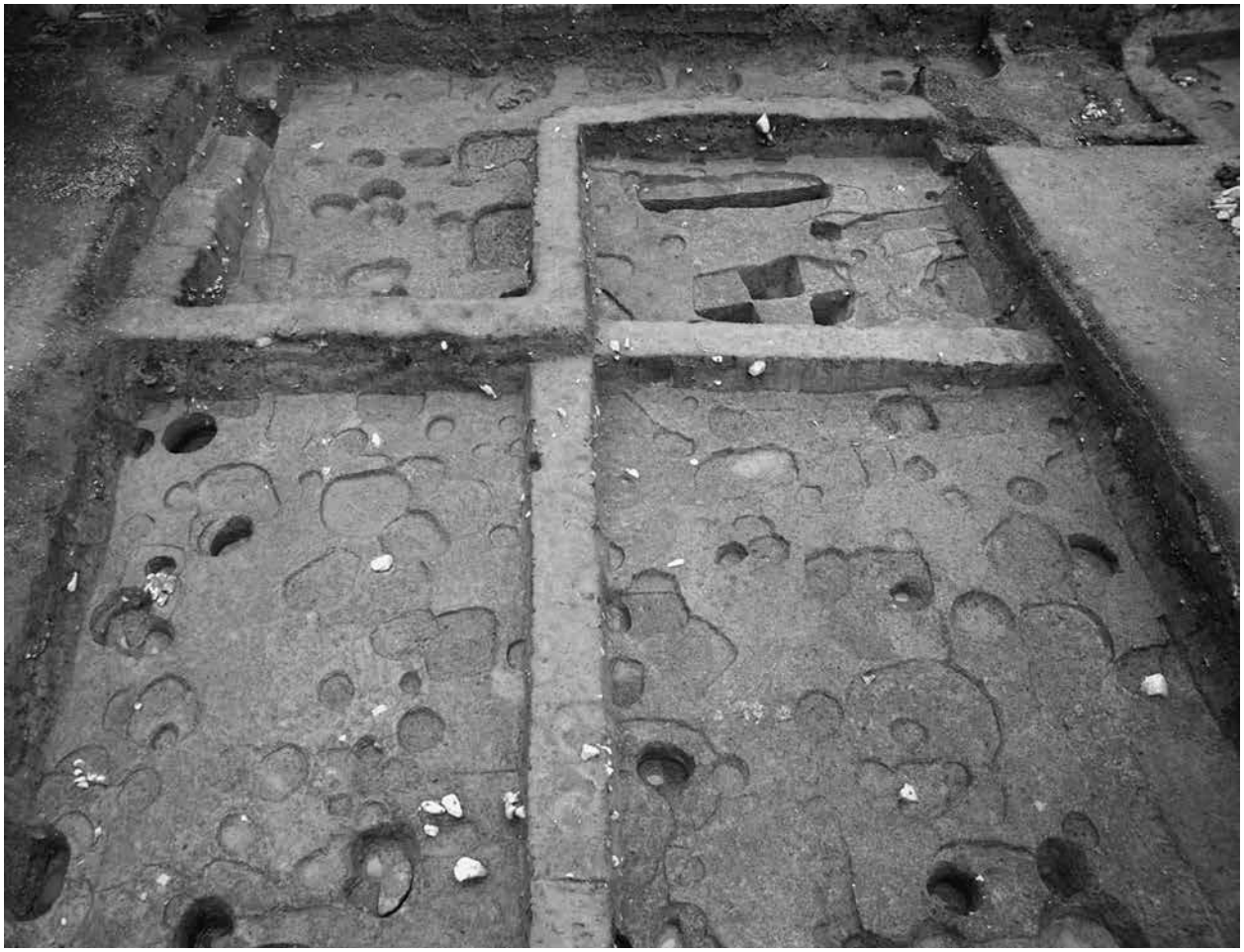
T64　調査状況（北東から）

T65　調査状況（南から）

T66 東区　第 1 遺構面　完掘状況（東から）

T66 東区　第 1 遺構面　完掘状況（北から）

図版 14



T66 東区　第 3 遺構面　遺構検出状況（東から）

T66 東区　第 3 遺構面　遺構検出状況（北から）

T66 北区　第 2 遺構面　検出状況（北から）

T66 北区　第 3 遺構面　検出状況（北から）

図版 16

T66 東区　北壁（南から）

T66 東区　東壁（西から）

T66 東区　南壁（北から）

T66 西区　東壁北側（西から）

T66 西区　北壁（北から）

T66 西区　東壁南側（西から）

T66 西区　南壁（北から）

T66 北区　西壁（東から）

図版 18

T66 北区　北壁（南から）

T66 北区　東壁（西から）

SB019・26 号建物跡 P7・P8（南から）

SB019・26 号建物跡　P8（東から）

SB019・26 号建物跡　P8　A 面（東から）

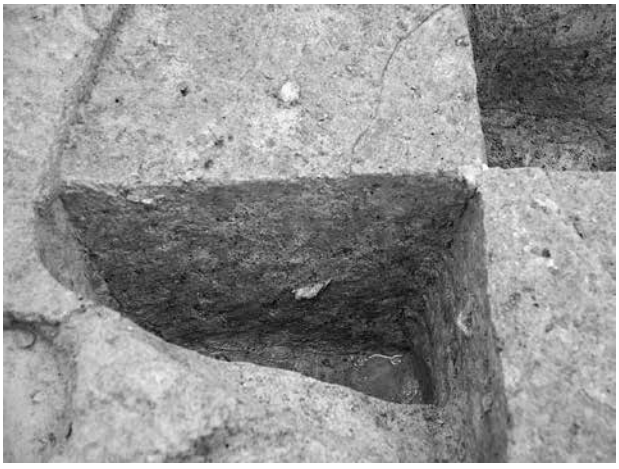
SB019・26 号建物跡　P8　B 面（北から）

SB019・26 号建物跡　P8　C 面（南から）

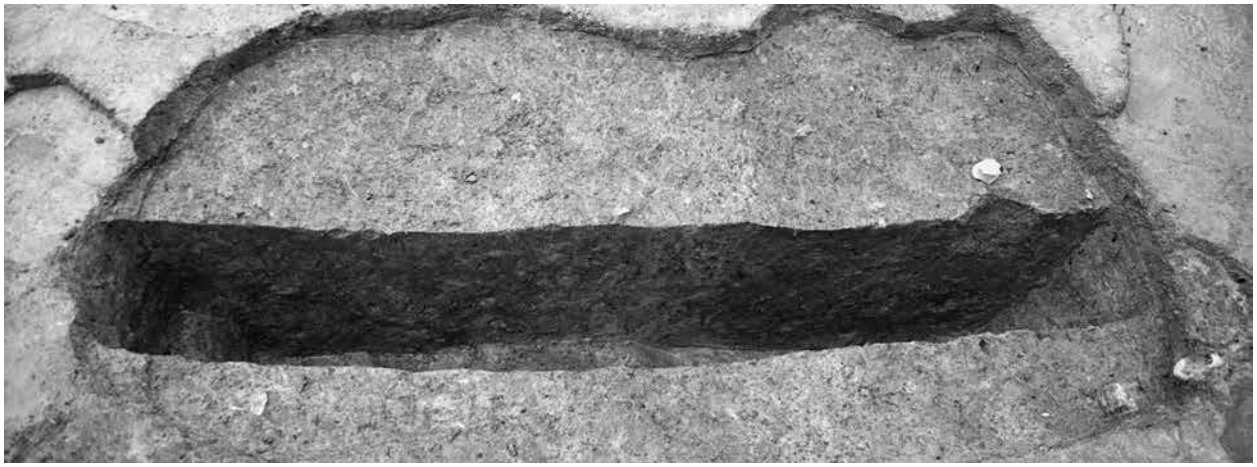
SB019・26 号建物跡　P8　D面（西から）

SB019・26 号建物跡　P8　E 面（北から）

SB019・26 号建物跡　P8　F 面（南から）


SB019・26 号建物跡　P8　G面（東から）

図版 20



SB019・26 号建物跡　P7 東壁（西から）

SB019　P12 北壁（南から）

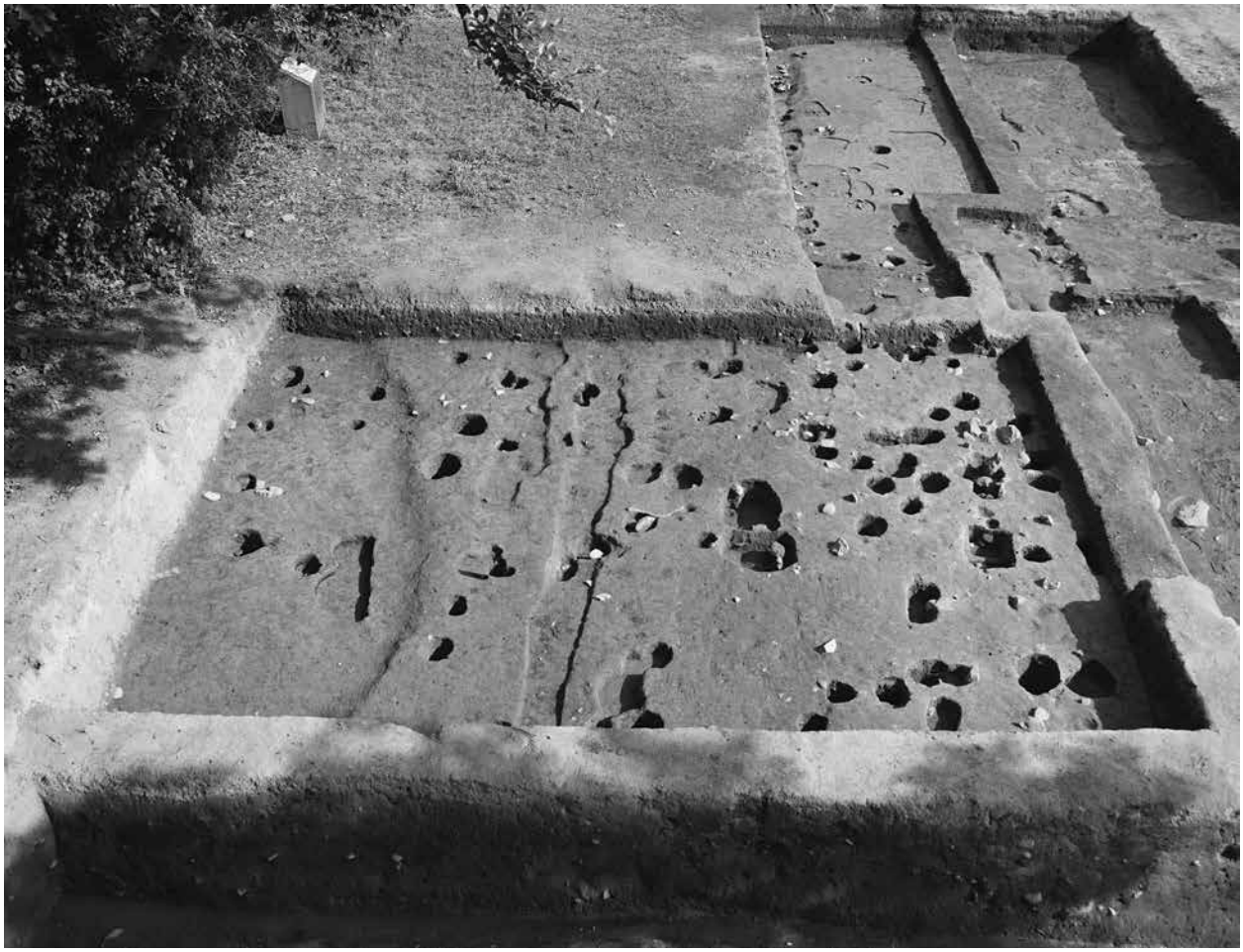
26 号建物跡　P1 北壁（南から）

27 号建物跡　P7（東から）

27 号建物跡　P7　1/4（南から）

67 号土坑　セクションベルト西壁（西から）

68 号土坑　セクションベルト北壁（北から）



T67 中央区　第 1 遺構面　完掘状況（南から）

T67 中央区　第 1 遺構面　完掘状況（北から）

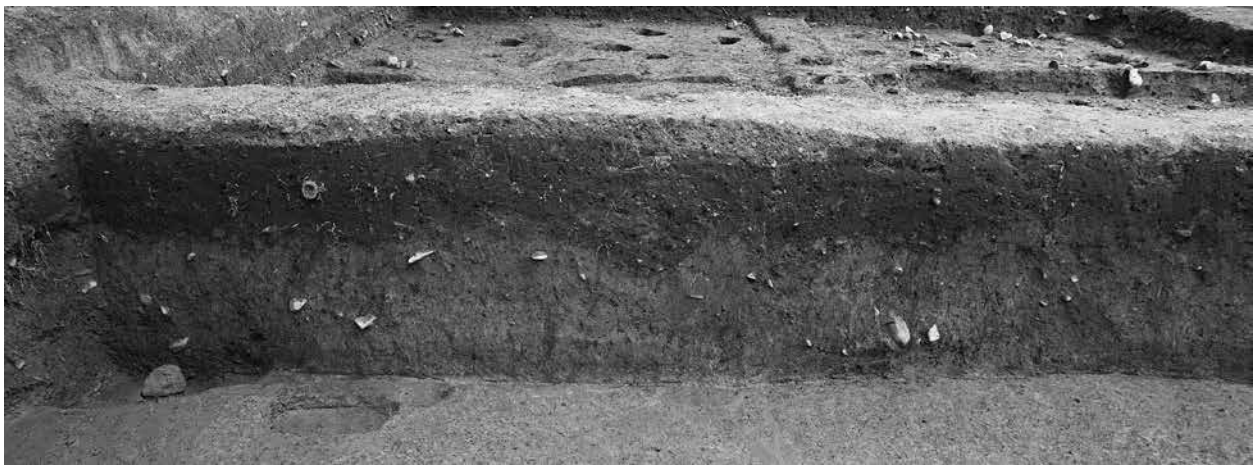
図版 22

T67 中央区　第 2 遺構面　検出状況（北から）

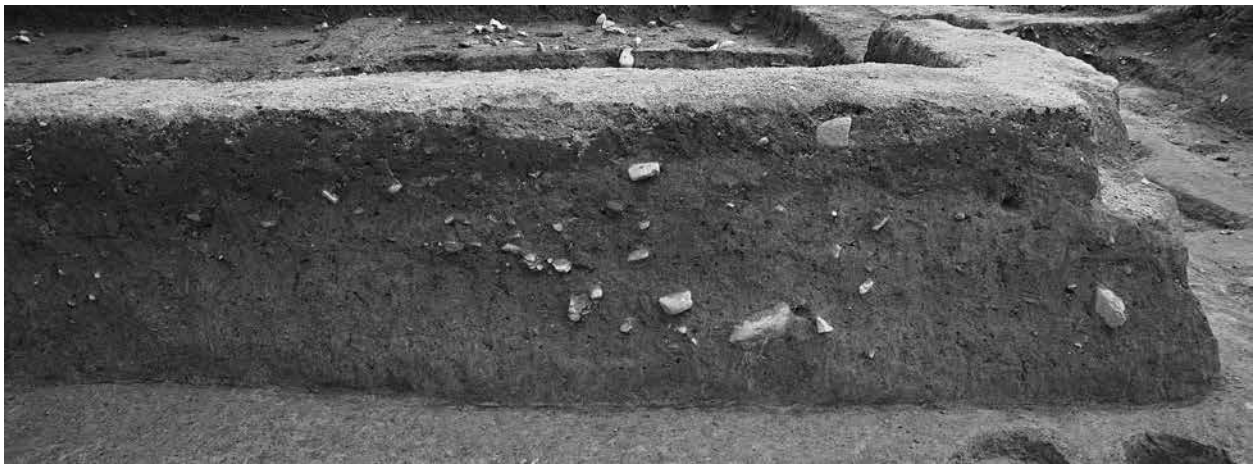
T67 北区　第 2 遺構面　検出状況（北から）

T67 中央区　西壁（東から）

T67 中央区　北壁（南から）



T67 南西区　北壁西側（南から）



T67 南西区　北壁東側（南から）

図版 24

T66 西区　西壁南側（東から）

T66 西区　西壁北側（東から）

T67 北区　西壁（東から）

T67 北区　北壁（南から）

SB020　P1 検出状況（北から）

SB020　P2 検出状況（北から）

SB020　P3 検出状況（北から）

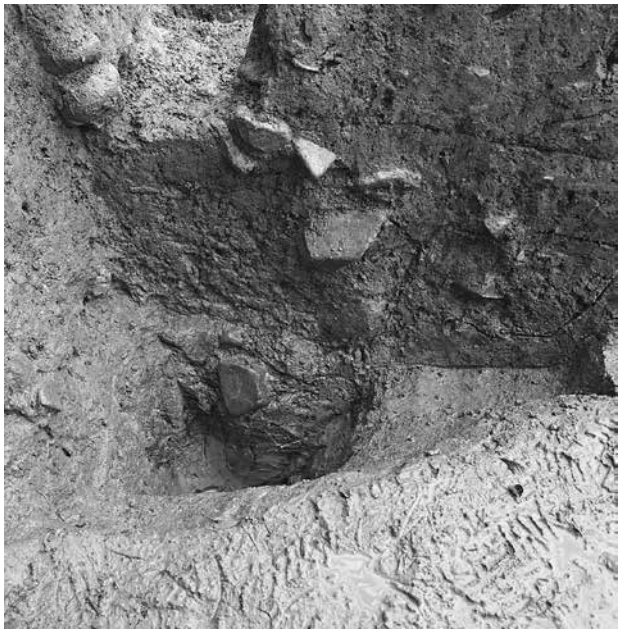
図版 26

SB020　P1　礎石検出状況（北から）

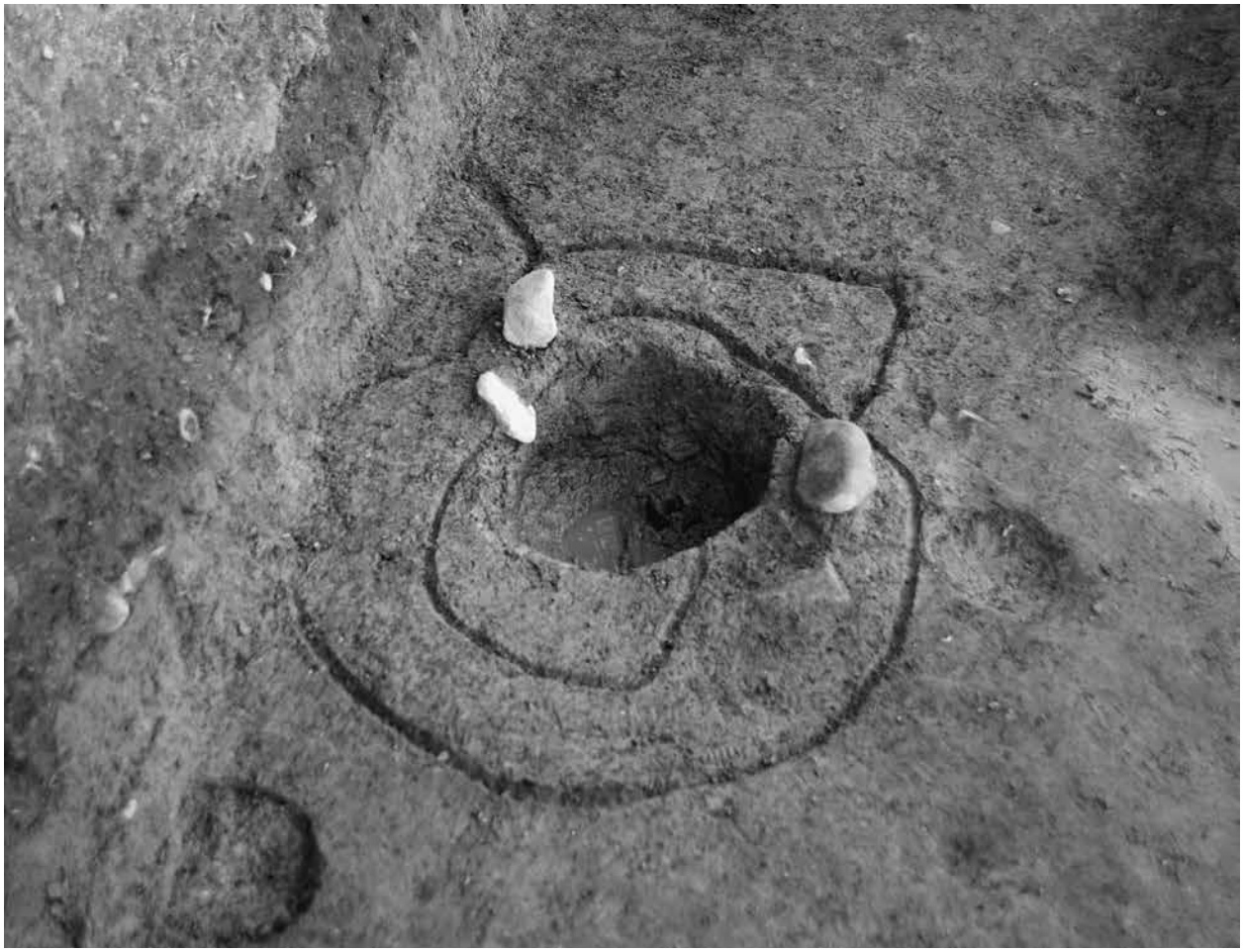
SB020　P1　東側南北セクション（西から）

SB020　P1　北側東西セクション（北から）

SB020　P1　西側南北セクション（東から）



SB020　P1　南側東西セクション（南から）

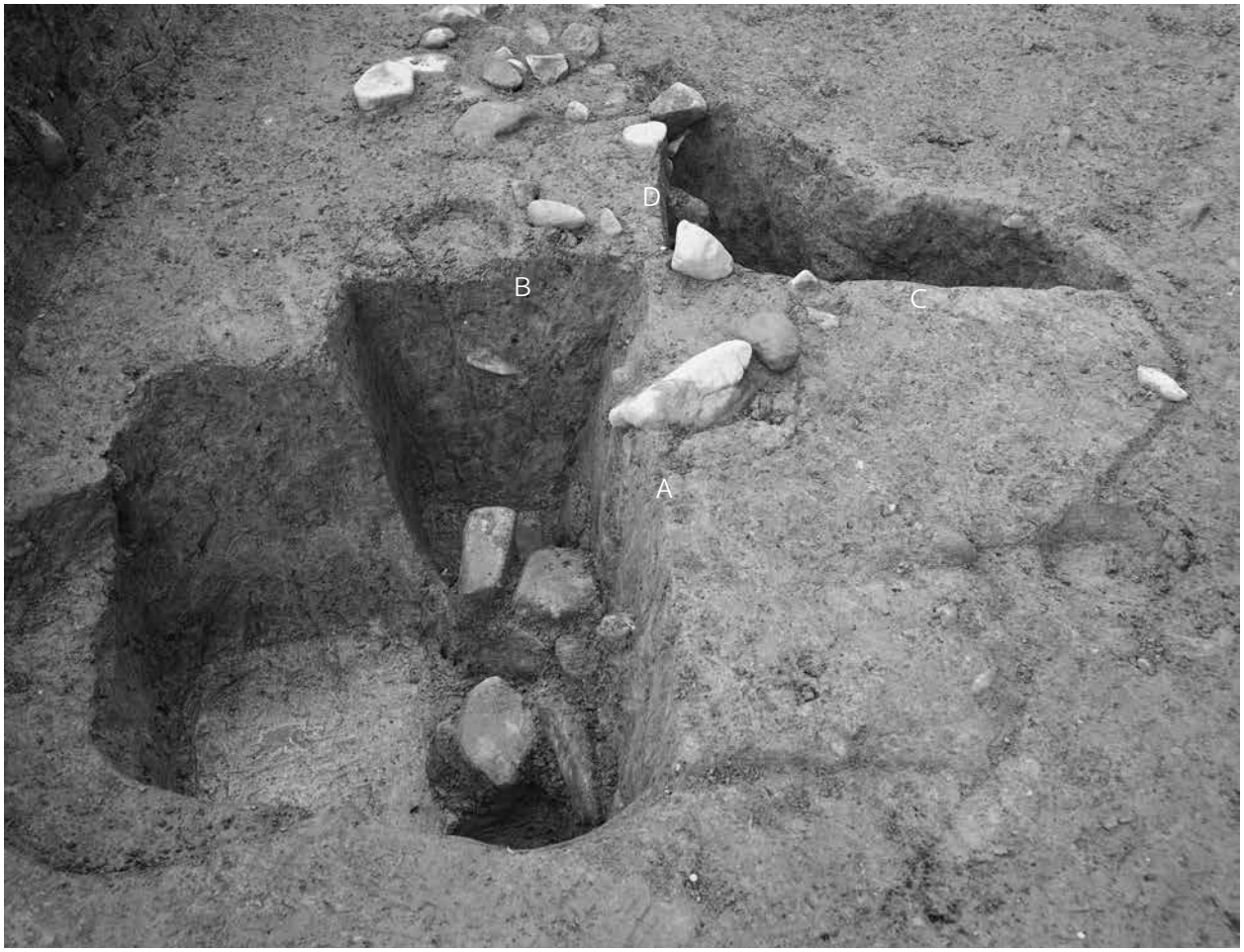


SB020　P8 検出状況（南から）

SB020　P9 検出状況（南から）

図版 28

SB020　P10 検出状況（北から）



SB020　P10　1/4 截状況（北から）

SB020　P10　1/4　A 面（西から）

SB020　P10　1/4　B 面（西から）

SB020　P10　1/4　C 面（西から）

SB020　P10　1/4　D 面（西から）

図版 30

SB020　P10　柱根検出状況（東から）

SB020　P10　柱根検出状況（南西から）

95 号溝　遺物出土状況（北東から）

T68　礫層検出状況（北から）

T68　黒色土検出状況（北から）

T68　1 号池状施設検出状況（北から）

T68　1 号池状施設検出状況（南から）

図版 32

T68　1 号池状施設検出状況（南から）

T68　SD010 完掘状況（北から）

T68　西壁南側（東から）

T68　西壁土手状盛土付近（東から）

T68　西壁　土手状盛土（東から）

T68　東壁　土手状盛土付近（東から）

図版 34

T68　西壁　SD010（東から）

T68　西側拡張部　第 2 礫層検出状況（北から）

SA003　P2　柱根検出状況（南から）

9-2

9-23

11-1

11-8

11-15

11-10

11-17

11-26

11-20

13-3

13-7

14-1

図版 36

16-2

20-3

25-2

25-3

25-4

25-5

25-8

25-12

25-16

25-17

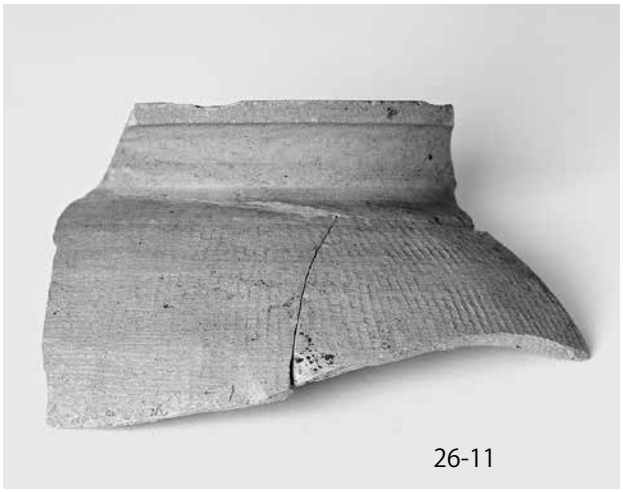
25-18

25-26

26-2

26-5

26-6


26-11

26-14

27-6

27-8

27-9

27-10

27-15

36-5

31-1

36-6

40-5

図版 38

51-2

53-1

53-4

53-5

53-7

53-8

53-12

53-13

53-15

53-19

55-2

56-4

58-1

58-5

58-6

60-1

60-3

60-4

60-7

60-8

60-11

60-12

60-13

60-15

図版 40

60-17

60-18

60-19

60-20

60-21

60-22

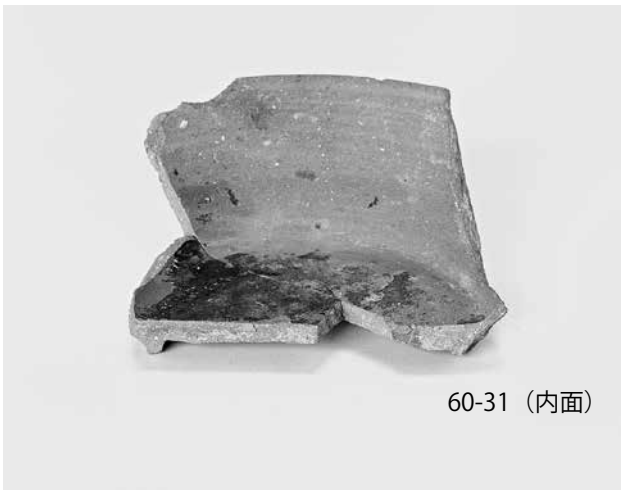
60-23

60-24

60-29

60-30

60-31（外面）


60-31（内面）

61-10

61-11

61-12（後ろ）

61-12（側面）

61-17

61-18

61-19

61-22

61-23

61-24

61-30

61-33

61-34

61-35

図版 42

61-39（外面）

61-39（内面）

61-44（外面）

61-44（内面）

61-43

61-45

61-47

62-1

62-5

62-6

62-8

62-10

62-19

62-20

62-21

62-24

62-25

62-26

62-27

62-28

62-29

62-30

図版 44

62-31

62-32

62-33

62-34

62-35

62-36

62-37

62-38

62-39

62-41

62-42

62-43

62-44

62-45

62-46

62-47

62-48

62-49

62-50

62-51

62-52

62-53

62-54

62-55

62-56

62-57

62-58

63-2

63-3

63-5

63-6

63-7

図版 46

63-8

63-9

63-11

63-12

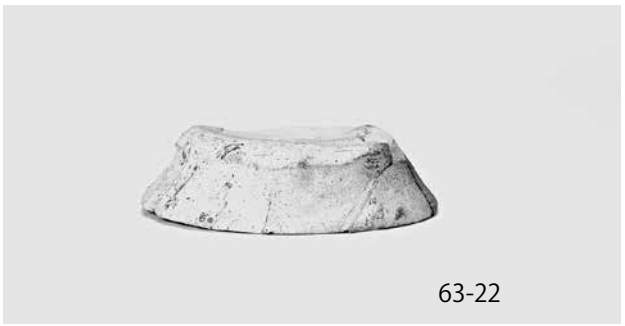
63-14

63-18

63-19

63-20

63-21



63-22

63-23

63-24

63-25

63-27

63-29

63-30

63-33

63-35

63-36

63-37

63-38

63-40

63-41

図版 48

63-42

63-43

63-44

63-45

63-46

63-47

63-48

63-49

63-50

63-51

63-52

63-53

63-54

63-56

67-2

67-5

74-1

75-11

75-3

75-6

図版 50

75-8

75-9

77-6

77-10

77-11

77-12

77-14

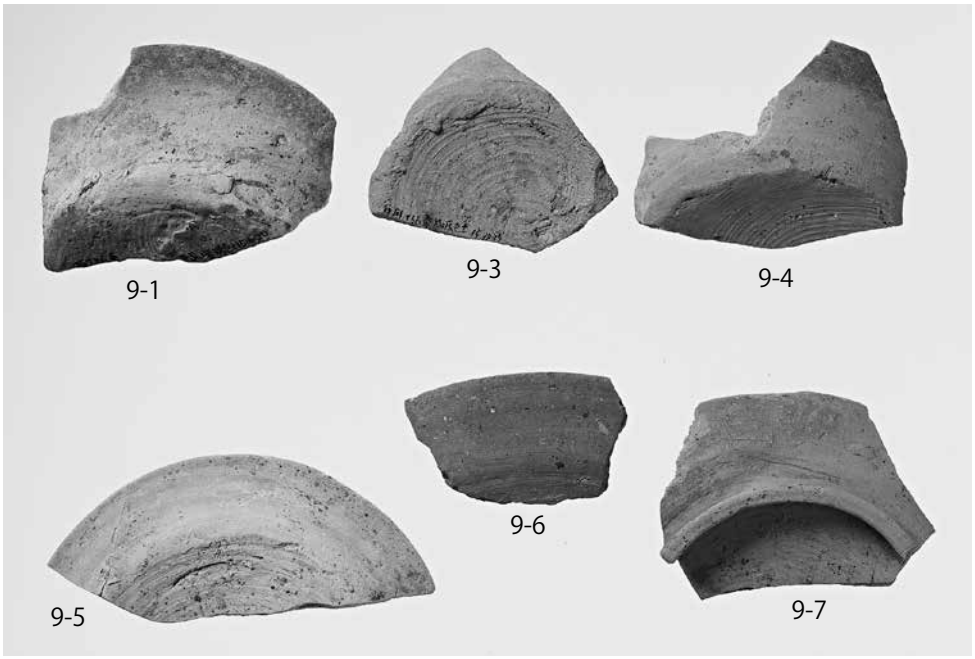
77-16

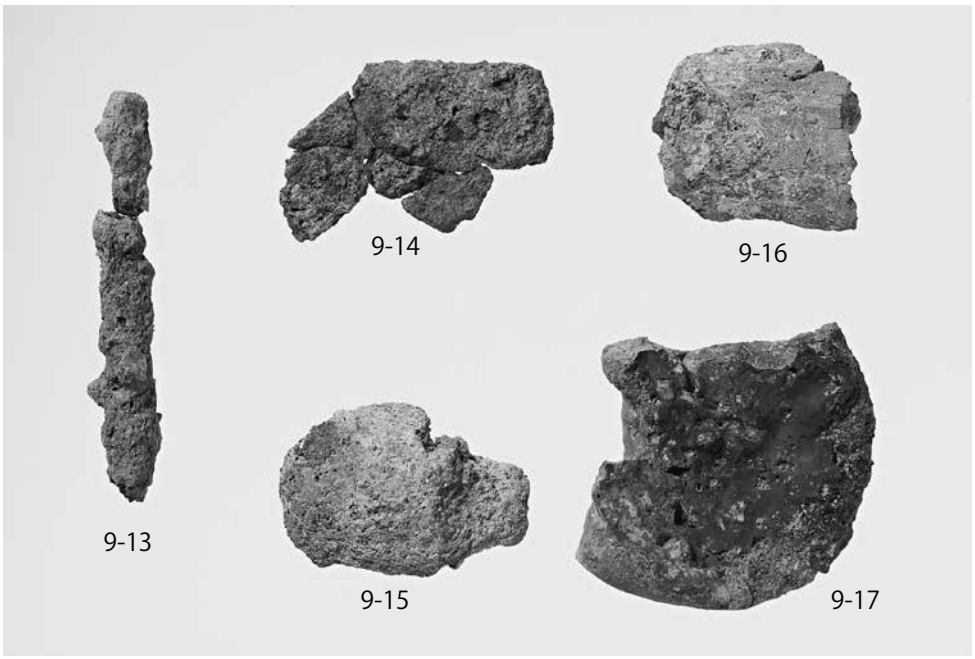
78-5

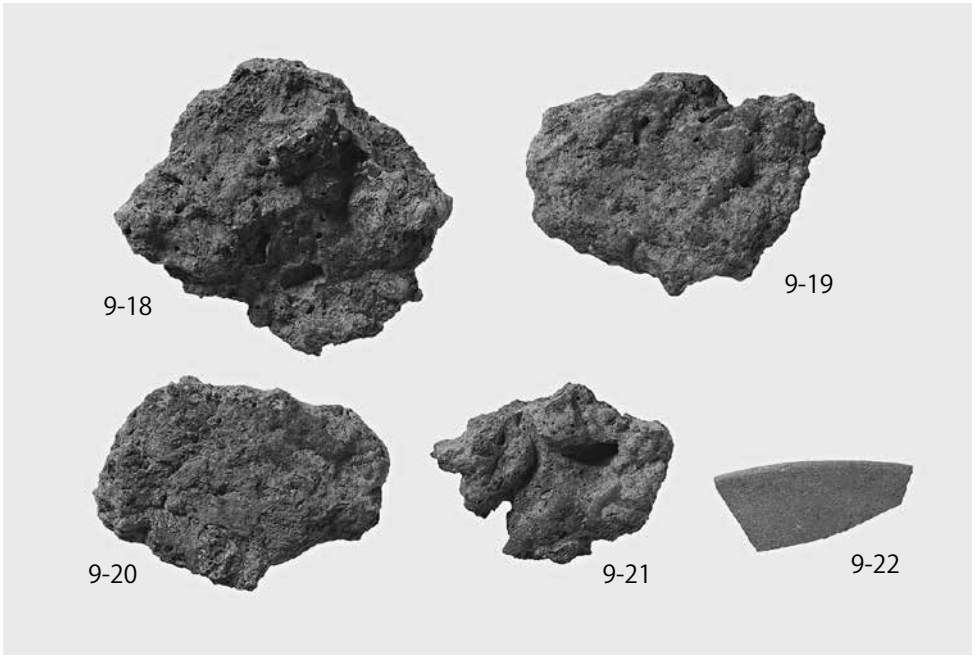
78-10

78-7

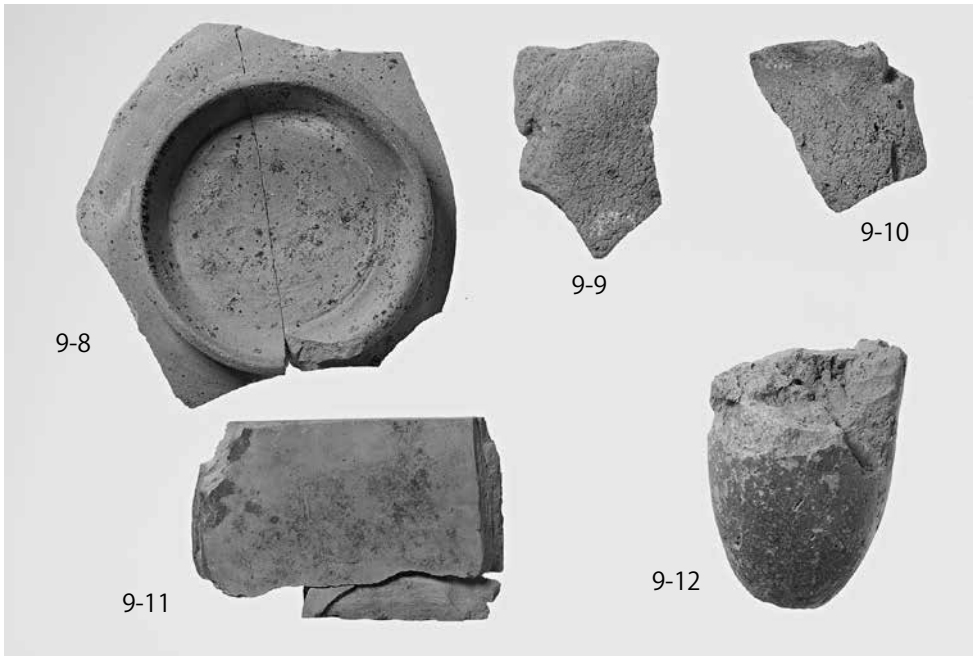
78-8

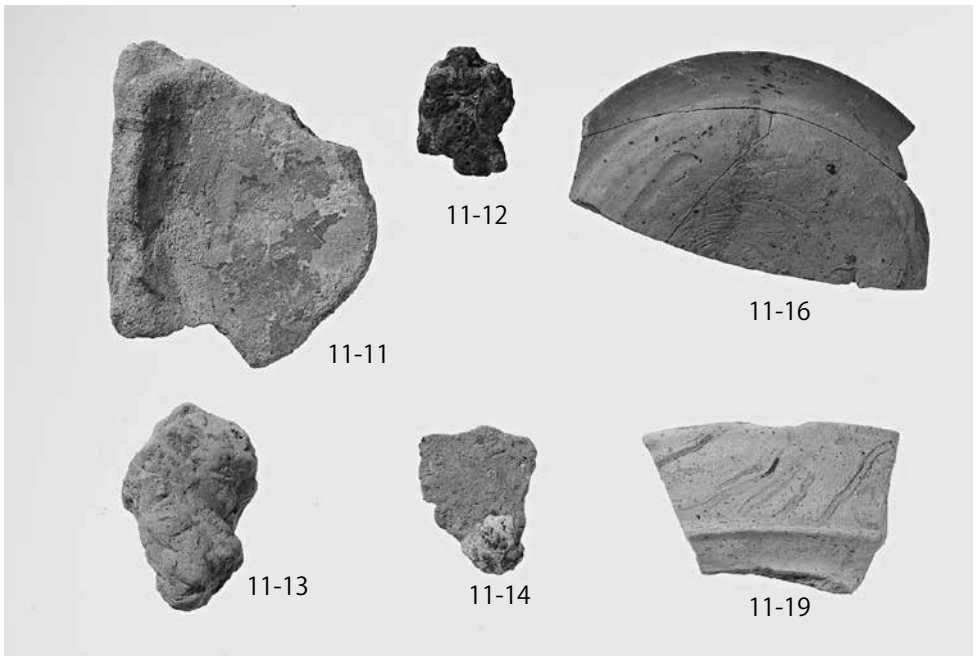

9-1
9-3
9-4
9-5
9-6
9-7


9-13
9-14
9-15
9-16
9-17

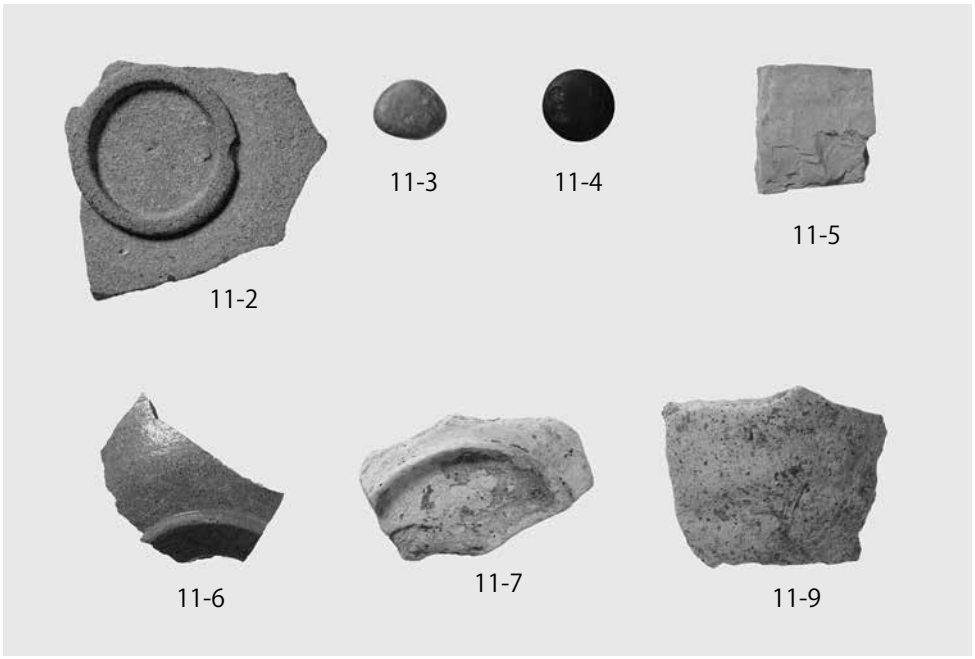

9-18
9-19
9-20
9-21
9-22

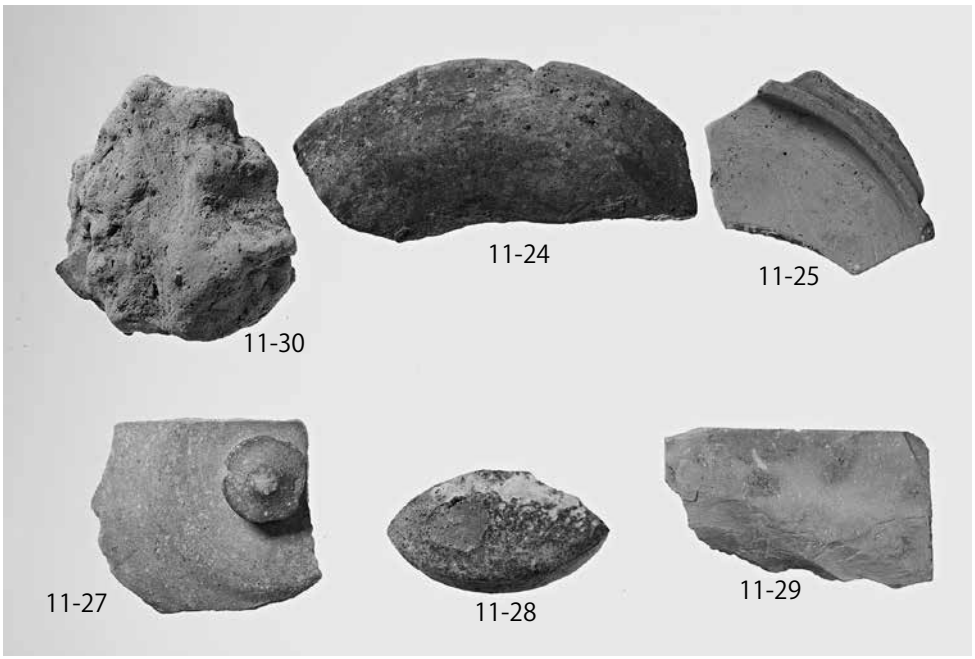
図版 52

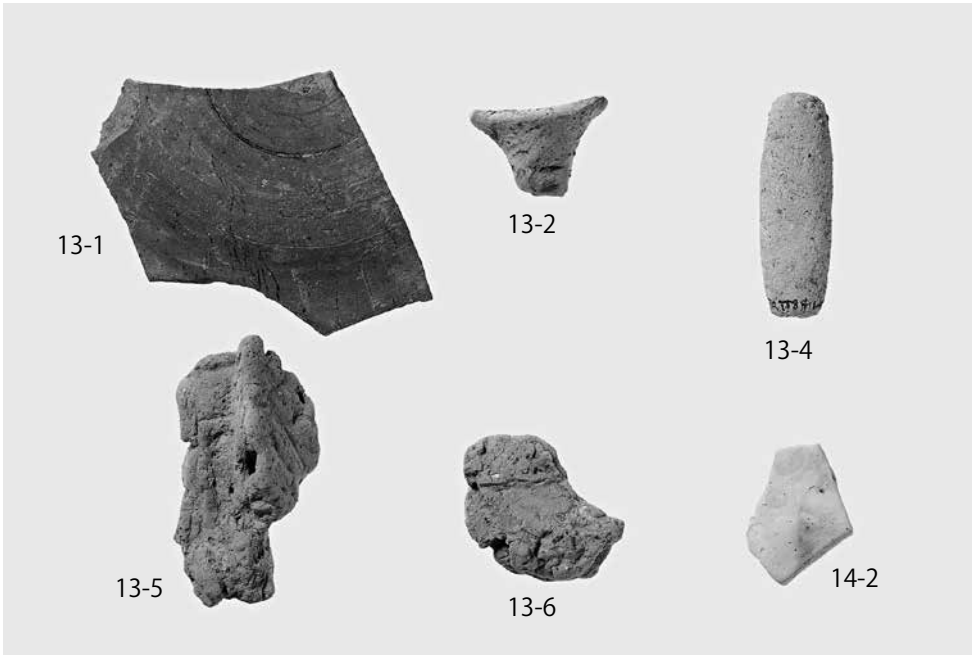

9-8
9-9
9-10
9-11
9-12


11-11
11-12
11-16
11-13
11-14
11-19

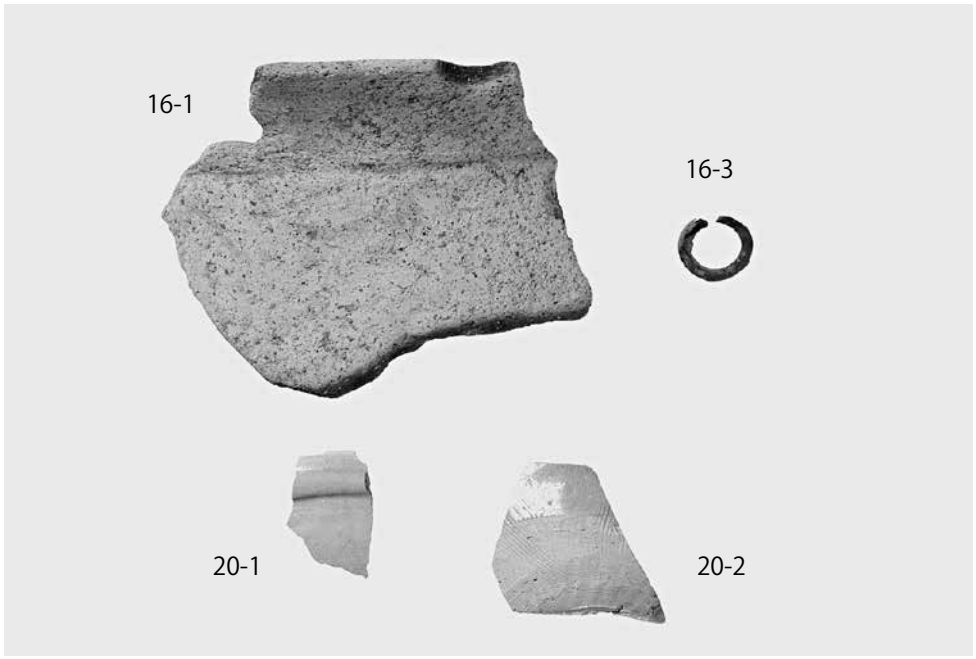
11-18
11-22
11-21
11-23

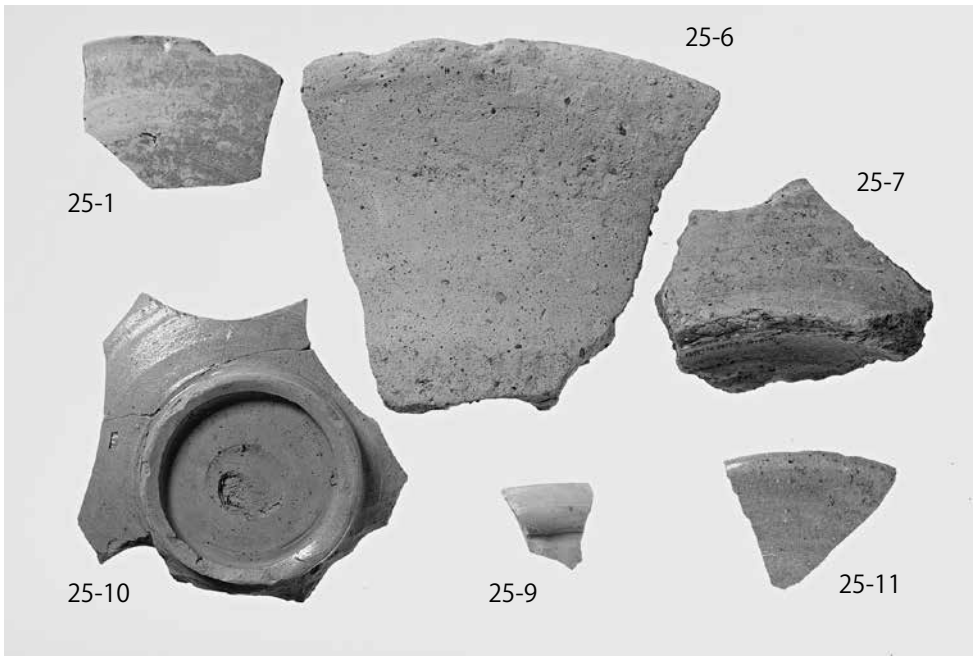

11-2
11-3
11-4
11-5
11-6
11-7
11-9

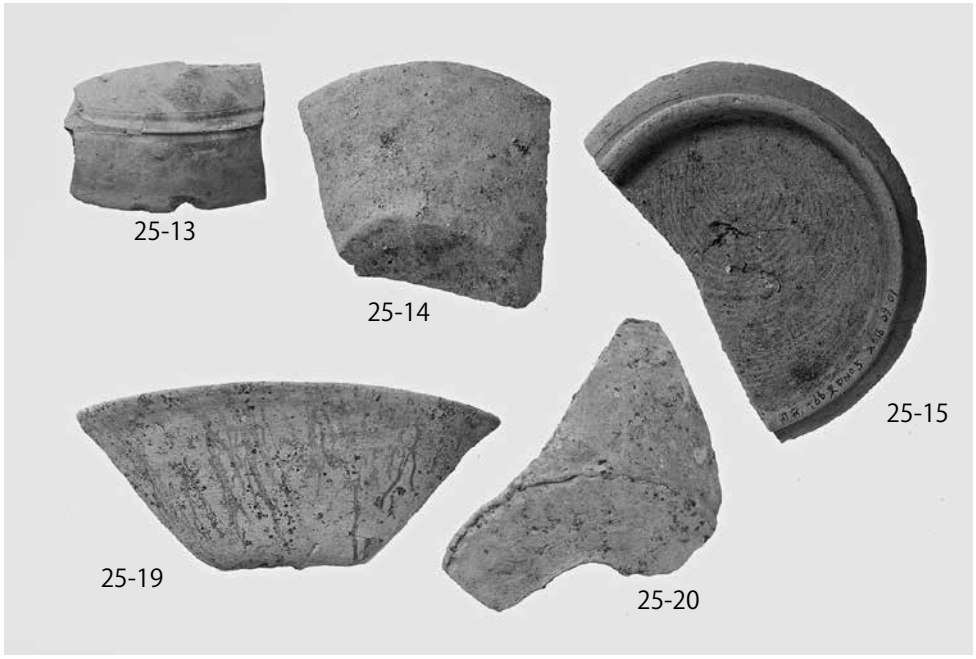

11-24
11-25
11-30
11-27
11-28
11-29

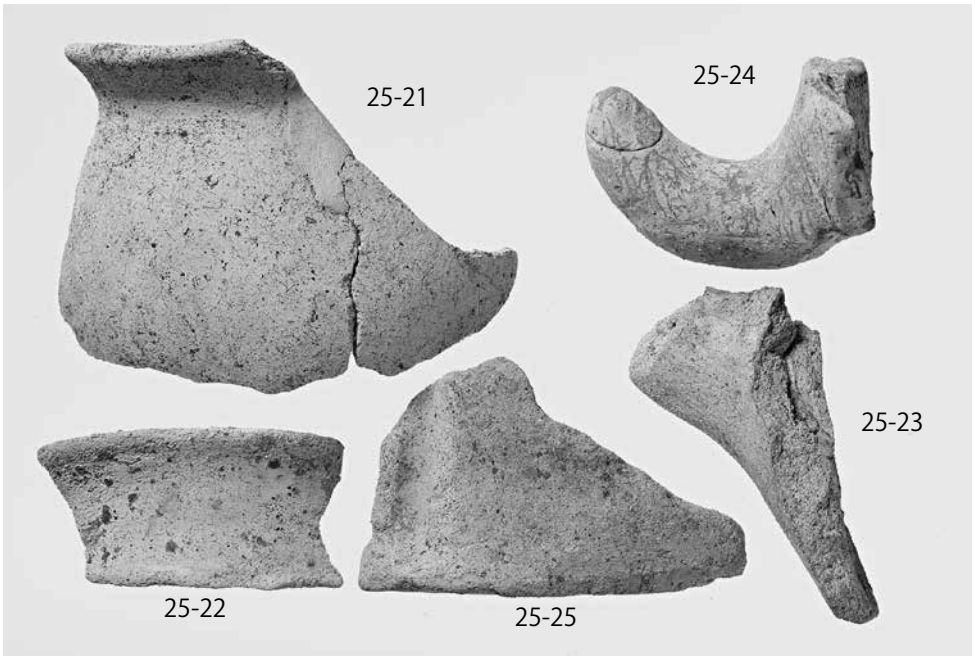

13-1
13-2
13-4
13-5
13-6
14-2

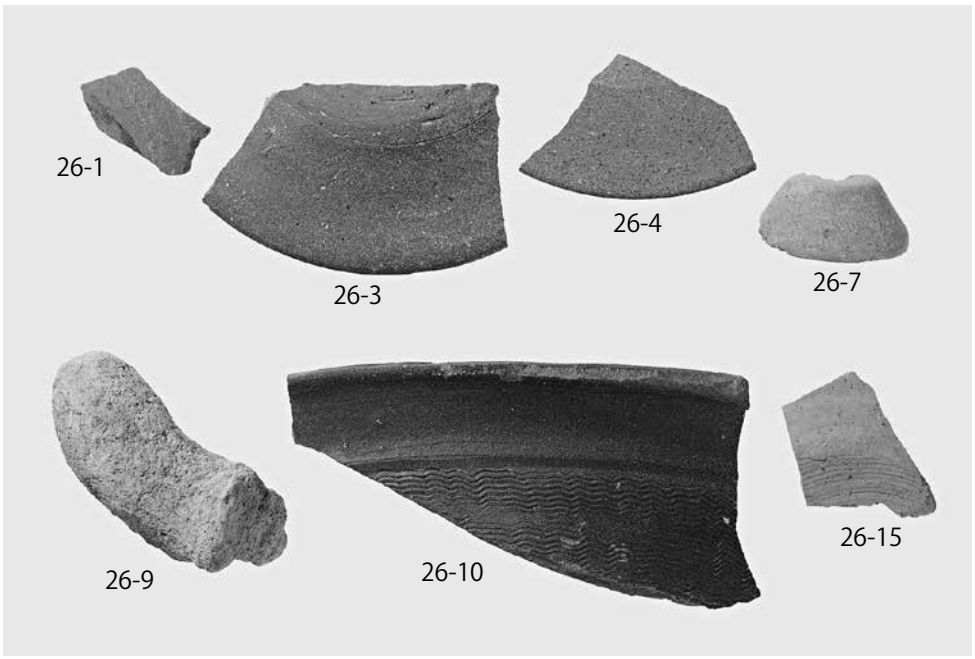
図版 54

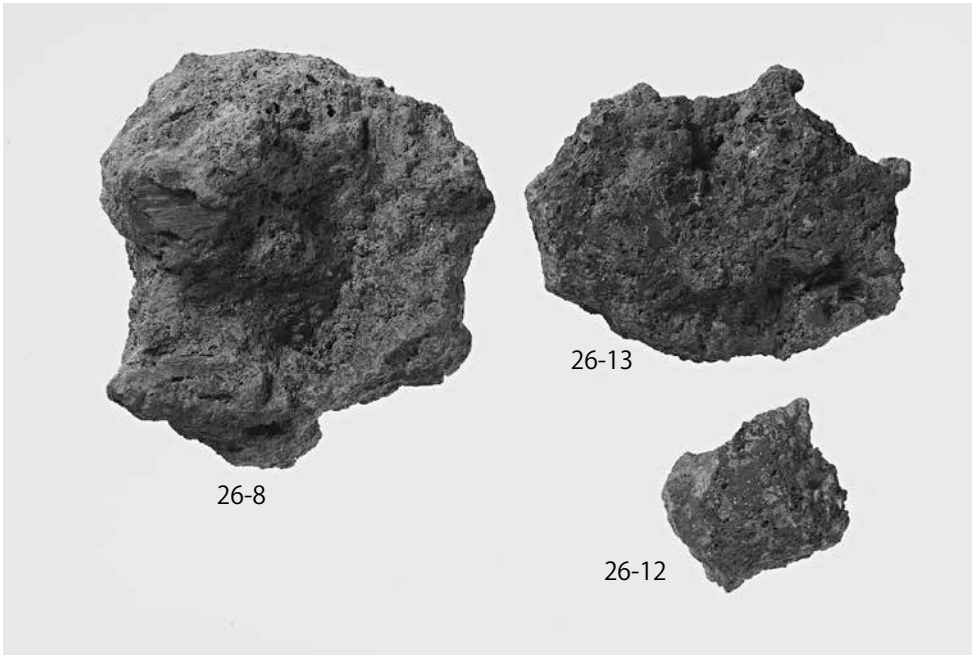

16-1
16-3
20-1
20-2


25-6
25-1
25-7
25-10
25-9
25-11

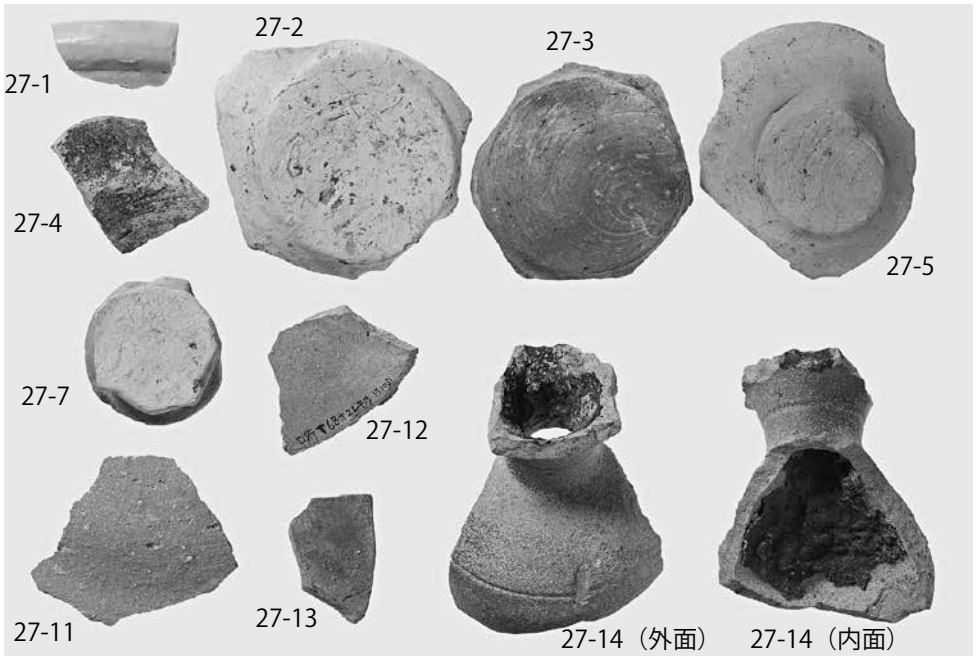

25-13
25-14
25-15
25-19
25-20

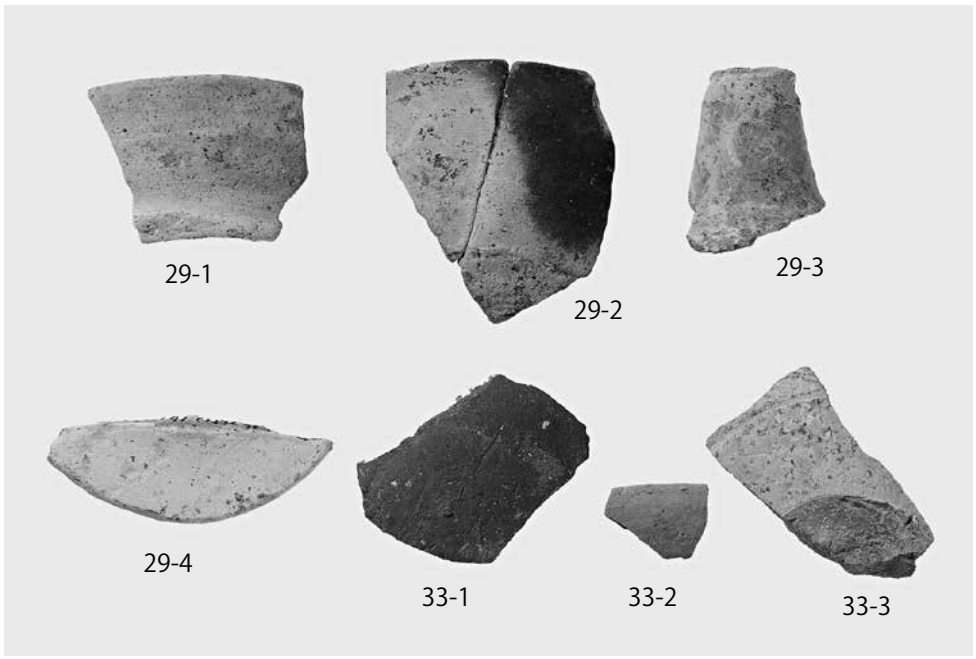

25-21
25-24
25-23
25-22
25-25

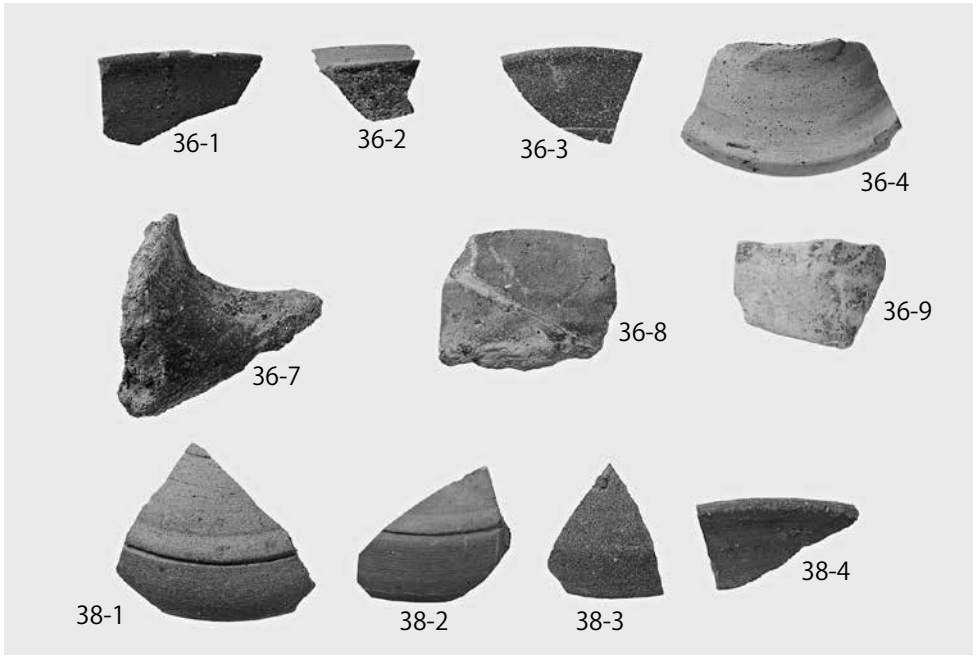

26-1
26-3
26-4
26-7
26-9
26-10
26-15

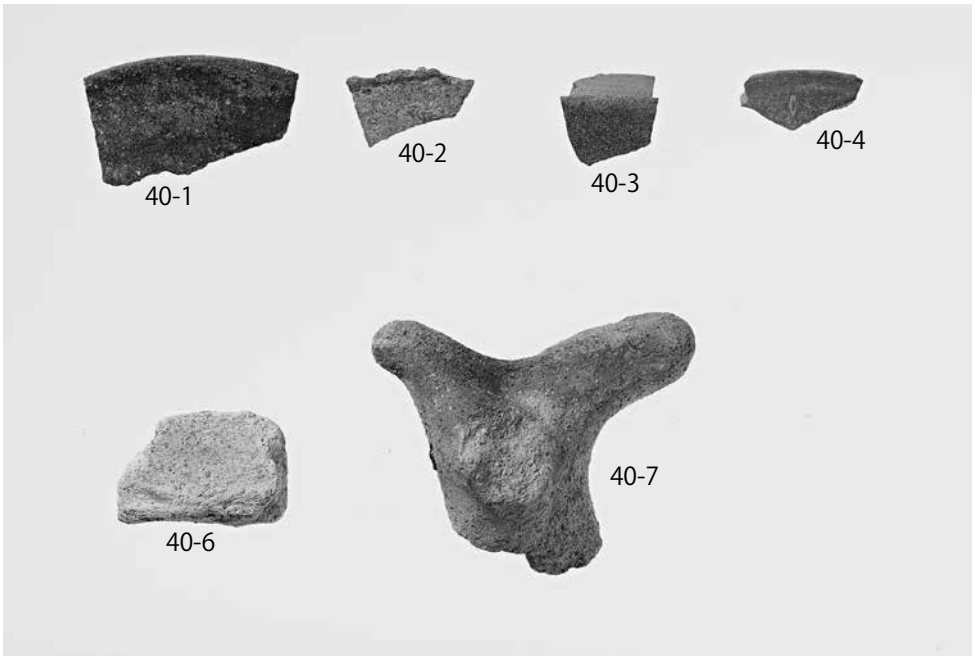

26-13
26-8
26-12

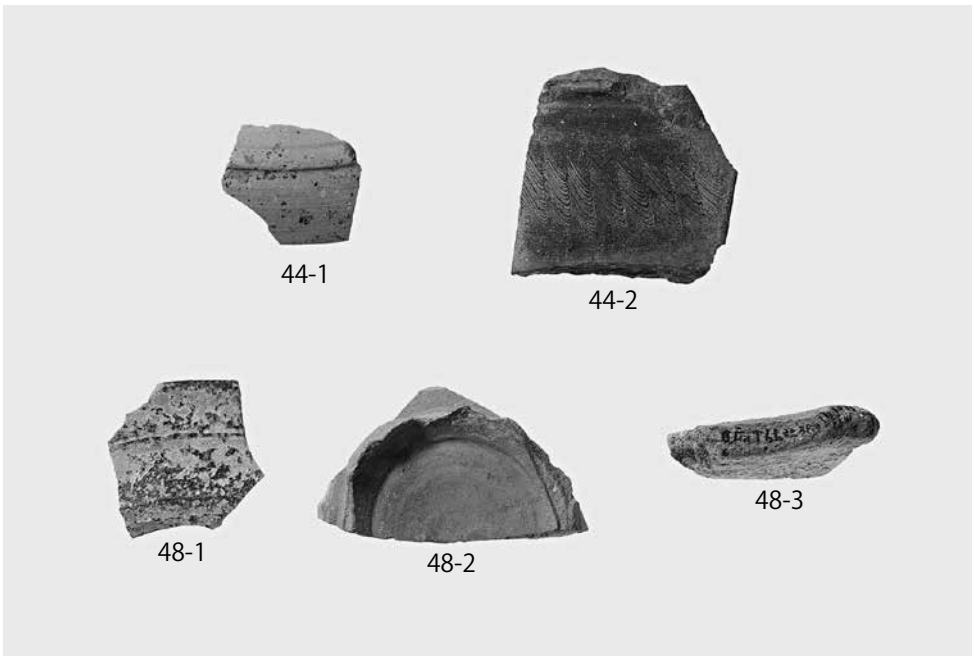
図版 56

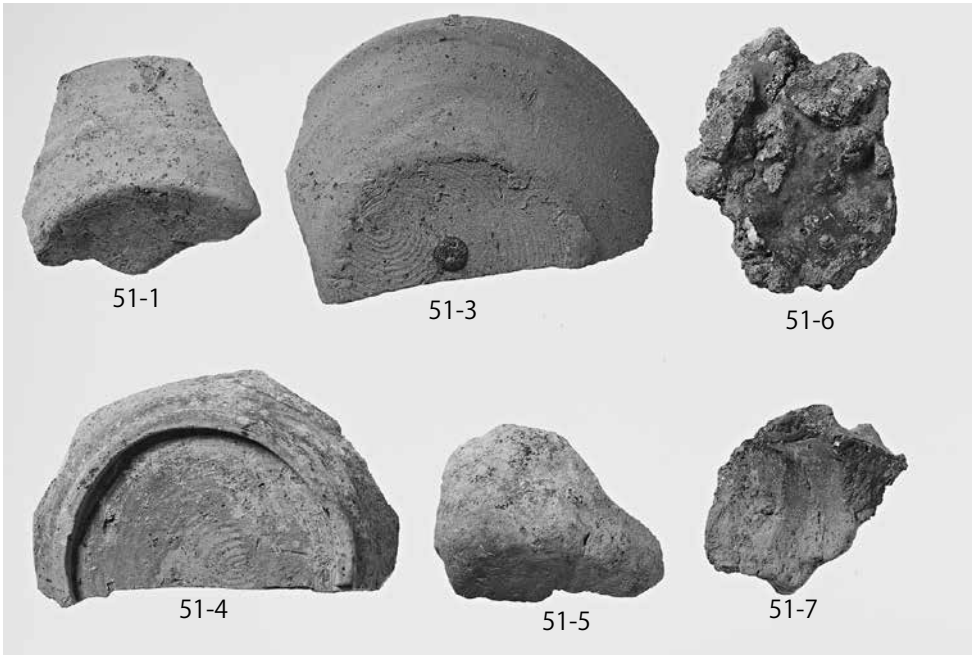

27-1
27-2
27-3
27-4
27-5
27-7
27-12
27-11
27-13
27-14（外面）
27-14（内面）


29-1
29-2
29-3
29-4
33-1
33-2
33-3


36-1
36-2
36-3
36-4
36-7
36-8
36-9
38-1
38-2
38-3
38-4

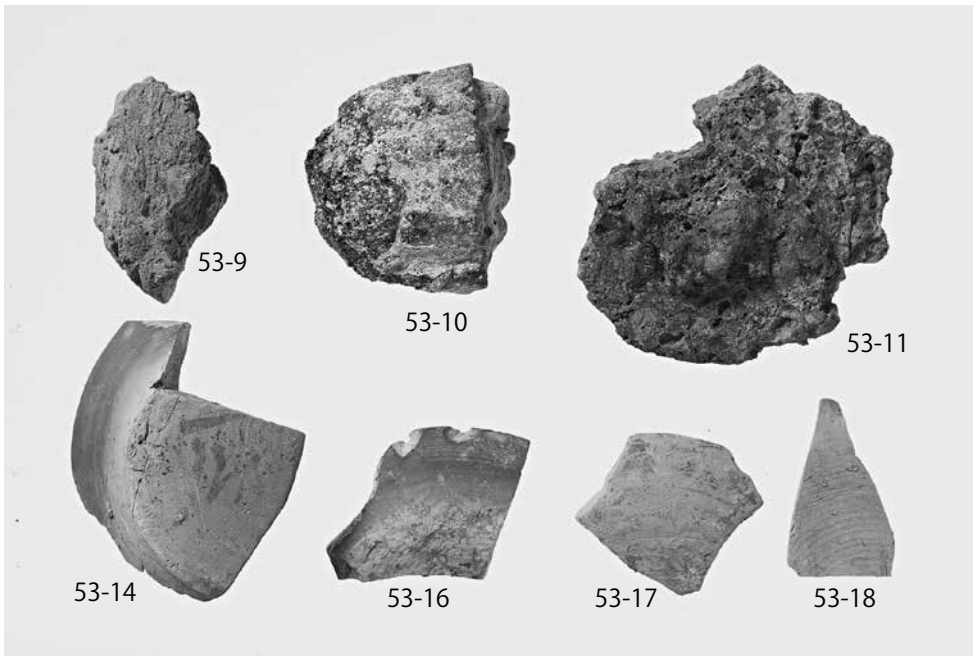

40-1
40-2
40-3
40-4
40-6
40-7

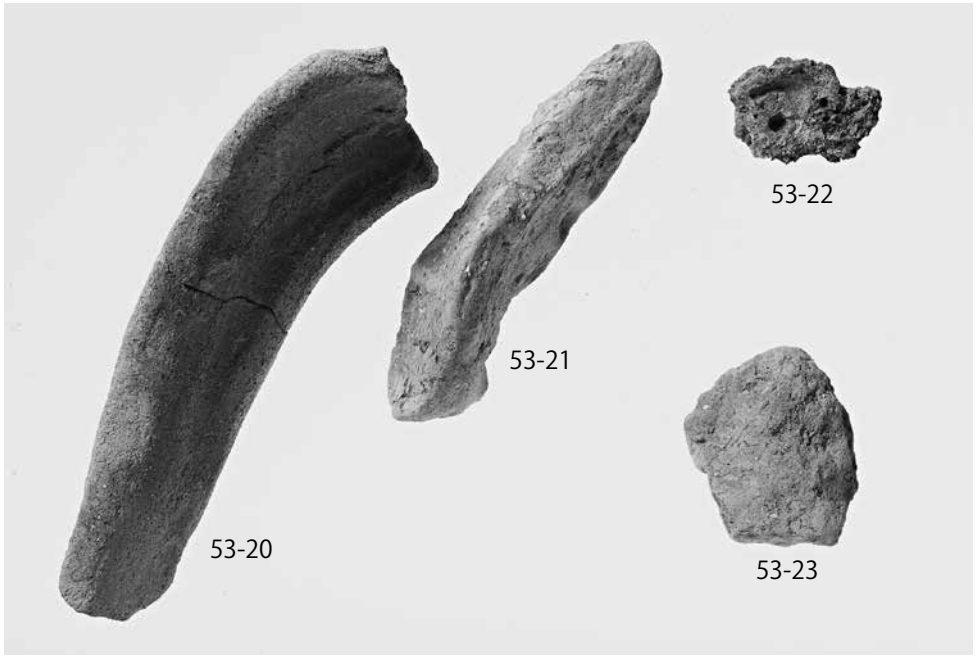

44-1
44-2
48-1
48-2
48-3

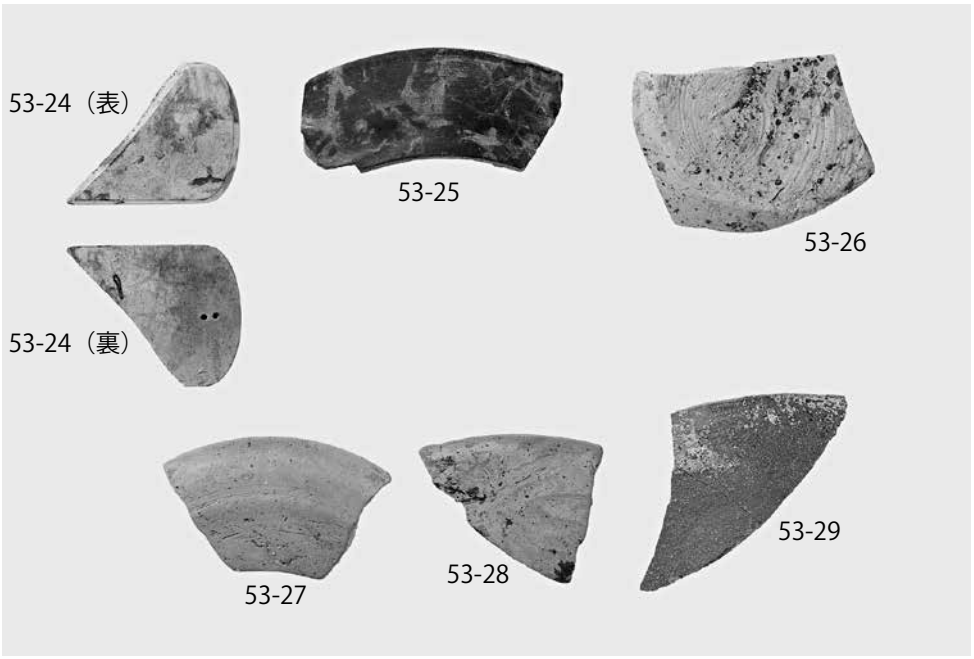

51-1
51-3
51-6
51-4
51-5
51-7

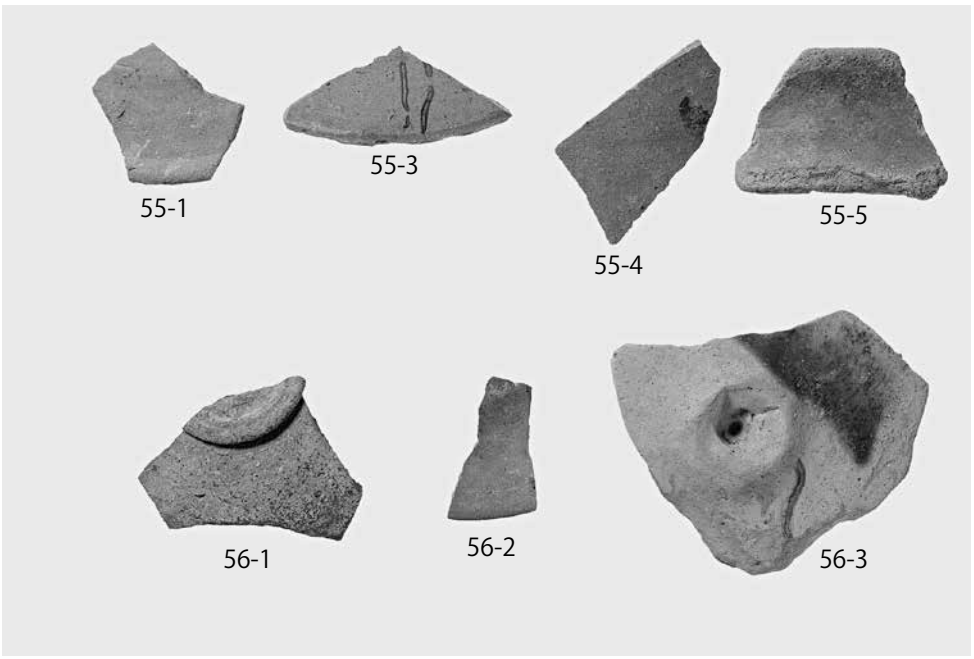
図版 58

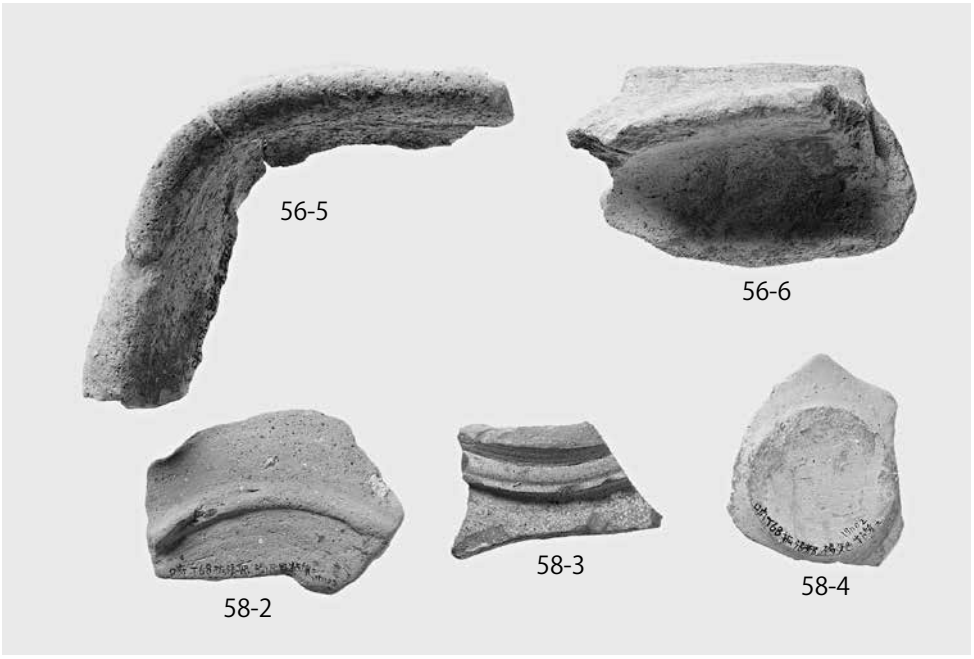
53-2
53-3
53-6


53-9
53-10
53-11
53-14
53-16
53-17
53-18

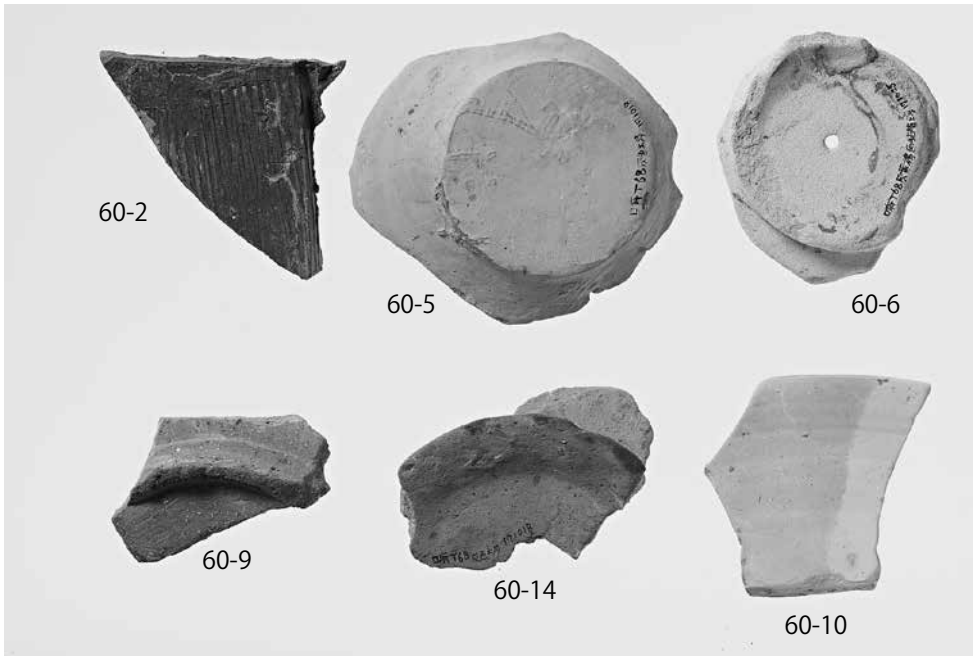

53-22
53-21
53-20
53-23

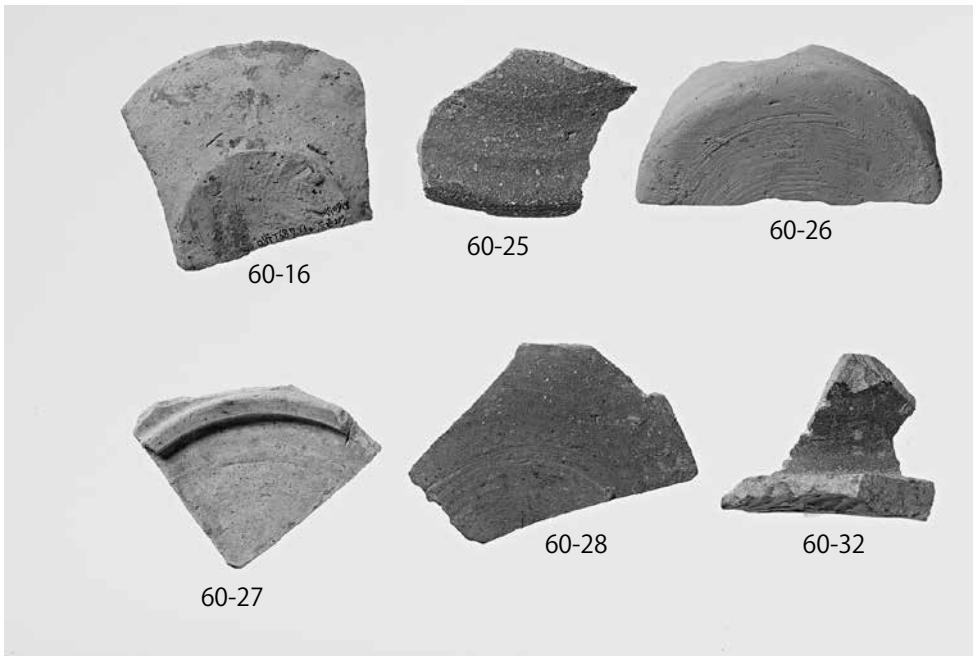

53-24（表）
53-25
53-26
53-24（裏）
53-27
53-28
53-29

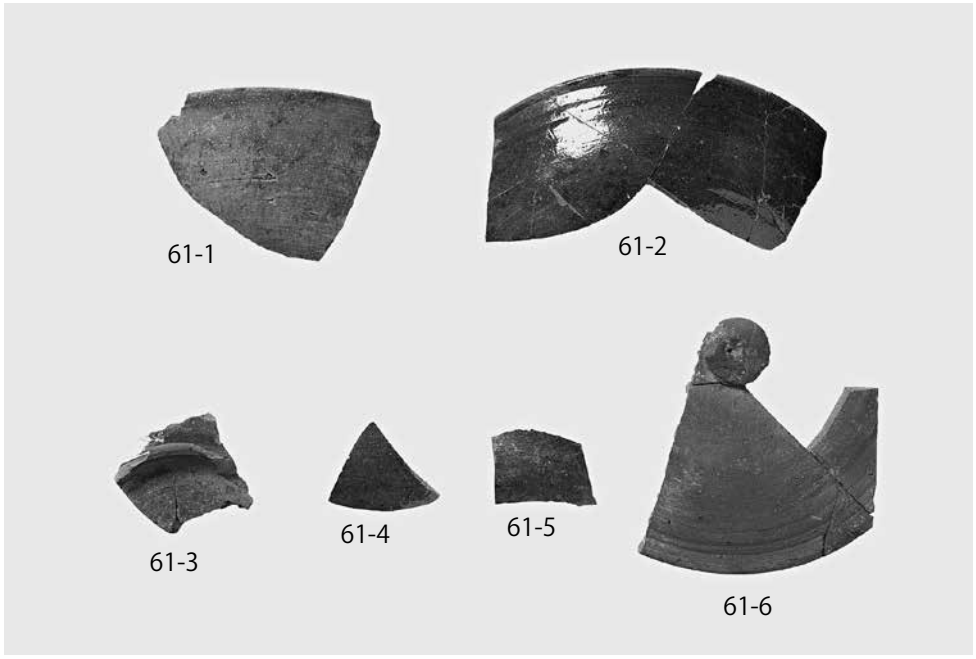

55-1
55-3
55-4
55-5
56-1
56-2
56-3

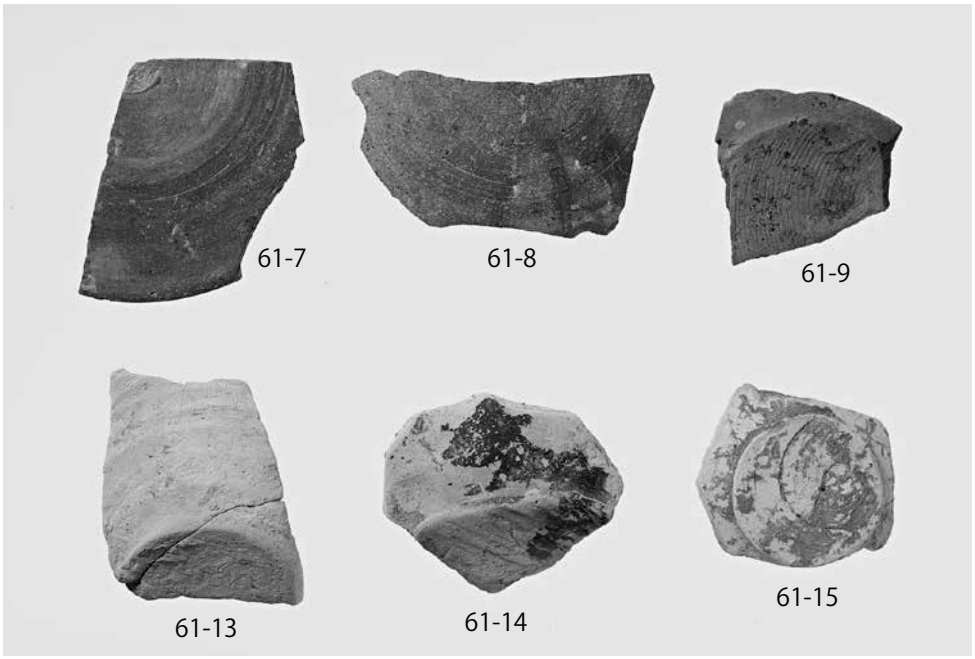

56-5
56-6
58-2
58-3
58-4

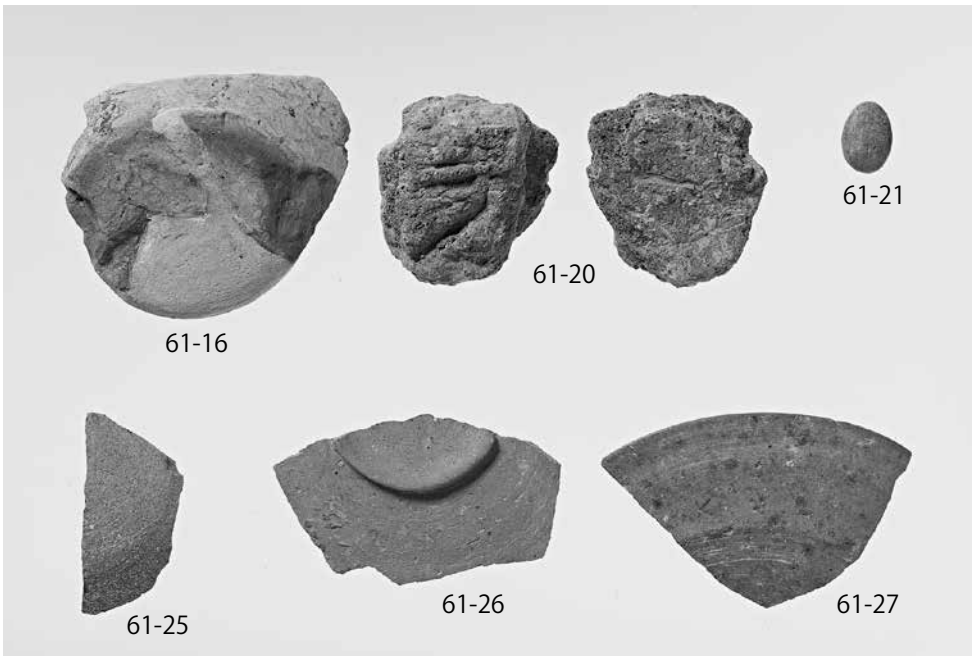
図版 60

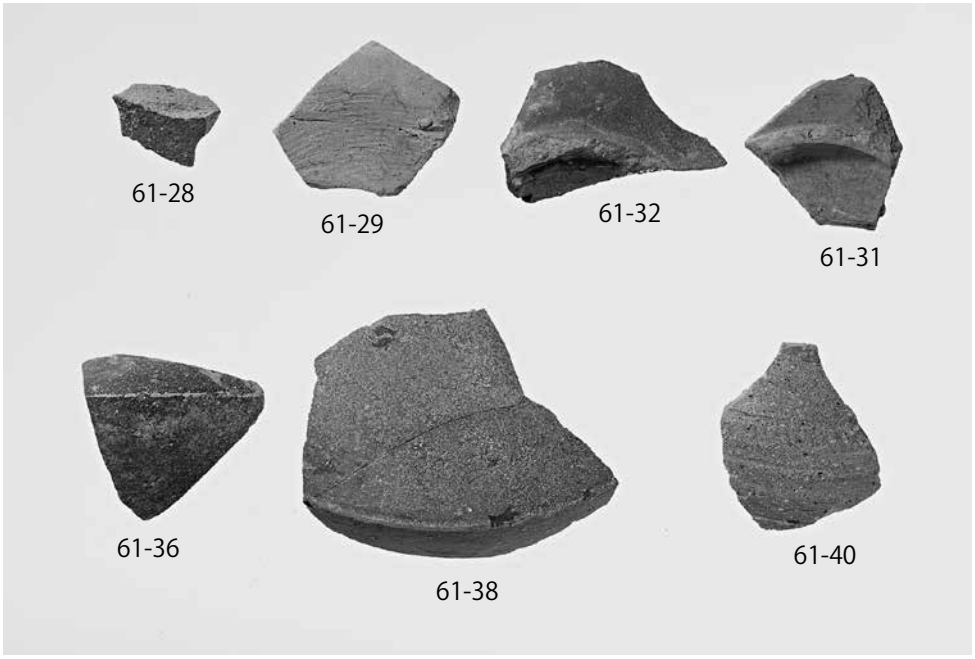

60-2
60-5
60-6
60-9
60-14
60-10


60-16
60-25
60-26
60-27
60-28
60-32

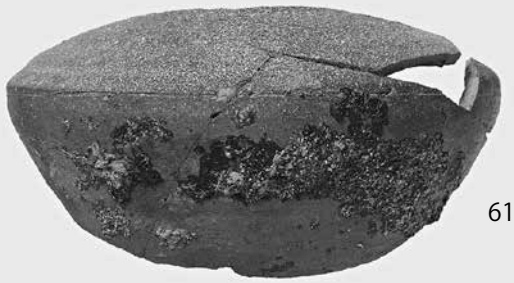

61-1
61-2
61-3
61-4
61-5
61-6


61-7
61-8
61-9
61-13
61-14
61-15


61-16
61-20
61-21
61-25
61-26
61-27


61-28
61-29
61-32
61-31
61-36
61-38
61-40

図版 62



61-37（外面）

61-37（内面）

61-41（外面）

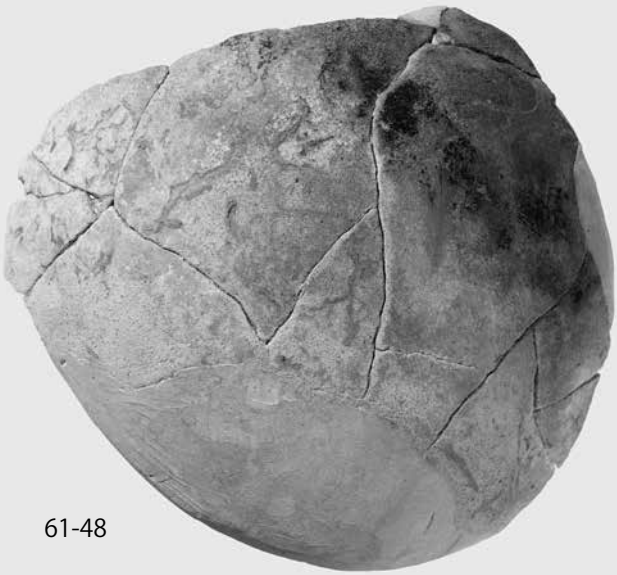
61-42（外面）

61-41（内面）

61-42（内面）

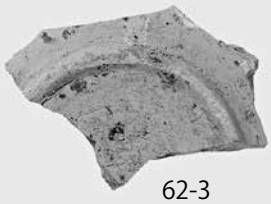
61-46

61-49



61-48

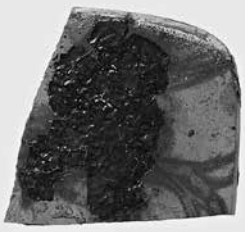
62-2



62-3

62-4

62-7（内面）



62-7（外面）

62-9

62-11

62-12

62-14

62-13

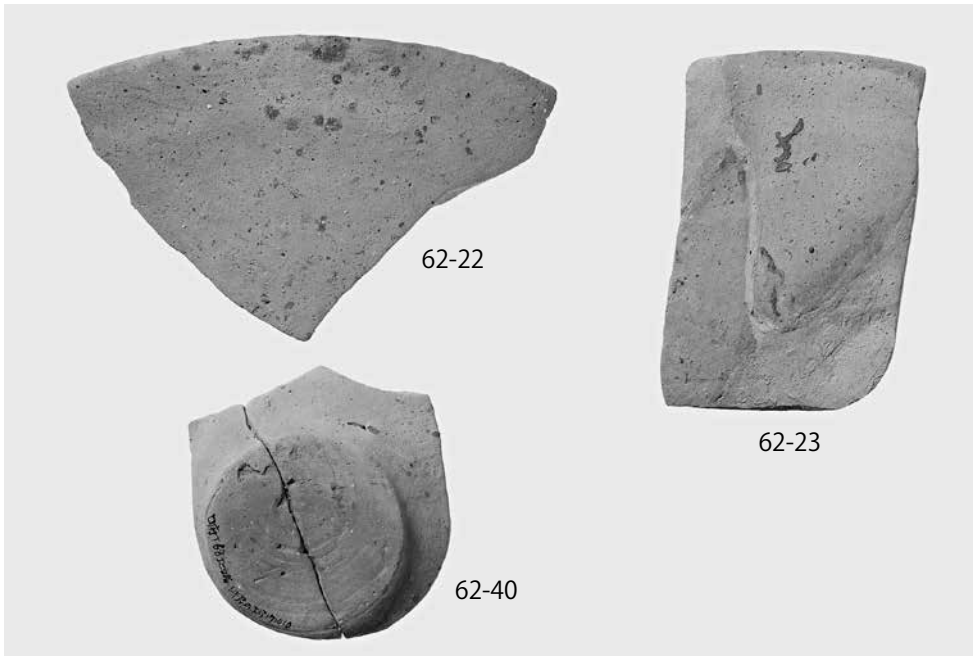
62-15

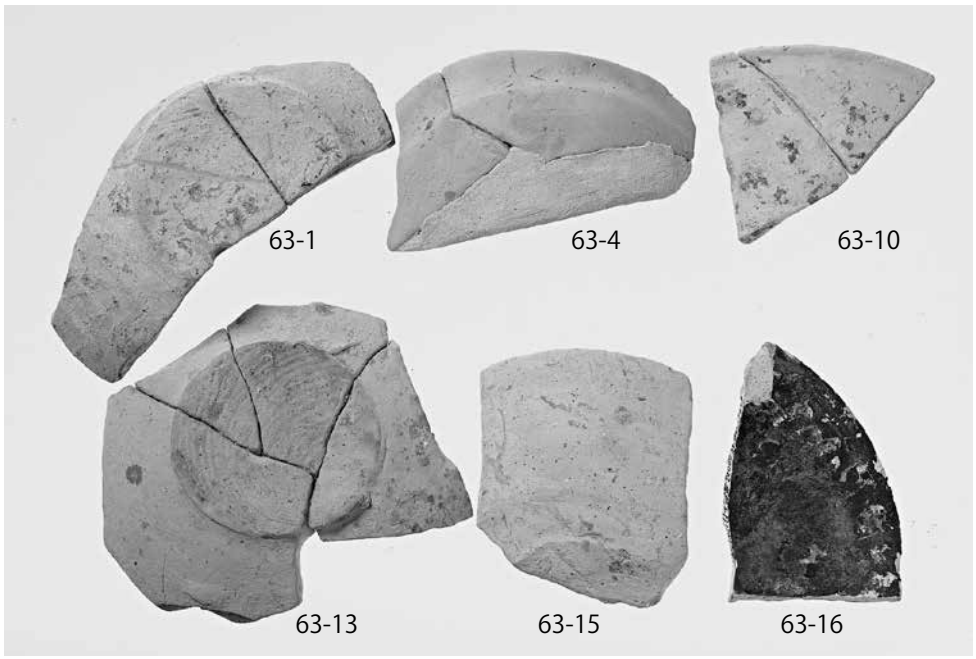
62-16

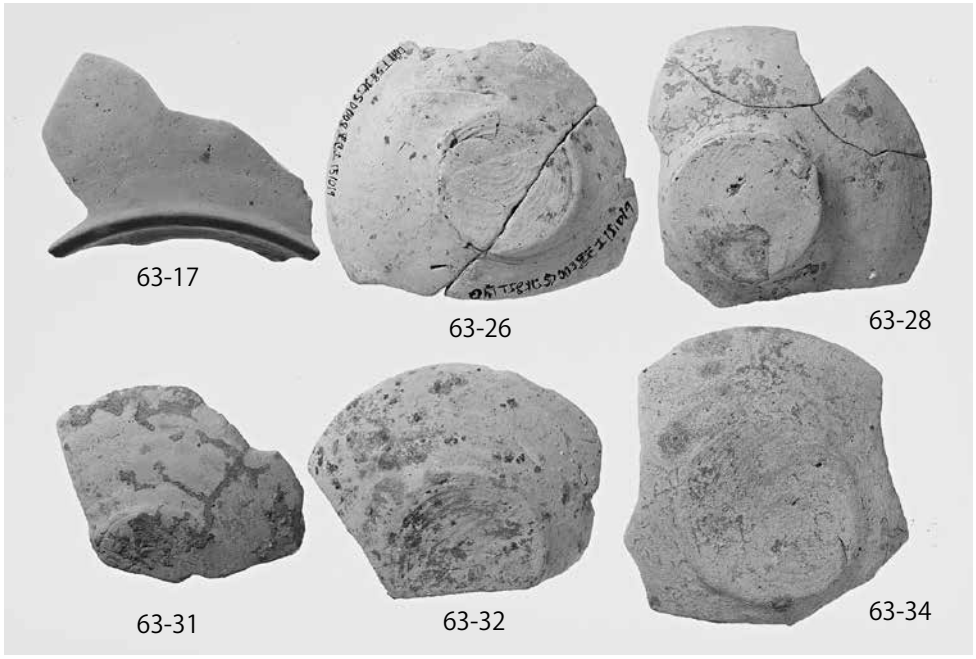
62-17

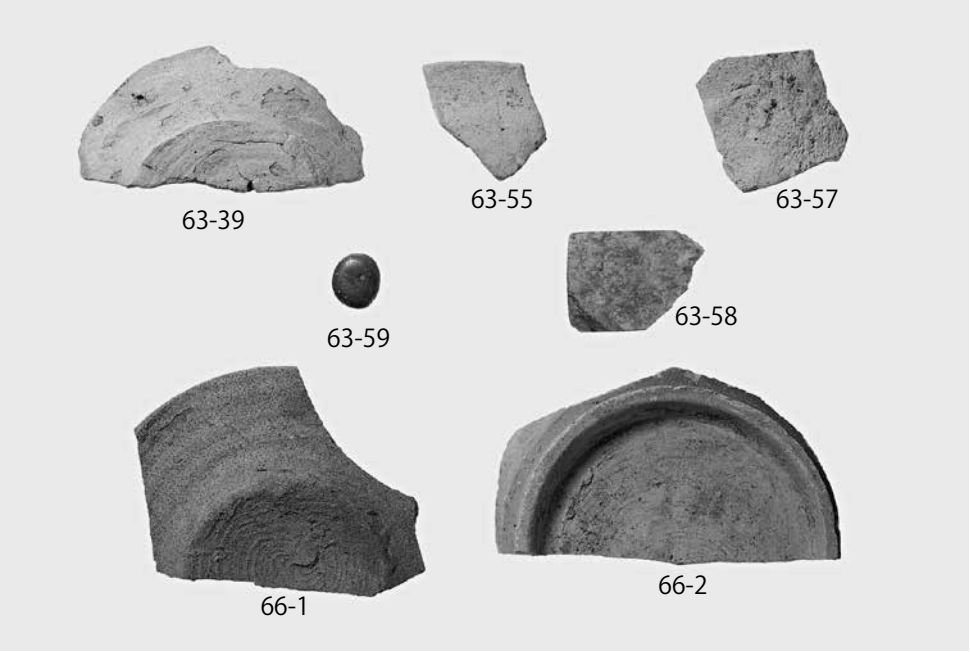
62-18

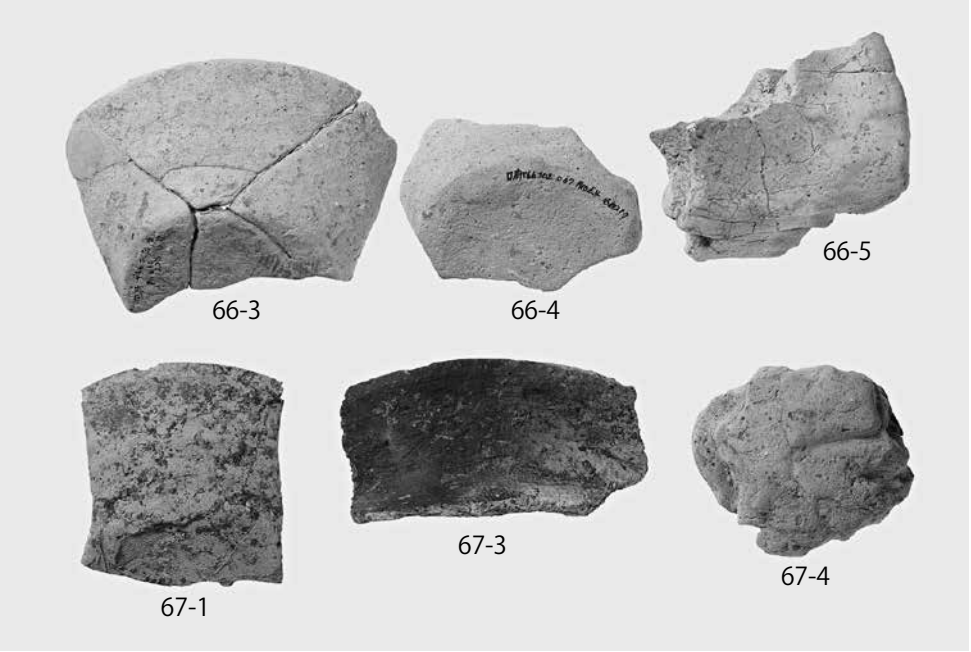
図版 64

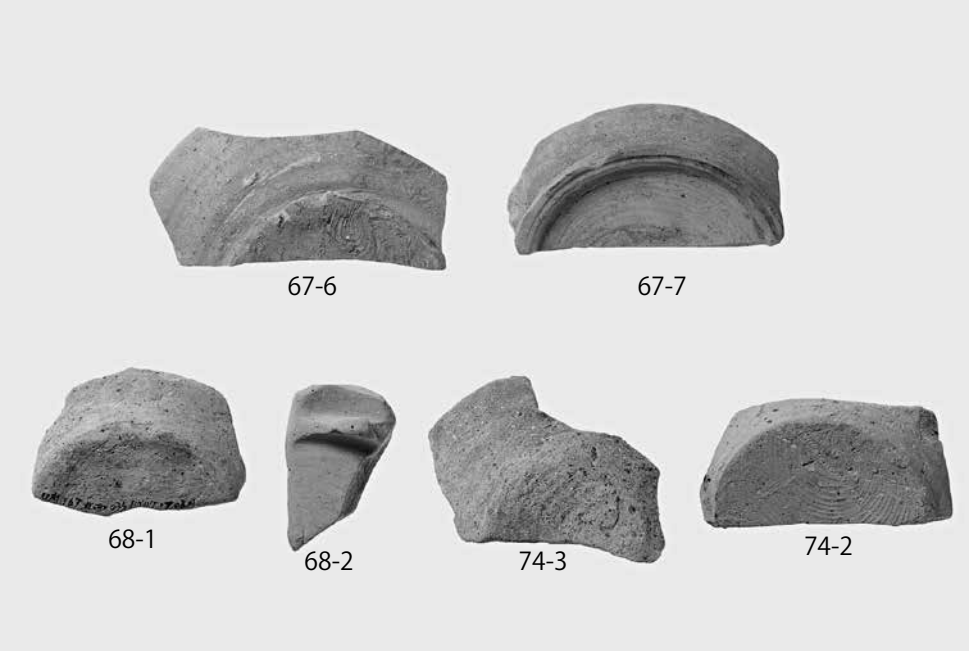

62-22
62-23
62-40


63-1
63-4
63-10
63-13
63-15
63-16

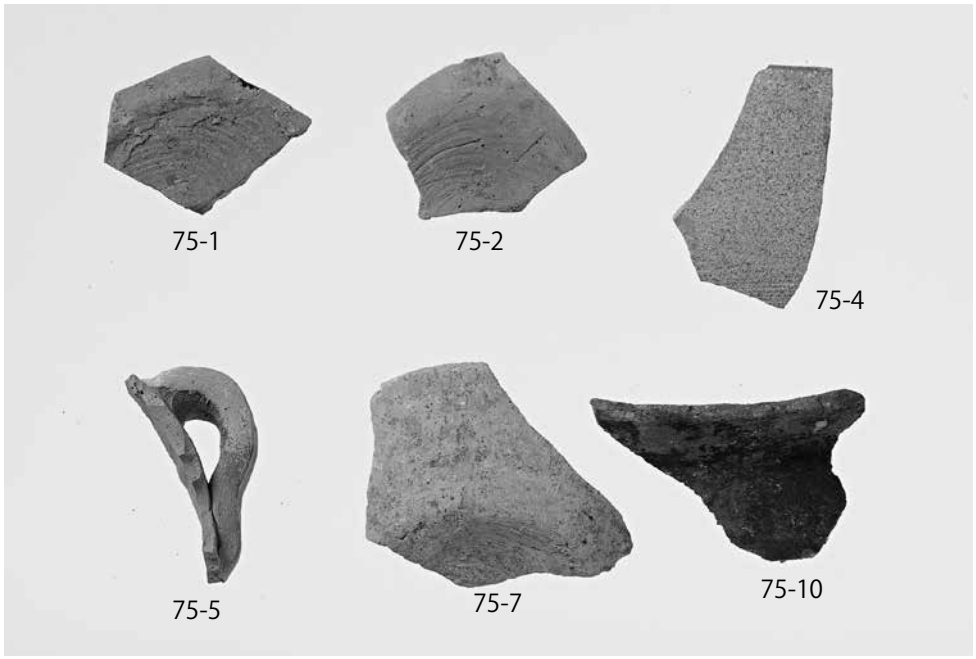

63-17
63-26
63-28
63-31
63-32
63-34

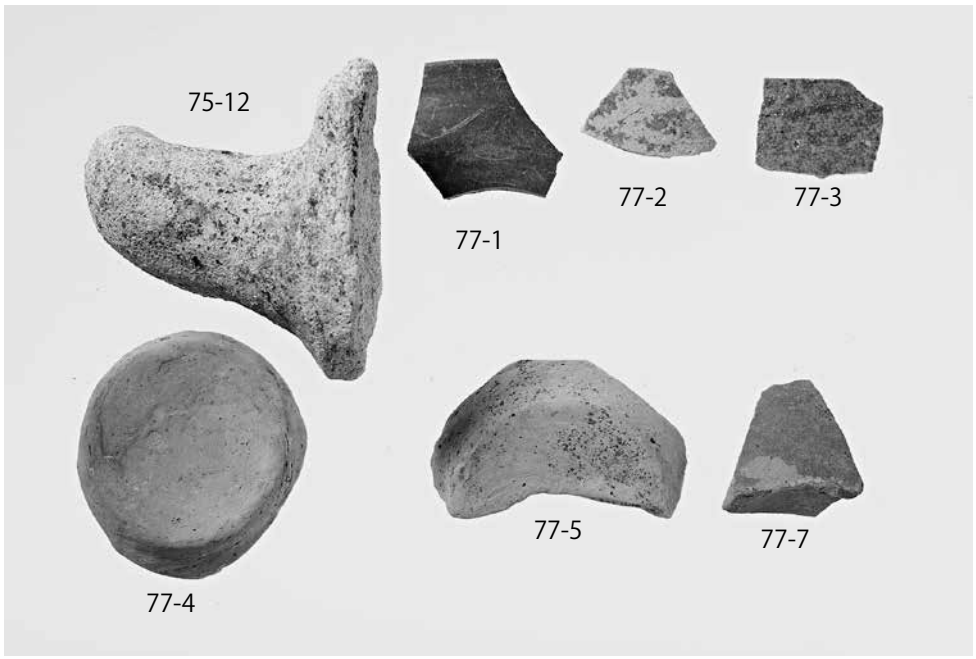

63-39
63-55
63-57
63-59
63-58
66-1
66-2

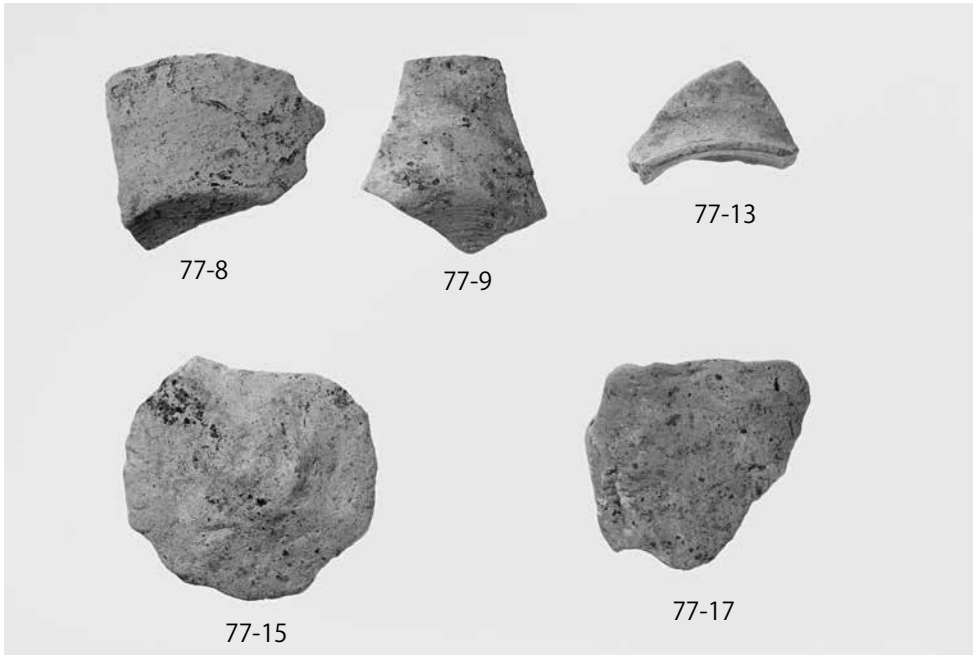

66-3
66-4
66-5
67-1
67-3
67-4

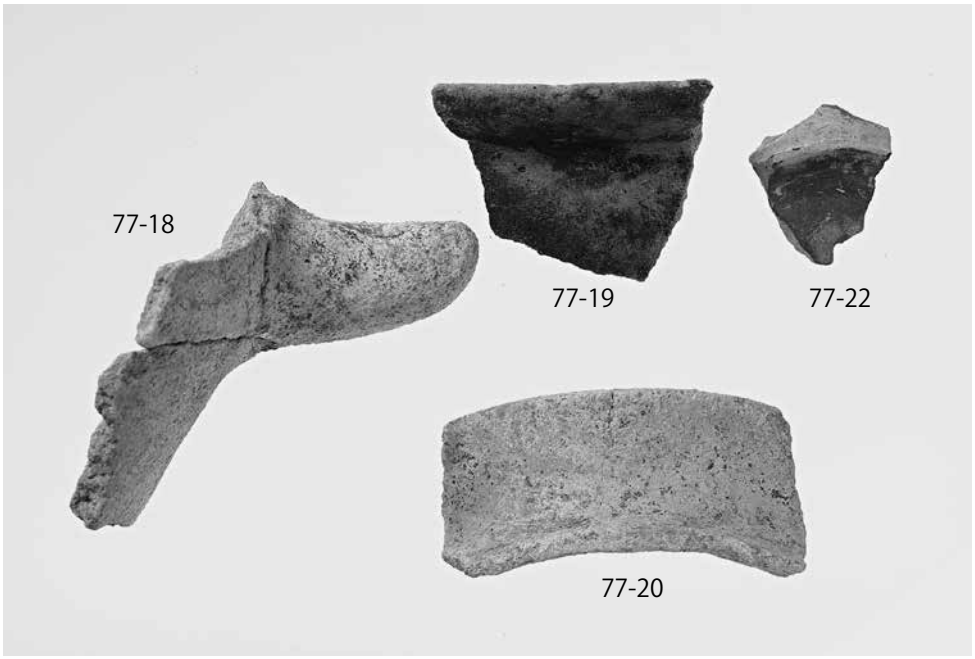

67-6
67-7
68-1
68-2
74-3
74-2

図版 66

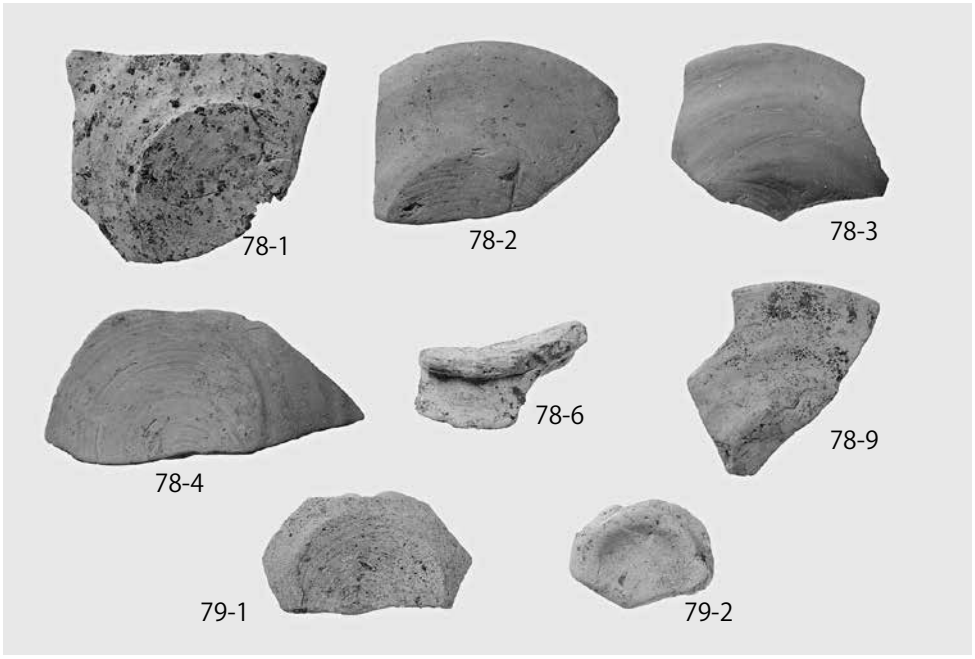

75-1
75-2
75-4
75-5
75-7
75-10


75-12
77-1
77-2
77-3
77-4
77-5
77-7

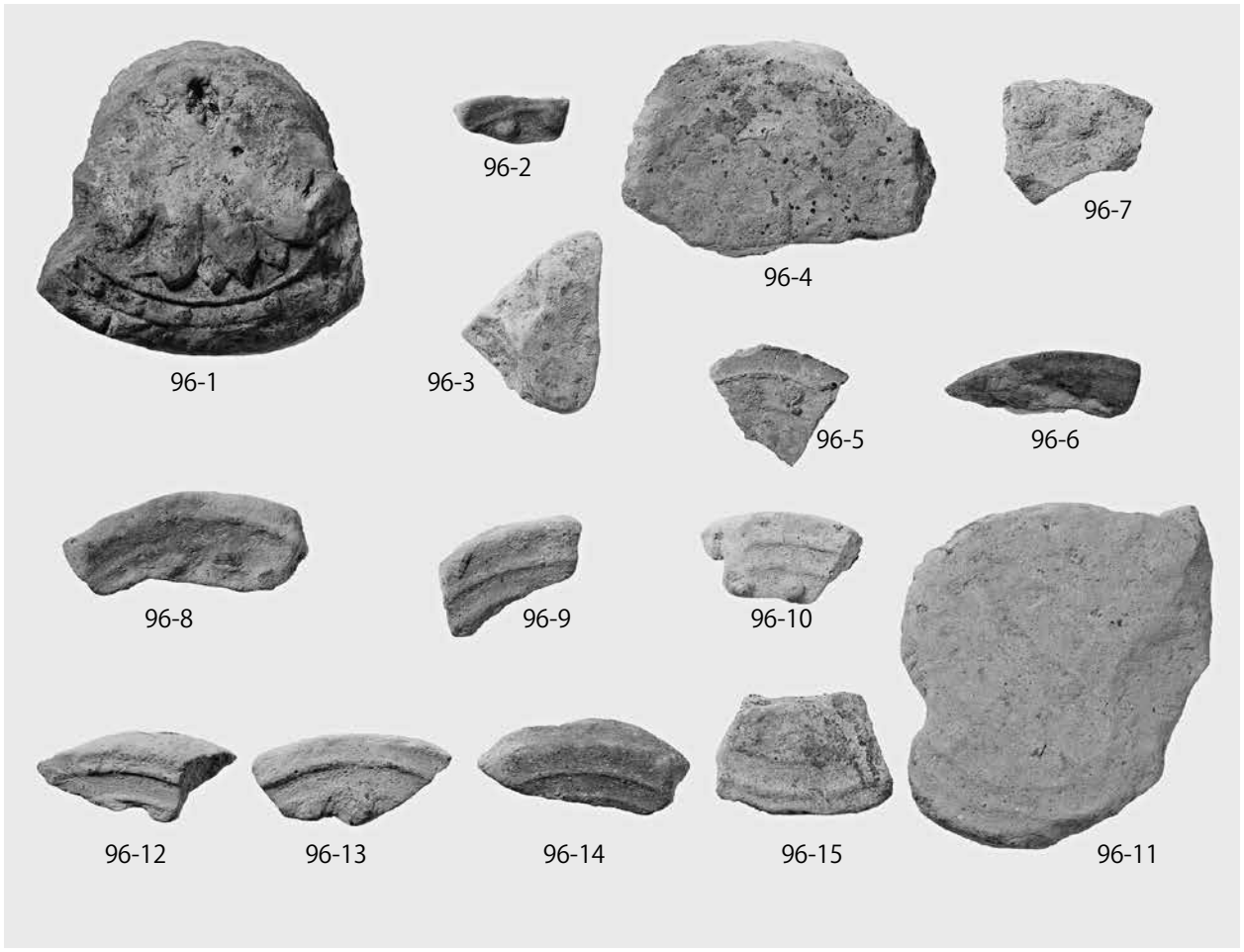

77-8
77-9
77-13
77-15
77-17

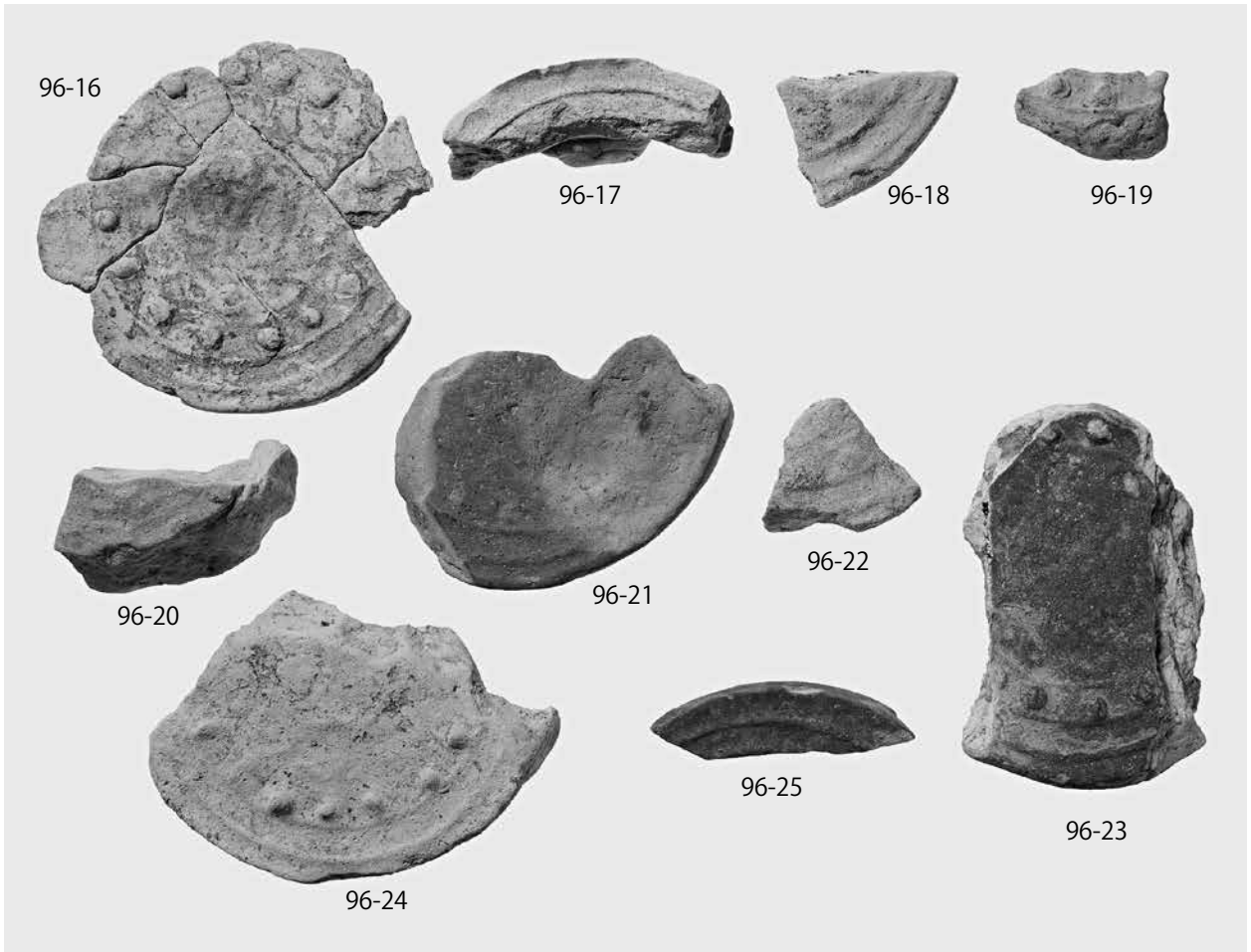

77-18
77-19
77-22
77-20

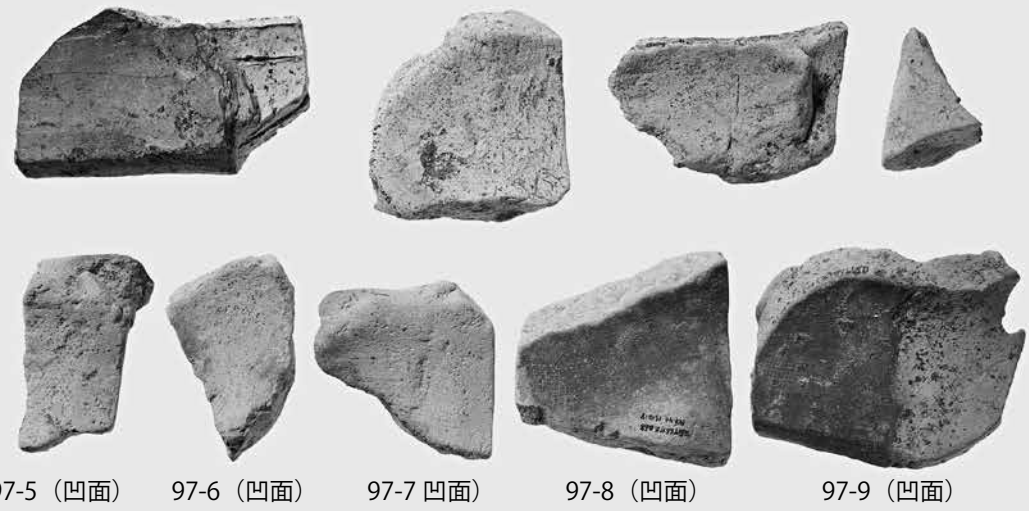
77-21

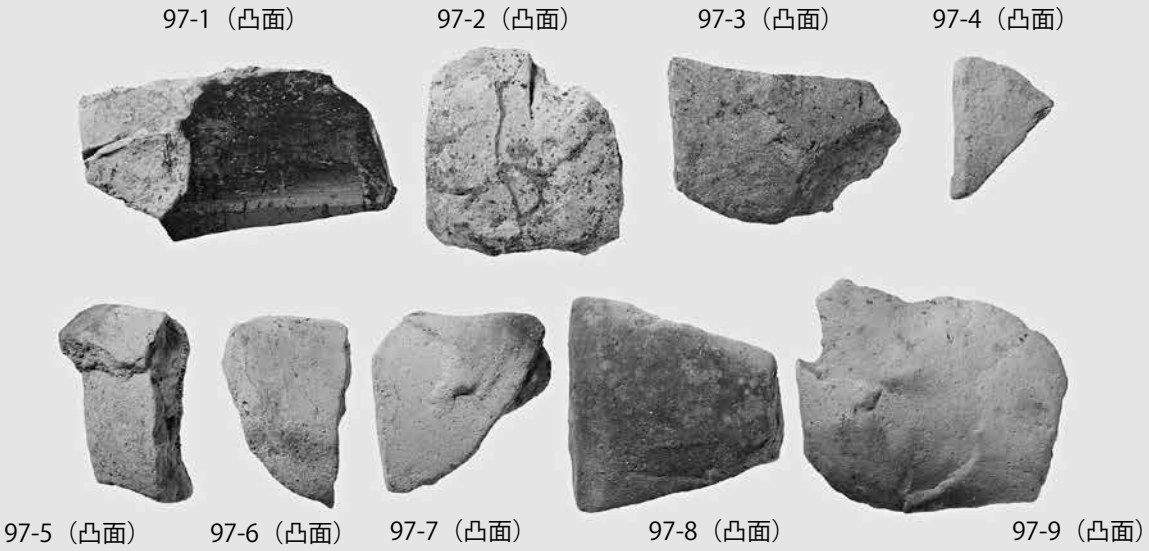

78-1
78-2
78-3
78-6
78-9
78-4
79-1
79-2

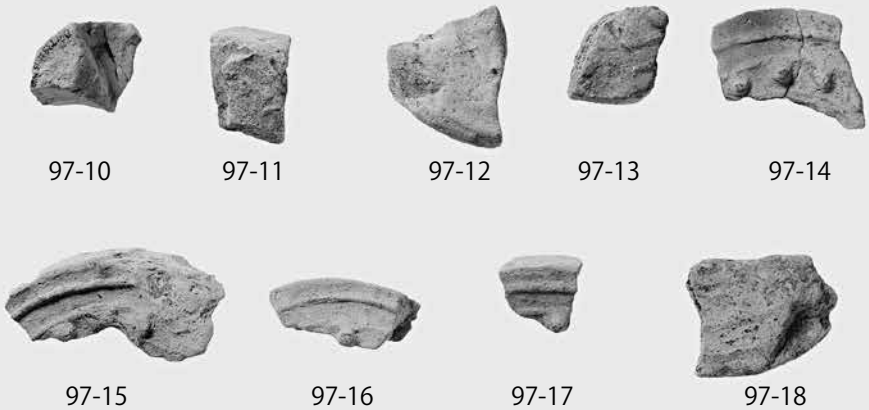
図版 68


96-1
96-2
96-3
96-4
96-5
96-6
96-7
96-8
96-9
96-10
96-11
96-12
96-13
96-14
96-15

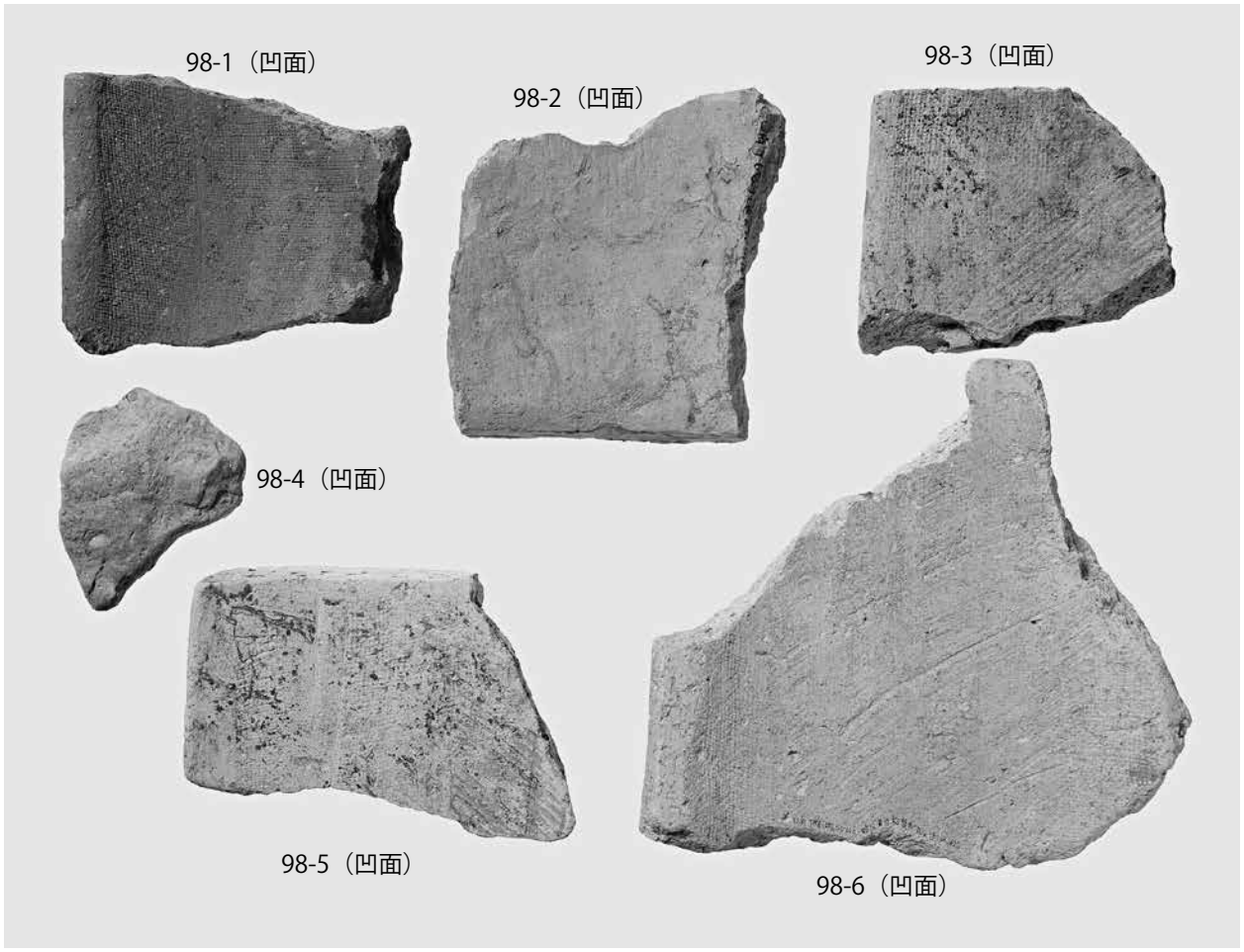

96-16
96-17
96-18
96-19
96-20
96-21
96-22
96-23
96-24
96-25

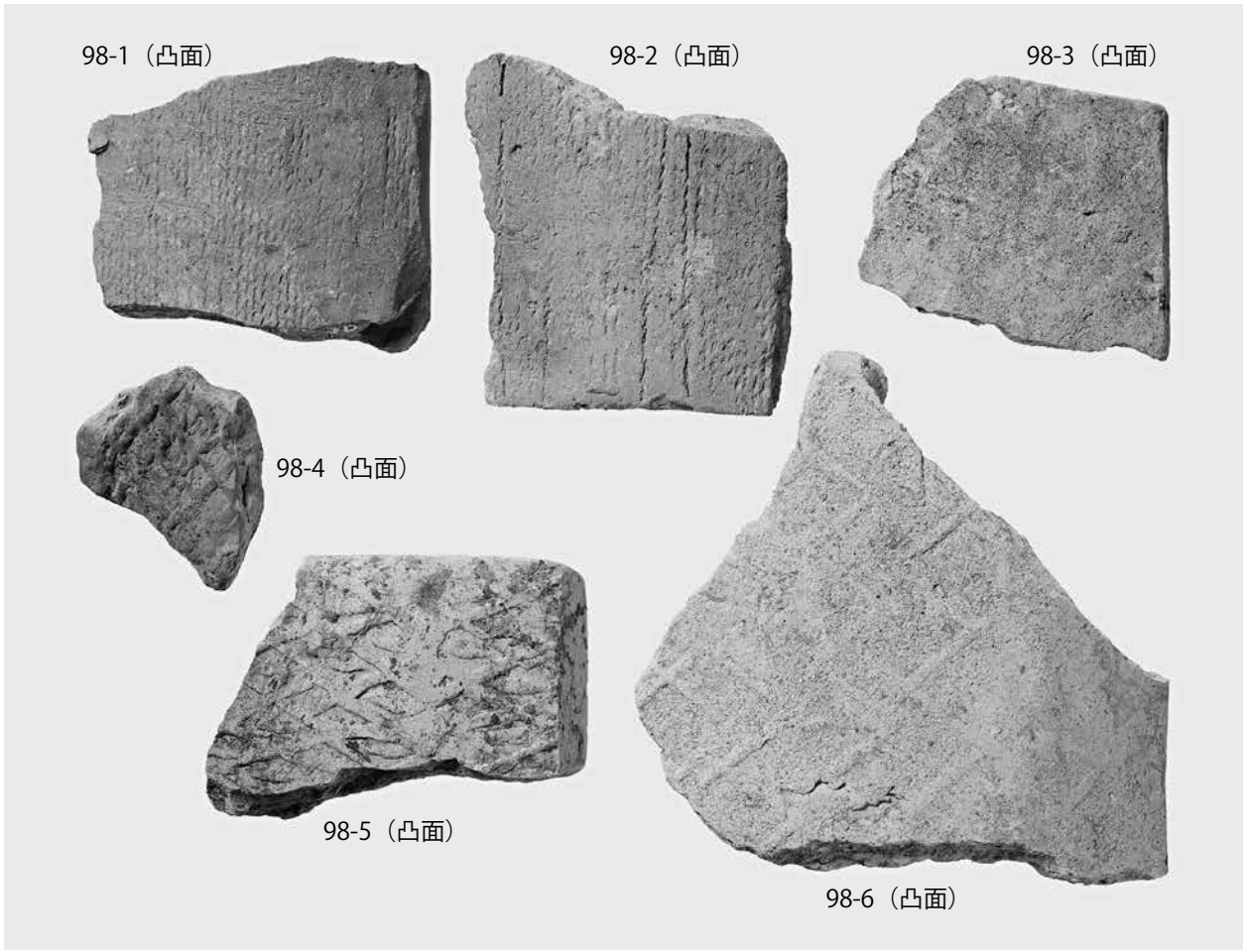

97-1（凹面）
97-2（凹面）
97-3（凹面）
97-4（凹面）
97-5（凹面）
97-6（凹面）
97-7 凹面）
97-8（凹面）
97-9（凹面）

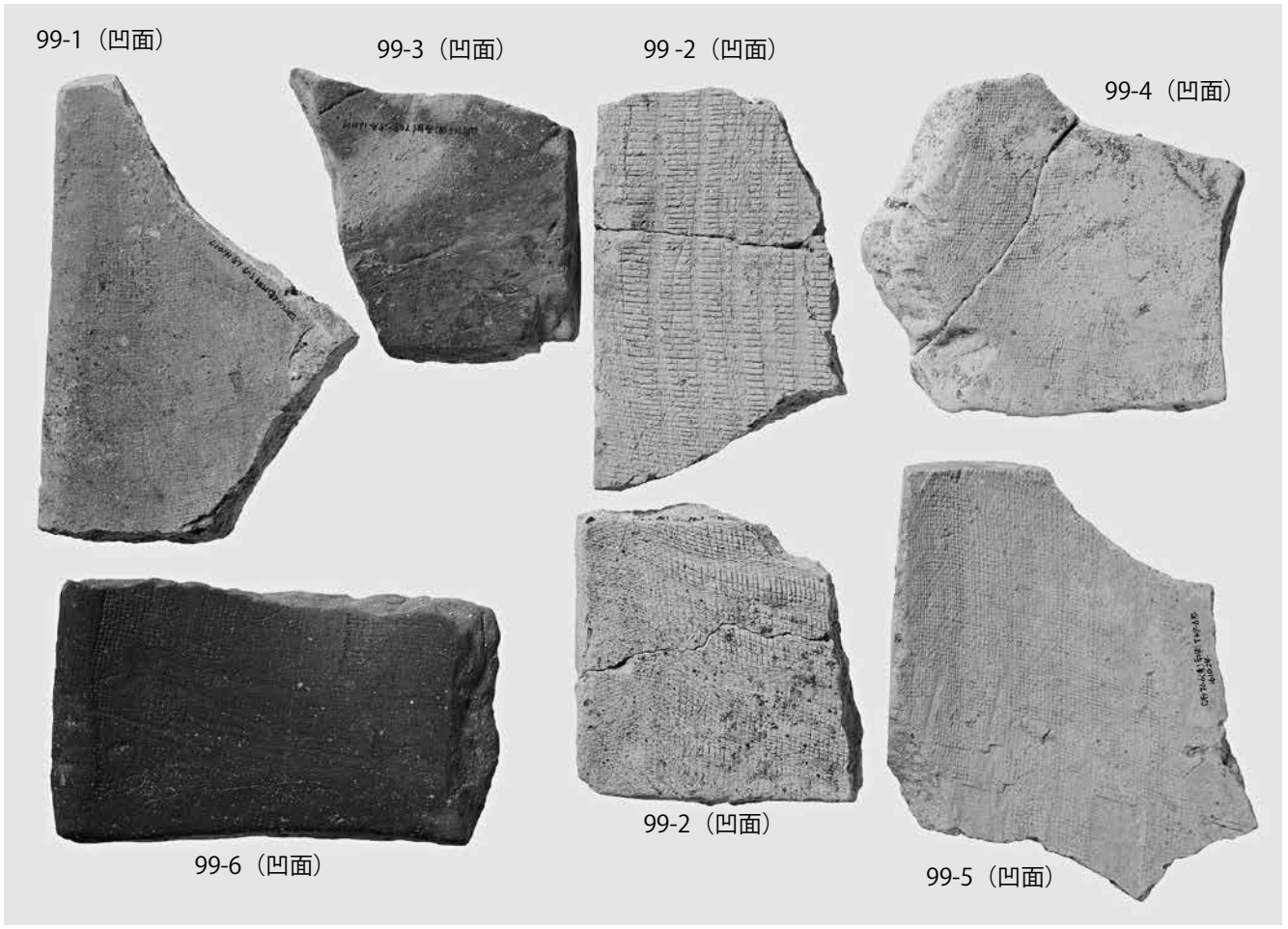

97-1（凸面）
97-2（凸面）
97-3（凸面）
97-4（凸面）
97-5（凸面）
97-6（凸面）
97-7（凸面）
97-8（凸面）
97-9（凸面）

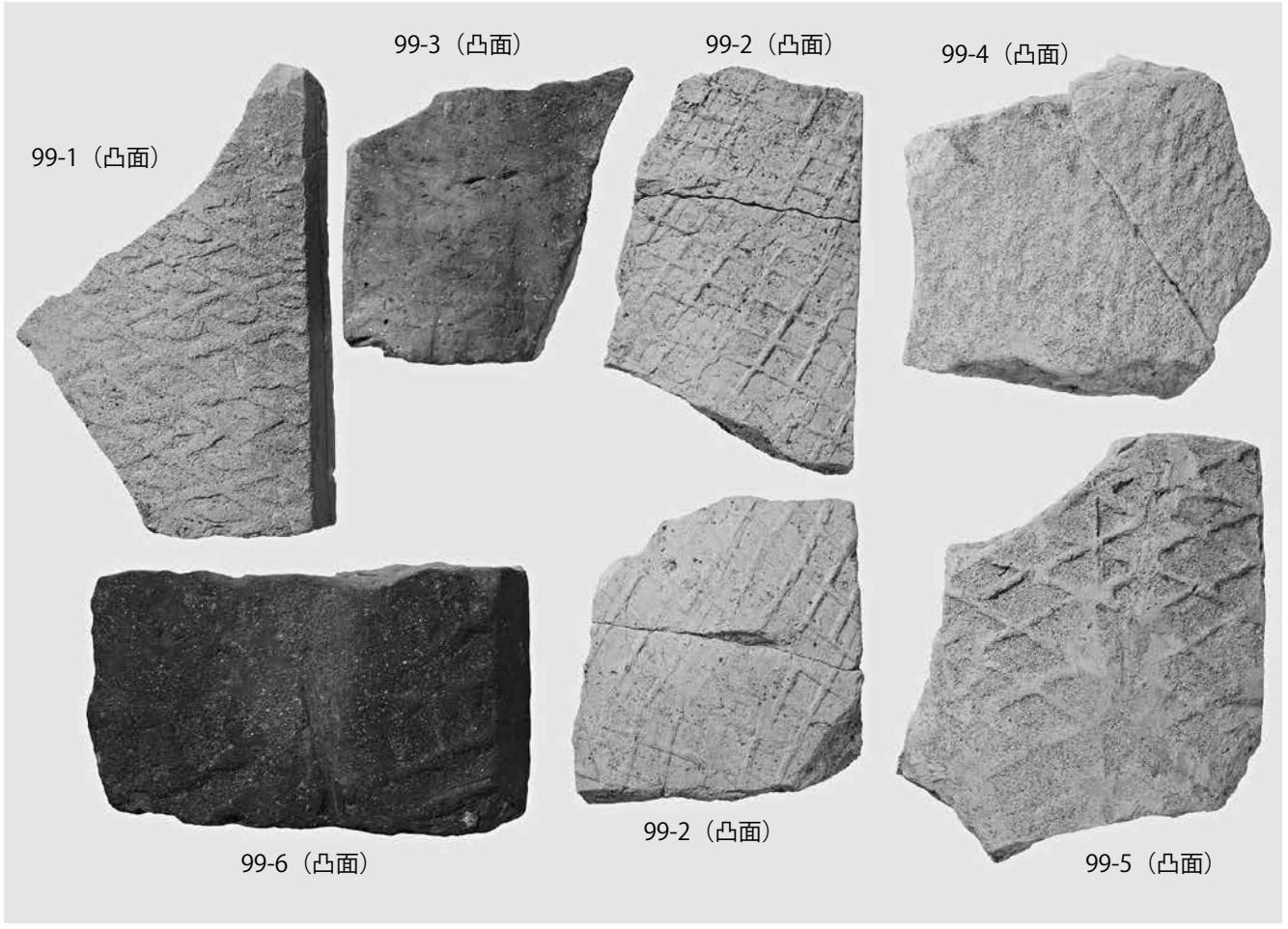

97-10
97-11
97-12
97-13
97-14
97-15
97-16
97-17
97-18

図版 70

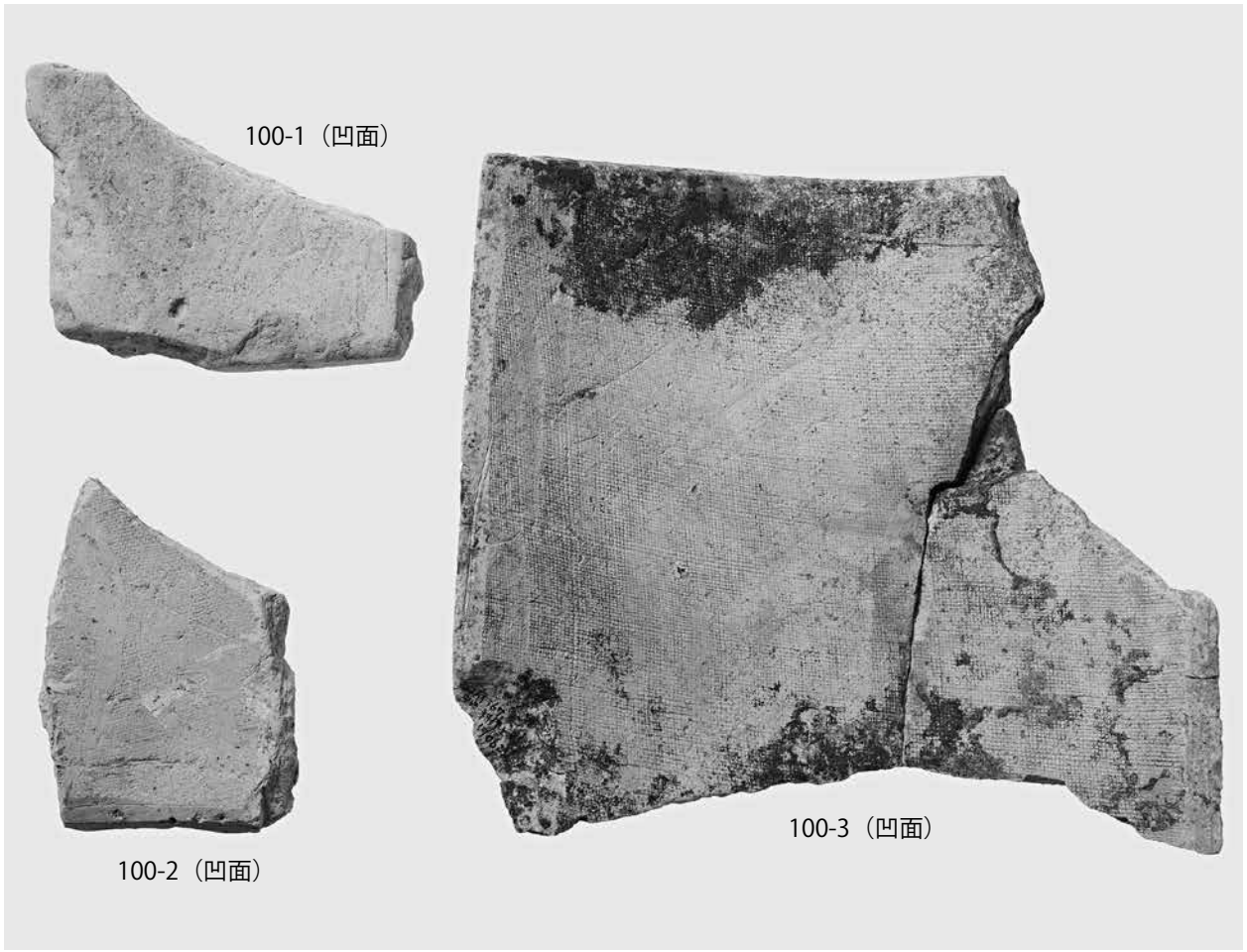

98-1（凹面）
98-2（凹面）
98-3（凹面）
98-4（凹面）
98-5（凹面）
98-6（凹面）

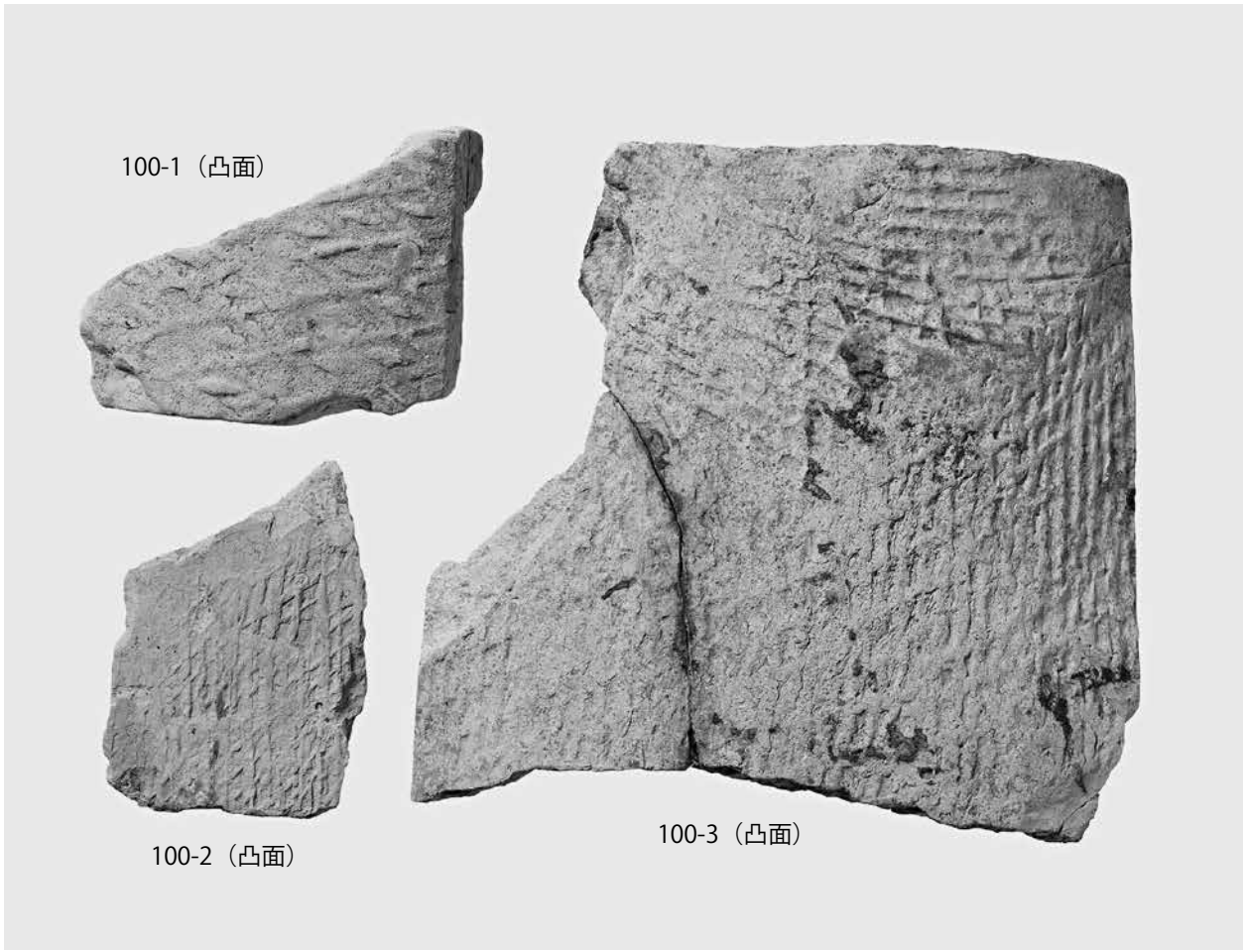

98-1（凸面）
98-2（凸面）
98-3（凸面）
98-4（凸面）
98-5（凸面）
98-6（凸面）


99-1（凹面）
99-3（凹面）
99 -2（凹面）
99-4（凹面）
99-6（凹面）
99-2（凹面）
99-5（凹面）


99-3（凸面）
99-2（凸面）
99-4（凸面）
99-1（凸面）
99-6（凸面）
99-2（凸面）
99-5（凸面）

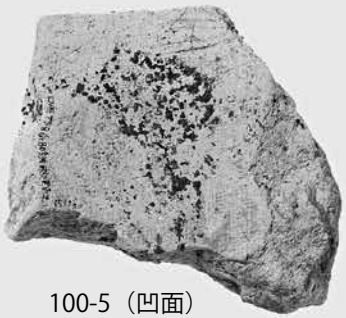
図版 72





100-4（凹面）

100-5（凹面）



100-6（凹面）

100-7（凹面）

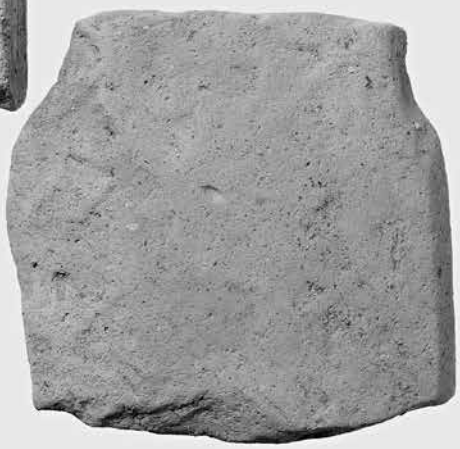
100-8（凹面）

100-4（凸面）

100-5（凸面）

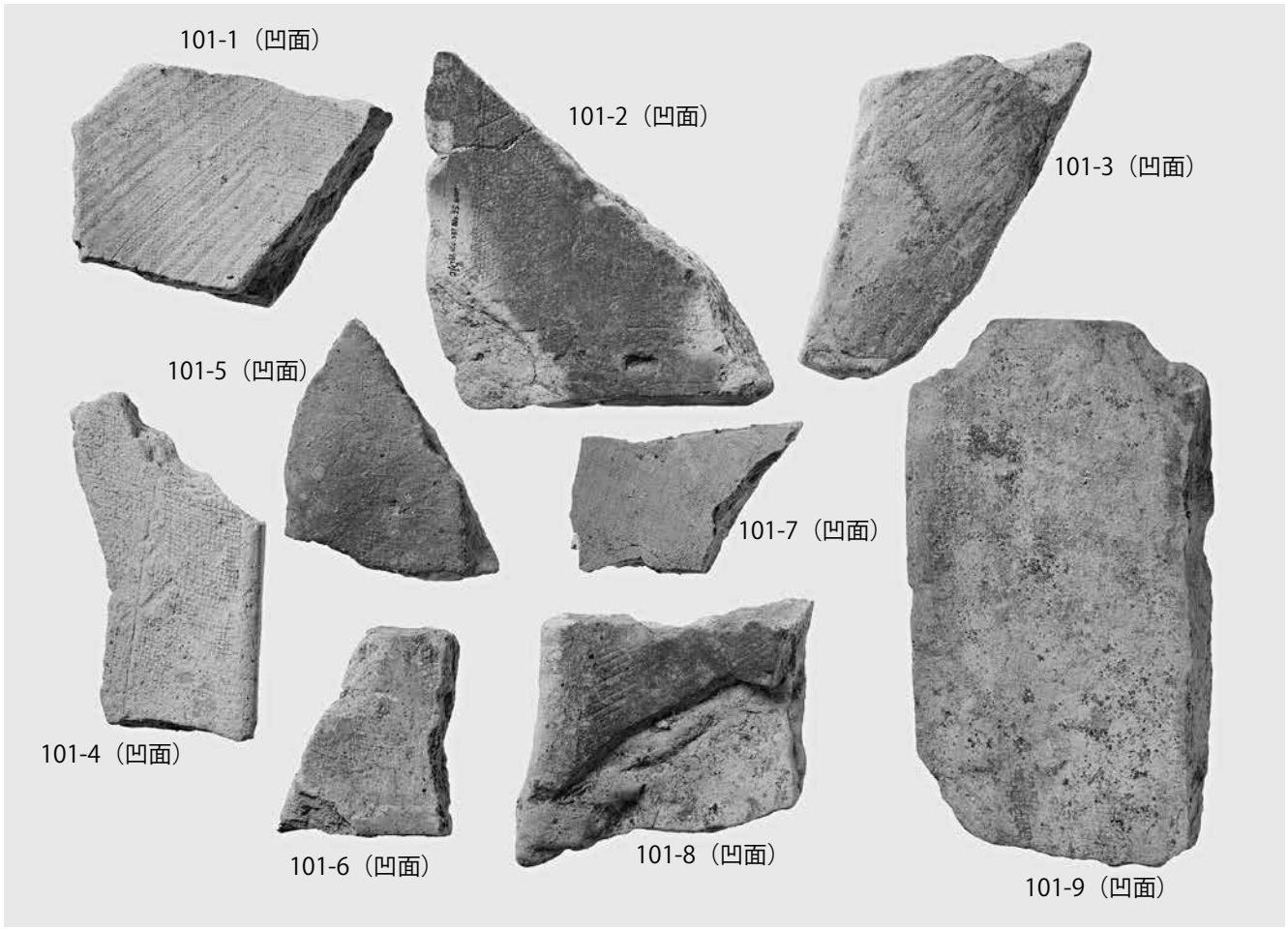
100-6（凸面）

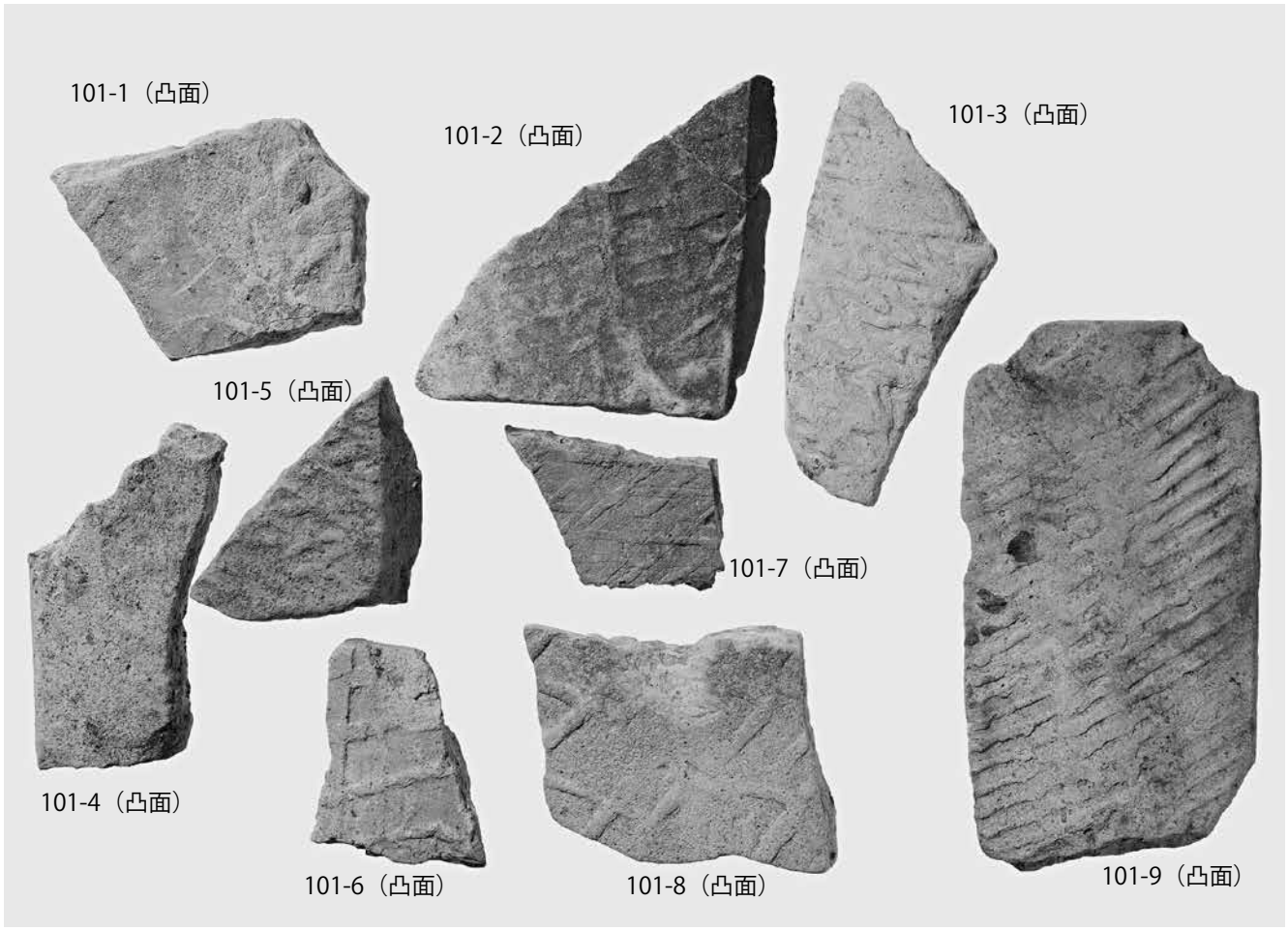
100-7（凸面）

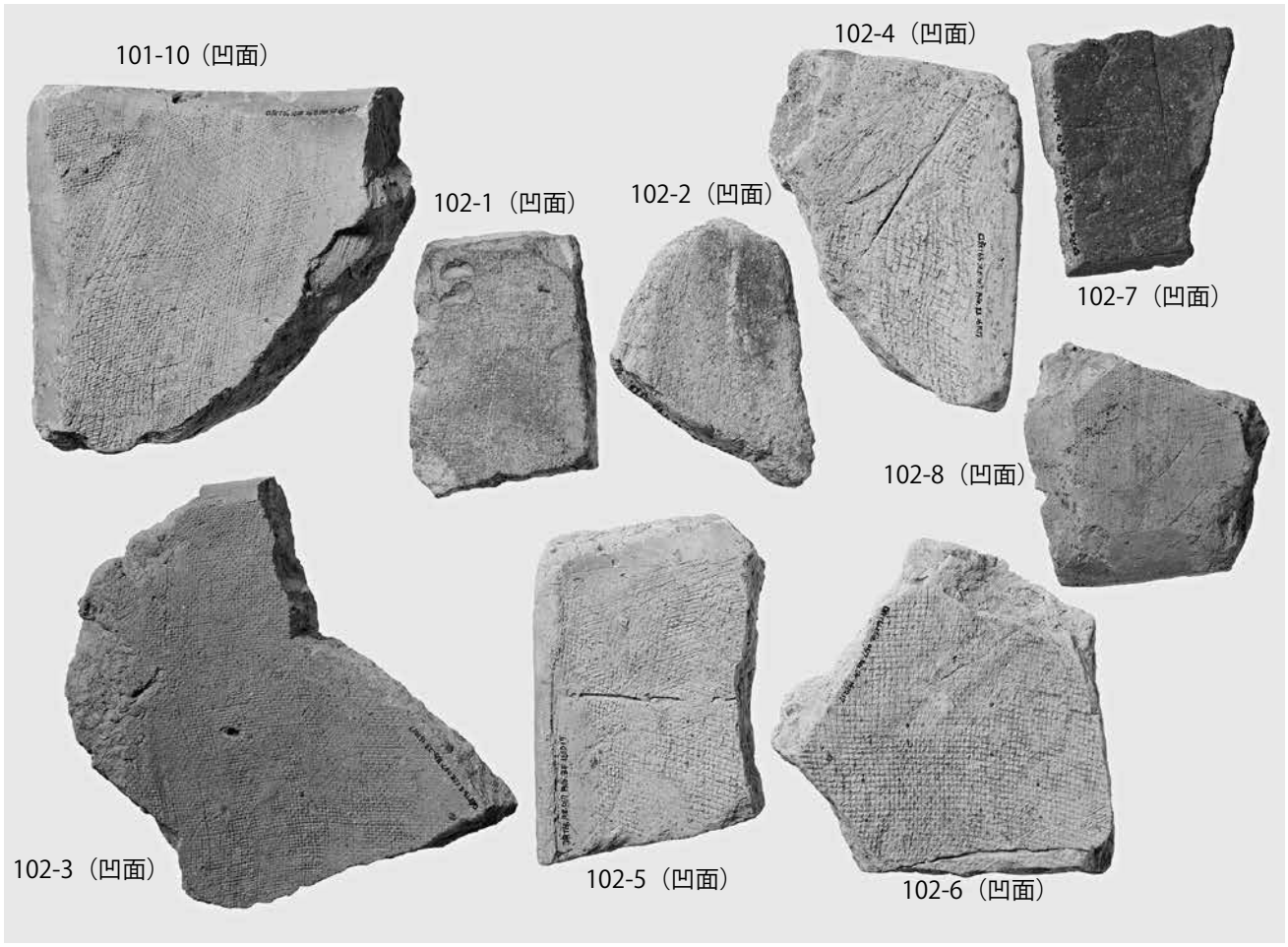


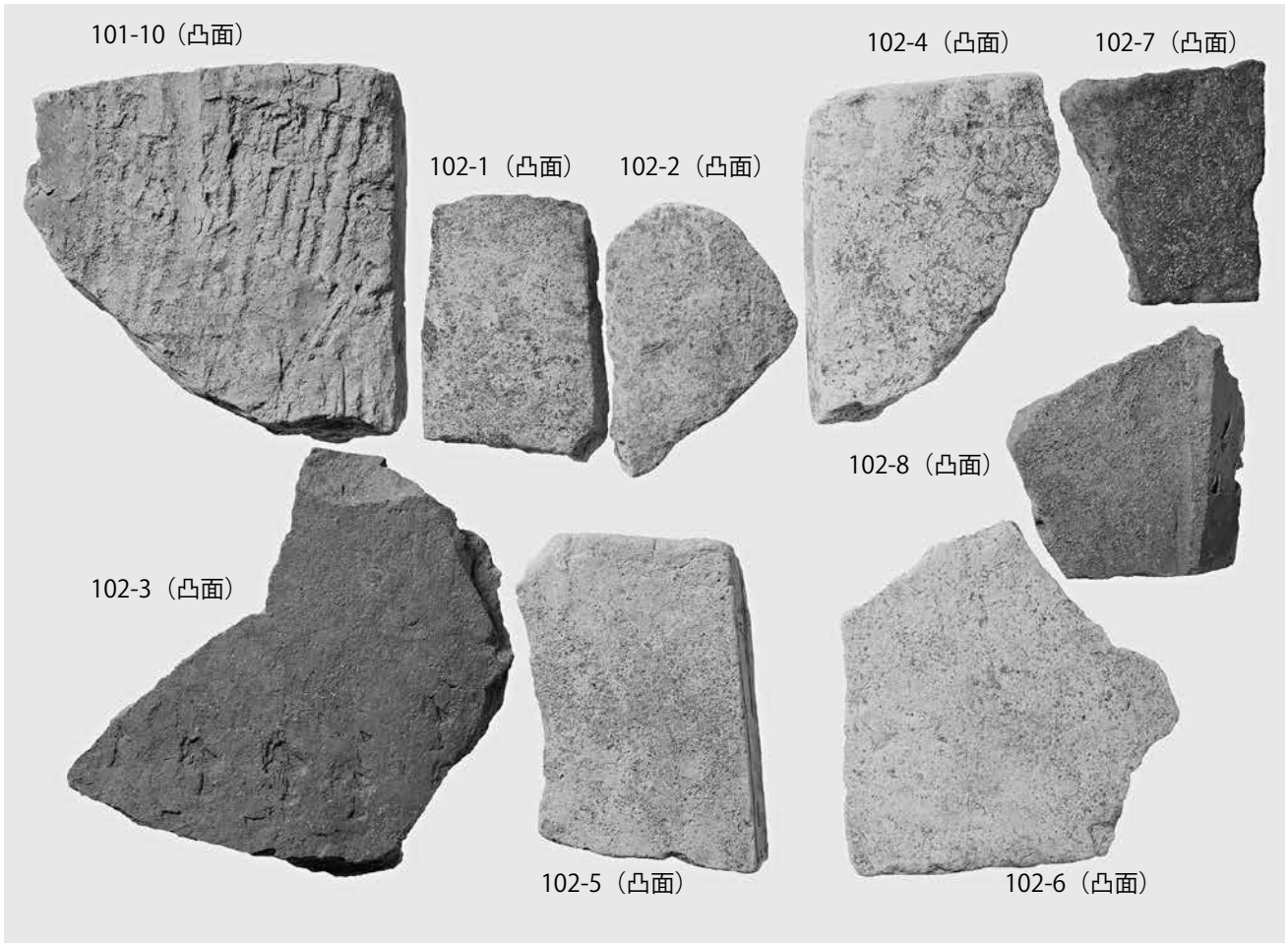
100-8（凸面）

図版 74

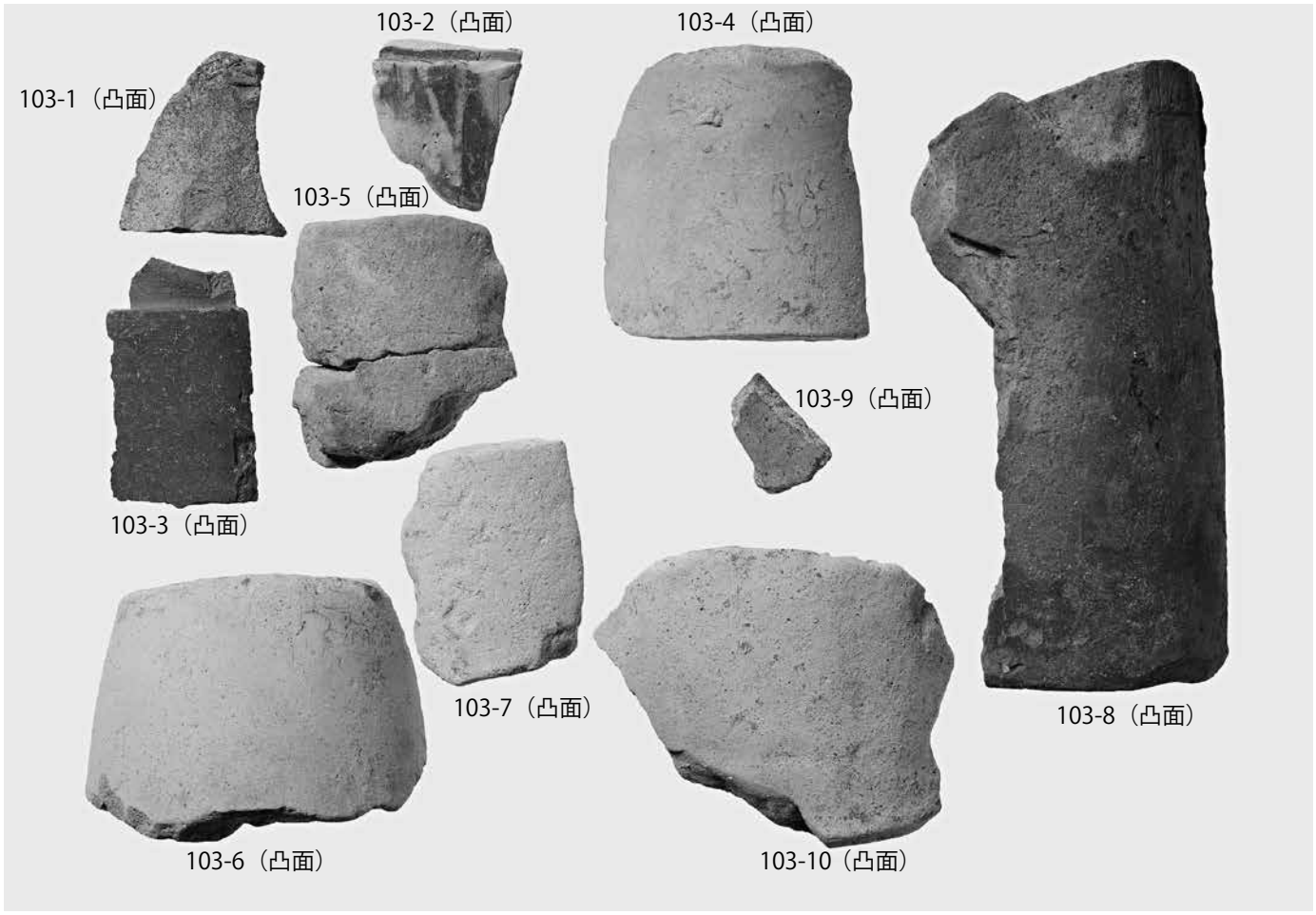

101-1（凹面）
101-2（凹面）
101-3（凹面）
101-5（凹面）
101-7（凹面）
101-4（凹面）
101-6（凹面）
101-8（凹面）
101-9（凹面）

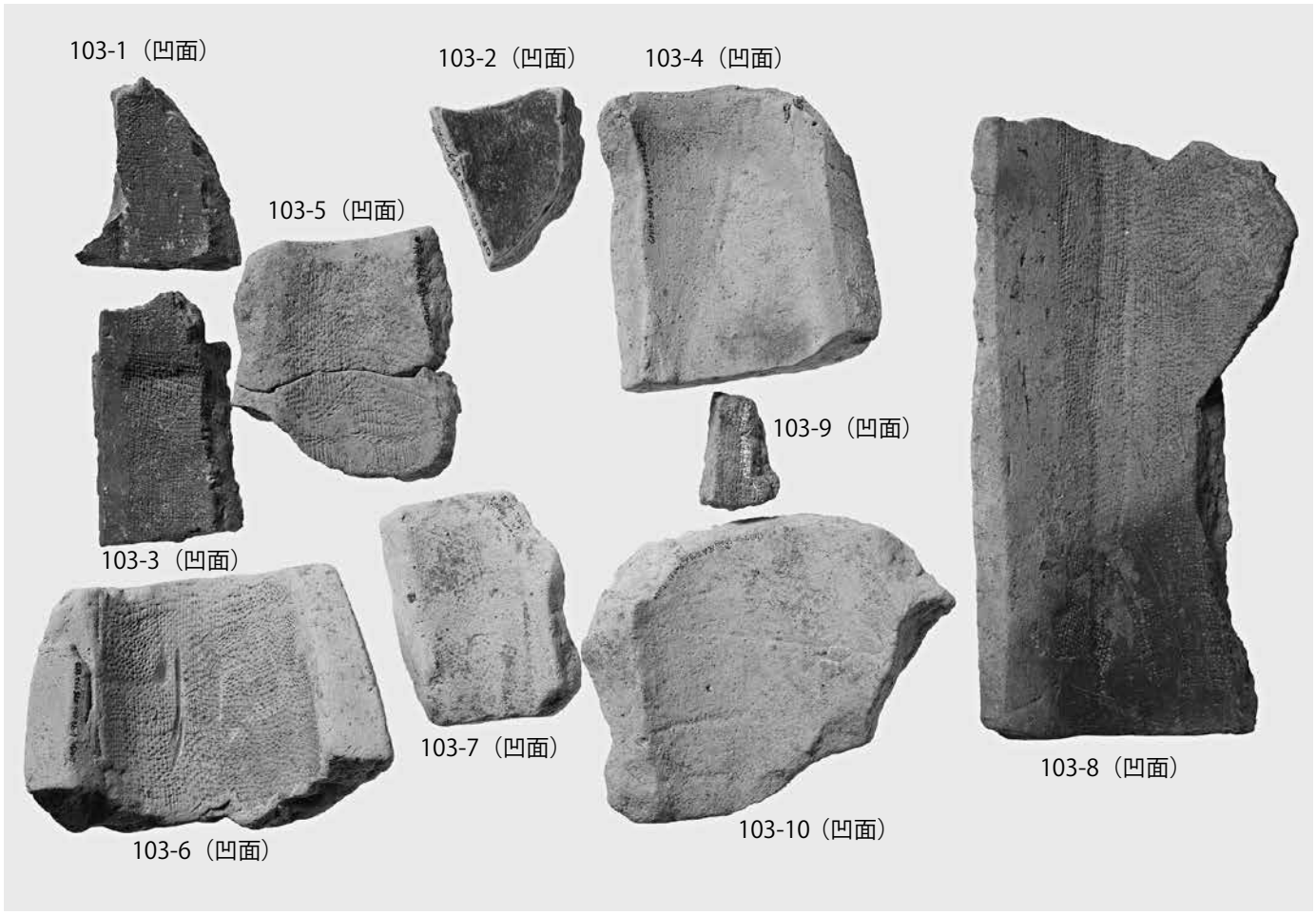

101-1（凸面）
101-2（凸面）
101-3（凸面）
101-5（凸面）
101-7（凸面）
101-4（凸面）
101-6（凸面）
101-8（凸面）
101-9（凸面）

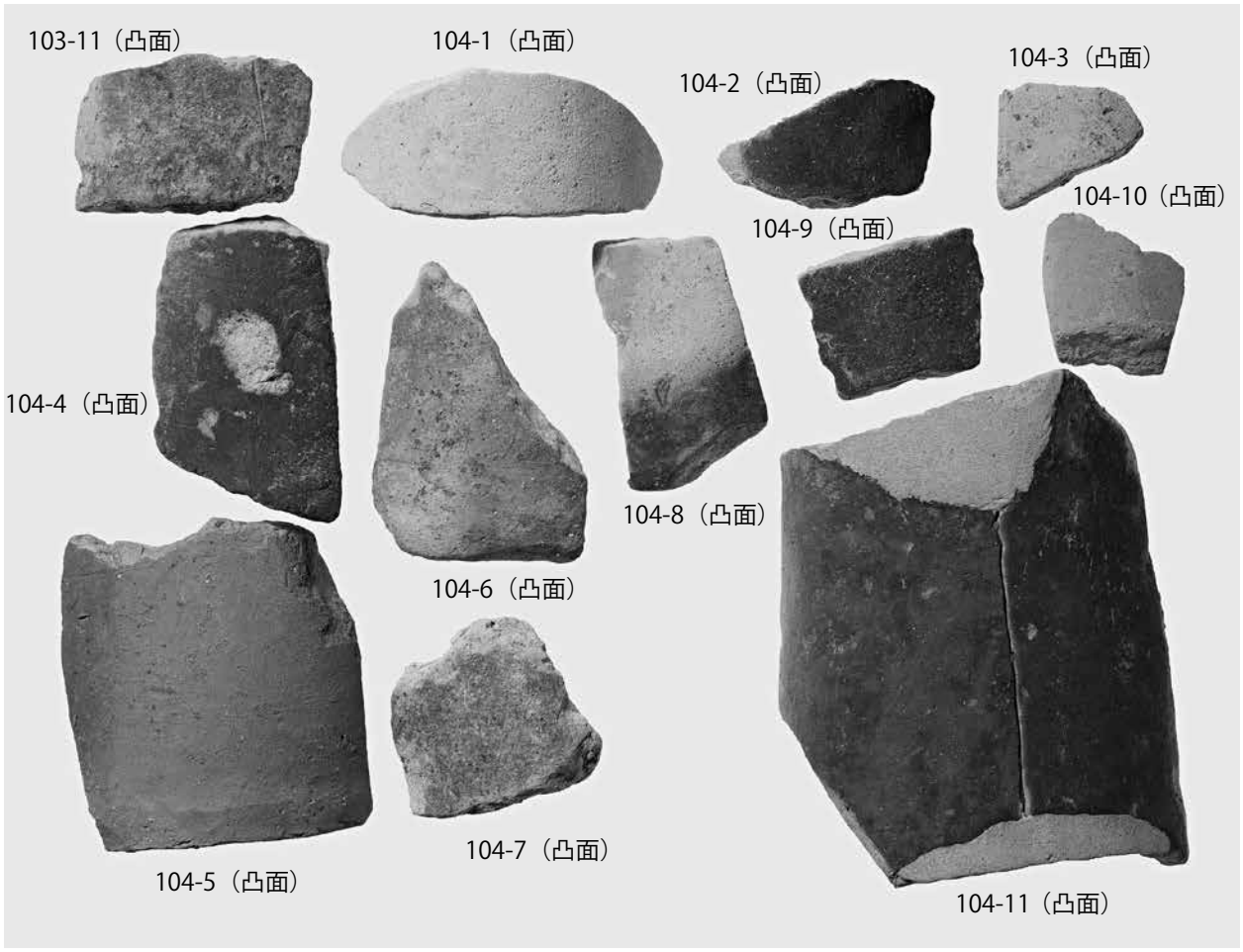

101-10（凹面）
102-1（凹面）
102-2（凹面）
102-4（凹面）
102-7（凹面）
102-8（凹面）
102-3（凹面）
102-5（凹面）
102-6（凹面）

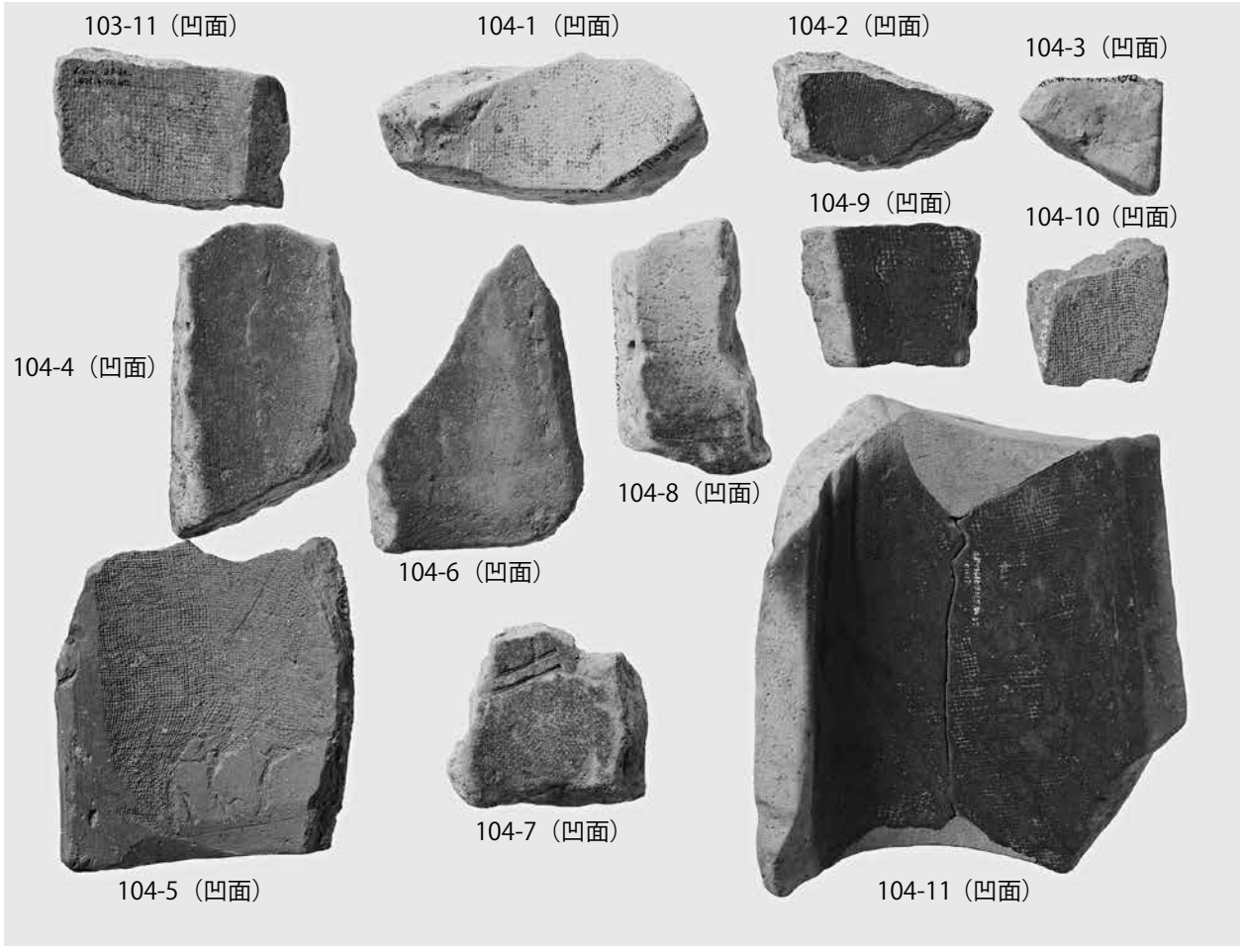

101-10（凸面）
102-1（凸面）
102-2（凸面）
102-4（凸面）
102-7（凸面）
102-8（凸面）
102-3（凸面）
102-5（凸面）
102-6（凸面）

図版 76


103-1（凸面）
103-2（凸面）
103-3（凸面）
103-4（凸面）
103-5（凸面）
103-6（凸面）
103-7（凸面）
103-8（凸面）
103-9（凸面）
103-10（凸面）


103-1（凹面）
103-2（凹面）
103-3（凹面）
103-4（凹面）
103-5（凹面）
103-6（凹面）
103-7（凹面）
103-8（凹面）
103-9（凹面）
103-10（凹面）


103-11（凸面）
104-1（凸面）
104-2（凸面）
104-3（凸面）
104-10（凸面）
104-9（凸面）
104-4（凸面）
104-8（凸面）
104-6（凸面）
104-5（凸面）
104-7（凸面）
104-11（凸面）


103-11（凹面）
104-1（凹面）
104-2（凹面）
104-3（凹面）
104-9（凹面）
104-10（凹面）
104-4（凹面）
104-8（凹面）
104-6（凹面）
104-7（凹面）
104-5（凹面）
104-11（凹面）

図版 78

105-1（凸面）

105-2（凸面）

105-4（凸面）

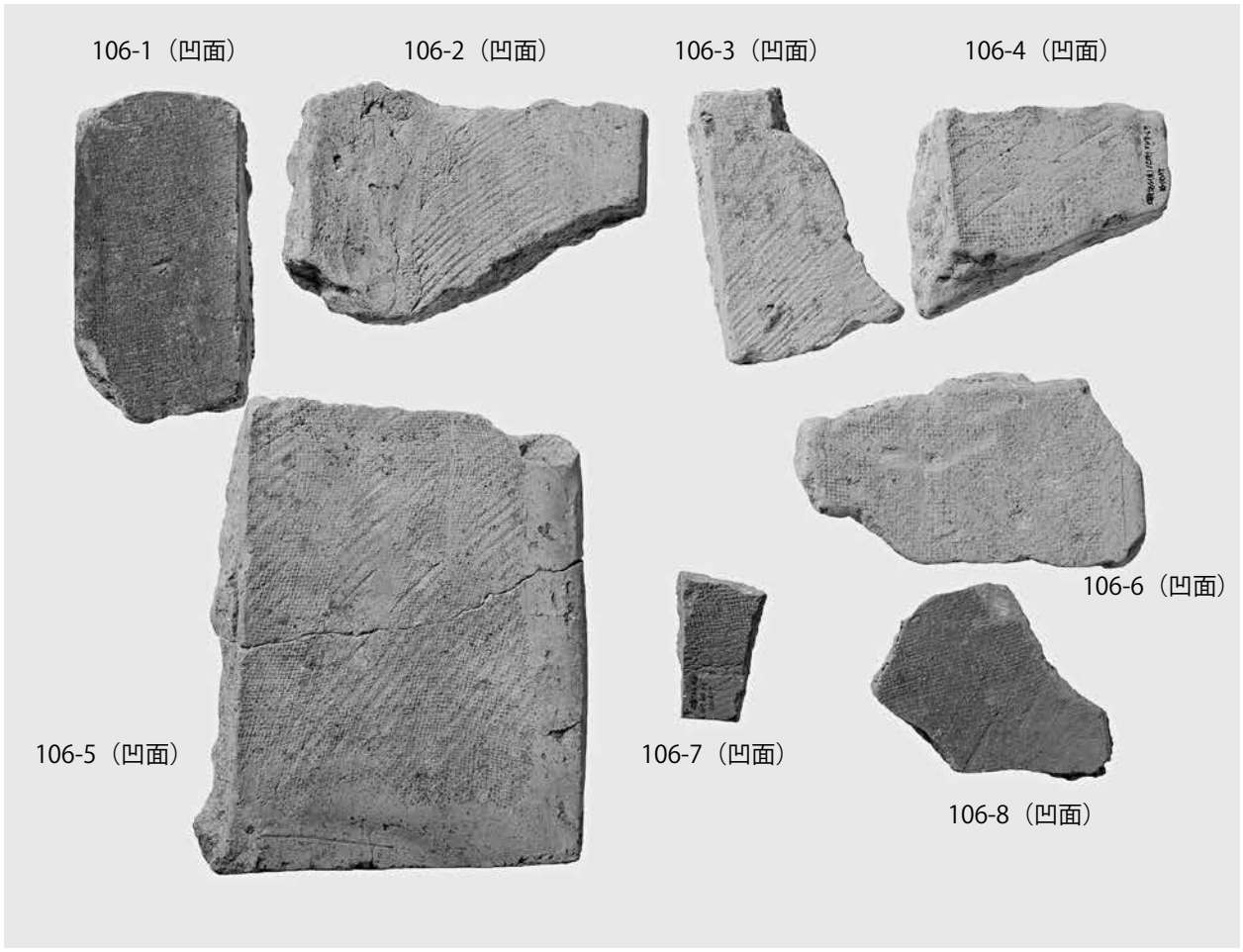
105-3（凸面）

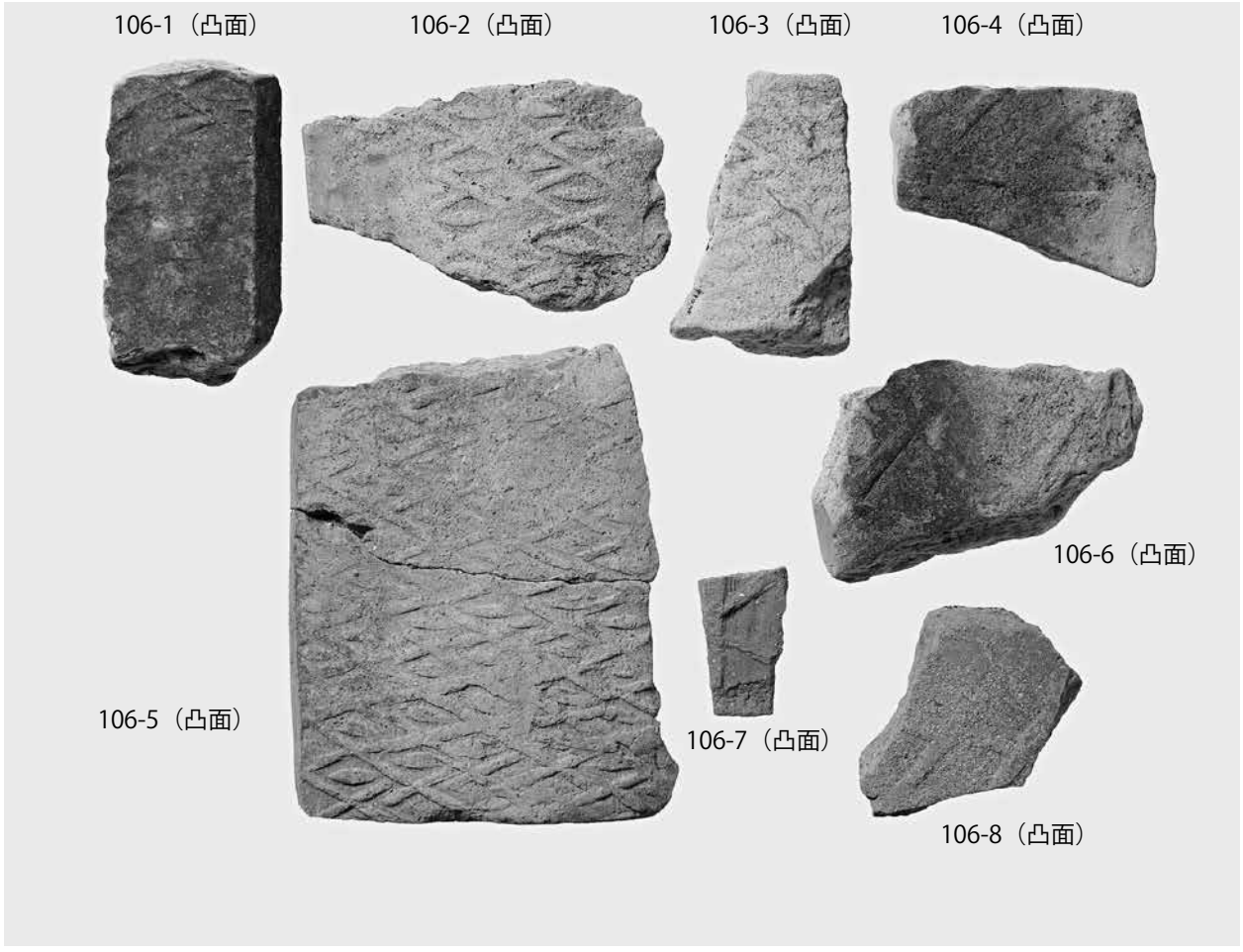
105-1（凹面）

105-2（凹面）

105-4（凹面）

105-3（凹面）


106-1（凹面）
106-2（凹面）
106-3（凹面）
106-4（凹面）
106-6（凹面）
106-5（凹面）
106-7（凹面）
106-8（凹面）


106-1（凸面）
106-2（凸面）
106-3（凸面）
106-4（凸面）
106-6（凸面）
106-5（凸面）
106-7（凸面）
106-8（凸面）

図版 80

106-9（凹面）

106-10（凹面）

106-9（凸面）

106-10（凸面）

107-1（表面）

107-1（裏面）

報告書抄録

フリガナ	シセキイズモコクフアト
書名	史跡出雲国府跡 10
シリーズ名	風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書
シリーズ番号	25
編著者名	是田敦、間野大丞、渡辺正巳
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター http://www.pref.shimane.jp/maizobunkazai
所在地	〒690-0131　島根県松江市打出町 33 番地　TEL 0852-36-8608　FAX0852-36-8025 E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp　http:/www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/
発行年月日	2019（平成 31）年 3 月 15 日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
出雲国府跡（イズモコクフアト）	島根県松江市大草町（シマネケンマツエシオオクサチョウ）	32201	D285	35° 25′ 35″	133° 06′ 25″	20150818 ～ 20151216	285㎡	重要遺跡 内容確認
						20160719 ～ 20161222	180㎡	
						20170607 ～ 20171204	220㎡	

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
出雲国府跡	官衙跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	竪穴建物、掘立柱建物跡、礎石建物跡、溝、池状施設	須恵器、土師器、瓦	政庁周辺で礎石建物跡を初検出

要約

島根県松江市大草町他に所在する史跡出雲国府跡の発掘調査。本書は 2015 ～ 2017（平成 27 ～ 29）年度にかけて実施した発掘調査成果を報告したものである。国庁周辺を調査し、国庁正殿が掘立柱建物から礎石建物へ建て替えられたことを確認したほか、正殿より古い建物跡や、正殿と同時期の建物跡を検出し、国庁正殿があった当時の周辺の状況と、その前後の状況を詳しく検討する資料を得ることができた。また、国庁の北側では池状の施設を検出し、国庁周辺の土地利用の状況や変遷を検討する上で貴重な資料を得ることができた。

風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 25

史跡出雲国府跡

― 10 ―

発　行　　2019（平成 31）年 3 月
発行者　　島根県教育委員会
編　集　　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒 690-0131　島根県松江市打出町 33 番地
電話 0852-36-8608
印　刷　　武永印刷株式会社